

# 講義概要・授業計画

令和3年度（2021）

高野山大学

### 本誌の利用に際して

この「講義概要・授業計画」は、令和3年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

# 総目次

文学部・別科	1
シラバスを活用しよう！	2
履修登録と見方	3
◆目次について	
◆講義コードについて	
◆受講登録について	
◆出席票について	
◆報恩日（21日）の授業実施について	
◆GPAについて	
◆科目ナンバリングについて	
入学から卒業までの履修について	
密教学科（2019年度からの入学生用）	8
◆卒業認定・学位授与に関する方針（密教学科ディプロマ・ポリシー DP）	
◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	
◆必修科目	
◆選択科目	
◆自由科目	
カリキュラムマップ	
僧侶実力養成プログラム	
密教学科（2018年度までの入学生用）	13
◆必修科目	
◆選択科目	
◆資格科目について	
カリキュラムマップ	
僧侶実力養成プログラム	
人間学科（2019年度からの入学生用）	18
◆卒業認定・学位授与に関する方針（人間学科ディプロマ・ポリシー DP）	
◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	
◆必修科目	
◆選択科目	
カリキュラムマップ	
人間学科（2018年度までの入学生用）	22
◆必修科目	
◆選択科目	
◆資格科目について	
カリキュラムマップ	
科目目次	26
R3から文学部 密教学科	26
H31から文学部 密教学科	29
H30まで文学部 密教学科	36
H31から文学部 人間学科	43
H30まで文学部 人間学科	50
別科	57
講義概要・授業計画	59
文学部	
別科	
大学院	333
科目目次	335
講義概要・授業計画	339
教員別索引（50音順）	387



文 学 部  
别 科

## シラバスを活用しよう！

副学長（教務担当）

この冊子は『高野山大学・大学院 講義概要・授業計画 令和3年度』と名づけられています。ここには今年度の高野山大学の文学部密教学科と人間学科に関わるすべての科目について、授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、準備学習とその時間、テキスト、参考書・参考資料、学生に対する評価方法、ルーブリック（目標に準拠した評価）、課題に対するフィードバックの方法、その他の注意点などがコンパクトにまとめられています。こういうものを「シラバス」(syllabus)とも言います。シラバスは、今年度1年間のみなさんの学修の指針となるものです。別の言い方をすると、シラバスは、学生諸君に対する私たち教員の約束です。今年度1年間の授業はここに書いてあるように展開されます。シラバスを大切にし、学修に役立ててください。

本学は、2019年度からGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制を導入しました。GPAについては後のページに載せてありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員に何度でもたずねてください。とても大事なことです。はっきりした理解を持ってください。

また本学は、2019年度から新しいカリキュラムを導入しました。これについても注意してください。しかし、この新カリキュラムが「宗教的教養を持った社会人」を育成するよう設計されていることは、これまでのカリキュラムと変わりません。宗教的教養を持った社会人とは、宗教の智慧を人生の指針とし、それを社会で活かしていける力を持った社会人です。言い換えれば、弘法大師の教えを具現化できる人です。

カリキュラムマップは、そういう人になるための学修の体系を図示したものです。弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を営んだり、福祉事業を展開したりするための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっていきます。

こうした能力、こうした教養は、僧侶になる人にも一般企業に就職する人、公務員を目指す人にも役に立ちます。これを基礎に、僧侶を目指す人は教学実習科目等の授業を、一般企業・公務員を目指す人は就職支援授業をさらに活用してください。

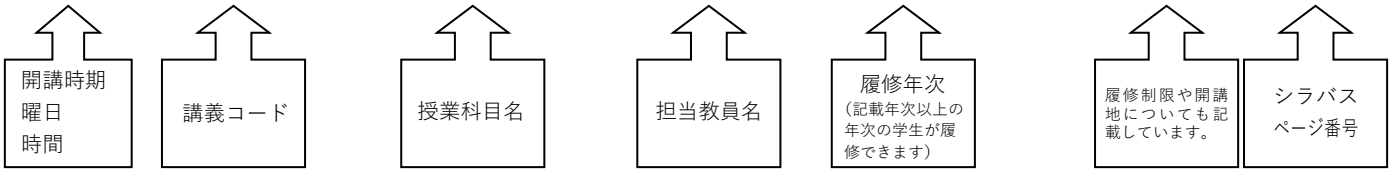
みなさんの健闘を期待しています。

## 履修登録と見方

### ◆目次について

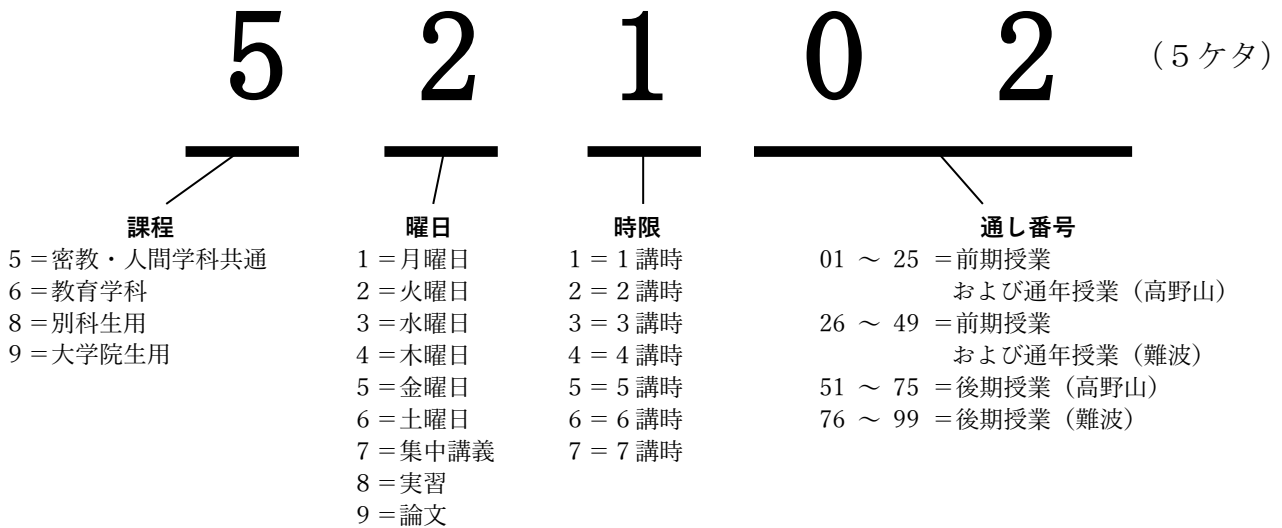
この『令和3年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学科のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	櫻 木 潤	2	1年次	—		1



### ◆講義コードについて

講義コードは5ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。



## ◆受講登録について

- 1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、4月9日（金）から4月15日（木）午後5時までに教務課へ提出してください。
- 2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。
  - ① 学籍番号（※身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。
  - ② 履修登録欄には、今年度受講するすべての授業科目を、『令和3年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。  
※1年間に履修登録できるのは自由科目を除き50単位までです。
- 3 履修登録票を教務課へ提出した学生は、4月22日（木）から4月28日（水）午後5時までに、教務課で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。  
この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、教務課へ提出してください。
- 4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。
- 5 履修を取り消したい科目がある場合は、前期は5月31日（月）まで、後期は10月29日（金）まで受け付けますので教務課に申し出てください。（※ただし、導入研修、英語Ⅰ・Ⅱは履修取り消しができません。）
- 6 後期（9月24日開講）授業科目の追加及び登録変更は、9月24日（金）から9月30日（木）午後5時までの後期履修登録変更期間に、教務課へ申し出てください。ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

## ◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第3回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格（999）」になりますので留意してください。

## ◆報恩日（21日）の授業実施について

報恩日（21日）は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。



## ◆GPAについて

### 1 GPAとは

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のGP（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

### 2 目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

### 3 対象

平成31年度入学生から対象となります。また3年次編入学生は令和3年度入学生からとなります。

### 4 GPAの計算方法

履修登録した各科目の成績（GP）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第3位は四捨五入。

合否	評点	評語	GP	判定基準
合格	90点以上	S	4	特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	優れた成績である
	79点～70点	B	2	妥当と認められる成績である
	69点～60点	C	1	合格と認められる最低限の成績である
不合格	59点以下	D	0	合格と認められない成績である
失格	999点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認定	888点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

### 5 GPAに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「N」評価の科目。

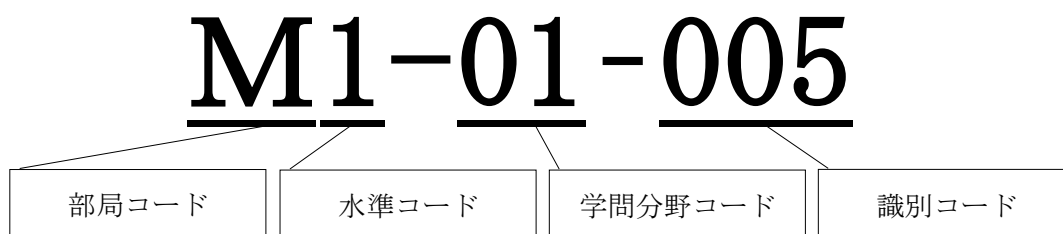
### 6 履修取り消し

前期は5月31日（月）まで、後期は10月29日（金）までと履修辞退期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、GPA算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

## ◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

### <高野山大学科目ナンバリングの形式>



### <各コードの定義について>

#### 1 部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するために項目です。

#### <部局コード分類表>

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

#### 2 水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

### 3 学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字2ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

### 4 識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字3ケタで表記しています。

#### ◆シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「A」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「I」については、ICTを用いて実施する科目を表しています。

## 入学から卒業までの履修について(密教学科) (2019年度からの入学生用)

### ◆卒業認定・学位授与に関する方針(密教学科ディプロマ・ポリシー DP)

高野山大学文学部密教学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

1. 仏教・密教に関する専門知識。(DP1)
2. 体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。(DP2)
3. 真言宗僧侶としての基礎的技能。(DP3)
4. 日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。(DP4)
5. 現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。(DP5)

### ◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

文学部密教学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります(履修規程第3条)。

密教学科の科目は、建学の精神科目、導入科目、語学科目、基礎ゼミ、基礎科目、実技科目、講読、実習、特殊講義、講読演習、演習、卒業論文の必修科目と、選択科目、自由科目に区分されています。

必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計64単位以上を取得してください。

また、必修科目以外に、選択科目の中から60単位を取得する必要があります。ただし、1年間に履修できるのは50単位までです。(自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが3.0以上の人は58単位まで履修可能です。)

密教学科の学生は、必修科目64単位と選択科目60単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	2単位	基礎科目	4単位	特殊講義	4単位
導入科目	2単位	実技科目	10単位	講読演習	4単位
語学科目	6単位	講読	8単位	演習	8単位
基礎ゼミ	4単位	実習	4単位	卒業論文	8単位
				必修科目合計	64単位
				選択科目合計	60単位
				合計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、1回生は履修できません。

以下では、密教学科の学生が卒業に必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。

卒業後にどのようになりたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学ばよいかを考えてください。

なお、難波サテライト教室で開講されている科目は卒業単位としては60単位まで取得することができます(社会人学生、社会人編入生には取得単位数の上限はありません)。

## ◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず64単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、基礎講義は4単位以上となっていますが、開講科目は8単位分開講されおり、その中から4単位以上を履修することができます。

科目区分/科目名	学年 配当	開講 時期	履修 単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	授業内容
----------	----------	----------	----------	-----	-----	-----	-----	-----	------

### 【建学の精神科目】 2単位必修

空海の思想入門	1	半期	2	◎		○			仏教思想の基礎と建学の精神である空海 の思想を学ぶ。
---------	---	----	---	---	--	---	--	--	-------------------------------

### 【導入研修】 2単位必修

導入研修	1	半期	2	○	◎				合宿形式で、大学での学びを体験するとともに、 グループ活動・宗教体験を通して自己を見つめる。
------	---	----	---	---	---	--	--	--	---

### 【語学科目】 6単位必修（英語Ⅰ・英語Ⅱは必修、漢文・サンスクリット語はどちらか2単位を必修）

英語Ⅰ	1	通年	2		◎		○		リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化す るとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
英語Ⅱ	1	通年	2		◎		○		リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化す るとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
漢文	1	通年	2		◎		○		訓点を正しく使う能力を養い、漢文読解の基 礎を身に付ける。
サンスクリット語	1	通年	2		◎		○		サンスクリット語の基礎を学び、読解力を高 める。

### 【基礎ゼミ】 2 + 2単位必修（2科目4単位以上）

密教学科基礎ゼミ	1	半期	2		◎	○			密教学科の学びの基礎となる資料収集や文章読解、 文章作成、実践などをトレーニングする。
----------	---	----	---	--	---	---	--	--	--

### 【基礎科目】 2 + 2単位必修（2科目4単位以上）

密教学概論	2	半期	2	◎				○	密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的 理解を培う。
仏教学概論	2	半期	2	◎				○	縁起・空・唯識・中観といった仏教の専門用 語を習得し、仏教思想の総合的理解を培う。
密教史概説	2	半期	2	◎				○	インド・チベット・中国における密教の歴史に関 する基礎知識を習得し、あわせて日本密教の歴史的展 開を理解する。
仏教史概説	2	半期	2	◎				○	インド文化における仏教の誕生と天界に関する基 礎知識を習得し、あわせて東アジアの仏教の歴史的 変遷を理解する。

### 【実技科目】 10単位必修（常用経典・声明・法式・布教は必修。漢字Ⅰ・かなⅠはどちらか2単位を履修）

常用経典	1	通年	2	○		◎			真言宗の常用経典の読誦法（お経の読み方） の習得。
声明	1	通年	2	○		◎			真言宗の僧侶として必要な仏教音楽「声明」 の基礎的トレーニング。
法式	1	通年	2	○		◎			真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘嚴 の基礎知識と意識の解説。
布教	1	通年	2	○		◎			布教原理の学習と実習（真言法話・詠歌等） を通して伝道の重要性を認識する。
漢字Ⅰ	1	通年	2		◎	○			中国の伝統的書道教育を根底に、楷書・篆 書・隸書などの臨書を経て、作品制作を行う。
かなⅠ	1	通年	2		◎	○			「かな」成立の歴史を知り、実習を経て行書 き・ちらし書きの創作を行う。

【講読】 8 単位必修（祖典講読 I は必修。祖典講読 II ・宗典講読はどちらか 4 単位を履修）

祖典講読 I	2	通年	4	◎		○		弘法大師空海の『即身成仏義』を読み、その根本思想を把握する。
祖典講読 II	2	通年	4	◎		○		弘法大師の著作の講読を通して、その思想の特質を理解するとともに、真言密教の教理と実践の関係を理解する。
宗典講読	2	通年	4	○		◎		密教・真言宗の文献の講読を通して、密教の思想と実践を学び、真言密教が社会に提供できるものを考える。

【実習】 4 単位必修

加行 I	1	通年	1	○		◎		前期加行の実習を通して、自分自身を見つめ、真言密教の修学に結び付ける。
加行 II	1	通年	1	○		◎		後期加行の実習を通して、自分自身を見つめ、真言密教の修学に結び付ける。
ボランティア	1	通年	2			○	◎	ボランティアの体験を通じて社会貢献の精神、公共性、社会性を身につける。
巡礼・遍路	1	通年	2		○		◎	巡礼・遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養し、企画力、実行力、報告能力を身に付ける。

【特殊講義】 2 + 2 単位必修（2 科目 4 単位以上）

密教学特殊講義	3	半期	2	◎			○	密教学／仏教学の卒業論文作成に向けた専門教育の講義であり、各自の希望に応じた選択によって、専門知識の習得や資格取得を実現する。
仏教学特殊講義	3	半期	2	◎			○	
真言密教特殊講義	3	半期	2	◎			○	

【講読演習】 2 + 2 単位必修（2 科目 4 単位以上）

密教学講読演習	3	半期	2	◎			○	密教学／仏教学の卒業論文作成に向けて、各自の希望に応じた選択によって、専門的な文献の読解を行う。
仏教学講読演習	3	半期	2	◎			○	
真言密教講読演習	3	半期	2	◎			○	

【演習】 4 + 4 単位必修（3 回生、4 回生で各 1 科目必修）

密教学演習	3・4	通年	4	○	◎			卒業論文作成のために、資料収取、読解、報告、執筆する力を身につける。
-------	-----	----	---	---	---	--	--	------------------------------------

【卒業論文】 8 単位必修

密教学科卒業論文	4	-	8	◎	○			4 年間の学びの集大成として、各自の研究成果を論文として作成する。
----------	---	---	---	---	---	--	--	-----------------------------------

◆選択科目

密教学科の必修科目を 64 単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの 60 単位は、人間学科の必修科目（人間学演習を除く）や文学部共通科目である企画科目、外国語科目、僧侶科目、実技・実習科目、古文書学科目、普通科目、書道師範科目、学芸員資格科目から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目（一部）を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

## カリキュラムマップ（密教学科）（2019年度からの入学生用）

	1年次	2年次	3年次	4年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語 I	英語 II		
	漢文 ※1 科目選択			
	サンスクリット語			
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ ※2 科目受講			
基礎科目		密教学概論		
		仏教学概論 ※2 科目選択		
		密教史概説		
		仏教史概説		
実技科目	常用経典			
	声明			
	法式			
	布教			
	書道（漢字 I） ※1 科目選択			
	書道（かな I）			
講読		祖典講読 I	祖典講読 II ※1 科目選択	
			宗典講読	
実習	加行 I ※春期休業中	加行 II ※夏期休業中		
	ボランティア ※1 科目選択	ボランティア ※1 科目選択		
	巡礼・遍路	巡礼・遍路		
特殊講義			密教学特殊講義 ※2 科目選択	
			仏教学特殊講義	
			真言密教特殊講義	
講読演習			密教学講読演習 ※2 科目選択	
			仏教学講読演習	
			真言密教講読演習	
演習			密教学演習	密教学演習
卒業論文				密教学科卒業論文
選択科目				

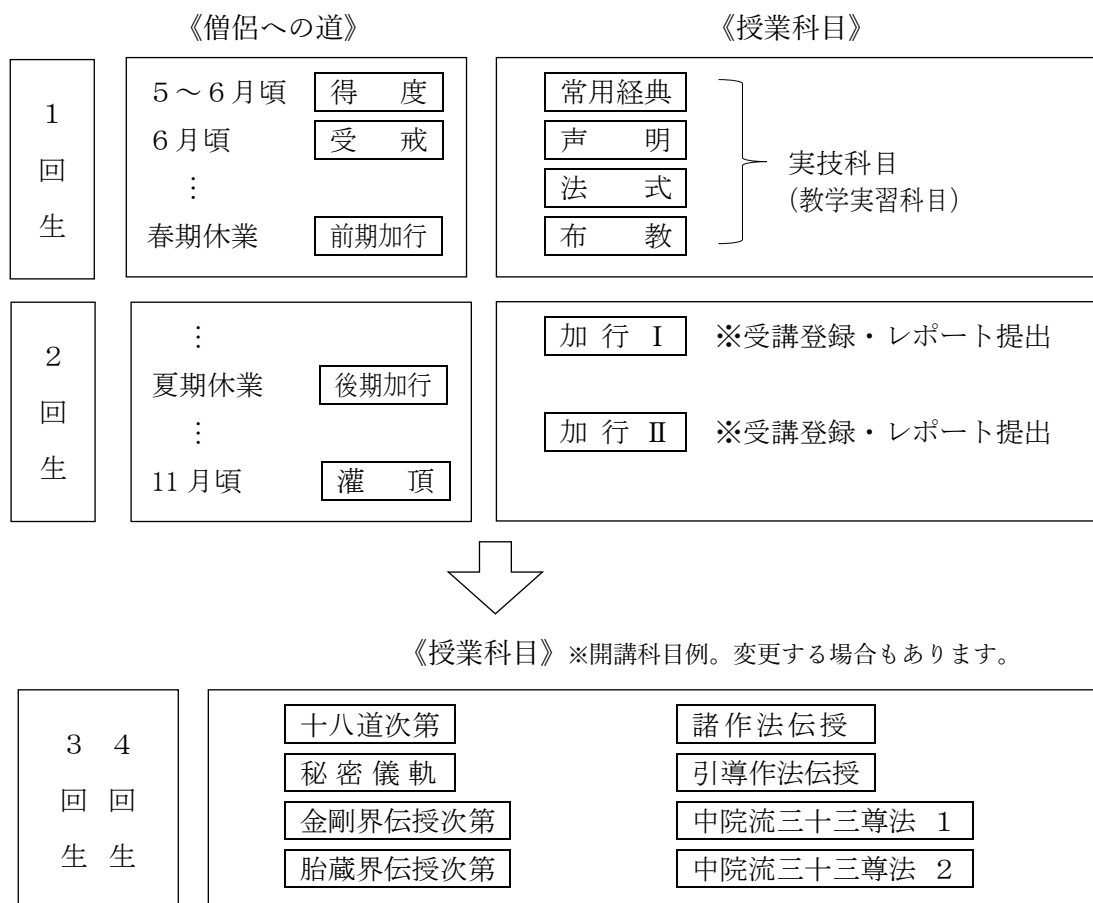
## 僧侶実力養成プログラム（2019年度からの入学生用）

密教学科主任

密教学科の講義の中には灌頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

密教学科では、2回生までに得度・受戒・加行・灌頂を終えるケースをモデルとして想定しています。

<モデルケース>



2年次において専修学院（学外施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

専修学院以外の場所で加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用經典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用經典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので、必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

専修学院（学外授業実施施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、学外施設において開講する指定科目を履修することにより本学の開講する必修科目・選択科目と同等の科目と見なし算入することができます。学外施設における指定された科目は毎年12月頃に掲示で告知しますので注意しておいてください。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。



## 入学から卒業までの履修について(密教学科) (2018年度までの入学生用)

文学部密教学科では卒業までに130単位以上の科目を履修することとしています(履修規程第3条)。授業科目は、大きく必修科目と選択科目に分かれ、その中でいくつかはグループ分けされていて、グループごとに何単位を履修するかが定められています。また、必修・選択科目以外に資格取得や就職準備のための自由科目が用意されていますが、自由科目は卒業に必要な単位に算入されません。また履修できるのは1年間に50単位まで(2019年4月変更)と上限が定められています(自由科目を除く)ので、4年で卒業するには1回生からコンスタントに学習することが重要です。

必修科目には、①1回生履修科目、②2回生履修科目、③3回生履修科目、④4回生履修科目があり、①～④で卒業に必要な単位数が決まっています。選択科目には密教学科科目、総合科目などの種類がありますが、基本的には選択科目全体で卒業に必要な合計単位数が決まっています。それぞれの科目グループで単位をいくつ履修しなければならないかの詳細は、『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程別表Iに記載していますので参照してください。なお、原則として最終授業時に、期末試験・レポート試験の採点済み答案を返却します。

以下では必修・選択科目それぞれの中にある科目グループについて説明します。これを参考に、各自の興味や関心に沿った履修を計画してください。

### ◆必修科目

必修科目とは、卒業までに必ず履修しなければならない科目のことです。学年が上がってくると、「○科目のうちから○科目以上履修すればよい」という場合もありますが、1、2回生では「指定された科目を必ず履修しなければならない」という場合がほとんどです。これを取り損ねると次年度からの履修にも支障を来しますので、必ず指定された学年で履修しましょう。

#### 1回生必修科目

以下の1回生必修科目はすべて合格しないと卒業できない科目です。それだけ今後の学習において重要な位置を占めると考え、必ず1回生のうちに履修をすませてください。

##### 1) 「建学の精神」科目 (空海思想入門)

文字どおり本学の教育の基本となる科目で、学長が担当します。空海について名前くらいしか知らないという人を想定して、その思想を中心に基本的なことを学びます。

##### 2) 語学科目 (英語Ⅰ)

語学はコミュニケーションの手段としても、またそれを通じて世界の見方を広げる手段としても重要です。1回生では高校レベルの復習を中心に学びます。1回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

##### 3) 導入科目 (日本語)

大学での筆記試験やレポート、ひいては4回生での卒業論文の作成を念頭に、その準備として「読む・書く」を中心としたトレーニングをします。1回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

##### 4) 基礎講義 (現代思想、人間と宗教、釈尊伝、弘法大師伝)

本学で学び始めたみなさんに最低限知っておいてもらいたい、考えてもらいたい内容です。一方で、現代の抱える問題、人間が抱えてきた問題を学び、他方で仏教の開祖であるブツダや真言宗の開祖である弘法大師について、名前くらいしか知らないという人を想定して、その時代背景と

生涯を学びます。

5) 古典語 (漢文Ⅰ・Ⅱ)

古典を学ぶのに必須となる漢文の力を養います。1回生では中学・高校レベルの復習を中心に学びます。

## 2回生必修科目

以下の2回生必修科目もほとんどが合格しないと卒業できない科目です。3回生から始まる専門科目を学ぶための基礎としても重要です。必ず2回生のうちに履修をすませてください。

1) 語学科目 (英語Ⅱ)

2年次には高校レベルをベースに長文を読み進める忍耐力を養います。2回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

2) 講義Ⅰ (密教学概論、密教史概説、仏教学概論、仏教史概説)

1年次の空海思想入門、釈尊伝、弘法大師伝を基礎として、密教と仏教それぞれについて、その学問分野の全体像と歴史を学びます。

3) 2回生講読 (祖典講読Ⅰ・Ⅱ)

弘法大師の思想は本学での学習に欠かせない要素です。それを原典の漢文で読み進めていきます。弘法大師の思想に触れると共に、それが漢文でどのように表現されているかについても学びます。

## 3回生必修科目

いよいよ3回生から本格的な専門の内容を学びます。履修科目の選択にあたっては4回生になってどんな内容で卒業論文を書きたいか、その希望も踏まえてその領域の科目を重点的に学んでください。

1) 3回生講読 (祖典講読Ⅲ・Ⅳ)

2回生に引きつぎ弘法大師の著作を原典で読み、その思想に触れます。漢文の勉強もしっかり進めてください。

2) 講読演習 (密教学講読演習、仏教学講読演習、真言密教講読演習)

講読演習は卒業論文作成の準備作業としての意義を持つ科目です。1冊または複数の文献を丁寧に読み、要点をまとめ、それを自分の考察や議論に生かしていくための方法を学びます。

3) 講義Ⅱ (密教学特殊講義、仏教学特殊講義、真言密教特殊講義)

2回生までに学んだ密教、仏教の基礎的知識を踏まえ、担当教員がそれぞれの得意分野で専門的な講義を展開します。自分の興味や卒業論文のテーマに合わせ、3回生と4回生で必要単位がそろうように履修してください。

4) 演習Ⅰ (密教学演習)

4回生(場合によっては、大学院生)と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。3回生のうちは特に、4回生の卒論報告を聞いて資料の集め方、議論の進め方、発表の仕方などを学びます。このほかに、卒論作成の力をつける課題に取り組むこともあります。

## 4 回生必修科目

- 1) 講読演習（密教学講読演習、仏教学講読演習、真言密教講読演習）  
3 回生必修科目と同じです。
- 2) 講義Ⅱ（密教学特殊講義、仏教学特殊講義、真言密教特殊講義）  
3 回生必修科目と同じです。
- 3) 演習Ⅱ（密教学演習）

3 回生、大学院生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。4 回生の卒論報告は 3 回生のための手本ともなります。必要に応じて担当教員に相談しながら、早めに準備を始めて納得のいく卒業論文を仕上げてください。このほかに、卒論作成の力をつける課題に取り組むこともあります。

### ※演習の選択にあたって

演習は卒業論文を作成するための科目です。主にどの教員の指導を受けて卒論を書くか、3 回生までにいろいろな教員の授業を受けながらよく考えておいて下さい。何か書いてみたいテーマがぼんやりとでも見えてきたら、オフィスアワーや授業の前後の時間を利用して、教員に直接相談してみるのもよいでしょう。場合によっては、卒論はこの先生の指導で書くが、あの先生の演習も受けて参考にしたいという希望が出てくるかもしれません。その時にはそれぞれの教員にその希望を伝え、十分に相談してから受講して下さい。

## ◆選択科目

選択科目とは、本学での学びを支えるために用意された科目です。企画科目や総合科目などいくつかのグループがありますが、グループ分けにこだわらず興味のあるものを選び、卒業までに全体で 52 単位を履修することが必要です。

選択科目と必修科目が重複して開講されている場合には必修科目を優先して履修して下さい。時間割をつくる際には、まず前の学年で履修できなかった必修科目があればそれを登録し、次に今の学年の必修科目を登録し、その後で空いている時間に選択科目を登録していくといいでしょう。1 学年で履修できる科目の上限が 50 単位ですから、月曜から金曜まで、1 講時から 4 講時（5 講時）まで、すべてを授業で埋めることはできません。受けている授業の予習・復習をしたり、図書館で調べ物をしたり、空き時間をうまく活用して勉強を進めてください。密教合同研究室を覗いて先輩たちにアドバイスをもらったり、学習・就職支援室で就職活動の準備をするのもいいでしょう。

## ◆資格科目について

密教学科では、必要な科目を履修することによって、以下の免許・資格を取得できます。

- ・教育職員免許（宗教中学校 1 種、宗教高等学校 1 種、国語中学校 1 種、国語高等学校 1 種）
- ・高野山金剛峯寺・高野山大学書道師範
- ・社会福祉主事任用資格
- ・僧階

いずれも『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程および高野山大学履修要項を参考にしてください。特に教職免許は卒業単位以外に必要となる科目が多いので、1 回生のうちから計画的に履修していくことが重要です。

# カリキュラムマップ（密教学科）（2018年度までの入学生用）

## 建学の精神科目 空海の思想入門

		古典に学ぶ	伝統文化を学ぶ	人と関わる	社会に生かす	僧侶
1 ・ 2 回 生	必修	密教学概論Ⅰ・Ⅱ 仏教学概論Ⅰ・Ⅱ 密教史概説Ⅰ・Ⅱ 仏教史概説Ⅰ 祖典講読Ⅰ・Ⅱ	漢文Ⅰ・Ⅱ	人間と宗教 英語Ⅰ・Ⅱ	現代思想	
	選択	サンスクリット語Ⅰ・Ⅱ チベット語 宗教思想史Ⅰ・Ⅱ 宗教学Ⅰ・Ⅱ 宗教史Ⅰ・Ⅱ 総合科目（書誌学） 総合科目（古文書学） 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 漢文学概論Ⅰ・Ⅱ 企画科目（古文書解説）	日本文学Ⅰ・Ⅱ 国文法Ⅰ・Ⅱ 国語学Ⅰ・Ⅱ 漢字Ⅰ・Ⅱ かなⅠ・Ⅱ 企画科目（舞踊） 企画科目（華道） 企画科目（仏画） 企画科目（歴史学） 日本文学史概説Ⅰ・Ⅱ 日本文学史概説Ⅰ・Ⅱ 国語学講義Ⅰ・Ⅱ 篆刻Ⅰ・Ⅱ 書道史（中国） 伝統文化実習（茶道） 企画科目（巡礼・遍路）	心理学Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ 体育実技 企画科目（地域連携Ⅰ・Ⅱ） 哲学方法論 企画科目（高野文化圏論） 企画科目（キャリア研修）	社会学Ⅱ 現代の人権 日本国憲法 情報処理 社会保障総論Ⅱ 社会福祉各論Ⅱ（地域福祉Ⅱ） キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ 企画科目（社会調査入門） 企画科目（質的調査論） 企画科目（地域産業論） 企画科目（カウンセリング論） 企画科目（発達心理学） 伝統文化実習（民俗調査）	梵字悉曇 常用経典 声明 法式 布教 企画科目（寺院経営） 企画科目（声明上級） 企画科目（詠歌） 企画科目（加行Ⅰ） 企画科目（加行Ⅱ） 宗教学方法論

3 ・ 4 回 生	必修	祖典講読ⅢA『叶字義』を読む（1）【高野山】 祖典講読ⅢE『叶字義』を読む【難波】		祖典講読ⅣA『叶字義』を読む（2）【高野山】 祖典講読ⅣE『叶字義』を読む【難波】		
	講読演習	密教学講読演習A密教図像に関する体系的学習【高野山】 密教学講読演習G密教図像学を学ぶ【難波】 密教学講読演習H『大日経』を読む【高野山】 密教学講読演習I『金剛頂経』を読む【高野山】 密教学講読演習Jインド密教史における密教経典の発達【難波】 密教学講読演習K『性霊集』を読む【難波】 密教学講読演習L『性霊集』を読む【難波】 仏教学講読演習A『法華経』における譬喩形態について考察する。【高野山】 仏教学講読演習B仏教関係法令からみた平安時代の真言宗寺院の動向【高野山】 仏教学講読演習C心とはなにかⅡ【難波】		仏教学講読演習F『釈摩訶衍論』の注釈を読む【難波】 仏教学講読演習G『釈摩訶衍論』の注釈を読む【難波】 真言密教講読演習B次第のルーツを探る【高野山】 真言密教講読演習C次第のルーツを探る【高野山】 真言密教講読演習D金剛界次第の研究（前半）【高野山】 真言密教講読演習E金剛界次第の研究（後半）【高野山】 真言密教講読演習F『性霊集』を読む【難波】 真言密教講読演習G『感身学正記』を読む【難波】 真言密教講読演習H真言密教の儀礼の解説と体験【難波】 真言密教講読演習K一尊法次第【高野山】		
	特殊講義	密教学特殊講義A密教図像に関する体系的学習【高野山】 密教学特殊講義B各時代の作品を通して日本の仏教美術の特徴を知る【高野山】 密教学特殊講義C高野山における仏教美術の研究【高野山】 密教学特殊講義D空海書学A-1【難波】 密教学特殊講義F密教図像学を学ぶ。【難波】 密教学特殊講義G空海書学B-1【難波】 仏教学特殊講義A富永仲基『翁の文』を読む。【高野山】 仏教学特殊講義C心とはなにかⅠ【難波】 仏教学特殊講義I死後の世界を考える【難波】 仏教学特殊講義J般若心経を通じて仏教の基礎用語を学ぶ【難波】		真言密教特殊講義A別行次第の伝授1【高野山】 真言密教特殊講義B日用小作法の伝授2【高野山】 真言密教特殊講義C密教における死生観【高野山】 真言密教特殊講義D『秘蔵記』の講伝・研究（前半）【高野山】 真言密教特殊講義E『秘蔵記』の講伝・研究（後半）【高野山】 真言密教特殊講義J『宗義決撰集』の研究【高野山】 真言密教特殊講義M法流史概説【高野山】 真言密教特殊講義G高野山の思想・信仰・歴史・文化を広く学ぶ【難波】 真言密教特殊講義L四国遍路の歴史【難波】		
	演習	密教学演習C歌集『現代宇宙論』を読んで、仏教（密教）の真髄の世界を探る【高野山】 密教学演習D歴史学の視点から卒業論文を作成する【高野山】 密教学演習E思想研究の方法論【高野山】 密教学演習F密教図像資料の研究【高野山】 密教学演習H『性霊集』を読む【高野山】		密教学演習I密教思想の研究【難波】 密教学演習Jテーマ選びから卒業論文作成まで【難波】 密教学演習K日本文学研究法【高野山】 密教学演習L卒業論文を作成する【難波】		
	選択	日本文化特殊講義A『信生法師集』（紀行部）を読む【高野山】 日本文化特殊講義C「慈円と『愚管抄』」【高野山】 中国文化講読演習A漢字学の原点『説文解字』を読む【高野山】 キャリアカウンセリングⅢ（就職活動に必要なスキルの修得①） 総合科目（インターシップ）（就職活動に必要なスキルの修得②）		総合科目（古文書学）（日本古文書学の諸問題） 総合科目（書誌学）（古典籍と書誌学・文献学） 条幅制作A（漢字）（条幅作品の創作①） 条幅制作B（かな）（条幅作品の創作②）		

## 卒業論文

### 教員・就職（自由科目）

	1回生	2回生	3回生	4回生
教職入門 教育原論 教育社会学 教育課程論		教育心理学 宗教科教育法Ⅰ・Ⅱ 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ 教育方法論 情報技術論 道德教育の研究 特別教育活動 生徒指導・進路指導	宗教科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 教育相談 教育実習Ⅰ 教育実習の研究	教職実践演習 教育実習Ⅱ

## 僧侶実力養成プログラム（2018年度までの入学生用）

密教学科主任

僧階取得を目指す学生は、必ず得度、受戒、加行、灌頂を在学中におこなってください。詳しくは掲示に注意するとともに学生手帳「D 僧侶の道」をよく読んでおいてください。

二年次において専修学院（学外授業実施施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

専修学院以外の場所で加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用經典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用經典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

専修学院（学外授業実施施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、学外施設において開講する指定科目を履修することにより本学の開講する必修科目・選択科目と同等の科目と見なし算入することができます。学外施設における指定された科目は毎年12月頃に掲示で告知しますので注意しておいてください。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

密教学科の講義の中には灌頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

その他、僧侶として身につけておいた方がよい科目群を「僧侶実力養成プログラム」と題して選び出しています。これらの科目についても積極的に受講してください。

### 受講モデルケース

1回生		
常用經典 詠歌	阿字観 法式	声明
2回生		
布教	声明上級	梵字悉曇
3回生 4回生		
法式上級	密教学特殊講義（事相）	一流伝授

### 僧侶実力養成プログラム

#### 【教学実習科目】

法式 声明 常用經典 布教

#### 【企画科目】

詠歌 阿息観 月輪観と阿字観 法式上級 声明上級 一流伝授

#### 【選択科目】

梵字悉曇

#### 【講義】

金剛界伝授次第 胎蔵界伝授次第 事作法伝授 葬送儀礼 中院流三十三尊法の研究

## 入学から卒業までの履修について（人間学科）（2019年度からの入学生用）

### ◆卒業認定・学位授与に関する方針（人間学科ディプロマ・ポリシー DP）

高野山大学文学部人間学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

1. 社会人として必要な一般教養を身に付けている。(DP1：社会人基礎力)
2. 他者の理解ができるとともに、自分の考えてをまとめ、他者に伝達するコミュニケーション能力を持っている。(DP2：コミュニケーション力)
3. 自らが置かれた現状を客観的に分析し、対応を立案し、実行できる。(DP3：課題解決能力)
4. 大学での学びを社会のために、役立てようとする意識を持っている。(DP4：社会貢献意識)

### ◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部人間学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります（履修規程第3条）。

人間学科の科目は、建学の精神科目、導入科目、語学科目、基礎ゼミ、基礎科目、キャリア科目、教養科目、実習、専門講義、実践演習、演習、卒業論文に区分されています。これらは必修ですが、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。

これらの科目では、必要単位が決められています。各科目の必要単位を合計62単位以上取得しなければ、卒業できません。

また、必修科目以外に、選択科目の中から62単位を取得する必要があります。ただし、1年間に履修できるのは50単位までです。（自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが3.0以上の人は58単位まで履修可能です。）

人間学科の学生は、必修科目62単位と選択科目62単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	2単位	基礎科目	6単位以上	専門講義	4単位以上
導入科目	2単位	キャリア科目	10単位以上	実践演習	2単位以上
語学科目	4単位	教養科目	4単位以上	演習	8単位
基礎ゼミ	8単位	実習	4単位以上	卒業論文	8単位
				必修科目合計	62単位
				選択科目合計	62単位
				合計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、1回生は履修できません。

以下では、人間学科の学生が卒業のために必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。

卒業後にどのようにになりたいのか、どのコース（地域デザイン・心理ケア）に進みたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかなどを考えてください。高野山キャンパスで学んでいる2回生以上の学生は、難波サテライト教室で開講されている心理ケア関係の科目を履修することができます。ただし、難波サテライト教室や学外で行う科目は、卒業単位としては60単位までしか認定できません（社会人学生、社会人編入生には取得単位数の上限はありません）。

## ◆必修科目

卒業するためには、必修科目を62単位以上取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義が設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、専門講義は4単位以上となっていますが、地域デザインや心理ケアの専門的な講義が複数開講されており、その中から4単位以上を選択することができます。

科目区分/科目名	学年 配当	開講 時期	履修 単位	DP1	DP2	DP3	DP4	授業内容
----------	----------	----------	----------	-----	-----	-----	-----	------

### 【建学の精神科目】 2単位必修

空海の思想入門	1	半期	2				◎	仏教思想の基礎と建学の精神である空海を学ぶ。
---------	---	----	---	--	--	--	---	------------------------

### 【導入科目】 2単位必修

導入研修	1	半期	2	○		○	◎	合宿形式で、大学での学びを体験するとともに、グループ活動から協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。
------	---	----	---	---	--	---	---	--

### 【語学科目】 4単位必修

英語Ⅰ	1	通年	2	○	◎			リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
英語Ⅱ	2	通年	2	○	◎			リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するとともに、e-learning教材でリスニングも行う。

### 【基礎ゼミ】 8単位必修

基礎ゼミⅠ、Ⅱ	1	通年	4	○	◎	○	○	文章読解、資料収集、プレゼンテーション、文章作成などの学び方の基礎を学ぶ。
基礎ゼミⅢ、Ⅳ	2	通年	4	○	◎	○	○	専門教育に向けて、専門文献の講読や資料収集などの方法を学ぶ。

### 【基礎科目】 6単位以上必修（社会学必修、心理学Ⅰ・Ⅱと社会福祉論・社会保障論は各1科目2単位以上）

※これらは、社会福祉主事任用資格科目となっている。

心理学Ⅰ、Ⅱ	1	通年	4	◎			○	心理ケアの基本を学ぶ。
社会学	1	半期	2	◎			○	時事問題に触れることを通して、地域デザインの基本を学ぶ。
社会福祉論	1	半期	2	◎			○	両コースの基礎となる社会福祉・社会保障を学ぶ。
社会保障論	1	半期	2	◎			○	

### 【キャリア科目】 10単位必修（キャリアデザインⅠ～Ⅳ必修、その他1科目2単位以上選択）

キャリアデザインⅠ、Ⅱ	1	通年	4	◎	○	○	◎	進路を考える前提として、自己分析・自己理解を行う。
キャリアデザインⅢ、Ⅳ	2	通年	4	◎	○	○	○	多様な進路を理解するために、業界・業種の研究を行う。
キャリアデザインⅤ、Ⅵ	3	通年	4	◎	○	○	○	インターンシップや就職活動を目前として、その意義を考える。
キャリア研修	2	集中	2	○	○	◎	○	合宿研修を通じて、これまで学んできたことを実践し、その後の学修に結び付ける。
インターンシップ	3	集中	2	○	○	◎	○	職場での実体験を通して、進路に対する意識を強くするとともに、実社会を理解する。

【教養科目】4単位以上必修（2科目4単位以上選択）

教養講義	1	半期	2	◎			○	高校での教育を確認し、大学の学びにつなげるとともに、社会人基礎力を養成する。
------	---	----	---	---	--	--	---	--

【実習】4単位以上必修（人間学実習は必修、その他1科目2単位以上選択）

人間学実習	2	通年	2	○		◎		調査実習を通して、地域デザイン、心理ケアの研究方法を体験し、専門教育につなげる。
ボランティア	1	集中	2	○			◎	ボランティアの体験を通じて社会貢献の精神、公共性、社会性を身につける。
巡礼・遍路	1	集中	2	◎			○	巡礼・遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養し、企画力、実行力、報告能力を身に付ける。

【専門講義】4単位以上（2科目4単位以上選択）

人間学専門講義	2	半期	2	◎			○	地域デザイン・心理ケアの専門教育にあわせた講義であり、各自の希望に応じた選択によって資格取得、志望する進路を実現する。
---------	---	----	---	---	--	--	---	---

【実践演習】2単位以上（1科目以上選択）

人間学実践演習	3	半期	2	○	◎	◎	○	卒業論文に向けて、より専門性の高い調査方法を学ぶ。
---------	---	----	---	---	---	---	---	---------------------------

【演習】8単位以上必修（3回生、4回生で各1科目必修）

人間学演習	3・4	通年	8	○	◎	◎	○	卒業論文の作成のために、資料収取、読解、報告、執筆する力を身につける。特に討論などのグループによる学びを通じて、効果を高める。
-------	-----	----	---	---	---	---	---	---

【卒業論文】8単位以上必修

人間学科卒業論文	4	通年	8	○	◎	◎	○	4年間の学びの集大成として、各自の研究成果を論文として作成する。
----------	---	----	---	---	---	---	---	----------------------------------

※DP1：社会人基礎力、DP2：コミュニケーション力、DP3：課題解決能力、DP4：社会貢献意識

◆選択科目

人間学科の必修科目を62単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの62単位は、密教学科の必修科目（密教学演習を除く）や文学部共通科目である企画科目、外国語科目、僧侶科目、実技・実習科目、古文書学科目、普通科目、書道師範科目、学芸員資格科目から履修することができます。また余分に履修した人間学科必修科目を充てることもできます。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。



## カリキュラムマップ（人間学科）（2019年度からの入学生用）

	1年次	2年次	3年次	4年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ		
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ・Ⅱ	基礎ゼミⅢ・Ⅳ		
基礎科目	心理学Ⅰ・Ⅱ 社会学 社会福祉論 社会保障論			
キャリア科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ	キャリアデザインⅢ・Ⅳ	キャリアデザインⅤ・Ⅵ	
		キャリア研修	インターンシップ	
教養科目	教養講義（社会科学） 教養講義（人文科学） 教養講義（数的処理） 教養講義（自然科学） 教養講義（数的処理） 教養講義（人権論）			
実習科目		人間学実習（社会調査） 人間実習（コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ）		
	ボランティア 巡礼・遍路			
専門講義科目		人間学専門講義 社会調査入門 社会調査方法論 質的調査論 情報リテラシー論 基礎統計学 地方行政論 地方自治法 地域産業論 高野文化圏論 地域連携 こころのケアとは 発達心理学 家族心理学 学校心理学 社会心理学 深層心理学 災害心理学 カウンセリング論 もの語り心理学 メンタルヘルス 心理統計法 心理測定法 臨床心理学面接演習Ⅰ～Ⅳ 心理検査法演習Ⅰ・Ⅱ 心理学基礎実験演習Ⅰ・Ⅱ スピリチュアルケア実践論 スピリチュアルケア演習Ⅰ・Ⅱ 臨床死生学 死生観 自殺学 悲嘆学 宗教学入門 一神教の世界		
実践演習			人間学実践演習（学外研修Ⅰ） 人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ、Ⅱ） 人間学実践演習（臨床演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ）	人間学実践演習（学外研修Ⅱ） 人間学実践演習（臨床実習Ⅱ・Ⅴ）
人間学演習			人間学演習	人間学演習
人間学科卒業論				人間学科卒業論文
選択科目				

※ 科目によって半期・通年・集中がある。

※ 開講科目については、隔年開講も含めて年度ごとに変更する。

※ 開講場所は、高野山キャンパスのみ、難波サテライト教室のみ、両方、学外で開講する科目がある。

## 入学から卒業までの履修について（人間学科）（2018年度までの入学生用）

文学部人間学科では卒業までに124単位以上の科目を履修することとしています（履修規程第3条）。授業科目は、大きく必修科目と選択科目に分かれ、その中でいくつかはグループ分けされていて、グループごとに何単位を履修するかが定められています。また、必修・選択科目以外に資格取得や就職準備のための自由科目が用意されていますが、自由科目は卒業に必要な単位に算入されません。また履修できるのは1年間に50単位まで（2019年4月変更）と上限が定められています（自由科目を除く）ので、4年で卒業するには1回生からコンスタントに学習することが重要です。

必修科目には、①1回生履修科目、②2回生履修科目、③3回生履修科目、④4回生履修科目があり、①～④で卒業に必要な単位数が決まっています。選択科目は、選択科目全体で卒業に必要な合計単位数が決まっています。それぞれの科目グループで単位をいくつ履修しなければならないかの詳細は、『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程別表Iに記載していますので参照してください。

以下では必修・選択科目それぞれの中にある科目グループについて説明します。これを参考に、各自の興味や関心に沿った履修を計画してください。

### ◆必修科目

卒業までに必ず履修しなければならない科目のことです。これを取り損ねると次年度からの履修にも支障を来しますので、必ず指定された学年で履修しましょう。

#### 1回生必修科目

以下の1回生必修科目はすべて合格しないと卒業できない科目です。必ず1回生のうちに履修をすませてください。

- 1) 「建学の精神」科目（空海の思想入門）  
空海について名前くらいしか知らないという人を想定して、その思想を中心に基本的なことを学びます。
- 2) 語学科目（英語Ⅰ）  
1回生では高校レベルの復習を中心に学びます。
- 3) 学科基礎科目（人間学基礎ゼミⅠ、Ⅱ）  
大学での筆記試験やレポート、ひいては4回生での卒業論文の作成を念頭に、その準備として「読む・書く」を中心としたトレーニングをします。
- 4) 基礎講義（現代思想、人間と宗教）  
人間学科での学びの出発点となる、いろいろな問題を学びます。
- 5) キャリア教育（キャリアカウンセリングⅠ）  
働くことの意義を学ぶことで、社会に出る準備を始めます。

#### 2回生必修科目

以下の2回生必修科目も3回生から始まる専門科目を学ぶための基礎としても重要です。必ず2回生のうちに履修をすませてください。

- 1) 語学科目 (英語Ⅱ)  
2年次には高校レベルをベースに長文を読み進める忍耐力を養います。
- 2) 講義 (人間学概論Ⅰ・Ⅱ)  
地域デザイン、日本文化、心理ケアの連続講義で、一つのテーマを5つの学問の視点から考察します。さまざまな角度から人間を見ることを学びます。
- 3) ゼミ (人間学基礎ゼミⅢ、Ⅳ)  
人間学概論で学んだ知識を深めるための、人間学概論で取り上げられたテーマに関する文献講読、発表、話し合いを行います。
- 4) 伝統文化実習 (茶道、民俗調査など)  
実際に体を使った学びを通して、たんなる座学に留まらない立体的学びを目指します。
- 5) キャリア教育 (キャリアカウンセリングⅡ)  
職業世界について理解を深め、自己分析を通じた自分の職業的傾向を把握します。

### 3 回生必修科目

いよいよ卒論に向けた準備が始まります。自分なりのテーマを見つけ、卒業論文作成に向けて、計画的に研究を進めましょう。

- 1) 語学科目 (英語Ⅲ)  
3年次には、ネット上の時事英語の読解など、より実践的な英語を学びます。
- 2) ゼミ (人間学演習Ⅰ)  
3, 4年生共通の卒論作成ゼミです。先輩の卒論発表を聴き、議論に参加することで、卒論作成についての準備を開始します。
- 3) 特殊ゼミ (人間学特殊ゼミⅠ、Ⅱ)  
地域デザイン、日本文化、心理ケアのコースごとに開講されます。自分の卒論テーマに近い特殊ゼミを受講し、それぞれの専門分野の理解を深めます。
- 4) キャリア教育 (キャリアカウンセリングⅢ)  
就職活動に必要な知識、技能を学びます。

### 4 回生必修科目

- 1) ゼミ (人間学演習Ⅱ)  
3回生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。4回生の卒論報告は3回生のための手本ともなります。必要に応じて担当教員に相談しながら、早めに準備を始めて納得のいく卒業論文を仕上げてください。

## ◆選択科目

選択科目とは、必修科目に加えて、より広い教養を身につけてもらうための科目です。なお、人間学科生が密教学科科目を履修した場合、選択科目にカウントされます。密教学科科目を含めた選択科目の中から、72単位を履修してください。

### \* 時間割作成上の注意

選択科目と必修科目が重複して開講されている場合には必修科目を優先して履修してください。時間割をつくる際には、まず前の学年で履修できなかった必修科目があればそれを登録し、次に今の学年の必修科目を登録し、その後で空いている時間に選択科目を登録していくといいでしょう。

## ◆資格科目について

人間学科では、必要な科目を履修することによって、以下の免許・資格を取得できます。

- ・ 高野山金剛峯寺・高野山大学書道師範
- ・ 社会福祉主事任用資格
- ・ 僧階

いずれも『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程および高野山大学履修要項を参考にしてください。

## カリキュラムマップ（人間学科）（2018年度までの入学生用）

講義・実習をゼミ・卒業論文へつなぐ

- ・ 3年生から地域デザイン、日本文化、心理ケアの3コースに所属して、それぞれの専門分野について学びます。人間学概論、人間学特殊ゼミで、3コースの基礎を学びます。
- ・ 1回生～4回生までのゼミが学びの中心です。発表・議論を通してコミュニケーション能力を養うとともに、ゼミ生同士や教員とのふれあいによって人間力を向上させます。4年間の総括として卒業論文を作成します。コース毎に用意された選択科目を目安として履修し、専門性を深め、自分なりのテーマを見つけましょう。
- ・ 伝統文化実習では、茶道や民俗調査によって、体験的に伝統文化や地域の文化を学びます。
- ・ キャリアカウンセリングは1回生から始まります。社会人基礎力の習得に向けた段階的指導を行います。
- ・ 1回生から、一人ひとりの学生にチューターを決め、個人学習支援を行います。個人学習支援では、修学に関することはもちろん、進路のことなども含めた支援を行います。

		1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	建学の精神科目	空海思想入門			
	語学科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	
	導入科目	人間学基礎ゼミⅠ 人間学基礎ゼミⅡ	人間学基礎ゼミⅢ 人間学基礎ゼミⅣ		
	演習			人間学演習Ⅰ	人間学演習Ⅱ
	特殊ゼミ			人間学特殊ゼミⅠ 人間学特殊ゼミⅡ	
	卒業論文				人間学科卒業論文
	講義Ⅰ		人間学概論Ⅰ 人間学概論Ⅱ		
	伝統文化		伝統文化実習		
	基礎講義	現代思想 人間と宗教			
	キャリア教育	キャリアカウンセリングⅠ	キャリアカウンセリングⅡ	キャリアカウンセリングⅢ	
専門・選択科目	日本文化コース	日本文学Ⅰ 日本文学Ⅱ 歴史学 国文学Ⅰ 国文学Ⅱ 国語学Ⅰ 国語学Ⅱ	国語学講義Ⅰ 国語学講義Ⅱ 日本文学史概説Ⅰ 日本文学史概説Ⅱ 日本文学概論Ⅰ 日本文学概論Ⅱ 漢文学概論Ⅰ 漢文学概論Ⅱ 書道史	日本文化特殊講義A 日本文化特殊講義B 日本文化特殊講義C 中国文化特殊講義 中国文化講読演習A 中国文化講読演習B	
	地域デザインコース	心理学Ⅰ 心理学Ⅱ 社会学Ⅰ 社会学Ⅱ	社会調査入門 質的調査論 キャリア研修 社会調査方法論 高野文化圏論 心理統計学 地方行政論 地方自治法 地域連携	※ インターンシップ ※ 真言密教特殊講義G ※ 真言密教特殊講義H ※ 社会保障総論Ⅰ ※ 社会保障総論Ⅱ ※ 社会福祉各論Ⅰ ※ 社会福祉各論Ⅱ	
専門・選択科目	心理ケアコース	心理学Ⅰ 心理学Ⅱ 教育心理学 教育相談	心理統計学 心理測定法 心理学基礎実験演習Ⅰ 心理学基礎実験演習Ⅱ 発達心理学 家族心理学 社会心理学 カウンセリング論 コミュニケーション訓練Ⅰ コミュニケーション訓練Ⅱ 死生学	※ 心理検査法Ⅰ ※ 心理検査法Ⅱ ※ 臨床心理学面接演習Ⅰ ※ 臨床心理学面接演習Ⅱ ※ スピリチュアルケア概論 ※ スピリチュアルケア演習Ⅰ ※ スピリチュアルケア演習Ⅱ ※ 臨床実習Ⅰ ※ 臨床実習Ⅲ ※ 臨床実習Ⅳ ※ メンタルヘルス	※ 臨床実習Ⅱ ※ 臨床実習Ⅴ

※印は企画科目です。

# 文学部目次

## R3から文学部 密教学科

「備考・履修条件」欄について  
 難波・・・難波サテライト教室にて開講  
 留学生・・・外国人留学生に限る  
 已灌頂者・・・已灌頂者に限る  
 科目名・・・科目名の書かれた科目と同年に履修すること  
 日付・・・集中講義開催日（詳細は掲示確認）

### 1 必修科目

#### [密教学科1年次履修科目]

#### 1) 「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53103	空海思想入門A	櫻木潤	2	1年次	—		60
前期	火	3	52326	空海思想入門B	櫻木潤	2	1年次	—	難波	257

#### 2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57005	導入研修	学科主任	2	1年次	—		61

#### 3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	2	51205	英語I	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎		62
通年	木	1	54105	漢文	南昌宏	2	1年次	—		68
通年	木	1	54106	サンスクリット語A	徳重弘志	2	1年次	—		69
通年	金	2	55227	サンスクリット語B	前谷彰	2	1年次	—	難波	258

#### 4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51406	密教学基礎ゼミA1	南昌宏	2	1年次	—		70
後期	月	4	51456	密教学基礎ゼミA2	南昌宏	2	1年次	—		71
前期	月	4	51407	密教学基礎ゼミB1	櫻木潤	2	1年次	—		72
後期	月	4	51457	密教学基礎ゼミB2	櫻木潤	2	1年次	—		73
前期	月	4	51408	密教学基礎ゼミC1	森本一彦	2	1年次	—		74
後期	月	4	51458	密教学基礎ゼミC2	森本一彦	2	1年次	—		75

#### 5) 実技科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮田永明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻秀道	2	1年次	僧階補任		77
通年	月	1	51101	法式	加藤善弘	2	1年次	僧階補任		78
通年	火	4	52409	布教A	近藤堯寛	2	1年次	僧階補任		80
通年	木	3	54307	布教B（詠歌）	辻・西山・本間	2	1年次	僧階補任		79
通年	金	2	55201	漢字I	野田悟	2	1年次	書道師範/教免（国語）		81
通年	木	2	54201	かなI	塩野三恵子	2	1年次	書道師範/教免（国語）		82

#### 6) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57006	加行I	密教学科主任	1	1年次	—		83
通年	集中	集中	57009	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	—		132
通年	集中	集中	57008	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	—		85
前期	木	2	54212	巡礼・遍路B	川崎一洋	2	1年次	—		86
通年	木	2	54259	巡礼・遍路C	川崎一洋	2	1年次	—		87

## 2 選択科目

### 1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52504	総合科目 (チベット仏教入門ⅠB)	テンジン・ウセル	2	1年次	—		174
後期	火	5	52552	総合科目 (チベット仏教入門ⅡB)	テンジン・ウセル	2	1年次	—		175
前期	金	6	55627	総合科目 (チベット仏教入門ⅠA)	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	326
後期	金	6	55677	総合科目 (チベット仏教入門ⅡA)	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	327

### 2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51410	企画科目 (日本文化)	松 本 貴 子	2	1年次	—	留学生	168
後期	月	4	51460	企画科目 (日本社会)	松 本 貴 子	2	1年次	—	留学生	169
通年	月	4	51413	企画科目 (英会話)	亀 位 卓 阿	2	1年次	—		163
通年	火	4	52403	企画科目 (仏画)	有 松 孝 雄	2	1年次	学芸員		176
前期	火	4	52406	企画科目 (数的処理)	木 地 茂 典	2	1年次	—		143
後期	火	4	52451	企画科目 (自然科学)	木 地 茂 典	2	1年次	—		144
前期	水	3	53302	企画科目 (寺院経営講座)	加 賀 博	2	1年次	—		177
前期	木	1	54107	企画科目 (社会科学)	森 本 一 彦	2	1年次	—		141
後期	木	1	54155	企画科目 (人文科学)	鈴 木 晴 久	2	1年次	—		142
通年	木	4	54402	企画科目 (日本語留学生中級A)	廣 田 恵 美 子	2	1年次	—	留学生	180
通年	木	5	54501	企画科目 (日本語留学生上級A)	廣 田 恵 美 子	2	1年次	—	留学生	178
通年	月	3	51302	企画科目 (日本語留学生中級B)	松 本 貴 子	2	1年次	—	留学生	181
通年	月	5	51501	企画科目 (日本語留学生上級B)	松 本 貴 子	2	1年次	—	留学生	179
後期	集中	集中	57051	企画科目 (密教瞑想)	佐 藤 隆 彦	2	1年次	—		329

### 3) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土 生 川 正 賢	2	1年次	—		183
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土 生 川 正 賢	2	1年次	—		184

### 4) 僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋 藤 天 譽	2	1年次	—		186
通年	水	3	53327	梵字悉曇C	乾 龍 仁	2	1年次	—	難波	331

### 5) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54304	体育実技	今 井 邦 夫	2	1年次	教職基礎		187
通年	火	3	52302	情報処理	木 地 茂 典	2	1年次	教職基礎		188
通年	火	4	52410	伝統文化 (華道)	五 味 和 樹	2	1年次	—		189
通年	水	3	53303	伝統文化 (茶道)	岡 本 文 音	2	1年次	—		173
通年	月	3	51306	宗教芸能 (宗教舞踊)	高 祖 ・ 辻	2	1年次	—		190

### 6) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	4	55451	宗教思想史ⅠA	奥 山 直 司	2	1年次	教免 (宗教)		197
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥 山 直 司	2	1年次	—	難波	332
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻 木 潤	2	1年次	教免 (宗教)		198
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	佐 々 木 聡	2	1年次	社会福祉主事		133
前期	月	6	51626	心理学ⅠB	上 野 和 久	2	1年次	—	難波	288
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	佐 々 木 聡	2	1年次	社会福祉主事		134

後期	月	6	51676	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	—	難波	289
前期	月	3	51308	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		135
後期	水	4	53451	現代の人権	竹村和也	2	1年次	—		140
前期	金	4	55402	哲学	南昌宏	2	1年次	教免(宗教)		201
前期	火	5	52502	日本文学Ⅰ	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)		209
後期	火	5	52551	日本文学Ⅱ	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)		210
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	教職基礎		218

### 7) 書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52404	漢字Ⅱ	野田悟	2	2年次	書道師範/教免(国語)		219
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範/教免(国語)		220
通年	火	1	52105	篆刻	野田悟	2	2年次	書道師範		221
通年	火	3	52301	条幅制作A(漢字)	野田悟	2	3年次	—		224
通年	木	4	54403	条幅制作B(かな)	塩野三恵子	2	3年次	—		225
通年	金	1	55106	書道史	野田悟	2	2年次	書道師範		226

### 8) 社会福祉主事科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51208	社会保障論	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		137
後期	月	2	51256	社会福祉論	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		136

### 9) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52210	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次	—	キャリアデザインⅡ	138
後期	火	2	52255	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	1年次	—	キャリアデザインⅠ	139

### 10) 学芸員資格関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51506	生涯学習概論	櫻木潤	2	1年次	学芸員		227
前期	木	5	54503	博物館概論	坂口太郎	2	1年次	学芸員		228
後期	月	5	51553	博物館教育論	櫻木潤	2	1年次	学芸員		234

## 3 自由科目(卒業要件には参入されません)

### 1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52103	教育原論	鈴木晴久	2	1年次	教免必修/社会福祉主事		236
前期	水	2	53213	教職入門	鈴木晴久	2	1年次	教免必修		237
後期	月	3	51353	教育社会学	森本一彦	2	1年次	教免必修		238
後期	水	2	53252	教育課程論	鈴木晴久	2	1年次	教免必修		241



# 文学部目次

## H31から文学部 密教学科

「備考・履修条件」欄について  
 難波・・・難波サテライト教室にて開講  
 留学生・・・外国人留学生に限る  
 已灌頂者・・・已灌頂者に限る  
 科目名・・・科目名の書かれた科目と同年に履修すること  
 日付・・・集中講義開催日（詳細は掲示確認）

### 1 必修科目

#### [密教学科1年次履修科目]

#### 1) 「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53103	空海の思想入門A	櫻木 潤	2	1年次	—		60
前期	火	3	52326	空海の思想入門B	櫻木 潤	2	1年次	—	難波	257

#### 2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57005	導入研修	学科主任	2	1年次	—		61

#### 3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	2	51205	英語 I	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎		62
通年	火	5	52501	英語 I (再履修)	伊藤佳世子	2	2年次	—		63
通年	木	1	54105	漢文	南 昌 宏	2	1年次	—		68
通年	木	1	54106	サンスクリット語A	徳重 弘志	2	1年次	—		69
通年	金	2	55227	サンスクリット語B	前 谷 彰	2	1年次	—	難波	258

#### 4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51406	密教学基礎ゼミA1	南 昌 宏	2	1年次	—		70
後期	月	4	51456	密教学基礎ゼミA2	南 昌 宏	2	1年次	—		71
前期	月	4	51407	密教学基礎ゼミB1	櫻木 潤	2	1年次	—		72
後期	月	4	51457	密教学基礎ゼミB2	櫻木 潤	2	1年次	—		73
前期	月	4	51408	密教学基礎ゼミC1	森本 一彦	2	1年次	—		74
後期	月	4	51458	密教学基礎ゼミC2	森本 一彦	2	1年次	—		75

#### 5) 実技科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮田 永明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻 秀道	2	1年次	僧階補任		77
通年	月	1	51101	法式	加藤 善弘	2	1年次	僧階補任		78
通年	火	4	52409	布教A	近藤 堯寛	2	1年次	僧階補任		80
通年	木	3	54307	布教B (詠歌)	辻・西山・本間	2	1年次	僧階補任		79
通年	金	2	55201	漢字 I	野田 悟	2	1年次	書道師範/教免 (国語)		81
通年	木	2	54201	かな I	塩野 三恵子	2	1年次	書道師範/教免 (国語)		82

#### 6) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57006	加行 I	密教学科主任	2	1年次	—		83
通年	集中	集中	57009	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	—		132
通年	集中	集中	57008	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	—		85
前期	木	2	54212	巡礼・遍路B	川崎 一洋	2	1年次	—		86
後期	木	2	54259	巡礼・遍路C	川崎 一洋	2	1年次	—		87

[密教学科2年次履修科目]

1) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	1	51104	英語Ⅱ	伊藤佳世子	2	2年次	—		64
通年	月	5	51503	英語Ⅱ(再履修)	伊藤佳世子	2	3年次	—		65

2) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51409	密教学概論A	佐藤隆彦	2	2年次	—		88
後期	月	4	51455	密教学概論B	佐藤隆彦	2	2年次	—		89
前期	月	3	51309	密教史概説A	奥山直司	2	2年次	—		90
後期	月	3	51355	密教史概説B	櫻木潤	2	2年次	—		91
前期	水	1	53105	仏教史概説A	前谷彰	2	2年次	—		92
後期	水	1	53156	仏教史概説B	前谷彰	2	2年次	—		93
前期	金	3	55329	仏教史概説C	前谷彰	2	2年次	—	難波	259
後期	金	3	55379	仏教史概説D	前谷彰	2	2年次	—	難波	260

3) 2回生講読

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	52202	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	—		96
通年	火	2	52203	祖典講読ⅠB	土居夏樹	4	2年次	—		96
通年	月	3	51326	祖典講読ⅠC	土居夏樹	4	2年次	—	難波	261

4) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57007	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	—		84

[密教学科3年次履修科目]

1) 講読

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	3	52251	祖典講読ⅡA	土居夏樹	1	3年次	—		97
通年	水	4	53427	祖典講読ⅡE	川崎一洋	1	3年次	—	難波	264
通年	木	3	54311	宗典講読A	川崎一洋	1	3年次	—		98
通年	木	2	54207	宗典講読B	T.T <sup>*</sup> ライオン	1	3年次	—	已灌頂者	99

2) 講読演習

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	1	51152	密教学講読演習A	松長潤慶	1	3年次	学芸員		102
後期	金	4	55476	密教学講読演習G	松長潤慶	2	3年次	学芸員	難波	267
後期	水	2	53276	密教学講読演習J	乾龍仁	2	3年次	教免(宗教)	難波	268
前期	月	2	51226	密教学講読演習K	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	269
後期	月	2	51276	密教学講読演習L	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	270
後期	木	5	54551	仏教学講読演習A	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)		105
前期	木	2	54203	仏教学講読演習B	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)		106
後期	月	4	51476	仏教学講読演習C	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)	難波	271
前期	金	3	55326	仏教学講読演習F	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	272
後期	金	3	55376	仏教学講読演習G	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	273
前期	金	1	55103	真言密教講読演習D	T.T <sup>*</sup> ライオン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	109
後期	金	1	55151	真言密教講読演習E	T.T <sup>*</sup> ライオン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	110
後期	火	3	52376	真言密教講読演習F	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)	難波	274
後期	火	4	52476	真言密教講読演習G	坂口太郎	2	3年次	教免(宗教)	難波	275
後期	水	6	53677	真言密教講読演習H	北川真寛	2	3年次	教免(宗教)	難波	276
後期	月	3	51352	真言密教講読演習K	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	111

### 3) 特殊講義

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	51103	密教学特殊講義A	松 長 潤 慶	2	3年次	教免(宗教)		112
前期	火	4	52407	密教学特殊講義B	和 田 圭 子	2	3年次	学芸員		113
後期	火	4	52452	密教学特殊講義C	和 田 圭 子	2	3年次	学芸員		114
前期	木	3	54326	密教学特殊講義D	野 田 悟	2	3年次	教免(宗教)	難波	277
前期	金	4	55426	密教学特殊講義F	松 長 潤 慶	2	3年次	教免(宗教)	難波	278
前期	木	4	54426	密教学特殊講義G	野 田 悟	2	3年次	教免(宗教)	難波	279
前期	木	4	54406	仏教学特殊講義A	前 谷 彰	2	3年次	教免(宗教)		115
前期	月	4	51426	仏教学特殊講義C	岡 田 英 作	2	3年次	教免(宗教)	難波	281
前期	水	3	53326	仏教学特殊講義I	川 崎 一 洋	2	3年次	教免(宗教)	難波	280
前期	水	2	53226	仏教学特殊講義J	乾 龍 仁	2	3年次	教免(宗教)	難波	282
前期	月	1	51102	真言密教特殊講義A	中 西 雄 泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	116
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義B	中 西 雄 泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	117
前期	金	2	55203	真言密教特殊講義C	土 居 夏 樹	2	3年次	教免(宗教)		118
前期	金	2	55204	真言密教特殊講義D	T.T'ライオン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	119
後期	金	2	55252	真言密教特殊講義E	T.T'ライオン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	120
後期	金	2	55253	真言密教特殊講義J	土 居 夏 樹	2	3年次	教免(宗教)		121
前期	月	3	51305	真言密教特殊講義M	佐 藤 隆 彦	2	3年次	教免(宗教)		122
前期	水	6	53627	真言密教特殊講義G	北 川 真 寛	2	3年次	教免(宗教)	難波	283
後期	水	3	53376	真言密教特殊講義L	川 崎 一 洋	2	3年次	教免(宗教)	難波	284

### 4) 演習

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53202	密教学演習C	前 谷 彰	2	3・4年次	-		124
通年	水	2	53203	密教学演習D	櫻 木 潤	2	3・4年次	-		125
通年	水	2	53204	密教学演習E	土 居 夏 樹	2	3・4年次	-		126
通年	水	2	53205	密教学演習F	松 長 潤 慶	2	3・4年次	-		127
通年	月	2	51227	密教学演習I	土 居 夏 樹	2	3年次	-	難波	285
通年	水	2	53206	密教学演習K	溝 端 悠 朗	2	3・4年次	-		129

## 2 選択科目

### 1) 他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	佐々木 聡	2	1年次	社会福祉主事		133
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	佐々木 聡	2	1年次	社会福祉主事		134
前期	月	6	51626	心理学ⅠB	上野和久	2	1年次	-	難波	288
後期	月	6	51676	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	-	難波	289
前期	月	3	51308	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		135
後期	月	2	51256	社会福祉論	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		136
前期	月	2	51208	社会保障論	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		137
前期	火	2	52210	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次	-	キャリアデザインⅡ	138
後期	火	2	52255	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	1年次	-	キャリアデザインⅠ	139
前期	火	4	52413	キャリアデザインⅢ	高田綾子	2	2年次	-	キャリアデザインⅣ	149
後期	火	4	52457	キャリアデザインⅣ	高田綾子	2	2年次	-	キャリアデザインⅢ	150
前期	火	3	52309	キャリアデザインⅤ	高田綾子	2	3年次	-	キャリアデザインⅥ	164
後期	火	3	52355	キャリアデザインⅥ	高田綾子	2	3年次	-	キャリアデザインⅤ	165
前期	火	4	52414	教養講義(数的処理)	木地茂典	2	1年次	-		143
後期	火	4	52455	教養講義(自然科学)	木地茂典	2	1年次	-		144
前期	木	1	54108	教養講義(社会科学)	森本一彦	2	1年次	-		141
後期	水	4	53453	教養講義(人権論)	竹村和也	2	1年次	-		140
後期	木	1	54156	教養講義(人文科学)	鈴木晴久	2	1年次	-		142
通年	木	3	54308	人間学実習(社会調査)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		151

後期	集中	集中	57088	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ）	橋本久仁彦	2	2年次	—	難波	290
後期	集中	集中	57089	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅱ）	橋本久仁彦	2	2年次	—	難波	291
前期	月	2	51206	人間学専門講義（社会調査入門）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		153
後期	月	2	51255	人間学専門講義（社会調査方法論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		154
前期	火	3	52310	人間学専門講義（カウンセリング論A）	上野和久	2	2年次	—		152
後期	火	3	52356	人間学専門講義（発達心理学A）	上野和久	2	2年次	—		158
前期	水	1	53108	人間学専門講義（情報リテラシー論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		155
後期	水	1	53155	人間学専門講義（質の調査論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		162
後期	木	1	54157	人間学専門講義（基礎統計学）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		161
前期	木	2	54210	人間学専門講義（悲嘆学A）	森崎雅好	2	2年次	—		159
後期	木	2	54257	人間学専門講義（自殺学A）	森崎雅好	2	2年次	—		160
前期	木	4	54410	人間学専門講義（地域連携）	森本一彦	2	2年次	—		157
前期	金	4	55403	人間学専門講義（地域産業論）	鈴木裕範	2	2年次	—		156
前期	月	7	51727	人間学専門講義（発達心理学B）	小林奈緒美	2	2年次	—	難波	305
後期	月	7	51777	人間学専門講義（家族心理学）	小林奈緒美	2	2年次	—	難波	295
前期	火	6	52627	人間学専門講義（悲嘆学E）	森崎雅好	2	2年次	—	難波	312
後期	火	6	52677	人間学専門講義（深層心理学）	森崎雅好	2	2年次	—	難波	313
前期	水	6	53628	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）	木下忠恭	2	2年次	—	難波	301
後期	水	6	53678	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）	木下忠恭	2	2年次	—	難波	302
前期	水	7	53727	人間学専門講義（福祉心理学）	森崎雅好	2	2年次	—	難波	316
前期	木	6	54627	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）	大河内大博	2	2年次	—	難波	314
後期	木	6	54677	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）	大河内大博	2	2年次	—	難波	315
前期	木	7	54727	人間学専門講義（宗教学入門）	小田龍哉	2	2年次	—	難波	310
後期	木	7	54777	人間学専門講義（世俗主義と宗教）	小田龍哉	2	2年次	—	難波	311
前期	金	6	55628	人間学専門講義（心理統計学）	五明優介	2	2年次	—	難波	304
後期	金	6	55678	人間学専門講義（心理測定法）	五明優介	2	2年次	—	難波	303
前期	金	7	55727	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）	五明優介	2	2年次	—	難波	299
後期	金	7	55777	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）	五明優介	2	2年次	—	難波	300
前期	土	1	56029	人間学専門講義（カウンセリング論B）	佐々木聡	2	2年次	—	難波	292
後期	土	1	56079	人間学専門講義（社会心理学）	松下歩陸	2	2年次	—	難波	298
前期	土	2	56030	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅠB）	山添正	2	2年次	—	難波	306
後期	土	2	56080	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡB）	山添正	2	2年次	—	難波	307
前期	土	4	56031	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）	山本和美	2	2年次	—	難波	308
後期	土	4	56081	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）	森崎雅好	2	2年次	—	難波	309
後期	集中	集中	57086	人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）	窪寺俊之	2	2年次	—	難波	293
後期	集中	集中	57087	人間学専門講義（死生観B）	山本佳世子	2	2年次	—	難波	297
後期	集中	集中	57090	人間学専門講義（もの語り心理学）	やまだようこ	2	2年次	—	難波	294
後期	集中	集中	57091	人間学専門講義（学校心理学）	佐々木聡	2	2年次	—	難波	296
後期	集中	集中	57092	人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ）	森崎雅好	2	3年次	—	難波	317
通年	実習	実習	58031	人間学実践演習（臨床実習Ⅰ）	森崎雅好	2	3年次	—	難波	319
通年	実習	実習	58032	人間学実践演習（臨床実習Ⅲ）	森崎雅好	2	3年次	—	難波	321
通年	実習	実習	58033	人間学実践演習（臨床実習Ⅳ）	川口道雄	2	3年次	—	難波	322

## 2) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52504	総合科目（テベット仏教入門ⅠB）	テンジン・ウセル	2	1年次	—		174
後期	火	5	52552	総合科目（テベット仏教入門ⅡB）	テンジン・ウセル	2	1年次	—		175
前期	金	6	55627	総合科目（テベット仏教入門ⅠA）	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	326
後期	金	6	55677	総合科目（テベット仏教入門ⅡA）	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	327

### 3) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51410	企画科目（日本文化）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	168
後期	月	4	51460	企画科目（日本社会）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	169
通年	月	4	51413	企画科目（英会話）	亀位卓阿	2	1年次	—		163
通年	火	4	52403	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	1年次	学芸員		176
前期	水	3	53302	企画科目（寺院経営講座）	加賀博	2	1年次	—		177
通年	木	4	54402	企画科目（日本語留学生中級A）	廣田恵美子	2	1年次	—	留学生	180
通年	木	5	54501	企画科目（日本語留学生上級A）	廣田恵美子	2	1年次	—	留学生	178
通年	月	3	51302	企画科目（日本語留学生中級B）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	181
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級B）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	179
後期	集中	集中	57051	企画科目（密教瞑想）	佐藤隆彦	2	1年次	—		329

### 4) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	54401	チベット語A	テンジン・ウセル	2	2年次	—		182
通年	金	5	55526	チベット語B	テンジン・ウセル	2	2年次	—	難波	330
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	—		183
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	—		184

### 5) 僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	55301	声明上級	辻秀道	2	2年次	—		185
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋藤天譽	2	1年次	—		186
通年	水	3	53327	梵字悉曇C	乾龍仁	2	1年次	—	難波	331

### 6) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54304	体育実技	今井邦夫	2	1年次	教職基礎		187
通年	火	3	52302	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		188
通年	火	4	52410	伝統文化（華道）	五味和樹	2	1年次	—		189
通年	水	3	53303	伝統文化（茶道）	岡本文音	2	1年次	—		173
通年	月	3	51306	宗教芸能（宗教舞踊）	高祖・辻	2	1年次	—		190

### 7) 古文書学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	53225	歴史学	坂口太郎	2	2年次	学芸員		191
前期	水	1	53106	書誌学	坂口太郎	2	3年次	学芸員		192
後期	水	1	53157	古文書学	坂口太郎	2	3年次	学芸員		193
後期	水	2	53253	古文書解説A	坂口太郎	2	2年次	学芸員		194
前期	火	4	52427	古文書解説B	坂口太郎	2	2年次	—	難波	328

### 8) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55205	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		195
後期	金	2	55254	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		196
後期	金	4	55451	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	1年次	教免（宗教）		197
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥山直司	2	1年次	—	難波	332
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻木潤	2	1年次	教免（宗教）		198
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	学芸員		199
後期	金	1	55152	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	学芸員		200
前期	金	4	55402	哲学	南昌宏	2	1年次	教免（宗教）		201
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	教免（宗教）		202
前期	金	3	55303	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	教免（国語）		203

後期	金	3	55352	国語学Ⅱ	上田 恭 寿	2	2年次	教免(国語)		204
前期	月	4	51403	国文法Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)		205
後期	月	4	51454	国文法Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)		206
前期	月	5	51502	日本文学概論Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	—		211
後期	月	5	51551	日本文学概論Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	—		212
前期	火	4	52408	日本文学史概説Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)		207
後期	火	4	52454	日本文学史概説Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)		208
前期	火	5	52502	日本文学Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)		209
後期	火	5	52551	日本文学Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)		210
前期	木	3	54305	漢文学概論Ⅰ	南 昌 宏	2	2年次	教免(国語)		213
後期	木	3	54352	漢文学概論Ⅱ	南 昌 宏	2	2年次	教免(国語)		214
後期	月	3	51354	日本文化特殊講義A	溝 端 悠 朗	2	3年次	学芸員		215
後期	金	3	55351	日本文化特殊講義C	坂 口 太 郎	2	3年次	—		216
後期	水	1	53154	中国文化講読演習A	野 田 悟	2	3年次	—		217
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1年次	教職基礎		218

### 9) 書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52404	漢字Ⅱ	野 田 悟	2	2年次	書道師範/教免(国語)		219
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩 野 三 恵 子	2	2年次	書道師範/教免(国語)		220
通年	火	1	52105	篆刻	野 田 悟	2	2年次	書道師範		221
通年	火	3	52301	条幅制作A(漢字)	野 田 悟	2	3年次	—		224
通年	木	4	54403	条幅制作B(かな)	塩 野 三 恵 子	2	3年次	—		225
通年	金	1	55106	書道史	野 田 悟	4	2年次	書道師範		226

### 10) 学芸員資格関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51506	生涯学習概論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		227
前期	木	5	54503	博物館概論	坂 口 太 郎	2	1年次	学芸員		228
前期	水	4	53405	博物館経営論	内 藤 栄	2	2年次	学芸員		229
前期	金	3	55309	博物館資料論	坂 口 太 郎	2	2年次	学芸員		230
後期	木	3	54354	博物館資料保存論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		231
後期	集中	集中	57055	博物館展示論	山 口 隆 介	2	2年次	学芸員		232
前期	木	3	54313	博物館情報・メディア論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		233
後期	月	5	51553	博物館教育論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		234
通年	実習	実習	58004	博物館実習	櫻 木・坂 口	3	3年次	学芸員		235

## 3 自由科目(卒業要件には参入されません)

### 1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52103	教育原論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修/社会福祉主事		236
前期	水	2	53213	教職入門	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		237
通年	集中	集中	57010	特別支援教育	宮 本 直 美	1	2年次	教免必修	未定	239
後期	木	1	54154	教育心理学	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		240
後期	月	3	51353	教育社会学	森 本 一 彦	2	1年次	教免必修		238
後期	水	2	53252	教育課程論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		241
前期	木	1	54109	道徳教育指導論	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		242
後期	火	1	52153	総合的な学習の時間・特別活動	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免必修		243
前期	木	2	54205	教育方法論	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		244
後期	木	2	54254	生徒指導・進路指導	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		245
前期	金	3	55304	教育相談	佐 々 木 聡	2	3年次	教免必修		246
前期	月	2	51202	宗教科教育法Ⅰ	松 長 潤 慶	2	2年次	教免(宗教)		247
後期	月	2	51251	宗教科教育法Ⅱ	松 長 潤 慶	2	2年次	教免(宗教)		248
前期	火	5	52503	宗教科教育法Ⅲ	岡 田 英 作	2	3年次	教免(宗教)		249

後期	火	4	52459	宗教科教育法Ⅳ	富田 向真	2	3年次	教免(宗教)		250
前期	火	3	52306	国語科教育法Ⅰ	鈴木 晴久	2	2年次	教免(国語)		251
後期	火	3	52354	国語科教育法Ⅱ	鈴木 晴久	2	2年次	教免(国語)		252
前期	火	2	52206	国語科教育法Ⅲ	溝端 悠朗	2	3年次	教免(国語)		253
後期	金	4	55452	国語科教育法Ⅳ	南 昌宏	2	3年次	教免(国語)		254
前期	実習	実習	58001	教育実習Ⅰ	鈴木・佐々木	2	3年次	教免必修		—
前期	木	4	54405	教育実習の研究	鈴木・佐々木	1	3年次	教免必修		255

## H30まで文学部 密教学科

### 1 必修科目

#### [密教学科1年次履修科目]

##### 1) 「建学の精神」科目 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53103	空海の思想入門A	櫻木 潤	2	1年次	—		60
前期	火	3	52326	空海の思想入門B	櫻木 潤	2	1年次	—	難波	257

##### 2) 語学科目 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52501	英語Ⅰ (再履修)	伊藤佳世子	2	2年次	教職基礎		63

##### 3) 古典語 (2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	54102	漢文Ⅰ	南 昌 宏	2	1年次	—		66
後期	木	1	54151	漢文Ⅱ	南 昌 宏	2	1年次	—		67

#### [密教学科2年次履修科目]

##### 1) 語学科目 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	5	51503	英語Ⅱ (再履修)	伊藤佳世子	2	3年次	教職基礎		65

##### 2) 講義Ⅰ (2+2+2+2+2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51401	密教学概論ⅠA	佐藤隆彦	2	2年次	—		88
後期	月	4	51451	密教学概論ⅡB	佐藤隆彦	2	2年次	—		89
前期	月	3	51304	密教史概説ⅠA	奥山直司	2	2年次	—		90
後期	月	3	51351	密教史概説ⅡB	櫻木 潤	2	2年次	—		91
前期	水	1	53101	仏教史概説ⅠA	前谷 彰	2	2年次	—		92
後期	水	1	53152	仏教史概説ⅡB	前谷 彰	2	2年次	—		93
前期	金	3	55327	仏教史概説ⅠC	前谷 彰	2	2年次	—	難波	259
後期	金	3	55377	仏教史概説ⅡD	前谷 彰	2	2年次	—	難波	260

##### 3) 2回生講読 (2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52202	祖典講読ⅠA	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		94
前期	火	2	52203	祖典講読ⅠB	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		94
前期	月	3	51326	祖典講読ⅠC	土居夏樹	2	2年次	—	難波	262
後期	火	2	52251	祖典講読ⅡA	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		95
後期	火	2	52252	祖典講読ⅡB	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		95
後期	月	3	51376	祖典講読ⅡC	土居夏樹	2	2年次	—	難波	263

#### [密教学科3年次履修科目]

##### 1) 3回生講読 (2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	3	52303	祖典講読ⅢA	土居夏樹	2	3年次	—		100
前期	水	4	53426	祖典講読ⅢE	川崎一洋	2	3年次	—	難波	265
後期	火	3	52351	祖典講読ⅣA	土居夏樹	2	3年次	—		101
後期	水	4	53476	祖典講読ⅣE	川崎一洋	2	3年次	—	難波	266



2) 講読演習 (2+2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	1	51152	密教学講読演習A	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)		102
後期	金	4	55476	密教学講読演習G	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)	難波	267
前期	木	3	54306	密教学講読演習H	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)		103
後期	木	3	54351	密教学講読演習I	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)		104
後期	水	2	53276	密教学講読演習J	乾龍仁	2	3年次	教免(宗教)	難波	268
前期	月	2	51226	密教学講読演習K	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	269
後期	月	2	51276	密教学講読演習L	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	270
後期	木	5	54551	仏教学講読演習A	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)		105
前期	木	2	54203	仏教学講読演習B	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)		106
後期	月	4	51476	仏教学講読演習C	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)	難波	271
前期	金	3	55326	仏教学講読演習F	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	272
後期	金	3	55376	仏教学講読演習G	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	273
前期	木	2	54202	真言密教講読演習B	T.ト`ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	107
後期	木	2	54251	真言密教講読演習C	T.ト`ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	108
前期	金	1	55103	真言密教講読演習D	T.ト`ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	109
後期	金	1	55151	真言密教講読演習E	T.ト`ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	110
後期	火	3	52376	真言密教講読演習F	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)	難波	274
後期	火	4	52476	真言密教講読演習G	坂口太郎	2	3年次	教免(宗教)	難波	275
後期	水	6	53677	真言密教講読演習H	北川真寛	2	3年次	教免(宗教)	難波	276
後期	月	3	51352	真言密教講読演習K	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	111

3) 講義II (2+2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	51103	密教学特殊講義A	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)		112
前期	火	4	52407	密教学特殊講義B	和田圭子	2	3年次	教免(宗教)		113
後期	火	4	52452	密教学特殊講義C	和田圭子	2	3年次	教免(宗教)		114
前期	木	3	54326	密教学特殊講義D	野田悟	2	3年次	教免(宗教)	難波	277
前期	金	4	55426	密教学特殊講義F	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)	難波	278
前期	木	4	54426	密教学特殊講義G	野田悟	2	3年次	教免(宗教)	難波	279
前期	木	4	54406	仏教学特殊講義A	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)		115
前期	月	4	51426	仏教学特殊講義C	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)	難波	281
前期	水	3	53326	仏教学特殊講義I	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)	難波	280
前期	水	2	53226	仏教学特殊講義J	乾龍仁	2	3年次	教免(宗教)	難波	282
前期	月	1	51102	真言密教特殊講義A	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	116
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義B	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	117
前期	金	2	55203	真言密教特殊講義C	土居夏樹	2	3年次	教免(宗教)		118
前期	金	2	55204	真言密教特殊講義D	T.ト`ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	119
後期	金	2	55252	真言密教特殊講義E	T.ト`ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	120
後期	金	2	55253	真言密教特殊講義J	土居夏樹	2	3年次	教免(宗教)		121
前期	月	3	51305	真言密教特殊講義M	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)		122
前期	水	6	53627	真言密教特殊講義G	北川真寛	2	3年次	教免(宗教)	難波	283
後期	水	3	53376	真言密教特殊講義L	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)	難波	284

#### 4) 演習Ⅰ (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53202	密教学演習C	前 谷 彰	4	3・4年次	—		124
通年	水	2	53203	密教学演習D	櫻 木 潤	4	3・4年次	—		125
通年	水	2	53204	密教学演習E	土 居 夏 樹	4	3・4年次	—		126
通年	水	2	53205	密教学演習F	松 長 潤 慶	4	3・4年次	—		127
通年	月	2	51204	密教学演習H	南 昌 宏	4	4年次	—		128
通年	木	2	54226	密教学演習J	奥 山 直 司	4	4年次	—	難波	286
通年	水	2	53206	密教学演習K	溝 端 悠 朗	4	3年次	—		129
通年	火	2	52226	密教学演習L	櫻 木 潤	4	4年次	—	難波	287

#### [密教学科4年次履修科目]

##### 1) 演習Ⅱ (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53201	密教学演習B	奥 山 直 司	4	4年次	—		123
通年	水	2	53202	密教学演習C	前 谷 彰	4	3・4年次	—		124
通年	水	2	53203	密教学演習D	櫻 木 潤	4	3・4年次	—		125
通年	水	2	53204	密教学演習E	土 居 夏 樹	4	3・4年次	—		126
通年	水	2	53205	密教学演習F	松 長 潤 慶	4	3・4年次	—		127
通年	月	2	51204	密教学演習H	南 昌 宏	4	4年次	—		128
通年	木	2	54226	密教学演習J	奥 山 直 司	4	4年次	—	難波	286
通年	火	2	52226	密教学演習L	櫻 木 潤	4	4年次	—	難波	287

##### 2) 卒業論文 (8)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	論文	論文	59001	密教学科卒業論文	密教学科主任	2	4年次	—		—
通年	論文	論文	59003	密教学科卒業論文 (前期)	密教学科主任	2	4年次	—	7月提出許可者	—

## 2 選択科目

### 1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	水	1	53153	総合科目 (古文書学)	坂 口 太 郎	2	3年次	—		193
前期	水	1	53102	総合科目 (書誌学)	坂 口 太 郎	2	3年次	—		192
前期	火	5	52504	総合科目 (チベット仏教入門ⅠB)	テンジン・ウセル	2	1年次	—		174
後期	火	5	52552	総合科目 (チベット仏教入門ⅡB)	テンジン・ウセル	2	1年次	—		175
前期	金	6	55627	総合科目 (チベット仏教入門ⅠA)	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	326
後期	金	6	55677	総合科目 (チベット仏教入門ⅡA)	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	327

### 2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51201	企画科目 (社会調査入門)	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		153
後期	月	2	51252	企画科目 (社会調査方法論)	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		154
通年	月	3	51301	企画科目 (宗教舞踊)	高 祖 ・ 辻	2	1年次	—		190
前期	火	3	52305	企画科目 (カウンセリング論A)	上 野 和 久	2	2年次	—		152
後期	火	3	52353	企画科目 (発達心理学A)	上 野 和 久	2	2年次	—		158
通年	火	4	52402	企画科目 (華道)	五 味 和 樹	2	1年次	—		189
通年	火	4	52403	企画科目 (仏画)	有 松 孝 雄	2	1年次	—		176
前期	水	1	53104	企画科目 (情報リテラシー論)	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		155
後期	水	1	53151	企画科目 (質的調査論)	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		162
前期	水	2	53212	企画科目 (歴史学)	坂 口 太 郎	2	2年次	—		191
後期	水	2	53251	企画科目 (古文書解読A)	坂 口 太 郎	2	2年次	—		194
前期	水	3	53302	企画科目 (寺院経営講座)	加 賀 博	2	1年次	—		177
後期	木	1	54153	企画科目 (基礎統計学)	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		161
通年	木	3	54301	企画科目 (詠歌)	辻・西山・本間	2	1年次	—		79

前期	木	4	54404	企画科目(地域連携)	森本一彦	2	2年次	-		157
通年	金	3	55301	企画科目(声明上級)	辻秀道	2	2年次	-		185
前期	金	4	55401	企画科目(地域産業論)	鈴木裕範	2	2年次	-		156
後期	火	2	52253	企画科目(キャリアカウンセリング I-2)	高田綾子	2	1年次	-	キャリアカウンセリングI-1	139
後期	火	4	52453	企画科目(キャリアカウンセリング II-2)	高田綾子	2	2年次	-	キャリアカウンセリングII-1	150
後期	火	3	52352	企画科目(キャリアカウンセリング III-2)	高田綾子	2	3年次	-	キャリアカウンセリングIII-1	165
通年	集中	集中	57004	企画科目(ボランティア)	人間学科主任	2	1年次	-		132
通年	集中	集中	57001	企画科目(加行I)	密教学科主任	1	1年次	-		83
通年	集中	集中	57002	企画科目(加行II)	密教学科主任	1	2年次	-		84
通年	集中	集中	57003	企画科目(巡礼・遍路A)	密教学科主任	2	1年次	-		85
前期	木	2	54206	企画科目(巡礼・遍路B)	川崎一洋	2	1年次	-		86
後期	木	2	54255	企画科目(巡礼・遍路C)	川崎一洋	2	1年次	-		87
通年	木	4	54402	企画科目(日本語留学生中級A)	廣田恵美子	2	1年次	-	留学生	180
通年	木	5	54501	企画科目(日本語留学生上級A)	廣田恵美子	2	1年次	-	留学生	178
通年	月	3	51302	企画科目(日本語留学生中級B)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	181
通年	月	5	51501	企画科目(日本語留学生上級B)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	179
後期	月	7	51776	企画科目(家族心理学)	小林奈緒美	2	3年次	-	難波	295
前期	月	7	51726	企画科目(発達心理学B)	小林奈緒美	2	3年次	-	難波	305
前期	火	4	52426	企画科目(古文書解読B)	坂口太郎	2	3年次	-	難波	328
前期	水	6	53626	企画科目(心理検査法演習I)	木下忠恭	2	3年次	-	難波	301
後期	水	6	53676	企画科目(心理検査法演習II)	木下忠恭	2	3年次	-	難波	302
前期	水	7	53726	企画科目(福祉心理学)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	316
後期	金	6	55676	企画科目(心理測定法)	五明優介	2	2年次	-	難波	303
前期	金	6	55626	企画科目(心理統計学)	五明優介	2	2年次	-	難波	304
前期	金	7	55726	企画科目(心理学基礎実験演習I)	五明優介	2	3年次	-	難波	299
後期	金	7	55776	企画科目(心理学基礎実験演習II)	五明優介	2	3年次	-	難波	300
前期	土	1	56026	企画科目(カウンセリング論B)	佐々木聡	2	3年次	-	難波	292
後期	土	1	56076	企画科目(社会心理学)	松下歩睦	2	2年次	-	難波	298
前期	土	2	56027	企画科目(臨床心理学面接演習I B)	山添正	2	2年次	-	難波	306
後期	土	2	56077	企画科目(臨床心理学面接演習II B)	山添正	2	2年次	-	難波	307
前期	土	4	56028	企画科目(臨床心理学面接演習III)	山本和美	2	2年次	-	難波	308
後期	土	4	56078	企画科目(臨床心理学面接演習IV)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	309
通年	実習	実習	58026	企画科目(臨床実習I)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	319
通年	実習	実習	58027	企画科目(臨床実習II)	森崎雅好	2	4年次	-	難波	320
通年	実習	実習	58028	企画科目(臨床実習III)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	321
通年	実習	実習	58029	企画科目(臨床実習IV)	川口道雄	2	3年次	-	難波	322
通年	実習	実習	58030	企画科目(臨床実習V)	川口道雄	2	4年次	-	難波	323
後期	集中	集中	57079	企画科目(コミュニケーション演習I)	橋本久仁彦	2	2年次	-	難波	290
後期	集中	集中	57080	企画科目(コミュニケーション演習II)	橋本久仁彦	2	2年次	-	難波	291
後期	集中	集中	57077	企画科目(スピリチュアルケア概論)	窪寺俊之	2	2年次	-	難波	293
後期	集中	集中	57082	企画科目(学校心理学)	佐々木聡	2	2年次	-	難波	296
後期	集中	集中	57081	企画科目(もの語り心理学)	やまだようこ	2	2年次	-	難波	294
後期	集中	集中	57078	企画科目(死生観B)	山本佳世子	2	2年次	-	難波	297
後期	集中	集中	57083	企画科目(聖地巡礼I)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	317
後期	集中	集中	57084	企画科目(聖地巡礼II)	森崎雅好	2	4年次	-	難波	318
後期	集中	集中	57051	企画科目(密教瞑想)	佐藤隆彦	2	1年次	-		329

### 3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	1	54101	サンスクリット語ⅠA	徳重弘志	2	1年次	—		69
通年	金	2	55226	サンスクリット語ⅠB	前谷彰	2	1年次	—	難波	258
通年	木	4	54401	チベット語A	テンジン・ウセル	2	2年次	—		182
通年	金	5	55526	チベット語B	テンジン・ウセル	2	2年次	—	難波	330
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	—		183
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	—		184

### 4) 健康実技

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54304	体育実技	今井邦夫	2	1年次	教職基礎		187

### 5) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	4	55451	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	1年次	—		197
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥山直司	2	1年次	—	難波	332
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻木潤	2	1年次	—		198
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		133
前期	月	6	51626	心理学ⅠB	上野和久	2	1年次	—	難波	288
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		134
後期	月	6	51676	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	—	難波	289
前期	月	3	51303	社会学Ⅰ	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		135
前期	火	5	52502	日本文学Ⅰ	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)		209
後期	火	5	52551	日本文学Ⅱ	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)		210
前期	月	4	51403	国文法Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		205
後期	月	4	51454	国文法Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		206
前期	金	3	55303	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	教免(国語)		203
後期	金	3	55352	国語学Ⅱ	上田恭寿	2	2年次	教免(国語)		204
後期	水	4	53451	現代の人権	竹村和也	2	1年次	—		140
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	教職基礎		218
通年	火	3	52302	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		188
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋藤天譽	2	1年次	—		186
通年	水	3	53327	梵字悉曇C	乾龍仁	2	1年次	—	難波	331

### 6) 教学実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮田永明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻秀道	2	1年次	僧階補任		77
通年	月	1	51101	法式	加藤善弘	2	1年次	僧階補任		78
通年	火	4	52401	布教	近藤堯寛	2	1年次	僧階補任		80

### 7) 教育職員免許状関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55205	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	1年次	教免(宗教)		195
後期	金	2	55254	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	1年次	教免(宗教)		196
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		199
後期	金	1	55152	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		200
前期	金	4	55402	哲学	南昌宏	2	1年次	—		201
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	教免(宗教)		202
前期	月	5	51502	日本文学概説Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		211
後期	月	5	51551	日本文学概説Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		212
前期	火	4	52408	日本文学史概説Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		207
後期	火	4	52454	日本文学史概説Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		208

前期	木	3	54305	漢文学概論Ⅰ	南 昌 宏	2	2年次	教免(国語)		213
後期	木	3	54352	漢文学概論Ⅱ	南 昌 宏	2	2年次	教免(国語)		214
後期	月	3	51354	日本文化特殊講義A	溝 端 悠 朗	2	3年次	教免(国語)		215
後期	金	3	55351	日本文化特殊講義C	坂 口 太 郎	2	3年次	教免(国語)		216
後期	水	1	53154	中国文化講義演習A	野 田 悟	2	3年次	教免(国語)		217

#### 8) 書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田 悟	2	1年次	書道師範/教免(国語)		81
通年	火	4	52404	漢字Ⅱ	野 田 悟	2	2年次	書道師範/教免(国語)		219
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩 野 三 恵 子	2	1年次	書道師範/教免(国語)		82
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩 野 三 恵 子	2	2年次	書道師範/教免(国語)		220
前期	火	1	52102	篆刻Ⅰ	野 田 悟	2	3年次	書道師範		222
後期	火	1	52151	篆刻Ⅱ	野 田 悟	2	3年次	書道師範		223
通年	火	3	52301	条幅制作A(漢字)	野 田 悟	2	3年次	—		224
通年	木	4	54403	条幅制作B(かな)	塩 野 三 恵 子	2	3年次	—		225
通年	金	1	55102	書道史(日本)	野 田 悟	2	2年次	書道師範		226

#### 9) 社会福祉主事関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	51253	社会福祉各論Ⅰ(地域福祉Ⅰ)	城 内 龍 玄	2	2年次	社会福祉主事		136
前期	月	2	51203	社会保障総論Ⅰ	城 内 龍 玄	2	1年次	社会福祉主事		137

#### 10) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52204	キャリアカウンセリングⅠ-1	高 田 綾 子	2	1年次	—	企画科目(キャリアカウンセリングⅠ-2)	138
前期	火	4	52405	キャリアカウンセリングⅡ-1	高 田 綾 子	2	2年次	—	企画科目(キャリアカウンセリングⅡ-2)	149
前期	火	3	52304	キャリアカウンセリングⅢ-1	高 田 綾 子	2	3年次	—	企画科目(キャリアカウンセリングⅢ-2)	164

#### 11) 他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	54103	人間学概論Ⅰ	森 本 一 彦	2	2年次	—		141
後期	木	1	54152	人間学概論Ⅱ	鈴 木 晴 久	2	2年次	—		142
通年	水	3	53301	伝統文化実習(茶道)	岡 本 文 音	2	2年次	—		173
通年	木	3	54302	伝統文化実習(民俗調査)	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		151
通年	月	4	51405	英語Ⅲ	亀 位 卓 阿	2	3年次	—		163
前期	月	4	51404	人間学基礎ゼミⅠA	森 本 一 彦	2	1年次	—		130
後期	月	4	51452	人間学基礎ゼミⅡA	森 本 一 彦	2	1年次	—		131
前期	火	2	52205	人間学基礎ゼミⅢA	上 野 和 久	2	2年次	—		145
後期	火	2	52254	人間学基礎ゼミⅣA	上 野 和 久	2	2年次	—		147
前期	水	4	53402	人間学基礎ゼミⅢB	廣 田 恵 美 子	2	2年次	—	留学生	146
後期	水	4	53452	人間学基礎ゼミⅣB	廣 田 恵 美 子	2	2年次	—	留学生	148
前期	木	2	54204	人間学特殊ゼミⅠA(悲嘆学)	森 崎 雅 好	2	3年次	—		159
前期	月	4	51402	人間学特殊ゼミⅠB(日本文化)	松 本 貴 子	2	3年次	—	留学生	168
前期	木	7	54726	人間学特殊ゼミⅠD(宗教学入門)	小 田 龍 哉	2	3年次	—	難波	310
前期	火	6	52626	人間学特殊ゼミⅠE(悲嘆学)	森 崎 雅 好	2	3年次	—	難波	312
前期	木	6	54626	人間学特殊ゼミⅠF(スピリチュアルケア演習Ⅰ)	大 河 内 大 博	2	3年次	—	難波	314
後期	木	2	54253	人間学特殊ゼミⅡA(自殺学)	森 崎 雅 好	2	3年次	—		160
後期	月	4	51453	人間学特殊ゼミⅡB(日本社会)	松 本 貴 子	2	3年次	—	留学生	169
後期	木	7	54776	人間学特殊ゼミⅡD(世俗主義と宗教)	小 田 龍 哉	2	3年次	—	難波	311
後期	火	6	52676	人間学特殊ゼミⅡE(深層心理学)	森 崎 雅 好	2	3年次	—	難波	313
後期	木	6	54676	人間学特殊ゼミⅡF(スピリチュアルケア演習Ⅱ)	大 河 内 大 博	2	3年次	—	難波	315

### 3 自由科目（卒業要件には参入されません）

#### 1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	53213	教職入門	鈴木晴久	2	1年次	教免必修		237
前期	火	1	52103	教育原論	鈴木晴久	2	1年次	教免必修/社会福祉主事		236
後期	木	1	54154	教育心理学	佐々木聡	2	2年次	教免必修		240
後期	月	3	51353	教育社会学	森本一彦	2	1年次	教免必修		238
後期	水	2	53252	教育課程論	鈴木晴久	2	1年次	教免必修		241
前期	月	2	51202	宗教科教育法Ⅰ	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		247
後期	月	2	51251	宗教科教育法Ⅱ	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		248
前期	火	5	52503	宗教科教育法Ⅲ	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)		249
前期	火	3	52306	国語科教育法Ⅰ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		251
後期	火	3	52354	国語科教育法Ⅱ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		252
前期	火	2	52206	国語科教育法Ⅲ	溝端悠朗	2	3年次	教免(国語)		253
後期	金	4	55452	国語科教育法Ⅳ	南昌宏	2	3年次	教免(国語)		254
前期	木	2	54205	教育方法論	佐々木聡	2	2年次	教免必修		244
前期	木	1	54104	道德教育の研究	佐々木聡	2	2年次	教免必修		242
後期	火	1	52152	特別教育活動指導	鈴木晴久	2	2年次	教免必修		243
後期	木	2	54254	生徒指導・進路指導	佐々木聡	2	2年次	教免必修		245
前期	金	3	55304	教育相談	佐々木聡	2	3年次	教免必修		246
後期	木	4	54452	教職実践演習(中・高)	鈴木・佐々木	2	4年次	教免必修		256
前期	実習	実習	58001	教育実習Ⅰ	鈴木・佐々木	2	3年次	教免必修		—
前期	実習	実習	58002	教育実習Ⅱ	鈴木・佐々木	2	4年次	教免必修		—
前期	木	4	54405	教育実習の研究	鈴木・佐々木	1	3・4年次	教免必修		255

#### 2) 他学科演習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53207	人間学演習ⅠA	森本一彦	4	3年次	—		170
通年	水	2	53209	人間学演習ⅠF	溝端悠朗	4	3年次	—		172
通年	火	7	52726	人間学演習ⅠC(臨床心理学演習)	上野・森崎	4	3年次	—	難波	324
通年	水	2	53210	人間学演習ⅡA	森本一彦	4	4年次	—		170
通年	水	2	53211	人間学演習ⅡB	上野和久	4	4年次	—		171
通年	火	7	52727	人間学演習ⅡC(臨床心理学演習)	上野・森崎	4	4年次	—	難波	325
通年	水	2	53208	人間学演習ⅡF	溝端悠朗	4	4年次	—		172

# H31から文学部 人間学科

## 1 必修科目

### [人間学科1年次履修科目]

#### 1) 「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53103	空海の思想入門A	櫻木 潤	2	1年次	—		60
前期	火	3	52326	空海の思想入門B	櫻木 潤	2	1年次	—	難波	257

#### 2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57005	導入研修	学科主任	2	1年次	—		61

#### 3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	2	51205	英語 I	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎		62
通年	火	5	52501	英語 I (再履修)	伊藤佳世子	2	2年次	—		63

#### 4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51404	人間学基礎ゼミ I A	森本一彦	2	1年次	—		130
後期	月	4	51452	人間学基礎ゼミ II A	森本一彦	2	1年次	—		131

#### 5) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55202	心理学 I A	佐々木 聡	2	1年次	社会福祉主事		133
後期	金	2	55251	心理学 II A	佐々木 聡	2	1年次	社会福祉主事		134
前期	月	6	51626	心理学 I B	上野和久	2	1年次	—	難波	288
後期	月	6	51676	心理学 II B	上野和久	2	1年次	—	難波	289
前期	月	3	51308	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		135
後期	月	2	51256	社会福祉論	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		136
前期	月	2	51208	社会保障論	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		137

#### 6) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52210	キャリアデザイン I	高田綾子	2	1年次	—	キャリアデザイン II	138
後期	火	2	52255	キャリアデザイン II	高田綾子	2	1年次	—	キャリアデザイン I	139

#### 7) 教養科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	4	52414	教養講義 (数的処理)	木地茂典	2	1年次	—		143
後期	火	4	52455	教養講義 (自然科学)	木地茂典	2	1年次	—		144
前期	木	1	54108	教養講義 (社会科学)	森本一彦	2	1年次	—		141
後期	水	4	53453	教養講義 (人権論)	竹村和也	2	1年次	—		140
後期	木	1	54156	教養講義 (人文科学)	鈴木晴久	2	1年次	—		142

#### 8) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57009	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	—		132
通年	集中	集中	57008	巡礼・遍路 A	密教学科主任	2	1年次	—		85
前期	木	2	54212	巡礼・遍路 B	川崎一洋	2	1年次	—		86
後期	木	2	54259	巡礼・遍路 C	川崎一洋	2	1年次	—		87

[人間学科2年次履修科目]

1) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	1	51104	英語Ⅱ	伊藤佳世子	2	2年次	—		64
通年	月	5	51503	英語Ⅱ(再履修)	伊藤佳世子	2	3年次	—		65

2) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52205	人間学基礎ゼミⅢA	上野和久	2	2年次	—		145
前期	水	4	53402	人間学基礎ゼミⅢB	廣田恵美子	2	2年次	—	留学生	146
後期	火	2	52254	人間学基礎ゼミⅣA	上野和久	2	2年次	—		147
後期	水	4	53452	人間学基礎ゼミⅣB	廣田恵美子	2	2年次	—	留学生	148

3) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	4	52413	キャリアデザインⅢ	高田綾子	2	2年次	—	キャリアデザインⅣ	149
後期	火	4	52457	キャリアデザインⅣ	高田綾子	2	2年次	—	キャリアデザインⅢ	150

4) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54308	人間学実習(社会調査)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		151
後期	集中	集中	57088	人間学実習(コミュニケーション演習Ⅰ)	橋本久仁彦	2	2年次	—	難波	290
後期	集中	集中	57089	人間学実習(コミュニケーション演習Ⅱ)	橋本久仁彦	2	2年次	—	難波	291

5) 専門講義

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51206	人間学専門講義(社会調査入門)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		153
後期	月	2	51255	人間学専門講義(社会調査方法論)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		154
前期	火	3	52310	人間学専門講義(カウンセリング論A)	上野和久	2	2年次	—		152
後期	火	3	52356	人間学専門講義(発達心理学A)	上野和久	2	2年次	—		158
前期	水	1	53108	人間学専門講義(情報リテラシー論)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		155
後期	水	1	53155	人間学専門講義(質的調査論)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		162
後期	木	1	54157	人間学専門講義(基礎統計学)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		161
前期	木	2	54210	人間学専門講義(悲嘆学A)	森崎雅好	2	2年次	—		159
後期	木	2	54257	人間学専門講義(自殺学A)	森崎雅好	2	2年次	—		160
前期	木	4	54410	人間学専門講義(地域連携)	森本一彦	2	2年次	—		157
前期	金	4	55403	人間学専門講義(地域産業論)	鈴木裕範	2	2年次	—		156
前期	月	7	51727	人間学専門講義(発達心理学B)	小林奈緒美	2	2年次	—	難波	305
後期	月	7	51777	人間学専門講義(家族心理学)	小林奈緒美	2	2年次	—	難波	295
前期	火	6	52627	人間学専門講義(悲嘆学E)	森崎雅好	2	2年次	—	難波	312
後期	火	6	52677	人間学専門講義(深層心理学)	森崎雅好	2	2年次	—	難波	313
前期	水	6	53628	人間学専門講義(心理検査法演習Ⅰ)	木下忠恭	2	2年次	—	難波	301
後期	水	6	53678	人間学専門講義(心理検査法演習Ⅱ)	木下忠恭	2	2年次	—	難波	302
前期	水	7	53727	人間学専門講義(福祉心理学)	森崎雅好	2	2年次	—	難波	316
前期	木	6	54627	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅰ)	大河内大博	2	2年次	—	難波	314
後期	木	6	54677	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅱ)	大河内大博	2	2年次	—	難波	315
前期	木	7	54727	人間学専門講義(宗教学入門)	小田龍哉	2	2年次	—	難波	310
後期	木	7	54777	人間学専門講義(世俗主義と宗教)	小田龍哉	2	2年次	—	難波	311
前期	金	6	55628	人間学専門講義(心理統計学)	五明優介	2	2年次	—	難波	304
後期	金	6	55678	人間学専門講義(心理測定法)	五明優介	2	2年次	—	難波	303



前期	金	7	55727	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）	五明優介	2	2年次	—	難波	299
後期	金	7	55777	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）	五明優介	2	2年次	—	難波	300
前期	土	1	56029	人間学専門講義（カウンセリング論B）	佐々木聡	2	2年次	—	難波	292
後期	土	1	56079	人間学専門講義（社会心理学）	松下歩睦	2	2年次	—	難波	298
前期	土	2	56030	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅠB）	山添正	2	2年次	—	難波	306
後期	土	2	56080	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡB）	山添正	2	2年次	—	難波	307
前期	土	4	56031	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）	山本和美	2	2年次	—	難波	308
後期	土	4	56081	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）	森崎雅好	2	2年次	—	難波	309
後期	集中	集中	57086	人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）	窪寺俊之	2	2年次	—	難波	293
後期	集中	集中	57087	人間学専門講義（死生観B）	山本佳世子	2	2年次	—	難波	297
後期	集中	集中	57090	人間学専門講義（もの語り心理学）	やまだようこ	2	2年次	—	難波	294
後期	集中	集中	57091	人間学専門講義（学校心理学）	佐々木聡	2	2年次	—	難波	296

## 【人間学科3年次履修科目】

### 1) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	3	52309	キャリアデザインⅤ	高田綾子	2	3年次	—	キャリアデザインⅥ	164
後期	火	3	52355	キャリアデザインⅥ	高田綾子	2	3年次	—	キャリアデザインⅤ	165

### 2) 実践演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	集中	集中	57056	人間学実践演習（学外研修①）	森本一彦	2	3年次	—		166
後期	集中	集中	57057	人間学実践演習（学外研修②）	森本一彦	2	3年次	—		167
後期	集中	集中	57092	人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ）	森崎雅好	2	3年次	—	難波	317
通年	実習	実習	58031	人間学実践演習（臨床実習Ⅰ）	森崎雅好	2	3年次	—	難波	319
通年	実習	実習	58032	人間学実践演習（臨床実習Ⅲ）	森崎雅好	2	3年次	—	難波	321
通年	実習	実習	58033	人間学実践演習（臨床実習Ⅳ）	川口道雄	2	3年次	—	難波	322

### 3) 演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53207	人間学演習ⅠA	森本一彦	4	3年次	—		170
通年	水	2	53209	人間学演習ⅠF	溝端悠朗	4	3年次	—		172
通年	火	7	52726	人間学演習ⅠC（臨床心理学演習）	上野・森崎	4	3年次	—	難波	324

## 2 選択科目

### 1) 他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	1	54106	サンスクリット語A	徳重弘志	2	1年次	—		69
通年	金	2	55227	サンスクリット語B	前谷彰	2	1年次	—	難波	258
通年	木	1	54105	漢文	南昌宏	2	1年次	—		68
通年	水	4	53401	常用経典	宮田永明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻秀道	2	1年次	僧階補任		77
通年	月	1	51101	法式	加藤善弘	2	1年次	僧階補任		78
通年	火	4	52409	布教A	近藤堯寛	2	1年次	僧階補任		80
通年	木	3	54307	布教B（詠歌）	辻・西山・本間	2	1年次	僧階補任		79
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野田悟	2	1年次	書道師範/教免（国語）		81
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範/教免（国語）		82
通年	集中	集中	57006	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	—		83
通年	集中	集中	57007	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	—		84
前期	月	4	51409	密教学概論A	佐藤隆彦	2	2年次	—		88
後期	月	4	51455	密教学概論B	佐藤隆彦	2	2年次	—		89
前期	月	3	51309	密教史概説A	奥山直司	2	2年次	—		90
後期	月	3	51355	密教史概説B	櫻木潤	2	2年次	—		91
前期	水	1	53105	仏教史概説A	前谷彰	2	2年次	—		92

後期	水	1	53156	仏教史概説B	前谷彰	2	2年次	—		93
前期	金	3	55329	仏教史概説C	前谷彰	2	2年次	—	難波	259
後期	金	3	55379	仏教史概説D	前谷彰	2	2年次	—	難波	260
通年	火	2	52202	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	—		96
通年	火	3	52251	祖典講読ⅡA	土居夏樹	4	3年次	—		97
通年	火	2	52203	祖典講読ⅠB	土居夏樹	4	2年次	—		96
通年	月	3	51326	祖典講読ⅠC	土居夏樹	4	2年次	—	難波	261
通年	水	4	53427	祖典講読ⅡE	川崎一洋	4	3年次	—	難波	264
通年	木	3	54311	宗典講読A	川崎一洋	2	3年次	—		98
通年	木	2	54207	宗典講読B	T.T`ライオン	2	3年次	—	已灌頂者	99
後期	月	1	51152	密教学講読演習A	松長潤慶	2	3年次	学芸員		102
後期	金	4	55476	密教学講読演習G	松長潤慶	2	3年次	学芸員	難波	267
後期	水	2	53276	密教学講読演習J	乾龍仁	2	3年次	教免(宗教)	難波	268
前期	月	2	51226	密教学講読演習K	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	269
後期	月	2	51276	密教学講読演習L	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	270
後期	木	5	54551	仏教学講読演習A	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)		105
前期	木	2	54203	仏教学講読演習B	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)		106
後期	月	4	51476	仏教学講読演習C	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)	難波	271
前期	金	3	55326	仏教学講読演習F	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	272
後期	金	3	55376	仏教学講読演習G	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	273
前期	金	1	55103	真言密教講読演習D	T.T`ライオン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	109
後期	金	1	55151	真言密教講読演習E	T.T`ライオン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	110
後期	火	3	52376	真言密教講読演習F	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)	難波	274
後期	火	4	52476	真言密教講読演習G	坂口太郎	2	3年次	教免(宗教)	難波	275
後期	水	6	53677	真言密教講読演習H	北川真寛	2	3年次	教免(宗教)	難波	276
後期	月	3	51352	真言密教講読演習K	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	111
前期	月	1	51103	密教学特殊講義A	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)		112
前期	火	4	52407	密教学特殊講義B	和田圭子	2	3年次	学芸員		113
後期	火	4	52452	密教学特殊講義C	和田圭子	2	3年次	学芸員		114
前期	木	3	54326	密教学特殊講義D	野田悟	2	3年次	教免(宗教)	難波	277
前期	金	4	55426	密教学特殊講義F	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)	難波	278
前期	木	4	54426	密教学特殊講義G	野田悟	2	3年次	教免(宗教)	難波	279
前期	木	4	54406	仏教学特殊講義A	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)		115
前期	月	4	51426	仏教学特殊講義C	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)	難波	281
前期	水	3	53326	仏教学特殊講義I	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)	難波	280
前期	水	2	53226	仏教学特殊講義J	乾龍仁	2	3年次	教免(宗教)	難波	282
前期	月	1	51102	真言密教特殊講義A	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	116
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義B	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	117
前期	金	2	55203	真言密教特殊講義C	土居夏樹	2	3年次	教免(宗教)		118
前期	金	2	55204	真言密教特殊講義D	T.T`ライオン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	119
後期	金	2	55252	真言密教特殊講義E	T.T`ライオン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	120
後期	金	2	55253	真言密教特殊講義J	土居夏樹	2	3年次	教免(宗教)		121
前期	月	3	51305	真言密教特殊講義M	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)		122
前期	水	6	53627	真言密教特殊講義G	北川真寛	2	3年次	教免(宗教)	難波	283
後期	水	3	53376	真言密教特殊講義L	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)	難波	284

## 2) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52504	総合科目(チベット仏教入門ⅠB)	テンジン・ウセル	2	1年次	—		174
後期	火	5	52552	総合科目(チベット仏教入門ⅡB)	テンジン・ウセル	2	1年次	—		175
前期	金	6	55627	総合科目(チベット仏教入門ⅠA)	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	326
後期	金	6	55677	総合科目(チベット仏教入門ⅡA)	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	327

### 3) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51410	企画科目（日本文化）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	168
後期	月	4	51460	企画科目（日本社会）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	169
通年	月	4	51413	企画科目（英会話）	亀位卓阿	2	1年次	—		163
通年	火	4	52403	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	1年次	学芸員		176
前期	水	3	53302	企画科目（寺院経営講座）	加賀博	2	1年次	—		177
通年	木	4	54402	企画科目（日本語留学生中級A）	廣田恵美子	2	1年次	—	留学生	180
通年	木	5	54501	企画科目（日本語留学生上級A）	廣田恵美子	2	1年次	—	留学生	178
通年	月	3	51302	企画科目（日本語留学生中級B）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	181
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級B）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	179
後期	集中	集中	57051	企画科目（密教瞑想）	佐藤隆彦	2	1年次	—		329

### 4) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	54401	チベット語A	テンジン・ウセル	2	2年次	—		182
通年	金	5	55526	チベット語B	テンジン・ウセル	2	2年次	—	難波	330
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	—		183
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	—		184

### 5) 僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	55305	声明上級	辻秀道	2	2年次	—		185
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋藤天譽	2	1年次	—		186
通年	水	3	53327	梵字悉曇C	乾龍仁	2	1年次	—	難波	331

### 6) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54304	体育実技	今井邦夫	2	1年次	教職基礎		187
通年	火	3	52302	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		188
通年	火	4	52402	伝統文化（華道）	五味和樹	2	1年次	—		189
通年	水	3	53301	伝統文化（茶道）	岡本文音	2	1年次	—		173
通年	月	3	51301	宗教芸能（宗教舞踊）	高祖・辻	2	1年次	—		190

### 7) 古文書学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	53225	歴史学	坂口太郎	2	2年次	学芸員		191
前期	水	1	53106	書誌学	坂口太郎	2	3年次	学芸員		192
後期	水	1	53157	古文書学	坂口太郎	2	3年次	学芸員		193
後期	水	2	53253	古文書解説A	坂口太郎	2	2年次	学芸員		194
前期	火	4	52427	古文書解説B	坂口太郎	2	2年次	—	難波	328

### 8) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55205	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		195
後期	金	2	55254	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		196
後期	金	4	55451	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	1年次	教免（宗教）		197
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥山直司	2	1年次	—	難波	332
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻木潤	2	1年次	教免（宗教）		198
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	学芸員		199
後期	金	1	55152	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	学芸員		200
前期	金	4	55402	哲学	南昌宏	2	1年次	教免（宗教）		201
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	教免（宗教）		202
前期	金	3	55303	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	教免（国語）		203

後期	金	3	55352	国語学Ⅱ	上田 恭寿	2	2年次	教免(国語)		204
前期	月	4	51403	国文法Ⅰ	溝端 悠朗	2	2年次	教免(国語)		205
後期	月	4	51454	国文法Ⅱ	溝端 悠朗	2	2年次	教免(国語)		206
前期	月	5	51502	日本文学概論Ⅰ	溝端 悠朗	2	2年次	—		211
後期	月	5	51551	日本文学概論Ⅱ	溝端 悠朗	2	2年次	—		212

前期	火	4	52408	日本文学史概説 I	溝 端 悠 朗	2	2 年次	教免 (国語)		207
後期	火	4	52454	日本文学史概説 II	溝 端 悠 朗	2	2 年次	教免 (国語)		208
前期	火	5	52502	日本文学 I	溝 端 悠 朗	2	1 年次	教免 (国語)		209
後期	火	5	52551	日本文学 II	溝 端 悠 朗	2	1 年次	教免 (国語)		210
前期	木	3	54305	漢文学概論 I	南 昌 宏	2	2 年次	教免 (国語)		213
後期	木	3	54352	漢文学概論 II	南 昌 宏	2	2 年次	教免 (国語)		214
後期	月	3	51354	日本文化特殊講義 A	溝 端 悠 朗	2	3 年次	学芸員		215
後期	金	3	55351	日本文化特殊講義 C	坂 口 太 郎	2	3 年次	—		216
後期	水	1	53154	中国文化講読演習 A	野 田 悟	2	3 年次	—		217
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1 年次	教職基礎		218

### 9) 書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52404	漢字 II	野 田 悟	2	2 年次	書道師範/教免 (国語)		219
通年	木	3	54303	かな II	塩 野 三 恵 子	2	2 年次	書道師範/教免 (国語)		220
通年	火	1	52105	篆刻	野 田 悟	2	2 年次	書道師範		221
通年	火	3	52301	条幅制作 A (漢字)	野 田 悟	2	3 年次	—		224
通年	木	4	54403	条幅制作 B (かな)	塩 野 三 恵 子	2	3 年次	—		225
通年	金	1	55106	書道史	野 田 悟	4	2 年次	書道師範		226

### 10) 学芸員資格関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51506	生涯学習概論	櫻 木 潤	2	1 年次	学芸員		227
前期	木	5	54503	博物館概論	坂 口 太 郎	2	1 年次	学芸員		228
前期	水	4	53405	博物館経営論	内 藤 栄	2	2 年次	学芸員		229
前期	金	3	55309	博物館資料論	坂 口 太 郎	2	2 年次	学芸員		230
後期	木	3	54354	博物館資料保存論	那 須 真 裕 美	2	2 年次	学芸員		231
後期	集中	集中	57055	博物館展示論	山 口 隆 介	2	2 年次	学芸員		232
前期	木	3	54313	博物館情報・メディア論	那 須 真 裕 美	2	2 年次	学芸員		233
後期	月	5	51553	博物館教育論	櫻 木 潤	2	1 年次	学芸員		234
通年	実習	実習	58004	博物館実習	櫻 木 ・ 坂 口	3	3 年次	学芸員		235

## H30まで文学部 人間学科

### 1 必修科目

#### [人間学科1年次履修科目]

##### 1) 「建学の精神」科目 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53103	空海の思想入門A	櫻 木 潤	2	1年次	—		60
前期	火	3	52326	空海の思想入門B	櫻 木 潤	2	1年次	—	難波	257

##### 2) 語学科目 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52501	英語 I (再履修)	伊 藤 佳 世 子	2	2年次	教職基礎		63

##### 3) 導入科目 (2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51404	人間学基礎ゼミ I A	森 本 一 彦	2	1年次	—		130
後期	月	4	51452	人間学基礎ゼミ II A	森 本 一 彦	2	1年次	—		131

##### 4) キャリア教育 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52204	キャリアカウンセリング I-1	高 田 綾 子	2	1年次	—	企画科目 (キャリアカウンセリング I-2)	138

#### [人間学科2年次履修科目]

##### 1) 語学科目 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	5	51503	英語 II (再履修)	伊 藤 佳 世 子	2	3年次	教職基礎		65

##### 2) 講義 I (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	54103	人間学概論 I	森 本 一 彦	2	2年次	—		141
後期	木	1	54152	人間学概論 II	鈴 木 晴 久	2	2年次	—		142

##### 3) 基礎ゼミ (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52205	人間学基礎ゼミ III A	上 野 和 久	2	2年次	—		145
前期	水	4	53402	人間学基礎ゼミ III B	廣 田 恵 美 子	2	2年次	—	留学生	146
後期	火	2	52254	人間学基礎ゼミ IV A	上 野 和 久	2	2年次	—		147
後期	水	4	53452	人間学基礎ゼミ IV B	廣 田 恵 美 子	2	2年次	—	留学生	148

##### 4) 伝統文化実習 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	3	53301	伝統文化実習 (茶道)	岡 本 文 音	2	2年次	—		173
通年	木	3	54302	伝統文化実習 (民俗調査)	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		151

## 5) キャリア教育 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	4	52405	キャリアカウンセリングII-1	高田綾子	2	2年次	—	企画科目(キャリアカウンセリングII-2)	149

### [人間学科3年次履修科目]

#### 1) 語学科目 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51405	英語III	亀位卓阿	2	3年次	—		163

#### 2) 演習 (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53207	人間学演習IA	森本一彦	4	3年次	—		170
通年	水	2	53209	人間学演習IF	溝端悠朗	4	3年次	—		172
通年	火	7	52726	人間学演習IC(臨床心理学演習)	上野・森崎	4	3年次	—	難波	324

#### 3) 特殊ゼミ (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	2	54204	人間学特殊ゼミIA(悲嘆学)	森崎雅好	2	3年次	—		159
前期	月	4	51402	人間学特殊ゼミIB(日本文化)	松本貴子	2	3年次	—	留学生	168
前期	木	7	54726	人間学特殊ゼミID(宗教学入門)	小田龍哉	2	3年次	—	難波	310
前期	火	6	52626	人間学特殊ゼミIE(悲嘆学)	森崎雅好	2	3年次	—	難波	312
前期	木	6	54626	人間学特殊ゼミIF(スピリチュアルケア演習I)	大河内大博	2	3年次	—	難波	314
後期	木	2	54253	人間学特殊ゼミIIA(自殺学)	森崎雅好	2	3年次	—		160
後期	月	4	51453	人間学特殊ゼミIIB(日本社会)	松本貴子	2	3年次	—	留学生	169
後期	木	7	54776	人間学特殊ゼミIID(世俗主義と宗教)	小田龍哉	2	3年次	—	難波	311
後期	火	6	52676	人間学特殊ゼミIIE(深層心理学)	森崎雅好	2	3年次	—	難波	313
後期	木	6	54676	人間学特殊ゼミIIF(スピリチュアルケア演習II)	大河内大博	2	3年次	—	難波	315

## 4) キャリア教育 (2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	3	52304	キャリアカウンセリングIII-1	高田綾子	2	3年次	—	企画科目(キャリアカウンセリングIII-2)	164

### [人間学科4年次履修科目]

#### 1) 演習 (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53210	人間学演習IIA	森本一彦	4	4年次	—		170
通年	水	2	53211	人間学演習IIB	上野和久	4	4年次	—		171
通年	水	2	53208	人間学演習IIF	溝端悠朗	4	4年次	—		172
通年	火	7	52727	人間学演習IIC(臨床心理学演習)	上野・森崎	4	4年次	—	難波	325

#### 2) 卒業論文 (8)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	論文	論文	59002	人間学科卒業論文	人間学科主任	8	4年次	—		—
前期	論文	論文	59004	人間学科卒業論文(前期)	人間学科主任	8	4年次	—	7月提出許可者	—

## 2 選択科目

### 1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	水	1	53153	総合科目(古文書学)	坂口太郎	2	3年次	—		193
前期	水	1	53102	総合科目(書誌学)	坂口太郎	2	3年次	—		192
前期	火	5	52504	総合科目(チベット仏教入門IB)	テンジン・ウセル	2	1年次	—		174
後期	火	5	52552	総合科目(チベット仏教入門IIB)	テンジン・ウセル	2	1年次	—		175
前期	金	6	55627	総合科目(チベット仏教入門IA)	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	326
後期	金	6	55677	総合科目(チベット仏教入門IIA)	テンジン・ウセル	2	1年次	—	難波	327

## 2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51201	企画科目(社会調査入門)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		153
後期	月	2	51252	企画科目(社会調査方法論)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		154
通年	月	3	51301	企画科目(宗教舞踊)	高祖・辻	2	1年次	—		190
前期	火	3	52305	企画科目(カウンセリング論A)	上野和久	2	2年次	—		152
後期	火	3	52353	企画科目(発達心理学A)	上野和久	2	2年次	—		158
通年	火	4	52402	企画科目(華道)	五味和樹	2	1年次	—		189
通年	火	4	52403	企画科目(仏画)	有松孝雄	2	1年次	—		176
前期	水	1	53104	企画科目(情報リテラシー論)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		155
後期	水	1	53151	企画科目(質的調査論)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		162
前期	水	2	53212	企画科目(歴史学)	坂口太郎	2	2年次	—		191
後期	水	2	53251	企画科目(古文書解読A)	坂口太郎	2	2年次	—		194
前期	水	3	53302	企画科目(寺院経営講座)	加賀博	2	1年次	—		177
後期	木	1	54153	企画科目(基礎統計学)	森本一彦	2	2年次	社会調査士		161
通年	木	3	54301	企画科目(詠歌)	辻・西山・本間	2	1年次	—		79
前期	木	4	54404	企画科目(地域連携)	森本一彦	2	2年次	—		157
通年	金	3	55301	企画科目(声明上級)	辻秀道	2	2年次	—		185
前期	金	4	55401	企画科目(地域産業論)	鈴木裕範	2	2年次	—		156
後期	火	2	52253	企画科目(キャリアカウンセリング I-2)	高田綾子	2	1年次	—	キャリアカウンセリングI-1	139
後期	火	4	52453	企画科目(キャリアカウンセリング II-2)	高田綾子	2	2年次	—	キャリアカウンセリングII-1	150
後期	火	3	52352	企画科目(キャリアカウンセリング III-2)	高田綾子	2	3年次	—	キャリアカウンセリングIII-1	165
通年	集中	集中	57004	企画科目(ボランティア)	人間学科主	2	1年次	—		132
通年	集中	集中	57001	企画科目(加行I)	密教学科主	1	1年次	—		83
通年	集中	集中	57002	企画科目(加行II)	密教学科主	1	2年次	—		84
通年	集中	集中	57003	企画科目(巡礼・遍路A)	密教学科主任	2	1年次	—		85
前期	木	2	54206	企画科目(巡礼・遍路B)	川崎一洋	2	1年次	—		86
後期	木	2	54255	企画科目(巡礼・遍路C)	川崎一洋	2	1年次	—		87
通年	木	4	54402	企画科目(日本語留学生中級A)	廣田恵美子	2	1年次	—	留学生	180
通年	木	5	54501	企画科目(日本語留学生上級A)	廣田恵美子	2	1年次	—	留学生	178
通年	月	3	51302	企画科目(日本語留学生中級B)	松本貴子	2	1年次	—	留学生	181
通年	月	5	51501	企画科目(日本語留学生上級B)	松本貴子	2	1年次	—	留学生	179
後期	月	7	51776	企画科目(家族心理学)	小林奈緒美	2	3年次	—	難波	295
前期	月	7	51726	企画科目(発達心理学B)	小林奈緒美	2	3年次	—	難波	305
前期	火	4	52426	企画科目(古文書解読B)	坂口太郎	2	3年次	—	難波	328
前期	水	6	53626	企画科目(心理検査法演習I)	木下忠恭	2	3年次	—	難波	301
後期	水	6	53676	企画科目(心理検査法演習II)	木下忠恭	2	3年次	—	難波	302
前期	水	7	53726	企画科目(福祉心理学)	森崎雅好	2	2年次	—	難波	316
後期	金	6	55676	企画科目(心理測定法)	五明優介	2	2年次	—	難波	303
前期	金	6	55626	企画科目(心理統計学)	五明優介	2	2年次	—	難波	304
前期	金	7	55726	企画科目(心理学基礎実験演習I)	五明優介	2	3年次	—	難波	299
後期	金	7	55776	企画科目(心理学基礎実験演習II)	五明優介	2	3年次	—	難波	300
前期	土	1	56026	企画科目(カウンセリング論B)	佐々木聡	2	3年次	—	難波	292
後期	土	1	56076	企画科目(社会心理学)	松下歩睦	2	2年次	—	難波	298
前期	土	2	56027	企画科目(臨床心理学面接演習IB)	山添正	2	2年次	—	難波	306
後期	土	2	56077	企画科目(臨床心理学面接演習IIB)	山添正	2	2年次	—	難波	307
前期	土	4	56028	企画科目(臨床心理学面接演習III)	山本和美	2	2年次	—	難波	308
後期	土	4	56078	企画科目(臨床心理学面接演習IV)	森崎雅好	2	2年次	—	難波	309
通年	実習	実習	58026	企画科目(臨床実習I)	森崎雅好	2	3年次	—	難波	319
通年	実習	実習	58027	企画科目(臨床実習II)	森崎雅好	2	4年次	—	難波	320
通年	実習	実習	58028	企画科目(臨床実習III)	森崎雅好	2	3年次	—	難波	321



通年	実習	実習	58029	企画科目 (臨床実習Ⅳ)	川口道雄	2	3年次	—	難波	322
通年	実習	実習	58030	企画科目 (臨床実習Ⅴ)	川口道雄	2	4年次	—	難波	323
後期	集中	集中	57079	企画科目 (コミュニケーション演習Ⅰ)	橋本久仁彦	2	2年次	—	難波	290
後期	集中	集中	57080	企画科目 (コミュニケーション演習Ⅱ)	橋本久仁彦	2	2年次	—	難波	291
後期	集中	集中	57077	企画科目 (スピリチュアルケア概論)	窪寺俊之	2	2年次	—	難波	293
後期	集中	集中	57082	企画科目 (学校心理学)	佐々木聡	2	2年次	—	難波	296
後期	集中	集中	57081	企画科目 (もの語り心理学)	やまだようこ	2	2年次	—	難波	294
後期	集中	集中	57078	企画科目 (死生観B)	山本佳世子	2	2年次	—	難波	297
後期	集中	集中	57083	企画科目 (聖地巡礼Ⅰ)	森崎雅好	2	3年次	—	難波	317
後期	集中	集中	57084	企画科目 (聖地巡礼Ⅱ)	森崎雅好	2	4年次	—	難波	318
後期	集中	集中	57051	企画科目 (密教瞑想)	佐藤隆彦	2	1年次	—		329

### 3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	1	54101	サンスクリット語ⅠA	徳重弘志	2	1年次	—		69
通年	金	2	55226	サンスクリット語ⅠB	前谷彰	2	1年次	—	難波	258
通年	木	4	54401	チベット語A	テンジン・ウセル	2	2年次	—		182
通年	金	5	55526	チベット語B	テンジン・ウセル	2	2年次	—	難波	330
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	—		183
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	—		184

### 4) 健康実技

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54304	体育実技	今井邦夫	2	1年次	教職基礎		187

### 5) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	4	55451	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	1年次	—		197
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥山直司	2	1年次	—	難波	332
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻木潤	2	1年次	—		198
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		133
前期	月	6	51626	心理学ⅠB	上野和久	2	1年次	—	難波	288
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		134
後期	月	6	51676	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	—	難波	289
前期	月	3	51303	社会学Ⅰ	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		135
前期	火	5	52502	日本文学Ⅰ	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)		209
後期	火	5	52551	日本文学Ⅱ	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)		210
前期	月	4	51403	国文法Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		205
後期	月	4	51454	国文法Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		206
前期	金	3	55303	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	教免(国語)		203
後期	金	3	55352	国語学Ⅱ	上田恭寿	2	2年次	教免(国語)		204
後期	水	4	53451	現代の人権	竹村和也	2	1年次	—		140
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	教職基礎		218
通年	火	3	52302	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		188
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋藤天譽	2	1年次	—		186
通年	水	3	53327	梵字悉曇C	乾龍仁	2	1年次	—	難波	331
前期	金	2	55205	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	1年次	教免(宗教)		195
後期	金	2	55254	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	1年次	教免(宗教)		196
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		199
後期	金	1	55152	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		200
前期	金	4	55402	哲学	南昌宏	2	1年次	—		201
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	教免(宗教)		202

前期	月	5	51502	日本文学概論 I	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		211
後期	月	5	51551	日本文学概論 II	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		212
前期	火	4	52408	日本文学史概説 I	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		207
後期	火	4	52454	日本文学史概説 II	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		208
前期	木	3	54305	漢文学概論 I	南昌宏	2	2年次	教免(国語)		213
後期	木	3	54352	漢文学概論 II	南昌宏	2	2年次	教免(国語)		214
後期	月	3	51354	日本文化特殊講義 A	溝端悠朗	2	3年次	教免(国語)		215
後期	金	3	55351	日本文化特殊講義 C	坂口太郎	2	3年次	教免(国語)		216
後期	水	1	53154	中国文化講読演習 A	野田悟	2	3年次	教免(国語)		217

#### 6) 教学実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用經典	宮田永明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻秀道	2	1年次	僧階補任		77
通年	月	1	51101	法式	加藤善弘	2	1年次	僧階補任		78
通年	火	4	52401	布教	近藤堯寛	2	1年次	僧階補任		80

#### 7) 書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	2	55201	漢字 I	野田悟	2	1年次	書道師範/教免(国語)		81
通年	火	4	52404	漢字 II	野田悟	2	2年次	書道師範/教免(国語)		219
通年	木	2	54201	かな I	塩野三恵子	2	1年次	書道師範/教免(国語)		82
通年	木	3	54303	かな II	塩野三恵子	2	2年次	書道師範/教免(国語)		220
前期	火	1	52102	篆刻 I	野田悟	2	3年次	書道師範		222
後期	火	1	52151	篆刻 II	野田悟	2	3年次	書道師範		223
通年	火	3	52301	条幅制作 A (漢字)	野田悟	2	3年次	—		224
通年	木	4	54403	条幅制作 B (かな)	塩野三恵子	2	3年次	—		225
通年	金	1	55102	書道史 (日本)	野田悟	2	2年次	書道師範		226

#### 8) 社会福祉主事関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	51253	社会福祉各論 I (地域福祉 I)	城内龍玄	2	2年次	社会福祉主事		136
前期	月	2	51203	社会保障総論 I	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		137

#### 9) 他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	54102	漢文 I	南昌宏	2	1年次	—		66
後期	木	1	54151	漢文 II	南昌宏	2	1年次	—		67
前期	月	4	51401	密教学概論 I A	佐藤隆彦	2	2年次	—		88
後期	月	4	51451	密教学概論 II B	佐藤隆彦	2	2年次	—		89
前期	月	3	51304	密教史概説 I A	奥山直司	2	2年次	—		90
後期	月	3	51351	密教史概説 II B	櫻木潤	2	2年次	—		91
前期	水	1	53101	仏教史概説 I A	前谷彰	2	2年次	—		92
後期	水	1	53152	仏教史概説 II B	前谷彰	2	2年次	—		93
前期	金	3	55327	仏教史概説 I C	前谷彰	2	2年次	—	難波	259
後期	金	3	55377	仏教史概説 II D	前谷彰	2	2年次	—	難波	260
前期	火	2	52202	祖典講読 I A	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		94
前期	火	2	52203	祖典講読 I B	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		94
前期	月	3	51326	祖典講読 I C	土居夏樹	2	2年次	—	難波	262
後期	火	2	52251	祖典講読 II A	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		95
後期	火	2	52252	祖典講読 II B	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		95
後期	月	3	51376	祖典講読 II C	土居夏樹	2	2年次	—	難波	263

前期	火	3	52303	祖典講読Ⅲ A	土居夏樹	2	3年次	—		100
前期	水	4	53426	祖典講読Ⅲ E	川崎一洋	2	3年次	—	難波	265
後期	火	3	52351	祖典講読Ⅳ A	土居夏樹	2	3年次	—		101
後期	水	4	53476	祖典講読Ⅳ E	川崎一洋	2	3年次	—	難波	266
後期	月	1	51152	密教学講読演習 A	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)		102
後期	金	4	55476	密教学講読演習 G	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)	難波	267
前期	木	3	54306	密教学講読演習 H	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)		103
後期	木	3	54351	密教学講読演習 I	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)		104
後期	水	2	53276	密教学講読演習 J	乾龍仁	2	3年次	教免(宗教)	難波	268
前期	月	2	51226	密教学講読演習 K	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	269
後期	月	2	51276	密教学講読演習 L	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	270
後期	木	5	54551	仏教学講読演習 A	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)		105
前期	木	2	54203	仏教学講読演習 B	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)		106
後期	月	4	51476	仏教学講読演習 C	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)	難波	271
前期	金	3	55326	仏教学講読演習 F	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	272
後期	金	3	55376	仏教学講読演習 G	南昌宏	2	3年次	教免(宗教)	難波	273
前期	木	2	54202	真言密教講読演習 B	T.ト'ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	107
後期	木	2	54251	真言密教講読演習 C	T.ト'ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	108
前期	金	1	55103	真言密教講読演習 D	T.ト'ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	109
後期	金	1	55151	真言密教講読演習 E	T.ト'ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	110
後期	火	3	52376	真言密教講読演習 F	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)	難波	274
後期	火	4	52476	真言密教講読演習 G	坂口太郎	2	3年次	教免(宗教)	難波	275
後期	水	6	53677	真言密教講読演習 H	北川真寛	2	3年次	教免(宗教)	難波	276
後期	月	3	51352	真言密教講読演習 K	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	111
前期	月	1	51103	密教学特殊講義 A	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)		112
前期	火	4	52407	密教学特殊講義 B	和田圭子	2	3年次	教免(宗教)		113
後期	火	4	52452	密教学特殊講義 C	和田圭子	2	3年次	教免(宗教)		114
前期	木	3	54326	密教学特殊講義 D	野田悟	2	3年次	教免(宗教)	難波	277
前期	金	4	55426	密教学特殊講義 F	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)	難波	278
前期	木	4	54426	密教学特殊講義 G	野田悟	2	3年次	教免(宗教)	難波	279
前期	木	4	54406	仏教学特殊講義 A	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)		115
前期	月	4	51426	仏教学特殊講義 C	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)	難波	281
前期	水	3	53326	仏教学特殊講義 I	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)	難波	280
前期	水	2	53226	仏教学特殊講義 J	乾龍仁	2	3年次	教免(宗教)	難波	282
前期	月	1	51102	真言密教特殊講義 A	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	116
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義 B	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	117
前期	金	2	55203	真言密教特殊講義 C	土居夏樹	2	3年次	教免(宗教)		118
前期	金	2	55204	真言密教特殊講義 D	T.ト'ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	119
後期	金	2	55252	真言密教特殊講義 E	T.ト'ライトライン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	120
後期	金	2	55253	真言密教特殊講義 J	土居夏樹	2	3年次	教免(宗教)		121
前期	月	3	51305	真言密教特殊講義 M	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)		122
前期	水	6	53627	真言密教特殊講義 G	北川真寛	2	3年次	教免(宗教)	難波	283
後期	水	3	53376	真言密教特殊講義 L	川崎一洋	2	3年次	教免(宗教)	難波	284

### 3 自由科目（卒業要件には参入されません）

#### 1) 他学科演習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53201	密教学演習B	奥 山 直 司	4	4年次	—		123
通年	水	2	53202	密教学演習C	前 谷 彰	4	3・4年次	—		124
通年	水	2	53203	密教学演習D	櫻 木 潤	4	3・4年次	—		125
通年	水	2	53204	密教学演習E	土 居 夏 樹	4	3・4年次	—		126
通年	水	2	53205	密教学演習F	松 長 潤 慶	4	3・4年次	—		127
通年	月	2	51204	密教学演習H	南 昌 宏	4	4年次	—		128
通年	木	2	54226	密教学演習J	奥 山 直 司	4	4年次	—	難波	286
通年	水	2	53206	密教学演習K	溝 端 悠 朗	4	3年次	—		129
通年	火	2	52226	密教学演習L	櫻 木 潤	4	4年次	—	難波	287

# 別 科 目 次

## 別科

### 1 必修科目

#### 1) 基礎科目 (16)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
通年	月	4	81401	真言宗の教え (別)	密教学概論ⅠA	佐藤隆彦	4	1年次		88
					密教学概論ⅡB					89
後期	水	1	83151	釈尊の生涯 (別)	仏教史概説ⅡB	前谷 彰	2	1年次		93
前期	水	1	83101	弘法大師空海の生涯 (別)	空海思想入門A	櫻木 潤	2	1年次		60
通年	火	2	82201	真言宗典講読1 (別)	祖典講読ⅠA	松長 潤慶	4	1～2年次		96
通年	火	3	82301	真言宗典講読2 (別)	祖典講読ⅡA	土居 夏樹	4	1～2年次		97

#### 2) 実習科目 (14)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
後期	集中	集中	87051	観法の理論と実習 (別)	企画科目 (密教瞑想)	佐藤隆彦	2	1～2年次		329
通年	金	3	85302	梵字悉曇 (別)	梵字悉曇A	齋藤 天誓	2	1年次		186
通年	金	1	85101	声明 (別)	声明	辻 秀道	2	1年次		77
通年	水	4	83401	常用経典 (別)	常用経典	宮田 永明	2	1年次		76
通年	月	1	81101	法式 (別)	法式	加藤 善弘	2	1年次		78
通年	火	4	82401	布教 (別)	布教	近藤 堯寛	2	1年次		80

#### 3) 実習科目 (18)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
後期	水	4	83451	人権と福祉 (別)	現代の人権	竹村 和也	2	1～2年次		140
通年	金	2	85202	世界の宗教 (別)	宗教学Ⅰ	奥山 直司	4	1～2年次		195
					宗教学Ⅱ					196
通年	金	1	85102	宗教の歴史 (別)	宗教史Ⅰ	土居 夏樹	4	1～2年次		199
					宗教史Ⅱ					200
通年	金	2	85201	心の科学 (別)	心理学ⅠA	佐々木 聡	4	1～2年次		133
					心理学ⅡA					134
前期	水	3	83301	寺院と法律 (別)	企画科目 (寺院経営講座)	加賀 博	2	1～2年次		177
通年	火	4	82402	仏教芸術 (別)	企画科目 (仏画)	有松 孝雄	2	1～2年次		176
前期	月	3	81301	社会保障A (別)	社会学Ⅰ	森本 一彦	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	135
前期	月	2	81201	社会保障B (別)	社会保障総論Ⅰ	城内 龍玄				137
後期	月	2	81251	地域福祉A (別)	社会福祉各論Ⅰ (地域福祉Ⅰ)	城内 龍玄	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	136
前期	木	4	84402	地域福祉B (別)	企画科目 (地域連携)	森本 一彦				157
通年	木	1	84101	サンスクリット語 (別)	サンスクリット語ⅠA	徳重 弘志	2	1～2年次		69
通年	木	4	84401	チベット語 (別)	チベット語A	テンジン・ウセル	2	1～2年次		182
通年	金	3	85301	声明上級 (別)	声明上級	辻 秀道	2	1～2年次		185
通年	月	1	81102	密教儀礼の理論と実習 (別)	真言密教特殊講義A	中西 雄泰	4	1～2年次		116
					真言密教特殊講義B					117



講 義 概 要  
•  
授 業 計 画

科目名	空海の思想入門A／弘法大師空海の生涯(別)							学期	前期
副題	歴史学から探究する弘法大師空海の生涯				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-01-001	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	

## 授業の目的と概要

弘法大師空海の教えは、本学の建学の精神である。したがって、弘法大師空海の生涯を知ることは、本学での学びの基礎となる。本授業では、「空海のことば」をもとにして、歴史学の立場から弘法大師空海の生涯を探究し、その歴史的意義を理解するとともに、その思想がどのような歴史的背景によって生成されてきたのかを考察できる視点を養うことを目指す。

## 授業の到達目標

①弘法大師空海の生涯を知り、その歴史的意義を理解する。 ②弘法大師空海思想形成における歴史的背景を考察することができる。 ③弘法大師空海の生涯を学ぶことを通して、現代の諸課題に対応できる洞察力を身につける。

## 授業計画

1. 空海が活躍した時代の社会－奈良・平安時代の社会とは？－
2. 空海が活躍した時代の仏教①－東大寺に大仏を造立した聖武天皇－
3. 空海が活躍した時代の仏教②－「尼天皇」称徳天皇と神仏習合－
4. 空海が活躍した時代の仏教③－新たな仏教を求めた桓武天皇－
5. 讃岐での少年時代－誕生と佐伯直－
6. おじ阿刀大足と伊予親王－青年時代の環境－
7. 「一沙門」との出会い－「沙門空海」の誕生－
8. 『鸕鷀指帰』の撰述－中国留学への道のり－
9. 唐代密教の隆盛－不空三蔵と恵果阿闍梨－
10. 中国留学の日々－『御請来目録』から－
11. 伝教大師最澄との交流－最澄・空海の手紙から－
12. 嵯峨天皇らとの交流－『性霊集』からみたネットワーク－
13. 真言密教の宣布－「勸縁疏」と高野山の開創－
14. 日本仏教界のリーダーとしての活動－民衆との架け橋として－
15. 弘法大師信仰の成立－高野山の歩み－

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心を持ったテーマや人物について調べる（60分）

## テキスト

授業時に配布するプリントによって授業を進める。

## 参考書・参考資料等

①渡辺照宏・宮坂宥勝『沙門空海』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、1993年） ②高木神元『空海 還源への歩み』（春秋社、2019年） ③吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、講談社、2018年） その他、授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業で行う課題（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 弘法大師空海の生涯について説明できる。
- (B) 弘法大師空海の生涯について、当時の時代背景を理解したうえで説明できる。
- (A) 弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義を説明できる。
- (S) 弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義をふまえて、思想形成の背景について考察することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

毎回の授業において、弘法大師空海ゆかりの地などを紹介する。受講生は、積極的にその地を訪ね、さらに理解を深めていただきたい。



科目名	導入研修							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	学科主任	
ナンバリング	G1-26-002	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

合宿による集中講義により、大学での学びを体験するとともに、グループによって活動することで、協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。

### 授業の到達目標

各自が高野山大学における学ぶ目的意識を持つとともに、学習の仕方を習得する。

### 授業計画

1. 高野山、高野山大学について
2. 宗教体験①金剛峯寺参拝
3. 宗教体験②奥之院参拝
4. 大学で学ぶ意義を考える
5. 大学生活を考える
6. 自己を理解する
7. ワークショップ①大学教育を考える
8. 宗教体験③勤行
9. 山内フィールドワーク
10. ワークショップ②将来像を考える
11. 宗教体験④写経
12. ワークショップ③大学での計画を立てる
13. ワークショップ④計画をプレゼンテーションする
14. 宗教体験⑦（報恩日）
15. 宗教体験⑧（宗祖降誕日）

### 準備学習(予習・復習)・時間

学習した内容、発表、討論やワークを踏まえて、内容について各自で整理する。(180分)

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』ミネルヴァ書房、2009年

### 学生に対する評価

レポート（40%）、発表など授業参加の積極性（60%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指示されたことが理解できる。
- (B) 授業内容を理解した上で、積極的に行動する。
- (A) グループをまとめ、リーダーシップを発揮することができる。
- (S) 大学で学ぶ意義を理解して、行動することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

各回ごとに質問を受けるとともに、提出されたレポートを添削する。

### その他

・本講義は、2019年度以降の密教学科入学生は全員必修となっているので、必ず履修すること。・本講義は、入学式後のオリエンテーション期間中を中心に開講されるが、7月までの宗教行事（報恩日、宗祖降誕日など）に3回以上に参加するとともに、レポートを提出することによって単位を認定する。・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを行う。

科目名	英語 I					学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子
ナンバリング	G1-07-003	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A・I

## 授業の目的と概要

本講義では、リーディングで語彙力・文法力を、e-learning 教材を利用してリスニング力を伸ばしていく。そして教材で使用したトピックの内容から多文化を理解しそれらと共存する社会について考え、意見を述べるようにする。さらに本講義では高野山大学独自の環境を鑑み、観光英語（英語ガイド・宿坊でのおもてなし・海外とのwebを通したプレゼンテーション）も実施する。

## 授業の到達目標

時事英語教材(Ablish)を使用して、基本的な英文法を再確認しながら意味理解ができるようになる。あわせてwebを使用してリスニング（主にシャドーイング練習）を実施し英語の内容が聞き取れるようになる。高野山観光の学習は、高野山内にある建造物だけでなく密教や修行に関することを英語で発表できるようにする。

## 授業計画

### 【前期】

1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2. 【文化と宗教】 e-learning リスニング
3. 【高野山観光の英語】 e-learning リスニング
4. 【生活と社会】 e-learning リスニング
5. 【ビジネス・金融】 e-learning リスニング
6. 中間テストと講評
7. 【文化と宗教】 e-learning リスニング
8. 【高野山観光の英語】 e-learning リスニング
9. 【生活と社会】 e-learning リスニング
10. 【ビジネス・金融】 e-learning リスニング
11. 【環境】 e-learning リスニング
12. 【技術】 e-learning リスニング
13. 【文化と宗教】 e-learning リスニング
14. 前期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 総括とフィードバック

### 【後期】

1. 【文化と宗教】 e-learning リスニング
2. 【高野山観光の英語】 e-learning リスニング
3. 【生活と社会】 e-learning リスニング
4. 【ビジネス・金融】 e-learning リスニング
5. 【環境】 e-learning リスニング
6. 中間テストと講評
7. 【文化と宗教】 e-learning リスニング
8. 【高野山観光の英語】 e-learning リスニング
9. 【生活と社会】 e-learning リスニング
10. 【ビジネス・金融】 e-learning リスニング
11. 【環境】 e-learning リスニング
12. 【文化と宗教】 e-learning リスニング
13. 【海外ニュース】 e-learning リスニング
14. 後期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 総括とフィードバック

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として毎回こちらで担当を指名するので、その担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと。英語シャドーイング練習は、主に高野山の観光に関する内容を取り扱い、それを口頭発表する。

## テキスト

プリント教材を準備し、初回講義で配布する。

## 参考書・参考資料等

参考書は、講義中に適宜紹介し、プリント教材は初回講義（オリエンテーション）で配布する

## 学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験、プレゼンテーションを加味して行う。毎回の小テスト（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) パラグラフ単位で英文を理解できる。
- (A) 短い会話のやり取りができるようになる。
- (S) ある程度まとまった英文を読んで理解できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

## その他

担当部分は必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキスト（配布したプリント）とノート、辞書を持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ5回まで。講義開始30分を超えて入室した場合は欠席とする。ICT（理解度把握システム）を使用した科目である。

科目名	英語 I (再履修)					学期	通年		
副題	—				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	G2-07-004	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	I

### 授業の目的と概要

基本的な英文法を学習し、持続的な学習ができる力を身につける。Linc English はパソコンだけでなく、携帯電話や i-pad を使用し、いつでも・どこからでもアクセスし学習できるので ZOOM での講義を行う。

### 授業の到達目標

基本的な英文法を理解し、web を利用した教材を用いて簡単な英会話が運用できるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2. Lincenglish reading Lesson 1
3. Lincenglish Listening Lesson 1
4. Lincenglish reading Lesson 2
5. Lincenglish Listening Lesson 2
6. Lincenglish reading Lesson 3
7. 中間テスト、解答と解説
8. Lincenglish reading Lesson 4
9. Lincenglish Listening Lesson 4
10. Lincenglish reading Lesson 5
11. Lincenglish Listening Lesson 5
12. Lincenglish reading Lesson 6
13. Lincenglish Listening Lesson 6
14. 前期まとめテスト 解答と解説
15. 前期フィードバック

#### 【後期】

1. Lincenglish reading Lesson 7
2. Lincenglish Listening Lesson 7
3. Lincenglish reading Lesson 8
4. Lincenglish Listening Lesson 8
5. Lincenglish reading Lesson 9
6. Lincenglish Listening Lesson 9
7. Lincenglish reading Lesson 10
8. Lincenglish Listening Lesson 10
9. Lincenglish reading Lesson 11
10. Lincenglish Listening Lesson 11
11. Lincenglish reading Lesson 12
12. Lincenglish Listening Lesson 12
13. Lincenglish Listening Lesson 13
14. 後期まとめテスト 解答と解説
15. 年間を通じた講義のフィードバック

### 準備学習(予習・復習)・時間

各学期で教員から指定された範囲の Lesson を修了すること

### テキスト

初回講義でプリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

講義内で適宜プリントを web 配信する

### 学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う (60%)。授業参加の積極性 (40%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) パラグラフ単位で英文を理解できる。
- (A) 短い会話のやり取りができるようになる。
- (S) ある程度まとまった英文を読んで理解できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

### その他

欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ 5 回まで。ICT (理解度把握システム) を使用した科目である。

科目名	英語Ⅱ					学期	通年			
副題	—					授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	G2-07-005	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A	

### 授業の目的と概要

私たち人類は、様々な問題に直面しながらも命を繋ぎ、文明を継承してきた。本講義では、「人類の起り」「宗教」「文明」「芸術」「戦争」「宇宙」など私たちが知っておくべき、そして考えなければならない問題をトピックに選び、リーディング力やリスニング力を伸ばしていく。教材で使用したトピックの内容から多文化を理解しそれらと共存する社会について考え、意見を述べるようにする。さらに本講義では高野山大学独自の環境を鑑み、観光英語（英語ガイド・宿坊でのおもてなし・海外とのwebを通したプレゼンテーション）も学習する。

### 授業の到達目標

リーディング力やリスニング力を伸ばし、多文化を理解し、それらと共存する社会について考え、英語で意見を述べられるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. オリエンテーション
2. Chapter1 When did we become human? What is it to be human?
3. Chapter1 When did we become human? What is it to be human?
4. Chapter2 Civilized Mindsets (1)
5. Chapter2 Civilized Mindsets (1)
6. Chapter 3 Civilized Mindsets (2)
7. Chapter 3 Civilized Mindsets (2)
8. Chapter 1 & 2 & 3 まとめテスト
9. Chapter 4 Religion (1) Why is religion about death?
10. Chapter 4 Religion (1) Why is religion about death?
11. Chapter 5 Religion (2) Expert from the Koran and the Enlightenment of Buddha
12. Web Presentation
13. Chapter 6 Travels: marco Polo
14. Chapter 6 Travels: marco Polo
15. Chapter 4 & 5 & 6 まとめテスト

#### 【後期】

1. オリエンテーション
2. Chapter 7 The Renaissance (1) Leonard' s Perspective
3. Chapter 7 The Renaissance (1) Leonard' s Perspective
4. Chapter 8 The Renaissance (2) Aprelude to the Scientific Revolution
5. Chapter 8 The Renaissance (2) Aprelude to the Scientific Revolution
6. Chapter 9 Galileo Galilei
7. Chapter 9 Galileo Galilei
8. Chapter 10 Manhatma Gandhi
9. Chapter 7 & 8 & 9&10 まとめテスト
10. Chapter 11 From Ann' s Dairy
11. Chapter 12 Human Nature ans War
12. Chapter 13 Expanding Universe
13. Web Presentation
14. Chapter 15 What is Globalization?
15. 1年間の講義のまとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

グループに分かれて、トピックの日本語訳や問題を担当を決めて実施する。前期や後期に中間試験とまとめテストを実施するので、Chapter が終了したら復習をすること。

### テキスト

『Epoch Explorer』、朝日出版、著者（Michiko iwanaga, Atsuko Uemura, Minori Yoshioka）、ISBN:978-4-255-15512-8、2019年 第7版、1700円＋税

### 参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する

### 学生に対する評価

大学指定のアンケート形式

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) トピックを澁みなく音読できる
- (B) チャンクごとの意味を理解できる
- (A) まとめ復習テストで80点以上を取得
- (S) まとめ復習テストで90点以上を取得

### 課題に対するフィードバックの方法

講義中に実施する

### その他

通年の講義である。グループでの活動も実施するので、無断で欠席した場合は、有効欠席であっても欠席とみなす。遅刻は講義開始後10分以内とし、45分を過ぎると欠席とする。

科目名	英語Ⅱ(再履修)					学期	通年		
副題	—				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	G3-07-006	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

基本的な英文法を学習し、持続的な学習ができることを身につける。web を利用した練習問題をでリーディング力やリスニング力を強化する。パソコンだけでなく、携帯電話や i-pad を使用し、いつでも・どこからでもアクセスし学習できるので ZOOM での講義を行う。

### 授業の到達目標

web を利用して、個々で学習の到達目標を決めて取り組む。Linc English は6つのレベルに分かれている。初回講義で placement tes を実施してレベルを決定する。Listening と Reading を中心にした教材を使用して TOEIC 500 点から 550 レベルを取得できるようにする。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2. Lincenglish reading & Listening Lesson 1 (Pre Bronze)
3. Lincenglish reading & Listening Lesson 2 (Pre Bronze)
4. Lincenglish reading & Listening Lesson 3 (Pre Bronze)
5. Lincenglish reading & Listening Lesson 4 (Pre Bronze)
6. Lincenglish reading & Listening Lesson 5 (Pre Bronze)
7. 中間テスト、解答と解説
8. Lincenglish reading & Listening Lesson 6 (Pre Bronze)
9. Lincenglish reading & Listening Lesson 7 (Pre Bronze)
10. Lincenglish reading & Listening Lesson 8 (Pre Bronze)
11. Lincenglish reading & Listening Lesson 9 (Pre Bronze)
12. Lincenglish reading & Listening Lesson10 (Pre Bronze)
13. Lincenglish reading & Listening Lesson 11 (Pre Bronze)
14. Lincenglish reading & Listening Lesson 12 (Pre Bronze)
15. 前期まとめテスト、解答と解説

#### 【後期】

1. Lincenglish reading & Listening Lesson 1 (Bronze)
2. Lincenglish reading & Listening Lesson 2 (Bronze)
3. Lincenglish reading & Listening Lesson 3 (Bronze)
4. Lincenglish reading & Listening Lesson 4 (Bronze)
5. Lincenglish reading & Listening Lesson 5 (Bronze)
6. 中間テスト、解答と解説
7. Lincenglish reading & Listening Lesson 6 (Bronze)
8. Lincenglish reading & Listening Lesson 7 (Bronze)
9. Lincenglish reading & Listening Lesson 8 (Bronze)
10. Lincenglish reading & Listening Lesson 9 (Bronze)
11. Lincenglish reading & Listening Lesson 10 (Bronze)
12. Lincenglish reading & Listening Lesson 12 (Bronze)
13. Lincenglish reading & Listening Lesson 12 (Bronze)
14. Lincenglish Quiz Lesson 1 ~lesson 6 (Bronze)
15. Lincenglish Quiz Lesson 7 ~lesson 12(Bronze) Feedback

### 準備学習(予習・復習)・時間

毎週必ず one lesson を完遂する

### テキスト

Linc English web.

### 参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する

### 学生に対する評価

web 教材で準備された練習問題の正答率に応じて点数をつける

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 正答率 55%~65%
- (B) 正答率 66%~75%
- (A) 正答率 76%~85%
- (S) 正答率 86%以上

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は毎回の講義中に対応する

### その他

ZOOM での講義を実施するので、パソコン用カメラを準備すること

科目名	漢文 I							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-007	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。返り点のとおりを読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。日本と中国との文化、現代社会と当時との相違について理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて、理解する。

## 授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語。

## 授業計画

1. 送りがな・返り点 (テキスト第1日)
2. 書き下し文 (1) (テキスト第2日)
3. 書き下し文 (2) (テキスト第3日)
4. 熟語の構造 (テキスト第4日)
5. 漢文の構造 (テキスト第5日)
6. 再読文字 (1) (テキスト第7日)
7. 再読文字 (2) (テキスト第8日)
8. 否定の形 (1) (テキスト第10日)
9. 否定の形 (2) (テキスト第11日)
10. 否定の形 (3) (テキスト第12日)
11. 否定の形 (4) (テキスト第13日)
12. 疑問・反語の形 (1) (テキスト第15日)
13. 前期の総復習
14. 到達度の確認
15. 前期の総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回、テキスト2ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。(60分)

## テキスト

佐藤雅一『発展30日完成(33)漢文高校初級用』(日栄社) 書店等で購入すること。

## 参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫 2010年 など。

## 学生に対する評価

定期試験の得点を評点とする。60点未満の場合は、宿題1枚を1点として加算し、60点以上に達すれば、60点とする。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文Ⅱ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-008	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加など。ほかに、漢文に特有な漢字の用法を習得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。日本と中国との文化、現代社会と当時との相違について理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて理解する。

### 授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などのほか、漢文に特有な漢字の用法。

### 授業計画

1. 疑問・反語の形 (2) (テキスト第16日)
2. 疑問・反語の形 (3) (テキスト第17日)
3. 使役・受身の形 (テキスト第19日)
4. 比較選択・願望の形 (テキスト第20日)
5. 仮定・抑揚の形 (テキスト第21日)
6. 限定・累加の形 (テキスト第22日)
7. 文字の整理 (1) (テキスト第24日)
8. 文字の整理 (2) (テキスト第25日)
9. 文字の整理 (3) (テキスト第26日)
10. 文字の整理 (4) (テキスト第27日)
11. 文字の整理 (5) (テキスト第28日)
12. 文字の整理 (6) (テキスト第29日)
13. 後期の総復習
14. 到達度の確認
15. 後期の総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

毎回、テキスト2ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。(60分)

### テキスト

佐藤雅一『発展30日完成(33)漢文高校初級用』(日栄社) 書店等で購入すること。

### 参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫 2010年 など。

### 学生に対する評価

定期試験の得点を評点とする。60点未満の場合は、宿題1枚を1点として加算し、60点以上に達すれば、60点とする。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

### その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文					学期	通年			
副題	—					授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-009	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A	

## 授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。返り点のとおりを読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加など。ほかに、漢文に特有な漢字の用法を習得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。日本と中国との文化、現代社会と当時との相違について理解する。同様に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて理解する。

## 授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などのほか、漢文に特有な漢字の用法。

## 授業計画

### 【前期】

1. 送りがな・返り点 (テキスト第1日)
2. 書き下し文 (1) (テキスト第2日)
3. 書き下し文 (2) (テキスト第3日)
4. 熟語の構造 (テキスト第4日)
5. 漢文の構造 (テキスト第5日)
6. 再読文字 (1) (テキスト第7日)
7. 再読文字 (2) (テキスト第8日)
8. 否定の形 (1) (テキスト第10日)
9. 否定の形 (2) (テキスト第11日)
10. 否定の形 (3) (テキスト第12日)
11. 否定の形 (4) (テキスト第13日)
12. 疑問・反語の形 (1) (テキスト第15日)
13. 前期の総復習
14. 到達度の確認
15. 前期の総括

### 【後期】

1. 疑問・反語の形 (2) (テキスト第16日)
2. 疑問・反語の形 (3) (テキスト第17日)
3. 使役・受身の形 (テキスト第19日)
4. 比較選択・願望の形 (テキスト第20日)
5. 仮定・抑揚の形 (テキスト第21日)
6. 限定・累加の形 (テキスト第22日)
7. 文字の整理 (1) (テキスト第24日)
8. 文字の整理 (2) (テキスト第25日)
9. 文字の整理 (3) (テキスト第26日)
10. 文字の整理 (4) (テキスト第27日)
11. 文字の整理 (5) (テキスト第28日)
12. 文字の整理 (6) (テキスト第29日)
13. 後期の総復習
14. 到達度の確認
15. 後期の総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回、テキスト2ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。(60分)

## テキスト

佐藤雅一『発展 30日完成 (33) 漢文高校初級用』(日栄社) 書店等で購入すること。

## 参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫 2010年 など。

## 学生に対する評価

前期試験・後期試験のうち、高い得点を評点とする。60点未満の場合は、宿題1枚を1点として加算し、60点以上に達すれば、60点とする。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。



科目名	サンスクリット語 I A / サンスクリット語 A / サンスクリット語(別)				学期	通年
副題	—				授業方法	講義 担当者 徳重弘志
ナンバリング	M1-07-010	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数 2 他 A

## 授業の目的と概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。この授業は、学生がサンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、インド古典に対する読解力を高めることを目的とする。

## 授業の到達目標

・学術書におけるサンスクリット語の単語の意味を、辞書を使って調べることができるようになる。・サンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。・サンスクリット語で記された古典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 文法（1）：文字と発音
3. 文法（2）：母音の曲用
4. 文法（3）：子音の曲用
5. 文法（4）：比較法・代名詞
6. 文法（5）：数詞・不変化詞
7. 文法（6）：動詞の活用（現在組織 1）
8. 文法（7）：動詞の活用（現在組織 2）
9. 文法（8）：連声法
10. 文法（9）：準動詞
11. 文法（10）：名称詞造語法
12. 文法（11）：合成語法
13. 文法（12）：韻律
14. 文法（13）：動詞の活用（現在以外の時制の組織）
15. 文法（14）：動詞の活用（第2次活用法）

### 【後期】

1. 前期の講義内容の再確認
2. 読解（1）：散文の翻訳（Pañcatantra 1）
3. 読解（2）：散文の翻訳（Pañcatantra 2）
4. 読解（3）：韻文の翻訳（Bhagavadgītā 1）
5. 読解（4）：韻文の翻訳（Bhagavadgītā 2）
6. 読解（5）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 1）
7. 読解（6）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 2）
8. 読解（7）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 3）
9. 読解（8）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 4）
10. 読解（9）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 5）
11. 読解（10）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 6）
12. 読解（11）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 7）
13. 読解（12）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 8）
14. 読解（13）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 9）
15. 読解（14）：韻文の翻訳（Vetālapañcaviṃśatikā 10）

## 準備学習(予習・復習)・時間

・【前期】事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（90分）。・【前期】事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと（90分）。・【後期】事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。

## テキスト

吹田隆道、『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015年（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

辻直四郎、『サンスクリット文法』、岩波書店、1974年。

## 学生に対する評価

発表（100%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文字の配列を理解し、辞書を引いて特定の単語の意味を調べることができる。  
 (B) 基本的な文法事項を理解できている。  
 (A) サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。  
 (S) サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

・前期の第2回目の授業までに、上記のテキストを購入すること。・遅刻3回で欠席1回とみなす。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	密教学基礎ゼミA1							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-01-011	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。受講生を3クラスに編成し、実施する。

## 授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

## 授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

## テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

## 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

## 学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
- (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
- (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
- (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を3クラスに編成する。③4回目から12回目までは各担当のクラスを3回毎にローテーションする。④各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミA2							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-01-012	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。受講生を3クラスに編成し、実施する。

### 授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

### 授業計画

1. 発表するには
2. データの収集 (1) データの種類を説明する
3. データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
4. データの記録 (1) メモ
5. データの記録 (2) 写真
6. データの記録 (3) 動画
7. データと思考の整理
8. レジュメの作成 (1) レジュメの書式
9. レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
10. パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
11. パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
12. 発表の実践 (1) 課題に対する発表
13. 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
14. 討論 (1) 課題に関する討論
15. 討論 (2) 他の報告に対する討論

### 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

### テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

### 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

### 学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
- (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
- (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
- (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を3クラスに編成する。③4回目から12回目までは各担当のクラスを3回毎にローテーションする。④各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミB1							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-01-013	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。受講生を3クラスに編成し、実施する。

## 授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

## 授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方（1）授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方（2）キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方（1）全体像を理解する
7. 本の読み方（2）内容を要約する
8. レポートの作成の仕方（1）論文の書式
9. レポートの作成の仕方（2）文章構成
10. レポートの作成の仕方（3）分かりやすい文章
11. 資料の検索（1）図書館の利用
12. 資料の検索（2）インターネットの利用
13. レポート作成の実践（1）論文を要約する
14. レポート作成の実践（2）意見文を書く
15. レポート作成の実践（3）課題にしたがって文章を書く

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90分）

## テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

## 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年）②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年）③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995年）④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

## 学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
- (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
- (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
- (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②具体的な内容や方法については、第1回の授業で説明をする。

科目名	密教学基礎ゼミB2							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-01-014	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	-

### 授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。受講生を3クラスに編成し、実施する。

### 授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

### 授業計画

1. 発表するには
2. データの収集 (1) データの種類を説明する
3. データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
4. データの記録 (1) メモ
5. データの記録 (2) 写真
6. データの記録 (3) 動画
7. データと思考の整理
8. レジュメの作成 (1) レジュメの書式
9. レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
10. パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
11. パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
12. 発表の実践 (1) 課題に対する発表
13. 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
14. 討論 (1) 課題に関する討論
15. 討論 (2) 他の報告に対する討論

### 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

### テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

### 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

### 学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
- (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
- (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
- (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②具体的な内容や方法については、第1回の授業で説明をする。

科目名	密教学基礎ゼミC1							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	M1-01-015	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。受講生を3クラスに編成し、実施する。

## 授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

## 授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

## テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

## 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

## 学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
- (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
- (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
- (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②具体的な内容や方法については、第1回の授業で説明をする。

科目名	密教学基礎ゼミC2							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	M1-01-016	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。受講生を3クラスに編成し、実施する。

## 授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

## 授業計画

1. 発表するには
2. データの収集 (1) データの種類を説明する
3. データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
4. データの記録 (1) メモ
5. データの記録 (2) 写真
6. データの記録 (3) 動画
7. データと思考の整理
8. レジュメの作成 (1) レジュメの書式
9. レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
10. パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
11. パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
12. 発表の実践 (1) 課題に対する発表
13. 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
14. 討論 (1) 課題に関する討論
15. 討論 (2) 他の報告に対する討論

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

## テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

## 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

## 学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
- (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
- (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
- (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

- ①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。
- ②具体的な内容や方法については、第1回の授業で説明をする。

科目名	常用經典／常用經典(別)							学期	通年
副題	—				授業方法	実技	担当者	宮田永明	
ナンバリング	M1-01-017	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の勤行・法要などに用いる諸經典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを暗誦できるように務める。『真言宗常用諸経要聚』等の經典に用いられている仏教用語の基礎的理解を助け、經典が描く仏教・密教的世界観が理解しやすくなるようなるべく簡単に用語の概説をおこなう。また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『観音経』、『梵網経』『金胎礼懺』『三陀羅尼』『梵讚』に務める。

## 授業の到達目標

『理趣経』、『梵網経』、礼懺、三陀羅尼、般若心経、立義分、諸真言等が読誦できる様に務める。受戒・加行などへの参加者の必要性に伴い、必要となる諸経の認識と理解に努める。

## 授業計画

### 【前期】

1. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (開経偈) (懺悔文)
2. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (礼文) (般若心経)
3. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (理趣経)
4. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (理趣経)
5. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵網経)
6. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵網経)
7. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (金・胎礼懺)
8. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (金・胎礼懺)
9. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (観音経)
10. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (観音経)
11. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (立義分) (九条錫杖)
12. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (立義分) (九条錫杖)
13. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵讚・三陀羅尼) (諸真言)
14. 經典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵讚・三陀羅尼) (諸真言)
15. 試験と講評

### 【後期】

1. 前期の復習と補足解説 (開経偈) (懺悔文) (礼文)
2. 前期の復習と補足解説 (理趣経)
3. 前期の復習と補足解説 (理趣経)
4. 前期の復習と補足解説 (金・胎礼懺)
5. 前期の復習と補足解説 (金・胎礼懺)
6. 前期の復習と補足解説 (観音経)
7. 前期の復習と補足解説 (梵讚・三陀羅尼) (諸真言)
8. 前期の復習と補足解説 (梵網経)・外
9. 前期の復習と補足解説 (般若心経)・外
10. 前期の復習と補足解説 (般若心経)・外
11. 前期の復習と補足解説 (立義分)・外
12. 前期の復習と補足解説 (立義分)・外
13. 『般若心経秘鍵』を読む
14. 『般若心経秘鍵』を読む
15. 試験と講評

## 準備学習(予習・復習)・時間

実技実習の習得を求める。復習の習熟が必要。(30分程度)

## テキスト

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を用いる。その他、資料を配布する。

## 参考書・参考資料等

必要に応じて講義の中で指示する。

## 学生に対する評価

実技 (50%)・筆記試験 (30%)、授業態度 (20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣経』が滞りなく読める。
- (B) 『理趣経』、三陀羅尼が読め、梵讚が暗唱できる。
- (A) 常用經典のほぼ主要な經典が読め、概略の理解がある。
- (S) 常用經典のほぼ主要な經典が読め、特に諸経の理解に優れている。本人にとって以後の展望が見込める。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問等はその都度対応する。テストの次回授業時フィードバックを行う。

## その他

講義には、念珠と輪袈裟、中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を持参すること。他の経本は授業を進める上で(ページの指示・訂正箇所の不一致など)時間のロスが多くなる。經典の不所持は、出席を認めない。受講拒否とみなす。ICレコーダー等の用意が有れば使用を許可する。なるべく持って来ることを勧める。伽藍の金堂で開壇される「結縁灌頂」に入壇することを原則として義務付ける。これは法会の中でどの様に用いられているか、実際上知ってもらう為である。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、高野山山内住職であって、元伽藍維那職で諸法会に携わった経験と、高野山大学受戒会の伝戒阿闍梨、及び高野山大学加行傳授大阿闍梨を務めた経験がある教員が真言宗僧侶として、常に用いる諸経を通じて、經典に対する宗教者としての受講者各人が、実際上の讀誦技術の向上と内容理解の重要性を認識出来るよう授業する。



科目名	声明／声明(別)							学期	通年
副題	－				授業方法	実技	担当者	辻秀道	
ナンバリング	M1-01-018	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	－

## 授業の目的と概要

日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」。我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎（楽理を含む）の導入部分から学ぶ。

## 授業の到達目標

法要の基本となる「理趣三昧法会」で使われる声明を研鑽する。

## 授業計画

### 【前期】

1. 声明の楽譜、音階、唱え方（旋律型）の解説・テキスト『南山進流声明類聚・附伽陀』
2. 三礼
3. 四智梵語（1）
4. 四智梵語（2）
5. 大日讚（1）
6. 大日讚（2）
7. 不動讚
8. 四智漢語（1）
9. 四智漢語（2）
10. 心略漢語（1）
11. 心略漢語（2）
12. 仏讚（1）
13. 仏讚（2）
14. 前期試験と講評
15. 散華（初段目）（1）

### 【後期】

1. 散華（初段目）（2）
2. 散華（二段目）（1）
3. 散華（二段目）（2）
4. 散華（二段目）（3）
5. 散華（三段目）（1）
6. 散華（三段目）（2）
7. 対揚（1）
8. 対揚（2）
9. 対揚（3）
10. 唱礼（金剛界）（1）
11. 唱礼（2）
12. 唱礼（3）
13. 唱礼（4）
14. 後期試験と講評
15. 唱礼（5）中曲（頭の部分のみ）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ唱え方に関して練習をしておくこと（90分）

## テキスト

宮野有智編『南山進流声明類聚・附伽陀』を松本日進堂にて事前に購入する事。【必ず1講目授業より持参すること。】（注、必ず同一内容の声明類聚で、できるだけ新しく購入した本を準備する事）

## 参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介する。

## 学生に対する評価

前期試験（40%）、授業参加の積極性（20%）、後期試験（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 南山進流声明を、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
- (B) 南山進流声明の楽譜や唱え方を概ね理解し、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
- (A) 理趣三昧法会の声明を概ね理解し、一人で唱える事が出来る。
- (S) 南山進流声明の理論・唱え方を理解し、理趣三昧法会の声明を一人で唱える事が出来る。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。声明は毎週の積み重ねとなるので、できる限り欠席しない様にする事。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧學院・大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	法式／法式(別)							学期	通年
副題	-				授業方法	実技	担当者	加藤善弘	
ナンバリング	M1-01-019	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

真言宗の僧侶として法式の基礎知識を理解する。

## 授業の到達目標

真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識を理解し、説明できるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 講義内容の説明
2. 道場荘厳の解説について (1) 事相と教相
3. 道場荘厳の解説について (2) 荘厳の目的と心構え
4. 道場荘厳の解説について (3) 道場荘厳の歴史
5. 道場荘厳の解説について (4) 祀り方の実際
6. 道場荘厳の解説について (5) 道場荘厳具の説明
7. 道場荘厳の解説について (6) 道場荘厳具の説明
8. 道場荘厳の解説について (7) 密壇荘厳具の説明
9. 道場荘厳の解説について (8) 密壇荘厳具の説明
10. 六種供養について (1) 供養の基本
11. 六種供養について (2) 供養の内容
12. 六種供養について (3) 供養の意義
13. 六種供養について (4) 供養の意義
14. 道場荘厳見学
15. 試験と総括

### 【後期】

1. 講義内容の説明
2. 真言宗の本尊について
3. 真言宗の八祖について
4. 壇荘厳の解説について (1) 壇荘厳の意義と歴史
5. 壇荘厳の解説について (2) 壇の形式と種類
6. 壇荘厳の解説について (3) 大壇荘厳具の説明と意義
7. 壇荘厳の解説について (4) 大壇荘厳具の説明と意義
8. 壇荘厳の解説について (5) 大壇荘厳具の説明と意義
9. 壇荘厳の解説について (6) 大壇荘厳具の説明と意義
10. 壇荘厳の解説について (7) 大壇荘厳具の説明と意義
11. 壇荘厳の解説について (8) 大壇荘厳具の説明と意義
12. 壇荘厳の解説について (9) 大壇荘厳具の説明と意義
13. 壇荘厳の解説について (10) 総括
14. 壇荘厳見学
15. 試験と総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)

## テキスト

前期：『真言宗の事作法』教務課にて購入のこと。 後期：授業時にプリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

## 参考書・参考資料等

大山公淳著『真言宗法儀解説<新装版>』東方出版、平成24年

## 学生に対する評価

定期試験 (80%)、授業参加の積極性 (20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語を覚えている。
- (B) 道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語の理解が出来る。
- (A) 道場荘厳・壇荘厳の様式について理解が出来る。
- (S) 道場荘厳・壇荘厳の基礎を理解した上で、説明することが出来る。

## 課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶で高野山内寺院の住職であり、現法会課長である教員が、真言宗の法式について、講義や道場見学を通してその重要性を認識させる。

科目名	企画科目(詠歌)／布教B(詠歌)							学期	通年
副題	-				授業方法	実技	担当者	辻・西山・本間	
ナンバリング	M1-01-020	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

御詠歌の唱え方や理論や歴史を学びながら、その他の宗教音楽にもふれる。布教活動の実践の参考となるよう学外授業も交えながら楽しい御詠歌をめざす。

## 授業の到達目標

御詠歌を中心に宗教音楽を学び布教活動の実践に生かせるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. オリエンテーション・各種使用テキストと法具の説明・詠階説明
2. いろは歌／追甲和讃(1)・詠歌、和讃の概略と歴史
3. 宗教音楽布教活動と実践
4. 相互供養和讃
5. 御廟前・相互供養和讃
6. 天地のまこと(Ⅱ)・相互供養和讃
7. 楽理・宗教音楽
8. 修行和讃・所作全般・相互供養和讃
9. 入唐求法和讃・相互供養和讃
10. 個人発表
11. 楽理・宗教音楽
12. 遍照尊・相互供養和讃
13. 散華・相互供養和讃
14. 孝道和讃・相互供養和讃
15. 前期テスト・前期曲復習

### 【後期】

1. 前期履修曲総括復習
2. 夢福路・相互供養和讃
3. 七福・相互供養和讃
4. 楽理・宗教音楽と布教活動と実践
5. めぐみの光かがやきて・相互供養和讃
6. 法悦歓喜和讃(1)・相互供養和讃
7. 宗教音楽
8. 個人発表
9. 法悦歓喜和讃(2)
10. 観音大慈・所作・相互供養和讃
11. みあかし・相互供養和讃
12. 宗教音楽
13. 入定和讃・相互供養和讃
14. 後期テスト・相互供養和讃
15. テスト講評・相互供養和讃

## 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ曲を、声を出して何度もお唱えし練習をすること。(60分)

## テキスト

オリエンテーション時に購入する書籍・法具等の説明をする。

## 参考書・参考資料等

オリエンテーション時参考書を指示する。

## 学生に対する評価

前期実技発表(40%)、後期実技発表(40%)、授業参加の積極性(20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 他の人と一緒に唱える事が出来る。  
 (B) 一人でお唱えだけ出来る。  
 (A) 2～3曲を安定して唱え、所作も少し出来る。  
 (S) 一人で数曲を安定して唱える事ができ、所作もできる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

## その他

布教Aと両方受講することが望ましい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の住職である教員が、僧侶としての経験と、長年にわたる御詠歌の実務実績、指導実績を踏まえた講師により、御詠歌を通して布教の重要性を認識させる。高野山内寺院の住職である教員が、高等学校、尼僧学園等の指導実績を踏まえ宗教音楽について指導する。

科目名	布教／布教A／布教(別)						学期	通年	
副題	－				授業方法	実技	担当者	近藤堯寛	
ナンバリング	M1-01-021	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

本講義は布教初心者の科目である。布教の知識と方法を学び、空海名言に基づいた法話の作成方法を身につける。卒業後は人々に弘法大師や真言密教の教えを伝えられるようにする。特に寺院師弟は直ちに本堂や法事などで法話を行なえるように自信をつけさせることがこの授業の目的である。

## 授業の到達目標

布教原理の学習と実習を通して伝道の重要性を認識し、真言法話を語れるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 布教の原理
2. 世界の宗教
3. 宗教と科学
4. 釈尊成道と初転法輪
5. 説法の方法
6. 弘法大師胎動
7. 入唐の準備
8. 入唐の風景
9. 師資相承
10. 密教伝来
11. 真言密教の宣布
12. 供養と信仰
13. 遍路・巡礼
14. 原稿の書き方①
15. 原稿の書き方②

### 【後期】

1. 駐在布教の見学
2. 提出レポートの感想
3. 布教の心得と発声練習
4. 三分法話（実習）
5. 発表布教①
6. 発表布教②
7. 発表布教③
8. 発表布教④
9. 発表布教⑤と再発表
10. 発表の所感
11. 般若心経の法話①
12. 般若心経の法話②
13. 観音経の法話①
14. 観音経の法話②
15. 総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

講義の『空海名言辞典』項目を正しく読めるように、かつ理解をしておくこと。法話に関する書籍を週一時間以上は読むこと。

## テキスト

近藤堯寛著『空海名言辞典付・現代語訳』高野山出版社／配布プリント

## 参考書・参考資料等

白象の会著・近藤堯寛監修『空海散歩』筑摩書房／寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社／川喜田二郎著『続・発想法』中公新書 210

## 学生に対する評価

授業中の質疑応答（20％）・文書レポート（30％）・発表布教（50％）で評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本用語が読み書きできて、その意味を語ることができる。
- (B) 資料や原稿を見ながら真言密教の法話ができる。
- (A) 空海名言をベースにした体験談や例話をまじえた法話ができる。
- (S) 指定された空海名言の法話を創作して、それを人々に語って共感させることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

発表者の内容について、学生からも感想を述べたり、一つの課題について数人の学生が教壇で語りあったり、三分間スピーチなどによって法話を人の前で語る体験をする。

## その他

現代布教とは、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を利用することである。集めた資料は、推敲とヒラメキと直感によって個性的な内容になる。書き方と話し方にはコツがある。布教B（詠歌）と両方受講することが望ましい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として寺院で日常的に語る法話について、布教原理の学習と実習を通して伝道の重要性を認識させる。布教の知識と方法を学び、実際に法話づくりをする科目である。

科目名	漢字 I						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	M1-06-022	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

本講座は実践により、現在世界的にも特異な表意文字の重要性を理解することを思想の根底とする。古典の臨書を基本から学ぶことにより、書学において徹底的な法帖の形臨を土台に、背臨を経て文字結構の時代的特徴を認識し、自己批評や学生間での相互批評をもって最後は個々に作品課題の制作を行う。方法としては、手本を書いたり、添削をしたりせず、客観的な視点に立ち、受講生自身での発見からの実践を目的とした国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根底にした指導を行う。授業はすべて繁体字（旧漢字）をもって理解する。また書道学・漢字学を通して、東洋を中心とした美術学・史学・文学・哲学及び仏教学（密教学を含む）等他の学問分野に関連する意識を最重要視する。

## 授業の到達目標

1. 「眼高手低、手高眼低」を書学原点として、各時代における古典臨書の基本的認識。2. 「尚古思想」を根底に漢字を扱う上での歴史的関連性の認識。3. 最終的に作品創作をもって臨書で培った基礎を体現する。4. 緑に囲まれた自然豊かな高野山において日本の書聖空海を実践でもって感じる意識を持つ。5. 繁体字（旧漢字）の理解を持ち古代文献を扱う基礎とする。

## 授業計画

### 【前期】

1. ガイダンスによる書学上での注意点及び漢字の歴史の概要
2. 顔真卿「多寶塔碑」の形臨（2回目の受講生は「張猛龍碑」）①
3. 顔真卿「多寶塔碑」の形臨（Ⅱ）②
4. 顔真卿「多寶塔碑」の形臨（Ⅱ）③
5. 褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（2回目の受講生は「張玄墓誌」）①
6. 褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（Ⅱ）②
7. 褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（Ⅱ）③
8. 前半半紙臨書作品の提出。
9. 二つの法帖を比較臨書（形臨及び背臨）
10. 自分で法帖を1つに絞り、自身の考えた方法で創作に繋がる練習を行う。
11. 背臨課題における自身の理解度を確認する。
12. 写経創作①（歴史的写経の意義）
13. 写経創作②（写経体や異体字の認識）
14. 写経創作③（願文の書き方）
15. 予備（作品提出までの再度確認及び反復練習）

### 【後期】

1. 『嶧山刻石』の形臨（2回生以上は『礼器碑』）①
2. 『嶧山刻石』の形臨（Ⅱ）②
3. 『嶧山刻石』の形臨（Ⅱ）③
4. 鄧石如『白氏草堂記』（2回生以上は『礼器碑』以外を自分で選択）①
5. 鄧石如『白氏草堂記』（Ⅱ）の形臨②
6. 鄧石如『白氏草堂記』（Ⅱ）の形臨③
7. 前半半紙臨書作品の提出。呉讓之『崔子玉座右銘』の形臨①
8. 呉讓之『崔子玉座右銘』（Ⅱ）の形臨②
9. 呉讓之『崔子玉座右銘』（Ⅱ）の形臨③
10. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。①
11. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。②
12. 半切の制作に至る独自の練習①
13. 半切の制作に至る独自の練習②
14. 半切の制作に至る独自の練習③
15. 予備（作品提出までの再度確認及び反復練習）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の授業に備える。（120分以上）

## テキスト

・二玄社法書選（二玄社）：40 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』/56『鄧石如集』、58『呉熙載集』2回目の受講生……23『張猛龍碑』、26『墓誌銘集・下』/3『石門頌』、5『礼器碑』、8『曹全碑』、9『張遷碑』※写経用紙セット LA26-59（各書店にて購入）

## 参考書・参考資料等

・字書：『字源』、伏見沖敬編『書道字典』（角川書店）、『清人篆隸字典』（雄山閣）等・その他必要に応じてプリントを配布する。

## 学生に対する評価

基本的に提出作品による評価。（素点）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 法帖の形臨ができる。
- (B) 学んだ法帖の背臨ができる。
- (A) 臨書を基にした高いレベルでの創作ができる。
- (S) 自身で研究した長落款〔跋文〕を含めた高いレベルでの創作ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・休み時間の間に毎回の課題作品を前に貼ってもらい、授業の前半部分でフィードバックを行う。・毎回の課題は作品〔レポート〕として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

## その他

・筆（太筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、半紙、文鎮は個々に準備のこと〔ガイダンス時に詳しく説明する〕。・書道実技の講座として、毎回の課題が課され、授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。課題は半切画宣紙を使用する。・休み時間のうちにすべての準備を済ませ、授業に臨むこと。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が添削しながら上達させることを目的とする。

科目名	かな I						学期	通年
副題	-				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子
ナンバリング	M1-06-023	実務経験の有無	有	関連DP	2, 4	単位数	2	他 A

## 授業の目的と概要

【前期】日本独自の文字「かな」の成立の歴史を知り、その字母を覚える。かな文字の形や用筆・運筆を理解し正しく表現する技術を身につける。単体から連綿を学び、行書きから散らし書きへと発展させ作品に仕上げる。

【後期】かな古筆を臨書する意義と心得を理解する。かな I では高野山に伝来した「高野切」という古筆を中心に学ぶ。「高野切」の名の由来を知る。中身は『古今和歌集』を書いたものであり、その書風は仮名書道の最高峰として古来尊重される。日本書道史上もきわめて重要な作品であることを知り、書かれた料紙と体裁を学ぶ。「高野切第一種」「高野切第二種」「高野切第三種」3種類のそれぞれの書風を学び、特徴を理解し、読み取る力を養う。古筆の臨書をすることによりかなの基礎力を身につける。

## 授業の到達目標

【前期】「かな」成立の歴史を知り、ひらがな単体と変体仮名から二字連綿、三字連綿、行書きから俳句のちらし書きのかな創作ができるようになる。【後期】古筆の臨書の意義・方法を理解し、くりかえし臨書することにより基礎力を高め確実な臨書ができるようになる。臨書を活かした倣書から散らし作品を制作することができるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 講義目標・概要の解説・アンケート
2. かな成立の歴史を解説・かなの基本線の練習
3. 「いろは歌」による単体練習・字母説明
4. 「変体仮名」解説・実習・字母テスト
5. 「いろは歌」単体、作品提出
6. 連綿の解説・実習（二字連綿・三字連綿）
7. 連綿の解説・実習（多字連綿）
8. 行書きの実習1（蓬萊切の解説、実習）
9. 行書きの実習2（蓬萊切の実習）
10. 行書きの実習3（蓬萊切の実習、提出）
11. ちらし書きの解説・実習1資料作り
12. ちらし書きの実習2
13. ちらし書き創作1
14. ちらし書き創作2、作品提出
15. 古筆高野切解説、臨書の仕方解説と実習

### 【後期】

1. 古筆臨書（高野切第3種）1（実習第1首・第2首）
2. 古筆臨書（高野切第3種）2（実習第3首・第4首）
3. 古筆臨書（高野切第3種）3（実習第5首）
4. 古筆臨書（高野切第3種）4（実習第1～第5首1回目半紙）
5. 古筆臨書（高野切第3種）5（実習第1～第5首2回目清書用紙）
6. 古筆臨書（高野切第3種）6作品提出
7. 古筆臨書（高野切第1種）1（第1種解説、実習1～4行目）
8. 古筆臨書（高野切第1種）2（実習5～8行目）
9. 古筆臨書（高野切第1種）3（実習9～14行目）
10. 古筆臨書（高野切第1種）4（1～14行目実習1回目半紙）
11. 古筆臨書（高野切第1種）5（1～14行目実習2回目清書用紙）
12. 古筆臨書（高野切第1種）6作品提出
13. 古筆臨書（寸松庵色紙）散らしの解説および拡大臨書
14. 「高野切第一種」「高野切第三種」の資料から古今集を1つ選択し寸松庵色紙の散らしに書く。
15. まとめと総括 作品提出

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる（120分）事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。（60分）

## テキスト

関正人ほか14名 「書 I」 教育図書株式会社 平成28年検定済（「書 I 6 教図 書 I 3 0 6」）書店で購入

## 参考書・参考資料等

「日本名筆選 1 高野切第1種」二玄社、「日本名筆選 5 高野切第3種」二玄社、二玄社の法帖・古筆全般・かな字典

## 学生に対する評価

授業提出課題（70%）、授業への主体的な取り組み姿勢・態度（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 筆を正しく持ち、正しく運び、基本的な筆使いができる。
- (B) かな創作、古筆の臨書ができる。
- (A) かな創作、古筆の臨書が確実にできる。
- (S) 高いレベルでの創作、臨書が自分でできる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

## その他

テキスト及び書道具一式・筆（かな小筆）、かな用墨、かな半紙、硯、毛氈、文鎮、水差し、創作用の半懐紙、高野切練習用臨書用紙は個々に前もって購入すること。・粘り強く実習に取り組むこと。小筆は筆先が痛んだら、その都度買い替えること。・授業以外の課題が毎週課される。・授業中スマホ使用禁止。90分着席しておくことができるように集中力が必要。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とする。・前期欠席が5回になった時点で成績は出ない。出席不可。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	企画科目(加行 I) / 加行 I						学期	通年	
副題	-					授業方法	実習	担当者	密教学科主任
ナンバリング	M1-01-024	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	1	他	A

### 授業の目的と概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（前期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は前期加行（十八道／金剛界）とし、事後のレポートを作成する。

### 授業の到達目標

真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

### 授業計画

1. 加行申し込み：前期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2. 前期加行①
3. 前期加行②
4. 前期加行③
5. 前期加行④
6. 前期加行⑤
7. 前期加行⑥
8. 前期加行⑦
9. 前期加行⑧
10. 前期加行⑨
11. 前期加行⑩
12. 前期加行⑪
13. 前期加行⑫
14. 前期加行⑬
15. 前期加行結願後：所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。受講登録はこの時点で行うこと。

### 準備学習(予習・復習)・時間

加行での体験を整理し、文章化する (30 分)

### テキスト

加行監督者から指示する。

### 参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

### 学生に対する評価

加行結願 (50%)、事後レポート：テーマ「前期加行を終えて」2,000 字程度 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 前期加行の結願、および事後レポートの提出。
- (B) 上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
- (A) 上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
- (S) 上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時に講評を実施する。

### その他

・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。 ・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。 ・結願していない者のレポート提出は認めない。 ・事後レポートの未提出者の単位は認めない。 ・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	企画科目(加行Ⅱ)/加行Ⅱ					学期	通年		
副題	-				授業方法	実習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M2-01-025	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	1	他	A

### 授業の目的と概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（後期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は後期加行（胎蔵/護摩）とし、事後のレポートを作成する。

### 授業の到達目標

真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

### 授業計画

1. 加行申し込み：後期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2. 後期加行①
3. 後期加行②
4. 後期加行③
5. 後期加行④
6. 後期加行⑤
7. 後期加行⑥
8. 後期加行⑦
9. 後期加行⑧
10. 後期加行⑨
11. 後期加行⑩
12. 後期加行⑪
13. 後期加行⑫
14. 後期加行⑬
15. 後期加行成満後：掲示される所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。

### 準備学習(予習・復習)・時間

加行での体験を整理し、文章化する (30 分)

### テキスト

加行監督者から指示する。

### 参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

### 学生に対する評価

加行成満 (50%)、事後レポート：テーマ「後期加行を終えて」2,000 字程度 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 後期加行の成満、および事後レポートの提出。
- (B) 上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
- (A) 上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
- (S) 上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時に講評を実施する。

### その他

・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。 ・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。 ・結願していない者のレポート提出は認めない。 ・事後レポートの未提出者の単位は認めない。 ・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。



科目名	企画科目(巡礼・遍路A)／巡礼・遍路A					学期	通年		
副題	—				授業方法	講義	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M1-26-026	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

一定期間、日常を離れ、四国八十八ヶ所や西国三十三観音などの巡礼（一部でも可）することで、座学では得られない、体験を通じた身心の覚醒を図ることを目的としている。実習時間は 40 時間とし、事前に実習計画書を作成して提出する。実習期間中は実習日誌を作成し、40 時間分の実習を完了したら実習レポートと作成して提出する。

## 授業の到達目標

巡礼や遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養するとともに、計画を立てて実行し、報告する能力を身につける。

## 授業計画

1. 実習計画書の作成 : 実習時間は 1 日 4 時間～8 時間、最大 40 時間まで。
2. 実習計画書の提出 : 教務課窓口（実習予定 1 週間前まで）
3. 実習許可通知 : 教務課から連絡。
4. 実習開始
5. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
6. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
7. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
8. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
9. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
10. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
11. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
12. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
13. 実習終了
14. 実習レポートの作成 : 40 時間分の実習日誌に基づいてレポート（800 字以上）を作成。
15. 実習日誌・レポートの提出 : 教務課窓口へ提出。この時点で履修登録。

## 準備学習(予習・復習)・時間

・実習計画書作成のための学習（60 分） ・実習日誌作成（60 分） ・実習レポート作成による振り返り（60 分）

## テキスト

・特に無し

## 参考書・参考資料等

・実習計画書にあわせて指導する。

## 学生に対する評価

実習計画書（30%）、実習日誌（30%）、実習レポート（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 巡礼・遍路を自分で立てた計画に従って実施し、報告できる。
- (B) 巡礼・遍路の体験以前と以後の違いを説明できる。
- (A) 巡礼・遍路の意味を説明できる。
- (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえて、巡礼・遍路の意義を学術的に説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

実習レポートの講評を個別に実施する。

## その他

・実習は複数年度にわたってもよい。ただし実習を行う都度、1 週間前までに実習計画書を提出すること。 ・1 日の実習は、4 時間以上 8 時間以内とする（移動時間は適宜含めてよい）。 ・移動手段は自由に設定してよい。健康状態や事情に応じた現実的な実習計画を立てること。 ・大学主催の研修や旅行等への参加も巡礼・遍路の一環として認める。 ・課外授業用の保険に加入すること。 ・巡礼・遍路 B の履修をもって、本科目の実施に換えることもできる。

科目名	企画科目(巡礼・遍路B)／巡礼・遍路B						学期	前期	
副題	四国遍路の歴史と実際				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M1-01-027	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

弘法大師・空海によって開かれたといわれる四国八十八ヶ所霊場を巡る四国遍路の歴史や、四国の各地に残る弘法大師の伝説を学ぶ。また、現在おこなわれている四国遍路の実際を見ながら、四国遍路の魅力、そして、宗教と巡礼の関係を探る。四国遍路を実践するための、作法や計画の立て方などについての知識も得る。

## 授業の到達目標

四国遍路の歴史について説明できるようになる。/ 四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。/ 四国遍路の作法や計画の立て方を学び、それらを四国遍路の実践に活用できる。

## 授業計画

1. 四国遍路とは何か
2. 四国遍路の起源
3. 補陀落信仰・熊野信仰と四国遍路
4. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程①（近世まで）
5. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程②（近世以降）
6. 四国霊場の確立①（澄禅の遍路日記）
7. 四国霊場の確立②（真念の業績）
8. 近代（明治から戦後）の四国遍路
9. 四国遍路の習俗
10. 現代の四国遍路（社会学的考察）
11. 四国霊場巡拝の作法と実践へのアプローチ
12. 八十八ヶ所の霊場寺院概観
13. 四国に残る弘法大師の霊跡と、さまざまな番外霊場
14. 世界各地の巡礼
15. 試験と総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。(60分) / 講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(30分)

## テキスト

頼富本宏『四国遍路とはなにか』（角川選書）

## 参考書・参考資料等

愛媛大学四国遍路・世界の研究巡礼センター編『四国遍路の世界』（ちくま新書）/ 浅井証善『はじめての「四国遍路 88ヶ所めぐり」入門』（セルバ出版）/ 森正人『四国遍路 八八ヶ所巡礼の歴史と文化』/ 星野英紀・浅川泰宏『四国遍路 さまざまな祈りの世界』 など

## 学生に対する評価

試験・レポート（50%）、発表・質問（20%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
- (B) 四国遍路に関する基本用語を説明できる。
- (A) 四国遍路（八十八ヶ所巡礼）の成立と発展の過程を、古代から現代まで、時代の順に沿って説明できる。
- (S) 四国霊場の成立過程と現状を把握し、宗教における巡礼の意義を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、Eメールで受講者全員に回答と解説を提示する。/ 試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めします。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。

科目名	企画科目(巡礼・遍路C)／巡礼・遍路C							学期	後期
副題	－				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M1-01-028	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	－

## 授業の目的と概要

江戸時代初期の京都・智積院の学僧、澄禅が承応2年（1653）に約100日をかけて四国遍路をおこなった際の日記『四国辺路日記』を読みながら、江戸時代におこなわれていた四国遍路の実際を学び、四国遍路の歴史や宗教的意義、習俗などについて理解する。また、写真や動画資料、地図などを用い、現在の霊場寺院や遍路道などと比較しながらそれらの変遷をたどり、四国遍路の実践に役立つ情報を得る。

## 授業の到達目標

四国遍路の歴史について説明できるようになる。／ 四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。／ 四国遍路の習俗について、文化史の立場から理解する。

## 授業計画

1. 四国遍路とは何か
2. 四国遍路の歴史を概観する
3. 江戸時代におこなわれた四国遍路のシステム化
4. 江戸時代のさまざまな遍路記（澄禅の『四国辺路日記』とは何か）
5. 阿波の行程（高野山から四国へ、井戸寺から太龍寺まで）
6. 阿波から土佐へ（平等寺から土佐国分寺まで）
7. 土佐の行程（土佐一宮・善楽寺から足摺岬の金剛福寺まで）
8. 土佐から伊予へ（延光寺から岩屋寺まで）
9. 伊予の行程①（浄瑠璃寺から八幡宮・栄福寺まで）
10. 伊予の行程②（太山寺から三角寺まで）
11. 伊予から讃岐へ（作礼山・仙遊寺から弥谷寺まで）
12. 讃岐の行程①（曼荼羅寺から白峯寺まで）
13. 讃岐の行程②（根香寺から大窪寺まで）
14. 再び阿波へ（切畑寺から霊山寺まで）
15. 総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。(60分) / 講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(30分)

## テキスト

澄禅『四国辺路日記』 ※コピーを配布

## 参考書・参考資料等

伊予史談会編『四国霊場記集』（伊予史談会） / 宮崎忍勝『澄禅 四国遍路日記』（大東出版社） / 柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路 澄禅『四国辺路日記』の道再現』（法蔵館） / 武田和昭『四国辺路の形成過程』（岩田書院） など

## 学生に対する評価

レポート（50%）、発表・質問（20%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
- (B) 四国遍路に関する基本用語を説明できる。
- (A) 江戸時代の四国遍路（八十八ヶ所巡礼）の状況について、具体的に説明できる。
- (S) 江戸時代の漢字仮名交じり文の資料を用い、四国霊場の成立過程や習俗についてみずから考察することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、Eメールで受講者全員に回答と解説を提示する。

## その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めします。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。

科目名	密教学概論 I A／密教学概論A／真言宗の教え(別)1							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M2-01-029	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観する。

### 授業の到達目標

密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。

### 授業計画

1. 講義内容の説明
2. 真言密教の立場
3. 東密と台密の違い
4. 東密と台密の違い
5. 教判論
6. 顕密二教判
7. 顕密に教判
8. 十住心教判
9. 十住心教判
10. 六大体大
11. 六大体大
12. 四曼相大
13. 三密用大
14. 三密用大
15. 総まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習としてテキストの該当ページを読んでおくこと（60分）。事後学習として授業の内容を再整理するとともに 関連文献に目を通すこと（90分）。

### テキスト

高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

### 参考書・参考資料等

①松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店②勝又俊教著『密教入門』春秋社③金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫④佐和隆研編『密教辞典』法藏館⑤中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店他

### 学生に対する評価

試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本的な用語を理解している。
- (B) 配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を説明できる。
- (A) 配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
- (S) 配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックを行う。最後の授業において総まとめを行うとともにフィードバックを行う。

### その他

講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートにとること。

科目名	密教学概論ⅡB／密教学概論B／真言宗の教え(別)2							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M2-01-030	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観し、理解する。

### 授業の到達目標

密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的に理解することができる。

### 授業計画

1. 講義内容の説明
2. 仏身論
3. 大日如来と釈尊との関係（応身）
4. 大日如来と釈尊との関係（法身）
5. 大日如来論（除闇編明）
6. 大日如来論（能成衆務光無生滅）
7. 五智について
8. 五智と五仏
9. 本地身と加持身
10. 両部曼荼羅（金剛界曼荼羅）
11. 両部曼荼羅（胎藏曼荼羅）
12. 両部曼荼羅（九会、十三大院等）
13. 成仏論
14. 成仏への階梯
15. 即身成仏

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習としてテキストの該当ページを読んでおくこと（60分）。事後学習として授業の内容を再整理するとともに 関連文献に目を通すこと（90分）。

### テキスト

高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

### 参考書・参考資料等

①松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店②勝又俊教著『密教入門』春秋社③金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫④佐和隆研編『密教辞典』法藏館⑤中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店

### 学生に対する評価

試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本的な用語を理解している。
- (B) 配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を説明できる。
- (A) 配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
- (S) 配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックを行う。最後の授業において総まとめを行うとともにフィードバックを行う。

### その他

講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートにとること。

科目名	密教史概説 I A / 密教史概説 A							学期	前期
副題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4		単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インド密教がどのようにして形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点を映像資料なども参考にしながら学ぶ。

### 授業の到達目標

上座部仏教、一般大乘仏教に対する密教の特色を説明できる。インド・チベット仏教における密教経典分類法を説明できる。インド・チベット密教史の大まかな流れを理解し、説明できる。

### 授業計画

1. ガイダンスならびに授業概要説明
2. インド・チベット仏教における密教経典分類法
3. インド初期密教 萌芽から形成へ
4. インド中期密教 組織化の時代1：『大日経』の密教
5. インド中期密教 組織化の時代2：『金剛頂経』の密教
6. インド後期密教 新たな展開1：父タントラの密教
7. インド後期密教 新たな展開2：母タントラ・不二タントラの密教
8. 古代チベット王国と仏教の伝来
9. 仏教国教化への道のり
10. 古代チベット王国の崩壊と仏教の復興
11. 諸宗派の形成1：アティージャとカーダム派、サキャ派
12. 諸宗派の形成2：カギユ派、ニンマ派
13. 諸宗派の形成3：ゲルク派
14. ゲルク派の覇権
15. 試験と総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考資料の次の授業範囲を読んでおくこと(90分)。事後学修として、ノートを読み直し、必要事項を記憶すること(90分)。

### テキスト

特になし。

### 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教の歴史』平楽寺書店、1969年 ②立川武蔵・頼富本宏編『インド密教』春秋社、1999年 ③立川武蔵・頼富本宏編『チベット密教』春秋社、2005年

### 学生に対する評価

課題レポート(20%)、期末試験(80%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教、大乘仏教、密教、上座部仏教の関係が説明できる。
- (B) インド・チベット仏教における密教経典分類法が説明できる。
- (A) チベット仏教の四大宗派の特徴が説明できる。
- (S) インド・チベット密教史の流れが概括的に説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

遅刻3回で1欠席と見なす。

科目名	密教史概説ⅡB／密教史概説B							学期	後期
副題	東アジア世界と密教				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—	

## 授業の目的と概要

インドに起こった密教が、東アジア世界にどのように伝わり、受容されていくのかの過程について、歴史学の立場から、最新の研究成果をふまえて概観する。弘法大師空海によって体系化された密教が、その後の日本仏教のなかで、どのように社会の求めに応え、根付いていくのかを中心的なテーマとする。

## 授業の到達目標

①インドに生まれた密教が、唐代の中国で隆盛し、弘法大師空海によって日本に伝えられた後、日本仏教の中でどのように根付き、展開を遂げるのかについて、その歴史的変遷を理解する。②密教の歴史的展開を理解したうえで、これからの日本社会において密教がどのようにあるべきかについて、自分なりの考えを提示できるようになる。

## 授業計画

1. 密教史を学ぶことの意義
2. 中国への密教伝来
3. 奈良時代の日本における「密教的要素」
4. 唐代の密教隆盛
5. 最澄・空海による密教の請来
6. 空海による真言密教の確立
7. 天台宗の密教化
8. 密教修法の隆盛と真言密教の分派
9. 覚鑿による革新
10. ユーラシア帝国・元とアジア諸国の密教受容
11. 密教と鎌倉仏教
12. 密教と戒律復興運動
13. 密教教学の発展
14. 江戸時代の戒律復興運動と密教
15. 近代社会と密教

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60分）

## テキスト

テキストは使用せず、テーマごとに配布する講義資料（レジュメ）を用いる。

## 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教の歴史〈サーラ叢書19〉』（平楽寺書店、2007年。初版は1969年） ②立川武蔵・頼富本宏編『中国密教〈シリーズ密教3〉』（春秋社、2005年。初版は1999年） ③立川武蔵・頼富本宏編『日本密教〈シリーズ密教4〉』（春秋社、2005年。初版は2000年） その他、授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業で行う課題（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 東アジア世界への密教の伝来と受容のあゆみを理解する。
- (B) 東アジア世界における密教の変容について論理的に説明できる。
- (A) 密教が東アジア、特に日本仏教の歴史の中でどのような役割を担ってきたのかを論理的に説明できる。
- (S) 東アジアにおける密教のあゆみを理解し、これからの密教のあり様について展望することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

毎回の授業テーマにおいては、中国密教や日本密教、真言宗にゆかりの深い寺院などを紹介する。受講生は、積極的にその地を訪ね、日本密教や真言宗の歴史について理解を深めることを望む。

科目名	仏教史概説 I A／仏教史概説A／釈尊の生涯(別)						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-033	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史的変容を被りながら展開して行ったかについて理解する。

### 授業の到達目標

仏教がインドのいかなる思想を背景に誕生し、いかなる歴史的変容を被りながら展開して行ったかについての基本的知識を身につける。

### 授業計画

1. 導入：仏教が興起する以前のインド
2. バラモン教の思想：ヴェーダの思想的特徴
3. ヴェーダの思想的特徴
4. 古ウパニシャッドの思想①（ブラフマン）
5. 古ウパニシャッドの思想②（梵我一如）
6. 反ヴェーダ思想（六師外道）
7. ジャイナ教の思想
8. 釈尊の誕生から成道までの歴史概観
9. 初期仏教思想の特徴①（縁起）
10. 初期仏教思想の特徴②（慈悲）
11. 大乘諸派の（思想全般）
12. 『般若経』の特徴
13. 『法華経』の特徴
14. 『華嚴経』の特徴
15. 初期仏教と大乘の思想的相違点

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60分）

### テキスト

担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。

### 参考書・参考資料等

授業時に必要に応じて紹介する。

### 学生に対する評価

期末試験（100%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている
- (B) ヴェーダの基本的思想を理解し、ウパニシャッドにおける梵我一如の思想を理解していること。
- (A) (B) の理解を踏まえ、初期仏教における「縁起」の思想を理解していること。
- (S) (B)・(A) の理解に加え、初期仏教と大乘の思想の違いについて、自身の見解を明らかにし得る能力を有していること。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他



科目名	仏教史概説ⅡB／仏教史概説B							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-034	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

最初に「釈尊の生涯」を概観する。次に、仏教史の展開において、中国仏教史からはじめ、日本における仏教伝来期から奈良・平安・鎌倉と展開する仏教思想の特徴を概説し、特に平安期における最澄と空海の思想的相違点について理解する。

### 授業の到達目標

仏教史の中でも特に日本仏教の特徴について概説できるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーション 「釈尊の生涯」概観
2. 中国仏教の特徴（特に教相判釈を中心として）
3. 大乘非仏説論（富永仲基の『出定後語』を中心として）
4. 仏教伝来期の日本の様相
5. 奈良（南都）仏教の特徴について
6. 平安仏教の特徴（総説）
7. 最澄の思想
8. 空海の思想①（『十住心論』）
9. 空海の思想②（『即身成仏義』）
10. 空海の思想③（『般若心経秘鍵』）
11. 鎌倉仏教（総説）
12. 真言宗・浄土（浄土真宗）の思想的相違点
13. 禅宗（特に曹洞宗）の思想的特徴
14. 菩提志向・現世利益
15. 仏教思想の普遍性について

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことを復習する（60分）

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

担当者が必要に応じて紹介する。

### 学生に対する評価

授業参加への積極性（30%）、学期末の試験（70%）によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 日本仏教史の特徴を菩提志向と救済論的な側面から分析する能力を有すること。
- (A) 仏教の歴史を的展開を時代ごとの思想的特徴を踏まえて説明できる。
- (S) 仏教思想を現代の諸問題に応用して、説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

ノートを漏らさずとり、欠席しないこと。復習を欠かさない。

科目名	祖典講読 I A・B						学 期	前期	
副 題	『即身成仏義』を読む 1				授業方法	講義	担当者	A松長潤慶 B土居夏樹	
ナンバリング	M2-01-035	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

## 授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

## 授業計画

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは？－三劫成仏と即身成仏－
3. 『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答
6. " (2) 二經一論八箇の証文① 『金剛頂經』
7. " (3) 二經一論八箇の証文② 『大日經』
8. " (4) 二經一論八箇の証文③ 『菩提心論』
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)
13. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」 ① 六大の秘義 (前編)
14. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」 ② 六大の秘義 (後編)
15. 前期のまとめ－即身成仏思想の特徴

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所を素読を行うこと (60分)。 ・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。 ・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

## テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

## 参考書・参考資料等

①中川善教『漢と対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 「発端問答」と「二頌八句」を暗誦できる。  
 (B) 「発端問答」と「二頌八句」を暗誦でき、「二經一論八箇の証文」の内容を把握している。  
 (A) 「発端問答」と「二頌八句」の暗誦、「二經一論八箇の証文」の内容把握に加えて、基本的な用語を把握している。  
 (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえ、即身成仏思想の特徴を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅡA・B						学期	後期	
副題	『即身成仏義』を読む 2				授業方法	講義	担当者	A松長潤慶 B土居夏樹	
ナンバリング	M2-01-036	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカバーして、テキストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後は、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。

## 授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

## 授業計画

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (11) 「六大能生」①
3.                   "                   (12) 「六大能生」②
4.                   "                   (13) 「六大の顕密／無碍自在の身」
5.                   "                   (14) 「四種曼荼各不離」 ① 三種秘密身
6.                   "                   (15) 「四種曼荼各不離」 ② 四種曼荼羅・四種智印
7.                   "                   (16) 「三密加持速疾顕」 ① 法仏の三密と三密行
8.                   "                   (17) 「三密加持速疾顕」 ② 『五秘密儀軌』
9.                   "                   (18) 「三密加持速疾顕」 ③ 加と持
10.                  "                   (19) 「重重帝網名即身」
11.                  "                   (20) 「法然具足薩般若」
12.                  "                   (21) 「心数心王過刹塵」
13.                  "                   (22) 「各具五智無際智」
14.                  "                   (23) 「円鏡力故実覚智」
15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所を素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

## テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

## 参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。  
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。  
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。  
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読 I A・B／真言宗典講読1(別)					学期	通年
副題	『即身成仏義』を読む			授業方法	講義	担当者	A松長潤慶 B土居夏樹
ナンバリング	M2-01-037	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4 他

## 授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

## 授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは？－三劫成仏と即身成仏－
3. 『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答
6. " (2) 二経一論八箇の証文①『金剛頂経』
7. " (3) 二経一論八箇の証文②『大日経』
8. " (4) 二経一論八箇の証文③『菩提心論』
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)
13. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 六大の秘義 (前編)
14. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 六大の秘義 (後編)
15. 前期のまとめ－即身成仏思想の特徴

### 【後期】

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (11) 「六大能生」①
3. " (12) 「六大能生」②
4. " (13) 「六大の顕密／無碍自在の身」
5. " (14) 「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6. " (15) 「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7. " (16) 「三密加持速疾頌」① 法仏の三密と三密行
8. " (17) 「三密加持速疾頌」② 『五秘密儀軌』
9. " (18) 「三密加持速疾頌」③ 加と持
10. " (19) 「重重帝網名即身」
11. " (20) 「法然具足薩婆若」
12. " (21) 「心教心王過利塵」
13. " (22) 「各具五智無際智」
14. " (23) 「円鏡力故実覺智」
15. 後期のまとめ－即身成仏とは何か

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

## テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

## 参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。  
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。  
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。  
 (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅡA／真言宗典講読2(別)					学期	通年		
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-038	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

『即身成仏義』、『声字実相義』とともに「三部書」に数えられる『吽字義』は、〈心〉や〈自己〉といった問題について、それを〈吽〉という真言の意味内容から説き明かしている。『吽字義』を原典から読み進め、弘法大師の人間観・生命観に触れつつ、それが真言密教の実践とどのように関わっているのかを教学における真言の意味と教理が、実践行とどのように関連しているのかについての理解を深める。

## 授業の到達目標

弘法大師の著作を原典から触れつつ、真言密教の思想と実践の関連を理解する。

## 授業計画

### 【前期】

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 『吽字義』概論①仏教における言語観
3. 『吽字義』概論②字相と字義
4. 『吽字義』概論③吽字とは？
5. 『吽字義』を読む① タイトル/総論
6. 『吽字義』を読む② 賀字の字相
7. 『吽字義』を読む③ 阿字の字相
8. 『吽字義』を読む④ 汗字の字相
9. 『吽字義』を読む⑤ 麼字の字相
10. 『吽字義』を読む⑥ 訶字の実義 (1) 因不可得
11. 『吽字義』を読む⑦ 訶字の実義 (2) 諸法法界
12. 『吽字義』を読む⑧ 阿字の実義 (1) 阿字の三義
13. 『吽字義』を読む⑧ 阿字の実義 (2) 本不生
14. 『吽字義』を読む⑨ 阿字の実義 (3) 輪廻とマングラ
15. 前期の復習とレポート提出

### 【後期】

1. 前期のまとめと講義の進め方
2. 『吽字義』を読む⑩ 汗字の実義 (1) 損減不可得
3. 『吽字義』を読む⑪ 汗字の実義 (2) 損減の六義
4. 『吽字義』を読む⑫ 汗字の実義 (3) 施陀羅尼
5. 『吽字義』を読む⑬ 汗字の実義 (4) 偈頌による解釈 (前編)
6. 『吽字義』を読む⑭ 汗字の実義 (5) 偈頌による解釈 (後編)
7. 『吽字義』を読む⑮ 麼字の実義 (1) 吾我不可得
8. 『吽字義』を読む⑯ 麼字の実義 (2) 無我の大我
9. 『吽字義』を読む⑰ 吽字の合説 (1) 別相
10. 『吽字義』を読む⑱ 吽字の合説 (2) 通相
11. 『吽字義』を読む⑲ 吽字の合説 (3) 因行因果
12. 『吽字義』を読む⑳ 吽字合説の余義 (1) 余義 (前編)
13. 『吽字義』を読む㉑ 吽字合説の余義 (2) 余義 (後編)
14. 『吽字義』のまとめ 縁起生と本不生
15. 後期の復習とレポート提出

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として『吽字義』の中で該当する部分について目を通し読んでおくこと (90分)。事後学修として講義内容を踏まえてノートを再整理すること。

## テキスト

高野山大学編『十卷章』高野山出版

## 参考書・参考資料等

中川善教『漢和对照十卷章』、高野山出版社、1977年 小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社、1985年 宮坂宥勝監修『空海コレクション』2、ちくま学芸文庫、2004年 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業参加への積極性 (40%) レポート (60%) とし評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 原典の音読ができる。
- (B) 原典の基本的な内容を理解できる。
- (A) 原典にしたがって全体像を理解できる。
- (S) 原典の内容を注釈書に沿って理解できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックをおこなう。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名するので、必ず予習をして参加すること。 ・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。

科目名	宗典講読A					学期	通年		
副題	両部の大経を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-039	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

真言宗で「両部の大経」として最も大切にされる『大日経』と『金剛頂経』を読みながら、密教の基本的な思想を理解する。前期には、『大日経』の梵字を用いた観法や成就法を説く部分を取り上げ、密教における言語論と実践法の結び付きについて学ぶ。後期には、『金剛頂経』（不空訳三巻本）を読みながら、即身成仏の理論と、金剛界曼荼羅のシステムについて学ぶ。

## 授業の到達目標

漢文読解力と密教経典や注釈書等に対する知識を培い、説明できるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. インド密教史概説
2. 『大日経』とはどのような経典か
3. 梵語のアルファベットを知る
4. 「具縁品」が説く真言の相と功德
5. 「具縁品」が説く二十九字門①（『大日経疏』が説くA字の象徴性）
6. 「具縁品」が説く二十九字門②（KA字からHA字までの28文字の意味）
7. 「悉地出現品」を読む①（悉地とは何か）
8. 「悉地出現品」を読む②（真言の功德）
9. 「悉地出現品」を読む③（五字藏身観の原形）
10. 「字輪品」を読む（三部種子と四轉）
11. 「阿闍梨真實智品」・「布置品」を読む（布置観による即身成仏）
12. 「説百字生品」・「百字果相成成」・「百字位成成」を読む（阿字観の原形）
13. 「百字成就持誦品」・「百字真言法品」・「説菩提性品」を読む（四十二字門と百光遍照王）
14. 「説本尊三昧品」・「説無相三昧品」・「世出世持誦品」を読む（三種の本尊と念誦の方法）
15. 試験と総括

### 【後期】

1. インド密教史における『金剛頂経』の位置
2. 『金剛頂経』の広本と略本について
3. 不空訳三巻本の構成
4. 「初加行の三摩地」を読む（五相成身観）
5. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む①（金剛囉唾の出生）
6. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む②（金剛王・金剛愛・金剛喜の出生）
7. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む③（金剛宝・金剛光・金剛幢・金剛笑の出生）
8. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む④（金剛法・金剛利・金剛因・金剛語の出生）
9. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む⑤（金剛業・金剛護・金剛牙・金剛拳の出生）
10. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む⑥（四波羅蜜・内四供養女の出生）
11. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む⑥（外四供養女・四撰の出生）
12. 「最勝羯磨王の三摩地」を読む①（一切如来の集会と百八勧請）
13. 「最勝羯磨王の三摩地」を読む②（図繪曼荼羅）
14. 「最勝羯磨王の三摩地」を読む③（曼荼羅に入る阿闍梨の作法）
15. 試験と総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

## テキスト

漢訳の『大日経』と『金剛頂経』（不空訳三巻本） ※コピーを配布

## 参考書・参考資料等

〔前期〕 福田亮成『新国訳大蔵経・密教部 1 大日経』（大蔵出版） / 頼富本宏『『大日経』入門 慈悲のマンダラ世界』（大法輪閣） / 越智淳仁『はじめての「大日経」入門』（セルバ出版） / 高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社） \* 〔後期〕 松長有慶他『新国訳大蔵経・密教部 4 金剛頂経・理趣経他』（大蔵出版） / 頼富本宏『『金剛頂経』入門 即身成仏への道』（大法輪閣） / 津田真一『梵文和訳 金剛頂経』（春秋社） / 高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社） など

## 学生に対する評価

試験・レポート（40%）、発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 『大日経』・『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 『大日経』・『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 『大日経』・『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、回答と解説をEメールで受講者全員に提示する。 / 試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	宗典講読B					学期	通年		
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	M3-01-040	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道・金剛界・胎蔵界・一尊法の各種次第への理解を深める。前期では十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『阿閼法』、『烏芻澁麼儀軌』などを平行して読む。後期では『大日経』関連の一尊法の儀軌として『聖観自在儀軌』、『七支念誦法』、『立印儀軌』など、『金剛頂経』系の儀軌として『蓮華部心軌』、『如意輪瑜伽』、『文殊菩薩供養法』、『五秘密儀軌』などを読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較① (灌頂と受法について)
3. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較② (修法する場所について)
4. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較③ (壇場莊嚴について)
5. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較④ (浄三業・礼拝・五悔について)
6. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑤ (著座・塗香・三部被甲について)
7. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑥ (結界法について)
8. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑦ (莊嚴道場法について)
9. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑧ (勧請法について)
10. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑨ (結齋法について)
11. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑩ (供養法について)
12. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑪ (入我我入と本尊加持について)
13. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑫ (正念誦について)
14. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑬ (字輪観について)
15. 十八道関車の秘密儀軌の講読・比較⑭ (出堂までの行法、その他)

### 【後期】

1. 『大日経』系の儀軌を読む① (三昧耶)
2. 『大日経』系の儀軌を読む② (『七支念誦法』を読む)
3. 『大日経』系の儀軌を読む③ (『聖観自在儀軌』を読む)
4. 『大日経』系の儀軌を読む④ (『立印儀軌』を読む)
5. 『大日経』系の儀軌を読む⑤ (『立印儀軌』を読む)
6. 『大日経』系の儀軌を読む⑥ (『立印儀軌』を読む)
7. 『金剛頂経』系の儀軌を読む① (『蓮華部心軌』前半を読む)
8. 『金剛頂経』系の儀軌を読む② (『蓮華部心軌』後半を読む)
9. 『金剛頂経』系の儀軌を読む③ (五相成身について)
10. 『金剛頂経』系の儀軌を読む④ (『如意輪瑜伽』前半を読む)
11. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤ (『如意輪瑜伽』後半を読む)
12. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥ (『文殊菩薩供養法』前半を読む)
13. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦ (『文殊菩薩供養法』後半を読む)
14. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧ (『五秘密儀軌』前半を読む)
15. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨ (『五秘密儀軌』後半を読む)

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと (90分)

## テキスト

浄厳の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

## 参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』など

## 学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (20%)、授業参加の積極性 (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者 (伝法灌頂を入壇した者) のみが受講できる。

科目名	祖典講読ⅢA							学期	前期	
副題	『呬字義』を読む(1)				授業方法	講義	担当者	土居夏樹		
ナンバリング	M3-01-041	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 5		単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『即身成仏義』、『声字実相義』とともに「三部書」に数えられる『呬字義』は、〈心〉や〈自己〉といった問題について、それを〈呬〉という真言の意味内容から説き明かしている。『呬字義』を原典から読み進め、弘法大師の人間観・生命観に触れつつ、それが真言密教の実践とどのように関わっているのかを教学における真言の意味と教理が、実践行とどのように関連しているのかについての理解を深める。

## 授業の到達目標

弘法大師の著作を原典から触れつつ、真言密教の思想と実践の関連を理解する。

## 授業計画

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 『呬字義』概論①仏教における言語観
3. 『呬字義』概論②字相と字義
4. 『呬字義』概論③呬字とは？
5. 『呬字義』を読む ① タイトル/総論
6. 『呬字義』を読む ② 賀字の字相
7. 『呬字義』を読む ③ 阿字の字相
8. 『呬字義』を読む ④ 汗字の字相
9. 『呬字義』を読む ⑤ 麼字の字相
10. 『呬字義』を読む ⑥ 訶字の実義 (1) 因不可得
11. 『呬字義』を読む ⑦ 訶字の実義 (2) 諸法法界
12. 『呬字義』を読む ⑧ 阿字の実義 (1) 阿字の三義
13. 『呬字義』を読む ⑧ 阿字の実義 (2) 本不生
14. 『呬字義』を読む ⑨ 阿字の実義 (3) 輪廻とマンダラ
15. 前期の復習とレポート提出

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として『呬字義』の中で該当する部分について目を通し読んでおくこと (90分)。事後学修として講義内容を踏まえてノートを再整理すること。

## テキスト

高野山大学編『十卷章』高野山出版

## 参考書・参考資料等

中川善教『漢和対照十卷章』、高野山出版社、1977年 小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社、1985年 宮坂宥勝監修『空海コレクション』2、ちくま学芸文庫、2004年 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業参加への積極性 (40%) レポート (60%) とし評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 原典の音読ができる。
- (B) 原典の基本的な内容を理解できる。
- (A) 原典にしたがって全体像を理解できる。
- (S) 原典の内容を注釈書に沿って理解できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックをおこなう。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名するので、必ず予習をして参加すること。 ・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。



科目名	祖典講読ⅣA							学期	後期
副題	『吽字義』を読む(2)				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-042	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『即身成仏義』、『声字実相義』とともに「三部書」に数えられる『吽字義』は、〈心〉や〈自己〉といった問題について、それを〈吽〉という真言の意味内容から説き明かしている。『吽字義』を原典から読み進め、弘法大師の人間観・生命観に触れつつ、それが真言密教の実践とどのように関わっているのかを教学における真言の意味と教理が、実践行とどのように関連しているのかについての理解を深める。後期は、「汗字の実義」から読み進める。

## 授業の到達目標

弘法大師の著作を原典から触れつつ、真言密教の思想と実践の関連を理解する。

## 授業計画

1. 前期のまとめと講義の進め方
2. 『吽字義』を読む ⑩ 汗字の実義 (1) 損減不可得
3. 『吽字義』を読む ⑪ 汗字の実義 (2) 損減の六義
4. 『吽字義』を読む ⑫ 汗字の実義 (3) 旋陀羅尼
5. 『吽字義』を読む ⑬ 汗字の実義 (4) 偈頌による解釈 (前編)
6. 『吽字義』を読む ⑭ 汗字の実義 (5) 偈頌による解釈 (後編)
7. 『吽字義』を読む ⑮ 麼字の実義 (1) 吾我不可得
8. 『吽字義』を読む ⑯ 麼字の実義 (2) 無我の大我
9. 『吽字義』を読む ⑰ 吽字の合説 (1) 別相
10. 『吽字義』を読む ⑱ 吽字の合説 (2) 通相
11. 『吽字義』を読む ⑲ 吽字の合説 (3) 因行証果
12. 『吽字義』を読む ⑳ 吽字合説の余義 (1) 余義 (前編)
13. 『吽字義』を読む ㉑ 吽字合説の余義 (2) 余義 (後編)
14. 『吽字義』のまとめ 縁起生と本不生
15. 後期の復習とレポート提出

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として『吽字義』の中で該当する部分について目を通し読んでおくこと (90分)。事後学習として講義内容を踏まえてノートを再整理すること。

## テキスト

高野山大学編『十卷章』高野山出版

## 参考書・参考資料等

中川善教『漢和対照十卷章』、高野山出版社、1977年 小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社、1985年 宮坂宥勝監修『空海コレクション』2、ちくま学芸文庫、2004年 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業参加への積極性 (40%) レポート (60%) とし評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 原典の音読ができる。
- (B) 原典の基本的な内容を理解できる。
- (A) 原典にしたがって全体像を理解できる。
- (S) 原典の内容を注釈書に沿って理解できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックをおこなう。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名するので、必ず予習をして参加すること。 ・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。

科目名	密教学講読演習A							学期	後期
副題	密教図像に関する体系的学習				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-01-043	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を經由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマーラー』や『ニシュパナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

### 授業の到達目標

密教尊像の基本的な知識を身につけ、主として曼荼羅の成立と展開を考察する。

### 授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 曼荼羅概論（1）
3. 曼荼羅概論（2）
4. 曼荼羅概論（3）
5. 曼荼羅のあけぼの
6. 三部の成立
7. 八大菩薩
8. 胎蔵五仏の成立
9. 現図曼荼羅の成立
10. 南天鉄塔の謎
11. 三部から五部へ
12. 教理命題の尊格化
13. 五元論の完成
14. 後期密教の曼荼羅
15. レポート試験・講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週1時間。

### テキスト

大正新脩大蔵経図像部

### 参考書・参考資料等

松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年 頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

### 学生に対する評価

発表及び提出物（100%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える
- (B) 密教尊像に関する知識を得る
- (A) 密教図像に関する資料を扱える
- (S) 密教図像成立を体系的に理解できる

### 課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

### その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

科目名	密教学講読演習H							学期	前期
副題	『大日経』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-044	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

漢訳の『大日経』を、『大日経疏』を参照しながら読む。本年度は、サンスクリットの文字（梵字）を用いた観法や成就法を説く部分を取り上げ、密教における、延いてはインドにおける言語観を理解する。/ 弘法大師・空海は、『大日経』に基づいて独自の言語哲学を構築しており、弘法大師の思想を理解する上においても基礎となる知識を習得できる。/ また、阿字観や四度加行などの実践に関わる知識もあわせて修得する。

## 授業の到達目標

漢文読解力と密教経典や注釈書等に対する知識を培を培い、説明できるようになる。

## 授業計画

1. インド密教史概説
2. 『大日経』とはどのような経典か
3. 梵語のアルファベットを知る
4. 「具縁品」が説く真言の相と功德
5. 「具縁品」が説く二十九字門①（『大日経疏』が説くA字の象徴性）
6. 「具縁品」が説く二十九字門②（KA字からHA字までの28文字の意味）
7. 「悉地出現品」を読む①（悉地とは何か）
8. 「悉地出現品」を読む②（真言の功德）
9. 「悉地出現品」を読む③（五字巖身観の原形）
10. 「字輪品」を読む（三部種子と四転）
11. 「阿闍梨真実智品」・「布置品」を読む（布置観による即身成仏）
12. 「説百字生品」・「百字果相応品」・「百字位成品」を読む（阿字観の原形）
13. 「百字成就持誦品」・「百字真言法品」・「説菩提性品」を読む（四十二字門と百光遍照王）
14. 「説本尊三昧品」・「説無相三昧品」・「世出世持誦品」を読む（三種の本尊と念誦の方法）
15. 試験と総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

## テキスト

漢訳『大日経』および『大日経疏』 ※コピーを配布

## 参考書・参考資料等

福田亮成『新国訳大蔵経・密教部1 大日経』（大蔵出版）/ 頼富本宏『『大日経』入門 慈悲のマンダラ世界』（大法輪閣）/ 越智淳仁『はじめての「大日経」入門』（セルバ出版）/ 高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社） など

## 学生に対する評価

試験・レポート（40%）、発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、回答と解説をEメールで受講者全員に提示する。/ 試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	密教学講読演習I							学期	後期
副題	『金剛頂経』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-045	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

不空訳の『三巻本・教王経』（本年度は、巻上から巻中まで）を読み、①『金剛頂経』が説く即身成仏の理論と仏身論、②金剛界曼荼羅の構造と四部（あるいは五部）の組織について理解する。漢文テキストの講読であるが、必要に応じてサンスクリット原典やチベット語訳の注釈書を参照する（ただし、講師が和訳を提示）。

## 授業の到達目標

漢文読解力と密教経典や注釈書等に対する知識を培を培い、説明できるようになる。

## 授業計画

1. インド密教史における『金剛頂経』の位置
2. 『金剛頂経』の広本と略本について
3. 不空訳三巻本の構成
4. 「初加行の三摩地」を読む（五相成身観）
5. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む①（金剛薩埵の出生）
6. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む②（金剛王・金剛愛・金剛喜の出生）
7. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む③（金剛宝・金剛光・金剛幢・金剛笑の出生）
8. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む④（金剛法・金剛利・金剛因・金剛語の出生）
9. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む⑤（金剛業・金剛護・金剛牙・金剛拳の出生）
10. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む⑥（四波羅蜜・内四供養女の出生）
11. 「最勝曼荼羅王の三摩地」を読む⑥（外四供養女・四撰の出生）
12. 「最勝羯磨王の三摩地」を読む①（一切如来の集会と百八勧請）
13. 「最勝羯磨王の三摩地」を読む②（図絵曼荼羅）
14. 「最勝羯磨王の三摩地」を読む③（曼荼羅に入る阿闍梨の作法）
15. 試験と総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

## テキスト

漢訳『金剛頂経』（不空訳・三巻本） ※コピーを配布

## 参考書・参考資料等

松長有慶他『新国訳大蔵経・密教部4 金剛頂経・理趣経他』（大蔵出版） / 頼富本宏『『金剛頂経』入門 即身成仏への道』（大法輪閣） / 津田真一『梵文和訳 金剛頂経』（春秋社） / 高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社） など

## 学生に対する評価

試験・レポート（40%）、発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 『金剛頂経』（不空訳・三巻本）の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 『金剛頂経』（不空訳・三巻本）の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 『金剛頂経』（不空訳・三巻本）の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、回答と解説をEメールで受講者全員に提示する。 / 試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	仏教学講読演習A							学期	後期
副題	『法華経』における譬喩形態について考察する。				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M3-02-046	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『法華経』を梵・漢対照でその比喩形態に着目して読みこみ、『法華経』の思想的特徴について考察し、理解する。

## 授業の到達目標

諸経の王と呼ばれて来た初期大乘経典の代表格である『法華経』を講読することによって、サンスクリット語の読解能力を身に付け、仏教（密教）の思想を広く深い視野で考究することができるようになる。

## 授業計画

- 『法華経』「授記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（声聞不成仏の問題）
- 『法華経』「授記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（大迦葉への授記）
- 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（大通地勝仏の出現）
- 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（化城の喩え）
- 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（富楼那の出現）
- 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（無明の酒）
- 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（ラーフラの登場）
- 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（迹門の法説）
- 『法華経』「法師品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（法師による教説）
- 『法華経』「法師品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（乾土の喩え）
- 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（宝塔出現）
- 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（法身・応身の融合）
- 『法華経』「提婆品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（畜生龍女の成仏）
- 『法華経』「勸持品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（弘教の誓い）
- 上記の品以外で、重要な比喩が用いられている品を探す。

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として『法華経』の梵文テキストと漢訳とを照合し、梵文和訳の予習をする。（最低週に延べ 300 分）。事後学修として授業で学んだことを復習する（120分）

## テキスト

担当者がコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

梵文テキストは担当者が用意する。その他、詳細については、授業で支持する。

## 学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 『法華経』の基本的な成立背景に関する知識を持っている。
- (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 梵・漢対照の基本的な文献学的方法論を身に付けている。

## 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

## その他

科目名	仏教学講読演習B							学期	前期
副題	仏教関係法令からみた平安時代の真言宗寺院の動向				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-02-047	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

『類聚三代格』は、日本古代社会における根本法令である律令にもとづき、奈良時代初期以降に発布された詔勅や単行法令を、11世紀の段階で現行法令であったものを集成した法令集である。それらを読み解くことは、六国史などからはうかがい知ることのできない、当時の社会や宗教界の動向を具体的に知ることにつながる。本講義では、『類聚三代格』に収められる仏教関係法令から、真言宗や真言宗寺院に関する法令を取り上げ、それらを読み解くことで、真言宗や真言宗寺院の動向について考察する。

## 授業の到達目標

『類聚三代格』に収められる真言宗寺院についての関係法令を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、平安時代における真言宗寺院の動向を理解することができる。

## 授業計画

1. 『類聚三代格』とはどのような史料か？①
2. 『類聚三代格』とはどのような史料か？②
3. 『類聚三代格』に収められる真言宗寺院関係の法令
4. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む①
5. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む②
6. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む③
7. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む④
8. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑤
9. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑥
10. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑦
11. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑧
12. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑨
13. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑩
14. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑪
15. 『類聚三代格』に収められた法令からみた平安時代の真言宗寺院の動向

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：次回授業で取り上げる法令について辞書等で用語・語句を調べる(90分) 事後学修：授業で取り上げた法令について関心を持ったテーマや人物について調べる(60分)。

## テキスト

テキストとして、『新訂増補国史大系 類聚三代格 前篇』(吉川弘文館、1972年。初版は1936年)を用いる予定であるが、授業で取り上げる法令については、プリントとして配布する。

## 参考書・参考資料等

①速水侑『平安貴族社会と仏教』(吉川弘文館、1975年)。②速水侑『呪術宗教の世界 密教修法の歴史』(塙書房、1987年) その他、授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

輪読担当部分の発表(50%)・予習・復習などの授業への参加度(50%)によって評価する。全授業の3分の2以上(10回以上)に出席した者のみを成績評価の対象とする。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文史料である法制史料を読み下し、内容について説明することができる。
- (B) 法制史料を読み解き、その法令の歴史的意義について説明することができる。
- (A) 『六国史』など関係する史料をも収集し、それらを比較検討することによって、その法令の歴史的意義を説明することができる。
- (S) 法令の社会的背景をふまえて、その歴史的意義を考察するとともに、先行研究にもとづいて、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたい。③卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。

科目名	真言密教講読演習B							学期	前期
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	M3-01-048	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道・金剛界・胎蔵界・一尊法の各種次第への理解を深める。前期では十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『阿闍法』、『烏芻澁塵儀軌』などを平行して読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

秘密儀軌と十八道次第を理解する。

## 授業計画

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘厳について）
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（荘厳道場法について）
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勸請法について）
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、その他）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

## テキスト

浄厳の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

## 参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』など

## 学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	真言密教講読演習C							学期	後期
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	M3-01-049	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道・金剛界・胎蔵界・一尊法の各種次第への理解を深める。後期では『大日経』関連の一尊法の儀軌として『聖観自在儀軌』、『七支念誦法』、『立印儀軌』など、『金剛頂経』系の儀軌として『蓮華部心軌』、『如意輪瑜伽』、『文殊菩薩供養法』、『五秘密儀軌』などを読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

秘密儀軌と金剛界次第・胎蔵界次第を理解する。

## 授業計画

- 『大日経』系の儀軌を読む①（三三昧耶）
- 『大日経』系の儀軌を読む②（『七支念誦法』を読む）
- 『大日経』系の儀軌を読む③（『聖観自在儀軌』を読む）
- 『大日経』系の儀軌を読む④（『立印儀軌』を読む）
- 『大日経』系の儀軌を読む⑤（『立印儀軌』を読む）
- 『大日経』系の儀軌を読む⑥（『立印儀軌』を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む①（『蓮華部心軌』前半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む②（『蓮華部心軌』後半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む③（五相成身について）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む④（『如意輪瑜伽』前半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤（『如意輪瑜伽』後半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥（『文殊菩薩供養法』前半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦（『文殊菩薩供養法』後半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧（『五秘密儀軌』前半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨（『五秘密儀軌』後半を読む）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

## テキスト

浄厳の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

## 参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』など

## 学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。



科目名	真言密教講読演習D						学期	前期	
副題	金剛界次第の研究(前半)			授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン		
ナンバリング	M3-01-050	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

四度加行の『金剛界念誦次第』(大門寺次第)のほかに、中院流の一流伝授の重要な内容の一つは両界の伝授次第でとされているものがある。金剛界の伝授次第は淳祐の『金剛界念誦次第石山中院』(石山二巻次第)という中院流の本次第とそれを修法しやすくした宥快の『金剛界念誦頸次第中院』(宥快和会次第)である。この授業では宥快和会次第の伝授を受け、諸の儀軌、次第、口決類などを参考にしながら、金剛界次第の深い意味を理解する。已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 金剛界次第の種類と概略
2. 金剛界伝授次第 1 (塗香まで)
3. 金剛界伝授次第 2 (三金剛観から加持供物まで)
4. 金剛界伝授次第 3 (ラン字観から金剛持大印まで)
5. 金剛界伝授次第 4 (表白から普供養三力まで)
6. 金剛界伝授次第 5 (四無量心観から勝心まで)
7. 金剛界伝授次第 6 (大金剛輪から金剛眼まで)
8. 金剛界伝授次第 7 (金剛掌から法輪まで)
9. 金剛界伝授次第 8 (大欲から業障除まで)
10. 金剛界伝授次第 9 (五相成身観)
11. 金剛界伝授次第 10 (四仏加持から結冑まで)
12. 金剛界伝授次第 11 (現智身から道場観まで)
13. 金剛界伝授次第 12 (大虚空蔵から啓白まで)
14. 金剛界伝授次第 13 (観仏海会から闍伽まで)
15. 金剛界伝授次第 14 (蓮華坐から振鈴、「已上成身会」まで)

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

## テキスト

『金剛界念誦次第石山中院』、『金剛界念誦頸次第中院』

## 参考書・参考資料等

『中院流聖教』3・4、『真言宗全書』24、関連の儀軌、次第、口決類、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、他

## 学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

受講者は伝法灌頂入壇者(已灌頂者)のみとする。授業は伝授形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。この講義の内容は後期に続くため、「真言密教講読演習E」を続けて受講することを推薦する。

科目名	真言密教講読演習E						学期	後期	
副題	金剛界次第の研究(後半)			授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン		
ナンバリング	M3-01-051	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

四度加行の『金剛界念誦次第』(大門寺次第)のほかに、中院流の一流伝授の重要な内容の一つは両界の伝授次第でと言われているものがある。金剛界の伝授次第は淳祐の『金剛界念誦次第石山中院』(石山二巻次第)という中院流の本次第とそれを修法しやすくした宥快の『金剛界念誦頌次第中院』(宥快和会次第)である。この授業では宥快和会次第の伝授を受け、諸の儀軌、次第、口決類などを参考にしながら、金剛界次第の深い意味を理解する。已灌頂者のみが受講できる。

### 授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相を理解し、意義について説明できるようになる。

### 授業計画

1. 金剛界伝授次第 15 (羯磨会 1)
2. 金剛界伝授次第 16 (羯磨会 2)
3. 金剛界伝授次第 17 (羯磨会 3)
4. 金剛界伝授次第 18 (三昧耶会 1)
5. 金剛界伝授次第 19 (三昧耶会 2)
6. 金剛界伝授次第 20 (三昧耶会 3)
7. 金剛界伝授次第 21 (大供養会前半)
8. 金剛界伝授次第 22 (大供養会後半)
9. 金剛界伝授次第 23 (四印会から仏母加持まで)
10. 金剛界伝授次第 24 (入我我入観)
11. 金剛界伝授次第 25 (正念誦 1)
12. 金剛界伝授次第 26 (正念誦 2)
13. 金剛界伝授次第 27 (字輪観 1)
14. 金剛界伝授次第 28 (字輪観 2)
15. 金剛界伝授次第 29 (散念誦・後供養・撥遣)

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

### テキスト

『金剛界念誦次第石山中院』、『金剛界念誦頌次第中院』

### 参考書・参考資料等

『中院流聖教』3・4、『真言宗全書』24、関連の儀軌、次第、口決類、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、他

### 学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

受講者は伝法灌頂入壇者(已灌頂者)のみとする。授業は伝授形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。後期から受講はできるが、前期の「真言密教講読演習D」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	真言密教講読演習K							学期	後期
副題	一尊法次第				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-052	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべての伝授を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深めその意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2. 別尊次第について
3. 「金輪」
4. 「佛眼」
5. 「薬師」
6. 「阿弥陀」
7. 「釈迦」
8. 「尊勝」
9. 「聖観音」
10. 「千手」
11. 「十一面」
12. 「馬頭」
13. 「準胝」
14. 「如意輪」
15. 「白衣」

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理しておくこと（90分）

## テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

## 参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

## 学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 次第と『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。内容は後期に続くため、「事相研究Ⅰ-2」を続けて受講することを推薦する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	密教学特殊講義A							学期	前期
副題	密教図像に関する体系的学習				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-01-053	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を經由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマーラー』や『ニシュパンナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

## 授業の到達目標

密教尊像の基本的な知識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

## 授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 漢訳資料の基本的な扱い方
3. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経前半）
4. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経後半）
5. 尊格表現方法の基本知識（仏の種類）
6. 尊格表現方法の基本知識（仏の展開）
7. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅）
8. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の展開）
9. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
10. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12. 図像資料講読演習（経典の講読）
13. 図像資料講読演習（経典の講読）
14. 図像資料講読演習（経典の講読）
15. レポート試験・講評

## 準備学習(予習・復習)・時間

準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週1時間。

## テキスト

大正新脩大藏経図像部

## 参考書・参考資料等

松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年 頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

## 学生に対する評価

発表及び提出物（100%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える
- (B) 密教尊像に関する知識を得る
- (A) 密教図像に関する資料を扱える
- (S) 密教図像成立を体系的に理解できる

## 課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

## その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

科目名	密教学特殊講義B							学期	前期
副題	各時代の作品を通して日本の仏教美術の特徴を知る				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	M3-01-054	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

寺院に祀られる仏像や仏画は崇高な礼拝対象である一方、歴史的文化遺産としても重要な意義を持つ。授業では、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術について、各時代を代表する彫像や仏画作品のスライド画像を参考にしながら、その歴史や時代の特徴について学習する。併せて、高野山の多くの国宝や重要文化財を収蔵する高野山霊宝館において実際に作品を見学する機会を通じて、仏像や仏画作品の見方や技法・構造などについて理解を深める。

## 授業の到達目標

代表的な仏教美術作品を中心に、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術の歴史と特徴を学び、説明できるようになる。また、実際に仏像や仏画などの作品を見学することにより、より深く仏教美術の基礎や見学の方法を理解できるようになる。

## 授業計画

1. オリエンテーション仏教美術の基礎知識（尊像の種類や形式など仏教美術全般にわたる基礎知識）
2. 飛鳥時代前期の仏教美術（7世紀前半。法隆寺金堂釈迦三尊像、救世観音像等）
3. 高野山霊宝館での実地見学1（「高野山の名宝」展1期に出陳の仏像・仏画等）
4. 飛鳥時代後期の仏教美術（7世紀後半。興福寺仏頭、中宮寺菩薩半跏像、法隆寺金堂壁画等）
5. 奈良時代の仏教美術1（8世紀前半。興福寺八部衆像、東大寺法華堂諸像、戒壇院四天王像等）
6. 奈良時代の仏教美術2（8世紀後半。唐招提寺諸像、聖林寺十一面観音像等）
7. 高野山霊宝館での実地見学2（「高野山の名宝」展1期に出陳の仏像・仏画等）
8. 平安時代前期の仏教美術1（9世紀～10世紀半頃。神護寺薬師如来像、東寺講堂諸像の仏像）
9. 平安時代前期の仏教美術2（9世紀～10世紀半頃。両界曼荼羅図などの密教絵画）
10. 平安時代後期の仏教美術1（10世紀後半～11世紀頃。平等院鳳凰堂の仏像と来迎図を中心に）
11. 高野山霊宝館での実地見学3（「高野山の名宝」展2期に出陳の仏像・仏画等）
12. 平安時代後期の仏教美術2（11世紀末～12世紀頃。院政期の仏像と仏画、中尊寺金色堂等）
13. 鎌倉時代の仏教美術1（12世紀末～13世紀初頃。東大寺・興福寺の復興と仏師運慶・快慶の造像）
14. 鎌倉時代の仏教美術2（13世紀。運慶以後の仏像と仏教絵画）
15. 高野山霊宝館での実地見学4（「高野山の名宝」展2期に出陳の仏像・仏画等）

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当する時代の歴史（政治や文化など一般的な内容）を調べ、理解しておくこと（60分）・事後学習として、講義内容と配布した資料を整理し、専門用語などを理解しておくこと。また見学においてはその成果を整理しておくこと（90分）

## テキスト

授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。

## 参考書・参考資料等

水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』美術出版社、『日本美術全集』講談社

## 学生に対する評価

授業、実地見学参加への積極性（50%）、期末レポート（50%）の比率で評価する。前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて4000字程度のレポートを提出する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業内容について理解することができる。
- (B) 仏教美術についての基礎知識を理解している。
- (A) 各時代の歴史的背景や仏教美術の特徴を理解している。
- (S) 各時代に代表的な作品を見ながらその特徴について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。レポートについては、添削後、返却時に行う。

## その他

・教室だけではなく、霊宝館において見学を伴う科目である。・密教学特殊講義C（後期）を履修・聴講することが望ましい。  
・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。・仏教美術作品に興味を持ち、できるだけ各自でも展覧会などを見学する機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義C						学期	後期	
副題	高野山における仏教美術の研究				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	M3-01-055	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

高野山における仏教美術について、その作品の特徴や歴史的意義について学習する。また高野山以外の空海に関わる作例についても触れ、より深く高野山の仏教美術について学ぶ。また、高野山霊宝館において実際に仏像、仏画等を鑑賞する機会を設け、個々の作品についての理解を深める。特に本年度は、高野山霊宝館が開館100周年記念の「高野山の名宝」展を開催し、展示機会の少ない国宝・重要文化財が多く出陳されることから、普段見学できない貴重な仏像や仏画を中心に見学し、仏教美術の見方や仏像・仏画の技法や構造などについてもより深く理解する。

## 授業の到達目標

・高野山内に伝わる仏像・仏画などについて学ぶことにより、高野山の仏教美術の歴史について理解できる。・実際に仏像、仏画を鑑賞することによって、より深く作品を知ることができるようになる。・高野山以外の関連作品を知ることにより、多角的に高野山の仏教美術を理解することができる。

## 授業計画

1. オリエンテーション、仏教美術作品鑑賞に関する基礎知識（仏像の誕生、仏像の種類と形姿）
2. 高野山の仏教美術の歴史（高野山の歴史と仏教美術の特徴）
3. 高野山霊宝館での実地見学1（「高野山の名宝」展4期に出陳の仏像・仏画等）
4. 高野山の仏教美術1（空海自身の書「鬘髻指帰」と中国からの請来美術「諸尊仏龕」を中心に）
5. 高野山の仏教美術2（真言密教の美術1 両界曼荼羅と図像類集）
6. 高野山の仏教美術3（真言密教の美術2 如来と菩薩西塔大日如来像、五大力菩薩像等）
7. 高野山霊宝館での実地見学2（「高野山の名宝」展4期に出陳の仏像・仏画等）
8. 高野山の仏教美術4（真言密教の美術3 明王不動明王像、孔雀明王像等）
9. 高野山の仏教美術5（空海に関わる美術1 高雄曼荼羅、東寺講堂諸像等）
10. 高野山の仏教美術6（空海に関わる美術2 高野山と東寺の密教法具と袈裟）
11. 高野山霊宝館での実地見学3（「常設展示」等に出陳の仏像・仏画等）
12. 高野山の仏教美術7（真言宗以外の美術1 天台宗と浄土教系の美術五部心観、阿弥陀聖衆來迎図等）
13. 高野山の仏教美術8（真言宗以外の美術2 禅宗とその他の美術仏涅槃図、薬師十二神将像、地藏菩薩像）
14. 高野山の仏教美術9（弘法大師信仰に関する美術弘法大師像、弘法大師・丹生・高野両明神図等）
15. 高野山霊宝館での実地見学4（「常設展示」等に出陳の仏像・仏画等）

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、基本的な高野山の歴史について調べ、理解しておくこと（60分）・事後学習として、講義内容と配布した資料を整理し、専門用語などを理解しておくこと。また見学においてはその成果を整理しておくこと（90分）

## テキスト

授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。

## 参考書・参考資料等

『日本古寺美術全集』集英社、『高野山秘宝大観』フジタ

## 学生に対する評価

期末レポート（50%）、授業、実地見学参加への積極性（50%）の比率で評価する。授業で学んだことや霊宝館において見学した作品を選び、それに関する4000字程度のレポートを提出する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業内容について理解することができる。
- (B) 仏教美術鑑賞に関する基礎知識を理解している。
- (A) 高野山の仏教美術作品について概略を説明できる。
- (S) 高野山の仏教美術作品を見ながら自分の言葉で説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。レポートについては、添削後、返却時に行う。

## その他

・教室だけではなく、霊宝館において見学を伴う科目である。・密教学特殊講義B(前期)を履修・聴講することが望ましい。・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。・各自で高野山内の仏教美術について積極的に見学する機会を持つこと。

科目名	仏教学特殊講義A							学期	前期
副題	富永仲基『翁の文』を読む。				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M3-02-056	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

富永仲基の『翁の文』を読んで、彼の仏教史に対する批判的研究のあり方を探り、彼の思想的特徴と人格を探り、理解する。

### 授業の到達目標

富永の主張する「大乘非仏説」論に誤謬性がないかどうかを探る一方で、彼が最終的に求めていた「まこと」の道とは何を意味するのかについて理解できるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーション 富永仲基の略歴について紹介する。
2. 『翁の文』に先行して著わされた『出定後語』の内容について概観する。
3. 仏教の歴史区分に関する基本的知識を深める。
4. 『翁の文』について概説する。
5. 『翁の文』序を読んで解説する。
6. 『翁の文』「第一節～「第二節」までを読んで、その内容についてディスカッション（以下Dsと略）
7. 同「第三節」～「第四節」までを読んでDs。
8. 同「第五節」～「第六節」までを読んでDs。
9. 同「第七節」～「第八節」までを読んでDs。
10. 同「第九節」～「第十節」までを読んでDs。
11. 同「第十一節」～「第十二節」までを読んでDs。
12. 同「第十三節」～「第十四節」までを読んでDs。
13. 同「第十五節」～「第十六節」までを読んでDs。
14. 『翁の文』全体から、仲基の思想に関係するキーワードを抽出する。
15. 仲基の言う「まことの道」の意味についてDs。

### 準備学習(予習・復習)・時間

必ず担当者が指示したことに関して、必ず予習（最低 180 分）をする。

### テキスト

『日本文学大系 97』「近世思想家文集」をコピー資料としてを配布する。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が紹介する。

### 学生に対する評価

学期末のレポート（80%）と出席率（20%）によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 講義で指示する課題をこなすこと。
- (A) 仏教要語に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っていること。
- (S) 講義を通して、学術論文の書き方を習得すること。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

アクティブ・ラーニング（ディスカッション）を取り入れた授業である。

科目名	真言密教特殊講義A／密教儀礼の理論と実習(別)1						学期	前期	
副題	別行次第の伝授1				授業方法	講義	担当者	中西雄泰	
ナンバリング	M3-01-057	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

### 授業の到達目標

高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

### 授業計画

1. 授業の概要説明
2. 中院流の成り立ちについて（1）
3. 中院流の成り立ちについて（2）
4. 中院流の成り立ちについて（3）
5. 別行次第（理趣法）伝授説明（1）
6. 別行次第（理趣法）伝授説明（2）
7. 別行次第（理趣法）伝授説明（3）
8. 別行次第（理趣法）伝授説明（4）
9. 別行次第（理趣法）伝授説明（5）
10. 別行次第（理趣法）伝授説明（6）
11. 別行次第（理趣法）伝授説明（7）
12. 別行次第（理趣法）伝授説明（8）
13. 開眼作法等日用小作法伝授説明（1）
14. 開眼作法等日用小作法伝授説明（2）
15. 開眼作法等日用小作法伝授説明（3）

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90分）

### テキスト

①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

### 参考書・参考資料等

必要に応じてコピーを配布

### 学生に対する評価

授業態度（100%）伝授の為試験は行わない。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 出席 60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
- (B) 出席 80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
- (A) 出席 90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
- (S) 出席 100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問は受け付けない。

### その他

・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。



科目名	真言密教特殊講義B／密教儀礼の理論と実習(別)2							学期	後期
副題	日用小作法の伝授 2				授業方法	講義	担当者	中西雄泰	
ナンバリング	M3-01-058	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

### 授業の到達目標

高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

### 授業計画

1. 真言宗の葬儀について（1）
2. 真言宗の葬儀について（2）
3. 引導作法伝授説明（1）
4. 引導作法伝授説明（2）
5. 引導作法伝授説明（3）
6. 引導作法伝授説明（4）
7. 引導作法伝授説明（5）
8. 無常導師作法伝授説明（1）
9. 無常導師作法伝授説明（2）
10. 無常導師作法伝授説明（3）
11. 無常導師作法伝授説明（4）
12. 日用作法伝授説明（1）
13. 日用作法伝授説明（2）
14. 日用作法伝授説明（3）
15. 日用作法伝授説明（4）

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90分）

### テキスト

①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

### 参考書・参考資料等

必要に応じてコピーを配布

### 学生に対する評価

授業態度（100%）伝授の為試験は行わない。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 出席 60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
- (B) 出席 80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
- (A) 出席 90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
- (S) 出席 100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問は受け付けない。

### その他

・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義C							学期	前期
副題	密教における死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-059	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

### 授業の到達目標

仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

### 授業計画

1. 概論(講義の進め方等)
2. 凡夫の生死 ① 苦としての生死
3.       "       ② 五蘊と無我
4.       "       ③ 縁起としての生死
5.       "       ④ 輪廻の世界
6. 仏陀観の変遷 ① 釈尊の生涯
7.       "       ② 変容する釈尊
8.       "       ③ 神変とマンダラ
9. この身のままで仏と成る ① 六大と人間
10.       "       ② 真理の表現
11.       "       ③ 心とマンダラ
12. 生死の意味 ① 因不可得
13.       "       ② 縁起生から本不生へ
14.       "       ③ 「真に帰す」
15. まとめ — 〈私〉という存在—

### 準備学習(予習・復習)・時間

・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく (60分) ・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる (120分)

### テキスト

・各回プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

### 学生に対する評価

授業内での発表 (50%)、定期試験 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的な仏教用語を習得している。
- (B) 仏陀観の変遷について説明ができる。
- (A) 大乘仏教から密教への展開を説明できる。
- (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえて、弘法大師の死生観の特徴を説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

### その他

・授業中に基礎的な用語についての質問をするので、必ず予習をして臨むこと。

科目名	真言密教特殊講義D							学期	前期
副題	『秘蔵記』の講伝・研究(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	M3-01-060	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『秘蔵記』は事相教相の主要な問題について約百か条にわたって口決が説かれているもので、真言密教にとって極めて大切な書物である。前期の講義では杲宝の『秘蔵記私鈔』を始め漢文注釈書を参考しながら『秘蔵記』の前半を読んでいく。伝統的な講伝形式で行うので、已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

『秘蔵記』の研究を通じて、真言密教の教相と事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 『秘蔵記』の概略と作者について
2. 第1、2、3、4章の講伝
3. 第5、6、7章の講伝
4. 第8、9章の講伝
5. 第10、11章の講伝
6. 第12、13章の講伝
7. 第14、15章の講伝
8. 第16、17章の講伝
9. 第18、19章の講伝
10. 第20、21、22章の講伝
11. 第23、24、25章の講伝
12. 第26、27、28、29章の講伝
13. 第30、31、32、33章の講伝
14. 第34、35、36、37章の講伝
15. 第38、39、40章の講伝

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

## テキスト

『秘蔵記』(『弘法大師全集』)

## 参考書・参考資料等

杲宝記『秘蔵記私鈔』、上田靈城著『秘蔵記講要』、小田慈舟著『秘蔵記講伝紀要』、『真言宗全書』9、『統真言宗全書』15、16の各注釈書、その他

## 学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『秘蔵記』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。授業は講伝形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。内容は後期に続くため、「真言密教特殊講義E」を続けて受講することを推薦する。

科目名	真言密教特殊講義E							学期	後期
副題	『秘蔵記』の講伝・研究(後半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	M3-01-061	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『秘蔵記』は事相教相の主要な問題について約百か条にわたって口決が説かれているもので、真言密教にとって極めて大切な書物である。前期の講義では杲宝の『秘蔵記私鈔』を始め漢文注釈書を参考しながら『秘蔵記』の前半を読んでいく。伝統的な講伝形式で行うので、已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

『秘蔵記』の研究を通じて、真言密教の教相と事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 第 41、42、43 章の講伝
2. 第 44、45、46、47 章の講伝
3. 第 48、49、50、51 章の講伝
4. 第 52、53、54、55 章の講伝
5. 第 56、57、58、59、60 章の講伝
6. 第 61、62、63 章の講伝
7. 第 64、65、66、67 章の講伝
8. 第 68、69、70、71、72 章の講伝
9. 第 73、74、75、76 章の講伝
10. 第 77、78、79、80 章の講伝
11. 第 81、82、83、84 章の講伝
12. 第 85、86、87、88 章の講伝
13. 第 89、90、91、92 章の講伝
14. 第 93、94、95、96 章の講伝
15. 第 97、98、99、100 章の講伝

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと (90分)

## テキスト

『秘蔵記』(『弘法大師全集』)

## 参考書・参考資料等

杲宝記『秘蔵記私鈔』、上田靈城著『秘蔵記講要』、小田慈舟著『秘蔵記講伝紀要』、『真言宗全書』9、『統真言宗全書』15、16の各注釈書、その他

## 学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (20%)、授業参加の積極性 (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『秘蔵記』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。授業は講伝形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。後期から受講はできるが、前期の「真言密教特殊講義D」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	真言密教特殊講義J						学期	後期	
副題	『宗義決択集』の研究				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-062	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

高野山上に今日も続く宝門・壽門という2大学派の内、宝門の論義書である『宗義決択集』を取り上げ、それぞれの内容を通して高野山独自の学派である宝壽二門の教理を踏まえつつ、弘法大師の思想がどのように理解されてきたのかについて考察する。個々の論義を選び、書き下し文・語注・現代語訳とそれを踏まえた発表資料を作成し、発表する。

### 授業の到達目標

高野山上における教学史を通して、弘法大師の思想が後世どのように問題となり、どのように解釈されてきたのかについて理解するとともに、その問題点を説明できる力を身につける。

### 授業計画

1. 概論(講義の進め方等)
2. 高野山の教学史 ① 覚海と高野四哲・八傑
3. 高野山の教学史 ② 宥快と長覚
4. 高野山の教学史 ③ 『宗義決択集』とは？
5. 一乗経劫：即身成仏は“密教”だけの教えか？① 即身成仏をめぐる問題
6. “ ” ② 華天二宗の成仏論
7. “ ” ③ 即事而真
8. 六大四曼互能生：六大所生・四曼能生はあり得るか？ ① 六大と四曼
9. “ ” ② 壽門の場合
10. “ ” ③ 『大日経』の教主
11. 理法身説法：真理そのものは説法するのか？ ① 理法身と智法身
12. “ ” ② 真理は一か多か？
13. “ ” ③ 『大日経』教主再論
14. まとめ ① 論義と中院流
15. まとめ ② 宝門と壽門

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前に取り上げる論義を選び、発表資料を作成する(120分) ・各発表の内容に関する質問を考えるとともに、自分自身の考えも構築する(60分)

### テキスト

・『宗義決択集』、『真言宗全書』巻19、続真言主全書刊行会※授業中にコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

・小田慈舟訳『宗義決択集』、『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社 ※その他、授業中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

授業内での発表(50%)、定期試験(50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論義本文の書き下し文・語注・現代語訳を作成できる。
- (B) 該当論義に引用されている典拠を正確に指摘できる。
- (A) 論義の内容を把握している。
- (S) 上記(C)～(A)を踏まえ、自分の考えを論理的に説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

### その他

・取り上げる論義やテキストについては、受講生と話し合い、希望等によって変更する場合もある。 ・担当者を決めて、該当論義についてのグループ発表を行う。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・必ず質問をすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。

科目名	真言密教特殊講義M							学期	前期
副題	法流史概説				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-063	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

事相の法流についてその歴史と大綱を学修する。事相を歴史的側面から研究していく上での知識を得、理解する。

### 授業の到達目標

野沢の分派、野沢十二流の概要等の知識を得、理解し説明できるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーションと全体の概説
2. 八祖相承説
3. 八祖相承説
4. 空海の受法
5. 野沢の分派
6. 安祥寺流概説
7. 勸修寺流概説
8. 随心院流概説
9. 三宝院流概説
10. 小島流概説
11. 中院流概説
12. 御流概説
13. 西院流概説
14. 保寿院流概説
15. まとめと講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理しておくこと（90分）

### テキスト

松長有慶『密教の歴史』（平楽寺書店）

### 参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

### 学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 野沢の法流について基本的な用語を説明できる。
- (B) 野沢の法流について基本的な用語とその意味を説明できる。
- (A) 野沢の法流について専門的な用語とその意味を説明できる。
- (S) 密教史の専門知識を事相を中心として理解するとともに説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

講義は伝授形式でないので普通の服装において受講することが可。

科目名	密教学演習B					学期	通年		
副題	釈雲照書簡の研究				授業方法	演習	担当者	奥山直司	
ナンバリング	M4-25-064	実務経験の有無	無	関連DP	2, 5	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

釈雲照（1854—1923）は日本近代の代表的な真言僧の1人である。雲照は律師として知られ、目白僧園、十善会を主宰するなどして、日本仏教の復興・改革運動の一翼を担った。その弟子にセイロン（現スリランカ）に留学した釈興然、目白僧園を継いだ釈慶淳などがいる。本授業は、雲照の思想と行動を、彼の書簡を通して探ってゆく。当番制発表形式を取ることで、十分な予習が必要である。同時に本授業では卒業論文作成の指導を受ける。研究テーマの選び方、資料・先行研究の探し方に始まり、テーマを煮詰め、文章を書き、論文としてまとめるまでを一貫して学ぶ。

## 授業の到達目標

明治・大正期の文語を読解し、内容をまとめ、当時の社会や仏教界の動きと連動させて解釈できるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. ガイダンス
2. 研究テーマの選び方
3. 資料の探し方
4. 釈雲照の生涯：明治維新前
5. 釈雲照の生涯：明治維新後
6. 釈雲照の書簡を読む（1）：仏陀伽耶買収云々及び渡天計画云々を報ずるの状
7. 釈雲照の書簡を読む（2）：仏陀伽耶買収の件をアーノルド氏に依頼すべきを報ずるの状（上）
8. 釈雲照の書簡を読む（3）：仏陀伽耶買収の件をアーノルド氏に依頼すべきを報ずるの状（下）
9. 釈雲照の書簡を読む（4）：仏陀伽耶復興につき、打合せの状
10. 釈雲照の書簡を読む（5）：仏陀伽耶買収云々の状
11. 釈雲照の書簡を読む（6）：仏陀伽耶買収、世界宗教統一等打合せの状（上）
12. 釈雲照の書簡を読む（7）：仏陀伽耶買収、世界宗教統一等打合せの状（中）
13. 釈雲照の書簡を読む（8）：仏陀伽耶買収、世界宗教統一等打合せの状（下）
14. 釈雲照の書簡を読む（9）：仏跡回復、アーノルド来朝等の模様を報じたるの状（上）
15. 前期のまとめと総括

### 【後期】

1. ガイダンス
2. 研究テーマを深める
3. 論理的文章を綴る
4. 各自研究課題の発表
5. 釈雲照の書簡を読む（1）：仏跡回復、アーノルド来朝等の模様を報じたるの状（下）
6. 釈雲照の書簡を読む（2）：仏陀伽耶買収、会長云々につき意見を述べられたる状（上）
7. 釈雲照の書簡を読む（3）：仏陀伽耶買収、会長云々につき意見を述べられたる状（中）
8. 釈雲照の書簡を読む（4）：仏陀伽耶買収、会長云々につき意見を述べられたる状（下）
9. 釈雲照の書簡を読む（5）：留学中の弟子に与へて、律の在意を教へ、併せて仏跡復興の件を申し送りたるの状（上）
10. 釈雲照の書簡を読む（6）：留学中の弟子に与へて、律の在意を教へ、併せて仏跡復興の件を申し送りたるの状（下）
11. 釈雲照の書簡を読む（7）：仏陀伽耶買収費を送るに併せて、その注意を促されたる状
12. 釈雲照の書簡を読む（8）：知人の遷化を報ずるに併せて人生の無常をさとし云々の状
13. 釈雲照の書簡を読む（9）：仏陀伽耶買収の失策を報じて前後策を問ふの状
14. 釈雲照の書簡を読む（10）：那須僧園の開設を告げ帰朝を促す状
15. 後期のまとめと総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、次回の授業の範囲内で配布資料を読んでおくこと（90分）。事後学修として、授業のノートをチェックし、資料の読み方を確認すること（90分）。

## テキスト

草繁全宜『釈雲照』全3巻、徳教会、1916年

## 参考書・参考資料等

常光浩然『明治の仏教者』（上）（下）、春秋社、1968年

## 学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、発表内容（60%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学術論文を正確に読み解くことができる。
- (B) 一次資料を正確に読み解くことができる。
- (A) 一次資料と学術論文に基づいて、問題の所在を明確にすることができる。
- (S) 一次資料と学術論文に基づいて、学術的な問題を論ずることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

遅刻3回で1欠席に換算する。積極的な授業参加を期待する。

科目名	密教学演習C						学期	通年	
副題	歌集『現代宇宙論』を読んで、仏教(密教)の真髓の世界探る				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M3-25-065	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	4	他	A

### 授業の目的と概要

歌集『現代宇宙論』を読んで、仏教(密教)の真髓の世界を探る。川田章人『歌集『現代宇宙論—現代を生きる為の日本人の心—』(飯塚書店 2020年)』を読んで、仏教(密教)とは何かという問いを解析し、理解する。

### 授業の到達目標

仏教(密教)と科学とは二項対立的に捉えるものではなく、本来融合しているという認識を深め、理解できるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. オリエンテーション(自己紹介をすることによって学生相互間の意識を深める。
2. 『現代宇宙論』序章を読む。
3. 『現代宇宙論』第1章「古の人を尋ねて—太古のいぶき—」を鑑賞してディスカッション(以下Dsと略)
4. 同「自然のままに」を鑑賞してDs
5. 同「おもひで ころろの中に」を鑑賞してDs
6. 同「いのちの課題」を鑑賞してDs
7. 同第2章「現代大宇宙論—神話と科学の融合・展開—」を読む。「光の波長」を鑑賞してDs
8. 同第3章「現代小宇宙論」を読む。深きところ」を鑑賞してDs
9. 同「仏法 智慧の教え」を鑑賞してDs
10. 同終章「深層心理を知る」を読む。
11. 同「尋芳径(冬の訪ひ)」を鑑賞してDs
12. 同「春に愁ふ」を鑑賞してDs
13. 同「梅雨に濡して」を鑑賞してDs
14. 同「秋にし愁ふ」を鑑賞してDs
15. 同「北国」を鑑賞してDs

#### 【後期】

1. 論文指導①
2. 論文指導②
3. 論文指導③
4. 同「響く五大(地)」を鑑賞してDs
5. 同「響く五大(水)」を鑑賞してDs読む。
6. 同「響く五大(火)」を鑑賞してDs
7. 同「響く五大(風)」を鑑賞してDs
8. 同「響く五大(空)」を鑑賞してDs
9. 同「たましひ」を鑑賞してDs
10. 「たましひ」とは何かについて考える。
11. 五大とたましひの関係性について考える。
12. 弘法大師の六大説との関係性についてDs
13. 同著書の跋文(依田仁美氏による)を読んでDs
14. 論文(修論)指導④
15. 論文(修論)指導⑤

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習(予習)として、毎回担当者が支持する歌の意味を考えておく。(180分以上) 事後学修(復習)として60分以上。論文指導については、4回生には随時アドヴァイスするが、3回生及に関しては、後期3回分で論文の書き方等の指導を行い、最終講義の際に確認作業としての論文指導を2回行う。

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

### 学生に対する評価

学期末のレポート(100%)によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 古文の読解能力を身につけている。
- (A) 歌意に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っている。
- (S) 講義を通して、学術論文の書き方を習得している。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。



科目名	密教学演習D					学期	通年		
副題	歴史学の視点から卒業論文を作成する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-25-066	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

## 授業の目的と概要

密教学科の学生の中で、主として歴史学を学びたい者を対象に演習を行う。歴史学的な研究手法を指導しながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文の作成を目指す。3年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、4年次生は卒業論文の作成を行う。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションをはかってほしい。

## 授業の到達目標

歴史学的な視点をテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、歴史学の手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

## 授業計画

### 【前期】

1. 演習の内容・方針の説明、自己紹介
2. 研究課題への構想（各自の発表）
3. 研究論文の読み方（講義）
4. 歴史学の研究手法①（講義）
5. 歴史学の研究手法②（講義）
6. 先行研究の要約①（発表）
7. 先行研究の要約②（発表）
8. 先行研究の要約③（発表）
9. 先行研究の要約④（発表）
10. 先行研究の要約⑤（発表）
11. 先行研究の要約⑥（発表）
12. 先行研究の要約⑦（発表）
13. 先行研究の要約⑧（発表）
14. 先行研究の要約⑨（発表）
15. 参考文献表の作成について（講義）

### 【後期】

1. 夏休みの成果の確認
2. 卒業論文の構成について（講義）
3. 研究テーマに関する史料の考察①（発表）
4. 研究テーマに関する史料の考察②（発表）
5. 研究テーマに関する史料の考察③（発表）
6. 研究テーマに関する史料の考察④（発表）
7. 研究テーマに関する史料の考察⑤（発表）
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導②

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：毎回の報告者のテーマに関する文献等を読んでおくこと（60分）、事後学修：報告者の関心テーマが自分の関心テーマとどのように関連し、その視点や手法を取り入れることができるかどうかについて検討すること（90分）。

## テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

## 参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

## 学生に対する評価

①授業への参加度（40%）・発表内容（40%）・レポート（20%）によって評価する。②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史学の研究手法を理解する。
- (B) 研究論文の内容を批判的に把握することができる。
- (A) 関係史料の語るところを正確に読み解くことができる。
- (S) 研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、自分なりの見解を論じることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②各自が意欲的に研究課題に向き合い、プレゼンテーションにおいては、発表者はじっくりと時間をかけて下調べを行い、詳しいレジュメを作成すること。③歴史学の研究手法を身につけるため、仏教学講読演習Bを必ず履修すること。あわせて、博物館学芸員資格のための関係科目を履修することが望ましい。

科目名	密教学演習E					学期	通年		
副題	思想研究の方法論				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-25-067	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	—

### 授業の目的と概要

教理と実践が連動しているのが、密教の特徴である。事相と教相は「鳥の両翼」「車の両輪」と言われるが、これは事相と教相とが表裏一体であることを意味している。それでは、その事相で表現される教相（教義）とは、いったいどのようなものであるのか。当演習では、実践の背後にある密教教理の研究方法を、密教の実践が仏教（特に大乘仏教）とどのような関連性を有するのかについての調査・考察を通して習得することを目的とする。

### 授業の到達目標

密教（特に真言密教）の教相研究の基礎的方法論を習得し、各自の卒業論文作成に結び付ける。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 概要（前期の進め方等）
2. 学術論文とは？
3. 資料—1次資料と2次資料—
4. 先行研究を読む①—先行研究を探す—
5. 先行研究を読む②—研究書を読む—
6. 先行研究を読む③—学術論文を読む—
7. レジュメを作ろう①—テーマの設定—
8. レジュメを作ろう②—資料を探す—
9. レジュメを作ろう③—レジュメをまとめる—
10. レジュメを作ろう④—発表と質疑応答—
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

#### 【後期】

1. 概要（後期の進め方）
2. 論文のプロットを作成する①—問題点を整理する—
3. 論文のプロットを作成する②—1次資料を配置する—
4. 論文のプロットを作成する③—結論を導く—
5. 1次資料を読む①—阿含經典—
6. 1次資料を読む②—大乘經典—
7. 1次資料を読む③—密教經典—
8. 1次資料を読む④—論書—
9. 1次資料を読む⑤—注釈書—
10. 1次資料を読む⑥—教義書—
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

### 準備学習(予習・復習)・時間

・自身の関心に応じた資料を、各回準備する（120分） ・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60分）

### テキスト

（前期）金山穆留「佛教に於ける個體の觀念」（『真言密教の教学』、臨川書店、1973年） （後期）課題プリント。 ※コピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。 ※その他、授業において指示する。

### 学生に対する評価

担当箇所の発表（50%）、授業内での質疑応答（30%）、期末レポート発表（20%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 先行研究を集め、内容を要約できる。
- (B) 先行研究に基づく独自課題を設定できる。
- (A) 独自課題の解決に向けた資料収集ができる。
- (S) 独自課題の解決を論理的に論述できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

### その他

・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらおう。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。 ・受講生の関心に応じて、授業内容・テキスト等を変更する場合がある。

科目名	密教学演習F					学期	通年		
副題	密教図像資料の研究			授業方法	演習	担当者	松長潤慶		
ナンバリング	M3-25-068	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	4	他	—

### 授業の目的と概要

仏教では大乘仏教の拡がりに相応して多種多様な尊格が登場する。大乘仏教の延長線上に位置する密教では、大乘仏教で生み出された尊格のみならず、密教独自の尊格を生み出し、密教の世界観を頭わす曼荼羅に配置した。これらの密教尊格の成立と発展に関して考察を加え検討する。

### 授業の到達目標

仏教・密教尊格の整理と典拠となる文献について学び理解する。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 授業の進め方
2. 仏教尊格の基礎知識 (仏の基本知識)
3. 仏教尊格の基礎知識 (仏の展開)
4. 密教尊格の基礎知識 (密教仏の基本知識)
5. 密教尊格の基礎知識 (密教仏の展開)
6. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の基本知識)
7. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の種類)
8. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の展開)
9. 図像資料の講読 (明王図像資料)
10. 図像資料の講読 (明王図像資料)
11. 図像資料の講読 (明王図像資料)
12. 図像資料の講読 (明王図像資料)
13. 図像資料の講読 (明王図像資料)
14. 図像資料の講読 (明王図像資料)
15. 研究課題の設定

#### 【後期】

1. 研究内容の中間報告①
2. 研究内容の中間報告②
3. 研究内容の中間報告③
4. 研究内容の中間報告④
5. 研究内容の中間報告⑤
6. 各研究テーマの演習発表①
7. 各研究テーマの演習発表②
8. 各研究テーマの演習発表③
9. 各研究テーマの演習発表④
10. 各研究テーマの演習発表⑤
11. 各研究テーマの演習発表⑥
12. 各研究テーマの演習発表⑦
13. 各研究テーマの演習発表⑧
14. 各研究テーマの演習発表⑨
15. 総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

図像資料の講読演習をするので授業に備えて事前に予習が必要となる。週約3時間。

### テキスト

授業で随時配布する

### 参考書・参考資料等

①『大正新脩大藏経』「密教部、図像部」、②『The Indian Buddhist Iconography』

### 学生に対する評価

発表及び提出物(100%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 原文を自分自身の解釈で発表できる。
- (B) 自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。
- (A) 研究において、目新しい独自の観点を見出すことができる。
- (S) 新知見を用いて論理的に考察できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

### その他

・それぞれの発表及び提出物で評価。・それぞれの発表を10点満点とする。・授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。・上記は前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる。

科目名	密教学演習H					学期	通年		
副題	『性霊集』を読む				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M4-25-069	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	4	他	A・I

## 授業の目的と概要

弘法大師空海の漢詩文集『遍照發揮性霊集』を精読することによって、空海の文体の特徴などを理解し、作者の心情について考える。あわせて、空海の記事を読解するために必要な中国古典・仏典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。同時に、中国古典・仏典が空海の知識の源泉であることを認識し、その文章作成の技法などについて理解を進めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。論文作成に必要な技術を修得する。

## 授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を読解できる。 ○漢文を自学自習するための技法を修得している。 ○空海の文体の特徴を説明できる。 ○「典故を踏む」という技法を説明できる。 ○作者の心情を推し量ることができる。 ○論文を作成できる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 28 「進悉曇等書表」(1) 「沙門空海言……」を読む
2. 28 「進悉曇等書表」(2) 「空海開帝道……」を読む
3. 28 「進悉曇等書表」(3) 「皇風動地……」を読む
4. 28 「進悉曇等書表」(4) 「故能龍卦……」を読む
5. 28 「進悉曇等書表」(5) 「鳳書虎字……」を読む
6. 28 「進悉曇等書表」(6) 「於焉結繩……」を読む
7. 28 「進悉曇等書表」(7) 「刻木寢以……」を読む
8. 28 「進悉曇等書表」(8) 「明皇因之……」を読む
9. 28 「進悉曇等書表」(9) 「蒼生仰之……」を読む
10. 28 「進悉曇等書表」(10) 「不出戸庭……」を読む
11. 28 「進悉曇等書表」(11) 「不因聖智……」を読む
12. 28 「進悉曇等書表」(12) 「稽古温故……」を読む
13. 28 「進悉曇等書表」(13) 「自我垂範……」を読む
14. 28 「進悉曇等書表」(14) 「況復悉曇……」を読む
15. 前期到達度の確認

### 【後期】

1. 28 「進悉曇等書表」(15) 「梵書之字母……」を読む
2. 28 「進悉曇等書表」(16) 「所以三世……」を読む
3. 28 「進悉曇等書表」(17) 「伏惟皇帝……」を読む
4. 28 「進悉曇等書表」(18) 「露沈文下……」を読む
5. 28 「進悉曇等書表」(19) 「玉燭調和……」を読む
6. 28 「進悉曇等書表」(20) 「空海人は……」を読む
7. 28 「進悉曇等書表」(21) 「窟觀余暇……」を読む
8. 28 「進悉曇等書表」(22) 「毎見蒼史……」を読む
9. 28 「進悉曇等書表」(23) 「諺曰……」を読む
10. 28 「進悉曇等書表」(24) 「伏奉布施……」を読む
11. 28 「進悉曇等書表」(25) 「伏乞天慈……」を読む
12. 28 「進悉曇等書表」(26) 「伏願陛下……」を読む
13. 28 「進悉曇等書表」(27) 「達水遥浦……」を読む
14. 28 「進悉曇等書表」(28) 「常住之字……」を読む
15. 後期到達度の確認

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと (30分)。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと (30分)。出典を探し、原典を確認しておくこと (30分)。

## テキスト

坂田光全『性霊集講義 平成新訂』(高野山出版社)のコピーを配布する。 運敞『遍照發揮性霊集便蒙』(『真言宗全書』42巻所収)のコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店 1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店 2000年修訂増補『密教大辞典』法蔵館 昭和7年初版 水野弘元『仏教の基礎知識』2009年新版 など

## 学生に対する評価

定期試験 (50%)、発表 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
- (B) 未知の語彙・語法・典故に気付き、調べることができる。
- (A) テキストの内容を理解し、説明できる。
- (S) 自分の考えを論理的に説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。卒業論文の作成に関し、具体的な疑問・要望があれば、授業内で対応する。難波サテライトへの双方向遠隔授業を予定している。

科目名	密教学演習K					学期	通年		
副題	日本文学研究法			授業方法	演習	担当者	溝端悠朗		
ナンバリング	M3-25-070	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

主として日本文学を学び、卒業論文としてまとめることを目指す者を対象に演習を行う。日本文学の研究手法を学びながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文を作成する。3年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、4年次生は卒業論文の完成を目指す。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションを図ってほしい。

## 授業の到達目標

日本文学的な視点をテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、日本文学の研究手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

## 授業計画

### 【前期】

1. ガイダンス (授業の進め方・自己紹介) / 国文学研究の領域
2. 伝記と年譜
3. 本文研究の諸相
4. 文学作品の論じ方
5. 登場人物の論じ方
6. 表現論の射程
7. 文学作品の周縁
8. 注釈という研究法
9. 国文学における思想と学問
10. 影響史研究の方法
11. 外国文学の受容と文芸理論
12. 実地研究のあり方
13. 国文学の学際的研究
14. 論文を書くための基礎
15. 論文の文体

### 【後期】

1. 夏休みの成果の確認
2. 卒業論文の構成について (講義)
3. 研究テーマに関する作品の読解① (発表)
4. 研究テーマに関する作品の読解② (発表)
5. 研究テーマに関する作品の読解③ (発表)
6. 研究テーマに関する作品の読解④ (発表)
7. 研究テーマに関する作品の読解⑤ (発表)
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究課題の模索 / 卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究課題の模索 / 卒業論文作成の助言と指導②

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回のテキストの該当ページを読み (60分)、事後学修としてその内容をまとめ、自身の研究テーマを深めておくこと (90分)。

## テキスト

島内裕子『国文学研究法』(放送大学教育振興会、2015年)(書店で購入)

## 参考書・参考資料等

国文学研究資料館編『古典籍研究ガイド』(笠間書院) その他、各自の研究課題にしたがって、適宜紹介する。

## 学生に対する評価

授業への参加度 (40%)、口答発表 (60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の研究手法を理解している。
- (B) 研究論文の内容を把握し、批判的に検討することができている。
- (A) 対象とする作品について、何らかの新規性を提示することができている。
- (S) 研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、新規性のある自己の見解を論じることができている。

## 課題に対するフィードバックの方法

受講生各自に個別に対応する。また、毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回演習の冒頭に応答する。

## その他

日本文学の基礎的知識を必要とするため、日本文学Ⅰ、Ⅱおよび日本文学概論Ⅰ、Ⅱを履修した者を対象とする。日本文学史概説Ⅰ、Ⅱや日本文化特殊講義Aも受講することが望ましい。課題や各自の発表への取り組みはもとより、質疑応答などにも積極的な姿勢を望む。

科目名	人間学基礎ゼミ I A							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N1-25-071	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

高校とは違う大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

## 授業の到達目標

大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。

## 授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配布プリントを読んで、理解する (30 分)。毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること (60 分)。

## テキスト

プリントを配布する

## 参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』ミネルヴァ書房、2009年

## 学生に対する評価

最終レポート (60%)、授業内および授業外での課題 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
- (B) 授業で説明したことが実際にできる。
- (A) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
- (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

## その他

・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。 ・授業に出席することは当然であるが、大学4年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。 ・ディスカッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	人間学基礎ゼミⅡA							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N1-25-072	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

人間学基礎ゼミⅠに続いて、大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

## 授業の到達目標

大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。

## 授業計画

1. 発表するには
2. データの収集 (1) データの種類を説明する
3. データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
4. データの記録 (1) メモ
5. データの記録 (2) 写真
6. データの記録 (3) 動画
7. データと思考の整理
8. レジュメの作成 (1) レジュメの書式
9. レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
10. パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
11. パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
12. 発表の実践 (1) 課題に対する発表
13. 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
14. 討論 (1) 課題に関する討論
15. 討論 (2) 他の報告に対する討論

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配布プリントを読んで、理解する (30 分)。毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること (60 分)。

## テキスト

プリントを配布する

## 参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』ミネルヴァ書房、2009年

## 学生に対する評価

最終レポート (60%)、授業内および授業外での課題 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
- (B) 授業で説明したことが実際にできる。
- (A) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
- (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

## その他

・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。・授業に出席することは当然であるが、大学4年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。・ディスカッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	企画科目(ボランティア)/ボランティア					学期	通年		
副題	-				授業方法	実習	担当者	人間学科主任	
ナンバリング	N1-16-073	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

大学から指定された実習先において、合計 40 時間以上のボランティア実習を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

### 授業の到達目標

ボランティア活動を通じて倫理観や社会貢献の精神、公共性や社会性の意識を身につける。実社会において行動できるようになる。

### 授業計画

1. ボランティアの意義
2. ボランティア実習①
3. ボランティア実習②
4. ボランティア実習③
5. ボランティア実習④
6. ボランティア実習⑤
7. ボランティア実習⑥
8. ボランティア実習⑦
9. ボランティア実習⑧
10. ボランティア実習⑨
11. ボランティア実習⑩
12. ボランティア実習⑪
13. ボランティア実習⑫
14. 事後指導①意見発表
15. 事後指導②ディスカッション

### 準備学習(予習・復習)・時間

ボランティア実習の体験を整理し、文章化する (30分)

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

守本友美・河内昌彦・立石宏昭・岡本栄一『ボランティアのすすめ—基礎から実践まで (実践のすすめ)』ミネルヴァ書房、2005年その他授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (60%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ボランティアについて理解している。
- (B) ボランティア実習に積極的に参加できる。
- (A) ボランティア実習の体験からその意義を客観的に説明できる。
- (S) 授業外でもボランティアに積極的に参加できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

### その他

実習先、実習期間等については、4月に告知する。40時間の実習を行う。



科目名	心理学 I A / 心の科学(別)1							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	N1-10-074	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達の視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

## 授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

## 授業計画

1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3. 感覚と知覚について学ぶ。＜感覚の仕組み＞
4. 感覚と知覚について学ぶ。＜知覚の仕組み＞
5. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の分類＞
6. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜脳と記憶について＞
8. 学習について学ぶ。＜古典的条件付け＞
9. 学習について学ぶ。＜道具的条件付け・学習と認知＞
10. 学習について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
11. 言語と思考について学ぶ。＜言語の発達＞
12. 言語と思考について学ぶ。＜概念カテゴリー＞
13. 言語と思考について学ぶ。＜推論とイメージ思考＞
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと (90 分)

## テキスト

梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年 (書店で購入)

## 参考書・参考資料等

森津太子・森公美子(編著)『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇(編)『図説心理学入門』、誠信書房、2005年 梅本堯夫・大山正『心理学への招待 ころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

## 学生に対する評価

レポート (50%)・発表 (20%)・授業参加の積極性 (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
- (B) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを理解している。
- (A) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを説明できる。
- (S) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムとともに、脳生理学の理論をからも説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

科目名	心理学ⅡA／心の科学(別)2							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	N1-10-075	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

## 授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

## 授業計画

1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2. 動機づけと情動について学ぶ。＜動因とホメオスタシス＞
3. 動機づけと情動について学ぶ。＜誘因動機づけ＞
4. 動機づけと情動について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
5. 性格理論を学ぶ。＜特性論と類型論＞
6. 性格理論を学ぶ。＜アイゼンクの性格理論＞
7. 性格理論を学ぶ。＜ビッグファイブ理論＞
8. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜ピアジェの発達理論＞
9. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜フロイトの心理性発達理論＞
10. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜エリクソンのライフサイクル理論＞
11. 対人関係の心理学を学ぶ。＜集団の機能＞
12. 対人関係の心理学を学ぶ。＜意思決定＞
13. 対人関係の心理学を学ぶ。＜社会的な手抜き・集団規範＞
14. 個人と社会の心理について学ぶ。
15. まとめ。疑問点の再確認等。

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと(90分)

## テキスト

梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年(書店で購入)

## 参考書・参考資料等

森津太子・森公美子編著『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇編『図説心理学入門』、誠信書房、2005年 梅本堯夫・大山正『心理学への招待 ころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

## 学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解する。  
 (B) 基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学(社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学)の領域を理解する。  
 (A) 心理学の基礎理論が全般を説明できる。  
 (S) 心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

科目名	社会学 I /社会学/社会保障A(別)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N1-11-076	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

現代の社会問題を取り上げ、社会学によって説明をすることを通して、社会的な視点を学ぶとともに、それを身に付ける。

## 授業の到達目標

現代の社会問題を社会的な視点から検討することを通して、大学教育で必要とされる基礎的な考え方を修得する。

## 授業計画

1. 現代社会の課題
2. 人口問題①人口減少社会の課題
3. 人口問題②家族の変化
4. 経済と労働問題 (1) 日本の経済の現状
5. 経済と労働問題 (2) 労働力不足
6. 貧困と社会保障 (1) 格差社会
7. 貧困と社会保障 (2) 社会保障
8. 情報化社会 (1) 情報化社会の現状
9. 情報化社会 (2) 情報化社会の課題
10. 環境問題 (1) 多様な環境問題
11. 環境問題 (2) 環境問題の解決策
12. 国際問題とグローバル化 (1) 国際問題の現状
13. 国際問題とグローバル化 (2) グローバル化の課題
14. 包摂と排除
15. 現代社会をどう生きるか。

## 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

## テキスト

プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

## 学生に対する評価

定期試験 (70%)、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明した社会問題の基礎用語を知っている。
- (B) 授業で説明した社会問題を説明できる。
- (A) 授業で説明した社会問題を社会的に説明できる。
- (S) 授業で説明した社会問題について解決策を提示できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

## その他

・人間学科の2019年度入学生以降は、基礎科目として人間学科の学生は全員必修であるので、必ず履修すること。・社会福祉主事任用資格の科目である。・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題に興味を持ち、今何が起きているのかを確認しておくこと。

科目名	社会福祉各論 I (地域福祉 I) / 社会福祉論 / 地域福祉 A (別)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	城内龍玄	
ナンバリング	N1-11-077	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

テキストを活用した講義を中心としながら地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援等）について理解を深める。地域福祉に関わる組織、団体および専門職の役割について学ぶ。地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携）の意義と方法の理解を深める。地域福祉の推進方法（福祉ニーズ、社会資源の活用、福祉サービスの評価等）の理解を深める。事例問題をグループワーク（演習）によって問題解決の方法をグループで検討する。その検討結果を口頭発表する。横断的に地域福祉を捉え理解を深めたい。実際の現場での声を聞いたり体験し、事例紹介と解説を行う予定である。

## 授業の到達目標

基礎的な地域福祉の概念と範囲や地域組織化（ネットワーク）とその活動の理解を深め、地域住民の一員として自らが主体的に地域福祉活動に参加できるように学びを深める。さらに、今後の地域福祉の動向に対して理解を深め、説明できるようになる。

## 授業計画

1. ガイダンス及び福祉、地域福祉の基本的な考え方を学ぶ
2. 地域福祉の理念と概念（地域での協働、地域自立生活支援等）を理解する
3. 地域福祉の日本と海外の発展の違いを学ぶ
4. 地域福祉の政策展開の種類を学ぶ
5. 地域福祉の推進方法について知る
6. 地域福祉の推進主体と推進方法 ①（ニーズ・キャッチ、組織化、民生委員・児童委員他）を知る
7. 地域福祉の推進主体と推進方法 ②（社会福祉施設、社会福祉協議会、NPO、生協、企業他）を学ぶ
8. 地域福祉における地方自治体の役割（社会福祉計画、地域福祉計画、地域包括支援センター、他）
9. 地域福祉における専門職の役割（1）（保健、医療等）について理解する
10. 地域福祉における専門職の役割（2）（保育所、貧困と子ども、児童館、子どもの居場所、その他）を知る
11. 地域における社会資源の活用・調整・改善・開発について理解する
12. 地方自治団体や介護施設における実務（現場見学）を知る
13. 地域での見守りについてグループワーク（演習）で事例検討を行う
14. 多職種連携についてグループワーク（演習）で事例検討を行う
15. 地域福祉における人的資源の育成、災害支援について理解を深める

## 準備学習(予習・復習)・時間

次の授業の準備として事前に調べておく（計 90 分以上）グループワークの場合は事前に提供した課題に対して独自で検討し、その結果を次の授業でグループワークで検討して解決方法を発表する。実務（現場見学）の際にはレポートまたは感想文を提出するものとする。

## テキスト

『新版よくわかる地域福祉』 上野谷加代子、松端克文、永田祐 編著（ミネルヴァ書房） 2019年に加えて授業中に必要に応じて事例紹介等のプリントを配布する。あらかじめ上記テキストを書店で購入しておくこと。

## 参考書・参考資料等

- ①『ゼミナール地域福祉学（野口定久著）』、中央法規 ②『医療福祉総合ガイドブック 2020 年度版』、医学書店

## 学生に対する評価

レポート・筆記試験（50%）、発表（20%）、積極的な授業参加（30%）で評価する

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域福祉に関する基礎的な概念を理解している。  
 (B) 地域福祉に関する基礎的な概念と基礎的な内容を理解している。  
 (A) 地域福祉に関する基礎的な概念と内容及び枠組みを理解している。  
 (S) 地域福祉に関する基礎的な概念および専門的な内容と枠組みを理解している。

## 課題に対するフィードバックの方法

レポートまたは感想文、小テストを実施した際には、次の授業で解説を実施する予定である。

## その他

グループワークを行う科目である。事例問題を解決するためにグループワークや演習、現場見学において積極的な意見参加をし、建設的な発言・発表をすることを期待する。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業等で介護福祉コンサルタントとして介護施設の経営及び運営コンサルタント、地域福祉に関わる公共向けコンサルタントとして条例案の作成や地域包括支援センターの業務改善など、個人向けコンサルタントとして高齢者の介護、医療、生活保護等のお困りごとの解決などを行った経験を活かし、学生に公共・個人目線の違いなどを知ることにより学生の職業適性や将来設計について考えてもらい、社会福祉に今後関わっていく上での基本知識を身につけて頂く様に講義する。

科目名	社会保障総論 I / 社会保障論 / 社会保障B(別)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	城内龍玄	
ナンバリング	N1-11-078	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

社会保障制度がさまざまな要因で生活困難となった人々の生活を維持する制度の概念や役割を理解する。制度には生活保護制度、年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、失業保険制度があり、これらの基本的な特色と相違について理解を深める。ライフサイクルから見た社会保障についても理解を深める。実際に幾つかの事例紹介でグループワーク（演習）を行い、生活問題の解決に実践・活用が出来るよう知識や方法として社会保障の学びを深める。グループワークではその発表と解説にパワーポイントを積極的に活用する予定である。

## 授業の到達目標

我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、特に選別的・救貧の福祉から一般的福祉へ社会保障の動向を理解する。社会保障の意義、社会保障とは何かに関して学びを深めた上で、年金制度、公的扶助（生活保護、生活困窮）、医療保険、介護保険等の仕組みを理解することで、今後の社会保障制度の課題と動向を理解し、説明できるようになる。

## 授業計画

1. ガイダンス及び社会保障制度の基本的な考え方とその範囲を理解する
2. 社会保障の概念と理念、体系および、その費用と財源について理解する
3. 公的扶助と低所得者対策について理解する
4. 生活保護制度の仕組み（社会福祉事務所、生活保護施設等）を学ぶ
5. 年金保険制度の沿革・概要とその仕組みについて理解する
6. 年金保険制度の仕組み（国民年金、厚生年金、共済年金、老年年金、障害者年金等）を学ぶ
7. 医療保険制度の沿革と概要について理解を深める
8. 国民健康保険制度と後期高齢者医療制度について理解する
9. 介護保険制度の全体像と成年後見制度の概要について理解する
10. 介護認定と介護保険サービスと地域包括支援センターについて理解する
11. 介護保険制度をめぐる最近の動向について知る
12. 労働災害補償保険（労災保険）と雇用保険について学ぶ
13. 社会福祉サービスの仕組み（児童福祉、寡婦福祉、障害者福祉、高齢者福祉等）を学ぶ
14. 日本における社会保障の歴史的展開（国際的な視点で見た社会保障）について学ぶ
15. 欧米における社会保障の歴史的展開（国際的な視点で見た社会保障）について学ぶ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に提供した事例課題を独自で検討（計 90 分以上）し、その結果を次の授業で演習あるいはグループワークで検討して解決方法を発表する。

## テキスト

『社会保障（第2版）』 埋橋孝文・大塩まゆみ 編著 ミネルヴァ書房、2018年に加えて授業中に必要に応じて事例紹介等のプリントを配布する。あらかじめ上記テキストを書店で購入しておくこと。

## 参考書・参考資料等

①『社会福祉小六法 2021』、中央法規 ②『医療福祉総合ガイドブック 2020 年度版（編集 NPO 法人医療ソーシャルネットワーク研究会）』、医学書院

## 学生に対する評価

レポート・筆記試験（60%）、発表（10%）、積極的授業参加（30%）で評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会保障に関する基礎的な概念を理解している。
- (B) 社会保障に関する基礎的な概念と体系を理解している。
- (A) 社会保障に関する基礎的な概念と体系及び枠組みを理解している。
- (S) 社会保障に関する基礎的な概念及び専門的な体系及び枠組みを理解している。

## 課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施した際には、次の授業で解説を実施する

## その他

グループワークを行う科目である。事例問題に対するグループワークや演習には積極的に参加し、建設的な発言・発表をすることを期待する。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業等で介護福祉コンサルタントとして介護施設の経営及び運営コンサルタント、地域福祉に関わる公共向けコンサルタントとして条例案の作成や地域包括支援センターの業務改善など、個人向けコンサルタントとして高齢者の介護、医療、生活保護等のお困りごとの解決などを行った経験を活かし、学生に公共・個人目線の違いなどを知ることにより学生の職業適性や将来設計について考えてもらい、社会福祉に今後関わっていく上での基本知識を身につけて頂く様に講義する。

科目名	キャリアカウンセリング I-1/キャリアデザイン I							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N1-16-079	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

①これまでの自分の目的意識、価値観、経験などを振り返りながら、将来のキャリアを見据え大学で学ぶことの意味を考え、現時点でできること、これから学習していくことは何かを、学生同士が議論しながら進める。②主体性、コミュニケーション能力など、社会人になる前段階として必要な基本スキルを、体感ワークを通じて身につけていく。

## 授業の到達目標

大学生生活と社会の接点、職業観を養うとともに、キャリア形成の基本となる自己表現や自己形成の考え方を習得する。

## 授業計画

1. キャリアとは何かを考える
2. 大学生生活を考える① (大学生と高校生の違い・役割)
3. 大学生生活を考える② (これまでの歩みを整理する)
4. 大学生生活を考える③ (学びの意味を考え目標を立てる)
5. 大学生生活を考える④ (ボランティア活動)
6. コミュニケーション力をつける① (基礎づくり①)
7. コミュニケーション力をつける② (基礎づくり②)
8. コミュニケーション力をつける③ (傾聴)
9. コミュニケーション力をつける④ (伝える)
10. コミュニケーション力をつける⑤ (プレゼンテーション)
11. コミュニケーション力をつける⑥ (アングーマネジメント)
12. コミュニケーション力をつける⑦ (アサーション)
13. コミュニケーション力をつける⑧ (ホスピタリティ)
14. コミュニケーション力をつける⑨ (チーム・ビルディング)
15. 成果と課題を考える

## 準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

## テキスト

教員作成の資料

## 参考書・参考資料等

①平木典子『アサーション・トレーニングーさわやかな〈自己表現〉のために』2009(金子書房) ②大山雅嗣『コミュニケーションスキルワークブック 15講』2012(公益財団法人日本生産性本部) ③齊藤博・上本裕子『大学1年からのキャリアデザイン実践』2017(八千代出版) 他は授業中で紹介する。

## 学生に対する評価

レポート(40%)、発表(30%)、授業への参加度・学習態度(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解している。  
 (B) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解し、その内容を説明できる。  
 (A) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解した上で、他人の意見を尊重して聞き、正しく理解し、自分の意見を分かりやすく表現できる。  
 (S) グループでの討論や議論において適切な手順・手段を用いて、グループの中での意見を自分なりにまとめ、分かりやすくメンバーに伝えることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目(キャリアカウンセリング I-2)/キャリアデザイン II							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N1-16-080	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

①自分自身を見つめ、キャリアデザインのための自己理解を深める。②アセスメントを活用しながら自分の興味関心、能力を認識するとともに、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。③グループワークを通して、人間関係形成・社会形成能力やコミュニケーション能力を高めるとともに課題対応能力や将来に向けたキャリアプランニング能力も身につける。

## 授業の到達目標

自己理解を深め、働くことの本質を理解し、就労への関心を高める。職業社会を理解する上で必要な基礎知識を習得する。

## 授業計画

1. 自己理解とキャリアデザインについて考える
2. 自分らしさについて考える① (自分らしさとは)
3. 自分らしさについて考える② (性格)
4. 自分らしさについて考える③ (興味)
5. 自分らしさについて考える④ (価値観)
6. 職業興味の探索① (自己理解・適性のワーク)
7. 自分らしさについて考える⑤ (自己概念)
8. キャリアデザインの理解
9. キャリアデザインに必要な考え方
10. キャリアデザインの意識
11. ワークキャリアとライフキャリア①
12. ワークキャリアとライフキャリア②
13. 就労をイメージする
14. 職業興味の探索② (自己理解・適性のグループワーク)
15. キャリアプランを作り実行する

## 準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

## テキスト

教員作成の資料

## 参考書・参考資料等

①大山雅嗣『キャリアデザインワークブック 15 講』2013 (公益財団法人日本生産性本部) ②川崎友嗣『大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019 (ミネルヴァ書房) ③池上彰『なぜ僕らは働くのか』2020 (学研プラス) 他は授業中で紹介する。

## 学生に対する評価

レポート (40%)、発表 (30%)、授業への参加度・学習態度 (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解できる。  
 (B) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。  
 (A) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。また、グループワークでわかりやすく他者に説明することができる。  
 (S) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、将来を展望しキャリアプランニングについて考えることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	現代の人権／教養講義(人権論)／人権と福祉(別)							学期	後期
副題	－				授業方法	講義	担当者	竹村和也	
ナンバリング	N1-09-081	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきている。本講義は、まず憲法の定める基本的な統治の仕組みを、特に立法のプロセスを中心に概観し、その後、憲法上の権利及びその権利の現代的展開に焦点を当て、法的な側面から現代社会を理解する。

## 授業の到達目標

統治の基本的な仕組みを学び、現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で理解し、及び現在の法のあり方について批判的思考ができるようになる。

## 授業計画

1. イントロダクション
2. 人権を守る仕組み①(国会と内閣の仕組み)
3. 人権を守る仕組み②(立法過程)
4. 人権を守る仕組み③(裁判所と裁判過程)
5. 憲法の制定過程
6. 憲法の基本原理
7. 国際的人権保障①(国家主権体制と国際人権)
8. 国際的人権保障②(国際的な人権保障の仕組み)
9. 憲法における人権総論規定
10. 医療における自己決定権(治療選択の権利・死ぬ権利)
11. 新たな医療技術とそれを用いる権利(子どもを産む権利)
12. 子どもを産む権利・生まない権利
13. 平等権と夫婦同氏原則
14. 表現の自由とヘイトスピーチ
15. 現代社会と社会権(労働権・生存権)

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業時に配布する印刷物(テキスト)を熟読すること(所要予定時間は60分)、また授業で指示するテーマについて資料を読み、レポートにまとめること(所要予定時間は180分)、毎回ではないが小テストを実施することもあるので、その場合にはテストの準備(90分)

## テキスト

特に定めない。授業ではパワーポイントを用いるが、そのスライドを配布する。また、授業で参考となる印刷物を配布することもある。

## 参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』(晃洋書房、第5版、2018年)、青井未帆『憲法を守るのは誰か』(幻冬舎ルネッサンス新書、2013年)、ディヴィッド・S・ロー、西川伸一訳『日本の最高裁を解剖する』(現代人文社、2013年)

## 学生に対する評価

定期試験(最終レポートを課した場合にはしのレポート)(80%)授業中のミニッツ・ペーパーや持ち帰りの課題提出、授業への積極的な参加(20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) それなりの努力が読み取れる場合
- (B) 内容を概ね理解したと思われる場合
- (A) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている場合
- (S) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されていると共に批判的な検討が行われている場合

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他



科目名	人間学概論 I / 教養講義(社会科学) / 企画科目(社会科学)						学 期	前期	
副 題	—				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N1-26-082	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

政治・経済の基本について講義をすることによって、大学の基礎を理解する。

### 授業の到達目標

社会科学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎を身につける。

### 授業計画

1. 政治①政治原理と政治制度
2. 政治②選挙制度
3. 政治③政党・圧力団体
4. 政治④行政
5. 政治⑤地方自治
6. 政治⑥国際連合・国際社会
7. 法律①法律概論
8. 法律②日本国憲法
9. 法律③民法・刑法・その他
10. 経済①需要・供給・市場
11. 経済②国民所得・経済政策
12. 経済③金融政策
13. 経済④財政・租税
14. 経済⑤貿易体制
15. 経済⑥経済史

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

高校で使用した現代社会や政治経済などの教科書・副教材があれば参考にすること。

### 学生に対する評価

授業内試験 (70%)、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード (30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明した政治・経済の基礎用語を知っている。
- (B) 授業で説明した政治・経済の事象を説明できる。
- (A) 授業で説明した政治・経済の事象を自分のことばで説明できる。
- (S) 授業で説明した政治・経済の問題について解決策を提示できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・人間学科の2019年度入学生以降の選択必修科目である。・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、3、4回生も履修すること。・高校の教科書などを見直すこと。・前回の確認をするので、復習をしておくこと。

科目名	人間学概論Ⅱ／教養講義(人文科学)／企画科目(人文科学)						学 期	後期	
副 題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	N1-26-083	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

歴史・地理・文学の基本について学ぶことによって、大学の基礎を理解する。

### 授業の到達目標

歴史・地理・文学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎を身につける。

### 授業計画

1. 日本史①原始～古代
2. 日本史②中世
3. 日本史③近世
4. 日本史④近代
5. 世界史①アジア史
6. 世界史②西洋古代史
7. 世界史③西洋中世史
8. 世界史④西洋近代史
9. 世界史⑤西洋現代史
10. 地理①地形と気候
11. 地理②農林水産業・鉱工業
12. 地理③世界の国々と人間
13. 文学日本・世界の文学作品
14. 思想西洋・日本の思想
15. 現代社会を生きるために

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

中学・高校で使用した日本史・世界史・地理・現代社会・文学史などの教科書・副教材があれば参考にすること。

### 学生に対する評価

授業内試験 (70%)、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード (30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明した歴史・地理などの人文科学の基礎用語を知っている。
- (B) 授業で説明した歴史・地理などの人文科学の事象を説明できる。
- (A) 授業で説明した歴史・地理などの人文科学の自分のことばで説明できる。
- (S) 授業で説明した歴史・地理などの人文科学の問題について解決策を提示できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやミニツッパーパーを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・人間学科の2019年度入学生以降の選択必修科目である。・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、3、4回生も履修すること。・中学校、高校の教科書などを見直すこと。・前回の確認をするので、復習をしておくこと。

科目名	企画科目(数的処理)／教養講義(数的処理)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	N1-15-084	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

人間が生きていく上で知っておきたい概念のひとつに数学の考え方があ。それらを駆使したものである数的処理の基本は、小学校の算数の文章題にある。それらを基本からそして実践的になってくる論理思考を身につける。解くことは難しいことかもしれないが、その仕組みをみていく。

## 授業の到達目標

数的処理の感性づくり、数的処理といえど何よりも数学的判断により事がすすむという実践感をもてることである。いろいろな志向性が感じられるようになる。

## 授業計画

1. 全てに対応できる思考力の必要性について (序章)
2. 教養的な思考力 (基礎) ～代数編 (理論編)
3. 教養的な思考力 (基礎) ～代数編 (実践編)
4. 教養的な思考力 (基礎) ～幾何編 (理論編)
5. 教養的な思考力 (基礎) ～幾何編 (実践編)
6. 教養的な思考力 (基礎) ～確率編
7. 実践的な思考力編
8. 日常的なものとの対比編 (理論との対比)
9. 日常的なものとの対比編 (実践理論のまとめ)
10. 論理編 (実践問題の読みとる力)
11. 論理編 (実践問題の解法力)
12. 論理編 (対処法)
13. 総括まとめ (思考力編)
14. 総括まとめ (実践力編)
15. 総括まとめ (終章)

## 準備学習(予習・復習)・時間

実践公務員試験から数学的なセンスが問われる問題が多いが、コツコツと積み重ねる努力が必要であるので、復習に時間をかけること (90分)

## テキスト

随時授業内で提示配布していく。

## 参考書・参考資料等

展開していく中で、毎回参考資料は提示するが、その都度参考書は提示していく。

## 学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (30%)、授業参加の積極性 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) すべて一般的に求める姿勢を感じられること
- (B) 論理性に気がつきより一層調査研究し求める姿勢を感じられること。
- (A) 論理性に理解を示そうとして、授業を通して認識・理解を探究できること。
- (S) 論理的に理解ができていて、授業を通じて認識・理解できていること。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回、質問形式の課題についてのフィードバックは行う。その方法は、授業中に指示を行うことにする

## その他

数的推理から連想するものは、どういものでしょうか？SPI問題からよく聞く単語でもあるが、この機会に論理性を推理してもらいたいと考えている。基本的には、毎回問題提示する中で解けることで評価を決めていくが、一概にそうとは限らず理解度の評価になる。数学的な問題だが、単に解ければいいということではない。そこに注意してほしい。楽しさが常にある講座にしていくので、この講座では思考の表現力が必要である。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校での教員としての経験を通して、より分かりやすい実践内容に工夫をして問題に対する意識を関心を植え付けるようにしていく。

科目名	企画科目(自然科学)／教養講義(自然科学)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	N1-26-085	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

自然科学という漠然とした講義内容であるが、それぞれの分野に分けて行っていく。学ぶひとつの目的に社会現象についての意思決定があげられるが社会に関係する自然科学の現象について様々な角度からの総合的な意見をもつことの重要性を取り上げ理解する。

## 授業の到達目標

物理的な現象・数学的な思考力を考えたとき、科学に関する社会問題に対し意思決定や科学の重要な発見を自分自身の中に発見し、人間の喜びをみつけられることが望まれる。自然科学の仕組みをこの講座を通して認識する。

## 授業計画

1. 全てに対応できる知力について (序章)
2. 教養的な物理 (基礎)
3. 教養的な科学 (基礎)
4. 教養的な数学 (基礎)
5. 物理・数学の融合性について (数学的観点から)
6. 物理・数学の融合性について (物理的な観点から)
7. 物理・数学の融合性を整理分析
8. 科学的な実践問題
9. 化学的な実践問題
10. 地学的な実践問題
11. 日常での科学的方法について情報を収集
12. 日常での科学的方法について (データの分析)
13. 科学の総括的な捉え方について (数学的理論)
14. 科学の総括的な捉え方について (科学的理論)
15. 総括まとめ (終章)

## 準備学習(予習・復習)・時間

自然科学とは、かなりの分野的に広いものである中でのこの講座は、事実を知っていくことを重視していく。その中で調べ学習の大切さに重点を置いている復習時間に90分以上を必要とする

## テキスト

毎回随時テキストを配布していくが、その都度必要と考えれば提示していく

## 参考書・参考資料等

この一冊とは限らず参考資料を紹介する。SPI問題を通して実践的な問題を提示する。

## 学生に対する評価

毎回実践問題を提示し解決度の積み重ねで評価がでる。思考方法を理解していくことが大きな評価に繋がる。 レポート (30%)、発表 (30%)、授業参加の積極性 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 思考方法を知る姿勢が感じられること。
- (B) 論理性に気がつきより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
- (A) 論理性に理解を示そうとして、授業を通して認識・理解を探究できること。
- (S) 論理的に理解ができていて、授業を通じて認識・理解できていること。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

科学の理論は、自然界の普遍的な真理を表すとともに、有る科学者の創造力による芸術作品と云えるものが数多く存在する。その一つ一つを少しでも理解の域に混入していく努力をする。今たくさんの科学の事象で想定外が起ってきているというが、そうではないといえる部分がたくさん存在してきている。そういうところを自分の考え方をもちつことを大切にすることを重要性を解いていく。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校での教員としての経験を通して、自然科学一般について、数学も含めてなぜ？からあつそうなんですね。というところをわかりやすく涵養する。

科目名	人間学基礎ゼミⅢA							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N2-26-086	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

体験学習を通して、自分を表現することを学び、他者の自己表現に心を向けて寄り添うことを学び、お互いに表現し合い、受けとめ合い、交流し合うことで自己像と他者像がどのように変わってゆくのかについて学んでゆく。授業の随所にアクティブラーニング（active learning）を埋め込みながら、楽しみながら学んでゆく。

## 授業の到達目標

人間について学ぶための基礎力をつける。

## 授業計画

1. オリエンテーション自己紹介と人間学について
2. 心とは何か自分を何かの“もの”に例えて、・・・話し合おう・・・我・汝
3. 感覚と知覚・・・現実感覚とは
4. 身体と感覚・・・「身体の緊張：五感とストレスと言語」
5. 人間の持つ言語の不思議
6. 心の時間と現実の時間
7. 心と身体は「感情・情動」によってむすばれる
8. 「思い」と「言葉」・・・ワンウェイコミュニケーション。
9. 学習（古典的条件づけ）
10. 学習（オペラントの条件づけ）
11. 記憶について
12. 記憶と学習とトラウマ
13. 仏教カウンセリングの基礎理論Ⅰ「空間・戒律・仏性」
14. 仏教カウンセリングの基礎理論Ⅱ「静寂と正念（マインドフルネス）」
15. まとめ。

## 準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる。各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次回に提出させる。(計90分以上)

## テキスト

随時プリントにて配布

## 参考書・参考資料等

①梅本堯夫、大山正、岡本浩一、高橋雅延 『心理学第2版心のはたらきを知る』サイエンス社、2014年 ②デビットブレインジャー 『禅セラピー-仏教から心理療法への道』コスモスライブラリー、2004年 ③ダニエル・J・シーゲルス 『脳にみる心、心にみる脳：mind サイトによる新しいサイコセラピー』星和書店、2013年 ④大谷彰 『マインドフルネス入門講座』金剛出版、2016年

## 学生に対する評価

授業での発言、積極的行動、毎回の授業レポートによる評価（50%）試験（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 身体感覚とともに自分を知ることと人間学とのつながりが理解できている。
- (B) 言語と言語以外のコミュニケーションを通して自他を知ることの大切さが理解できている。
- (A) 人間学とは何かについて、自分の言葉と文字で表現することができる。
- (S) 人間学とは何かについて、自分の言葉と文字で表現し、他者に伝えることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

体験学習が主になりますので、積極的な参加を期待しています。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、人間の成長と傷つき、そこからの回復という人間の生きる力を学べる場としたい。

科目名	人間学基礎ゼミⅢB							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	廣田恵美子	
ナンバリング	N2-07-087	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日常生活や大学生活における日本語会話力を養成する。テキストに沿って進める。具体的には、日常生活や大学生活において必要な会話表現を学び、ロールプレイを行い、実用的な場面で実際に使用できる力を養成する。論理的に自分の意見や主張を日本語で表現できるよう日本語でのロジカルトレーニングも行う。又、それぞれの季節における日本文化を紹介、可能な場合は体験し、それぞれの文化的な場面での言葉・会話・表現なども身に付ける。

## 授業の到達目標

日常生活や大学生活を送るに不足ない会話力を身に付ける。

## 授業計画

1. 授業の進め方について・「クラスで自己紹介をする」
2. 日本の春の文化について
3. 「自分の国の料理の作り方を教える。」
4. 「先生を飲み会に誘う」
5. 「先生の誘いを断る」
6. 「友達を慰める・励ます」
7. 「パーティーで初対面の人と話す」
8. 「電話をかけて伝言を頼む」
9. 「医者に症状を紹介する」
10. 「財布をなくして説明する」
11. 「希望の部屋を探す」
12. 日本の夏の文化について
13. 「電話でアルバイトに応募する」
14. ロールプレイ発表
15. ロールプレイ発表の振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

テキストの未修語彙については意味を調べてから授業に臨むこと。(10分) 毎回課す課題には、積極的に取り組むこと。(30分) 授業で習った会話表現を実際に場面でスムーズに発話できるよう、授業後しっかりと発話練習をすること。(30分)

## テキスト

中居順子他『会話に挑戦！ 中級前期からの日本語ロールプレイ』、スリーエーネットワーク、2005（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

西隈俊哉『日本語ロジカルトレーニング』、アルク、2018

## 学生に対する評価

期末試験（64%）、課題の提出（26%）、授業参加の積極性（10%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) メモを見ながらではあるが、ロールプレイの会話を行うことができる。
- (B) 会話文を覚え、ロールプレイの会話を行うことができる。
- (A) 会話文を覚え、会話文や発音に間違いのないロールプレイの会話を行うことができる。
- (S) 会話文を覚え、流暢にロールプレイの会話を行うことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業内で随時フィードバックを行う。

## その他

日本語の会話を上達させることに真剣に取り組みたい者は誰でも受講をすることができる。欠席の際は必ず事前に連絡すること。全講義の1/3を超えて欠席した者には単位を与えない。3回の遅刻を1回の欠席と見なす。授業で習った会話はテキスト付属のCDを使い、繰り返し復習し、実際の使用場面に遭遇した際は、自身の言葉として発話できるよう定着させておくこと。

科目名	人間学基礎ゼミⅣA						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N2-26-088	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

体験学習を通して、感情を中心に、脳と身体感覚、行動（運動）について考察し、フェルトセンスを感じることを目的とした授業形態である。それは、書くこと、読むこと、歌うこと、身体を動かすことを通して身体感覚を育み、自他への思いやりの大切さが理解できるようなエクササイズを中心としたものである。

## 授業の到達目標

この世で生きる限り、私たちの脳と身体が一致することで、安心・安全感を持つことができる。そこには、感情と言う人間学の中心的概念がある。これは神経生理学から理解することができる。それはまた、私たちの大いなる時間と自然が育んできた生命そのものから生まれたものである。この授業は、感情を中心に身体・脳（思考）・行動に気づきを持ちながら、さまざまな体験学習を行う。その体験プロセスから、体感したこと、イメージしたことを形（文字・文章）にする学習をする。その体験過程を言語化する中で、そこに関連情報を集め収集し、集めた情報を吟味し、文章を書くことを学ぶ。

## 授業計画

1. 授業の進め方について心とは
2. 心身の「安全」と「絆」について（生理学的視点から）・ポリバーガル理論概論
3. 第1章こころ①「我と汝」・自分の中の対話
4. こころ②自分と大自然と対話してみよう。
5. こころ③人生曲線とは。俯瞰する時間と記憶
6. こころ④家系図を描いてみよう：なぜ人間学科を選んだのか？
7. 第2章不安日本大震災からの学び・・・現代社会と宗教を考える
8. 第3章静謐と狂気言語と身体の自由な往復運動サウンドを作ろう。ミュージックセラピー・ダンスセラピー
9. 第4章死犯罪被害者支援を考える：被害者の文章を黙読と音読で読む
10. 第5章私を俯瞰する・・・ゲシュタルト療法より擬人化ワーク
11. 第6章超越①他者を通して自分を知る
12. 超越②他者を支援する
13. スピリチュアリティとは何か：人生の俯瞰的な視点について
14. 「癒しの糸をたぐりよせるために」レポート作成の授業
15. まとめの質疑応答

## 準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べさせる。(90分以上) 各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次の授業時に提出させる。(計90分以上)

## テキスト

随時プリント配布

## 参考書・参考資料等

①加藤清, 上野圭一 『この世とあの世の風通し加藤清は語る』 春秋社, 1998年 ②皆藤 章 『心理臨床家のあなたへ』 皆藤章 福村出版, 2018年 ④スティファン・W・ポージャス 『ポリバーガル理論入門』 春秋社, 2019年 ③ダニエル・J・シーゲルス 『脳にみる心、心にみる脳：mindサイトによる新しいサイコセラピー』 星和書店, 2013年

## 学生に対する評価

授業での発言、積極的行動、毎回の授業レポートによる評価 (50%) レポート試験 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業での体験学習と各講義の重要語句との繋がりが最低限の文章化ができる。  
 (B) 授業での体験学習について、各講義の重要語句との繋がりがある程度の文章化できる。  
 (A) 授業での体験学習と今までの講義の知識とつなげることができ、それを文章化できること。  
 (S) 授業での体験学習と講義の知識から新しい気づき生まれ、それを文章化できること。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

授業の随所にアクティブラーニング (activelearning) を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚 (フェルトセンス) に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ISPトレーニング、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、人間の成長と傷つき、そこからの回復という人間の生きる力を学べる場とするとともに、人と人とのつながりという社会神経を培うことの重要な意味を体験学習から伝える。

科目名	人間学基礎ゼミⅣB							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	廣田恵美子	
ナンバリング	N2-07-089	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

「人間学基礎ゼミⅢB」に引き続き、日常生活や大学生活における日本語会話を養成する。テキストに沿って進める。具体的には、日常生活や大学生活において必要な会話表現を学び、ロールプレイを行い、実用的な場面で実際に使用できる力を養成する。論理的に自分の意見や主張を日本語で表現できるよう日本語でのロジカルトレーニングも行う。又、それぞれの季節における日本文化を紹介、可能な場合は体験し、それぞれの文化的な場面での言葉・会話・表現なども身に付ける。

## 授業の到達目標

日常生活や大学生活を送るに不足ない会話を身に付ける。

## 授業計画

1. 「日にち変更の許可を求める」
2. 「日常生活でいろいろなことを頼む」
3. 「先生に訂正を求める」
4. 「手伝いを申し出る」
5. 「注文の間違いを言う」
6. 日本の秋の文化について
7. 「ごみの出し方を注意されて謝る」
8. 「交通事故の状況を説明する」
9. 「合宿場所の相談をする」
10. 「面接の練習をする」
11. 「進学について教えてもらう」
12. 「友達と意見を出し合う」
13. 日本の冬の文化について
14. ロールプレイ発表
15. ロールプレイ発表の振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

テキストの未修語彙については意味を調べてから授業に臨むこと。(10分) 毎回課す課題には、積極的に取り組むこと。(30分) 授業で習った会話表現を実際に場面でスムーズに発話できるよう、授業後しっかりと発話練習をすること。(30分)

## テキスト

中居順子他『会話に挑戦！ 中級前期からの日本語ロールプレイ』、スリーエーネットワーク、2005（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

西隈俊哉『日本語ロジカルトレーニング』、アルク、2018

## 学生に対する評価

期末試験（64%）、課題の提出（26%）、授業参加の積極性（10%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) メモを見ながらではあるが、ロールプレイの会話を行うことができる。  
 (B) 会話文を覚え、ロールプレイの会話を行うことができる。  
 (A) 会話文を覚え、会話文や発音に間違いのないロールプレイの会話を行うことができる。  
 (S) 会話文を覚え、流暢にロールプレイの会話を行うことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業内で随時フィードバックを行う。

## その他

日本語の会話を上達させることに真剣に取り組みたい者は誰でも受講をすることができる。欠席の際は必ず事前に連絡すること。全講義の1/3を超えて欠席した者には単位を与えない。3回の遅刻を1回の欠席と見なす。授業で習った会話はテキスト付属のCDを使い、繰り返し復習し、実際の使用場面に遭遇した際は、自身の言葉として発話できるよう定着させておくこと。



科目名	キャリアカウンセリングⅡ-1／キャリアデザインⅢ							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N2-16-090	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

グループディスカッション等を通じて実践しながら社会人基礎力について考える。近年の働き方や生き方の変化に伴い提唱されている新たな社会人基礎力について学ぶことにより、より中長期的な視点に立った必要な能力について考える。

## 授業の到達目標

職場や地域社会で多様な人々と仕事・社会生活をしていくために社会人として必要な基礎的な力について、知識の習得だけでなく、行動に繋げる。

## 授業計画

1. 人生設計とキャリアデザインを考える
2. 社会人の心構えと求められる能力を考える
3. 社会人基礎力（前に踏み出す力①－主体性）
4. 社会人基礎力（前に踏み出す力②－実行力）
5. 社会人基礎力（前に踏み出す力③－働きかけ力）
6. 社会人基礎力（考え抜く力①－課題発見力）
7. 社会人基礎力（考え抜く力②－計画力）
8. 社会人基礎力（考え抜く力③－創造力）
9. 社会人基礎力（チームで働く力①－発信力）
10. 社会人基礎力（チームで働く力②－傾聴力）
11. 社会人基礎力（チームで働く力③－柔軟性）
12. 社会人基礎力（チームで働く力④－状況把握力）
13. 社会人基礎力（チームで働く力⑤－規律性）
14. 社会人基礎力（チームで働く力⑥－ストレスコントロール力）
15. 人生100年時代に求められる能力を考える

## 準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

## テキスト

山崎紅「社会人基礎力講座」(日経BP社)「書店で購入」

## 参考書・参考資料等

①村山昇『働き方の哲学』2018(ディスカバリー・トゥエンティワン) ②井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門 第2版』2020(慶応義塾大学出版会) ③リンダ・グラットン・アンドリュース・スコット『LIFE SHIFT-100年時代の人生戦略』2016(東洋経済新報社) 他は授業中で紹介する。

## 学生に対する評価

レポート(30%)、発表(40%)、授業への参加度・学習態度(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会人基礎力について理解している。
- (B) 社会人基礎力について理解でき、積極的な意見の発表、質問ができる。
- (A) 社会人基礎力について理解でき、テーマについてセルフワークができ、グループワークで議論できる。
- (S) 社会人基礎力について理解でき、テーマについてプレゼンテーションができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目(キャリアカウンセリングⅡ-2)/キャリアデザインⅣ							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N2-16-091	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

① 産業・業種・職業の定義を理解し、産業と職業の関係を考える。② アセスメントツールを用いて自分の興味ある分野を考え自己理解を深める。③ キャリア形成の多様性を考える。

## 授業の到達目標

産業（業種）・職種・企業についての理解を深めるとともに、現代社会における多様な働き方の現状を理解する。

## 授業計画

1. 「社会人」と「働くこと」
2. 産業と職業を理解する
3. 職業との関わりを考える
4. 産業とは何かを理解する
5. 産業の多様性を知る
6. 役割分担について考える
7. 社会人インタビュー情報から学ぶ①（一般事務の仕事）
8. 社会人インタビュー情報から学ぶ②（営業の仕事）
9. 社会人インタビュー情報から学ぶ③（商社の仕事）
10. 社会人インタビュー情報から学ぶ④（介護サービスの職業）
11. 社会人インタビュー情報から学ぶ⑤（製造技術者の仕事）
12. キャリアパスについて考える
13. キャリア形成と自己理解の深化
14. 多様なキャリア形成について考える
15. 今後の社会と生き方を考える

## 準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

## テキスト

川崎友嗣『大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019（ミネルヴァ書房） 教員作成の資料

## 参考書・参考資料等

①『会社四季報業界地図 2021』2020（東洋経済新報社） ②田宮寛之『みんなが知らない超優良企業：新しいニッポンの業界地図』2016（講談社新書） 他は授業中で紹介する。

## 学生に対する評価

レポート（60%）、授業への参加度・学習態度（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 職業や産業に関する基礎的事項を理解している。
- (B) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、内容を適切な文章で表現できる。
- (A) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考えることができる。
- (S) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考え、プレゼンテーションができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	伝統文化実習(民俗調査)/人間学実習(社会調査)					学期	通年		
副題	社会調査士G科目				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-11-092	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

高野山および周辺集落の地域について調査を実施する。まず地域調査の概要について説明するとともに、調査地域を実見し、地域の課題を知る。高野町役場などで既存資料を収集した上で、調査計画を立案する。行政や地域住民に対してインタビュー調査を実施する。受講生の報告をもとに、最終的に調査報告書を作成する。

### 授業の到達目標

地域調査法の基礎を習得するとともに、実社会を理解するために、受講生自らが調査計画を立て上で、地域調査を行い、報告書を作成する。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 地域調査の概要
2. テーマを設定する (1)
3. テーマの設定する (2)
4. 調査法の確認 (1) 質的調査法
5. 調査法の確認 (2) 量的調査法
6. 調査計画書の作成 (1)
7. 調査計画書の作成 (2)
8. 既存資料の収集 (1)
9. 既存資料の収集 (2)
10. 既存資料の収集 (3)
11. 既存資料の整理・分析
12. 観察調査の実施 (1)
13. 観察調査の実施 (2)
14. 観察調査の実施 (3)
15. 観察調査の整理

#### 【後期】

1. インタビュー調査の実施 (1)
2. インタビュー調査の実施 (2)
3. インタビュー調査の実施 (3)
4. インタビュー調査のデータ整理・分析
5. 中間報告 (1)
6. 追加調査の実施 (1)
7. 追加調査の実施 (2)
8. 追加調査の実施 (3)
9. 中間報告 (2)
10. 調査報告書の作成 (1)
11. 調査報告書の作成 (2)
12. 調査報告書の作成 (3)
13. 調査報告書の作成 (4)
14. 受講生の報告 (1)
15. 調査報告書の修正

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

上野和男他編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館その他授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

報告書 (50%)、授業中の発言やコミュニケーションカードなど積極的な授業態度 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テーマを選び、調査計画を立てることができる。
- (B) 調査計画に基づいて、調査ができる。
- (A) 調査に基づき、報告書を作成できる。
- (S) 学んだことをもとに、自身で調査ができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・積極的に授業に参加するとともに、授業外における課題の作成、調査が必要であることを了解した上で履修すること。・社会調査士G科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	企画科目(カウンセリング論A)／人間学専門講義(カウンセリング論A)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N2-10-093	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

## 授業の到達目標

カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

## 授業計画

1. オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2. カウンセリングの歴史的背景を知る
3. 心理アセスメントについて
4. 様々なカウンセリングを知る (クライアント中心療法)
5. 様々なカウンセリングを知る (精神分析的心理療法)
6. 様々なカウンセリングを知る (解決思考アプローチ)
7. 様々なカウンセリングを知る (認知行動療法)
8. 様々なカウンセリングを知る (その他)
9. 子どもへのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
10. 保護者へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
11. 発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
12. 被虐待へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
13. 非行を行う人へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
14. 自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べさせる。(90分以上) 各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義・体験学習の振り返りやキーワードの説明を記述し(90分)、次の授業時に提出する。

## テキスト

随時プリント配布

## 参考書・参考資料等

①河合隼雄著 『カウンセリングの実際問題』 誠信書房、1970年 ②國分康孝 『カウンセリングの理論』 誠信書房、1980年 ③國分康孝 『カウンセリングの技法』 誠信書房、1979年 ④諸富祥彦 『カウンセリングとは何か』 誠信書房等、2010年

## 学生に対する評価

課題(複数)レポート(50%)・授業中の発表・ディスカッション・実習等の参加度(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
- (B) カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
- (A) カウンセリングの技法(最低3つ以上)と基礎知識について説明できる。
- (S) カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

授業の随所にアクティブラーニング(active learning)を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚(フェルトセンス)に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ISPトレーニング、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。

科目名	企画科目(社会調査入門)/人間学専門講義(社会調査入門)						学期	前期	
副題	社会調査士A科目				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-11-094	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

社会調査の基礎・概要について学ぶとともに、社会調査がなぜ必要であり、なぜ基礎的な技法を学ばなければならないのかを考える。

### 授業の到達目標

社会調査の基礎・概要を理解する。

### 授業計画

1. 社会調査の目的と意義
2. 社会調査の歴史
3. 調査倫理
4. 量的調査と質的調査
5. 既存統計データ (1)
6. 既存統計データ (2)
7. 量的調査 (1) 質問紙調査の概要
8. 量的調査 (2) 統計処理の方法
9. 量的調査 (3) 質問紙調査の事例
10. 量的調査 (4) 質問紙調査の事例
11. 質的調査 (1) 質的調査の概要
12. 質的調査 (2) インタビュー調査の事例
13. 質的調査 (3) 観察法の事例
14. 質的調査 (4) ドキュメント分析の事例
15. 社会調査の可能性—実際の調査事例

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

### テキスト

特になし

### 参考書・参考資料等

プリントを配布する。

### 学生に対する評価

レポート (70%)、小レポートと授業参加の積極性 (30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会調査の基礎的な用語について説明ができる。
- (B) 社会調査の各方法について説明ができる。
- (A) 社会調査の設計ができる。
- (S) 社会調査を実施できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

- ・社会調査を設計し、実際に予備調査を行った上で、レポートを作成することになるので、授業について十分に理解すること。
- ・社会調査士A科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	企画科目(社会調査方法論)／人間学専門講義(社会調査方法論)							学期	後期
副題	社会調査士B科目				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-11-095	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

社会調査による資料やデータの収集、整理していく具体的な方法について解説を行う。調査目的と調査方法、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法、アンケート用紙の作成、調査の実施方法、調査データの整理について説明を行う。

### 授業の到達目標

調査設計と実施方法に関する具体的な知識の習得

### 授業計画

1. 調査目的
2. 調査方法と調査方法の決め方
3. 調査企画
4. 調査の設計と仮説構成
5. 全数調査と標本調査
6. 無作為抽出
7. 標本数と標本誤差
8. サンプリングの諸方法
9. 質問文・調査票の作り方 (1)
10. 質問文・調査票の作り方 (2)
11. 調査票の配布・回収
12. エディティング、コーディング、データクリーニング
13. インタビューの仕方
14. フィールドノートの作成
15. 具体的な調査計画を立てる

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

### テキスト

特になし

### 参考書・参考資料等

篠原清夫 / 清水強志 / 榎本環 / 大矢根淳編, 2010, 『社会調査の基礎知識』弘文堂. そのほかは授業のなかで適宜紹介する。

### 学生に対する評価

授業内の課題 (毎回のテスト) (70%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (20%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識について覚えている。
- (B) 基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識について資料を使って説明できる。
- (A) 基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識を適切な資料を選び自分の言葉で説明できる。
- (S) 基本的な資料とデータの分析に関する知識を踏まえて上で、資料の分析ができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	企画科目(情報リテラシー論)/人間学専門講義(情報リテラシー論)					学期	前期		
副題	社会調査士C科目			授業方法	講義	担当者	森本一彦		
ナンバリング	N2-13-096	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

この授業は、官庁統計、調査報告書などの統計資料を理解するために必要な基礎的知識の習得を目的とする。単純集計、度数分布、記述統計量、クロス集計などの記述統計データやグラフの正確な理解と、そうしたデータ分析を行なうための基礎的知識と技術を身につけていく。

### 授業の到達目標

基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識の習得

### 授業計画

1. ガイダンス：講義説明
2. 統計資料の種類と特性
3. 統計資料の収集と読み方
4. 質的変数と量的変数
5. 記述統計(1)単純集計
6. 記述統計(2)度数分布、代表値、分散 (1)
7. 記述統計(3)度数分布、代表値、分散 (2)
8. 記述統計(4)平均、中央値、最頻値など
9. 記述統計(5)分散・標準偏差など
10. クロス集計 (1)
11. クロス集計 (2)
12. 相関
13. 因果関係
14. 調査データを用いた統計と分析 (1)
15. 調査データを用いた統計と分析 (2)

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

### テキスト

なし

### 参考書・参考資料等

篠原清夫/清水強志/榎本環/大矢根淳編, 2010, 『社会調査の基礎知識』弘文堂. そのほかは授業のなかで適宜紹介する。

### 学生に対する評価

授業内の課題 (毎回のテスト) (70%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (20%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識について覚えている。
- (B) 基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識について資料を使って説明できる。
- (A) 基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識を適切な資料を選び自分の言葉で説明できる。
- (S) 基本的な資料とデータの分析に関する知識を踏まえて上で、資料の分析ができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	企画科目(地域産業論)/人間学専門講義(地域産業論)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	鈴木裕範	
ナンバリング	N2-11-097	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

30年後2050年の世界、日本、ふるさと、そして日本人の暮らしは？グローバル経済はさらに進展、IT社会が成熟、AI産業は拡大する一方で、日本の人口は減少に歯止めがかからず、日本社会における格差社会の定着化は避けられない。あなたたちが生きる時代のこと、それほど遠い先のことではない。「経済偏差値」のようなものがあるとして、あなたのリテラシーはどれほどのものか。「なるようになる」と思っていますか。「なるようにはならない、って」。日本の「没落」に如何に歯止めをかけ、SDGs日本を、ふるさとを立て直すのか。あなたたちの世代の仕事である。「経済大国」「豊かな国」の時代はすでに過ぎ去った。150年前の明治時代の幕開け、あるいは昭和の戦争後の先人の「建国の精神」に学びつつ、時代に適応した経済、暮らしをつくり上げていくことが求められている。いま重要なことは、過去に学び、現在を見つめ、未来を構想することだ。本授業は「地域産業」を入り口に、日本経済の変遷と衰退、課題を取り上げ、この国の近現代における興亡を見つめる。地域産業の日本経済における役割や意義は？新産業としての再生可能エネルギーや文化、観光産業の創出、地方自治体と産業政策などをテーマに講義し、「経済」「地域」「暮らし」への理解と関心を深めることを目的とする。

## 授業の到達目標

経済学についてこれまで総合的なことはもちろん基礎についてもほとんど学ぶことなくきたが、この授業をとおして日本経済と社会の関係や仕組みを理解する「読解力」を身につけ、「現在」という時代を知り、生活に生かしていくことを学び説明できるようになる。

## 授業計画

1. Ready? 日本経済はいまどこにあるか。地域産業から学ぶ経済の仕組み
2. 地域における地域産業のプレゼンス 産業が回らず地域の経済と暮らし
3. 明治、近代という時代、日本がめざした国のかたちと経済。司馬遼太郎『坂の上の雲』・渋沢栄一を読む
4. 繊維産業の光と陰。アパレル産業の斜陽化と百貨店の不振、「負の連鎖」を和歌山産業史から読む
5. 「企業城下町」の現在(いま)。企業が町を、都市を創る
6. 食品・関連産業が映し出す現代日本人の肖像。「食」の洋風化・外食化その背景にあるもの
7. 案外知らない「老舗大国」日本はどうして実現したのか？経済哲学と商法を読み解く
8. 企業は人なり。時代を読み新たなビジネスモデルを創った和歌山経済の偉人たち、島精機、紀州技研ほか
9. 経済発展とともに失われた日本の暮らしの文化、手仕事を軽視してきた国のツケ
10. 日本の食料自給率・輸入品が語る日本農業の危機と可能性 コメは？穀物・野菜、酪農品は？
11. 瀬戸際の日本の漁業・水産業、コロナ禍があぶり出す外国人労働者依存など危うさの数々
12. 訪日外国人観光客4千万人と社会基盤の整備 観光立国による経済効果が地方を救う
13. もうひとつの観光産業論、観光が日本を亡ぼす「観光亡国論」の現実度
14. 地方創生と日本の成長 カギを握るのは再生可能エネルギー戦略「グリーン」と「エコ」の促進
15. 地域産業の復権で地方がよみがえる。「小さな経済」から発想する地域の未来

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業終了後に毎回授業のテーマに関わる小レポート(800字程度+キーワード)(計90分以上)を課すので、次回授業時に提出すること。

## テキスト

授業担当者が各授業で配布する資料

## 参考書・参考資料等

授業で適宜指示をする。現時点での参考図書は『渋沢栄一・論語と算盤』『平成経済衰退の本質』(金子勝著 岩波新書)。

## 学生に対する評価

レポート(70%)、発表(20%)、授業参加の積極性(10%)。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本経済と地域産業の関係について覚えている。
- (B) 地域経済と地域産業の関係について、自分のふるさとなどを事例に説明できる。
- (A) 地域産業の盛衰がもたらす日本経済・地域経済への影響について具体的なモデルを示して説明できる。
- (S) 地域産業の復活による地方再生、日本経済発展のための将来の産業のあり方について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次の授業時に返却する。定期試験は知識の理解、習得を確認するために最終授業で実施する。

## その他

授業は担当教員の研究・調査を中心に進行する。受講にあたっては、出身地ならびに和歌山県の地域特性については簡単なレポートにまとめておくなど予備知識を得て臨んでほしい。レポートの提出がない場合は出席を認めない。



科目名	企画科目(地域連携)/人間学専門講義(地域連携)/地域福祉B(別)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-11-098	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

高野山や周辺地域に関わりのある方をゲストスピーカーとして招き、話題提供をしていただき、その後質疑応答、ディスカッションを行うことによって、地域を理解する。

### 授業の到達目標

高野山大学が立地する地域に関する理解し、説明できる。

### 授業計画

1. 地域社会から考える
2. 地方行政－高野町の事例
3. 高野山と産業 (1) ごま豆腐
4. 高野山と産業 (2) 織物
5. 高野山と産業 (3) 橋本と高野山
6. 高野山と産業 (4) 農業
7. 高野山を支える (1) 福祉
8. 高野山を支える (2) 経済
9. 高野山を支える (3) 地域ブランディング
10. 高野山を支える (4) 移住者
11. 参拝と観光
12. 地域と教育
13. 高野町の町並み (建築)
14. 地方自治
15. 地域社会の課題

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

最終レポート (70%)、小レポートと授業参加の積極性 (30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域社会に関する基本用語を説明できる。
- (B) 地域社会がどのような状況にあるかを説明できる。
- (A) 地域社会に対して自分の考えを提案できる。
- (S) 地域社会に対して実際に行動することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・高野山周辺を中心として就職したいという強い希望を持ち、真面目に受講することが必要である。・インターンシップを希望する者は、必ず受講すること。・授業内容・日程・ゲストスピーカーなど詳細については、第1回目の授業に指示する。・意見を発表してもらおうので、授業を聞いて内容を理解する必要がある。

科目名	企画科目(発達心理学A)／人間学専門講義(発達心理学A)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N2-10-099	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

生涯発達の視点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を理解する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考察する。

## 授業の到達目標

人間の発達の観点に基づいて総合的に人を理解でき、各発達段階での適切な援助方法を考えることができるようになる。

## 授業計画

1. 発達心理学とは
2. 遺伝と環境、及び、初期経験
3. 言語の発達について
4. 認知の発達について
5. 発達段階と発達課題（総論）
6. 乳児期の発達について
7. 幼児期の発達について
8. 児童期の発達について
9. 思春期の発達について
10. 青年期の発達について
11. 成人期の発達について
12. 老年期の発達について
13. 発達障害とその支援①
14. 発達障害とその支援②
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる（90分）。各授業終了後、フィードバック用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90分）、次回の授業で提出する。

## テキスト

小野寺敦子『手にとるように発達心理学がわかる本』かんき出版、2010年（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

関一夫・斎藤慈子『ベーシック発達心理学』東京大学出版会、2018年 無藤隆・田島信元・高橋恵子『発達心理学入門(1)』東京大学出版社、2010年 無藤隆・田島信元・高橋恵子『発達心理学入門(2)』東京大学出版社、2010年 渡辺弥生『まんがでわかる発達心理学』講談社、2019

## 学生に対する評価

課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 人間の発達過程における重要語句を最低限の説明できる。
- (B) 人間の発達過程の概ねの理解とそれぞれの発達過程の課題や問題点を説明できる。
- (A) 人間の発達過程における課題や問題点への基本的な援助方法を説明できる。
- (S) 発達の観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考え、説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピスト125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、発達心理学を心理学、大脳生理学、身体心理学等の新しい視点から人間の発達を取り扱い、新しい視点から発達心理学の学びの場を提供する。出生前からの心理的影響からの身体的影響（逆の影響も含め）、生育の中でのトラウマなど様々なストレスの中で、レジリエンスを持った人間のすばらしさを伝える場としたい。

科目名	人間学特殊ゼミ I A(悲嘆学)／人間学専門講義(悲嘆学A)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-03-100	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

グリーフ (grief) とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

## 授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

## 授業計画

1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論 (PTSD と複雑性悲嘆について)
3. 犯罪被害者支援① (被害者・加害者の声)
4. 犯罪被害者支援② (被害者・加害者の心理的ケア)
5. 虐めと虐待① (虐め体験について)
6. 虐めと虐待② (被虐体験への心理的ケア)
7. 難病支援① (難病とは・我が国の現状)
8. 難病支援② (生きることの苦悩と受容の心理的ケア)
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援① (病と自己)
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援② (死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援① (遺族の心理)
12. 自死遺族支援② (サポートグループについて)
13. 災害時支援① (災害による喪失体験)
14. 災害時支援② (復興期に求められる支援について)
15. 講義内容の総括と振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと (90 分)

## テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂, 2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

レポート評価 (100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができています。
- (B) 悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
- (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
- (S) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師 (指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミⅡA(自殺学)／人間学専門講義(自殺学A)							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-02-101	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

## 授業の到達目標

自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

## 授業計画

1. 日本における自殺の現状
2. 世界における自殺の現状
3. 自殺についての理論①精神分析的視点
4. 自殺についての理論②認知論的視点
5. 自殺についての理論③対人関係論的視点
6. 自殺と精神障害
7. 自殺と自傷
8. 自殺対策①：危機介入
9. 自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. 講義内容の総括と振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと (90 分)

## テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

レポート評価 (100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自殺に関する基本的な知識を身につけている。
- (B) 自殺を志向する心理について理解している。
- (A) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
- (S) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	企画科目(基礎統計学)/人間学専門講義(基礎統計学)					学期	後期		
副題	社会調査士D科目			授業方法	講義	担当者	森本一彦		
ナンバリング	N2-11-102	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

この授業は、統計的データを理解し、利用するために必要な統計学的基礎知識と基礎的能力との習得を目的とする。代表値、散布度、相関関係、標本抽出法、統計的仮説の検定などの社会調査データを理解し、分析するための基本的知識を身につけていく。授業は実習形式でおこない、具体的なデータをあつかいながら、統計学への理解を深めていく。

### 授業の到達目標

社会調査に必要な統計学に関する基礎知識の習得

### 授業計画

1. イントロダクション：統計学の基礎
2. 度数分布
3. 代表値
4. 分散
5. 相関係数
6. 確率変数
7. 正規分布
8. 二項分布
9. 母集団と標本
10. 区間推定
11. 統計的検定
12.  $\chi^2$  検定
13. t 検定
14. 相関係数と偏相関係数
15. まとめ：統計学の必要性

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと(90分)。

### テキスト

なし。

### 参考書・参考資料等

篠原清夫 / 清水強志 / 榎本環 / 大矢根淳編, 2010, 『社会調査の基礎知識』弘文堂。そのほかは授業のなかで適宜紹介する。

### 学生に対する評価

授業内の課題(毎回のワークシート)(70%)、発表(10%)、授業参加の積極性(20%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会調査に必要な統計学に関する基礎知識について覚えている。
- (B) 社会調査に必要な統計学に関する基礎知識について資料を使って説明できる。
- (A) 社会調査に必要な統計学に関する基礎知識を適切な資料を選び自分の言葉で説明できる。
- (S) 社会調査に必要な統計学に関する基礎知識を使って社会調査ができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・統計の基礎について学ぶので、予習・復習を行って、授業について十分に理解すること。・社会調査士D科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	企画科目(質的調査論)/人間学専門講義(質的調査論)						学期	後期	
副題	社会調査士科目 F			授業方法	講義	担当者	森本一彦		
ナンバリング	N2-11-103	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

質的調査を概説することを通して、データの収集能力を涵養することをめざす。状況によっては質的調査を実体験し、それを報告してもらうこともある。

### 授業の到達目標

質的調査法の概要を知る。

### 授業計画

1. 質的調査法とは何か
2. 報告書を読む (1)
3. 報告書を読む (2)
4. 面接法 (1)
5. 面接法 (2)
6. 参与観察 (1)
7. 参与観察 (2)
8. ライフヒストリー (1)
9. ライフヒストリー (2)
10. ドキュメント分析 (1)
11. ドキュメント分析 (2)
12. 会話分析法
13. フィールドワーク (1)
14. フィールドワーク (2)
15. 質的分析と量的分析の交流

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

### テキスト

特になし

### 参考書・参考資料等

プリントを配布する。

### 学生に対する評価

レポート (70%)、小レポートと授業参加の積極性 (30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 質的調査の基礎的な用語について説明ができる。
- (B) 質的調査の各方法について説明ができる。
- (A) 質的調査の設計ができる。
- (S) 質的調査の基本を理解して、自ら調査ができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・社会調査士科目 F 科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。・授業を聞いた上で、受講者が質的調査を実際行って最終レポートを作成しなければならないので、その点を心得て履修すること。

科目名	英語Ⅲ／企画科目(英会話)					学期	通年		
副題	—				授業方法	講義	担当者	亀位卓阿	
ナンバリング	N1-07-104	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

【前期】受講生がこれまでに身につけた知識としての英語を「実用英語」に「活性化」できるようにする。具体的には、時事英語や、ストーリー、論文などで親和性のあるものを扱う。【後期】実用的なコミュニケーション英語に取り組む。具体的には高野山への旅行者・巡拝者などとも英語で情報交換できる対応能力を身につける。

### 授業の到達目標

時事英語、宗教英語、トピック等に親しみ、それを生かして卒業後も末永く英語を生かせる思考を身に付け、英語によるプレゼンテーションや自由作文ができるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. ガイダンス
2. 高野山についての英語説明 (1)・読み物
3. 高野山についての英語説明 (2)・読み物
4. 高野山についての英語説明 (3)・読み物
5. 高野山についての英語説明 (4)・読み物
6. 高野山についての英語説明 (5)・読み物
7. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (1)・読み物
8. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (2)・読み物
9. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (3)・読み物
10. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (4)・読み物
11. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (5)・読み物
12. 英作文・読み物
13. 英作文・読み物
14. 英作文・読み物
15. まとめ

#### 【後期】

1. ガイダンス
2. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (1)・読み物
3. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (2)・読み物
4. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (3)・読み物
5. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (4)・読み物
6. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (5)・読み物
7. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (6)・読み物
8. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (7)・読み物
9. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (8)・読み物
10. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (9)・読み物
11. 英字新聞解釈・トピック作業・英作文 (10)・読み物
12. まとめ①
13. まとめ②
14. まとめ③
15. 試験と総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

中学・高校で習った英語の英文法理解、読解、作文をおさらいしておく。(計 90 分以上)。リスニングも普段から親しんで欲しい。

### テキスト

へミングウェイで学ぶ英文法 出版社：アスク (@2090) 英文檀信徒必携 (@500)・英文高野山パンフレット (@50)。  
その他は授業中にコピーを配付する。

### 参考書・参考資料等

授業を進める中で紹介する。

### 学生に対する評価

テスト (40%)、授業参加の積極性・態度 (60%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 英語で自己紹介ができる。
- (B) 英語で高野山や日本のことについて紹介できる。
- (A) 簡単な英会話ができる。
- (S) ビジネス英文を読解できるようになる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は授業時、または期間中にフィードバックする。

### その他

前期後期とも受講生にカスタマイズした役に立つ授業にする。

科目名	キャリアカウンセリングⅢ-1/キャリアデザインⅤ							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N3-16-105	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

① 労働法を理解し、グループワークを通じて望ましい労働環境について考える。② 志望する業界や職種の研究と自己分析を通じて就職に対する意識を高める。社会に対する視野を広げ、就職活動の進め方や必要なスキルを身につける。③ 演習、フィードバック等のアクティブラーニングにより、社会人基礎力を理解し、必要性を知る。

## 授業の到達目標

労働法や働き方改革が必要とされる労働者を取り巻く問題を理解し、望ましい職場環境のあり方を主体的に考えていくために必要なスキルを習得する。大学卒業時点での「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。

## 授業計画

1. 労働市場について知る
2. 多様な働き方を考える
3. 労働関係の法律・制度①（契約と労働条件）
4. 労働関係の法律・制度②（福利厚生と社会保険）
5. 労働関係の法律・制度③（健康に働く）
6. 労働関係の法律・制度④（働きつけやすさとは）
7. ワークライフバランス
8. メンタルヘルスとストレスマネジメント
9. 職業生活における様々な問題を考える
10. 社会の変化とライフプラン
11. インターンシップを考える①（必要性、目標）
12. インターンシップを考える②（ビジネスマナーとは何か）
13. インターンシップを考える③（ビジネスにおけるコミュニケーション法）
14. インターンシップを考える④（非対面的なコミュニケーションのあり方）
15. インターンシップを考える⑤（人間関係のあり方）

## 準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

## テキスト

教員作成の資料

## 参考書・参考資料等

①『ポケット労働法 2020』2020（東京都産業労働局）②『ワークで学ぶインターンシップリテラシー：新編』2016（モリモト印刷）他は授業中で紹介する。

## 学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストの内容及び社会人基礎力についての基礎的事項を理解している。  
 (B) テキストの内容及び社会人基礎力を理解している。  
 (A) テキストの内容を理解し、社会人基礎力に必要な能力を説明できている。  
 (S) テキストの内容を理解し、社会人基礎力を理解した上、実践できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。



科目名	企画科目(キャリアカウンセリングⅢ-2)/キャリアデザインⅥ							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N3-16-106	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

①自己分析を進めるとともに、多様なキャリア形成の可能性を知る。社会を多角的に見る視点を身につける。②演習、フィードバック等のアクティブラーニングにより、社会人基礎力を理解し、必要性を知る。

## 授業の到達目標

自己の能力を確認し、社会人基礎力を養成する。大学卒業後の「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。

## 授業計画

1. インターンシップの経験を整理する
2. キャリア選択における基準を考える
3. 職業人の行動特性を考える
4. キャリア形成に必要な能力を考える
5. キャリア形成のための基本情報を考える
6. キャリアプランを意識した自己分析を行う①(興味)
7. キャリアプランを意識した自己分析を行う②(価値観)
8. キャリアプランを意識した自己分析を行う③(能力)
9. 社会人基礎力について考える①(環境と社会性)
10. 社会人基礎力について考える②(学びを生かす)
11. 社会人基礎力を体験する①(論理的レポートの作成)
12. 社会人基礎力を体験する②(プレゼンテーションの基礎知識)
13. 社会人基礎力を体験する③(プレゼンテーションの実践)
14. 社会人基礎力を体験する④(グループディスカッションの基礎知識)
15. 社会人基礎力を体験する⑤(グループディスカッションの実践)

## 準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

## テキスト

教員作成の資料

## 参考書・参考資料等

①中野美香『大学生からのプレゼンテーション入門』2012(ナカニシヤ出版) ②中野美香『大学生からのグループ・ディスカッション入門』2018(ナカニシヤ出版) 他は授業中に紹介する

## 学生に対する評価

レポート(30%)、発表(40%)、授業への参加度・学習態度(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会人に必要な能力を理解している。  
(B) 社会人に必要な能力を理解し、書類作成・演習について基本動作ができる。  
(A) 社会人に必要な能力を説明でき、書類作成・演習について基本動作がスムーズにできる。  
(S) 社会人に必要な能力を身につけ、書類作成・演習についてアピール性の高い基本動作ができる上に、日々の行動で実践できている。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目(学外研修①)/人間学実践演習(学外研修①)							学期	後期
副題	-				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N3-11-107	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

夏休みを中心として、3日間の高野山以外の地域（近畿地方）での実査を実施することによって、現実の地域社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

### 授業の到達目標

高野山以外の地域での実査を通じて、現実の社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

### 授業計画

1. 事前指導
2. 学外研修①
3. 学外研修②
4. 学外研修③
5. 学外研修④
6. 学外研修⑤
7. 学外研修⑥
8. 学外研修⑦
9. 学外研修⑧
10. 学外研修⑨
11. 学外研修⑩
12. 学外研修⑪
13. 学外研修⑫
14. 学外研修⑬
15. 事後指導

### 準備学習(予習・復習)・時間

学外研修の体験を整理し、文章化する (30分)

### テキスト

特に指定しない

### 参考書・参考資料等

学外研修場所によって資料を指示する。

### 学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (60%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学外研修の企画を立案できる。
- (B) 学外研修に積極的に参加できる。
- (A) 学外研修の体験から地域社会を客観的に説明できる。
- (S) 学外研修の体験を活かし、自ら地域調査を企画し、実査できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

### その他

学外研修先については、4月に告知する。夏休みの3日間の集中を原則とするが、状況によっては1日ずつ分散して実施する。

科目名	企画科目(学外研修②)/人間学実践演習(学外研修②)							学期	後期
副題	-				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N3-11-108	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

夏休みを中心として、3日間の高野山以外の地域（近畿地方以外）での実査を実施することによって、現実の地域社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

### 授業の到達目標

高野山以外の地域での実査を通じて、現実の社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

### 授業計画

1. 事前指導
2. 学外研修①
3. 学外研修②
4. 学外研修③
5. 学外研修④
6. 学外研修⑤
7. 学外研修⑥
8. 学外研修⑦
9. 学外研修⑧
10. 学外研修⑨
11. 学外研修⑩
12. 学外研修⑪
13. 学外研修⑫
14. 学外研修⑬
15. 事後指導

### 準備学習(予習・復習)・時間

学外研修の体験を整理し、文章化する (30分)

### テキスト

特に指定しない

### 参考書・参考資料等

学外研修場所によって資料を指示する。

### 学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (60%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学外研修の企画を立案できる。
- (B) 学外研修に積極的に参加できる。
- (A) 学外研修の体験から地域社会を客観的に説明できる。
- (S) 学外研修の体験を活かし、自ら地域調査を企画し、実査できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

### その他

学外研修先については、9月に告知する。春休みの3日間の集中を原則とするが、状況によっては1日ずつ分散して実施する。

科目名	人間学特殊ゼミ I B(日本文化)／企画科目(日本文化)							学期	前期
副題	日本事情について、講読と理解				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	N1-26-109	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

多角的に文化を研究するために必要な方法を身につける。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

### 授業の到達目標

多角的に日本事情を学ぶ事を通して日本語能力を向上し、思考力を深め、物事を考察する能力を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス / 模擬授業 Unit 1 日本ってどんな国? Section 1
2. Unit 1 日本ってどんな国? Section 2 発表
3. Unit 3 日本の旅を楽しもう Section 1
4. Unit 3 日本の旅を楽しもう Section 2
5. 私の旅行計画 発表
6. Unit 13 産業構造と経済 Section 1
7. Unit 13 産業構造と経済 Section 2
8. Unit 10 前進を続ける科学技術 Section 1
9. Unit 10 前進を続ける科学技術 Section 2
10. 中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」④ 言語とコミュニケーション 39 異文化理解 40
11. JLPT 読解模試実施 / FB
12. UNIT 2 都市の暮らし・地方の暮らし Section 1
13. UNIT 2 都市の暮らし・地方の暮らし Section 2
14. Unit 7 伝統文化体験
15. Unit 8 現代文化とポップカルチャー 私の国の伝統文化 (レポート提出)

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前に渡された資料は翌週までに読み、大まかに理解してくること。「発表」がある授業の時は、指定された事柄について、十分に調べてくること(計90分以上)。

### テキスト

『クローズアップ日本事情 15』TheJapanTimes (書店で購入)

### 参考書・参考資料等

中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」

### 学生に対する評価

レポート及び発表(60%) 発表(40%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料を読むための日本語力がある。
- (B) 文化理解、研究のための方法を理解している。
- (A) 日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
- (S) 日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

提出、発表されたレポートは添削、講評する。試験実施の後、フィードバックを行う。

### その他

資料を読むだけでなく、自分のこととして考察し、意見を発信することも目指す。折りに触れ、グループ討論、発表を行い自らの意見を表明する機会を作る。

科目名	人間学特殊ゼミⅡB(日本社会)／企画科目(日本社会)							学期	後期
副題	日本事情について、講読と理解				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	N1-26-110	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

多角的に文化を研究するために必要な方法を学ぶ。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

### 授業の到達目標

多角的に日本事情を学ぶ事を通して思考力を深め、物事を考察する能力を高める。

### 授業計画

1. Unit 1 4 政治と憲法 Section 1
2. Unit 1 4 政治と憲法 Section 2 発表
3. Unit 1 5 多文化共生社会を目指して Section 1
4. Unit 1 5 多文化共生社会を目指して Section 2
5. 中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」① 環境と人間 42 ITと情報社会 43
6. 中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」② 子どもと教育 44, 45
7. Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Section 1
8. Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Section 2
9. JLPT 読解模試実施 / FB
10. 読解模試 / FB・総括
11. Unit 1 2 教育と子供たち Section 1
12. Unit 1 2 教育と子供たち Section 2
13. Unit 1 2 について、討論・発表
14. 私が好きな日本の文化・自国の文化 Section 1 討論
15. 私が好きな日本の文化・自国の文化 Section 2 発表

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前に渡された資料は翌週までに読み、大まかに理解してくること。(60分) 「発表」がある授業の時は、指定された事柄について、十分に調べてくること。(90分)

### テキスト

『クローズアップ日本事情 15』TheJapanTimes (書店で購入)

### 参考書・参考資料等

中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」他

### 学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料を読むための日本語力がある。
- (B) 文化理解、研究のための方法を理解している。
- (A) 日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
- (S) 日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

提出、発表されたレポートは添削、講評する。試験実施の後、フィードバックを行う。

### その他

資料を読むだけでなく、発信することも目指す。折りに触れ、自らの意見はピョウする。

科目名	人間学演習ⅠA／人間学演習ⅡA						学期	通年	
副題	卒業論文				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N3-25-111	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	A

### 授業の目的と概要

卒業論文に作成を通して、企画力や表現力を身につける。卒業論文作成に向けた準備を行う。他受講生の報告についてのディスカッションも行う。

### 授業の到達目標

卒業論文に作成を通して、企画力や表現力を身につける。

### 授業計画

#### 【前期】

- 卒業論文までの工程
- 論題の設定・確認 (1)
- 論題の設定・確認 (2)
- 目次の作成・確認 (1)
- 目次の作成・確認 (2)
- データの整理・確認 (1)
- データの整理・確認 (2)
- 中間報告 (1)
- 中間報告 (2)
- 中間報告 (3)
- 要旨・構成の検討 (1)
- 要旨・構成の検討 (2)
- データの検討 (1)
- データの検討 (2)
- 草稿の検討 (1)

#### 【後期】

- 中間報告 (4)
- 中間報告 (5)
- 中間報告 (6)
- 要旨・構成の検討 (3)
- 要旨・構成の検討 (4)
- 草稿の検討 (2)
- 草稿の検討 (3)
- 草稿の検討 (4)
- 最終報告 (1)
- 最終報告 (2)
- 最終報告 (3)
- 口頭試問の検討 (1)
- 口頭試問の検討 (2)
- 口頭試問の検討 (3)
- 卒業論文の成果と課題

### 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること (90分)。

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方第2版』ミネルヴァ書房、2013年

### 学生に対する評価

レポート・課題 (50%)、発表など授業参加の積極性 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 卒業論文の作成方法が理解できている。
- 卒業論文の計画を立案し、他の人に説明できる。
- 作成方法に従って卒業論文を作成することができる。
- 論理的で説得力のある卒業論文を作成することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

### その他

・3、4回生合同授業のために、学年により進度の違いが生じるが、できるだけ同じペースで授業を進める。・3、4回生合同授業のために、単位が不認定の場合には留年になるので気を付けること。・ディスカッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	人間学演習ⅡB							学期	通年
副題	卒業論文				授業方法	演習	担当者	上野和久	
ナンバリング	N4-25-112	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	4	他	A

## 授業の目的と概要

人間学科での学習したことと関連する事柄の中で興味のあるテーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方などを修得する。各学期末には研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。

## 授業の到達目標

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

## 授業計画

### 【前期】

- 卒業論文までの工程
- 論題の設定・確認 (1)
- 論題の設定・確認 (2)
- 目次の作成・確認 (1)
- 目次の作成・確認 (2)
- データの整理・確認 (1)
- データの整理・確認 (2)
- 中間報告 (1)
- 中間報告 (2)
- 中間報告 (3)
- 要旨・構成の検討 (1)
- 要旨・構成の検討 (2)
- データの検討 (1)
- データの検討 (2)
- 草稿の検討 (1)

### 【後期】

- 中間報告 (4)
- 中間報告 (5)
- 中間報告 (6)
- 要旨・構成の検討 (3)
- 要旨・構成の検討 (4)
- 草稿の検討 (2)
- 草稿の検討 (3)
- 草稿の検討 (4)
- 最終報告 (1)
- 最終報告 (2)
- 最終報告 (3)
- 口頭試問の検討 (1)
- 口頭試問の検討 (2)
- 口頭試問の検討 (3)
- 卒業論文の成果と課題

## 準備学習(予習・復習)・時間

各自卒業論文の作成を進めるための作業を行う。論文の作成過程での重要語句(keyword)を中心に先行研究の収集と要約(計90分以上)。各授業で指導教員から与えられた課題を完成し、そのレポートを作成する。(計90分以上)

## テキスト

プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方第2版』ミネルヴァ書房、2013年

## 学生に対する評価

レポート・課題 (50%)、発表など授業参加の積極性 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 卒業論文の作成方法が最低限の理解できている。
- (B) 卒業論文の作成に関して内容のある程度の吟味が出来てきている。
- (A) 卒業論文の内容の吟味ができ、作成途中で発表とディスカッションが出来ている。
- (S) 論理的で説得力のある卒業論文を作成することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

全体指導と、個別指導を組み合わせ、授業を行う。全体指導では、一定期間の論文作成作業による作成内容の発表を行い、グループでのディスカッションを行い、直面した問題点などを話し合う。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピスト125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、人間の成長と傷つき、そこからの回復という人間の生きる力を学べる場としたい。

科目名	人間学演習 I F / 人間学演習 II F					学期	通年		
副題	日本文学研究法			授業方法	演習	担当者	溝端悠朗		
ナンバリング	N3-25-113	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

主として日本文学を学び、卒業論文としてまとめることを目指す者を対象に演習を行う。日本文学の研究手法を学びながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文を作成する。3年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、4年次生は卒業論文の完成を目指す。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションを図ってほしい。

## 授業の到達目標

日本文学的な視点をテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、日本文学の研究手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

## 授業計画

### 【前期】

1. ガイダンス (授業の進め方・自己紹介) / 国文学研究の領域
2. 伝記と年譜
3. 本文研究の諸相
4. 文学作品の論じ方
5. 登場人物の論じ方
6. 表現論の射程
7. 文学作品の周縁
8. 注釈という研究法
9. 国文学における思想と学問
10. 影響史研究の方法
11. 外国文学の受容と文芸理論
12. 実地研究のあり方
13. 国文学の学際的研究
14. 論文を書くための基礎
15. 論文の文体

### 【後期】

1. 夏休みの成果の確認
2. 卒業論文の構成について (講義)
3. 研究テーマに関する作品の読解① (発表)
4. 研究テーマに関する作品の読解② (発表)
5. 研究テーマに関する作品の読解③ (発表)
6. 研究テーマに関する作品の読解④ (発表)
7. 研究テーマに関する作品の読解⑤ (発表)
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究課題の模索 / 卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究課題の模索 / 卒業論文作成の助言と指導②

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回のテキストの該当ページを読み (60分)、事後学修としてその内容をまとめ、自身の研究テーマを深めておくこと (90分)。

## テキスト

島内裕子『国文学研究法』(放送大学教育振興会、2015年)(書店で購入)

## 参考書・参考資料等

国文学研究資料館編『古典籍研究ガイド』(笠間書院) その他、各自の研究課題にしたがって、適宜紹介する。

## 学生に対する評価

授業への参加度 (40%)、口答発表 (60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の研究手法を理解している。
- (B) 研究論文の内容を把握し、批判的に検討することができている。
- (A) 対象とする作品について、何らかの新規性を提示することができている。
- (S) 研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、新規性のある自己の見解を論じることができている。

## 課題に対するフィードバックの方法

受講生各自に個別に対応する。また、毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回演習の冒頭に応答する。

## その他

日本文学の基礎的知識を必要とするため、日本文学 I、II および日本文学概論 I、II を履修した者を対象とする。日本文学史概説 I、II や日本文化特殊講義 A も受講することが望ましい。課題や各自の発表への取り組みはもとより、質疑応答などにも積極的な姿勢を望む。



科目名	伝統文化実習(茶道)／伝統文化(茶道)					学期	通年		
副題	—				授業方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバリング	N1-26-114	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

日本の伝統的な文化のひとつである茶の湯（茶道）の理解を深めるために、初風炉・開炉・初釜などの茶会を経験し、また実際に基本的な所作や初歩の点前（盆略点前）を修得する。くわえて茶の湯（茶道）の歴史・文化について知る。そのうえで受講生自らが茶会を企画し実践し、亭主側と客側の体験をし、それらをとおして、茶の湯（茶道）の精神や美意識について考える。

## 授業の到達目標

茶の湯（茶道）における、礼の仕方・歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作、および初歩の点前（盆略点前）ができるようになる。茶の湯（茶道）の歴史・文化について学び、思想や美意識について考察できるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 講義 茶道概説 茶事(茶会)のながれ
2. 実習 客の所作と心得1 お茶のいただき方(薄茶)
3. 実習 客の所作と心得2 席入りの仕方
4. 講義 茶の湯の文化1 茶道史 茶の湯以前
5. 実習 盆略点前1 割稽古
6. 実習 盆略点前2 割稽古
7. 講義 茶の湯の文化2 茶道史 草創期の茶の湯
8. 実習 盆略点前3 割稽古
9. 実習 盆略点前4 割稽古
10. 講義 茶の湯の文化3 茶道具について
11. 実習 盆略点前5 通し稽古
12. 実習 盆略点前6 通し稽古
13. 講義 茶の湯の文化4 茶書講読『南方録』『覚書』の巻から
14. 実習 盆略点前6 通し稽古
15. 実習 茶会体験 風炉の茶会(夏茶事)

### 【後期】

1. 講義 茶の湯の文化5 茶書講読『南方録』『滅後』の巻から
2. 実習 盆略点前の復習1 割稽古
3. 実習 盆略点前の復習2 通し稽古
4. 実習 盆略点前の復習3 通し稽古
5. 講義 茶の湯の文化6 茶書講読『南方録』『墨引』の巻から
6. 実習 客の所作と心得3 お茶のいただき方(濃茶)
7. 実習 茶会体験 炉開きの茶会
8. 講義 茶の湯の文化7 茶道史 近代茶道
9. 実習 茶杵削り
10. 実習 茶会の企画と実践1
11. 実習 茶会の企画と実践2
12. 実習 茶会の企画と実践3
13. 講義 茶の湯の文化8 茶書講読『心の文』
14. 実習 茶会体験 新年の茶会(初釜)
15. 実習 七事式

## 準備学習(予習・復習)・時間

実技実習では、毎回の実技内容を振り返り、繰り返し復習し、実技内容を身につける。(60分) 体験実習では、体験成果を整理し、レポートにまとめる。(60分) 講義では、事後学修として授業で学んだ資料およびテキストを再読し、内容の要点をノートに整理する。(90分)

## テキスト

学校茶道編集委員会編 『学校茶道(初級編)』 財団法人茶道文化振興財団発行 平成15年出版 授業時に一括購入

## 参考書・参考資料等

①谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社2007年 ②谷見著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社2005年

## 学生に対する評価

授業時に随時課す提出物(30%) 茶会の企画と実践(35%) 期末試験(35%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
- (B) 基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
- (A) 客の所作と盆略点前を修得している
- (S) 茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

## 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

## その他

茶室に入れる人数に限りがあるため、受講生が多い場合は面談によって選考する。実習の費用(茶・菓子・炭)として、前期・後期、それぞれ3,500円必要である。

科目名	総合科目(チベット仏教入門ⅠB)							学期	前期
副題	仏教の基礎を学ぶ				授業方法	講義	担当者	テジツン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-115	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

## 授業の到達目標

チベット語経典を通じて四大学派の禅定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

## 授業計画

1. 講義内容の説明
2. 釈尊の十二相
3. 止の瞑想の紹介
4. 瞑想する環境と身体の挙止
5. 瞑想の対象と、対象に心を置く方法
6. 瞑想の妨げとなる条件と必要な条件の解説
7. 止の瞑想の絵を見ながら解説
8. 止の瞑想と瞑想図を合わせて解説
9. 禅定波羅蜜について『入菩薩行論 第8禅定章』第1偈を中心に（日常生活と修行）
10. 禅定波羅蜜について『入菩薩行論 第8禅定章』第4偈を中心に（分析的瞑想の解説）
11. 禅定波羅蜜について『入菩薩行論 第8禅定章』第90偈を中心に（自他を平等と考える修行）
12. 智慧波羅蜜について（因果の縁起と空）
13. 智慧波羅蜜について（部分の縁起と空）
14. 智慧波羅蜜について（名前をつけるだけの縁起と空）
15. まとめ及び学生の発表

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

## テキスト

教員が用意する。

## 参考書・参考資料等

教室で指示する。

## 学生に対する評価

発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

## その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	総合科目(チベット仏教入門ⅡB)							学期	後期
副題	仏教の基礎を学ぶ				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-116	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

### 授業の到達目標

四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 講義内容の説明
2. 仏教とそれ以外の宗教の特徴
3. 四大学派の解説
4. 四大学派の有部と経量部それぞれの二諦（世俗諦と勝義諦）の解説
5. 四大学派の唯識と中観それぞれの二諦（世俗諦と勝義諦）の解説
6. 『般若心経』の内容の解説（観自在菩薩～是故空中）
7. 『般若心経』の内容の解説（無色無受想行識～依般若波羅蜜多故）
8. 『般若心経』の内容の解説（心無罣礙～終わりまで）
9. 有暇具足の解説（八有暇と八無暇について）
10. 有暇具足の解説（自分の五具足と他人の五具足から成る十具足について）
11. 死の無常（死ぬことと輪廻の過失の解説）
12. 死の無常（来世と自分が積んだ功德の関係性の解説）
13. 無着賢著『37の菩薩の實踐』（第1偈～第16偈の解説）
14. 無着賢著『37の菩薩の實踐』（第17偈～第37偈の解説）
15. まとめ及び学生の発表

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）。事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90分）。

### テキスト

教室で指示する。

### 参考書・参考資料等

教室で指示する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、習熟度（40%）。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

### その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	企画科目(仏画)／仏教芸術(別)						学期	通年	
副題	-				授業方法	実技	担当者	有松孝雄	
ナンバリング	G1-02-117	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

墨をすり筆をとって線を引き、仏の姿を描く。制作と併行して、描かれる尊像の儀軌・背景を学ぶ。多様な尊像を知ること、仏教で展開される宇宙観についての理解を深める。

## 授業の到達目標

図像を描くという身体による経験を通して、広く美術・宗教への理解を深めることができる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 授業の概要についての説明 (授業の進め方、道具の使い方、資料の読み方等を解説)
2. 基礎1 手の形、顔の線の練習 (1)
3. 基礎2 手の形、顔の線の練習 (2)
4. 基礎3 直線・円を描く
5. 基礎4 仏・菩薩の全体を描く (1)
6. 基礎5 仏・菩薩の全体を描く (2)
7. 基礎6 仏・菩薩の全体を描く (3)
8. 基礎7 仏・菩薩の全体を描く (4)
9. 基礎8 仏・菩薩の全体を描く (5)
10. 作品制作 白描の作品を描く (1)
11. 作品制作 白描の作品を描く (2)
12. 作品制作 紺地金泥の作品を描く (1)
13. 作品制作 紺地金泥の作品を描く (2)
14. 高野山霊宝館の見学
15. 総括 (仏画・彩色画の実例作品の紹介 ビデオ上映)

### 【後期】

1. 表現法 淡彩色・ぼかし (1) (蓮)
2. 表現法 淡彩色・ぼかし (2) (蓮)
3. 表現法 淡彩色・ぼかし (3) (天女)
4. 表現法 淡彩色・ぼかし (4) (天女)
5. 表現法 淡彩色・ぼかし (5) (天女)
6. 表現法 淡彩色・ぼかし (6) (不動明王)
7. 表現法 淡彩色・ぼかし (7) (不動明王)
8. 表現法 淡彩色・ぼかし (8) (不動明王)
9. 表現法 淡彩色・ぼかし (9) (不動明王)
10. 表現法 縹緗彩色 (1) (蓮弁)
11. 表現法 縹緗彩色 (2) (蓮弁)
12. 表現法 縹緗彩色 (3) (蓮弁)
13. 作品制作 彩色仏画 (1) (弘法大師)
14. 作品制作 彩色仏画 (2) (弘法大師)
15. 総括 (国宝仏画・絵画の鑑賞 ビデオ上映)

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回配布する資料を読み、次の実習に活かすことができるようにする。(60分)

## テキスト

書写手本及び関係資料はコピーを配布する。以下の教材は担当者が用意する：用紙、彩色筆、念紙、金泥、筆洗、雑巾、日本画絵具。

## 参考書・参考資料等

・有賀祥隆「仏画の鑑賞基礎知識」、至文堂、1991年(抜粋資料を毎回配布する) ・光森正士 岡田健「仏像彫刻の鑑賞基礎知識」、至文堂、1999年(抜粋資料を毎回配布する)

## 学生に対する評価

書写作品・毎回の授業時に制作する課題 (70%) 授業参加への積極性 (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏画の基本事項を理解している。
- (B) 仏画の基本事項が理解された上でその描写ができる。
- (A) 仏教や仏画に関することがよく理解され、作品に表現することができる。
- (S) 資料を広く読み解くことができ、尊像の理解と表現が優れている。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートには所感を添えて返却する。

## その他

授業で必要な用具・資材は担当者が支給(貸与)する。受講生は年間を通して使用する面相筆1本を購入、墨・硯は各自が用意する。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

仏画の制作・修復に長年携わっている教員が、その経験を活かして指導する。受講生の経験に応じて個別に指導する。

科目名	企画科目(寺院経営講座)／寺院と法律(別)						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	加賀博	
ナンバリング	G1-03-118	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

現在の寺院の経営課題の分析方法を学び、解決方法として期待される寺院の経営理念設計および経営戦略の具体的な立案方法と寺院経営マネジメントの方法を講義とグループワーク方式で実践的に学ぶ。

## 授業の到達目標

寺院の経営の方法について学び、自ら関係する寺院を発展させることができるようになる。

## 授業計画

- 21世紀寺院のかかえる問題と課題
- 今日まで日本及び日本人を支えてきた寺院の役割
- 21世紀寺院の重要性と再生復活テーマ
- 寺院組織管理重要ポイント
- 宗教法人の経営(会計)管理
- 宗教法人の税務管理
- 僧侶キャリアデザイン
- 僧侶プレゼンテーション基本スキル
- 僧侶ホスピタリティコミュニケーション基本スキル
- 僧侶ホスピタリティコミュニケーションイメージと円滑に進めるための原則
- 僧侶ホスピタリティリスニングと僧侶ホスピタリティトーク
- 第一印象の笑顔が与える大切さと方法、自己紹介の大切さと方法
- 僧侶ホスピタリティリスニングの大切さと方法、僧侶ホスピタリティトークの大切さと方法
- 僧侶としてのストレスケアアドバイス基本スキル
- 寺院、僧侶のリスクマネジメント(パワハラ、セクハラ、トラブル、SNS書き込み対策など)

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(60分)、事後学修として授業で学んだ課題に関して練習しておくこと。(60分) 毎回の授業でした課題についてテーマやキーワードについて覚えなおす。(60分)

## テキスト

加賀博『日本及び日本人のセイフティネット未来社会を変える寺院基本経営学』、(株)カナリアコミュニケーションズ、2017年5月(Amazon、または授業内で購入)

## 参考書・参考資料等

加賀博『日本及び日本人のセイフティネット未来社会を変える寺院基本経営学』、(株)カナリアコミュニケーションズ、2017年5月

## 学生に対する評価

授業態度・自己チェックレポート(毎回提出)(40%) 期末試験(60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら説明出来る。
- (B) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら自らの寺院経営について内容を表現出来る。
- (A) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら具体的計画を作成し説明出来る。
- (S) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ずに自ら寺院経営について具体的計画を作成しPR出来る。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。フィードバックの方法は授業の中で指示する。

## その他

将来寺院を継承したり、就業したりするためのモチベーションを高め、21世紀寺院に求められる社会的役割を自覚し、積極的に将来ビジョンを考え、学生相互に刺激し合い啓発させ、ICT(遠隔授業)を活用することにより、学生個別対応を行う。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業経営のコンサルタントとして30年の実績を持ち約800社の経営指導の実績があり、また仏教寺院の経営参与として、経営指導にあたっている。実績をベースに寺院が抱えている問題点、課題点を明確にし、将来の寺院の使命、役割を具体的に果たせるよう学生に十分問題意識と解決方法を教授する。

科目名	企画科目(日本語留学生上級A)					学期	通年			
副題	—					授業方法	講義	担当者	廣田恵美子	
ナンバリング	G1-07-119	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A	

## 授業の目的と概要

大学生活に必要な日本語の四技能及び社会生活に必要なヒアリング力の習得。前期はテキストに沿い「話す・聞く・読む・書く」の四技能を統合的に学習する。後期は前期までに習得した日本語力を用い、アカデミックな場面におけるプレゼンテーション能力の養成及びニュースのヒアリング力の養成。日本の文化的要素についても適宜学習する。

## 授業の到達目標

レポートの執筆及び専門分野の文献を読むにあたっての語彙・文法が理解できる。自身の研究や専門分野についてのプレゼンテーションができる。短めのニュースを聴き、内容を理解することができる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 自己紹介・授業の進め方 テーマ:水 文法 (～に関する 他)
2. テーマ:水 文法 (～がち 他)
3. テーマ:水 文法 (～抜きにしては～ない 他)・聴解
4. テーマ:水 クイズ 本文のキーワード 読解
5. テーマ:水 聴解・プラスアルファ テーマ:遺伝 文法 (～にもかかわらず 他)
6. テーマ:遺伝 文法 (～に例えられて 他)
7. テーマ:遺伝 聴解・ディスカッション・本文のキーワード・読解
8. テーマ:遺伝 聴解・プラスアルファ テーマ:漫画・アニメ・本文 文法 (つぼくて 他)
9. テーマ:漫画・アニメ・本文 文法 (～にしても 他)
10. テーマ:漫画・アニメ・本文 聴解・聞こう・本文のキーワード・読解
11. テーマ:漫画・アニメ・本文 聴解・プラスアルファ テーマ:ヒトと動物 文法 (～かのよう 他)
12. テーマ:ヒトと動物 文法 (～までになる 他)
13. テーマ:ヒトと動物 文法 (～に対し (て))・聴解・ディスカッション・本文のキーワード
14. テーマ:ヒトと動物 読解・聴解・プラスアルファ
15. 前期の総復習

### 【後期】

1. 授業の進め方 聴解:「ペンギン、逃げ出す」 プレ:自己紹介PPT作成・発表
2. 聴解:「一足先に夏、ビアガーデンオープン」 プレ:第1回プレゼンテーションの構想
3. 聴解:「心を持つ掃除機」 プレ:第1回プレゼンテーションのPPT作成
4. 聴解:「遊園地訓練」 プレ:第1回プレゼンテーションの予行演習
5. 聴解:「大手ビールメーカー、顧客とネット上でビール開発」 プレ:第1回プレゼンテーション
6. 聴解:「お盆の帰省ラッシュ」 プレ:第1回プレゼンテーションの振り返り・第2回プレゼンテーションの構想
7. 聴解:「眠い日本人」 プレ:第2回プレゼンテーションのスピーチ文作成
8. 聴解:「北海道で激しい雷雨」 プレ:第2回プレゼンテーションのPPT作成
9. 聴解:「ネットにいい動画、中学生を逮捕」 プレ:第2回プレゼンテーションの予行演習
10. 聴解:「意外と少ないジュニアプライド」 プレ:第2回プレゼンテーション
11. 聴解:「優先席2倍増設」 プレ:第2回プレゼンテーションの振り返り・最終プレゼンテーションの構想
12. 聴解:「日本は安全な国、大きく増える」 プレ:最終プレゼンテーションのスピーチ文作成
13. 聴解:「駅のホームでの事故、過去最悪のペース」 プレ:最終プレゼンテーションのPPT作成
14. プレ:最終プレゼンテーション
15. 聴解:後期の総まとめ プレ:最終プレゼンテーションの振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回語彙テストを行う。前期は各課終了後小テストを行う、しっかりと学習しておくこと。未習語彙を必ず調べ授業に臨むこと、又、課された課題には積極的に取り組むこと。(計60分以上)。後期は3回行われるプレゼンテーションの日程に間に合うよう、授業外でも計画的に準備を行うこと(計60分以上)

## テキスト

教師の指示に従うこと。

## 参考書・参考資料等

①グループ・ジャイマン編著『日本語文型辞典』くろしお出版(1998)(ベトナム語版、英語版、タイ語版、韓国語版、中国語版有り)②友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク(2010)③大阪YMC A専門学校岡本牧子他『くらべてわかる日本語表現文型辞典』Jリサーチ出版(2008)④平井悦子他『中級を学ぼう 中級中期』スリーエーネットワーク(2009)

## 学生に対する評価

期末試験・プレゼンテーション(50%)、課題の提出(25%)小テスト(15%)、授業参加の積極性(10%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 前期:学習した語彙、文法を限定的ではあるが理解することができる。後期:パワーポイントを使用し、プレゼンテーションをすることができる。
- (B) 前期:学習した語彙、文法をほぼ理解することができる。後期:効果的なパワーポイントのスライドを作成、又は、聞き取りやすいスピーチをすることができる。
- (A) 前期:学習した語彙、文法を使用することができる。後期:効果的なパワーポイントのスライドを作成し、聞き取りやすいスピーチをすることができる。
- (S) 前期:学習した語彙、文法を使用し、自身の言葉としてアウトプットすることができる。後期:聴衆の興味を引くプレゼンテーションをすることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

課題は添削し、次回授業時に返却する。プレゼンテーションは授業内でフィードバックを行う。

## その他

受講者の日本語能力が本講義を理解するに過不足がある場合、十分な学習効果が得られなため、初学者はブレイズメントテストにより受講が認められた者のみ受講可とする。日本語に関する質問であれば授業外のことで受け付ける。欠席の際は必ず事前に連絡すること。全講義の1/3を超えて欠席した者には単位を与えない。3回の遅刻を1回の欠席と見なす。ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを行う科目である。

科目名	企画科目(日本語留学生上級B)					学期	通年		
副題	-				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-120	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

日本語の使用目的に合わせて使い分けができるように問題演習を行い、アカデミック・ライティングに必要な日本語能力の獲得を目指す。獲得した論理的記述能力を使用し、明確に自分の意見を読み手に伝える方法を身につける。

## 授業の到達目標

日本語の記述に関する決まりを学習し、身につける。短い文章から始め、徐々に長い文章を書けるように実践し、最終的には1000字～1400字のアカデミック・スピーキングの文章を書き、発表できるようになる。卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身につける。

## 授業計画

### 【前期】

1. ガイダンス / 自己紹介文を書く、発表
2. 段落 (中心文・指示文)
3. 段落 (つながり)
4. 要約文を書く
5. 文体 (書き言葉・叙述文)
6. 正しい構造の文① (主語述語)
7. 正しい構造の文② (修飾語 / 文末)
8. 復習・学んだことをライティングに活かす (1)
9. 文のつながり (指示語 / 接続語)
10. 小論文によく使われる表現 (文末表現)
11. 助詞のような働きをする言葉①
12. 助詞のような働きをする言葉②
13. 復習・学んだことをライティングに活かす (2)
14. 意見文 (事実と意見)
15. 意見文 (文のスタイル)

### 【後期】

1. 前期復習 / 意見文を書く
2. 意見文を書く (一貫性・結末を意識して書く)
3. 意見文を書く (賛成の結論を導く構成・問題点を指摘する構成)
4. 意見文を書く (二項対立)
5. 復習・学んだことをライティングに活かす (3)
6. 参考資料を使って書く①
7. 参考資料を使って書く②
8. 復習・学んだことをライティングに活かす (4)
9. 統計資料を使って書く①
10. 統計資料を使って書く②
11. 復習・学んだことをライティングに活かす (5)
12. アカデミック・スピーキング (5分で伝える)
13. アカデミック・スピーキング (5分で伝える)
14. 総括① (1年を振り返り、各自作文を書く。)
15. 総括② 発表

## 準備学習(予習・復習)・時間

下読みをしてくる事前に提示された資料は下読みをしてくること。(60分) 必ず宿題とされた文章は書いてくること。(60分)

## テキスト

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク

## 参考書・参考資料等

『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版他、 『日本語の論文力練習帳』

## 学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (30%)、小テスト (20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 学習した内容をある程度使いこなしている。
- (A) 学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
- (S) 学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

## 課題に対するフィードバックの方法

テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

## その他

実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。

科目名	企画科目(日本語留学生中級A)					学期	通年		
副題	-				授業方法	講義	担当者	廣田恵美子	
ナンバリング	G1-07-121	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

大学生活に必要な日本語の四技能の習得。テキストに沿い「話す・聞く・読む・書く」の四技能を統合的に学習する。日本の文化的要素についても適宜学習する。ショウ&テルの手法を用いたスピーチも行う。

## 授業の到達目標

大学の講義を無理なく聞き取ることができるようになる。大学生活におけるさまざまな場面に適した会話をすることができる。レポートの執筆及び専門分野の文献を読むにあたっての語彙・文法が理解できる。

## 授業計画

### 【前期】

- 自己紹介・授業の進め方 テーマ -音楽と音の効果- 聴解・ディスカッション・語彙
- テーマ -音楽と音の効果- 読解・プラスアルファ
- テーマ -いい数字・悪い数字- 文法 (～というN 他)
- テーマ -いい数字・悪い数字- 文法 (Nからすると 他)
- テーマ -いい数字・悪い数字- 聴解・ディスカッション・語彙・読解
- テーマ -いい数字・悪い数字- プラスアルファ /-「面白い」日本- 文法 (Vテ/N以来 他)
- テーマ -「面白い」日本- 文法 (文章中の「こ・そ」 他)
- テーマ -「面白い」日本- 文法 (疑問語+Nであろうと 他)・聴解
- テーマ -「面白い」日本- ディスカッション・語彙・読解
- テーマ -「面白い」日本- プラスアルファ -くしゃみ- 文法 (Vタとたん 他)
- テーマ -くしゃみ- 文法 (Nとともに 他)
- テーマ -くしゃみ- 文法 (擬音語・擬態語)・聴解
- テーマ -くしゃみ- ディスカッション・語彙・読解
- 前期の総復習
- 前期の総復習・フィードバック

### 【後期】

- テーマ -くしゃみ- プラスアルファ/私の街- 文法 (Vマスつある 他)
- テーマ -私の街- 文法 (Vタところに 他)
- テーマ -私の街- 文法 (～げ)・聴解・ディスカッション・語彙
- テーマ -私の街- 本文・プラスアルファ
- テーマ -この日に食べなきゃ、意味がない!-文法 (話し言葉 他)
- テーマ -この日に食べなきゃ、意味がない!-文法 (～らしい 他)
- テーマ -この日に食べなきゃ、意味がない!-聴解・ディスカッション・語彙
- テーマ -この日に食べなきゃ、意味がない!-本文・プラスアルファ
- テーマ -お相撲さんの世界-文法 (Nたらけ 他)
- テーマ -お相撲さんの世界-文法 (～に加え (て) 他)
- テーマ -お相撲さんの世界-文法 (Vテくる 他)・聴解
- テーマ -お相撲さんの世界-ディスカッション・語彙・本文
- テーマ -お相撲さんの世界-プラスアルファ
- 後期の総復習
- 後期の総復習・フィードバック

## 準備学習(予習・復習)・時間

テキストの未修語彙は授業前に調べておくこと。(20分) 毎授業後、課題を課す、課された課題には積極的に取り組むこと。(計60分以上) 毎週語彙テスト、又、単元終了後漢字・語彙・ディクテーションの小テストを行う、しっかりと学習しておくこと。(計30分以上)

## テキスト

平井悦子他『中級を学ぼう中級前期 第2版』スリーエーネットワーク(2019)(書店で購入)

## 参考書・参考資料等

①グループ・ジャマイシ編著『日本語文型辞典』くろしお出版(1998)(ベトナム語版、英語版、タイ語版、韓国語版、中国語版有り) ②友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク(2007) ③大阪YMCA専門学校岡本牧子他『くらべてわかる日本語表現文型辞典』Jリサーチ出版(2008) ④

## 学生に対する評価

期末試験(50%)、課題の提出(25%)小テスト(15%)、授業参加の積極性(10%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した語彙、文法を限定的ではあるが理解することができる。  
 (B) 学習した語彙、文法をほぼ理解することができる。  
 (A) 学習した語彙、文法を使用することができる。  
 (S) 学習した語彙、文法を使用し、自身の言葉としてアウトプットすることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は添削し、次回授業時に返却する。

## その他

受講者の日本語能力が本講義を理解するに過不足がある場合、十分な学習効果が得られなため、初学者はプレースメントテストにより受講が認められた者のみ受講可とする。日本語に関する質問であれば授業外のことでも受け付ける。欠席の際は必ず事前に連絡すること。全講義の1/3を超えて欠席した者には単位を与えない。3回の遅刻を1回の欠席と見なす。ディスカッションを行う科目である。



科目名	企画科目(日本語留学生中級B)					学期	通年		
副題	—				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-122	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

現代日本社会の現状を反映した文章や、日本文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。同時に「読む、聞く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。語彙、文法、聴解の日本語能力試験 N3 レベルの復習をし、N2 レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

## 授業の到達目標

大学生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語能力を総合的に身につける。

## 授業計画

### 【前期】

- 宮沢賢治についての紹介文を読み、朗読を聴く。
- 『時代を読み解く』II・6-a なぜ少子化が社会問題なのか
- 『時代を読み解く』I II・6-a なぜ少子化社会が問題なのか
- 紫式部 / 清少納言 永遠のライバル I
- 紫式部 / 清少納言 永遠のライバル II
- 『時代を読み解く』II 7-a 買い物弱者
- 『時代を読み解く』II 7-b 買い物弱者
- ミスター・トルネード 藤田哲也
- 再生医療への挑戦 山中伸弥
- JLPT 模試実施
- 模試 FB / 総括
- 『時代を読み解く』II 8-a 離れて暮らす親の見守り
- 『時代を読み解く』II 8-b 離れて暮らす親の見守り
- 千利休 わびの精神 I
- 千利休 わびの精神 II

### 【後期】

- 『時代を読み解く』IV 14-a 日本型雇用システム (1)
- 『時代を読み解く』IV 14-b 日本型雇用システム (1)
- 白石義明 回転寿司発明者
- 石黒浩 ロボット工学者
- 『時代を読み解く』IV 14-a 日本型雇用システム (2)
- 『時代を読み解く』IV 14-b 日本型雇用システム (2)
- 卑弥呼 邪馬台国女王 I
- 卑弥呼 邪馬台国女王 II
- JLPT 模試実施
- 模試 FB / 総括
- 『時代を読み解く』III 11-a 学歴とは別のものさしで
- 『時代を読み解く』III 11-b 学歴とは別のものさしで
- 豊臣秀吉 / 徳川家康 I
- 豊臣秀吉 / 徳川家康 II
- I 年を振り返り、印象深い記事について各自意見発表

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回資料を配布するので、「ふりがな抜きで音読」「簡単な内容把握」をしてもらうこと。(60分) 『新完全マスター N2 文法』『新完全マスターN2 語彙』は毎回確認小テストをするので、指定箇所を学習しておくこと。(60分)

## テキスト

『新完全マスターN2 語彙』スリーエーネットワーク (書店で購入)

## 参考書・参考資料等

『留学生のための 時代を読み解く上級日本語』宮原 彬 スリーエーネットワーク。『THE GREAT JAPANESE 30 の物語』『新完全マスターN2 文法』『新完全マスターN2 聴解』スリーエーネットワーク。

## 学生に対する評価

期末試験 (40%)、小テスト (40%)、発表 (20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 学習した文型や表現を理解できている。
- 学習した文型や表現を正確に使用できている。
- 学習した文型や表現を応用できている。
- 学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

## 課題に対するフィードバックの方法

語彙、文法の小テストを実施した際には、その場で採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

## その他

日本語のレベルを上げたい全ての学生は受講してほしい。JLPT の準備をしつつ、基本的な日本語能力が身につくよう、読解、聴解、発表などを随時企画している。

科目名	チベット語A／チベット語(別)					学期	通年		
副題	チベット語初級				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G2-07-123	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

チベット仏教の最高学位（ゲシェー・ハランパ）を持つチベット人僧侶から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

### 授業の到達目標

文字（ウチェン）と発音、あいさつ及び文字（ウメー）を修得し、チベット語の読み書き及び会話ができるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. オリエンテーション
2. 30基字の1～10の読み方と発音
3. 30基字の11～20の読み方と発音
4. 30基字の21～30の読み方と発音
5. 簡単なあいさつ
6. 30の子音字母と母音の結合1～15の読み方と発音
7. 30の子音字母と母音の結合16～30の読み方と発音
8. 簡単な会話
9. 反対字の読み方と発音
10. ས་ を頭とする有頭字
11. འ་ を頭とする有頭字
12. ར་ を頭とする有頭字
13. ལ་ を足とする有足字
14. ས་ を足とする有足字
15. འ་ を足とする有足字

#### 【後期】

1. འ་ を足とする有足字
2. 前置字
3. 後置字
4. 再後置字
5. 文章の読み方と日常会話
6. 文章の読み方と日常会話（続）
7. 文章の読み方と日常会話（続）
8. 文章の読み方と日常会話（続）
9. 文章の読み方と日常会話（続）
10. 文章の読み方と日常会話（続）
11. 文章の読み方と日常会話（続）
12. 文章の読み方と日常会話（続）
13. 文章の読み方と日常会話（続）
14. 文章の読み方と日常会話（続）
15. 文章の読み方と日常会話（続）

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180分）

### テキスト

ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

### 参考書・参考資料等

松本栄一・奥山直司『チベット [マンダラの国]』（小学館）※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

### 学生に対する評価

授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) チベット文字（ウチェン）が一応読み書きできる。
- (B) チベット語の簡単な挨拶ができる。
- (A) チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
- (S) チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよどみなくできる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

### その他

科目名	中国語 I					学期	通年		
副題	—				授業方法	講義	担当者	土生川正賢	
ナンバリング	G1-07-124	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

コロナ禍で訪日外国人は激減したが早晩回復することが予想され、その中でも中国語圏の中国・台湾・香港が国別ランキングトップ5に入っている。今や中国語は国内でも使う時代となった。また近年、大陸で断絶した密教を復興させようという機運の高まりと共に、中国語圏から高野山に学びに来る傾向も強まっている。古典的な「漢文」という教養の側面だけではなく、実学として「使える語学」を修得する実践的授業を行う。また、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても随時考えてゆく。

## 授業の到達目標

「学問のための学問」ではなく、「聞く」「話す」に重点を置いた実社会で使える語学の習得を目指す。正確な発音を意識し、日常的な挨拶文から自己紹介、更には自分の日常について中国語で話せる程度の語学力の確立を目指す。外国語学習を通して自国の文化をより深く理解し多角的な視野を有する学生を育成したい。

## 授業計画

### 【前期】

1. 年間授業計画説明。中国に関する一般常識に関するアンケート。中国語の特性について。
2. 中国語の声調記号である「四声」と、発音記号「ピンイン」について。母音の発音練習。
3. 「四声」と「ピンイン」について。子音の発音練習。
4. 中国特有の漢字である「簡体字」の基礎学習。
5. 電子辞書を含む中国語辞書の紹介と使い方。
6. テキストに従って挨拶や基本文型の学習 (第1～4課)
7. テキストに従って挨拶や基本文型の学習 (第1～4課)
8. テキストに従って挨拶や基本文型の学習 (第1～4課)
9. テキストに従って挨拶や基本文型の学習 (第1～4課)
10. テキストに従って挨拶や基本文型の学習 (第1～4課)
11. テキストに従って挨拶や基本文型の学習 (第1～4課)
12. テキストに従って挨拶や基本文型の学習 (第1～4課)
13. テキストに従って挨拶や基本文型の学習 (第1～4課)
14. 前期試験に関する説明。前期の授業に関するアンケート調査。
15. 前期試験 (筆記)。講評

### 【後期】

1. 前期試験の反省と間違った箇所の復習等。後期の授業計画説明。
2. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
3. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
4. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
5. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
6. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
7. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
8. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
9. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
10. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
11. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
12. テキストを中心とした授業。(第5～8課)
13. テキストを中心とした授業。(第5～8課) テキスト終えれば中国に関するビデオ鑑賞等。
14. 後期試験に関する説明。アンケート調査。
15. 後期試験 (筆記)。講評

## 準備学習(予習・復習)・時間

教科書に付属するCDを繰り返し聞き、自分でも音読することで、正しい発音を習得して頂きたい。

## テキスト

喜多山幸子・鄭幸枝 『はじめまして！中国語』 白水社

## 参考書・参考資料等

辞書 (小学館『中日辞典』等)。電子辞書や参考書籍は授業中随時紹介する。NHK ラジオ中国語講座テレビ中国語講座等の番組視聴を推奨する。

## 学生に対する評価

- ①試験 (60%) ②受講姿勢 (20%) ③既習項目の習熟度 (20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中国語の四声とピンインを見て正しい発音ができる。簡体字を理解している。  
 (B) 挨拶語や基礎的な構文を理解した上で正しい発音ができる。基本的な文法を理解している。  
 (A) 基礎的な文法を理解した上で、自己紹介や自分の一日などについて中国語で話せる。教科書程度の内容について、聞いて受け答えできる会話力がある。  
 (S) 中国人留学生らとの意思疎通が一定程度できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

## その他

聞けぬ話せぬ語学では実社会では役に立たない。簡単な挨拶文から始めるので、学生諸君には積極的に取り組む姿勢を要求したい。今後日本国内でも中国語を話す機会は増えるだろう。間違えても構わないので、中国人を見かけたら積極的に話しかけるくらいの姿勢で臨んでもらいたい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

文部省派遣留学生として中国国立中山大学修士課程修了、その間中国の複数の大学の教壇にも立った。実務としては、現地政府との折衝など国内外で数々の通訳に従事。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などへの密教の布教。中国はじめ各国の駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。中国系留学僧らに対する中国語での加行伝授などの経験がある。それらをいかし、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	中国語Ⅱ						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	土生川正賢	
ナンバリング	G1-07-125	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

初級クラス同様「聞く」「話す」に重点を置き、受講生の語学力にあわせた個別指導を丁寧に行う。一方で中国語の新聞を読むような講読力も養いたい。コロナ禍ではあるが、大陸で断絶した密教を復興させようという機運の高まりと共に近年中国語圏から高野山に学びに来る傾向も強まっている。教養としての古典的中国語と共に、現代社会のニーズに応える実学としての語学の修得を目指す。同時に、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題や時事問題にも言及し、共に考えてもらいたい。

## 授業の到達目標

多角的な視野をもち、中国語を使って仕事のできる人材を育成したい。我が国の歴史・文化・伝統・政治的立場等を中国語で堂々と主張できる国際人を目指す。中国語作文発表や新聞購読等、実際に使える語学を習得するため、段階的に応用力を磨く。各人がレベルアップを実感できるよう、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。

## 授業計画

### 【前期】

1. 年間授業計画説明。初級クラスで学んだ語学力のチェック。
2. 初級クラスの基礎復習。辞書・参考文献の紹介。
3. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
4. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
5. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
6. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
7. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
8. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
9. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
10. 受講生の語学力に適した教材を配布。
11. 受講生の語学力に適した教材を配布。
12. 受講生の語学力に適した教材を配布。
13. 受講生の語学力に適した教材を配布。
14. 前期試験に関する説明。前期の授業に関するアンケート調査。
15. 前期試験（面接）。

### 【後期】

1. 前期試験の総復習。後期の授業計画説明。
2. 前期復習単元と基礎文法の総復習。
3. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
4. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
5. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
6. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
7. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
8. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
9. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
10. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
11. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
12. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
13. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
14. 後期試験に関する説明。アンケート調査。
15. 後期試験（面接）。

## 準備学習(予習・復習)・時間

教科書に付属するCDを利用した発音訓練を推奨する。後期の学生による発表は、作文を入念に準備すること。

## テキスト

初級クラスで用いた教科書の未修単元今年度は喜多山幸子・鄭幸枝 『はじめまして！中国語』 白水社

## 参考書・参考資料等

上記テキスト修了後は、その都度必要な教材・資料を配布。辞書は毎回必携。電子辞書や参考書籍は随時紹介。

## 学生に対する評価

筆記試験と中国語による個別面接試験（70%）、授業中の発表やレポート等（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的な文法を理解し、自己紹介や簡単な日常会話ができる。
- (B) 基礎的な文法を理解し、正しい発音で教科書程度の内容について会話ができる。
- (A) 新聞講読に必要な最低限の語彙力と日常会話能力、「聴・説・読・写」の総合的な力がある。
- (S) 中国人留学生らとの意思疎通が相当程度できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

## その他

諸君の先輩の中には北京大・復旦大・中山大など中国の一流の大学院に国費留学し、学位取得した者も複数いる。井の中の蛙で終わらず、世界に目を向けてもらいたい。文系学科の中では語学の実用性は非常に高い。外国語がひとつ話せるだけで、世界は大きく広がり、職業の選択肢も広がる。多様な価値観を身につけることも語学学習のプラスアルファの側面である。学生諸君には積極的な授業参加を求めたい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

文部省派遣留学生として中国国立中山大学修士課程修了、その間中国の複数の大学の教壇にも立った。実務としては、現地政府との折衝など国内外で数々の通訳に従事。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などへの密教の布教。中国はじめ各国の駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。中国系留学僧らに対する中国語での加行伝授などの経験がある。それらをいかし、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	企画科目(声明上級)/声明上級/声明上級(別)							学期	通年
副題	-				授業方法	実技	担当者	辻秀道	
ナンバリング	G2-01-126	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

1. 初級の続きとして、初級で学べなかった種々の南山進流声明及び法要を研鑽して声明の視野を広める。2. 導師作法で必要な、「理趣法」の表白・神分を研鑽する。3. 四座講式の基本的な読み方を研鑽する。4. 種々の表白・神文の基礎となる御影供と大般若の表白・神文を研鑽する。

## 授業の到達目標

基本となる各法会の表白・神分を修得する。伽陀の譜の作りを学ぶ。各法会の祭文を研鑽する。常楽会の講式の読み方を学ぶ。

## 授業計画

【前期】	【後期】
1. オリエンテーション (テキスト解説)	1. 講式の読み方 (初重) (1)
2. 総礼 (伽陀) (1)	2. 講式の読み方 (初重) (2)
3. 総礼 (伽陀) (2)	3. 講式の読み方 (二重) (1)
4. 誕生会祭文 I	4. 講式の読み方 (二重) (2)
5. 誕生会祭文 II	5. 講式の読み方 (三重) (1)
6. 誕生会祭文 III	6. 講式の読み方 (三重) (2)
7. 云何唄 (1)	7. 大般若表白・神分 (1)
8. 云何唄 (2)	8. 大般若表白・神分 (2)
9. 出家唄	9. 大般若表白・神分 (3)
10. 常楽会祭文 (1)	10. 理趣法表白・神分 (1)
11. 常楽会祭文 (2)	11. 理趣法表白・神分 (2)
12. 御影供表白・神分 (1)	12. 理趣法表白・神分 (3)
13. 御影供表白・神分 (2)	13. 理趣経中曲 (後半)
14. 前期試験と講評	14. 後期試験と講評
15. 御影供表白・神分 (3)	15. 総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ唱え方に関して復習をしておくこと (90分)

## テキスト

・「祭文集」—高野山出版社発行—各自高野山出版社で購入すること。(オリエンテーションで説明)・「理趣法」講義中に伝達する・御影供/大般若表白、神分(オリエンテーションで説明)・講式テキスト(オリエンテーションで説明)

## 参考書・参考資料等

宮野宥智編「南山進流声明類聚」

## 学生に対する評価

前期末テスト(40%) 後期末テスト(40%) 授業参加の積極性(20%)。試験は実技試験。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 南山進流声明上級として、理解は十分ではないが、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
- (B) 南山進流各種声明を概ね理解し、複数の人と合わせて唱える事が出来る。
- (A) 南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、一人で唱える事が出来る。
- (S) 南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、声明上級としての学力を有する。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

受講資格を下記の通り設ける 1. 本学「声明」初級を修得した者 2. 高野山専修学院及び尼僧学院を修了した者 3. 高野山高等学校宗教科を卒業した者 4. その他同等以上の研鑽を修了した者

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧学院・大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	梵字悉曇A／梵字悉曇(別)						学期	通年	
副題	-				授業方法	実技	担当者	齋藤天譽	
ナンバリング	G1-01-127	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

摩多・体文・切継など、梵字を書きながら学ぶ。

## 授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

## 授業計画

### 【前期】

1. 年間授業計画の説明
2. 梵字・悉曇の伝来と歴史
3. テキストを読みながら説明
4. テキストを読みながら説明
5. 筆を使って実習通摩多 12 文字
6. 筆を使って実習通摩多 12 文字
7. 筆を使って実習通摩多 12 文字
8. 別摩多 4 文字他
9. 別摩多 5 文字他
10. (ka) (kha) (ga) の 3 文字
11. (gha) (ṅa) の 2 文字
12. (ca) (cha) の 2 文字
13. (ja) (jha) (ṅa) の 3 文字
14. (ṭa) (ṭha) (ḍa) の 3 文字
15. (ḍha) (ṇa) の 2 文字

### 【後期】

1. 筆を使って実習 (ta) (tha) の 2 文字
2. " (da) (dha) の 2 文字
3. " (na) (pa) の 2 文字
4. " (pha) (ba) の 2 文字
5. " (bha) (ma) の 2 文字
6. " (ya) (ra) (la) の 3 文字
7. " (va) (śa) (ṣa) の 3 文字
8. " (sa) (ha) の 2 文字
9. " 重字の 2 文字
10. 塔婆の書き方
11. 刷毛書体について
12. 三尊仏について
13. 光明真言①
14. 光明真言②
15. 諸真言について

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90 分) 授業で学んだ文字を練習しておくこと (90 分)

## テキスト

児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房「小堀南岳堂」で購入

## 参考書・参考資料等

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』

## 学生に対する評価

授業参加の積極性 (20%)、作品提出 (80%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 習った「梵字」を書くことが出来る。
- (B) 「梵字」に慣れて、上達が見られる。
- (A) きれいな梵字を書くことが出来る。
- (S) 「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

## その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山内寺院の住職である教員が、真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、習字を通して、その上達を指導する。

科目名	体育実技					学期	通年		
副題	—				授業方法	実技	担当者	今井邦夫	
ナンバリング	G1-17-128	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

【前期】バレーボールを楽しみながら仲間作りと基本的技術の習得を目指す。【後期】フットサルを楽しみながら仲間作りと基本的技術の習得を目指す。＊感染症感染拡大防止対策、緊急事態宣言等社会情勢を受け、内容を一部変更する場合がございます。

### 授業の到達目標

様々なスポーツを通して基本技能を学習すると同時に仲間とのコミュニケーション能力を高め、生涯スポーツに活かしていく。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 指導概要についての説明
2. バレーボールのルール、基本動作の徹底
3. 個人的技能の習得 (1) パス&レシーブ
4. 個人的技能の習得 (2) パス&レシーブ
5. 個人試験・グループ試験 (ラリー形式)
6. 個人的技能の習得 (1) サービス
7. 個人的技能の習得 (2) スパイク
8. 個人的技能の習得 (3) トス
9. 試験 (サービス・スパイクアタック・トス)
10. 集団的技能の習得 (1) (連携プレー)
11. 集団的技能の習得 (2) (連携プレー)
12. 集団的技能の習得 (3) (連携プレー)
13. 集団的技能の習得 (4) (連携プレー)
14. 集団的技能の習得 (5) (連携プレー)
15. 試験 (連携プレー)

#### 【後期】

1. フットサルのルールを理解し、ボール慣れ親しむ
2. チーム作り・個人的技能の習得
3. ゲーム、技術の向上 (1) パス&コントロール
4. ゲーム、技術の向上 (2) パス&コントロール
5. ゲーム、技術の向上 (3) パス&コントロール
6. ゲーム、技術の向上 (4) 攻撃の個人戦術の理解
7. ゲーム、技術の向上 (5) 攻撃の個人戦術の理解
8. ゲーム、技術の向上 (6) 守備の個人戦術の理解
9. ゲーム、技術の向上 (7) 守備の個人戦術の理解
10. ゲーム、技術の向上 (8) 攻撃のグループ戦術の理解
11. ゲーム、技術の向上 (9) 攻撃のグループ戦術の理解
12. ゲーム、技術の向上 (10) 守備のグループ戦術の理解
13. ゲーム、技術の向上 (11) 守備のグループ戦術の理解
14. ゲーム、技術の向上 (12) 攻守のチーム線術の理解
15. ゲーム、技術の向上 (13) 攻守のチーム線術の理解

### 準備学習(予習・復習)・時間

東京オリンピックに対して興味・関心を持ち、視聴や観戦を積極的に行う。また感染症拡大防止対策に努め、スポーツ社会の必要性・多様性を理解する。

### テキスト

なし

### 参考書・参考資料等

なし

### 学生に対する評価

出席 (60%) 実技・技能 (20%)・コミュニケーション・協調性 (20%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ルールを理解し、意欲的に参加している。
- (B) 基本的な技術を身に付け、ルールを理解している。
- (A) ルールを理解し、仲間と協力し合いながら連携プレーが出来る。
- (S) ルールを理解し、技術・リーダーシップを発揮してゲームの雰囲気・質を高められる。

### 課題に対するフィードバックの方法

振り返りを行い、仲間と技術を確認しながら上達を目指す。

### その他

運動実施可能な服装、及び室内用シューズを持参する。例として、綿及びジーンズ等のパンツ、Yシャツなどのボタン付きの上着、靴下のみで履くものを持参していない、作務衣それ以外にも運動に適さない服装での参加は、安全上の理由により受講不可とする。

科目名	情報処理							学期	通年
副題	—				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	G1-13-129	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

情報処理という中でこれから必要とされるデータ処理の方法を身につける。【前期】基本的なことを通してデータ処理から分析ができるようになる。数学的論理思考が必要。【後期】前期を踏まえて、データ内容から分析まで表現できるものとしてプレゼンテーションし、情報の一般知識を活用してひとつの処理結果を制作する。

## 授業の到達目標

情報ネットワーク社会の中で情報を利用する上での重要な基礎技術を、データ分析を通して修得する。【前期】数学的論理を踏まえ基本的な office 機能の利用をもってプレゼンテーションができるようになる。【後期】実践的に表現していく中で、情報理論の体系化を修得をし、分析力身につける。

## 授業計画

### 【前期】

1. ガイダンス (序章) 一年間の流れを説明しながらデータサイエンスの説明をする
2. Office 機能の確認～WORD を基本使いこなす準備と機能の知識確認
3. Word で文書作成 (1 枚の文書作成) ～企画書作成の例を参考に実践的にしていく
4. Word で文書作成 (表を挿入しながらの文書作成) ～文書作成に伴い、表の挿入を行っていく
5. Excel での文書・表作成 (基本的な機能操作～関数) ～関数の使い方の基本を身につける
6. Excel での文書・表作成 (機能を使いながらの実践表作成) ～総合的にまとめる作業
7. 情報伝達について (スライドを用いながらの伝達) ～パワーポイントを利用しながらの手順の確認
8. 情報伝達の理論～実践的な手法から講義的に理論の確認
9. 暗号化と情報管理～データ・サイエンス的に重要なものである
10. データベースの理解と活用～実践を交えながら理解度を深める
11. オペレーティングシステムの理解～参考動画で確認作業を試みる
12. サーバとネットワークの構造 (基本編) ～動画を資料にして確認作業をしていく
13. サーバとネットワークの構造 (実践編) ～今までのを参考に実践的なものを作成していく
14. プレゼンテーション～数時間で学んだ過程で作成に勤める
15. 総括機能の活用～すべての総括とプレゼンテーションの報告

### 【後期】

1. 問題解決手法一般について～毎回課題を提供しての解決法を考案
2. 問題の表し方と解決策について (同様)
3. データの分析から評価・解決手順～データ分析の手順の実践編
4. プログラム言語と論理について～一つのプログラムを提示しての確認作業
5. 構造プログラムの設計方法論
6. 構造プログラムの設計実践編～方法論から実践作成法を身につける
7. 分析論 (基本データ分析方法) ～各データからの分析方法を確認
8. 分析論 (データの解析的な活用法) ～具体的なデータからの解析方法を考えさす
9. 情報活用論～動画参照からの方法論
10. 情報活用による実践論～動画を参考にしながら学んでいく
11. 情報メディアについて～動画を参考にしながら学んでいく
12. 情報デザインについて
13. 表現メディアの編集と表現について
14. 情報メディア～まとめたプレゼンテーションによる総括報告
15. 総括メディアのプレゼンテーション

## 準備学習(予習・復習)・時間

PC での実践に向ける体験的な知識を必要とするので、復習の学習時間が必要である。PC の利用が当たり前の社会である。それに関わる積み重ねが必要 (90 分)

## テキスト

必要に応じて文献を提示していく。素材データを共有する。

## 参考書・参考資料等

毎回参考資料を提示していく。数学的論理・解決が必要でもあり随時提示していく。

## 学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (30%)、授業参加の積極性 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 情報機能を興味深く研究する姿勢が感じられること。
- (B) 情報機能が理解をしていてより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
- (A) 情報機能が技術的に把握していて、授業を通して認識・理解を探究できること。
- (S) 情報機能が技術的にできていて、授業を通じて認識・理解できていること。

## 課題に対するフィードバックの方法

課題を必要としていく。PC を使いこなせることがこの講座の必要性である。フィードバックに対することは毎回提示していく

## その他

情報処理の講座を通して今後の社会に出た時の活用も含めてこれから AI がより一層の変化・進化していく中でそれをうまく自分のものになるように技術もちろんだが、利用方法を見つける工夫を考える必要がある。情報機能の技術を年間通してどれだけ進歩させるかをひとつの評価になり、技術ではなくそれをういた表現力を身につけることを目標にし、それを生かしてどのように作り上げるかを考えること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員としての経験を元に、社会に出た時の必要性を十分認識させていき、その活用が有意義に感じられるものにしていく。なお、学のほとんどがまだまだ PC を使いこなせてない現状であることを踏まえて最小限度の使用法を理解させていく。



科目名	企画科目(華道)/伝統文化(華道)					学期	通年		
副題	-				授業方法	実技	担当者	五味和樹	
ナンバリング	G1-26-130	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を荘厳する真華の解説と真華の実技実習。

### 授業の到達目標

【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的実技の修得。【後期】高野山の伝統行事（年中行事）に生けられる伝統華・荘厳真華の理解

### 授業計画

#### 【前期】

1. ガイダンス
2. 華道高野山についての解説
3. 供華様式から投入花の解説
4. 投入花から現代花の解説
5. 盛花の解説
6. 盛花の実技実習
7. 盛花の変化態の解説と実習
8. 投入花の解説と実習
9. 投入花の変化態の解説と実習
10. 格花の解説と実習
11. 格花の変化態の解説と実習
12. 自由花の解説と実習
13. 自由花のテーマのもとめ方と実習
14. 自由花のテーマを決めた実習
15. 格花寸胴での実習

#### 【後期】

1. 真華の解説
2. 五段華の解説（内談義五段華）
3. 五段華の解説（勸学会五段華）
4. 真華実習（1）（基礎）
5. 真華実習（2）（変化態）
6. 二つ真の解説
7. 仏生会の華の解説
8. 白羽の矢竹の解説
9. 小品真華の解説と実習
10. 法印転衣式の華の解説
11. 合真の解説
12. 元三の花の解説
13. 万年青の解説と実技
14. 真華・格花の三態九姿の解説
15. 水仙の葉組

### 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の実習内容を振り返り、他の学生の作品も鑑賞し、自分の作品との相違や今後参考にしたいと思う点を確認し、今回の作品を手直しする。(60分)

### テキスト

華道高野山教本

### 参考書・参考資料等

特に無し

### 学生に対する評価

実技定期試験(60%)、小試験(40%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 盛花・自由花・格花の基本を理解し、生けられる。
- (B) 作品に創意・工夫が見られる。
- (A) 高野山の伝統華である真華を理解し、生けられる。
- (S) すべての花態を理解し、特に技術的に優れている。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

### その他

実技実習時に花材費 800 円～1,000 円必要である。

科目名	企画科目(宗教舞踊)／宗教芸能(宗教舞踊)							学期	通年
副題	-				授業方法	実技	担当者	高祖・辻	
ナンバリング	G1-26-131	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

宗教舞踊の基本的な身体の動かし方・理念・法具の扱い方・教典の譜の見方等基本を学ぶ。御詠歌の歌詞の意味、舞踊で表現されている意味を学び、心の表現の仕方について学ぶ。

## 授業の到達目標

宗教舞踊の基礎を身につけ、練習を積み重ねることにより、心技体を磨く。

## 授業計画

### 【前期】

1. 宗教舞踊を見てみる。本的理念・法具(持ち物)の扱い方の解説。
2. 「金剛舞踊和讃」により身体の動かし方の基本を学ぶ。
3. 「金剛舞踊和讃」実習(1)
4. 「金剛舞踊和讃」実習(2)
5. 「金剛舞踊和讃」実習(3)
6. 「金剛舞踊和讃」実習(4)・歌詞の解説と仕上げ
7. 「御法号和讃」実習(1) 教典の譜の見方の説明
8. 「御法号和讃」実習(2)
9. 「御法号和讃」実習(3)
10. 「御法号和讃」実習(4)
11. 「御法号和讃」実習(5)
12. 「御法号和讃」実習(6)
13. 「御法号和讃」前期試験に向けた実技試験の実技の復習するべき注意点の説明
14. 「御法号和讃」の仕上げ
15. 16. 前期実技試験と講評

### 【後期】

1. 「光明」実習(1)
2. 「光明」実習(2)
3. 「光明」実習(3)
4. 「光明」実習(4)
5. 「光明」実習(5)・歌詞の説明
6. 「光明」実習(6)
7. 「光明」実習(7)
8. 「光明」実習(8)
9. 「光明」実習(9)仕上げ
10. 「御法号和讃」復習(1)
11. 「御法号和讃」復習(2)
12. 「御法号和讃」復習(3)
13. 「御法号和讃」復習の仕上げ
14. 登壇の仕方
15. 後期実技試験と講評・1年間の総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだ実技の注意点を中心に練習をしておくこと(60分)

## テキスト

高野山宗教舞踊会師範会監修教典(1曲ずつの教典)を大師教会で購入

## 参考書・参考資料等

高野山金剛流宗教舞踊基本教典 ・『はじめての「高野山宗教舞踊」入門』セルバ出版

## 学生に対する評価

授業中の技術の習熟度(30%)・努力度(30%)・実技試験(40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本動作(合掌の形・立座の仕方・法具の扱い方)ができる。  
 (B) 御詠歌に合わせてみんなと一緒に舞う事ができる。  
 (A) 御詠歌に合わせて一人で舞う事が出来る。  
 (S) 歌詞を理解し、心を表現しながら一人で舞う事ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

前後期の試験の講評を行い注意・復習すべき点を指導する。

## その他

単位取得者は希望により『高野山金剛流宗教舞踊会』の〔入門〕と〔初伝〕が取得できる。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山宗教舞踊会大師範で有り、教室・司部弟子指導の経験、本山宗教舞踊研究部員・巡回布教派遣講師の経験を持つ教員が、初心者には体の使い方のわかりやすい指導と曲の深い理解・実際の舞踊登壇への完成を指導する。

科目名	企画科目(歴史学)/歴史学							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-12-132	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

本講義の目的は二つからなる。前半では、中世前期の高野山をめぐる諸問題について学び、町石の造立をめぐる歴史、高野山と公武権力との関係について理解を深める。後半では、近世における歴史学の発達について学び、『大日本史』の編纂過程を通して、史料批判の発達、史料採訪の意義について考える。なお、授業計画に示す内容は、進捗その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

## 授業の到達目標

中世前期の高野山について、政治史との関係を踏まえて説明できる能力を身につける。歴史学における史料の重要性について説明できる能力を身につける。研究史の重要性について、理解できるようになる。

## 授業計画

1. 高野山町石をめぐる歴史と文化①—卒塔婆造立の功德と弘法大師信仰—
2. 高野山町石をめぐる歴史と文化②—高野山と安達泰盛—
3. 高野山町石道を歩く
4. 北条政子と高野山①—源氏三代と高野山—
5. 北条政子と高野山②—貞暁と一心院—
6. 北条政子と高野山③—金剛三昧院の造立をめぐる—
7. 高野山靈宝館の見学
8. 後醍醐天皇と高野山①—後醍醐天皇・護良親王の討幕活動と高野山—
9. 後醍醐天皇と高野山②—建武政権期の後醍醐天皇と高野山—
10. 後醍醐天皇と高野山③—南北朝内乱と高野山—
11. 『大日本史』の史学史的意義
12. 佐々宗淳による金剛寺文書・観心寺文書調査
13. 佐々宗淳による高野山文書調査①—『大日本史編纂記録』を通して—
14. 佐々宗淳による高野山文書調査②—『南行雑録』の価値—
15. 高野山西南院の調査

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史や史学史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分) 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること(80分)

## テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

## 参考書・参考資料等

- ①上横手雅敬『鎌倉時代』(吉川弘文館、1994年) ②山陰加春夫『中世の高野山を歩く』(吉川弘文館、2014年) ③久保田収『近世史学史論考』(皇學館大学出版部、1968年) ④但野正弘『新版佐々介三郎宗淳』(錦正社、1988年)

## 学生に対する評価

レポート(70%)、講義時におけるミニツツペーパー(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中世前期の高野山や近世史学史に関する基礎的事項を理解している。  
 (B) 高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて説明できる。  
 (A) 高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて、具体的かつ論理的に論じることができる。  
 (S) 高野山と公武権力の関係、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容のみならず、参考文献の読解や自己の調査を踏まえて、新たな問題提起ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点后に講評する。

## その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと(これを守らない学生には厳烈な注意を与える)。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読み、歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。

科目名	総合科目(書誌学)／書誌学							学期	前期
副題	「金剛三昧院伝来聖教の調査」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G3-12-133	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

本講義では、高野山大学図書館に収蔵される金剛三昧院伝来聖教を調査する。この作業を通して、古典籍の諸形態を学ぶとともに、調査方法についての専門的知識を習得する。また、聖教の末尾に記載された奥書に注目し、その集録作業を行なう。なお、授業計画に示す調査進度は、受講者の実力や受講人数によって変わると考えられる。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

## 授業の到達目標

古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。古典籍の奥書についての解読能力を習得し、その史料価値について理解できるようになる。

## 授業計画

1. 金剛三昧院伝来聖教の意義
2. 金剛三昧院伝来聖教特別部第1号の調査①
3. 金剛三昧院伝来聖教特別部第1号の調査②
4. 金剛三昧院伝来聖教特別部第1号の調査③
5. 金剛三昧院伝来聖教特別部第1号の調査④
6. 金剛三昧院伝来聖教特別部第2号の調査①
7. 金剛三昧院伝来聖教特別部第2号の調査②
8. 金剛三昧院伝来聖教特別部第2号の調査③
9. 金剛三昧院伝来聖教特別部第2号の調査④
10. 金剛三昧院伝来聖教特別部第3号の調査①
11. 金剛三昧院伝来聖教特別部第3号の調査②
12. 金剛三昧院伝来聖教特別部第3号の調査③
13. 金剛三昧院伝来聖教特別部第3号の調査④
14. 金剛三昧院伝来聖教特別部第3号の調査⑤
15. 総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書を毎回読み、書誌学に係る専門用語の意味を理解しておくこと(100分) 調査対象の古典籍の要点をノートに整理すること(80分)

## テキスト

適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

①橋本不美男『原典をめざして』(笠間書院、1974年) ②藤本孝一『日本の美術 古写本の姿』(至文堂、2002年) ③藤本孝一『日本の美術 文書・写本の作り方』(至文堂、2008年) ④藤本孝一『本を千年伝える』(朝日新聞出版、2012年)

## 学生に対する評価

レポート(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典籍について基礎的な知識を習得している。
- (B) 古典籍の諸形態や奥書の史料価値について理解し、系統的に説明できる。
- (A) 古典籍について系統的な説明ができるとともに、金剛三昧院伝来聖教についての知識を習得している。
- (S) 古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業内で対応する。また、レポートについては、採点后に講評する。

## その他

本講義は、古典籍の原本・写本を扱うため、水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。学部生で本講義を履修することが可能であるのは、前年度までに「企画科目(古文書解読)」「企画科目(歴史学)」「総合科目(古文書学)」「日本文化特殊講義」のいずれかを受講し、単位を修得した人のみである。これ以外は許可しないので、登録にあたっては注意すること。原本を調査するので、筆記用具は鉛筆のみ(シャープペンシル不可)。

科目名	総合科目(古文書学)／古文書学							学期	後期	
副題	「金剛三昧院伝来聖教、西南院伝来聖教・文書の調査」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎		
ナンバリング	G3-12-134	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2		単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

本講義では、高野山大学図書館や高野山西南院に収蔵される聖教・文書を調査する。この作業を通して、古文書・古典籍の諸形態を学ぶとともに、調査方法についての専門的知識を習得する。また、文書はもとより、聖教の末尾に記載された奥書に注目し、その集録作業を行なう。なお、授業計画に示す調査進捗は、受講者の実力や受講人数によって変わると考えられる。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

## 授業の到達目標

古文書・古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。古文書・古典籍の奥書についての解読能力を習得し、その史的価値について理解できるようになる。

## 授業計画

1. 金剛三昧院伝来聖教、西南院伝来文書の意義
2. 金剛三昧院伝来聖教特別部第14号の調査①
3. 金剛三昧院伝来聖教特別部第14号の調査②
4. 金剛三昧院伝来聖教特別部第14号の調査③
5. 金剛三昧院伝来聖教特別部第14号の調査④
6. 金剛三昧院伝来聖教特別部第14号の調査⑤
7. 金剛三昧院伝来聖教特別部第15号の調査①
8. 金剛三昧院伝来聖教特別部第15号の調査②
9. 金剛三昧院伝来聖教特別部第15号の調査③
10. 金剛三昧院伝来聖教特別部第15号の調査④
11. 金剛三昧院伝来聖教特別部第15号の調査⑤
12. 高野山西南院伝来文書の調査①
13. 高野山西南院伝来文書の調査②
14. 高野山西南院伝来文書の調査③
15. 総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考書を毎回読み、書誌学に係る専門用語の意味を理解しておくこと(100分) 調査対象の古文書・古典籍の要点をノートに整理すること(80分)

## テキスト

適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

①橋本不美男『原典をめざして』(笠間書院、1974年) ②藤本孝一『日本の美術 古写本の姿』(至文堂、2002年) ③藤本孝一『日本の美術 文書・写本の作り方』(至文堂、2008年) ④藤本孝一『本を千年伝える』(朝日新聞出版、2012年)

## 学生に対する評価

レポート(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古文書・古典籍について基礎的な知識を習得している。
- (B) 古文書・古典籍の諸形態や奥書の史的価値について理解し、系統的に説明できる。
- (A) 古文書・古典籍について系統的な説明ができるとともに、金剛三昧院および西南院伝来聖教・文書についての知識を習得している。
- (S) 古文書・古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業内で対応する。また、レポートについては、採点后に講評する。

## その他

本講義は、古文書・古典籍の原本・写本を扱うため、水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。学部生で本講義を履修することが可能であるのは、前年度までに「企画科目(古文書解説)」および「企画科目(歴史学)」のいずれかを受講し、単位を修得した人のみである。これ以外は許可しないので、登録にあたっては注意すること。原本を調査するので、筆記用具は鉛筆のみ(シャープペンシル不可)。

科目名	企画科目(古文書解読A)／古文書解読A							学期	後期
副題	『大日本史』編纂関係文書を読む				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-12-135	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

この講義では、近世の水戸藩における『大日本史』編纂に関する文書や史料を読む。本年度は、佐々宗淳が実施した史料採訪に関する報告書(『史館旧記』所収)を読むことで、古文書の解読能力を高めるとともに、近世の歴史学の発達についても学ぶ。なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

## 授業の到達目標

近世の古文書に関する読解能力を身につける。古文書を通して、『大日本史』の編纂過程を説明できるようになる。歴史研究の営みや史料批判について、基礎的な認識を得られるようになる。

## 授業計画

1. 古文書序説(古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など)
2. 河合正修『史館旧話』を読む①—徳川光圀と周囲の学者たち—
3. 河合正修『史館旧話』を読む②—徳川光圀と周囲の学者たち—
4. 「吉野山御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む①
5. 「吉野山御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む②
6. 「吉野山御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む③
7. 「吉野山御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む④
8. 「吉野山御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む⑤
9. 「熊野道中御馳走之覚」(『史館旧記』所収)を読む①
10. 「熊野道中御馳走之覚」(『史館旧記』所収)を読む①
11. 「熊野道中御馳走之覚」(『史館旧記』所収)を読む①
12. 「熊野道中御馳走之覚」(『史館旧記』所収)を読む①
13. 「熊野道中御馳走之覚」(『史館旧記』所収)を読む①
14. 高野山西南院の調査
15. 高野山西南院の調査

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に関する専門用語の意味を理解しておくこと(90分) 講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと(90分)

## テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993年) ※書店で購入。また、古文書の図版プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

①『日本国語大辞典 第2版』全13巻・別巻1巻(小学館、2000～2002年) ②佐藤進一『[新版] 古文書学入門』(法政大学出版局、1997年) ③久保田収『近世史学史論考』(皇學館大学出版部、1968年) ④但野正弘『新版 佐々介三郎宗淳』(錦正社、1988年)

## 学生に対する評価

授業中の参加態度(予習および発言、30%)、期末試験(70%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的なくずし字を解読できる。
- (B) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
- (A) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
- (S) 古文書の読解能力を習得するとともに、近世史学の歴史的意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

## その他

本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。(例年、類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意)。なお、本演習では、2回分の時間を史料調査にあてる予定である(土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する)。

科目名	宗教学 I / 世界の宗教(別)1							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	G1-03-136	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

宗教学の歴史と基礎的な理論を学ぶことによって、現代社会のさまざまな現象を宗教の観点から理解する姿勢を身につける。テキストと一緒に読む形で授業を進める。

## 授業の到達目標

19 世紀後半に生まれた宗教学の代表的な理論を説明できるようになる。現代における社会現象・文化現象を宗教の観点から解釈、分析できるようになる。

## 授業計画

1. ガイダンスの後、テキスト第 1 章「宗教学の立場と分野 1」を読む
2. テキスト第 1 章「宗教学の立場と分野 2」を読む
3. テキスト第 1 章「宗教学の立場と分野 3」を読む
4. テキスト第 2 章「宗教の原初形態 1」を読む
5. テキスト第 2 章「宗教の原初形態 2」を読む
6. テキスト第 3 章「科学・呪術・宗教 1」を読む
7. テキスト第 3 章「科学・呪術・宗教 2」を読む
8. テキスト第 3 章「科学・呪術・宗教 3」を読む
9. テキスト第 3 章「科学・呪術・宗教 4」を読む
10. テキスト第 3 章「科学・呪術・宗教 5」を読む
11. テキスト第 4 章「宗教の諸類型 1」を読む
12. テキスト第 4 章「宗教の諸類型 2」を読む
13. テキスト第 4 章「宗教の諸類型 3, 4」を読む
14. テキスト第 4 章「宗教の諸類型 5, 6」を読む
15. まとめと総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストの次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学修として、テキストとノートを読み直し、復習しておくこと (90 分)。

## テキスト

脇本平也『宗教学入門』講談社、1997 年

## 参考書・参考資料等

ジョージ・フレイザー『図説 金枝篇』(上)(下)、講談社、2011 年

## 学生に対する評価

発表 (50%)、期末レポート (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に読み解くことができる。
- (B) テキストを要約し、批判的に検討することができる。
- (A) 宗教学の代表的理論を説明することができる。
- (S) 社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

遅刻 3 回で 1 欠席と見なす。

科目名	宗教学Ⅱ／世界の宗教(別)2							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	G1-03-137	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

諸宗教の聖典と宗教学の名著（いずれも教員が抄出本を用意する）を読むことを通して、様々な宗教のあり方をより深く学んでゆく。映像資料を用いて、宗教現象を立体的に理解できるようにする。

### 授業の到達目標

各種の宗教思想について基礎的な知識を身につけることを通して、様々な宗教に関心と理解を持つことができる。

### 授業計画

1. ガイダンス、仏典を読む（1）初期経典『スッタニパータ』
2. 仏典を読む（2）初期経典『スッタニパータ』
3. 仏典を読む（3）初期経典『ダンマパダ』
4. 仏典を読む（4）大乘経典『般若心経』
5. 仏典を読む（5）大乘経典『法華経』
6. 仏典を読む（6）大乘経典『無量寿経』
7. 聖書を読む（1）旧約聖書
8. 聖書を読む（2）旧約聖書（続）
9. 聖書を読む（3）新約聖書 1
10. 聖書を読む（4）新約聖書 2
11. コーラン（クルアーン）を読む（1）
12. コーランを読む（2）
13. 宗教学の名著を読む フレイザー『金枝篇』
14. 宗教学の名著を読む フレイザー『金枝篇』（続）
15. まとめと総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90分）。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90分）。

### テキスト

授業中にコピーを適宜配布する。

### 参考書・参考資料等

島菌進『宗教学の名著30』筑摩書房、2008年

### 学生に対する評価

期末レポート（80%）、授業中の発言、発表（20%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に読み解くことができる。
- (B) 諸宗教の代表的教説を説明することができる。
- (A) 諸宗教を比較しながら、それぞれの特徴を説明できる。
- (S) 宗教とその文化に関心を持ち、その角度から社会・文化現象を分析できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

遅刻3回で1欠席に換算する。



科目名	宗教思想史 I A							学期	後期
副題	インドの宗教と思想				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	G1-03-138	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インドは東洋における思想・宗教の一大発現地である。この授業ではまず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相について学習する。

### 授業の到達目標

仏教を含むインドの宗教思想について、その歴史と特徴に関する基礎的な知識を養うと共に、現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深め、実生活に活かせるようになる。

### 授業計画

1. インドが発する人類の思想的課題—M. K. ガンディーの思想を手懸かりに
2. インドの歴史地理、インダス文明
3. ヴェーダ
4. ウパニシャッド
5. 自由思想家たちとブッダの出現
6. ブッダの生涯とその教え
7. 仏教の発展：大乘仏教と密教
8. 叙事詩①：『ラーマーヤナ』
9. 叙事詩②：『マハーバーラタ』
10. ヒンドゥー教の発展
11. 正統バラモン教哲学
12. ヒンドゥー教とイスラーム教
13. インドと日本
14. タゴール、アンベードカルの思想
15. ガンディー再び

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと (90分)。事後学修として、ノートを読み、必要事項を記憶すること (90分)。

### テキスト

特になし。

### 参考書・参考資料等

山下博司『ヒンドゥー教 インドという謎』講談社、2004年。授業中に適宜資料を配布する。

### 学生に対する評価

期末レポート (80%)、授業中の発言等 (20%)。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
- (B) インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
- (A) インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
- (S) インド宗教思想史に関して独自の知見を述べるができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

遅刻3回で1欠席に換算する。

科目名	宗教思想史ⅡA							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G1-03-139	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

宗教は、時代や社会のメンタリティを映し出す鏡である。本授業では、古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、歴史学の立場からその変遷を概観し、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、日本人の精神性のルーツを探求する。

## 授業の到達目標

①日本人のメンタリティの変化をたどることによって、それぞれの時代のムードを感じとることができる。②現在の日本人の心のあり様と、これからの日本人にとって宗教とはどうあるべきかについて、自分なりの考えを提示することができる。

## 授業計画

1. 宗教のはじまりをさぐるー人類はいつ「心」を持つようになったのかー
2. 日本人の基層信仰ー自然崇拜と八百万の神々ー
3. 仏教の伝来と受容ー僧尼令にみる国家と仏教ー
4. 大仏造立と神仏習合ー民衆への仏教のひろがりー
5. 「平安仏教」の成立ー「日本仏教」の成立ー
6. 来世への希求ー末法の到来ー
7. 現世をどう生きるかー憂世の克服ー
8. 東山文化の世界ー「わび・さび」の背景ー
9. 日本的伝統の源流ー総合と啓蒙の時代ー
10. 浮世へのまなざしー儒学による社会秩序の構築ー
11. 日本古典への回帰ー“復古”への潮流ー
12. 世直しの気運ー民衆宗教の勃興ー
13. 廃仏毀釈と文化財保護ー精神文化の喪失ー
14. 「総力戦体制」時代の宗教界ー「国家神道」体制の宗教ー
15. これからの日本人と宗教

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60分）

## テキスト

テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

## 参考書・参考資料等

①家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007年。初版1982年）②田尻祐一郎『江戸の思想史人物・方法・連環』（中公新書2097、2011年）③村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010年。初版1970年）。

## 学生に対する評価

期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本人のメンタリティの歴史的変遷について説明することができる。  
 (B) 日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。  
 (A) 日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の宗教に関する諸課題について論理的に述べるすることができる。  
 (S) 日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの日本人にとって、宗教がどうあるべきかを論理的に述べるすることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①仏像や絵画などの美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物である。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけること。講義でも、博物館・美術館などの展覧会について紹介する。②履修者は、博物館学芸員資格の取得を目指すことが望ましい。

科目名	宗教史 I / 宗教の歴史(別)1							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	G2-03-140	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ること、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、原始・古代における宗教の発生から、ギリシャ・ローマの宗教の歴史を踏まえつつ、キリスト教へとつながる宗教の歴史を概観する。

## 授業の到達目標

人類における宗教的営みの中で、古代の宗教やユダヤ教、キリスト教が歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。

## 授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 宗教の起源
3. 古代諸文明の宗教①ーメソポタミアの宗教ー
4. 古代諸文明の宗教②ー古代エジプトの宗教ー
5. ギリシャ・ローマの神話
6. ユダヤ教の歴史①ー天地創造からエジプト脱出ー
7. ユダヤ教の歴史②ー王国の成立ー
8. ユダヤ教の歴史③ーバビロン虜囚ー
9. キリスト教の歴史①ーイエス・キリストの生涯ー
10. キリスト教の歴史②ー使徒たちの活動ー
11. キリスト教の歴史③ーローマ帝国とキリスト教ー
12. キリスト教の歴史④ー東方教会・西方教会ー
13. キリスト教の歴史⑤ー十字軍・魔女裁判ー
14. キリスト教の歴史⑥ー宗教改革ー
15. 講義のまとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる（60分）

## テキスト

※プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

・『世界宗教史』I～III（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房） ・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21）※その他、授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

定期試験（50%）、授業時に課す小レポート（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教の歴史について大まかに理解している。  
 (B) 各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。  
 (A) 各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。  
 (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえて、自説を展開できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

## その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。

科目名	宗教史Ⅱ／宗教の歴史(別)2							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	G2-03-141	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、イスラム教の歴史、東アジアの宗教、さらには現代社会における新宗教の歴史を踏まえつつ、今日に続く宗教の歴史を概観する。

### 授業の到達目標

人類における宗教的営みの中で、イスラム教や東アジアの諸宗教、現代社会における新宗教が、歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。

### 授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. イスラム教の歴史①—ムハンマドの生涯—
3. イスラム教の歴史②—イスラム国家の誕生—
4. イスラム教の歴史③—イスラム各派の発生—
5. イスラム教の歴史④—復興主義と原理主義—
6. 東アジアの宗教①—儒教の誕生—
7. 東アジアの宗教②—儒教の展開—
8. 東アジアの宗教③—道教の成立—
9. 東アジアの宗教④—道教の神々—
10. 東アジアの宗教⑤—神道の世界—
11. 東アジアの宗教⑥—神道の変遷—
12. 現代社会と宗教①—世界の新宗教—
13. 現代社会と宗教②—日本の新宗教—
14. 現代社会と宗教③—スピリチュアリズムと現代社会—
15. 講義のまとめ定期試験

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる（60分）

### テキスト

※プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房） ・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21）※その他、授業中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

定期試験（50%）、授業時に課す小レポート（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教の歴史について大まかに理解している。  
 (B) 各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。  
 (A) 各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。  
 (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえて、自説を展開できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

### その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。

科目名	哲学							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G1-08-142	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

西洋哲学を主として、代表的な哲学者や思想を学ぶ。難解なものにも向き合う姿勢を身に付ける。知的な快楽「?」「!」を体験する。幸福とは何かについて考える。自分の人生、現実の問題解決に哲学を活用する。自ら哲学する。

## 授業の到達目標

知っていること、理解していること、分からないことを自覚できる。じっくりと考える習慣を身に付ける。論理的に考えることができる。自分の言葉で論理的に説明できる。

## 授業計画

1. 徳倫理学 「哲学」とは何か?
2. スコラ哲学 他者論
3. 科学哲学 和辻哲郎
4. フーコー レヴィナス
5. 医療倫理・生命倫理 アリストテレス
6. 京都学派 クィア・LGBT
7. フィヒテ 行為論
8. ハーマンとヘルダー メタ哲学
9. 子どもの哲学 ヘレニズム哲学
10. グローバル化とポスト・コロニアル 時間論
11. ウィトゲンシュタイン ヘーゲル
12. フロイトとユング ソフィストとソクラテス
13. デリダ シェリング
14. 到達度の確認
15. 後期到達度の総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

テキストを音読する。(10分) 分からない単語を調べる。(10分) 理解できないことを事前に書き出す。(10分) 質問事項を考える。(30分)

## テキスト

納富信留ほか『よくわかる哲学・思想』ミネルヴァ書房、2019年、2,400円+税 コピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

栗田賢三ほか『岩波 哲学小辞典』岩波書店 山本信『哲学の基礎』北樹出版 中島義道『哲学の教科書』講談社学術文庫

## 学生に対する評価

期末テスト(100%) 合格基準に達しない場合、授業中の質問事項メモを勘案する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる。
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
- (A) 講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
- (S) 講義の内容を理解し、内容の論理的な前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教学方法論							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G2-03-143	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

### 授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について信仰生活を中心に検討することを通して宗教学の方法を理解する。

### 授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗宗教を中心として、宗教学の方法を理解する。

### 授業計画

1. 高野文化圏の信仰生活について
2. 年中行事（1） 暦
3. 年中行事（2） 正月を中心として
4. 年中行事（3） 盆行事を中心として
5. 年中行事（4） 双分性
6. 社寺の行事（1） 寺院の行事
7. 社寺の行事（2） 神社の行事
8. 社寺の行事（3） 神仏習合
9. 人の一生（1） 出産・成長
10. 人の一生（2） 結婚
11. 人の一生（3） 葬送
12. 高野山をめぐる信仰（1） 修正会
13. 高野山をめぐる信仰（2） 盂蘭盆会
14. 高野山をめぐる信仰（3） 弘法大師信仰
15. 高野文化圏の信仰生活の特徴

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

### テキスト

プリントを配付する。

### 参考書・参考資料等

高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012.3 その他授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 民俗宗教の基本用語を説明できる。
- (B) 民俗宗教の事象を説明できる。
- (A) 民俗宗教の理論を自分の言葉で説明できる。
- (S) 現実の現象を民俗宗教の理論を使いながら説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起きているのかを確認しておくこと。・教職に関する授業であるので、教壇に立つことを意識しながら聞くこと。・授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	国語学 I							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	上田恭寿	
ナンバリング	G2-05-144	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらう。

## 授業の到達目標

言語としての日本語について基本的な理解を深める。

## 授業計画

1. 言語と人間二重分節性、言語の機能（1）
2. 言語と人間二重分節性、言語の機能（2）
3. 日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（1）
4. 日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（2）
5. 日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（1）
6. 日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（2）
7. 日本語の音声・音韻清濁、拗音（1）
8. 日本語の音声・音韻清濁、拗音（2）
9. 日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（1）
10. 日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（2）
11. 日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（1）
12. 日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（2）
13. 日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（1）
14. 日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（2）
15. 日本語の文字表記平仮名・片仮名、ローマ字

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で行った日本語学における要点の整理を行い、キーワードを覚える（30分）。

## テキスト

藤田保幸『緑の日本語学教本』、和泉書店、2010年（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

ジョージ・ユール『現代言語学20章－言葉の科学』、大修館書店、2000

## 学生に対する評価

都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
- (B) 言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
- (A) 言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
- (S) 課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の終わりに質問と意見を提出、次回の授業のはじめにコメントともにフィードバック。都度の課題に対して解を提示、不明点を説明。

## その他

授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国語学Ⅱ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	上田恭寿	
ナンバリング	G2-05-145	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらうようにする。

### 授業の到達目標

言語としての日本語について基本的な理解を深める。

### 授業計画

1. 日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（1）
2. 日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（2）
3. 日本語の語彙語種（和語・漢語・外来語）（1）
4. 日本語の語彙語種（和語・漢語・外来語）（2）
5. 日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（1）
6. 日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（2）
7. 本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（1）
8. 本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（2）
9. 日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（1）
10. 日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（2）
11. 日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言圏論（1）
12. 日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言圏論（2）
13. 日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（1）
14. 日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（2）
15. まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業での日本語学の要点を整理し、キーワードを覚える（30分）。

### テキスト

藤田保幸『緑の日本語学教本』、和泉書店、2010年（書店で購入）

### 参考書・参考資料等

ジョージ・ユール『現代言語学20章－言葉の科学』、大修館書店、2000

### 学生に対する評価

都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
- (B) 言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
- (A) 言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
- (S) 課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

### 課題に対するフィードバックの方法

都度の課題に対して解を提示、コメントとともにフィードバック。期末の試験に対して、解とコメントをフィードバック。

### その他

授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。



科目名	国文法 I						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-146	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

古文（および漢文）を正しく理解するためには、古典文法（文語文法）の知識は必須である。本講義では、古典文法の正しい知識を習得し、古典作品を読解できるようにすることを目指す。前期は主に、用言（述語になる品詞—動詞・形容詞・形容動詞）の活用とその種類、および助詞を中心に講義する。

### 授業の到達目標

古文（および漢文）を正しく解釈できるように、古典文法の正しい知識を得る。

### 授業計画

1. ガイダンス—なぜ古典文法を学ぶのか—
2. 文語文法と口語文法
3. 品詞の分類
4. 動詞の活用① 四段活用・上二段活用・下二段活用
5. 動詞の活用② 上一段活用・下一段活用
6. 動詞の活用③ 変格活用
7. 形容詞・形容動詞の活用・語幹用法
8. 用言の総合問題
9. 助詞① 格助詞
10. 助詞② 接続助詞
11. 助詞③ 副助詞
12. 助詞④ 係助詞・係り結び
13. 助詞⑤ 終助詞・間投助詞
14. 助詞の総合問題
15. まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の範囲の参考書を読み(60分)、事後学習として学習内容をまとめ、小テストに向けて準備しておくこと(復習90分)。

### テキスト

教員が作成した教材(プリント)を使用する。

### 参考書・参考資料等

高校で使用した「古典文法」の教科書・副読本(どこの出版社のものでも可)、古語辞典(電子辞書でも可)

### 学生に対する評価

定期試験(50%)、小テスト(25%)、講義への取り組み(25%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文法を学ぶ意義について理解し、基本的な文法事項の意味を理解している。
- (B) 用言の活用の種類についての基本的知識を習得している。
- (A) 用言の活用の種類・助詞についての基本的知識を習得している。
- (S) 用言の活用の種類・助詞についての基本的知識を習得し、読解に際して的確に運用することができている。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義後に質問を受け付け、複数回の小テストでは解説を施す。

### その他

受講者については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	国文法Ⅱ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-147	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

古文（および漢文）を正しく解釈するためには、古典文法（文語文法の知識は必須である。特に日本語は細かなニュアンスが助詞・助動詞に集中するため、助動詞の知識は大切である。本講義では、主に助動詞についての正しい理解を習得し、古典作品が読解できるようになることを目指す。また、古典では身分制が厳格なため、敬語についても基本的な事項の理解が必要となる。敬語を通して人物関係を理解し、より深く作品が読み取れるようになることを目指す。

## 授業の到達目標

助動詞の正しい知識と敬語の基本的な事項を理解する。

## 授業計画

1. ガイダンス—助動詞への招待—
2. 助動詞① 打消「ず」、過去「き」「けり」
3. 助動詞② 完了「つ」「ぬ」「たり」「り」
4. 助動詞③ 受身・尊敬・自発・可能「る」「らる」、使役・尊敬「す」「さす」「しむ」
5. 助動詞④ 意志・推量「む」、現在推量「らむ」、過去推量「けむ」、打消意志・打消推量「じ」
6. 助動詞⑤ 意志・推量など「べし」、打消意志・打消推量など「まじ」
7. 助動詞⑥ 願望「まほし」「たし」、推定「らし」「めり」、反実仮想「まし」
8. 助動詞⑦ 断定「なり」「たり」、伝聞・推定「なり」、比況「ごとし」
9. 助動詞の総合問題
10. 敬語① 敬語の種類と基礎
11. 敬語② 敬意の方向・主体と対象
12. 敬語③ まぎらわしい敬語「給ふ」「奉る」「聞こゆ」
13. 敬語の総合問題
14. まぎらわしい語の識別
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考書を読み(60分)、事後学修として学習内容をまとめ、小テストに向けて準備しておくこと(90分)。

## テキスト

教員が作成した教材(プリント)を配布する。

## 参考書・参考資料等

高校で使用した「古典文法」の教科書・副読本(どこの出版社のものでも可)、古語辞典(電子辞書でも可)

## 学生に対する評価

定期試験(50%)、小テスト(25%)、講義への取り組み(25%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 助動詞についての基本的知識を習得している。
- (B) 助動詞と敬語についての基本的知識を習得している。
- (A) 助動詞と敬語についての基本的知識を習得し、まぎらわしい語の識別ができています。
- (S) 文語文法の基本的知識を習得し、読解に際して的確に運用することができています。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の後に質問を受け付け、複数回の小テストでは解説を施す。

## その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説 I							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-148	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

上代（奈良時代）から中古（平安時代）、さらに中世（鎌倉時代）前期までの日本文学史を概説する。文学史の知識を学ぶだけでなく、可能な限り作品の一部を取り上げて読むことを通して、作品の成立した時代背景などを関わらせながら、広い視野で文学を考える態度を養う。

## 授業の到達目標

上代から中世までの文学の歴史を理解するとともに、時代背景などを踏まえて文学を考える態度を身につける。

## 授業計画

1. ガイダンス／上代① 概説（文学の発生・文字の伝来）
2. 上代② 祭祀・神話・地誌（古事記・日本書紀・風土記・祝詞）
3. 上代③ 古代歌謡・万葉集1（第Ⅰ・Ⅱ期）
4. 上代④ 万葉集2（第Ⅲ・Ⅳ期）
5. 中古① 概説（漢詩文・仮名の誕生）
6. 中古② 和歌（三代集）
7. 中古③ 日記・随筆（土左日記・蜻蛉日記・和泉式部日記・枕草子ほか）
8. 中古④ 物語1（前期物語）
9. 中古⑤ 物語2（源氏物語）
10. 中古⑥ 院政期—概説・和歌（後拾遺集・金葉集・詞花集・歌学と歌合）
11. 中古⑦ 院政期—説話（今昔物語集）・歌謡（梁塵秘抄）
12. 中古⑧ 院政期—物語（後期物語・歴史物語）
13. 中世① 概説・和歌1（千載集・新古今集・新勅撰集）
14. 中世② 和歌2（十三代集・連歌・歌謡）
15. 中世③ 日記・紀行（十六夜日記・うたたね・海道記ほか）／前期まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書で調べ（60分）、事後学修として学習内容をまとめ、テストやレポートに向けて準備しておくこと（90分）。

## テキスト

教員が作成した教材（プリント）を配布する。

## 参考書・参考資料等

秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史』（文英堂、2000年） その他、講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

毎回のコメントカード（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学史の基礎的な知識を理解している。
- (B) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解している。
- (A) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解し、読解に活用することができる。
- (S) 日本文学史の基礎的な知識と作品の内容を、その作品が成立した時代背景との関わりから考えることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。また小テストについては解説を施す。

## その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅱ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-149	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

中世後期（鎌倉・室町時代）から近世（江戸時代）、さらに近現代（明治～戦後）までの日本文学史を概説する。文学史の知識を学ぶだけでなく、可能な限り作品の一部を取り上げて読むことを通して、作品の成立した時代背景などを関わらせながら、広い視野で文学を考える態度を養う。

## 授業の到達目標

中世から近現代までの文学の歴史を理解するとともに、時代背景などを踏まえて文学を考える態度を身につける。

## 授業計画

1. ガイダンス／中世④ 随筆（方丈記・徒然草）
2. 中世⑤ 軍記・史論（平家物語・太平記・神皇正統記・梅松論ほか）
3. 中世⑥ 物語（中世王朝物語）・説話（宇治拾遺物語ほか）・御伽草子
4. 中世⑦ 能・狂言・宗教文学（仮名法語・五山文学・キリシタン文学）
5. 近世① 概説（時代区分・出版文化）・仮名草子（浅井了意）
6. 近世② 浮世草子（井原西鶴）
7. 近世③ 和歌・俳諧1（貞門・談林）
8. 近世④ 俳諧2（蕉風）・川柳・狂歌
9. 近世⑤ 浄瑠璃・歌舞伎・芸能
10. 近世⑥ 読本（前期—上田秋成・後期—一曲亭馬琴）
11. 近世⑦ 洒落本・滑稽本・黄表紙・合巻・人情本ほか
12. 近代① 幕末～明治中期（開化文学・写実主義・浪漫主義・自然主義）
13. 近代② 明治後期～大正（夏目漱石・森鷗外・耽美派・白樺派・新思潮派）
14. 近代③ 昭和前期（新感覚派・プロレタリア文学・戦時下文学）
15. 近代④ 戦後（無頼派・第三の新人・内向の世代）／後期まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書で調べ（60分）、事後学修として学習内容をまとめ、テストやレポートに向けて準備しておくこと（90分）。

## テキスト

教員が作成した教材（プリント）を配布する。

## 参考書・参考資料等

秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史』（文英堂、2000年） その他、講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

毎回のコメントカード（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学史の基礎的な知識を理解している。
- (B) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解している。
- (A) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解し、読解に活用することができる。
- (S) 日本文学史の基礎的な知識と作品の内容を、その作品が成立した時代背景との関わりから考えることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。また小テストについては解説を施す。

## その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学Ⅰ							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-150	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。前期は主に上代・中古の文学を取り上げる。

### 授業の到達目標

日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス／「日本 - 文学」とは何か
2. 日本文学を学ぶために一時代区分・ジャンルー
3. 文学を伝える「かたち」
4. 「本」のすがた
5. 神話の世界
6. 古代歌謡と『万葉集』
7. 王朝和歌と平安貴族の生活
8. 「日記」と文学
9. 「物語」の誕生
10. 女房文学の時代
11. 『源氏物語』の世界①
12. 『源氏物語』の世界②
13. 説話の世界
14. 院政期の文学
15. 「中世」の始発／前期まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み (60分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと (90分)。

### テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

### 参考書・参考資料等

高校で使用した「国語便覧」(どの出版社のものでも可)、秋山虔ほか編『日本古典読本』(筑摩書房、1988年) その他、講義中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

毎回のコメントカード (50%)、レポート (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の作品を覚えている。
- (B) 他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べることができている。
- (A) 日本文学の特徴を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- (S) 日本文学について、問題意識を持って論じることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

### その他

講義に関する疑問などは、コメントカードを活用してほしい。3分の1(5回)以上欠席した場合、評価しない。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学Ⅱ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-151	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。後期は主に中世・近世の文学を取り上げる。

### 授業の到達目標

日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス／前期のふり返り
2. 中世和歌の世界
3. 戦乱の時代と軍記物語
4. 『方丈記』と『徒然草』
5. 中世の芸能
6. 文学と宗教
7. 出版の登場と文学
8. 町人の文化と文学
9. 芭蕉の世界
10. 国学者たちの活動
11. 上田秋成と曲亭馬琴
12. 近代化する社会と文学
13. 古典文学と近現代文学①
14. 古典文学と近現代文学②
15. まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み (60分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと (90分)。

### テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

### 参考書・参考資料等

高校で使用した「国語便覧」(どの出版社のものでも可)、秋山虔ほか編『日本古典読本』(筑摩書房、1988年) その他、講義中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

毎回のコメントカード (50%)、レポート (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の作品を覚えている。
- (B) 他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べるができている。
- (A) 日本文学の特徴を、自分の言葉で表現できている。
- (S) 日本文学について、問題意識を持って論じることができている。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

### その他

講義に関する疑問などはコメントカードを活用してほしい。3分の1(5回)以上欠席した場合、評価しない。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学概論Ⅰ							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-152	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

古典文学の中心は和歌であった。和歌は「五・七・五・七・七」の三十一音を基本としており、そのなかにさまざまな世界を凝縮して表現した文芸形態である。そうした和歌の読み方を、『百人一首』を通して学ぶ。秀歌撰（和歌のアンソロジー）である『百人一首』は、カルタとしても親しまれており、和歌を学ぶにはふさわしい題材である。講義では、『百人一首』を数首ずつ取り上げ、その歌人の生涯や表現・技法、詠作時の状況などを考察し、日本文学における和歌の世界を理解する。

## 授業の到達目標

『百人一首』を通して日本文学を知り、特に和歌（韻文）の特徴を説明できるようになる。文学研究の基本的な姿勢と方法を身につける。

## 授業計画

1. ガイダンス／『百人一首』とは何か
2. 『百人一首』の成立と享受
3. 「和歌」とはどのような文学か
4. 古典和歌の読み方
5. 『百人一首』を読む①（奈良時代の和歌）
6. 『百人一首』を読む②（天皇の和歌）
7. 『百人一首』を読む③（六歌仙の和歌）
8. 『百人一首』を読む④（平安時代前期の和歌）
9. 『百人一首』を読む⑤（女房歌人の和歌）
10. 『百人一首』を読む⑥（僧侶歌人の和歌）
11. 『百人一首』を読む⑦（院政期の和歌）
12. 『百人一首』を読む⑧（平安末期・鎌倉時代の和歌）
13. 『百人一首』を読む⑨（敗者たちの和歌）
14. 『百人一首』や和歌の論じ方
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の和歌について参考書で調べ（60分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90分）。

## テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

## 参考書・参考資料等

谷知子『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 百人一首（全）』（角川ソフィア文庫、2010年）、谷知子『百人一首解剖図鑑』（エクスナレッジ、2020年）その他、講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 和歌の基本知識を理解し、『百人一首』の和歌について解釈することができている。
- (B) 『百人一首』の和歌について理解し、その歌人や表現、配列についても論じることができている。
- (A) 『百人一首』の和歌について理解し、成立や享受についても論じることができている。
- (S) 『百人一首』を通して、問題意識を持って和歌を論じることができている。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

## その他

講義に関する疑問などは、コメントカードを活用してほしい。3分の1（5回）以上欠席した場合、成績は評価しない。私語厳禁。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学概論Ⅱ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-153	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

『竹取物語』は、昔話「かぐや姫」の物語として広く人口に膾炙しているが、細かなことは意外と知られていない。講義では、五人の貴公子による求婚譚、それに対する難題譚、帝との対面を経て昇天するかぐや姫の物語を、古典の原文で読み通す。それを通して、日本文学における散文の特徴を理解する。

### 授業の到達目標

『竹取物語』を通して、日本文学、特に散文の特徴を説明できるようになる。文学研究の基本的な姿勢や方法を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 『竹取物語』概説①（成立・時代背景）
3. 『竹取物語』概説②（構成・文学史）
4. 『竹取物語』を読む①（竹取の翁とかぐや姫）
5. 『竹取物語』を読む②（かぐや姫と求婚者たち）
6. 『竹取物語』を読む③（難題1 仏の御石の鉢）
7. 『竹取物語』を読む④（難題2 蓬萊の玉の枝）
8. 『竹取物語』を読む⑤（難題3 火鼠の皮衣）
9. 『竹取物語』を読む⑥（難題4 竜の首の珠）
10. 『竹取物語』を読む⑦（難題5 燕の子安貝）
11. 『竹取物語』を読む⑧（帝との対面）
12. 『竹取物語』を読む⑨（かぐや姫の悲嘆）
13. 『竹取物語』を読む⑩（かぐや姫の昇天）
14. 『竹取物語』の享受と展開
15. まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲について参考書を読んで理解し（60分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90分）。

### テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

### 参考書・参考資料等

角川書店編『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 竹取物語（全）』（角川ソフィア文庫、2001年） その他、講義中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『竹取物語』の内容を理解している。
- (B) 『竹取物語』の内容を理解し、その表現や特徴について論じることができている。
- (A) 『竹取物語』の内容を理解し、作品世界や後世への影響について論じることができている。
- (S) 『竹取物語』の内容を理解し、問題意識を持って作品を論じることができている。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

### その他

講義に関する疑問などは、コメントカードを活用してほしい。3分の1（5回）以上欠席した場合、成績は評価しない。私語厳禁。積極的な姿勢を望む。



科目名	漢文学概論 I							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-04-154	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

志怪・伝奇小説の流れを汲む『聊齋志異』を読む。和訳を参照しながら、句読点の付いた漢文を訓読する。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。登場人物の行動・心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

### 授業の到達目標

漢文で書かれた散文作品を読み、国語教員としての能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢文の文体・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用法・説明する力など。

### 授業計画

- 江中 (1) 「王聖愈……」を読む。
- 江中 (2) 「既寝……」を読む。
- 江中 (3) 「忽聞舟頂……」を読む。
- 江中 (4) 「慮為盜……」を読む。
- 江中 (5) 「童亦聞之……」を読む。
- 江中 (6) 「問答問……」を読む。
- 江中 (7) 「大愕……」を読む。
- 江中 (8) 「告以所見……」を読む。
- 江中 (9) 「或疑錯誤……」を読む。
- 江中 (10) 「俄響声……」を読む。
- 江中 (11) 「羣起四顧……」を読む。
- 江中 (12) 「衆坐舟中……」を読む。
- 江中 (13) 「旋見青火……」を読む。
- 到達度の確認
- 前期到達度の総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

テキストの該当箇所を訓読できるように予習する (60分)。文章の背景にある歴史や文化について調べる (30分)。

### テキスト

コピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』(角川書店)、あるいは『漢語林』(大修館書店)を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

### 学生に対する評価

毎回、小テストを実施する。小テストの点数を100点満点に換算したものと、期末試験とで、得点の高い方を評点とする。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文法に基づいて、文章の分析ができる。
- (B) 漢文法に基づいて、返り点を付けることができる。
- (A) 漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
- (S) 漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○小テストについては、次の講義で解説をする。 ○オフィス・アワーでも対応する。

### その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。小テストは、回数を経ごとに配点比率を高くする。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文学概論Ⅱ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-04-155	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

『唐詩選』を読み、近体詩の特徴を知る。注釈を読むことにより、訓読・読解・鑑賞の訓練をする。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。作者の行動や心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

## 授業の到達目標

漢詩を読み、国語教員としての能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢詩の特徴・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用法・説明する力など。

## 授業計画

- 漢詩の基本
- 漢詩の基本
- 「宿瑩公禪房聞梵」(1)「花宮仙梵遠微微」を読む
- 「宿瑩公禪房聞梵」(2)「月隱高城鐘漏稀」を読む
- 「宿瑩公禪房聞梵」(3)「夜動霜林驚落葉」を読む
- 「宿瑩公禪房聞梵」(4)「曉聞天籟發清機」を読む
- 「宿瑩公禪房聞梵」(5)「蕭條已入寒空靜」を読む
- 「宿瑩公禪房聞梵」(6)「颯沓仍隨秋雨飛」を読む
- 「宿瑩公禪房聞梵」(7)「始覺浮生無住著」を読む
- 「宿瑩公禪房聞梵」(8)「頓令心地欲帰依」を読む
- 「贈盧五旧居」(1)「物在人亡無見期」を読む
- 「贈盧五旧居」(2)「間庭繫馬不勝悲」を読む
- 「贈盧五旧居」(3)「窗前綠竹生空地」を読む
- 到達度の確認
- 後期到達度の総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

テキストの該当箇所を訓読できるように予習する(60分)。文章の背景にある歴史や文化について調べる(30分)。

## テキスト

コピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』(角川書店)、あるいは『漢語林』(大修館書店)を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

## 学生に対する評価

毎回、小テストを実施する。小テストの点数を100点満点に換算したものと、期末試験とで、得点の高い方を評点とする。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢詩の規範を理解し、漢文法に基づいて、文章を分析することができる。
- (B) 漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
- (A) 漢文を逐語訳することができる。
- (S) 漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○小テストについては、次の講義で解説をする。 ○オフィス・アワーでも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。小テストは、回数を経ごとに配点比率を高くする。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化特殊講義A							学期	後期
副題	『信生法師集』(紀行部)を読む				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-04-156	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

鎌倉時代に成立した『信生法師集』の前半部（紀行部）を読む。信生は、俗名を塩谷（宇都宮）朝業といい、鎌倉幕府の有力御家人の家に生まれ、将軍源実朝に寵臣として仕えた人物である。実朝の死後、主君に殉じるように出家した信生は、仏教者としても活動を行っている。その家集『信生法師集』の前半は、作者が京から鎌倉へ下向した旅を中心とした紀行文的な作品になっている。講義では、『信生法師集』の読解を通して、和歌を中心とした古典文学の読み方や、紀行文の表現の特徴、そして古典常識などを学ぶ。

## 授業の到達目標

『信生法師集』の内容、和歌や紀行文の特徴、古典常識などを説明することができるようになる。

## 授業計画

1. ガイダンス
2. 『信生法師集』 概説①—信生法師について—
3. 『信生法師集』 概説②—「日記」と「歌集」のあいだ—
4. 『信生法師集』を読む①—1番・2番—
5. 『信生法師集』を読む②—3番・4番—
6. 『信生法師集』を読む③—5番—
7. 『信生法師集』を読む④—6番～9番—
8. 『信生法師集』を読む⑤—10番～14番—
9. 『信生法師集』を読む⑥—15番～18番—
10. 『信生法師集』を読む⑦—19番～21番—
11. 『信生法師集』を読む⑧—22番～27番—
12. 『信生法師集』を読む⑨—28番～33番—
13. 『信生法師集』を読む⑩—34番～40段—
14. 『信生法師集』を読む⑪—41番～46番—
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み（60分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90分）。

## テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

## 参考書・参考資料等

長崎健・外村南都子ほか『中世日記紀行集』（新編日本古典文学全集、小学館、1994年） その他、講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『信生法師集』の内容を理解している。
- (B) 紀行文における和歌や引用の機能について理解している。
- (A) 『信生法師集』の内容や解釈について、自身の意見を述べる事ができている。
- (S) 『信生法師集』について、問題意識を持って論じることができている。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

## その他

大学院開講科目「仏教学講読A」と合同科目。 国語の教員免許取得を目指す学生・日本文学で卒業論文を書くことを目指す学生は受講することが望ましい。 私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文化特殊講義C							学期	後期	
副題	「慈円と『愚管抄』」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎		
ナンバリング	G3-12-157	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2		単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

鎌倉時代の天台座主・慈円（1155～1225）が著した『愚管抄』は、日本の中世を代表する歴史書として知られている。本講義では、院政期から鎌倉期に至る政治過程を見据えつつ、慈円の生涯と『愚管抄』の成立をめぐる諸問題について考察する。あわせて、慈円の著作の読解を通して、その歴史思想・宗教思想にも論及したい。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

## 授業の到達目標

院政期から鎌倉前期にかけての政治過程と、慈円との関係を理解できるようになる。『愚管抄』を通して、承久の乱の歴史的意義を考える視座をつちかう。慈円の願文類・消息の持つ史料価値について、学問的に理解できるようになる。

## 授業計画

1. 慈円の概要
2. 幼少期・青年期の慈円とその修行
3. 慈円と治承・寿永の内乱
4. 九条兼実・慈円と源頼朝
5. 九条家の沈淪と慈円
6. 後鳥羽院と慈円
7. 三寅の関東下向と慈円—『道理』の執筆をめぐる—
8. 『愚管抄』の執筆と承久の乱
9. 慈円の晩年
10. 死後の慈円
11. 『愚管抄』の特徴と意義
12. 『愚管抄』における聞き取り
13. 『愚管抄』を読む①—合戦記事に見る迫真性その1—
14. 『愚管抄』を読む②—合戦記事に見る迫真性その2—
15. 高野山大学図書館における貴重書（密教聖教）の閲覧

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考書・関係論文を毎回読み、慈円・『愚管抄』に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分）講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80分）

## テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

## 参考書・参考資料等

多賀宗集『慈円』（吉川弘文館、1959年） 多賀宗集『慈円の研究』（吉川弘文館、1980年） 大隅和雄『愚管抄を読む』（講談社学術文庫、1999年） 大隅和雄『愚管抄 全現代語訳』（講談社学術文庫、2012年） 坂口太郎『『愚管抄』成立の歴史的前提』（元木泰雄編『日本中世の政治と制度』吉川弘文館、2020年）

## 学生に対する評価

レポート（100%）※4000字以上

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 慈円と『愚管抄』に関する基礎的事項を理解している。
- (B) 慈円と『愚管抄』について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
- (A) 慈円と『愚管抄』について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
- (S) 本講義の内容を踏まえて、慈円と『愚管抄』について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点後に講評する。

## その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。受講者は、企画科目の「歴史学」を履修していなければ、講義内容の理解がおぼつかないため、同科目を前年度までに必ず履修しておくこと。

科目名	中国文化講読演習A							学期	後期	
副題	漢字学の原点『説文解字』を読む				授業方法	講義	担当者	野田悟		
ナンバリング	G3-26-158	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2		単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

〔漢〕許慎『説文解字』は文字を系統的に分析し、字源の考察をした最古の文字学の専門書である。特に許慎『説文解字』とその背景、またその部首の基礎的知識の修得。『説文解字』を講読することにより、中国哲学を理解するきっかけにし、空海『篆隸万象名義』や顧野王『玉篇』の漢字思想に辿りつくことを目的とする。・『説文解字』以前の古代文字と触れることにより、許慎の間違いを指摘する。

## 授業の到達目標

1、『説文解字』を学ぶことにより古代文字の基礎知識を修得し、その内容（漢文）の講読力を向上させる。2、東洋文化の根幹である漢字に興味を持ち、中国文化へ目を向ける第一歩とすることを到達目標とする。3、説文の研究において、異体字及び漢字の正・通・俗を理解する。4、表意文字としての漢字理解を通して、密教研究につなげることを到達目標とする。

## 授業計画

1. 表意文字と表音文字及び漢字の特徴
2. 『説文解字』の背景とその関連書①〔許慎の人物像を探る〕
3. 『説文解字』の背景とその関連書②〔二徐本や『段注』との比較により、原本を探る〕
4. 部首と重文について
5. 「六書」について①〔象形・指事・会意〕
6. 「六書」について②〔形声・転注・仮借〕
7. 説文部首第一巻の部目を読む①〔一～示〕
8. 説文部首第一巻の部目を読む②〔三～玉〕
9. 説文部首第一巻の部目を読む③〔珎～士〕
10. 説文部首第一巻の部目を読む④〔丨～艸〕
11. 説文部首第一巻の部目を読む⑤〔萇～躡〕
12. 説文部首第二巻の部目を読む①〔小～半〕
13. 説文部首第二巻の部目を読む②〔牛～口〕
14. 説文部首第二巻の部目を読む③〔凵～走〕
15. 先行研究の問題点を列挙し、甲骨文・金文とを比較する。

## 準備学習(予習・復習)・時間

担当する部目文字について調べて纏め、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。(60分) その他、別途授業中に個々に指示する。(60分)

## テキスト

・〔漢〕許慎『説文解字』中華書局、中国書店または江蘇古籍出版社（個々に東方書店にて購入）<http://www.toho-shoten.co.jp/>

## 参考書・参考資料等

・『字通』（平凡社）・『説文新義』（平凡社）・『漢字学』（東海大学出版会）・『訓読説文解字注』（東海大学出版会）・『王福庵説文部首目』（西冷印社）・その他必要に応じてプリントを配る。

## 学生に対する評価

・基本的に期末テスト（60%）＋それぞれの発表及び提出物（40%）での評価をする。（素点）・毎回の発表を10点満点で計算する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) それぞれの漢字を『説文解字』により、自発的に調べ上げることができる。
- (B) それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、原文の内容を理解する。
- (A) それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、自分の研究と先人の見識の違いを発表できる。
- (S) 毛筆にて、課題の小篆作品を高いレベルで作り上げることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・指定された時間に、教壇にて発表する。講義15回目に定期試験の総評を行い、過去に問題のあった箇所を再度討論する。

## その他

・「六書」及び本文の内容に入ったら、毎回個々に課題が課され、次週に発表をして頂く形式をとる。・受講者の人数等により、進度が大きく変わることが予想される。・『新字源』（角川書店）、『新撰漢和辞典』（小学館）、『全訳漢辞海』（三省堂）、『漢字源』（学研）、『漢語林』、『漢語新辞典』（大修館）のうち、どれか一冊を必ず持参すること。版は問わないが、できるだけ新しいものがよい。（電子辞典を持ってもかまわないが、必ず紙媒体の辞典も持参すること）。※全体的な能力や達成度を見て、変更あり。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

芸術系大学院教員及び研究者として経験を持つ教員が、漢字の歴史と他分野への関連性について知識を提供し、指導する。

科目名	日本国憲法						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	竹村和也	
ナンバリング	G1-09-159	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

憲法は国の基本的なあり方を定めた法であり、また守るべき理念や価値を定めた法である。憲法を具体的に実現するものが法律であり、法律は大きく私法と公法に分かれる。本講義では憲法を念頭に置きながら、この私法と公法の概略について学ぶ。具体的には、財産権との関連において、私法の中の一般法である民法の財産法、平等権との関連において家族法をまず取り上げ、その後、刑事人権との関連において、公法の中の刑事法を扱う予定。

## 授業の到達目標

民事法と刑事法についての基本的な知識を獲得し、対象となる諸制度について批判的な思考ができるようになる。

## 授業計画

1. イントロダクション（法の体系と憲法の特質及び財産権）
2. 財産権と私法①（物権）
3. 財産権と私法②（契約）
4. 財産権と私法③（消費者契約）
5. 財産権と私法④（不法行為）
6. 平等権と家族①（家族法）
7. 平等権と家族②（家族法）
8. 刑事司法の過程と身体的自由権①（捜査の手続き）
9. 刑事司法の過程と身体的自由権②（憲法における被疑者の権利）
10. 刑事司法の過程と身体的自由権③（裁判の手続き）
11. 刑事司法の過程と身体的自由権④（憲法における被告人の権利）
12. 国民の司法参加①（陪審制度・参審制度）
13. 国民の司法参加②（裁判員制度）
14. 犯罪被害者の権利と立憲主義
15. 中間評価

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業時に配布する印刷物（テキスト）を熟読すること（所要予定時間は60分）、また授業で指示するテーマについて資料を読み、レポートにまとめること（所要予定時間は180分）

## テキスト

特に定めない。授業ではパワーポイントを用いるが、そのスライドを配布する。また、授業で参考となる印刷物を配布することもある。

## 参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（晃洋書房、第5版、2018年）、青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013年）、鎌野邦樹『不動産の法律知識 第2版』（日本経済新聞出版社、2017年）、今村核『冤罪と裁判』（講談社現代新書、2012年）

## 学生に対する評価

定期試験により（80%）授業中のミニッツ・ペーパーや小テスト、授業への積極的な参加により（20%）（昨年度は、学期途中で前半の試験、学期末に後半の試験と、2度の試験を実施しています。）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) それなりの努力が読み取れる答案
- (B) 内容を概ね理解したと思われる答案
- (A) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている答案
- (S) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されているとともに、批判的な検討が行われている場合

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

社会的に注目される新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱いますし、進度により適宜変更の可能性はありますから、あくまで目安。受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要です。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではありません。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合があります。

科目名	漢字Ⅱ							学期	通年
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-06-160	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

臨書中心の実技の授業であり、楷書体、行書体、草書体などの書体の表現方法を修得する。臨書作品を授業中に添削し、参考に指導者が目の前で書いて指導する。授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達はしない。自宅でも筆を持つよう心がけて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。

## 授業の到達目標

【前期】前期は書体を楷書体、行書体に限定し、その中から一つの法帖を自分で選択し、実習する。その法帖の形、線の特徴をつかみ、実際に上手に表現できるように努める。【後期】上記2書体に草書体を加えた書体から法帖を一冊選び、その法帖の形、線などの特徴が、実際に表現できるように努める。

## 授業計画

### 【前期】

1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2. 法帖の臨書
3. 法帖の臨書
4. 法帖の臨書
5. 法帖の臨書
6. 法帖の臨書
7. 法帖の臨書
8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9. 法帖の臨書
10. 法帖の臨書
11. 法帖の臨書
12. 法帖の臨書
13. 法帖の臨書
14. 法帖の臨書
15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

### 【後期】

1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2. 法帖の臨書
3. 法帖の臨書
4. 法帖の臨書
5. 法帖の臨書
6. 法帖の臨書
7. 法帖の臨書
8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9. 法帖の臨書
10. 法帖の臨書
11. 法帖の臨書
12. 法帖の臨書
13. 法帖の臨書
14. 法帖の臨書
15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

## 準備学習(予習・復習)・時間

自分が選んだ法帖の特徴や筆者について基礎的な知識を予習すること（計90分以上）。

## テキスト

各自が二玄社あるいは別の法帖から1冊選ぶ。

## 参考書・参考資料等

二玄社の法帖類

## 学生に対する評価

2回のレポート（50%）、授業態度（50%）などで評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨書している法帖の形と基本的な筆使いが一応できているか
- (B) 線がしっかり書けていて半紙にうまくまとまっているか
- (A) 形や余白につりあいがとれ、生き生きした臨書ができているか
- (S) 形というに及ばず、臨書作品に味わいがあるかどうか

## 課題に対するフィードバックの方法

個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。

## その他

基本漢字Ⅰと同じであり熟読の事、また受講生はその単位取得者に限る。毎回の課題は、反切～全紙サイズの作品提出を課す。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が添削しながら上達させることを目的とする。

科目名	かなⅡ						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	G2-06-161	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

【前期】かなⅠおよびそれと同程度のかな経験者を対象に、かなの技術・知識のより上達をめざす。ちらし書きの名品としての古筆「三色紙」を鑑賞し臨書する。【後期】「三色紙」の中から選択した古筆を繰り返し臨書し、ちらし法を研究し理解する。さらに古筆をもとに臨書から倣書へと発展させ、作品に仕上げる。かなⅠで取り上げた「高野切第一種」「高野切第二種」「高野切第三種」かなⅡでの「三色紙」以外にもさまざまな古筆があることを理解し臨書できるようになる。

## 授業の到達目標

【前期】かなⅠの基本の上に「三色紙」の書風を理解し用筆や運筆の技術を身につける。【後期】各自が選んだ古筆を臨書することにより古筆の書風について理解を深め、繰り返し書くことで、各文字の形や用筆運筆法を身に付けていく。連綿の特徴を読み取りながら、全体としての散らし書きも理解し表現していく。運筆法・紙面へのおさめ方、空間処理を理解し、自己表現の作品制作力を身につける。

## 授業計画

### 【前期】

1. 講義目標、概要の解説、用具用材などの説明を聞く。
2. 三色紙の解説を聞く。(由来・料紙と体裁・書風・構成)
3. 「寸松庵色紙」単体文字、連綿を理解し書く。
4. 「寸松庵色紙」1 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
5. 「寸松庵色紙」2 課題短歌の解説及び料紙解説を聞き、内容を理解し臨書する。
6. 「寸松庵色紙」3 課題短歌の解説、古筆名由来解説を聞き、内容を理解し臨書する。
7. 「寸松庵色紙」4 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
8. 「寸松庵色紙」5 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
9. 「寸松庵色紙」6 これまでの課題提出する。
10. 「継色紙」単体文字、連綿の解説を聞き、内容を理解し書く。
11. 「継色紙」1 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
12. 「継色紙」2 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
13. 「継色紙」3 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
14. 「継色紙」4 「継色紙」の課題提出
15. 「升色紙」1 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。

### 【後期】

1. 「升色紙」2 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
2. 「三色紙」の中から各自の古筆を決定し、臨書する。
3. 選んだ古筆を臨書する。1・2枚目
4. 選んだ古筆を臨書する。3・4枚目
5. 選んだ古筆を臨書する。5・6枚目
6. 選んだ古筆を臨書する。7・8枚目
7. 選んだ古筆を臨書する。9・10枚目
8. 選んだ古筆を臨書する。11・12枚目
9. 選んだ古筆を臨書する。13・14枚目
10. 選んだ古筆を臨書する。15・16枚目
11. 課題を提出する。講評する。
12. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。1枚目
13. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。2枚目
14. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。3枚目
15. 1年間のまとめと総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる(120分) 事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60分)

## テキスト

「日本名筆選 12 寸松庵色紙」 二玄社 「日本名筆選 13 継色紙」 二玄社

## 参考書・参考資料等

「かな古典の学び方 2 寸松庵色紙・継色紙」二玄社 編者 日比野実 「墨ニュークラシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社 2010年発行

## 学生に対する評価

授業提出課題(70%) 授業への主体的な取り組み姿勢(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な筆使いと形が表現できる。  
 (B) 「ちらし書き」の行の流れがうまく表現できる。  
 (A) 基本的な筆法で、墨の扱いを忠実に表現するとともに、「ちらし書き」行の流れも確実に臨書できる。  
 (S) 古筆をもとに自分で高いレベルの「ちらし書き」の制作ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

## その他

・かなⅠを履修済であること。変体仮名が理解できていること。・書道具一式、古筆臨書用紙は各自で購入のこと。(最初の授業で説明する。)・20分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻2回で欠席1回とする。・前期欠席が5回になった時点で成績は出ない。・授業中のスマホ使用禁止。・優秀な提出作品は2月の高野山大学学外書道展に出品する可能性がある。その場合、表装代は各自の負担とする。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。



科目名	篆刻						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-06-162	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

・「印従書出」、「印外出印」の篆刻理論を出発点に東洋史における印章の重要性を認識する。・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。前半は書の線條の追及として漢字 I で学んだ小篆を復習する。・国内の他大学にはない中国伝統的書学教育を前提とした篆刻指導を行う。・篆刻を学ぶ上で碑学の基本を体現する。

## 授業の到達目標

1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識及び古代文献に捺印されている印文の解釈に興味を持つ。2、東洋文化における印章の歴史的重要性及び毛筆との関連性の理解。3、各時代に沿った印章の違いの理解をもつての刻印技術の修得。

## 授業計画

### 【前期】

1. ガイダンス印材・工具等の説明、紹介並びに古代印章史の概論
2. 古代印章の起源と歴代璽印の変遷
3. 毛筆にて篆書の練習①（鄧石如「白氏草堂記」の前半部分）
4. 毛筆にて篆書の練習②（鄧石如「白氏草堂記」の続きの部分～終わりまで）
5. 毛筆にて篆書の練習③（韓登安の鐵線篆と摹印篆）
6. 刀法と側款の練習①（横・縦・鈎・撇）
7. 刀法と側款の練習②（短撇・捺・側・長鈎）
8. 刀法と側款の練習③（自身の名前と漢詩を刻す）
9. 奏刀の練習①（沖刀・切刀・舞刀の使い分け）
10. 奏刀の練習②（各轉折と起筆・收筆）
11. 雙鈎填墨による陰陽。理論：印章の誕生から時代別の印文の流れ並びに印式の各名称（殷代から漢代まで）
12. 漢印摹刻①〔自身で選択したもの〕
13. 漢印摹刻②（①以外で自身で選択したもの）
14. 漢印創作における印稿練習
15. 漢印創作

### 【後期】

1. 前期の復習並びに璽印から篆刻への変遷理論
2. 秦印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
3. 秦印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
4. 秦印創作の為の印稿の練習（自分で印文を考える）
5. 秦印創作
6. 将軍印①（自分で選択したものを刻す）
7. 将軍印②（①以外で自分で選択したものを刻す）
8. 将軍印創作の為の印稿練習（自分で印文を考える）
9. 将軍印創作
10. 肖形印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
11. 肖形印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
12. 仏像印摹刻①（來楚生作品の中から自分で選択したものを刻す）
13. 仏像印摹刻②（來楚生作品の中から①以外で自分で選択したものを刻す）
14. 仏像印創作
15. 作品合評、予備

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180分以上）・夏休みの課題として漢印の創作作品を補刀まで済ませ、後期の最初の授業で提出する。

## テキスト

・書道講座第6巻篆刻（二玄社刊）\*書店にて購入。

## 参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宮博物院藏古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館藏印選』（上海書画出版社）・養毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『書の基本資料 14・篆刻』（中教出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じてプリントを配布。

## 学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（100%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分で摹刻ができる。  
 (B) 各奏刀法を理解し、自分で創作できる。  
 (A) 「尚古思想」を基盤とした高いレベルでの創作ができる。  
 (S) 「尚古思想」を基盤とした高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、長邊款が刻せる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

## その他

・漢字 I 履修修了者に限る。・用具、用材は、大阪の書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。・2度目の受講者は、明清以降の流派印もしくは秦代以前の古璽印等を相談に応じて個別に指導する。・理解度・達成度により、授業を変更する場合あり。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

篆刻家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が作成した作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	篆刻 I							学期	前期
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G3-06-163	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

・「印従書出」、「印外出印」の篆刻理論を出発点に東洋史における印章の重要性を認識する。・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。前半は書の線條の追及として漢字 I で学んだ小篆を復習する。・国内の他大学にはない中国伝統的書学教育を前提とした篆刻指導を行う。・篆刻を学ぶ上で碑学の基本を体現する。

## 授業の到達目標

1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識及び古代文献に捺印されている印文の解読に興味を持つ。2、東洋文化における印章の歴史的重要性及び毛筆との関連性の理解。3、各時代に沿った印章の違いの理解をもつての刻印技術の修得。

## 授業計画

1. ガイダンス印材・工具等の説明、紹介並びに古代印章史の概論
2. 古代印章の起源と歴代璽印の変遷
3. 毛筆にて篆書の練習①（鄧石如「白氏草堂記」の前半部分）
4. 毛筆にて篆書の練習②（鄧石如「白氏草堂記」の続きの部分～終わりまで）
5. 毛筆にて篆書の練習③（韓登安の鐵線篆と摹印篆）
6. 刀法と側款の練習①（横・縦・鉤・撇）
7. 刀法と側款の練習②（短撇・捺・側・長鉤）
8. 刀法と側款の練習③（自身の名前と漢詩を刻す）
9. 奏刀の練習①（沖刀・切刀・舞刀の使い分け）
10. 奏刀の練習②（各轉折と起筆・收筆）
11. 雙鉤填墨による陰陽の理解。理論：印章の誕生から時代別の印文の流れ並びに印式の各名称（殷代から漢代まで）
12. 漢印摹刻①〔自身で選択したもの〕
13. 漢印摹刻②（①以外で自身で選択したもの）
14. 漢印創作における印稿練習
15. 漢印創作

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（90分以上）

## テキスト

・書道講座第6巻篆刻（二玄社刊）\*書店にて購入。

## 参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宮博物院藏古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館藏印選』（上海書画出版社）・養毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『書の基本資料 14・篆刻』（中教出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じてプリントを配布。

## 学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（100%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分で摹刻ができる。
- (B) 各奏刀法を理解し、自分で創作できる。
- (A) 「尚古思想」を基盤とした高いレベルでの創作ができる。
- (S) 「尚古思想」を基盤とした高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、長邊款が刻せる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

## その他

・漢字 I 履修修了者に限る。・用具、用材は、大阪の書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1度欠席したら、学生自身かなりの損失を被る事を理解しておくこと。・2度目の受講者は、明清以降の流派印もしくは秦代以前の古璽印等を相談に応じて個別に指導する。・理解度・達成度により、授業を変更する場合あり。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

篆刻家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が作成した作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	篆刻Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G3-06-164	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を基盤に、秦印や三国時代の將軍印を摹刻し、その印風創作による実践、理論の双方より学ぶ。・肖形印ほか仏像印を刻すことにより、篆刻における線条を理解し「書画同源」の原点を探る。・国内の他大学にはない中国伝統的印学方法を根底とした学びを提供し、向上を図る。・2回目の受講生は更にレベルの高い古璽印または明清以降の流派印を相談の上、別課題にて学ぶ。

## 授業の到達目標

1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識。2、東洋文化における印章の重要性及び関連性の理解。3、各時代に沿った印章の違いの理解をもつての刻印技術の修得。4、肖形印を刻すことにより篆刻の楽しみを再確認する。

## 授業計画

1. 前期の復習と双稿填墨・印稿の練習
2. 秦印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
3. 秦印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
4. 秦印創作の為の印稿の練習（自分で印文を考える）
5. 秦印創作
6. 將軍印①（自分で選択したものを刻す）
7. 將軍印②（①以外で自分で選択したものを刻す）
8. 將軍印創作の為の印稿練習（自分で印文を考える）
9. 將軍印創作
10. 肖形印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
11. 肖形印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
12. 仏像印摹刻①（來楚生作品の中から自分で選択したものを刻す）
13. 仏像印摹刻②（來楚生作品の中から①以外で自分で選択したものを刻す）
14. 仏像印創作
15. 作品合評、予備

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180分以上）

## テキスト

・『書道講座第6巻篆刻』（二玄社刊）：書店にて購入。

## 参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宫博物院藏古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館藏印選』（上海書画出版社）・袁毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『書の基本資料 14・篆刻』（中教出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じてプリントを配布。

## 学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（100%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分で摹刻ができる。  
 (B) 摹刻を基に自分で創作できる。  
 (A) 「陰陽思想」、「尚古思想」を原点とした高いレベルでの創作ができる。  
 (S) 「陰陽思想」、「尚古思想」を原点とした高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、邊款が刻せる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180分以上）・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

## その他

・篆刻Ⅰを履修した者に限る。・進度により授業の順番を入れ替えたり、省略する場合あり。・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。・2度目の受講者は、秦代以前の古璽や明清以降の流派印、そのほか肖形印等を更に高いレベルで個別に指導する。・2月に学外書道展に作品出品を課す。（表装の費用は自己負担）

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

篆刻家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が作成した作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	条幅制作A(漢字)							学期	通年
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G3-06-165	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

【前期】○半切に漢字4～28文字の言葉を楷書体、行書体で創作する。(倣書も可) ○半切(正方形)に漢詩、漢語を篆書体、隸書体、又は行草体で創作する。(倣書も可) ○半切に漢字・仮名まじり文を創作する。課題は授業前に提示。

【後期】2尺×8尺(52cm×約228cm)の画仙紙に自分で詩や文章を選び創作する漢詩を選んだ人は、まず字書ですべての文字を調べ一覧表を作成する。それを参考にして字のくづし方を覚える。漢字仮名まじり文を書こうとする人は、全体の構成や空間のとり方など工夫し、漢字と仮名の調和も考えて製作をすすめる。

## 授業の到達目標

臨書でつちかった基礎の上に立って、「尚古思想」を原点にしたフレッシュな作品を創作する。

## 授業計画

### 【前期】

1. この授業の内容、授業の進め方、必要な書道用材の説明
2. 半切の大きさを、課題を楷書行書体で創作する。①
3. 半切の大きさを、課題を楷書行書体で創作する。②
4. 半切の大きさを、課題を楷書行書体で創作する。③
5. 半切の大きさを、課題を楷書行書体で創作する。④
6. 半切の大きさを、課題を楷書行書体で創作する。⑤
7. 半切の大きさを、課題を楷書行書体で創作する。⑥
8. 提出後、全体で互評会を実施する
9. ①篆書体、隸書体、行書体で課題を半切(正方形)で創作
10. ②漢字仮名まじり文の創作
11. 上記①、②のどちらかひとつを選び実習する。
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上

### 【後期】

1. 2尺×8尺(たて228cm×よこ52cm)の紙面に、作品を制作
2. 同上 ※書体、題材も自由
3. 同上 ※個性と創作意欲にあふれた作品を制作する。
4. 同上 ※題材、書体は途中変更も可能
5. 同上 ※試行錯誤をくりかえしながら少しずつ作品が向上させる。
6. 同上 ※早く仕上がった人は、小品を制作する。(書体・題材を変えたり)(漢字仮名まじり文でも可)
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 押印して提出後、互評会を実施する。

## 準備学習(予習・復習)・時間

制作の構想をしっかりと考え、書体形式を決めて繰り返し練習し、どこをどう工夫すれば良いかを考えること(計90分以上)。

## テキスト

テキストはない。中国や日本の優れた作品を参考にし、教員のアドバイスを受けて創作する。

## 参考書・参考資料等

字書や二玄社の法帖類、各展覧会の作品集など。

## 学生に対する評価

提出作品(50%)、授業の取組(50%)を総合的に評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 規定の大きさにそれぞれの書体で誤字なく書けている。
- (B) 文字の大小や墨の潤滑に工夫している。
- (A) 作品に一貫性があり筆力が充実している。
- (S) 自分なりに工夫を加え、練度の高い作品に仕上がっている。

## 課題に対するフィードバックの方法

個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。

## その他

2尺×8尺の作品は評価の後、2月の高野山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は自己負担とする。各自で事前に『字書』を購入しておくこと画仙紙は事前に大阪の書道用品店で買っておくこと。この授業は高野山書道師範を取得を希望する者、書道で卒業論文を書こうとする学生は必修です。かなり習熟した技能を持っていることが要求されます。書き込むより他に道はないと思い、時間外でもしっかり取り組んで欲しい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が書いた作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	条幅制作B(かな)						学期	通年	
副題	-				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	G3-06-166	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

【前期】かなⅠ・Ⅱで履修済のかなの基礎で学習した項目を発展させ、かな条幅にあった用具・用材について理解し、運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込み、半切作品に仕上げる。

【後期】2×6尺以上のかな画仙紙に自分で歌や文章を選び制作する。選んだ題材の資料(集字)を作成する。制作過程においては、条幅かなの筆法を理解し実際に運筆する。運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込む。また全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆を実践し、作品に仕上げる。

## 授業の到達目標

【前期】古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現できるようになる。【後期】かな条幅の運筆を理解し画仙紙に全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆で書くことができるようになる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 条幅「かな」の内容解説・授業の進め方・必要な用具用材等の説明を聞く。
2. 条幅の基本用筆1(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を書く。)
3. 条幅の基本用筆2(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を自然に書く。)
4. 条幅の基本用筆3(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を確実に書く。)
5. 条幅の基本用筆4(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、2字連綿を書く。)
6. 条幅の基本用筆5(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、2字・3字連綿を自然に書く。)
7. 集字し資料を作り半切1/2の画仙紙に俳句を書く。
8. 半切1/2の画仙紙に俳句の構成に留意し自然に書く。
9. 半切1/2に俳句を書き仕上げる。
10. 半切以上に制作1(題材を決定し、集字し資料を作成する。)
11. 半切以上に制作2(資料にそって、書く。)
12. 半切以上に制作3(資料に沿って自然に書く。)
13. 半切以上に制作4(資料に沿って書き込み、構成も考えていく。)
14. 半切以上に制作5(資料を基に、構成に留意し、作品を仕上げ提出する。)
15. 提出作品の講評をする。

### 【後期】

1. 2×6尺(55×175cm)の練習用紙に制作1(テーマ・内容を決定、集字する。)
2. 2×6尺の練習用紙に制作2(題材・デッサンを考える。)
3. 2×6尺の練習用紙に制作3(土台とする古典を臨書しつつ、構成も考えていく。)
4. 2×6尺の練習用紙に制作4(自然に運筆ができるようになるまで書き込む。)
5. 2×6尺の練習用紙に制作5(確実に運筆し、墨色、墨量の変化を整えていく。)
6. 2×6尺の練習用紙に制作6(各自のテーマを設け書く。)
7. 2×6尺の練習用紙に制作7(各自のテーマに沿って書き込む。)
8. 2×6尺の清書用紙に制作1(清書用紙の扱いに慣れる。)
9. 2×6尺の清書用紙に制作し、互評会をする。
10. 2×6尺の清書用紙に制作2(互評会を受けて修正し、各自のテーマに沿った作品を制作する。)
11. 2×6尺の清書用紙に制作3(より一層の内容のある作品になるように書き込む。)
12. 2×6尺の清書用紙に制作4作品提出
13. 2×6尺の清書用紙に制作5提出作品の講評をする。
14. 形式を変えて条幅作品を書く。
15. 1年間のまとめと総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる(120分) 事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60分)

## テキスト

編者 日比野実 「墨ニュークラシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社 2010年発行

## 参考書・参考資料等

編者 日比野実 「墨ニュークラシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社 2010年発行 字書や二玄社の法帖類、芸術新聞社の書道関連本、各展覧会の作品集など

## 学生に対する評価

授業提出課題(70%) 授業への主体的な取り組み姿勢(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) かな条幅の基本的用筆ができる。
- (B) 規定の大きさに効果的に表現することができる。
- (A) 全体構成、空間のとり方、文字の大小・墨の扱いに留意し制作することができる。
- (S) 自分で高いレベルでのかな条幅作品を制作することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

## その他

・かなⅠ、かなⅡを履修済みであること。変体仮名が理解できていること。・後期2×6尺以上の作品は評価の後、2月の高野山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は各自の負担とする。・条幅筆・画仙紙は事前に書道用品店で買っておくこと。・普段から展覧会などに行き、様々な、かな条幅作品を鑑賞すること。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とする。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな条幅作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	書道史(日本)／書道史						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-06-167	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

わが国における書の展開について講じ、時代ごといくつかのテーマを取り上げながら進めてゆく。また書は、その他の芸術をはじめ諸々の文化と密接に関わるものであるため、可能な限りそうした周辺の文化的事柄とも絡めて眺めてゆくこととしたい。

## 授業の到達目標

書道作品の鑑賞眼を養い、その基本的事項について理解するとともに、書の世界を味わう。

## 授業計画

### 【前期】

1. ガイダンス及び漢字の歴史
2. 漢字の伝来
3. 飛鳥時代①
4. 飛鳥時代②
5. 奈良時代①
6. 奈良時代②
7. 平安時代①
8. 平安時代②
9. 平安時代③
10. 平安時代④
11. 平安時代⑤
12. 書流・書論の出現
13. 鎌倉時代①
14. 鎌倉時代②
15. 予備

### 【後期】

1. 南北朝時代①
2. 南北朝時代②
3. 室町時代①
4. 室町時代②
5. 安土・桃山時代①
6. 安土・桃山時代②
7. 安土・桃山時代③
8. 江戸時代①
9. 江戸時代②
10. 江戸時代③
11. 江戸時代④
12. 現代
13. 予備
14. 復習
15. テスト

## 準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことに対してノートにまとめておく事。〔30分以上〕 その他、授業中に別途指示する。(60分)

## テキスト

・『[決定版] 日本書道史』 名見耶明監修 芸術新聞社 定価 3300 円 (書店にて購入)

## 参考書・参考資料等

・『書道全集(日本編)』平凡社 ・飯島春敬『日本書道史要説』(1975年・東京堂出版) ・小松茂美『展望日本書道史』(1986年・中央公論社) ・小松茂美編『日本書道辞典』(1987年・二玄社) ・『墨スペシャル 12 図説日本書道史』(1997年・芸術新聞社) ・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』(2005年・萱原書房) ・その他必要に応じて、プリントを配布

## 学生に対する評価

・基本的にペーパーテストによる評価。その他、課外授業の積極的な参加も加味する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 書道用語を理解できる。
- (B) 書道史に関する時代変遷を自分で発言できる。
- (A) 自分で調査した書道史に関する研究を、発表できる。
- (S) 自分で調査した書道史に関する研究を、先人研究者との比較してその違いを発表できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に質問をしながら、前回までのフィードバックを行う。

## その他

・欠席や遅刻は学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て望むこと。・再試験はしない。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

芸術系大学院教員及び研究者として経験を持つ教員が、書の歴史と他分野への関連性について知識を提供し、解説する。

科目名	生涯学習概論						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G1-18-168	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

生涯学習とはなにかを理解し、その理論と社会におけるしくみや方法、生涯学習社会におけるネットワーク構築の必要性をさまざまな実践例を紹介することを通じて、生涯学習の指導者としての役割や、今後の課題について探求する。

### 授業の到達目標

生涯学習や社会教育の意義を理解し、その制度やしくみ、内容や方法を学ぶことを通じて、今後さらに進展する「生涯学習の時代」に対応できるための基礎的な能力を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス／生涯学習とはなにか？
2. 生涯学習論の導入と展開
3. 生涯学習と日本の行政
4. 生涯各期の学習課題
5. 生涯学習と家庭・学校・地域社会
6. 社会教育制度と生涯学習
7. 学校教育と生涯学習
8. 博物館と生涯学習
9. 図書館と生涯学習
10. 生涯学習の形態と方法
11. 生涯学習を支援する指導者の役割
12. 地域づくりと生涯学習
13. グローバル化する社会と生涯学習
14. これからの生涯学習の動向と課題
15. 「生涯学習の時代」を生きる

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：次回の授業内容についてテキストを熟読し、自治体HPなどで各地の取り組みについて調べる（90分） 事後学修：授業内容についてノートに整理する（60分）。

### テキスト

田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜『テキスト生涯学習ー学びがつむぐ新しい社会ー [新訂版]』(学文社、2018年。初版2008年)。その他、授業テーマによってプリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

①大堀哲編著『司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論』（樹房、2010年） ②関口礼子・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫・神部純一・柳田雅明『新しい時代の生涯学習 [第3版]』（有斐閣、2018年）その他、授業中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

定期試験（40%）、毎回の授業時に行う課題（60%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生涯学習の理論と実践について、基礎的な知識を身につける。
- (B) 生涯学習の理論と実践についての基礎的な知識を身につけ、問題点を指摘することができる。
- (A) 生涯学習の理論と実践についての知識を身につけ、これからの取り組みを提案することができる。
- (S) これからの生涯学習のあり方について提案することができ、実際に生涯学習活動に参加している。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。授業で紹介する実践例以外にも、新聞などを通じて生涯学習に関する各地の取り組みについて関心を持つことを心がけること。

科目名	博物館概論						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G1-18-169	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

本講義では、博物館学や関係法規の意義について学習するとともに、学芸員の担う職務と博物館の社会的責務について理解を深める。また、明治以降の博物館の果たした社会的機能について学ぶとともに、博物館とナショナリズムとの関係についても考える。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

## 授業の到達目標

国内外の博物館の歴史を振り返りつつ、博物館に関する基礎的知識を習得する。博物館を取り巻く厳しい社会状況について理解を深める。博物館学芸員を目指す上での学問的見識を養う。

## 授業計画

1. 博物館学の目的とそのあゆみ
2. 博物館の種類と機能—分類・施設・設備とあわせて—
3. 学芸員の職務
4. 世界の博物館とその歴史①
5. 世界の博物館とその歴史②
6. 日本の博物館とその歴史①—博物館の諸制度—
7. 日本の博物館とその歴史②—博物館と学芸員を取り巻く現況—
8. 日本の博物館とその歴史③—博物館と学芸員の未来—
9. 明治期の博物館論—博物館・文化財と政治①—
10. 大正・昭和前期の博物館論—博物館・文化財と政治②—
11. 博物館とナショナリズム—戦前期の「国史館」構想—
12. 博物館法とその意義
13. 文化財保護制度の歴史
14. 博物館をめぐる現状と矛盾
15. 試験

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考書の該当ページやプリントを毎回読み、博物館学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと (100分)  
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること (80分)

## テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

## 参考書・参考資料等

①大堀哲・水嶋英治『博物館学Ⅰ 博物館概論・博物館資料論』(学文社、2012年) ②全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年) ③岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』(人文書院、2020年) ④金子淳『博物館の政治学』(青弓社、2001年)

## 学生に対する評価

レポート (70%)、講義時におけるミニッツペーパー (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館の歴史について、基礎的な説明ができる。
- (B) 博物館の歴史と社会的責務について具体的に説明できる。
- (A) 博物館の歴史とその社会的責務、日本近代の政治状況が博物館に与えた影響について説明できる。
- (S) 講義内容と自己の調査に基づいて、博物館の歴史的沿革・意義について論じることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

講義の提出課題については、後日に講評する。

## その他

博物館学芸員への道は非常に険しく、高度な学識が要求される。学芸員資格は、他の資格とは異なり、就職にまったく結びつかないので、学芸員科目の履修を考える学生は、よく熟慮・検討すること。本講義は、真剣に学芸員資格の取得を目指す学生のみ受講してほしい。また、受講者は、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。毎回の講義時には、講義内容をまとめるミニッツペーパーを書いてもらう。



科目名	博物館経営論						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	内藤栄	
ナンバリング	G2-18-170	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

①国立（独立行政法人）、公立（指定管理者制度）、私立博物館のそれぞれの特徴と問題点、②公立博物館の登録、③博物館の職員、④コレクション形成の方法、⑤博物館活動の目標設定と評価、⑥普及と情報、⑦日本の博物館の特異性・寺院には数多くの文化財が伝わっている。学芸員資格を有することで、文化財の管理、扱い、公開を他者を頼らずに行うことができる。学芸員資格を有する僧侶も増えている。博物館に勤務することを目指さない者も、学芸員資格を修得することを勧める。

## 授業の到達目標

・博物館経営（ミュージアムマネジメント）について学ぶ。経営が経営者だけの問題ではなく、博物館に携わる者すべてが問題意識を持つ性格であることを学び、さらに経営が博物館の未来構想に大きく関わることを学習する。

## 授業計画

1. 博物館の経営概説（ミュージアムマネジメントとは）
2. 博物館の予算と経営（博物館の予算はどのようにして確保しているか）
3. 博物館の普及と情報（利用者との関係）
4. 博物館の登録（博物館を作るには）
5. 国立の博物館の特徴と問題
6. 公立の博物館の特徴と問題
7. 私立の博物館の特徴と問題
8. 博物館の職員（組織と職員、館長・学芸員・学芸員補・事務・その他）
9. コレクションの形成（購入・寄贈・寄託について）
10. 海外の博物館と日本の博物館（職員構成の違い）
11. 博物館活動の目標設定と評価（使命と計画と評価）
12. 博物館活動の目標設定と評価（災害、人災に備える危機管理）
13. 博物館の今後（博物館が直面する問題、行政、予算、人材など）
14. 博物館見学（地域社会との連携を現場で学ぶ）
15. 博物館見学（市民参画の現場を実際に体得する）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ内容に関して専門用語の意味を理解しておくこと。(90分) 見学実習においては、見学成果を整理し、ノートにまとめておくこと。(30分)

## テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

適時授業内で紹介する。

## 学生に対する評価

レポートもしくは試験（100%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館の特徴と問題点を説明できる。
- (B) 博物館の特徴と問題点及びコレクション形成の方法を説明できる。
- (A) 日本の博物館の特徴と問題点及びコレクション形成の方法を説明できる。
- (S) 日本の博物館の特徴と問題点及びコレクション形成の方法とそこではたらく職員のあるべき姿を論じることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

展覧会の見学を行う。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・担当教員は私立美術館と国立博物館で、延べ33年勤務してきた。そのうち6年は学芸部長として博物館マネジメントに従事してきた。その経験を活かして博物館経営論を講義する。

科目名	博物館資料論						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-18-171	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

博物館が所蔵する資料は、博物館の根幹をなす存在である。本講義では、博物館資料の収集、整理・保管に関する知識・技術の修得と、調査研究の意義と内容についての理解を深めることを目的とする。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

## 授業の到達目標

博物館資料の多様性を学び、「二次資料（レプリカ）」などの意義について理解する。博物館におけるコレクションの形成とその利用、発信方法について学ぶ。学芸員による博物館資料の調査・研究の重要性、古文書・古典籍などの資料的価値について考える。

## 授業計画

1. 博物館資料とは何か(意義と内容)
2. 「一次資料」と「二次資料」—博物館資料の種類—
3. 博物館資料の収集
4. 博物館資料の整理と活用—資料化のプロセス—
5. 博物館資料の収集と整理—デジタル・アーカイブとからめて—
6. 学芸員の調査・研究とその発信方法(収集理念と方法)
7. 博物館資料としての古文書①—大津市歴史博物館の取り組み—
8. 博物館資料としての古文書②—京都文化博物館の取り組み—
9. 博物館資料としての古写真
10. 博物館資料としての収集品—高野山霊宝館の見学を通して—
11. 和紙の歴史①
12. 和紙の歴史②
13. 博物館資料の取り扱い方①(分類・整理)—高野山西南院における調査を通して—
14. 博物館資料の取り扱い方②(資料公開の方法等)—高野山西南院における調査を通して—
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書の該当ページやプリントを毎回読み、博物館学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分)  
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること(80分)

## テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

## 参考書・参考資料等

①大堀哲・水嶋英治『博物館学Ⅰ 博物館概論・博物館資料論』(学文社、2012年) ②全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年) ③高橋大樹「地域博物館における古文書展示」(『大津市歴史博物館研究紀要』20、2014年) ④長村祥知「博物館における古文書・古記録の展示と教育」(『人間教育学研究』3、2015年)

## 学生に対する評価

レポート(70%)、講義時におけるミニツツペーパー(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館資料について、基礎的な説明ができる。
- (B) 博物館資料について、事例に即した具体的な説明ができる。
- (A) 博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について説明できる。
- (S) 博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について、講義内容のみならず自己の調査に基づいて、論じることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

講義の提出課題については、後日に講評する。

## その他

博物館学芸員への道は非常に険しく、高度な学識が要求される。学芸員資格は、他の資格とは異なり、就職にまったく結びつかないので、学芸員科目の履修を考える学生は、よく熟慮・検討すること。本講義は、真剣に学芸員資格の取得を目指す学生のみ受講してほしい。

科目名	博物館資料保存論						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	G2-18-172	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

博物館において適切で安全な資料保存・活用を行うために必要な基本的知識を、歴史的・科学的・技術的な側面から、講義を通じて多角的に学習する。資料保存の重要性を確認し、環境や材質、構造上の問題などの資料を取り巻く状況を客観的に把握することで、資料を観察する目と現状判断する能力を養う。

## 授業の到達目標

博物館資料について保存の意義と基本理念を理解し、各種資料の材質や構造上の特性、劣化要因などをふまえて、適切な展示・保存環境を実現・維持するための基本的な知識を身につけ、活用することができる。

## 授業計画

1. 「保存」とは何か
2. [事例研究]文化財保護の歴史
3. 博物館資料の材質と取り扱い(1)立体物の構造・素材・特性
4. 博物館資料の材質と取り扱い(2)平面物の構造・素材・特性
5. 博物館における危機管理
6. 資料の劣化と保存(1)温湿度・光
7. 資料の劣化と保存(2)空気汚染
8. 資料の劣化と保存(3)生物被害とIPM
9. 資料の劣化と保存(4)自然災害と人為災害
10. 「包括的な保存」を考える(中間まとめ)
11. 博物館資料の科学的調査と技術
12. 修復保存の基本と実際(1)彫刻作例
13. 修復保存の基本と実際(2)装演作例
14. 修復保存の基本と実際(3)古文書
15. 海外の博物館における資料保存と全体の考察

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する(60分)

## テキスト

プリント資料を配布する

## 参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 IV 博物館資料保存論・博物館実習論』(学文社、2013年) 青木豊編『人文系博物館資料保存論』(雄山閣、2013年) 他は授業中に紹介する

## 学生に対する評価

期末レポート(60%)、授業時に行なう課題(40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館資料保存の意義を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける
- (B) 博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
- (A) 博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
- (S) これからの博物館資料保存のあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

## その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。近年は、保存・修復をテーマにした特別展や書籍、雑誌特集などから現場・現況を見聞きする機会が格段に増えた。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。

科目名	博物館展示論							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	山口隆介	
ナンバリング	G2-18-173	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

博物館展示の理念と歴史、展示の諸形態を学び、展示の理論と方法に関する基本的な知識や技術を習得し、博物館における展示の果たす役割とその意義を理解する。

### 授業の到達目標

博物館における展示の歴史と意義を理解するとともに、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 博物館展示の目的と役割
3. 博物館展示の歴史
4. 見学演習 近畿一円の美術館・博物館に出かけ、広く美術作品を見て学ぶ
5. 見学演習
6. 展示のプロセス企画書・出陳交渉・梱包と輸送・会場造作・展示作業
7. 展示空間の構成Ⅰ 章立て・動線・サイン
8. 展示空間の構成Ⅱ 照明・音響・展示環境・温湿度
9. 見学演習
10. 見学演習
11. 展示の技法Ⅰ 展示ケース・展示台・演示具
12. 展示の技法Ⅱ パネル・題箋・カタログと各種印刷物の作成
13. 展示の技法Ⅲ 音声ガイド・多言語表記・ボランティア
14. 見学演習
15. まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

普段から美術館や博物館に関心を持ち、図書やホームページを通して予備知識を持つこと (計 90 分以上)。

### テキスト

なし

### 参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布する。

### 学生に対する評価

レポート 60%、授業への取り組み 40%。この授業では近隣の美術館・博物館を見学する演習を実施し、見学への参加とレポートの提出を課する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 展示に関する基本的な知識や技術の習得が不十分である
- (B) 展示に関する基本的な知識や技術を習得する
- (A) 展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができる
- (S) 展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができ、その意図を他者に伝えることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については授業後にワークシートに記入してもらい、次回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

奈良国立博物館で研究員として勤務している教員が、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

科目名	博物館情報・メディア論					学期	前期		
副題	—				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	G2-18-174	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	I

## 授業の目的と概要

博物館で扱う情報・メディアの意義と理論、およびその運用の現状や課題について確認し、現代の ICT 社会における情報の取り扱いに必要な基礎的知識を講義を通じて習得した上で、博物館情報・メディアがもたらす可能性について考察する。

## 授業の到達目標

博物館における情報の意義と活用方法や課題についての理解を深めることで、情報資源の有効な利用に関する能力を身につけ、活用することができる。

## 授業計画

1. [事例研究] 博物館によるオンライン情報発信
2. 「情報」と「メディア」の定義
3. 博物館における情報資源とは
4. 博物館における情報資源の意義と活用 (1) 博物館資料のドキュメンテーションとデータベース化
5. 博物館における情報資源の意義と活用 (2) 博物館活動 (調査研究・展示・教育) の記録化
6. 博物館における情報資源の意義と活用 (3) デジタル・アーカイブスとは何か
7. 博物館における情報資源の意義と活用 (4) デジタル・アーカイブスの構築と現状
8. 博物館における情報資源の意義と活用 (5) デジタル資料の運用と課題
9. 博物館が持つ「情報」とは何か (中間まとめ)
10. 博物館と知的財産 (1) 知的財産権の基礎と権利処理
11. 博物館と知的財産 (2) 個人情報・肖像権・パブリシティ権の管理・運用と情報倫理
12. 情報・メディアを活用した博物館活動 (1) 展示
13. 情報・メディアを活用した博物館活動 (2) 学習
14. 情報・メディアを活用した博物館活動 (3) 発信
15. 博物館情報・メディア論への期待と展望 (全体の考察)

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業で紹介した事例や類似事例についての関連情報を、書籍やインターネットで調べてまとめる (60分)

## テキスト

プリント資料を配布する

## 参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 III 博物館情報・メディア論・博物館経営論』(学文社、2012年) 日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』(ぎょうせい、2013年) 他は授業中に紹介する

## 学生に対する評価

期末レポート (60%)、授業時に行なう課題 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館情報・メディアの意義を理解し、基礎的知識を身につける
- (B) 博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
- (A) 博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
- (S) これからの博物館情報・メディアのあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

## その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。各種報道やインターネット記事 (SNS やブログなど) にも考察する素材があふれている。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。

科目名	博物館教育論						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G1-18-175	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

博物館における学びとその特性を理解し、そのための理論と実践についてさまざまな実践例を紹介することを通じて、地域の結節点としてこれからの博物館が担う教育的な役割とその発信方法について探求する。

## 授業の到達目標

学びの場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論や方法、特性を学ぶことを通じて、地域の結節点としての役割を担うための博物館教育とその発信の方法についての基礎的な能力を身につける。

## 授業計画

1. ガイダンス／博物館教育とはなにか？
2. 博物館における学び
3. 博物館教育のあゆみ
4. 博物館教育を実践するための理論
5. 生涯学習と博物館教育
6. 博物館教育の方法①～見ること・聞くことからの学び～
7. 博物館教育の方法②～体感することからの学び～
8. 学校教育と博物館
9. 地域社会と博物館教育
10. 博物館教育の実践①～展示解説をしてみよう～
11. 博物館教育の実践②～展示解説をしてみよう～
12. 博物館教育の実践③～展示解説をしてみよう～
13. 地域の人材を育てる場としての博物館
14. グローバル化する社会と博物館教育
15. これからの博物館教育とは？

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：次回の授業内容についてテキストを熟読し、各地の博物館 HP など実際の取り組みについて調べる（90分） 事後学習：授業内容についてノートに整理する（60分）。

## テキスト

黒沢浩編著『博物館教育論』（講談社、2017年）その他、授業テーマによってプリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

柿崎博孝・宇野慶『博物館教育論』（玉川大学出版部、2016年）。その他、授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

期末レポート（30%）、発表（30%）、毎回の授業時に行う課題（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育の場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける。
- (B) 博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その問題点を指摘することができる。
- (A) 博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる。
- (S) これからの博物館教育のあり方について、自身の体験から実例をもとに論じることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。各地の博物館や美術館などを実際に訪れ、それぞれの博物館が行っている取り組みについて体験することを心がけること。

科目名	博物館実習					学期	通年		
副題	—				授業方法	実習	担当者	櫻木・坂口	
ナンバリング	G3-18-176	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	3	他	A

## 授業の目的と概要

博物館学芸員の資格を取得するための必要不可欠な科目である。博物館学芸員の実務を理解し、博物館が行う事業を習得するために、講義だけでなく、実技実習や見学実習など、学内外において多様な授業を実施する。実技や実習をともなう授業であり、将来、学芸員として勤務することを想定し、出席を重視する。

## 授業の到達目標

①博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について、実践的に学ぶことができる。②調査研究・展示する資料について、それらを調査や評価をし、展示や解説によって、観覧者にその意義を伝える方法を学ぶことができる。③さまざまな博物館を見学し、各館の特徴を捉え、学芸員として現場で活かせる視野を養うことができる。

## 授業計画

### 【前期】

1. 博物館実習に関する事前指導【講義・1時限】
2. 館園実習の具体的な指導 (1) 資料の取り扱いと整理・分類・保存【講義・1時限】
3. 美術分野資料の取り扱い【実習・3時限】
4. 歴史分野資料の取り扱い【実習・3時限】
5. 文化史分野資料の取り扱い【実習・3時限】
6. 資料の整理と分類【実習・3時限】
7. 資料の保存【実習・3時限】
8. 博物館施設の構造・管理【実習・1時限】
9. 博物館運営の実務【実習・1時限】
10. 事後指導【講義・1時限】
11. 館園実習の具体的な指導 (2) 実習先での実習の概要【講義・1時限】
12. 展示テーマを作る【実習・2時限】
13. 展示計画を作る【実習・2時限】
14. 展示表現の構築【実習・2時限】
15. 展示解説(キャプション)を作る【実習・2時限】

### 【後期】

16. ポスター・パンフレット(目録・図録)の作成【実習・2時限】
17. 展示案内と接遇【実習・2時限】
18. 展示作業【実習・3時限】
19. 地域連携とコミュニケーション【実習・2時限】
20. 見学実習【実習・3時限】
21. 事後指導と総括【講義・1時限】

## 準備学習(予習・復習)・時間

予習：次の実習内容等についてテキストを読んで理解しておく(90分) 復習：実習内容等について整理をしておく(60分)

## テキスト

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版、2002年)

## 参考書・参考資料等

木下史青『博物館へ行こう』(岩波ジュニア新書、2007年) 四国ミュージアム研究会編『もっと博物館が好きっ！—みんなと歩む学芸員—』(教育出版センター、2016年) その他、授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

授業への取り組みの姿勢(60%)、小テスト・レポート(40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について理解している。
- (B) 博物館の特徴を捉え、学芸員として現場で活かせる視野を有している。
- (A) 博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について理解し、実践することができる。
- (S) 博物館学芸員としての基礎的な知識・技術を活用し、展示や解説によって、観覧者にその意義を伝えることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業でフィードバックを行う。

## その他

①履修に際しては、博物館学芸員として、また社会人としての基本的な姿勢を求めます。第10回までに3分の2以上出席していない場合は、館園実習の実施を認めません。なお、理由のない遅刻は欠席とみなします。②実習は、グループワークやディスカッション、フィールドワークによって行われます。③授業以外でも、各地の博物館を訪れ、積極的に学芸員としての視野を広げる姿勢をもつこと。

科目名	教育原論						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G1-17-177	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

### 授業の目的と概要

1、教育の基本的概念、2、教育思想の歴史、3、教育の営みの歴史を学び、教育の本質に関する理解を深める。

### 授業の到達目標

教員として教育にかかわっていくための基礎となる知識を身につける。

### 授業計画

1. 教育の基本的意味
2. 人間特有の現象としての教育
3. 学ぶことと教えること
4. こころとからだを育てる
5. 道徳性の発達
6. 教育思想の原点1 (ソクラテス)
7. 教育思想の原点2 (プラトン)
8. 近代の教育思想1 (ロック)
9. 近代の教育思想2 (ルソー)
10. 現代の教育思想 (デューイ)
11. 家庭・地域・学校
12. 近代学校の性格
13. 日本における学校の歴史
14. 子どもの権利と教育への権利
15. 現代教育の課題定期試験

### 準備学習(予習・復習)・時間

シラバスに予告されている講義内容に該当する教科書部分を研究しておく(予習)。講義内容を振り返る(復習)(計90分以上)。

### テキスト

田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

### 学生に対する評価

定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる
- (A) 講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
- (S) 講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

### その他

ICT機器を活用するとともに、アクティブラーニング型の授業形式を取り入れる。



科目名	教職入門						学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久
ナンバリング	G1-17-178	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他 A・I

## 授業の目的と概要

今日の学校教育の現状と課題、学校教育に係る法令と教職の意義、様々な教職観と教員の役割、答申等に示される教員像、学校組織と教員の職階、教員の職務内容と校務分掌、学習・生徒指導と学級担任の役割、サービス・身分上の義務と身分保証、教育改革と教員研修、いじめ・問題行動への対応と保護者対応、リスクマネジメントと危機管理、学校組織の課題とチーム学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

## 授業の到達目標

・学校教育の目的と教職の意義、教員の役割、必要な資質・能力を理解する。・教員の職務内容、サービスと身分保証、職責の遂行と研修について理解する。・複雑・多様化する教育課題に、チーム学校で対応する重要性を理解する。・より良い自己実現に向けて、自己の適性と教職の職業的特性を理解する。学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

## 授業計画

1. 児童・生徒の実態と学校教育の現状及び課題について説明する。
2. 学校教育及び教職に係る法令、教員免許の取得と採用試験・任用について説明する。
3. 教職の意義と自己のキャリア形成、求められる資質・能力と自己変容について説明する。
4. 様々な教職観の変遷と教員の存在意義、期待される教員像について説明する。
5. 学校組織と教員の種類及び職階、社会的使命について説明する。
6. 教員の全ての職務内容と校務分掌、校務分掌の改善・充実について説明する。
7. 「確かな学力」の形成に向けて教員の職務と学校の取り組みについて説明する。
8. 生徒指導の推進に向けて教員組織の現状と課題、課題解決に向けた実践について説明する。
9. いじめ問題等の現状と課題、課題克服に向けたPDCAサイクルについて説明する。
10. キャリア教育の推進に向けた教育課程の改善、教員と保護者・地域の連携について説明する。
11. 教員の職務・課題別研修、専門・教養研修と教員への役割期待・役割達成について説明する。
12. 教員の職務と根本規準、サービス及び身分上の義務について説明する。
13. 学校の危機管理とリスクマネジメント、学校評価について説明する。
14. 学校評議員・学校運営協議会制度、学校組織の課題、チーム学校づくりについて説明する。
15. 生涯学び続ける教員であるための進路選択・自己決定・自己責任について説明する。定期試験

## 準備学習(予習・復習)・時間

①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60分) ②教職関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60分) ③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60分)

## テキスト

『新しい教職基礎論』2019.3 (伊藤一雄他著サンライズ出版) 書店で購入

## 参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

## 学生に対する評価

定期試験 (80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート (20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
- (B) 教員の職務やサービス内容、期待される教員の在り方について、テキストを見ながら説明できる。
- (A) 複雑・多様化する学校教育の課題や子どもの指導・支援に、教員が「教職実践力」を身に付けることが大切であることを、テキストや参考書を見ながら自分の言葉で説明
- (S) 子どもに「生きる力」を育む視点から、学校教育の改善・充実に向けた「チーム学校」づくりの必要性と教職員が努力すべき事項について、テキストや参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は次の授業で解説を行う。

## その他

・公教育に携わる教職員には法令順守が求められているので、学校教育並びに教職員の人事に係る法令について十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等は、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。・ICTを活用するとともに、アクティブラーニングの授業を取り入れる。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立学校教員及び管理職、教育行政での勤務経験のある教員が、管理職の職務(学校経営・運営)、(教職員、児童・生徒、学校保健、学校財務運営等)の校務、教育行政(学校、人事、研修、教員採用試験等)の業務、また、長年担当した教育相談のスキルやノウハウ等の経験を活かして、実践的な立場からの講義や情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	教育社会学							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G1-17-179	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

学校をめぐる諸問題について説明し、どのような問題があるのかを検討する。授業を通して、社会的な視点を養う。

### 授業の到達目標

教育の中心に置かれてきた学校を社会的な視点から理解し、どのような課題があるのかを説明できるようになる。

### 授業計画

1. 教育社会学とはどのような学問かについて説明する。
2. 学校をめぐる状況の変化（1）子どもの生活の変化について説明する。
3. 学校をめぐる状況の変化（2）少年犯罪・児童虐待について説明する。
4. 学校をめぐる状況の変化（3）いじめ、校内暴力について説明する。
5. 学校をめぐる状況の変化（4）不登校について説明する。
6. 学校をめぐる状況の変化（5）学歴社会、格差社会、子供の貧困について説明する。
7. 学校をめぐる状況の変化（6）少子化・未婚化・晩婚化について説明する。
8. 社会の変化と学習指導要領の改訂について説明する。
9. 教育基本法改正問題について説明する。
10. 諸外国の教育事情・教育改革の動向を説明する。
11. 地域と学校の連携と協働について説明する。
12. 開かれた学校づくりについて説明する。
13. 学校安全の必要性について説明する。
14. 生活安全、交通安全、災害安全における課題について説明する。
15. 持続可能な社会における教育について説明する。定期試験は実施しない。

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

### テキスト

特に定めない。

### 参考書・参考資料等

授業中に資料を配布する。

### 学生に対する評価

レポート（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育社会学の基本用語が説明できる。
- (B) 教育の問題について説明できる。
- (A) 講義内容を理解し、社会的に説明できる。
- (S) 現在の学校教育の問題について自分の意見を述べるができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

真剣に教師を目指す者のみ受講すること。・教育問題についてテーマを設定し、ディスカッションする。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校で教師として指導した経験がある教員が、学校や生徒の実態を講義する。

科目名	特別支援教育						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	宮本直美	
ナンバリング	G2-17-180	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	1	他	A

## 授業の目的と概要

1、特別支援教育に関するこれまでの歴史や日本社会の法的支援の現状を理解する。2、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒（障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒も含む）の現状を理解し、その教育の在り方を修得する。

## 授業の到達目標

1、特別支援教育の在り方を理解し支援ができるようになるための基礎力を身に付ける。2、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒（以下、生徒等）、及び障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒等の教育課程や支援体制の構築、支援の方法について理解し、説明できるようになる。

## 授業計画

1. 特殊教育から特別支援教育への変遷と特別支援教育の理念
2. 特別支援教育の概要と特別教育を推進するための仕組み
3. 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱の理解とそれらの状態にある生徒等の学習上又は生活上の困難について
4. 知的障害、発達障害のある生徒等の理解と指導方法、及び支援方法について
5. 特別支援学校と特別支援学級、及び通級による指導の教育課程上の指導も含めた違いと自立活動について
6. 障害はないが特別の教育的ニーズを必要とする生徒等の支援の在り方について
7. 特別支援教育コーディネーターの職務と職員も含めた「チームとしての学校」の役割について
8. 多様な教育的ニーズのある生徒等の学びを保障するための先進的取組を行っている事例の紹介

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：講義時に配布する資料を読み疑問点を整理しておくこと。事後学習：毎回当日の講義内容に関する課題を出すのでまとめて次回講義時に提出する（計90分以上）。

## テキスト

橋本創一・三浦巧也・渡邊貴裕・尾高邦生・堂山亜希・熊谷亮・田口禎子・大伴潔（編著）『教職課程コアカリキュラム対応版 キーワードで読み解く 特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』、福村出版、2020年（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

伊藤一雄編著『新しい教職基礎論』サンライズ出版、2018年 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 著『特別支援教育の基礎・基本 2020』ジアース教育新社、2020年

## 学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出するレポート（40%）、授業中の発言や発表等、授業への参加状況（10%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができる。
- (B) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができ関心が深まる。
- (A) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）に関心を持ち、積極的に理解を深めようとする意欲がある。
- (S) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等）の支援に関心もち理解を深め、積極的に支援に参加しようとする意欲が深まる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題は添削し次回の講義時に返却し、理解力を高める。質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

グループワークを行う科目である

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

授業4～7において、発達障害のある生徒等や障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等への指導と支援について、担当者の通級・特別支援コーディネーターとしての体験を取入れ、具体的な事例を通して講義する。

科目名	教育心理学							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-181	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

学校現場における生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得すると共に、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。学習をより効果的に習得できるように、言語の発達、記憶のメカニズム、学習のプロセスについて学ぶ。さらに学習の評価についても学ぶ。生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について学ぶ。特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

## 授業の到達目標

・学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。・人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。・学習と評価の問題について理解を深める。・発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

## 授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育心理学とは何かについて概観する。
2. 発達過程と教育の関連について。現代の子どもの心理学的特性を理解する。
3. 様々なライフサイクル論の紹介。エリクソンのライフサイクル論・乳児期から遊戯期について学ぶ。
4. エリクソンのライフサイクル論・児童期・青年期の課題と特徴および学習との関連性を知る。
5. エリクソンのライフサイクル論・人生の後半と若い世代への関わりあいについて学習する。
6. 学習のメカニズムについて学ぶ。動機づけ、記憶のメカニズム等。
7. 学習効果と自尊感情の関連性について理解する。「無気力」について学習する。
8. 知的能力の発達について学ぶ（表象的思考の発達と創造性の発達。）
9. 学習指導の心理学的理論を紹介する。プログラム学習と協同学習について学ぶ。
10. 学習意欲と教育評価について学ぶ。
11. 発達障害（LD、ADHG など）について理解する。発達障害（LD、ADHG など）について理解する。
12. 生徒の問題行動とその対応法について考察する（いじめ、不登校、引きこもり等）。
13. 生徒の不応とストレス対処法について学ぶ。スクールカウンセラーの役割について考える。
14. 特別な支援を必要とする生徒について理解を深める（事例を通して学習する）。
15. 自己指導能力を発達させる方法を学ぶ。これまでの学習の総括を行う。定期試験

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業の前に必ず教科書の該当箇所を読んでおくこと。配布している問題集形式のプリントを解答しておくこと。(90分) 授業後は、専門用語を中心として自分で学習内容をノートにまとめ、問題集形式のプリントを再確認しておくこと。(90分)

## テキスト

桜井茂男編『たのしく学べる最新教育心理学—教職に関わるすべての人に（改訂版）』、図書文化社、2017年（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編『子ども・若者政策のフロンティア』、晃洋書房、2012年

## 学生に対する評価

小レポートの提出（20%）・出席状況およびディベート等の状況（25%）・学期末試験（55%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習のメカニズムを理解している。
- (B) 様々な学習方法を説明できる。
- (A) 自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
- (S) 様々な学習評価を理解している。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

## その他

毎回出席を取る。テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらう。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験を活かし、生徒がやる気を持てるような指導や学級の雰囲気作りを、理論を学ぶと同時に実践的な事例を伝える授業にする。

科目名	教育課程論							学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久		
ナンバリング	G1-17-182	実務経験の有無	有	関連DP	—		単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

教育課程の意義と今日的課題、カリキュラムの変遷と教育課程の類型・特徴、学習指導要領の改訂の歴史と内容及び社会的背景、教育課程改革と新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の役割と機能、カリキュラム・マネジメントとアクティブラーニング、教科等横断的なカリキュラム編成と方法及び指導計画の作成、キャリア教育と学校改善、教育課程の評価と改善等について、学校現場での事例を紹介しながら解説する。

## 授業の到達目標

・教育課程の意義、カリキュラムの類型と特徴、学習指導要領の変遷及び性格と位置付け、教育課程の社会的役割や機能について理解する。・「主体的・対話的で深い学び」を育む教育課程編成の原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性、アクティブラーニングについて理解する。・教科等横断的な教育内容の選択と配列、カリキュラム・マネジメントの視点に立つ長期的指導計画の作成、カリキュラム評価と改善について理解する。

## 授業計画

1. 学校における今日的課題と教育課程の意義と役割・機能について説明する。
2. カリキュラムの歴史的変遷と教育課程の類型・特徴について説明する。
3. 我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。(明治～昭和)
4. 我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。(平成～現在)
5. 学習指導要領の性格及び位置付け、関連する法令について説明する。
6. 中央教育審議会答申が示す教育課程改革の構造及び特徴について説明する。
7. 学習指導要領改訂の特徴と改善の方向性について説明する。
8. 学習指導要領の枠組みと『総則』に示す改訂のポイントについて説明する。
9. カリキュラム・マネジメントの意義と重要性及び3つの側面、方法について説明する。
10. カリキュラム・マネジメントと教育課程のPDCAサイクルについて説明する。
11. 「主体的・対話的で深い学び」のアクティブラーニングについて説明する。
12. 育成を目指す資質・能力から教科等横断的な教育内容の選択・配列について説明する。
13. 教科等横断的な視点からのカリキュラム編成と指導計画の作成について説明する。
14. 保護者及び地域と協働したキャリア教育の推進と学校改善について説明する。
15. チェックリストを活用した教育課程の評価と改善について説明する。定期試験

## 準備学習(予習・復習)・時間

①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60分) ②教育課程関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60分) ③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60分)

## テキスト

『教育課程論のフロンティア』2019.3改訂版(大津実他著晃陽書房)

## 参考書・参考資料等

・『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(文部科学省)・授業中に適宜資料を配布する。

## 学生に対する評価

定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。  
 (B) 教育課程の意義や編成原理、学習指導要領の内容について、テキストを見ながら説明できる。  
 (A) カリキュラム・マネジメントの視点からの教育課程のPDCAサイクル、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、テキスト等を見ながら自分の言葉で説明できる。  
 (S) 教科等横断的な視点に立ったキャリア教育推進の年間計画の策定やカリキュラムづくりの留意点について説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。・振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は、次の授業で解説を行う。

## その他

・教育基本法等の学校教育関連法令については、十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等については、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立学校教員及び管理職、教育行政等の勤務経験のある教員が、学校現場での学習指導・生徒指導等の教育実践や学校経営、教育行政の所管する教育課程等に係る資料の編成や教職員研修、教員採用試験担当等の経験を活かして、実践的な立場からの講義と情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	道徳教育の研究／道徳教育指導論						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-183	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

1、道徳の意義と本質、2、学校教育における道徳教育、3、道徳科指導法を学ぶ。

### 授業の到達目標

道徳教育における実践的指導力を身につけることを目標とする。そのために、道徳の意義や原理を理解する。また、学校教育全体における道徳教育の意義と、その中核となる道徳科目標、内容を理解する。

### 授業計画

1. 道徳とは何か1、その本質について学ぶ。
2. 道徳とは何か2、主要な道徳理論を学ぶ。
3. 道徳教育の歴史を解説する（西洋）。
4. 道徳教育の歴史を解説する（東洋）。
5. 現代社会における道徳とは何か理解する。
6. 学習指導要領における道徳教育の目標を知る1
7. 学習指導要領における道徳教育の目標を知る2
8. 子どもの道徳性の発達について学ぶ。
9. 道徳科指導法について説明する。
10. 道徳科の教材と授業計画について解説する。
11. 道徳科指導案作成を行う。
12. 学生による模擬授業を行う。
13. 学生による模擬授業を行う。
14. 模擬授業の振り返りと授業改善の方法を検討する。
15. 道徳科の学習評価を解説する。定期試験。

### 準備学習(予習・復習)・時間

授業で用いる資料を読む。道徳教育の読み物資料等について、生徒に伝えたいこと、自分の考えをまとめておく。(90分) 配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめる。指定した参考文献を読んでおく。(90分)

### テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』、2017年 文部科学省『中学校学習指導要領』、2017年

### 参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』、2017年 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』、2017年

### 学生に対する評価

定期試験 (80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート (20%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 道徳的徳目を六つ以上言える。
- (B) 集団や社会生活において重視される道徳的価値を説明できる。
- (A) 生命や自然、崇高なものを敬う気持ちの大切さを理解している。
- (S) 国際理解と道徳の関連性を理解し、生徒に指導する方法を身につけている。

### 課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

### その他

テーマに沿った話し合い等を行う。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間中学校・高等学校国語科教諭として勤め、道徳教育に携わった経験を活かし、現在も実際に使われている道徳教材を積極的に活用して、アクティブラーニングの授業を展開する。

科目名	特別教育活動指導／総合的な学習の時間・特別活動							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-17-184	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

学習指導要領において特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。授業では、学校生活(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)において学習指導要領の内容について具体的に事例を挙げながら学ぶ。総合的な学習の時間についても、探求的な見方考え方を働かせることを、横断的・総合的な学習の課題を通して学ぶ。指導案作成や教材研究、模擬授業を通して、教師になった時の実践力を身につける。さらに、教育活動の基礎にある人間の成長発達の理論や教育学の理論も学ぶ。

## 授業の到達目標

・特別活動の意義、目標について理解する。・学習指導要領の内容を理解し、特別活動を構成している教育活動の指導方法を学ぶ。・総合的な学習の時間の意義を理解し、指導案を作成し模擬授業を行う。・人間の成長・発達の理論や教育学の代表的な基礎理論を理解する。

## 授業計画

1. オリエンテーション。授業計画の説明。特別活動の意義と役割について学ぶ。
2. 学習指導要領から「特別活動」の意義や内容について学ぶ。「隠れたカリキュラム」について学ぶ。
3. ホームルーム活動について学ぶ。役割の取得と人間関係構築について考える。
4. ホームルーム活動の指導案の作成。(公共の精神や生き方・在り方を考える。)
5. ホームルーム活動の模擬授業。
6. 学校行事の意義や内容について学ぶ。
7. 学校行事の具体的実践研究とプレゼンテーション。
8. 生徒会活動とクラブ活動の意義を学ぶ。具体的実践例とプレゼンテーション。
9. 総合的な学習の時間について学ぶ。(目的・経緯、課題など)
10. 総合的な学習の時間の指導案作成と教材研究。(食育・国際理解・ボランティア等)
11. 総合的な学習の時間の模擬授業。
12. J. デューイの教育についての理論を学習する。
13. 人間の成長・発達の理論と青年期の課題について学ぶ。
14. 特別活動から見た学校の現状と課題を考える。特別活動の評価についてディスカッションを行う。
15. これまでの学習を振り返り、特別活動のまとめと今後の課題を整理する。定期試験は実施しない。

## 準備学習(予習・復習)・時間

配布する授業の資料を読む。(40分) 学習指導案や授業計画、模擬授業の準備を進めていく。(50分) 授業後は、配布プリントや資料から、要点をノートに整理してまとめる。(60分) 授業で行われた指導案作成などを見直す。(30分)

## テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』の特別活動編。(配布する。)

## 参考書・参考資料等

田中耕治編著、『よくわかる授業論』、ミネルヴァ書房

## 学生に対する評価

小レポートの提出(10%)、指導案の提出(15%)、模擬授業・プレゼンテーション(20%)、学期末レポート(55%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 特別活動の目標と意義が言える。
- (B) 総合的な学習の目的と経緯を説明できる。
- (A) ホームルーム活動や学校行事の意義を説明できる。
- (S) デューイの教育理論に沿って体験学習の教育的意義を理解している。

## 課題に対するフィードバックの方法

小レポートや学習指導案等は添削して返却する。

## その他

毎回出席を取る。ICT機器を活用しながら、同時にアクティブラーニングの授業形式を取り入れる。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

18年間の高等学校国語科教諭の経験を活かして、具体的な学級運営の事例などを紹介しながら、学校生活で特別活動の果たす役割を実践的に伝え、学生に考えてもらう授業を行う。

科目名	教育方法論						学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡
ナンバリング	G2-17-185	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他 A・I

## 授業の目的と概要

「教育」は人間に生涯つきまとう営みと考えられる。その方法・技術を教育思想から理論的に検討し、自らの成長や周囲の人の成長を援助する力を育成する契機とする。事例から理論の理解を深め、実践への一步とする。

## 授業の到達目標

この授業では、教育の方法・技術を背景となる思想から理解し、最終的には学校教育に留まらず人間形成・人材育成の観点からも検討できるようにすること、また指導案の素案を作成できるようにする。

## 授業計画

1. 導入教育方法の理論とは育成されるべき資質・能力の理解
2. 「学び合い」や「教えない授業」の検討（主体的・対話的で深い学び）
3. 「教えてから考えさせる授業」の検討（主体性の意味）
4. 学習のメカニズム講義、協調学習（対話の意味）
5. 学習モデル（1）学習転移モデル、経験学習モデル
6. 学習モデル（2）批判的学習モデル（深い学びの意味）
7. 「正統的周辺参加モデル」
8. 動機づけの理論（1）外発的動機づけ、内発的動機づけ
9. 動機づけの理論（2）やる気のなさ、やる気を高める方法、フロー理論
10. 指導案（1）指導案の各項目
11. 指導案（2）指導案の作成話法・板書等の基礎的技術
12. 指導案（3）指導案の修正授業展開と評価規準
13. ICTを活用した授業方法と情報モラル
14. 「インストラクショナルデザイン」目標・教材・評価
15. 「学習環境」のデザイン学習する組織場の理論定期試験

## 準備学習(予習・復習)・時間

取得予定免許の教科の指導法における指導案を確認しておくこと。また模擬授業に向けて主に生命尊重等の教材を研究しておくこと。復習としては模擬授業後の反省を行うこと（計90分以上）。

## テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』、2017年 文部科学省『中学校学習指導要領』、2017年

## 参考書・参考資料等

佐伯胖『「学ぶ」ということの意味』、岩波書店、1995年 市川伸一『「教えて考えさせる」授業を創る』、図書文化社、2008年  
 ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー（著）佐伯胖（訳）『状況に埋め込まれた学習正統的周辺参加』産業図書、1993年  
 中原淳（編著）『企業内人材育成入門』、ダイヤモンド社、2006年

## 学生に対する評価

授業中の課題への取組（50%）、指導案と模擬授業（30%）、レポート（20%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容の概要を理解できる。
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
- (A) 講義の内容を、思想的歴史的背景から理解できる。
- (S) 講義の内容を、自分なりに批判的に検討出来る。

## 課題に対するフィードバックの方法

課題（授業内でのディスカッション等）へのコメント、指導案の添削、模擬授業へのコメント

## その他

主体的な姿勢で臨むことが期待される。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験を活かし、理論を実際にどのような形で生かすのかを伝える授業にする。



科目名	生徒指導・進路指導						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-186	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われるものである。他の教書金や関係機関と連携して、組織的に生徒指導を行うために必要な知識を学ぶ。進路指導とキャリア教育は共に、生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的な展望からの人間形成を目指す教育活動である。これらのことを念頭に置いて学校の教育課程の中での位置づけを理解し、生徒指導および進路指導・キャリア教育の指導の原理を学び、指導の実際の在り方を考えていく。

## 授業の到達目標

・学校教育における生徒指導の目的と原則(ガイダンス)を理解する。・教育課程における生徒指導および進路指導・キャリア教育の役割を理解する。・問題行動の社会的背景と集団指導・個別指導の原理を理解する。・ガイダンスの特性を生かした進路指導・キャリア教育を考える。

## 授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画。生徒指導・進路指導を学ぶにあたっての留意点を説明する。
2. 日本の生徒指導の歴史的系譜。世界の生徒指導を比較して学ぶ。
3. 現代の生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義と課題を考える。
4. 問題行動と生徒指導の在り方について学習する（不登校の問題をディスカッションする。）
5. いじめ問題を考える。（文科省によるいじめの定義と類型化の紹介。いじめ防止対策。）
6. 生徒指導で直面する現代の問題(ブラックバイト、若者の貧困等)を理解する。DVD鑑賞。
7. 非行の問題を考える。－新しい荒れと言われる少年非行の問題－（ディスカッションを行う。）
8. カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。（事例研究から。）
9. 進路指導におけるガイダンスの役割について理解する。
10. 進路指導・キャリア教育の視点から体験活動や授業の改善を考える。
11. キャリア教育についての理解。キャリア教育の本質を考える。
12. キャリア教育の基本原則を学ぶ。（ブルデュー、スーパー、パーソンズの理論から。）
13. 「キャリアの時間軸」、ライフキャリアを考える。キャリアイベント、キャリアリスク等について学習する。
14. 生徒指導および進路指導・キャリア教育に関して、地域との連携について学ぶ。
15. これからの生徒指導・キャリア教育に求められることを考える。これまでの学習のまとめを行う。

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に配布する資料を読んで、分からないところや疑問点をリストアップしておく。(60分) 事前に配布する問題集のプリントに目を通しておく。(30分) 授業後は専門用語を中心に学習した内容をノートにまとめ、問題集のプリントの見直しをする。(90分)

## テキスト

文部科学省『生徒指導提要』、2010年 伊藤一雄（編著）『新・教育指導の理論と実践』、サンライズ出版、2007年（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

伊藤一雄『キャリア開発と職業指導』、法律文化社、2011年 全米キャリア発達学会（著）、仙崎武・下村英雄編（訳）『D.E. スーパーの生涯と理論』、図書文化社、2013年

## 学生に対する評価

小レポートの提出（20%）、出席状況とディスカッション等の参加状況（25%）、学期末試験（55%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生徒指導の目的と理念を言える。
- (B) キャリアエデュケーションの目的を説明できる。
- (A) 問題行動の対処に関しての地域の連携を説明できる。
- (S) 文部科学書と厚生労働所のキャリアエデュケーションの取り組みを理解している。

## 課題に対するフィードバックの方法

小レポートや試験は必ず添削して返却する。

## その他

毎回出席を取る。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験、特に学級担任や進路指導部長を務めた経験を活かし、生徒指導や進路指導の実際の在り方や難しさを伝えることを含めて、理論と実践を学ぶ授業とする。

科目名	教育相談							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G3-17-187	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

生徒が直面する様々な問題、とりわけ、いじめ、不登校、非行、発達障害などを中心に、生徒の「こころ」の問題と行動を理解し、支援していく方法について学んでいく。また、思春期に発症しやすい神経症的な問題や精神的な疾患について、さらには教師のメンタルヘルスの問題についても知識を持てるようにする。その上で、生徒の相談に応じ、援助していくためのスキルとしてカウンセリングマインドを身につける。加えて、教育相談の経過の作成、校内体制の整備など組織的な取り組みの必要性和、地域の医療・福祉・心理の専門機関との連携の意義と必要性を理解する。

## 授業の到達目標

・学校教育相談の意義と課題を理解する。・教育相談の背景にある問題を理解する。・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論や概念を理解する。・発達障害を理解する。

## 授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育相談を学ぶにあたっての留意点などを説明する。
2. 教育相談とは何か。学校教育相談および生徒指導との関連について学ぶ。
3. 児童・生徒の抱える問題の理解と対応の基本姿勢について概説する。
4. 学校におけるカウンセリングマインドについて学ぶ。
5. カウンセリングの基礎的知識を学ぶ（カウンセリングマインドを身につける）
6. 学校における不適応と問題行動について。不登校を考える。
7. 学校でのいじめを検討する。
8. 非行(反社会的問題と非社会的問題)への対処方法を学ぶ。模擬教育相談の実施。
9. 発達障害について理解する。
10. 摂食障害や不安神経症、境界性人格障害などの精神・神経疾患の基礎知識を学ぶ。
11. 同一性の問題について学習する。(自己同一性の問題、並びに性同一性の問題など)
12. 国際化に伴う教育相談の紹介。(外国人未就学児童の問題など)
13. 教育相談の学校内体制の整備について学ぶ。(事例の紹介)
14. 学校教育相談と地域での連携について学習する。
15. 教師のメンタルヘルスについて現状と対策を学ぶ。定期試験

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業の前に、教科書や配布したプリントを読んで、分からないところをチェックしておくこと。(90分) 授業後は、専門用語を中心に教科書やプリントから重要なところを自分でノートにまとめておく。(90分)

## テキスト

金子邦秀(監修)、伊藤一雄・児玉祥一・奥野浩之(編著)『新しい教職基礎論』、サンライズ出版、2018年

## 参考書・参考資料等

河村茂雄(編著)『教育相談の理論と実際—改訂版—』、図書文化社、2019年 滝口俊子『スクールカウンセリング』、放送大学、2010年 春日井敏之・伊藤美奈子(編)『よくわかる教育相談』、ミネルヴァ書房、2011年

## 学生に対する評価

小レポートの提出(20%)、模擬教育相談(20%)、学期末レポート(60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育相談の目標と意義を説明できる。
- (B) 教師の教育相談としてのカウンセリングと一般的なカウンセリングの違いを理解している。
- (A) 発達障害にはどのようなものがあるのかを説明できる。
- (S) 教育相談の地域連携について理解している。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや試験などは添削して次回の授業時に返却する。

## その他

毎回出席を取る。テーマを選んでのプレゼンテーションを各自、1回ずつ行う。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間中学校・高等学校国語科教諭として勤め、学級担任や進路指導部長として生徒や保護者からの相談に応じてきた経験等を活かして、専門的な知識を、個々の生徒の個性や家庭の事情などに配慮しながら活用していけるように、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的授業にする。

科目名	宗教科教育法Ⅰ							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G2-20-188	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

学校教育における宗教教育に必要な理論と実際について学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。

## 授業の到達目標

宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。

## 授業計画

1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（釈尊の生涯に関するもの）
2. 宗教教育とは：①宗教と宗教教育
3. 宗教教育とは：②宗教の定義
4. 宗教教育とは：③道徳教育と宗教教育
5. 宗教科教育法について：①戦前の教育と信教の自由
6. 宗教科教育法について：②戦後の教育と信教の自由
7. 宗教科教育法について：③憲法、教育基本法と宗教教育
8. 宗教教育の歴史：①日本における宗教教育
9. 宗教教育の歴史：②宗教と教育の関連
10. 宗教教育の歴史：③現代青少年の宗教意識の諸相
11. カリキュラム構成の実際と計画
12. 学習指導案の作成：①祖師の生涯を確認する（釈尊と弘法大師）
13. 学習指導案の作成：②釈尊伝の授業構成を検討する
14. 学習指導案の作成：③弘法大師伝の授業構成を検討する
15. 試験およびレポート提出

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる（計90分以上）。

## テキスト

斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会（コピー配布）

## 参考書・参考資料等

①教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林②日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』鈴木出版③藤原聖子『教科書の中の宗教』（岩波新書）岩波書店④小口偉一編『宗教学辞典』東京大学出版社、他

## 学生に対する評価

定期試験（60%）、レポート（釈尊伝の感想文）（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教教育の意義を認識している。
- (B) 宗教教育の問題点と課題に通じている。
- (A) 宗教教育および仏教に関する基本知識を備えている。
- (S) 宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

## その他

宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには宗教科の教師になるという意味をよく考えることが必要である。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G2-20-189	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。

## 授業の到達目標

宗教教育科の授業方法や実際について体験して経験値を上げる。模擬授業を通してみた宗教教育の実際を学ぶ。

## 授業計画

1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（弘法大師の生涯に関するもの）
2. 授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（一心院谷と女人堂）
3. 教材研究と学習指導案の作成方法について解説する。
4. 学習指導案の点検、宗教科の授業方法、授業記録の作成方法を解説する。
5. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
6. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
7. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」③成道
8. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」④初転法輪
9. 提出された授業記録の評価を行う。次回以降の留意点を解説する。
10. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」①誕生
11. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」②青年時代
12. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」③入唐求法
13. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」④高野山開創
14. 授業記録の提出と反省会
15. 模擬授業全体の反省と提出された授業記録の評価を行う。レポート提出

## 準備学習(予習・復習)・時間

授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる（計90分以上）。

## テキスト

①中村元・田辺和子共著『ブツダ物語』（岩波ジュニア新書）岩波書店②松長有慶『空海・心の眼をひらく—弘法大師の生涯と密教—』大法輪閣③富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所

## 参考書・参考資料等

①斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会②教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林

## 学生に対する評価

模擬授業（学習指導案と教材研究を含む）（80%）、レポート（弘法大師伝の感想文）（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習指導案をまとめる授業構成力が確認できる。
- (B) 授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力をもっている。
- (A) 仏教・密教に関する基礎知識を十分にもち、教材研究においても能力が確認できる。
- (S) 宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

## その他

宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。模擬授業における生徒側からの観察力・批判力も重視する。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅲ						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G3-20-190	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、中学生を対象とした教科「宗教」の授業内容・方法について学習する。

## 授業の到達目標

中学生を対象とした教科「宗教」の授業方法について理解し実践方法を学んで、実際に模擬授業ができるようになる。

## 授業計画

1. シラバスの説明、講義の進め方等、ビデオ鑑賞（世界の宗教に関するもの）
2. 授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（奥之院「大秦景教流行中国碑」等）
3. 新聞等の記事を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
4. 映像や音声を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
5. 教材研究と学習指導案作成の方法（系統型と経験型授業）について学習する。
6. 模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（系統型授業）
7. 授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
8. 模擬授業「イスラームの歴史と教え」（経験型授業）
9. 授業の振り返り、指導記録の方法を学習する。
10. 教材研究と学習指導案作成の方法（融合型授業）について学習する。
11. 模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（融合型授業）
12. 授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
13. 模擬授業「イスラームの歴史と教え」（融合型授業）
14. 授業の振り返り、評価の種類と活用について学習する。
15. 授業全体の反省とレポートの講評

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、普段は、模擬授業に必要な宗教に関する情報を調べてまとめておく。(180分) 事前学修として、模擬授業前は、模擬授業の学習指導案を作成し(120分)、模擬授業の練習をしておく。(60分)

## テキスト

村上重良『世界の宗教—世界史・日本史の理解に—』岩波ジュニア新書、岩波書店、改版：2009（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

① 斉藤昭俊『宗教科教育法』国書刊行会、1984、② 教育実習を考える会（編）『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林、1995、③ 岸本英夫（編）『世界の宗教』大明堂、1965／原書房、2004。他は授業中に紹介する。

## 学生に対する評価

模擬授業（学習指導案と教材研究等を含む）（60%）、レポート（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力を有している。
- (B) 学習指導案を作成する授業構成力が確認できる。
- (A) 宗教に関する基礎知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。
- (S) 現代の宗教文化に関する知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

## その他

学生によるプレゼンテーション（模擬授業）を取り入れた科目である。新聞等の記事にも普段から目を向け、宗教に関する知識を養うことが望ましい。いかなる理由であれ模擬授業を行わなかった場合は失格とする。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員（教科「宗教」）として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、教科「宗教」の授業内容・方法について具体的に指導する。

科目名	宗教科教育法Ⅳ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	富田向真	
ナンバリング	G3-20-191	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

・教科「宗教」の指導方法を学び、授業が円滑にできるようになることを目的とする。・教育実習Ⅰ（見学実習）を修了していることを前提として、教育実習Ⅱ（教壇実習）に向けた教授法、そして指導案作成の実際を学ぶ。また年間教育計画、期間教育計画、学習指導案の作成方法を学ぶ。

### 授業の到達目標

宗教科の授業内容やその教授方法を学び、さらに学習指導案や単元計画、年間授業計画の作成方法を理解することで年間を通じた授業が実践できるようになる。また、模擬授業を実践し、指導案に即した授業展開ができることを目指す。

### 授業計画

1. 教科「宗教」の授業計画（目的、目標、方法、評価）について学ぶ。
2. 学習指導要領に教科「宗教」がなぜないのか。その意味について理解する。
3. 年間授業計画の作成方法を学び、作成する。
4. 期間授業計画の作成方法を学び作成する。
5. 教科「宗教」の指導法について学ぶ。系統型、経験型、問答型、討論型、その他の方法
6. 系統型と経験型の学習指導案作成の方法について学び作成する。
7. 系統型授業による学習指導案の点検及び修正を行う。
8. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。
9. 授業評価の種類と方法について理解する。
10. 経験型授業による学習指導案の点検及び修正を行う。
11. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。（1）
12. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。（2）
13. 多面的に授業の評価を行うことの重要性について理解する。
14. 宗教教育の意義（1） 宗教教育の効果を考える
15. 宗教教育の意義（2） 宗教教育に求められる姿を共に考える

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習としてテキスト『青少年のための仏教読本』を熟読し、教壇に立つことをイメージした授業計画を作成しておく（60分）。また、事後学習として授業で学んだ内容を振り返り、作成した授業計画を修正しながら次の時間に備える（60分）

### テキスト

富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所発行（大師教会で販売 1200円）

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

### 学生に対する評価

定期試験（40%）、毎回の授業の取り組み（30%）、模擬授業の取り組み（30%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教科の授業内容やその教授方法について理解でき、指導案などが適切に作成できると認められる最低限の成績である
- (B) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解でき、指導案作成の内容に即した授業展開が見込めると認められる成績である
- (A) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解した上で指導案作成も適切であり、授業展開が実際に可能と思われる優れた成績である
- (S) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解した上で指導案作成も適切であり、授業展開が実際に可能と思われ、特に優れた成績である

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

宗教科授業の指導案作成の提出、また作成した指導案に基づいた模擬授業を実施する。遅刻は原則認めない（教育実習先に迷惑をかけた観点から、本学授業でも遅刻を認めないとする）。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

現在高野山高校の教諭（宗教科主任）である教員が、その経験を活かして実際の授業（宗教）について解説し、机上でなく実際の指導案作成法を教授すると共に、実際の授業展開を教育実習に向けて指導する。

科目名	国語科教育法 I							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-20-192	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。学習指導案の作成の意義・手順などを具体的に指導する。また、指導案の書き方を学ぶ。

## 授業の到達目標

国語への関心を高め、表現力を伸長し、日本文化と伝統についての理解を深める。学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。

## 授業計画

1. 国語科教育の目的・目標（中学校と高等学校）について解説する。
2. 中学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
3. 高等学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
4. 高等学校における古典の授業の方法を具体的に考える。
5. 学習指導案とは何か。その意義と目的について解説する。
6. 教材研究の方法と指導案の作成方法（1）外山滋比古『知的創造のヒント（1）』
7. 教材研究の方法と指導案の作成方法（2）外山滋比古『知的創造のヒント（2）』
8. 教材研究の方法と指導案の作成方法（3）古文『十訓抄』一願宗といふ笛吹き一
9. 教材研究の方法と指導案の作成方法（4）古文『竹取物語』かぐや姫のおひたち
10. 教材研究の方法と指導案の作成方法漢文「返り点のつけかた」
11. 国文法の授業の問題点と課題（口語の場合）
12. 国文法の授業の問題点と課題（文語の場合）
13. 教員による実践授業（1）現代文
14. 教員による実践授業（2）古文
15. 総括講義国語科の授業の必要性など定期試験

## 準備学習(予習・復習)・時間

国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく（45～60分）

## テキスト

①国語総合（第一学習社平成28年）②『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）③『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

## 参考書・参考資料等

国語科教育研究（学芸図書）

## 学生に対する評価

発表（50%）、レポート（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) (B) にやや劣るもの。  
 (B) (S) ①②③の一部でも欠けているもの。  
 (A) (S) にやや不十分な点があるもの。  
 (S) 国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

## その他

・単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。 ・ICT機器を活用しながら、アクティブラーニング形式の授業を取り入れる。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立高等学校で18年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法について各単元ごとに学習指導案の作成手順や授業方法など具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-20-193	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

毎時間1名による模擬授業(50分)とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導(40分)。忌憚のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶ。

## 授業の到達目標

実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また、引き続き教育法Ⅰにおける各単元における指導案の書き方も研究する。

## 授業計画

1. ガイダンス(模擬授業の意義、指導案の目的と意義)
2. 現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の教材研究と指導案作成を解説する。
3. 現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の模擬授業を行う。
4. 古文〈物語〉「伊勢物語」の教材研究と指導案作成を解説する。
5. 古文〈物語〉「伊勢物語」の模擬授業を行う。
6. 古典文法「動詞の活用」の教材研究と指導案作成を解説する。
7. 古典文法「動詞の活用」の模擬授業を行う。
8. 高校現場で国語の授業を見学し授業記録の作成と指導法を学ぶ。
9. 高校現場で国語担当教員及び教育実習生の体験談を聞く。
10. 高校現場での体験交流を行い、円滑な模擬授業の参考にする。
11. 漢文「漁夫の利」の模擬授業と相互評価を行う。
12. 古文〈物語〉「竹取物語」の模擬授業と相互評価を行う。
13. 国語表現「報告文と手紙を書く」の模擬授業と相互評価を行う。
14. 現代文〈詩歌〉「一つのメルヘン」の模擬授業と相互評価を行う。
15. 古文〈詩歌〉「新古今集」の模擬授業と相互評価を行う。

## 準備学習(予習・復習)・時間

国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく(45~60分)

## テキスト

国語総合(第一学習社)

## 参考書・参考資料等

①国語科教育研究(学芸図書)②『中学校学習指導要領解説国語編』(文部科学省・東洋館出版)③『高等学校学習指導要領解説国語編』(文部科学省・教育出版)

## 学生に対する評価

定期試験(50%)とレポート(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)(B)にやや劣るもの。  
 (B)(S)①②③の一部でも欠けているもの。  
 (A)(S)にやや不十分な点があるもの。  
 (S)国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

## その他

・単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。・ICT機器を活用しながら、アクティブラーニング形式の授業を取り入れる。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立高等学校教諭として18年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法や各単元ごとの学習指導案の作成手順など具体的に指導する。



科目名	国語科教育法Ⅲ						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-20-194	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

教壇に立って授業を展開するためには、授業者に明確な授業計画とそれを支える知識がなければならない。また、学習指導要領が改訂され、今後の国語教育は大きく変わっていくことが予想される。そこで本講義では、まず『中学校学習指導要領』および『高等学校学習指導要領』に記された国語科教育の理念や内容を理解し、理想とする国語科教員のイメージと、今後求められる国語教育のあり方について考える。次に、「現代の国語」（現代文）、「言語文化」（古文）からそれぞれ題材を選び、教材研究と指導案の作成、模擬授業を通して、国語科教員としての実践力を養っていく。また、不定期に小テストを行い、基礎学力の向上を目指す。

## 授業の到達目標

現代文と古文の教材の指導法を習得し、実践できるようになる。

## 授業計画

1. ガイダンス
2. 『中学校学習指導要領 国語』の研究①—国語を学ぶ意味—
3. 『中学校学習指導要領 国語』の研究②—現代文と古文から何を学ぶのか—
4. 『高等学校学習指導要領 国語』の研究①—中学校「国語」との共通点—
5. 『高等学校学習指導要領 国語』の研究②—中学校「国語」との違い—
6. 高等学校「現代の国語」における教材研究の方法
7. 高等学校「現代の国語」における学習指導案の作成方法
8. 高等学校「現代の国語」の模擬授業—教材研究の観点から—
9. 高等学校「現代の国語」の模擬授業—学習指導案作成の観点から—
10. 高等学校「言語文化」における教材研究の方法
11. 高等学校「言語文化」における学習指導案の作成方法
12. 高等学校「言語文化」の模擬授業—教材研究の観点から—
13. 高等学校「言語文化」の模擬授業—学習指導案作成の観点から—
14. 文学史の知識とその活用法
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲について自身で調べ（60分）、事後学修として講義内容をまとめておくこと（90分）。

## テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（東洋館出版、2018年）、文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（東洋館出版、2019年）（書店で購入）

## 参考書・参考資料等

糸井通浩・植山俊宏編『国語教育を学ぶ人のために』（世界思想社、1995年） その他、講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

模擬授業（60%）、不定期に実施する小テストならびに小レポート（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 国語を学ぶことについて、その意義を理解している。
- (B) 理想的な国語科教員像を提示できている。
- (A) 基礎学力があり、学習指導案に沿って授業ができています。
- (S) 基礎学力があり、学習指導案に沿ってわかりやすい授業ができています。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回討議を重ね、講義後、個別に質問を受け付ける。

## その他

受講は国語の教員免許取得を目指す学生に限る。5分の1（3回）以上の欠席があった場合、成績は評価しない。

科目名	国語科教育法Ⅳ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G3-20-195	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

基礎的な国語力を養成するため、評論・小説・古文・漢文の読解を通じて、その教材を学ぶ意味、教員としての知識と思考力などを養う。教材研究・指導案作成・模擬授業などを体験する。

## 授業の到達目標

基礎学力の向上、指導法の練成、情報機器を活用する能力の上達。教壇に立つための基盤をつくる。

## 授業計画

1. ガイダンス（講義の進め方、成績評価の基準）
2. 評論文の教材研究の方法について解説する。
3. 評論文の指導案作成の方法について講義する。
4. 評論文の模擬授業と授業評価を行う。
5. 小説を教材研究の視点から考察する。
6. 小説を学習指導案作成の視点から考察する。
7. 小説の模擬授業と授業評価を行う。
8. 古文を教材研究の視点から考察する。
9. 古文を学習指導案作成の視点から考察する。
10. 古文の模擬授業と授業評価を行う。
11. 漢文を教材研究の視点から考察する。
12. 漢文を学習指導案作成の視点から考察する。
13. 漢文の模擬授業と授業評価を行う。
14. 現代文を学ぶ意味について考える。
15. 古典を学ぶ意味について考える。定期試験

## 準備学習(予習・復習)・時間

教材研究（60分） 指導案作成（30分）

## テキスト

なし 中学・高校の国語教科書が採用している作品を用意して配布する。

## 参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

## 学生に対する評価

教材研究（25%）、指導案作成（25%）、模擬授業（25%）、定期試験（25%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指導案作成・発話・板書・情報機器活用の基本ができています。
- (B) 上記について、臨機応変な対応ができる。
- (A) 上記について、教え方に分かりやすさが認められる。
- (S) 上記について、豊かな教養や教育への情熱が感じられる。

## 課題に対するフィードバックの方法

意見・質問などについては、授業内で対応する。 オフィス・アワーでも対応する。

## その他

受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高等学校・高等専門学校における国語科の実務経験がある担当教員が、教室における生徒の反応など、想定される事態について、具体的な事例を挙げて紹介する。

科目名	教育実習の研究							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木・佐々木	
ナンバリング	G3-17-196	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

①教育実習の事前に、実習の構造、実習の意義、実習における学びのポイントを確認し、実習に臨む心構えを整える。②教育実習の事後、実習内容のまとめと発表を通じて、実習を振り返り、他の実習生の体験を共有化することで、実習での学びを定着させる。

## 授業の到達目標

教育実習を通して、学校教育の全体を体験的・総合的に理解する問い目標を達成するため、事前学習並びに事後振り返りを行う。教員としての能力や適性を確認するとともに、将来教員として行う教育実践と教育実践研究に必要な知識・技能が何かを理解する。

## 授業計画

1. 教育実習の構造と意義 (担当：鈴木)
2. 実習生の心得 (担当：鈴木)
3. 授業観察のポイント (担当：鈴木)
4. 実習日誌の作成のポイント (担当：鈴木)
5. 実習日誌作成演習 (担当：鈴木)
6. 教育実習
7. 教育実習
8. 教育実習
9. 教育実習
10. 教育実習
11. 実習内容の振り返り (実習生発表) 1 (担当：佐々木)
12. 実習内容の振り返り (実習生発表) 2 (担当：佐々木)
13. 実習生ディスカッション (担当：佐々木)
14. 教員免許取得までに必要な知識・技能 (担当：佐々木)
15. 教育実習での学びを踏まえた教員像 (担当：佐々木)

## 準備学習(予習・復習)・時間

『教育実習の常識』の該当箇所を事前に研究しておく(予習)。講義内容を自ら振り返り、教育実習への準備においては実習での学習目標を明確化し、事後楽手においては、体験の深化・共有を図る(復習)(計90分以上)。

## テキスト

教育実習を考える会編『教育実習の常識』蒼丘書林

## 参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

## 学生に対する評価

定期試験(40%)、授業における発表(60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業参加において、授業技術を観察できる。
- (B) 授業参観において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。
- (A) 授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。
- (S) 授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解し、それを授業実践に生かすことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

テストにコメントを付し、返却する。

## その他

今年度の教育実習Ⅰに行く学生は、必ず「教育実習の研究」を受講すること。

科目名	教職実践演習(中・高)							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木・佐々木	
ナンバリング	G4-17-197	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

4年間の教職科目の学習及び教育実習を通じて、教育指導の技術の一層の進化と定着を図ることを目標とする。

## 授業の到達目標

4年間の教職科目の学習及び教育実習の経験などを通じて、教職に対する理解がどれだけ深まったか。教職に対する意欲がどれだけ高揚したかを確認し、具体的な指導方法の向上を図る。

## 授業計画

1. 本演習の目指す目標・内容について解説する。各自の教職実践演習カルテの記入。
2. 各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。
3. 教職および教師に対する見方の変化を発表する。
4. 生徒指導（反社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
5. 生徒指導（非社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
6. 教育実習で体験した生徒指導上の問題について意見交換。
7. 自分自身の学校生活を振り返っての生徒指導についての意見交換。
8. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅰー進学希望生徒の場合ー
9. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅱー就職希望生徒の場合ー
10. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅲー進路未決定生徒の場合ー
11. ミニ模擬授業Ⅰー授業方法と技術ー
12. ミニ模擬授業Ⅰー授業構成と評価ー
13. 授業方法、授業順序、内容構成、生徒指導のかかわりについて考察する。
14. 教職実践演習カルテの記入事項の再点検と個人的課題の整理。
15. 教職実践演習カルテを記入した個々の学生に対してカウンセリングを行う。まとめ。

## 準備学習(予習・復習)・時間

配布資料を読んでおく。事前に配布したディスカッションや課題の発表の準備をする。(100分) 授業で用いた資料やディスカッションの内容などをノートに整理しておく。(80分)

## テキスト

プリント等、資料を配布する。

## 参考書・参考資料等

①原田恵理子、森山賢一編著、『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版②伊藤一雄他著『新・教育指導の理論と実践』サンライズ出版2006,4

## 学生に対する評価

レポート(30%)、発表(40%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教員として必要な最低の実務能力が身につけているか。
- (B) 教員として必要な最低の実務能力を身につけ、教職に対する理解と意欲が深まったか。
- (A) 生徒指導の基本を身につけ、教職に対する理解が深まったか。
- (S) 進路指導や職業指導の基本知識を習得しているか。

## 課題に対するフィードバックの方法

小レポートや指導案等は添削して返却する。

## その他

積極的な発言を求める。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

18年間の公立高等学校教諭の経験から、学校生活(教科の授業・特別活動の指導・生徒指導・進路指導など)、教師として働くということをより具体的に理解する授業にするために、ICT機器を活用しながら、アクティブ・ラーニングを基本に授業を展開していく。

科目名	空海の思想入門B							学期	前期
副題	歴史学から探究する弘法大師空海の生涯				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G1-01-198	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

弘法大師空海の教えは、本学の建学の精神である。したがって、弘法大師空海の生涯を知ることは、本学での学びの基礎となる。本授業では、「空海のことば」をもとにして、歴史学の立場から弘法大師空海の生涯を探究し、その歴史的意義を理解するとともに、その思想がどのような歴史的背景によって生成されてきたのかを考察できる視点を養うことを目指す。

## 授業の到達目標

①弘法大師空海の生涯を知り、その歴史的意義を理解する。 ②弘法大師空海思想形成における歴史的背景を考察することができる。 ③弘法大師空海の生涯を学ぶことを通して、現代の諸課題に対応できる洞察力を身につける。

## 授業計画

1. 空海が活躍した時代の社会—律令制国家とは？—
2. 空海が活躍した時代の仏教①—聖武天皇による仏教興隆—
3. 空海が活躍した時代の仏教②—「尼天皇」称徳天皇と仏教—
4. 空海が活躍した時代の仏教③—桓武天皇による革新—
5. 誕生と佐伯直—讃岐での少年時代—
6. おじ阿刀大足と伊予親王—青年時代の環境—
7. 「一沙門」との出会い—「沙門空海」の誕生—
8. 『鸞誓指帰』の撰述—入唐求法への軌跡—
9. 唐代密教の隆盛①—不空三蔵による護国思想の導入—
10. 唐代密教の隆盛②—恵果阿闍梨の足跡—
11. 入唐求法の日々—『御請来目録』から—
12. 「一沙門」との出会い—「沙門空海」の誕生—
13. 嵯峨天皇・伝教大師最澄との交流—「韜黙」の日々—
14. 真言密教の宣布—「勸縁疏」と高野山の開創—
15. 真言密教による護国と衆生救済—上へ国家の奉為に、下は諸の修行者の為—

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心を持ったテーマや人物について調べる（60分）

## テキスト

授業時に配布するプリントによって授業を進める。

## 参考書・参考資料等

①渡辺照宏・宮坂宥勝『沙門空海』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、1993年） ②高木神元『空海 還源への歩み』（春秋社、2019年） ③吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、講談社、2018年） その他、授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業で行う課題（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 弘法大師空海の生涯について説明できる。
- (B) 弘法大師空海の生涯について、時代背景を理解したうえで説明できる。
- (A) 弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義を説明できる。
- (S) 弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義をふまえて、思想形成の背景について考察することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

毎回の授業において、弘法大師空海ゆかりの地などを紹介する。受講生は、積極的にその地を訪ね、さらに理解を深めていただきたい。

科目名	サンスクリット語 I B / サンスクリット語 B					学期	通年		
副題	-				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M1-07-199	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

### 授業の目的と概要

サンスクリット語とはどんな言語かを理解するために、その文法体系を学び、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を養う。

### 授業の到達目標

サンスクリット語とはどんな言語かを理解し、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を付ける。

### 授業計画

#### 【前期】

1. オリエンテーション
2. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。①
3. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。②
4. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。③
5. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。④
6. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑤
7. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑥
8. 短文読解力を身に着ける。①
9. 短文読解力を身に着ける。②
10. 短文読解力を身に着ける。③
11. 短文読解力を身に着ける。④
12. 短文読解力を身に着ける。⑤
13. 原典翻訳①
14. 原典翻訳②
15. 原典翻訳③

#### 【後期】

1. 原典翻訳④
2. 原典翻訳⑤
3. 原典翻訳⑥
4. 原典翻訳⑦
5. 原典翻訳⑧
6. 原典翻訳⑨
7. 原典翻訳⑩
8. 原典翻訳⑪
9. 原典翻訳⑫
10. 原典翻訳⑬
11. 原典翻訳⑭
12. 原典翻訳⑮
13. 原典翻訳⑯
14. 原典翻訳⑰
15. 原典翻訳⑱、まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(60分) 事後学修として、授業で学んだことを復習し、理解を深めておくこと。(60分)

### テキスト

担当者作成のテキストのコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波全書)

### 学生に対する評価

学期末(前期・後期)の試験(80%)と、授業態度(20%)によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) Sandhi 法則を理解し、結合文字を分解できること。
- (B) 音法則の理解を通して、語根を類推する能力を身に着けていること。語の音論を理解していること。
- (A) 簡単な短文を翻訳する能力を身に着けていること。
- (S) 難解な仏教外文献を翻訳できること。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

科目名	仏教史概説 I C / 仏教史概説 C							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-200	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史的変容を被りながら展開して行ったかについて理解する。

### 授業の到達目標

仏教がインドのいかなる思想を背景に誕生し、いかなる歴史的変容を被りながら展開して行ったかについての基本的知識を身につける。

### 授業計画

1. 導入：仏教が興起する以前のインド
2. バラモン教の思想：ヴェーダの思想的特徴
3. ヴェーダの思想的特徴
4. 古ウパニシャッドの思想①（ブラフマン）
5. 古ウパニシャッドの思想②（梵我一如）
6. 反ヴェーダ思想（六師外道）
7. ジャイナ教の思想
8. 釈尊の誕生から成道までの歴史概観
9. 初期仏教思想の特徴①（縁起）
10. 初期仏教思想の特徴②（慈悲）
11. 大乘諸派の（全般）
12. 『般若経』の特徴
13. 『法華経』の特徴
14. 『華嚴経』の特徴
15. 初期仏教と大乘の思想的相違点

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60分）

### テキスト

担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。

### 参考書・参考資料等

前谷彰（恵紹）著『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』講談社

### 学生に対する評価

期末試験（100%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている
- (B) ヴェーダの基本的思想を理解し、ウパニシャッドにおける梵我一如の思想を理解していること。
- (A) (B) の理解を踏まえ、初期仏教における「縁起」の思想を理解していること。
- (S) (B)・(A) の理解に加え、初期仏教と大乘の思想の違いについて、自身の見解を明らかにし得る能力を有していること。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

科目名	仏教史概説ⅡD／仏教史概説D							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-201	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

仏教史の展開において、中国仏教史からはじめ、日本における仏教伝来期から奈良・平安・鎌倉と展開する仏教思想の特徴を概説し、特に平安期における最澄と空海の思想的相違点を詳しく概説して行く。

### 授業の到達目標

仏教史の中でも特に日本仏教の特徴について概説する。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 中国仏教の特徴（特に教相判釈を中心として）
3. 大乘非仏説論（富永仲基の『出定後語』を中心として）
4. 仏教伝来期の日本の様相
5. 奈良（南都）仏教の特徴について
6. 平安仏教の特徴（総説）
7. 最澄の思想
8. 空海の思想①（『十住心論』）
9. 空海の思想②（『即身成仏義』）
10. 空海の思想③（『般若心経秘鍵』）
11. 鎌倉仏教（総説）
12. 真言宗・浄土（浄土真宗）の思想的相違点
13. 禅宗（特に曹洞宗）の思想的特徴
14. 菩提志向・現世利益
15. 仏教思想の普遍性について

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことを復習する（60分）

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

担当者が作成のテキストをコピーして配布する。

### 学生に対する評価

授業参加への積極性（30%）、学期末の試験（70%）によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 日本仏教史の特徴を菩提志向と救済論的な側面から分析する能力を有すること。
- (A) 仏教の歴史を的展開を時代ごとの思想的特徴を踏まえて説明できる。
- (S) 仏教思想を現代の諸問題に応用して、説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

ノートを漏らさずとり、欠席しないこと。復習を欠かさない。



科目名	祖典講読 I C					学期	通年		
副題	『即身成仏義』を読む 1				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M2-01-202	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

## 授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

## 授業計画

【前期】		【後期】	
1. 講義の進め方とテキストの紹介		1. 概論と前期の復習	
2. 成仏とは？—三劫成仏と即身成仏—		2. 『即身成仏義』を読む (11) 「六大能生」①	
3. 『即身成仏義』の撰述時期と異本『即身成仏義』		3. " (12) 「六大能生」②	
4. 四声読み		4. " (13) 「六大の顕密／無碍自在の身」	
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答		5. " (14) 「四種曼荼羅各不離」① 三種秘密身	
6. " (2) 二経一論八箇の証文①『金剛頂経』		6. " (15) 「四種曼荼羅各不離」② 四種曼荼羅・四種智印	
7. " (3) 二経一論八箇の証文②『大日経』		7. " (16) 「三密加持速疾頌」① 法仏の三密と三密行	
8. " (4) 二経一論八箇の証文③『菩提心論』		8. " (17) 「三密加持速疾頌」② 『五秘密儀軌』	
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)		9. " (18) 「三密加持速疾頌」③ 加と持	
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)		10. " (19) 「重重帝網名即身」	
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)		11. " (20) 「法然具足薩婆若」	
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)		12. " (21) 「心数心王過利塵」	
13. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 六大の秘義 (前編)		13. " (22) 「各具五智無際智」	
14. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 六大の秘義 (後編)		14. " (23) 「円鏡力故実覺智」	
15. 前期のまとめ—即身成仏思想の特徴		15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か	

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

## テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←難波サテライト事務室で購入)

## 参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。  
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。  
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。  
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読 I C							学期	前期
副題	『即身成仏義』を読む 1				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M2-01-203	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なものである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

## 授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

## 授業計画

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは？—三劫成仏と即身成仏—
3. 『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答
6.                   "                  (2) 二経一論八箇の証文① 『金剛頂経』
7.                   "                  (3) 二経一論八箇の証文② 『大日経』
8.                   "                  (4) 二経一論八箇の証文③ 『菩提心論』
9.                   "                  (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)
10.                  "                  (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)
11.                  "                  (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)
12.                  "                  (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)
13.                  "                  (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」 ① 六大の秘義 (前編)
14.                  "                  (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」 ② 六大の秘義 (後編)
15. 前期のまとめ—即身成仏思想の特徴

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所を素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

## テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←難波サテライト事務室で購入)

## 参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梶尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 「発端問答」と「二頌八句」を暗誦できる。  
 (B) 「発端問答」と「二頌八句」を暗誦でき、「二経一論八箇の証文」の内容を把握している。  
 (A) 「発端問答」と「二頌八句」の暗誦、「二経一論八箇の証文」の内容把握に加えて、基本的な用語を把握している。  
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、即身成仏思想の特徴を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅡC						学期	後期	
副題	『即身成仏義』を読む 2			授業方法	講義	担当者	土居夏樹		
ナンバリング	M2-01-204	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカバーして、テキストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後は、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。

## 授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

## 授業計画

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (11) 「六大能生」①
3.                   "                   (12) 「六大能生」②
4.                   "                   (13) 「六大の顕密／無碍自在の身」
5.                   "                   (14) 「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6.                   "                   (15) 「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7.                   "                   (16) 「三密加持速疾顕」① 法仏の三密と三密行
8.                   "                   (17) 「三密加持速疾顕」② 『五秘密儀軌』
9.                   "                   (18) 「三密加持速疾顕」③ 加と持
10.                   "                   (19) 「重重帝網名即身」
11.                   "                   (20) 「法然具足薩般若」
12.                   "                   (21) 「心教心王過刹塵」
13.                   "                   (22) 「各具五智無際智」
14.                   "                   (23) 「円鏡力故実覚智」
15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。 ・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。 ・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

## テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←難波サテライト事務室で購入)

## 参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。  
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。  
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。  
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅡE					学期	通年		
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-205	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	4	他	—

## 授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、漢文の注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。

## 授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

## 授業計画

### 【前期】

1. 『吽字義』とは何か（書誌的解説）
2. 梵字の基礎知識を学ぶ
3. 吽字の字相
4. 吽字の字義
5. 阿字の字義（略説）
6. 阿字の実義（本初不生の実義）
7. 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
8. 汗字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
9. 汗字の実義（小乗・大乘よりの実践）
10. 汗字の実義（六義よりの実践①）
11. 汗字の実義（六義よりの実践②）
12. 汗字の実義（字門道よりの実践①）
13. 汗字の実義（字門道よりの実践②）
14. 試験
15. 試験問題の解説

### 【後期】

1. 前半の復習・補説
2. 偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
3. 偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
4. 摩字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
5. 摩字の実義（自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等摂持の実義）
6. 摩字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
7. 吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
8. 吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
9. 吽字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
10. 吽字合説の余義（※典拠となった『大日経』の一節を読む）
11. 吽字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
12. 吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歡喜の義趣）
13. 総括
14. 試験
15. 試験問題の解説

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

## テキスト

『十卷章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 ※注釈書はコピーを配布

## 参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社） / 弘法大師著作研究会編『吽字義の研究』（高野山大学密教文化研究所紀要別冊） など

## 学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	祖典講読ⅢE							学期	前期
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-206	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、漢文の注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。

### 授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

### 授業計画

- 『吽字義』とは何か（書誌的解説）
- 梵字の基礎知識を学ぶ
- 吽字の字相
- 吽字の字義
- 阿字の字義（略説）
- 阿字の実義（本初不生の実義）
- 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
- 汗字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
- 汗字の実義（小乗・大乘よりの実践）
- 汗字の実義（六義よりの実践①）
- 汗字の実義（六義よりの実践②）
- 汗字の実義（字門道よりの実践①）
- 汗字の実義（字門道よりの実践②）
- 試験
- 試験問題の解説

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

### テキスト

『十巻章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 ※注釈書はコピーを配布

### 参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社） / 弘法大師著作研究会編『吽字義の研究』（高野山大学密教文化研究所紀要別冊） など

### 学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

### その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	祖典講読ⅣE							学期	後期
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-207	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、漢文の注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。

## 授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

## 授業計画

1. 前期の復習・補説
2. 偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
3. 偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
4. 摩字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
5. 摩字の実義（自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等摂持の実義）
6. 摩字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
7. 吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
8. 吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
9. 吽字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
10. 吽字合説の余義（※典拠となった『大日経』の一節を読む）
11. 吽字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
12. 吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歓喜の義趣）
13. 総括
14. 試験
15. 試験問題の解説

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

## テキスト

『十巻章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 ※注釈書はコピーを配布

## 参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社） / 弘法大師著作研究会編『吽字義の研究』（高野山大学密教文化研究所紀要別冊） など

## 学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	密教学講読演習G							学期	後期
副題	密教図像学を学ぶ				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-01-208	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

密教学講読演習Fで学んだ知識を基本とし、図像学的見地から各種曼荼羅の尊像の成立に関して様々な角度から比較研究を行う。本授業では、前期で行った図像資料講読演習を基礎とし、曼荼羅に登場する尊格についての譜系を総合的に学習する。そのため、基礎知識として前期の授業での講読演習が不可欠となるので通期で受講することが望ましい。

## 授業の到達目標

各種曼荼羅における密教尊像の基本構成を学習し、図像学の立場から密教の流伝を学ぶことを目的とする。

## 授業計画

1. 概論(講義の進め方等)
2. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (仏の種類)
3. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (仏の展開)
4. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (密教仏の種類)
5. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (密教仏の展開)
6. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (曼荼羅諸尊の種類)
7. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (曼荼羅諸尊の展開)
8. 密教の流伝に関する基礎知識 (初期密教以前の密教要素)
9. 密教の流伝に関する基礎知識 (初期密教)
10. 密教の流伝に関する基礎知識 (中期密教 前期)
11. 密教の流伝に関する基礎知識 (中期密教 前期)
12. 密教の流伝に関する基礎知識 (中期密教 後期)
13. 密教の流伝に関する基礎知識 (後期密教 前期)
14. 密教の流伝に関する基礎知識 (後期密教 後期)
15. 密教の流伝の総合的評価

## 準備学習(予習・復習)・時間

予習の必要はないが、授業後に復習することが望ましい。約2時間。

## テキスト

大正新脩大蔵経図像部

## 参考書・参考資料等

①松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年②頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年③佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

## 学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (30%)、ノート作成 (10%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 曼荼羅に関する基礎知識を習得する
- (B) 密教尊像に関する基礎知識を習得する
- (A) 尊像の流伝に関して理解する
- (S) 密教図像に関して体系的に理解できる

## 課題に対するフィードバックの方法

授業毎に行う。

## その他

科目名	密教学講読演習J							学期	後期
副題	インド密教史における密教経典の発達				授業方法	講義	担当者	乾龍仁	
ナンバリング	M3-01-209	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

インドにおける仏教は、紀元前5世紀頃に登場した釈尊によって創始され、その後13世紀初頭に終焉する。その間、仏教は1700年余りにわたってインドにおいて栄えた。密教はその最期期に登場した宗教形態である。本授業はインドにおける密教の発達を辿りながら、その過程でどのような密教経典が成立したのか、思想と実践の両面からそれぞれの特色を把握する。

## 授業の到達目標

経典成立史の視点からインド密教史の概要を理解する。

## 授業計画

1. 授業の案内
2. 古代インドの文明と宗教
3. インド仏教史の時代区分
4. 仏教と呪術
5. 大乘仏教と陀羅尼信仰
6. 印契の登場
7. マンダラの登場
8. 密教独自の尊像の登場
9. 初期密教経典とは
10. 初期密教経典とは
11. 中期密教経典とは
12. 中期密教経典とは
13. 後期密教経典とは
14. 後期密教経典とは
15. 密教と菩提心

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に配布する資料に目を通しておき、分からない専門用語について調べておくこと(90分)。また授業で理解できなかったことについて、授業終了後に自ら調べ、それでも分からないことについては次の授業で質問できるようにメモしておくこと(90分)。

## テキスト

テキストは、主として拙著『真言宗のお経』(非売品)を使用するが、これだけでは足りないため、一部は松長有慶著『密教の歴史』平楽寺書房も使用する。

## 参考書・参考資料等

授業中に随時紹介する。

## 学生に対する評価

小テスト5回(50%)、レポート試験(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) インドにおける仏教と密教の時代区分を覚えている。  
 (B) インドにおける仏教と密教の時代区分および代表的な経典について、テキストを見ながら紹介することができる。  
 (A) インドにおける仏教と密教の時代区分について、テキストを見ないで自分の言葉で紹介することができる。  
 (S) インドにおける仏教と密教の時代区分および代表的な経典について、テキストを見ないで自分の言葉で紹介することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出された小テストやレポートは、その都度返却する。質問も随時受け付ける。

## その他

テキストの購入等については、最初の講義時に案内する。



科目名	密教学講読演習K							学期	前期
副題	『性霊集』を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M3-01-210	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

弘法大師空海の漢詩文集『遍照發揮性霊集』を精読することによって、空海の文体の特徴などを理解し、作者の心情について考える。あわせて、空海の記事を講読するために必要な中国古典・仏典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。同時に、中国古典・仏典が空海の知識の源泉であることを認識し、その文章作成の技法などについて理解を進めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。論文作成に必要な技術を修得する。

## 授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を講読できる。 ○漢文を自学自習するための技法を修得している。 ○空海の文体の特徴を説明できる。 ○「典故を踏む」という技法を説明できる。 ○作者の心情を推し量ることができる。

## 授業計画

1. 28 「進悉曇等書表」(1) 「沙門空海言……」を読む
2. 28 「進悉曇等書表」(2) 「空海聞帝道……」を読む
3. 28 「進悉曇等書表」(3) 「皇風動地……」を読む
4. 28 「進悉曇等書表」(4) 「故能龍卦……」を読む
5. 28 「進悉曇等書表」(5) 「鳳書虎字……」を読む
6. 28 「進悉曇等書表」(6) 「於焉結繩……」を読む
7. 28 「進悉曇等書表」(7) 「刻木寢以……」を読む
8. 28 「進悉曇等書表」(8) 「明皇因之……」を読む
9. 28 「進悉曇等書表」(9) 「蒼生仰之……」を読む
10. 28 「進悉曇等書表」(10) 「不出戸庭……」を読む
11. 28 「進悉曇等書表」(11) 「不因聖智……」を読む
12. 28 「進悉曇等書表」(12) 「稽古温故……」を読む
13. 28 「進悉曇等書表」(13) 「自我垂範……」を読む
14. 28 「進悉曇等書表」(14) 「況復悉曇……」を読む
15. 前期到達度の確認

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと (30分)。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと (30分)。出典を探し、原典を確認しておくこと (30分)。

## テキスト

坂田光全『性霊集講義 平成新訂』(高野山出版社)のコピーを配布する。 運敞『遍照發揮性霊集便蒙』(『真言宗全書』42巻所収)のコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店 1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店 2000年修訂増補 『密教大辞典』法蔵館昭和7年初版 水野弘元『仏教の基礎知識』2009年新版 など

## 学生に対する評価

定期試験 (50%)、発表 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
- (B) 未知の語彙・語法・典故に気付き、調べることができる。
- (A) テキストの内容を理解し、説明できる。
- (S) 自分の考えを論理的に説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。高野山校における卒業論文指導の一環として、学生からの質問・要望などに、臨機応変に対処する。難波サテライトへは双方向遠隔授業を予定している。

科目名	密教学講読演習L							学期	後期
副題	『性霊集』を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M3-01-211	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

弘法大師空海の漢詩文集『遍照發揮性霊集』を精読することによって、空海の文体の特徴などを理解し、作者の心情について考える。あわせて、空海の記事を講読するために必要な中国古典・仏典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。同時に、中国古典・仏典が空海の知識の源泉であることを認識し、その文章作成の技法などについて理解を進めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。論文作成に必要な技術を修得する。

## 授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を講読できる。 ○漢文を自学自習するための技法を修得している。 ○空海の文体の特徴を説明できる。 ○「典故を踏む」という技法を説明できる。 ○作者の心情を推し量ることができる。

## 授業計画

1. 28 「進悉曇等書表」(15) 「梵書之字母……」を読む
2. 28 「進悉曇等書表」(16) 「所以三世……」を読む
3. 28 「進悉曇等書表」(17) 「伏惟皇帝……」を読む
4. 28 「進悉曇等書表」(18) 「露沈文下……」を読む
5. 28 「進悉曇等書表」(19) 「玉燭調和……」を読む
6. 28 「進悉曇等書表」(20) 「空海人は……」を読む
7. 28 「進悉曇等書表」(21) 「窟觀余暇……」を読む
8. 28 「進悉曇等書表」(22) 「毎見蒼史……」を読む
9. 28 「進悉曇等書表」(23) 「諺曰……」を読む
10. 28 「進悉曇等書表」(24) 「伏奉布施……」を読む
11. 28 「進悉曇等書表」(25) 「伏乞天慈……」を読む
12. 28 「進悉曇等書表」(26) 「伏願陛下……」を読む
13. 28 「進悉曇等書表」(27) 「達水遥浦……」を読む
14. 28 「進悉曇等書表」(28) 「常住之字……」を読む
15. 後期到達度の確認

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと (30分)。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと (30分)。出典を探し、原典を確認しておくこと (30分)。

## テキスト

坂田光全『性霊集講義 平成新訂』(高野山出版社)のコピーを配布する。 運敵『遍照發揮性霊集便蒙』(『真言宗全書』42巻所収)のコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店 1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店 2000年修訂増補 『密教大辞典』法蔵館 昭和7年初版 水野弘元『仏教の基礎知識』2009年新版 など

## 学生に対する評価

定期試験 (50%)、発表 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
- (B) 未知の語彙・語法・典故に気付き、調べることができる。
- (A) テキストの内容を理解し、説明できる。
- (S) 自分の考えを論理的に説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。高野山校における卒業論文指導の一環として、学生からの質問・要望などに、臨機応変に対処する。難波サテライトへの双方向遠隔授業を予定している。

科目名	仏教学講読演習C							学期	後期
副題	心とはなにかⅡ				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-212	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乘仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

## 授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

## 授業計画

1. オリエンテーション（講義の進め方等）とビデオ鑑賞（仏教に関するもの）
2. アビダルマ仏教－南方上座部ならびに説一切有部の範疇論－
3. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（1）大地法－
4. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（2）大善地法－
5. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（3）大煩惱地法・大不善地法－
6. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（4）小煩惱地法・不定地法－
7. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（5）心心所の働き方－
8. 大乘仏教－大乘経典と大乘論師－
9. 大乘仏教－瑜伽行派の範疇論と心の分析（1）六識－
10. 大乘仏教－瑜伽行派の心の分析（2）マナ識・アーラヤ識－
11. 大乘仏教－転識得智－
12. 大乘仏教－仏性・如来蔵－
13. 大乘仏教－中観派の範疇論と心の分析－
14. 密教－『大日経』『住心品』－
15. 授業の総括とレポートの講評

## 準備学習(予習・復習)・時間

講義内容の要点をノートなどに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書類で調べて意味を理解しておくこと（30分）紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

## テキスト

竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

## 参考書・参考資料等

①佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、2013、②師茂樹『『大乘五蘊論』を読む』春秋社、2015、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編 [改訂版]』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

## 学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教についての基礎的な事項を理解している。
- (B) 仏教における心についての各思想を理解している。
- (A) 仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
- (S) 仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

## その他

授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること

科目名	仏教学講読演習F							学期	前期
副題	『釈摩訶衍論』の注釈を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M3-02-213	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

『釈摩訶衍論』の注釈を精読することで、漢文訓読に熟達する。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典を読むことを通じて、中国仏教の展開について、基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。

## 授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。 ○漢訳経典の内容を理解できる。 ○漢訳経典を批判的に読むことができる。 ○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。 ○自分の考えを論理的に表現できる。

## 授業計画

1. 聖法『釈摩訶衍論記』1葉を読む
2. 法敏『釈摩訶衍論疏』1葉を読む
3. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』1葉を読む
4. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』1葉を読む
5. 普観『釈摩訶衍論記』1葉を読む
6. 聖法『釈摩訶衍論記』2葉を読む
7. 法敏『釈摩訶衍論疏』2葉を読む
8. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』2葉を読む
9. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』2葉を読む
10. 普観『釈摩訶衍論記』2葉を読む
11. 聖法『釈摩訶衍論記』3葉を読む
12. 法敏『釈摩訶衍論疏』3葉を読む
13. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』3葉を読む
14. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』3葉を読む
15. 普観『釈摩訶衍論記』3葉を読む

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにする(30分)、難解な語彙や漢文訓読などについて調査・理解しておく(60分)。事後学修としてレポートをまとめる(90分)。

## テキスト

聖法『釈摩訶衍論記』、法敏『釈摩訶衍論疏』、法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』、志福『釈摩訶衍論玄鈔』、普観『釈摩訶衍論記』それぞれのコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

那須政隆『釈摩訶衍論講義』成田山仏教研究所 1992年 森田龍僊『釈摩訶衍論之研究』山城屋文政堂 1935年 宇井伯寿『大乘起信論』岩波文庫 1994年 など

## 学生に対する評価

レポートまたは試験(50%)、発表(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
- (B) 未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
- (A) テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
- (S) 自分の考えを論理的に発表することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。高野山校における修士論文指導の一環として、院生からの質問・要望などに、臨機応変に対処する。難波サテライトへは双方向遠隔授業を予定している。

科目名	仏教学講読演習G							学期	後期
副題	『釈摩訶衍論』の注釈を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M3-02-214	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

『釈摩訶衍論』の注釈を精読することで、漢文訓読に熟達する。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典を読むことを通じて、中国仏教の展開について、基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。

## 授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。 ○漢訳経典の内容を理解できる。 ○漢訳経典を批判的に読むことができる。 ○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。 ○自分の考えを論理的に表現できる。

## 授業計画

1. 聖法『釈摩訶衍論記』4葉を読む
2. 法敏『釈摩訶衍論疏』4葉を読む
3. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』4葉を読む
4. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』4葉を読む
5. 普観『釈摩訶衍論記』4葉を読む
6. 聖法『釈摩訶衍論記』5葉を読む
7. 法敏『釈摩訶衍論疏』5葉を読む
8. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』5葉を読む
9. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』5葉を読む
10. 普観『釈摩訶衍論記』5葉を読む
11. 聖法『釈摩訶衍論記』6葉を読む
12. 法敏『釈摩訶衍論疏』6葉を読む
13. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』6葉を読む
14. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』6葉を読む
15. 普観『釈摩訶衍論記』6葉を読む

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにする(30分)、難解な語彙や漢文訓読などについて調査・理解しておく(60分)。事後学修としてレポートをまとめる(90分)。

## テキスト

聖法『釈摩訶衍論記』、法敏『釈摩訶衍論疏』、法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』、志福『釈摩訶衍論玄鈔』、普観『釈摩訶衍論記』それぞれのコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

那須政隆『釈摩訶衍論講義』成田山仏教研究所 1992年 森田龍僊『釈摩訶衍論之研究』山城屋文政堂 1935年 宇井伯寿『大乘起信論』岩波文庫 1994年 など

## 学生に対する評価

レポートまたは試験(50%)、発表(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
- (B) 未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
- (A) テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
- (S) 自分の考えを論理的に発表することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。高野山校における修士論文指導の一環として、院生からの質問・要望などに、臨機応変に対処する。難波サテライトへは双方向遠隔授業を予定している。

科目名	真言密教講読演習F							学期	後期
副題	『性霊集』を読む				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-01-215	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

弘法大師空海の漢詩文集である『遍照發揮性霊集』（『性霊集』）は、草創期の真言密教において重要な文献であるだけでなく、弘法大師空海の生涯や当時のさまざまな動向を知る上で貴重な史料である。本講義では、『性霊集』所収の漢詩文を読み解きながら、歴史的な視点からその内容を分析し、草創期の真言密教について考察するとともに、卒業論文を作成するための史料読解の手法を修得することを目指す。

## 授業の到達目標

①『性霊集』を講読することを通じて、弘法大師空海の生涯や草創期の真言密教について理解する。②歴史学研究の基礎となる史料読解の手法を修得する。

## 授業計画

1. 歴史学の史料としての『性霊集』（講義）
2. 『性霊集』からみた弘法大師空海の入唐後の足跡（講義）
3. 『性霊集』の講読箇所についての討論（ディスカッション）
4. 『性霊集』の序文を読むー『性霊集』成立の背景ー
5. 『性霊集』を読む①（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
6. 『性霊集』を読む②（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
7. 『性霊集』を読む③（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
8. 『性霊集』を読む④（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
9. 『性霊集』を読む⑤（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
10. 『性霊集』を読む⑥（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
11. 『性霊集』を読む⑦（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
12. 『性霊集』を読む⑧（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
13. 『性霊集』を読む⑨（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
14. 『性霊集』を読む⑩（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
15. 『性霊集』を読んで（講読を通じて各自が得たことについてのディスカッション）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：講読箇所について辞書等を用いて用語を調べる（90分） 事後学修：講読箇所について関心をもったテーマについて調べる（60分）。

## テキスト

テキストとして、密教文化研究所弘法大師著作研究会編纂『定本弘法大師全集第8巻』（密教文化研究所、1996年）を用いるが、講読箇所およびその他の講義についてもプリントを配布し、それらをもとに進める。

## 参考書・参考資料等

①坂田光全『性霊集講義－平成新訂－』（高野山出版社、2003年）②弘法大師空海全集編輯委員会編『弘法大師空海全集第6巻』（筑摩書房、1984年）③渡邊照宏・宮坂宥勝校注『日本古典文学大系71 三教指帰 性霊集』（小学館、1965年）その他については、講義において適宜紹介する。

## 学生に対する評価

担当箇所についての発表（60%）、予習・復習などの授業への参加度（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 参考書や辞書などを調べて担当箇所にある語句について説明することができる。
- (B) 参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈することができる。
- (A) 参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈し、その内容を深く理解することができる。
- (S) 参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈し、その内容を深く理解し、課題を見出すことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたい。

科目名	真言密教講読演習G							学期	後期
副題	「感身学正記を読む」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M3-12-216	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

本演習では、鎌倉後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』を読解する。受講者は、担当箇所について関係史料・論文を調査し、資料を作成することで研究能力を練磨する。とくに、本年度は、演習中における質疑・討論を通して、弘安4年(1281)のモンゴル襲来をめぐる叡尊と公武両政権との関係について理解を深める。

なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

## 授業の到達目標

鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、政治史との関係から理解できるようになる。鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。仏教史料の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

## 授業計画

- 『感身学正記』の概要、講義の進め方、当番の割り振り、文献探索の方法
- 『感身学正記』を読む(1)(弘安4年条の夏①)
- 『感身学正記』を読む(2)(弘安4年条の夏②)
- 『感身学正記』を読む(3)(弘安4年条の秋①)
- 『感身学正記』を読む(4)(弘安4年条の秋②)
- 『感身学正記』を読む(5)(弘安4年条の冬①)
- 『感身学正記』を読む(6)(弘安4年条の冬②)
- 『感身学正記』を読む(7)(弘安5年条の春・夏)
- 『感身学正記』を読む(8)(弘安5年条の秋・冬)
- 『感身学正記』を読む(9)(弘安6年条の春)
- 『感身学正記』を読む(10)(弘安6年条の夏)
- 『感身学正記』を読む(11)(弘安6年条の秋)
- 『感身学正記』を読む(12)(弘安6年条の冬)
- 叡尊関係の史跡見学(1)
- 叡尊関係の史跡見学(2)

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した資料を作成できるように努力すること(120分) 報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること(60分)

## テキスト

①『感身学正記』本文のプリント※第1回の講義で配布する。②受講生が作成する報告資料※成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること。③細川涼一『感身学正記』第2巻(平凡社東洋文庫、2020年)※書店で購入。必ず購入して講義に持参すること。

## 参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』(吉川弘文館、1959年) ②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誠聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全4冊(西大寺、1990年) ③松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』(吉川弘文館、2004年) ④相田二郎『蒙古襲来の研究』増補版(吉川弘文館、1982年)

## 学生に対する評価

レポート(50%)、講義中での報告(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
- 『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
- 『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
- 『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスをなう。

## その他

本演習の水準は非常に高く、受講生全員に報告義務を課すので、くれぐれも半生可な態度で受講しないこと。参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。受講者は、企画科目の「古文書解読」を履修していなければ、内容の理解や資料作成がおぼつかないので、同科目を必ず履修しておくこと。なお、本演習では、2回分の時間を史跡見学にあてる予定である(土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する)。

科目名	真言密教講読演習H							学期	後期
副題	真言密教の儀礼の解説と体験				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-217	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く体験するために、真言密教における実践行の解説だけでなく、実際に自ら体験する。

## 授業の到達目標

・真言密教における実践行を理解し、さらに実際に体験することで奥深い真言密教の世界にふれる。 ・真言密教の在家用の読経について学び、実際に読誦できるようになる。 ・真言密教の実践行がいかなるものかを正しく理解する。

## 授業計画

1. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (1) —
2. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (2) —
3. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (3) —
4. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (4) —
5. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (5) —
6. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (6) —
7. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (7) —
8. 真言密教の写経—般若心経の写経体験—
9. 真言密教の荘嚴—仏具・衣体の解説—
10. 真言密教の瞑想法—解説と実修—
11. 真言密教と茶道—解説と喫茶—
12. 真言密教の祈願法—密教占星術解説—
13. 真言密教の葬制—古代～現代の日本における葬制解説—
14. 真言密教の回向法—十三仏信仰解説—
15. 巡礼・遍路—解説—

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前準備として、都度シラバスを確認し、用意すべき道具類や指示された書類を準備すること (30分)。 ・事後学習として、読経や瞑想などを続けておくこと (60分)。

## テキスト

・『仏前勤行次第』(高野山出版社、1997年、440円) 上記テキストの入手方法については、講義初回に応相談。 ・その他は、講師が配付資料を用意する。

## 参考書・参考資料等

・坂田光全著、坂田知應編『真言宗在家用『仏前勤行次第』の解説』(高野山出版、2016年)を用いる。 ・その他は、講義中に紹介する。

## 学生に対する評価

授業参加の積極性 (60%)、期末レポート (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義での実践行に参加する。
- (B) 講義での実践行を完遂できる。
- (A) 講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
- (S) 講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

## その他

・実際に体験して学ぶこと(アクティブ・ラーニング)を中心にした講義である。 ・瞑想法実修の際は、動きやすい服装にて行う。 ・別途、実修費を徴収する場合がある(数百円)。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。



科目名	密教学特殊講義D							学期	前期
副題	空海書学 A-1			授業方法	講義	担当者	野田悟		
ナンバリング	M3-06-218	実務経験の有無	有	関連DP	2, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日本の漢字の伝来において、写経は非常に大きな意味合いを占める。また日本の書聖空海思想には、密教を含む東洋思想が原点である。この東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論と実践の両面から焦点を当てる。・授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達しない。自宅でも筆を持つよう心掛けてほしい。

## 授業の到達目標

漢字に興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識と作品制作。

## 授業計画

1. ガイダンス並びに文房四宝概説
2. 臨：顔真卿「多寶塔碑」① 理：提筆と按筆
3. 臨：顔真卿「多寶塔碑」② 理：初唐の四大家と顔真卿
4. 臨：顔真卿「多寶塔碑」③ 理：顔真卿の書と時代
5. 臨：顔真卿「多寶塔碑」④ 理：書と道教の周辺
6. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」① 理：褚遂良とその時代
7. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」② 理：法帖とコピーの違い
8. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」③ 理：王羲之からの流れ
9. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」④ 理：「雁塔聖教序」の結構と章法
10. 顔法と褚法の比較研究
11. 自選の法帖を徹底臨書①
12. 自選の法帖を徹底臨書②
13. 写経① 理：日中の心経比較
14. 写経② 理：異体字を考える
15. 写経③ 理：願文の書き方

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎時、課題の作品を仕上げてくる。(180分)

## テキスト

・中国法書選 40 顔真卿「多寶塔碑」、34 褚遂良「雁塔聖教序」: 二玄社・書道字典を持っている方が望ましい。・写経セット [LA26-59] を購入の事。\*その他、必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

①『説文解字』(中華書局等) ②『聾聵指帰』、『篆隸万象名義』等(高野山大学蔵) ③『新書源』(二玄社)等々

## 学生に対する評価

レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)・基本的に作品による評価(素点)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 筆順を正しく理解する。
- (B) 旧漢字を正しく理解し、細かい部分まで理解した臨摹ができる。
- (A) 臨摹を基にしたレベルの高い写経の創作ができる。
- (S) 尚古思想での願文を含めた、レベルの高い写経の創作ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

## その他

・使用する文房四宝はガイダンス時に説明する。・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。・基本、本学学部生、大学院生のみ受講可。卒業生は、許可した者のみ可とする。・2回目の受講生は、希望を相談の上、別課題を出し指導する。・夏休みの課題として、写経一巻を課す。創作作品は、2月の学外書道展に出品する予定。(表装の費用は個人で負担)

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校書道教員及び芸術系大学院講師として、勤務経験を持つ教員がその経験を活かして「書とは何か？」の原点に立ち返り講じ、実技指導する。

科目名	密教学特殊講義F							学期	前期
副題	密教図像学を学ぶ。				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-01-219	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を經由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマーラー』や『ニシュパナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める

## 授業の到達目標

密教尊像の基本的な智識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

## 授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 漢訳資料の基本的な扱い方
3. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経 前半）
4. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経 後半）
5. 尊格表現方法の基本知識（仏の種類）
6. 尊格表現方法の基本知識（仏の展開）
7. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の種類）
8. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の展開）
9. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
10. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12. 図像資料講読演習（密教経典講読）
13. 図像資料講読演習（密教経典講読）
14. 図像資料講読演習（密教経典講読）
15. 図像資料講読演習（密教経典講読）

## 準備学習(予習・復習)・時間

予習は必要ないが、授業後の復習が望ましい。約1時間。

## テキスト

大正新脩大藏経図像部

## 参考書・参考資料等

①松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年②頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年③佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

## 学生に対する評価

発表、およびレポート(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える。
- (B) 密教尊像に関する知識を得る。
- (A) 密教図像に関する資料を扱える。
- (S) 密教図像に関して体系的に理解できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業毎に確認する。

## その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断するレポート(60%)、授業参加の積極性(30%)、ノート作成(10%)

科目名	密教学特殊講義G							学期	前期
副題	空海書学B-1				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	M3-01-220	実務経験の有無	有	関連DP	2, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

・密教学特殊講義Dの受講修了者（学外書道展出品者）が次のステップとして学ぶ授業である。・漢代隸書を通して理論と実践の双方から焦点を当てる。

## 授業の到達目標

・漢字に更なる興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識。・創作作品を連幅にて創作する。

## 授業計画

1. ガイダンス並びに文房四宝、漢字の歴史
2. 臨：「禮器碑」① 理：圓筆と方筆
3. 臨：「禮器碑」② 理：古隸と八分
4. 臨：「禮器碑」③ 理：提筆と按筆
5. 臨：「禮器碑」④ 理：「内柔外剛」と「内剛外柔」
6. 臨：自身で選んだもの① 理：篆書から隸書へ
7. 臨：自身で選んだもの② 理：刻意の表現
8. 臨：自身で選んだもの③ 理：隸書の法帖比較
9. 臨：自身で選んだもの④ 理：古と今、質と文
10. 隸書の書き分け①
11. 隸書の書き分け②
12. 自選の法帖を徹底臨書
13. 創作① 理：書の原点は写経
14. 創作② 理：正・通・俗
15. 創作③ 理：創作作品の合評

## 準備学習(予習・復習)・時間

毎時、課題の反切作品を仕上げてくる。(90分以上)

## テキスト

中国法書選5 「禮器碑」は必須。その他中国法書選3 「石門頌」、中国法書選8 「曹全碑」、中国法書選9 「張遷碑」(いずれも二玄社)のうちより2種購入の事。\*このクラスは字書を必ず持参すること。

## 参考書・参考資料等

・「説文解字」(中華書局)、書体シリーズ(1) 楷書百科(芸術新聞社)・その他必要に応じてプリントを配布する。

## 学生に対する評価

基本的に作品による評価(素点)。実技の授業なので、欠席あるなしは、大きく評価が異なる。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 隸書の創作作品ができる。
- (B) 法帖の特徴を細かく分析し、発表できる作品を仕上げるができる。
- (A) 尚古思想を根底にした落款を含めたレベルの高い創作ができる。
- (S) 独自の落款、跋文を研究し、漢代の特徴を生かした碑学創作ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

## その他

・ガイダンス時に、使用する文房四宝の説明をする。・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。・受講生は密教学特殊講義Dの修了者に限る。また当受講生は、密教学特殊講義Dとの重複はできない。・夏休みの課題として創作作品が課される。・創作作品は二月の学外書道展に出品する予定。(表装の費用は個人で負担)

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校書道教員及び芸術系大学院講師として、勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして「尚古思想」の原点に立ち返り講じ、指導する。

科目名	仏教学特殊講義I							学期	前期	
副題	死後の世界を考える				授業方法	講義	担当者	川崎一洋		
ナンバリング	M3-02-221	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5		単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

日本人の死生観には、仏教が大きな影響を与えている。この講義では、仏教の文献を資料としながら、インド、中国、日本の人々がそれぞれ考えた死後の世界について紹介し、日本人の死生観の淵源を辿る。また、死者儀礼にも言及し、葬儀や年忌法要などのあり方や問題点についても考察する。

### 授業の到達目標

仏教が伝える死後の世界について考察し、日本人の死生観を習得する。

### 授業計画

1. 現代日本人の死生観
2. 西洋人の臨死体験
3. 東洋人の臨死体験
4. 閻魔さまとはどんな人か
5. 地獄とはどんなところか
6. 極楽とはどんなところか
7. 輪廻転生説のゆくえ
8. 釈尊の死生観
9. 中国で成立した『盂蘭盆経』
10. 古代日本人の死生観
11. 弘法大師・空海の死生観
12. 葬儀の意味
13. 戒名とは何か
14. なぜ年忌法要をおこなうのか
15. 試験と総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、講義のテーマに関連する書籍やウェブサイトを目を通し、疑問点や問題点をまとめておくこと。(60分) 講義内容をノートにまとめ、講義で紹介された書籍や論文などを目を通しておくこと。(90分)

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

添田隆昭『大師はいまだおられますか』(高野山出版社) 梶山雄一『「さとり」と「廻向」』(人文書院) 梶山雄一『輪廻の思想』(人文書院) など

### 学生に対する評価

試験(40%)、質問・発表(30%)、授業参加の積極性(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教が伝える死後の世界、死生観について、基本的な事柄を説明することができる。
- (B) インド、中国、日本、それぞれにおいて考えられた死後の世界について説明できる。
- (A) 日本の仏教が伝える死後の世界について、インド、中国、日本の伝統的な死生観を参照しながら説明できる。
- (S) 日本人の死生観について理解し、現代社会におけるその問題点について意見を述べるができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

### その他

#### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗の僧侶であり、日ごろから檀信徒に接し、実際に葬儀や年忌法要に携わっている教員が、体験や実状を踏まえながら問題を提起し、日本人の死生観や死者儀礼について理解を深める。

科目名	仏教学特殊講義C							学期	前期
副題	心とはなにか I				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-222	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乘仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

### 授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、講義の進め方等）
2. 心について－ことばの多義性－
3. 心について－各宗教の思想－
4. 心について－現代の場合－
5. 心について－仏教の思想－
6. 仏教について－歴史的多様性－
7. 仏教について－地域的多様性－
8. ゴータマ・ブッダ－苦の自覚－
9. ゴータマ・ブッダ－苦からの解放－
10. ゴータマ・ブッダ－直弟子たち－
11. 初期仏教経典－釈迦の直説は現存するか－
12. 最古層の仏典－心への配慮－
13. 最古層の仏典－執着と煩惱－
14. 初期仏教－五蘊、心・意・識－
15. 授業の総括とレポートの講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

講義内容の要点をノートなどに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書類で調べて意味を理解しておくこと（30分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

### テキスト

竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布） 上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

### 参考書・参考資料等

①相良亨『一語の辞典こころ』三省堂、1995、②竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社現代新書、講談社、2009、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編 [改訂版]』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教についての基礎的な事項を理解している。
- (B) 仏教における心についての各思想を理解している。
- (A) 仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
- (S) 仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

### その他

授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること

科目名	仏教学特殊講義J							学期	前期
副題	般若心經を通じて仏教の基礎用語を学ぶ				授業方法	講義	担当者	乾龍仁	
ナンバリング	M3-02-223	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

密教はインドにおける仏教の発達過程に登場した実践的な教えである。したがって密教を学ぶためにも、仏教に対する基礎知識が必要である。この授業では、インドにおける仏教經典の成立史に関する概略を学習することを通して仏教の基礎用語に親しみ、その上でわが国でもっとも親しまれている『般若心經』を取り上げ、その本文を読解しながら、般若の空の教えや密教的な解釈について学ぶ。

## 授業の到達目標

『般若心經』を通して仏教の基本的な教えを理解し、仏教の専門用語に親しむ。

## 授業計画

1. 授業全体の案内及び般若心經（漢文と国訳）の唱え方
2. 仏教の興った時代と釈尊の登場
3. 釈尊の生涯と弟子たち
4. お經の成立と発達
5. 釈尊の教え1（法身偈、無常偈、七仏通戒偈）
6. 釈尊の教え2（三宝、四諦八聖道、四法印）
7. 大乘經典の成立と発達
8. 密教經典の成立と発達
9. 般若心經とは（般若經の発達と般若心經の成立）
10. 般若心經を読む 1（經題と觀自在菩薩）
11. 般若心經を読む 2（五蘊・十二処・十八界）
12. 般若心經を読む 3（大乘の菩薩道のこと）
13. 般若心經を読む 4（神呪（マントラ）の意義）
14. 般若心經を読む 5（弘法大師の解釈、般若心經秘鍵のこと）
15. 人生の中で大切にしたいと思った仏教の教え（レポート試験）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に配布する資料に目を通しておき、分からない専門用語について調べておくこと（90分）。また授業で理解できなかったことについて、授業終了後に自ら調べ、それでも分からないことについては次の授業で質問できるようにメモしておくこと（90分）。

## テキスト

毎回授業で用いる資料はワープロで作成して配付する。その他、適宜コピーして配布する。参考書の購入・不購入は自由。図書館施設で利用してもよいし、購入してもよい。

## 参考書・参考資料等

高神覺昇『般若心經講義』（角川ソフィア文庫） 中村元・紀野一義『般若心經・金剛般若經』（岩波文庫） 渡辺章悟『般若心經 テキスト・思想・文化』（大法輪閣） その他、授業で紹介する。

## 学生に対する評価

小テスト5回（50%）、レポート試験（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 般若心經について唱えることができ、仏教や密教の基本用語を覚えている。
- (B) 仏教の基本用語について、テキストを見ながら説明することができる。
- (A) 仏教の基本用語について、テキストや複数の参考書を見ながら、自分の言葉で説明することができる。
- (S) 仏教の基本用語について、テキストや複数の参考書を見ないで、自分の言葉で説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出された小テストやレポートは、その都度返却する。質問も随時受け付ける。

## その他

テキストの購入等については、最初の講義時に案内する。

科目名	真言密教特殊講義G						学期	前期	
副題	高野山の思想・信仰・歴史・文化を広く学ぶ				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-224	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日本のスピリチュアルケア実践の背景となる宗教の思想、特に日本密教の基本的な思想・信仰・歴史・文化などを広く学ぶことを目的とし、弘法大師の生涯や思想、大師信仰を含めた高野山の宗教文化について講義する。

## 授業の到達目標

・自らのスピリチュアリティや密教学の基礎を涵養する。 ・日本密教の基本的な思想を理解し、説明できるようになる。 ・弘法大師の思想や生涯を理解し、説明できるようになる。 ・大師信仰や高野山の宗教文化を理解し、説明できるようになる。

## 授業計画

1. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (1) 一生誕～入唐一
2. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (2) 入唐～帰国一
3. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (3) 帰国後の活動～入定一
4. 弘法大師空海の著作
5. 弘法大師空海の教え (1) 一即身成仏思想解説一
6. 弘法大師空海の教え (2) 一十住心思想解説一
7. 真言密教の教え一曼荼羅解説一
8. 弘法大師信仰 (1) 一入定信仰一
9. 弘法大師信仰 (2) 一全国に残る大師信仰一
10. 高野山の歴史と地理
11. 高野山の諸堂解説一バーチャル・ツアー一
12. 高野山の年中行事と学道
13. 真言密教の教学一三密双修の解説一
14. 高野山の文化財
15. 高野山の町石道

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと (30分)。例：5回目は即身成仏について調べておく。 ・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、解説した思想や用語を理解すること (60分)。

## テキスト

・北川真寛『はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門』(セルバ出版、2018年) 上記テキストを講義初日に講師が一括で用意する。 ・その他は、講師が配付資料を用意する。

## 参考書・参考資料等

・松長有慶『高野山』(岩波書店、2014年) ・川崎一洋『弘法大師空海と出会う』(岩波書店、2016年) ・その他は、講義中に紹介する。

## 学生に対する評価

期末レポート (70%)、テキストの理解度 (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な密教の思想内容を理解できる。
- (B) 基本的な密教の思想・用語を理解できる。
- (A) 専門的な密教の思想・用語を理解できる。
- (S) 専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、弘法大師信仰や日本密教の思想、高野山の宗教文化などを、僧侶としての立場から解説する。

科目名	真言密教特殊講義L							学期	後期
副題	四国遍路の歴史				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-225	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

この講義では、弘法大師・空海によって開かれたといわれる四国八十八ヶ所霊場を巡る四国遍路の歴史や、四国の各地に残る弘法大師の伝説を、江戸時代に出版された各種の霊場記などを読みながら学び、宗教と巡礼の関係を探る。また、四国遍路を実践するための、作法や計画の立て方などを学ぶ。

## 授業の到達目標

四国遍路の歴史や、四国八十八ヶ所の霊場の縁起などについて説明できるようになる。四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。四国遍路の作法や計画の立て方を学び、それらを四国遍路の実践に活用できるようになる。

## 授業計画

1. 四国遍路とは何か
2. 四国遍路の起源
3. 補陀落信仰と四国霊場
4. 熊野信仰と四国霊場
5. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程①（古代・中世）
6. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程②（近世）
7. 四国霊場の確立①（澄禅の日記を読む）
8. 四国霊場の確立②（真念の業績・案内書の刊行）
9. 四国霊場の確立③（真念の業績・標石や辺路屋の建立）
10. 近代（明治から戦後）の四国遍路
11. 四国遍路の習俗
12. 四国に残る弘法大師の霊跡
13. 国霊場巡拝の作法
14. 現代の四国遍路と、実践へのアプローチ
15. 試験と総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。(30分) 講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60分)

## テキスト

頼富本宏『四国遍路とはなにか』（角川選書）2009年

## 参考書・参考資料等

浅井証善『はじめての「四国遍路 88ヶ所めぐり」入門』（セルバ出版） 森正人『四国遍路』（中公新書） 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』（ちくま新書） など

## 学生に対する評価

試験（40%）、発表・質問（30%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
- (B) 四国遍路に関する基本用語を説明できる。
- (A) 四国遍路（八十八ヶ所巡礼）の成立過程を、古代から現代まで、時代の順に沿って説明できる。
- (S) 四国霊場の成立過程と現状を把握し、宗教における巡礼の意義を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めする。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。



科目名	密教学演習I					学期	通年		
副題	密教思想の研究手法				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-25-226	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 5	単位数	4	他	A

## 授業の目的と概要

密教や仏教の教義・思想を用いて卒業論文を作成することを希望する者を対象とする。研究テーマの決定や資料・先行研究の探し方などを指導しつつ、受講生が各自の研究課題を定めて基礎的な考察を行い、卒業論文につなげていくことを目指す。

## 授業の到達目標

文献研究に関わる者としての基本的な手法を習得する。

## 授業計画

### 【前期】

1. 講義概要 (授業の進め方)
2. 研究テーマの設定 (ディスカッション)
3. 研究テーマの絞り込み (ディスカッション)
4. 資料の探し方① 1次資料の設定
5. " ② 先行研究を探す
6. 先行研究を読む① ① 先行研究の読解
7. " ② 問題設定の検証
8. " ③ 引用資料の検証
9. " ④ 先行研究の読解 [再]
10. " ⑤ 問題点の指摘
11. " ⑥ 先行研究の整理
12. 研究テーマ発表/中間報告①
13. " ②
14. " ③
15. 前期のまとめ

### 【後期】

1. 講義概要 (授業の進め方)
2. 研究テーマの設定 (ディスカッション) [再]
3. 研究テーマの絞り込み (ディスカッション) [再]
4. 原典資料を読む① ① 原典資料の読解
5. " ② 引用典拠の検討
6. " ③ 引用資料の検討 [再]
7. " ④ 原典資料の読解 [再]
8. " ⑤ 内容の把握
9. " ⑥ テーマとの関連
10. 各自研究発表①
11. " ②
12. " ③
13. 各自研究発表への講評①
14. " ②
15. 後期のまとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の課題準備 (120分) ・講義内での発表後の復習 (60分)

## テキスト

越智淳仁「顕密思想の歴史的展開の研究」、『密教文化』第231号、2013年。※コピーして配布する。

## 参考書・参考資料等

・水野弘元『仏教用語の基礎知識』、春秋社 ・中村元編『岩波仏教辞典』、岩波書店 ・鎌田茂雄訳注『八宗綱要』、講談社学術文庫

## 学生に対する評価

授業参加の積極性 (40%)、発表内容 (40%)、レポート (20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学術論文を批判的に要約することができる。
- (B) 一次資料を正確に読み解くことができる。
- (A) 一次資料と学術論文を用いて、自分の考えを文章化することができる。
- (S) 一次資料と学術論文を用いて、新知見を論述することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

## その他

・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・積極的な授業参加を期待する。

科目名	密教学演習J					学期	通年		
副題	テーマ選びから卒業論文作成まで			授業方法	演習	担当者	奥山直司		
ナンバリング	M4-25-227	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	4	他	—

### 授業の目的と概要

密教の歴史、特に高野山史に関連したテーマで卒業論文を作成することを目的として、研究テーマの選び方、資料・先行研究の探し方などを学びながら、研究課題を定め、卒業論文を作成していく。授業計画は下記のようなものであるが、受講生の進路に合わせて柔軟に運営する。

### 授業の到達目標

必要な知識と技術を身につけ、卒業論文を作成する。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 講義概要（前期授業の進め方）
2. 卒業論文の意義
3. 資料を探す①
4. 資料を探す②
5. 資料を集めて整理する①
6. 資料を集めて整理する②
7. テーマを考える①
8. テーマを考える②
9. テーマを考える③
10. テーマを考える④
11. テーマを煮詰める①
12. テーマを煮詰める②
13. テーマを煮詰める③
14. テーマを煮詰める④
15. 前期のまとめ

#### 【後期】

1. 構成を考える①
2. 構成を考える②
3. 構成を考える③
4. 文章を書く①
5. 文章を書く②
6. 文章を書く③
7. 文章を書く④
8. 論文を組み立てる①
9. 論文を組み立てる②
10. 論文を組み立てる③
11. 全体を整える①
12. 全体を整える②
13. 卒業論文の完成
14. 論文の点検と修正
15. 後期のまとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布または指示した資料を読んでまとめておくこと（60分）。事後学修としてノートを読み返し、必要事項を覚えること（60分）。

### テキスト

担当者がその都度コピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

奥山直司『評伝 河川慧海』中央公論新社

### 学生に対する評価

予復習を含めた授業参加度（90%）、発表内容（10%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学術論文を正確に読み解くことができる。
- (B) 一次資料を正確に読み解くことができる。
- (A) 一次資料と学術論文に基づいて、問題の所在を明確にすることができる。
- (S) 一次資料と学術論文に基づいて、学術的な問題を論ずることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

積極的な授業参加を期待する。

科目名	密教学演習Ⅰ					学期	通年		
副題	卒業論文を作成する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M4-25-228	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	4	他	A

## 授業の目的と概要

卒業論文の作成にむけた演習を行う。受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文の完成を目指す。授業は受講生による調査・研究発表が中心となる。前期には、卒業論文の構成と書き方、先行研究のさがし方や批判的検討の仕方を解説し、各自の研究テーマに関する先行研究を要約し、研究課題を見出すことに主眼をおく。後期には、各自が卒業論文の作成にむけた調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションを図りながら、卒業論文の完成を目指す。

## 授業の到達目標

卒業論文を作成するために、各自の研究課題について焦点を絞り、調査・研究を深めて、独自の見解を見出し、論文を作成する力を養う。

## 授業計画

### 【前期】

1. 演習の内容・方針の説明、自己紹介（研究課題への構想など）
2. 卒業論文の構成と書き方①（講義）
3. 卒業論文の構成と書き方②（講義）
4. 先行研究のさがし方（講義）
5. 先行研究の読み方（講義）
6. 学術論文を読む①（発表）
7. 学術論文を読む②（発表）
8. 学術論文を読む③（発表）
9. 学術論文を読む④（発表）
10. 先行研究を要約し研究課題を見出す①（発表）
11. 先行研究を要約し研究課題を見出す②（発表）
12. 先行研究を要約し研究課題を見出す③（発表）
13. 先行研究を要約し研究課題を見出す④（発表）
14. 卒業論文を構想する①
15. 卒業論文を構想する②

### 【後期】

1. 夏休みの成果の確認
2. 卒業論文の構成について（講義）
3. 研究テーマに関する史料の考察①（発表）
4. 研究テーマに関する史料の考察②（発表）
5. 研究テーマに関する史料の考察③（発表）
6. 研究テーマに関する史料の考察④（発表）
7. 研究テーマに関する史料の考察⑤（発表）
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導②

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：毎回の報告者のテーマに関する文献等を読んでおくこと（60分）事後学修：報告者の関心テーマが自分の関心テーマとどのように関連し、その視点や手法を取り入れることができるかどうかについて検討すること（90分）。

## テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義では、担当者が配布するレジュメを用いる。

## 参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

## 学生に対する評価

①授業への参加度（40%）・発表内容（40%）・レポート（20%）によって評価する。②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 研究課題にもとづいて、先行研究から問題点を見出すことができる。
- (B) 研究課題にもとづいて、先行研究から問題点を見出し、それらを批判的に検討できる。
- (A) 研究課題にもとづいて、先行研究から問題点を見出し、それらを批判的に検討し、論理的な文章によって独自の見解を示すことができる。
- (S) 研究課題にもとづいて、先行研究から問題点を見出し、それらを批判的に検討し、論理的な文章によって独自の見解を示すだけでなく、今後の課題について展望することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②各自が意欲的に研究課題に向き合い、プレゼンテーションにおいては、発表者はじっくりと時間をかけて下調べを行い、詳しいレジュメを作成すること。

科目名	心理学 I B							学 期	前期
副 題	-				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N1-10-229	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達の視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

## 授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

## 授業計画

1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3. 感覚と知覚について学ぶ。(その1) <感覚の仕組み>
4. 感覚と知覚について学ぶ。(その2) <知覚の仕組み>
5. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その1) <記憶の分類>
6. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その2) <記憶の過程・長期記憶の種類>
7. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その2) <脳と記憶について>
8. 学習について学ぶ。(その1) <古典的条件付け>
9. 学習について学ぶ。(その2) <道具的条件付け・学習と認知>
10. 学習について学ぶ。(その3) <学習と動機づけ>
11. 言語と思考について学ぶ。(その1) <言語の発達>
12. 言語と思考について学ぶ。(その2) <概念カテゴリー>
13. 言語と思考について学ぶ。(その3) <推論とイメージ思考>
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

## 準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる。各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次回に提出させる(計90分以上)。

## テキスト

梅本堯夫, 大山正, 岡本浩一, 高橋雅延著『心理学第2版心のはたらきを知る』サイエンス社, 2014年(書店で購入)

## 参考書・参考資料等

森津太子, 森公美子編著『心理学概論』, 放送大学テキスト, 2018年 斎藤 勇編, 『図説心理学入門』 誠信書房, 2005年 梅本堯夫, 大山正著『心理学への招待 こころの科学を知る』サイエンス社, 2015年

## 学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
- (B) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを理解している。
- (A) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを説明できる。
- (S) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムとともに、脳生理学の理論をからも説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験(active learning)を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピスト125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、「人間の心の成長と傷つき」と「回復」について、実験心理学や基礎心理学を臨床心理学との関係づけながら学び、その興味・関心を持てる場としたい。

科目名	心理学ⅡB							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N1-10-230	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

## 授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

## 授業計画

1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2. 動機づけと情動について学ぶ。＜動因とホメオスタシス＞
3. 動機づけと情動について学ぶ。＜誘因動機づけ＞
4. 動機づけと情動について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
5. 性格理論を学ぶ。＜特性論と類型論＞
6. 性格理論を学ぶ。＜アイゼンクの性格理論＞
7. 性格理論を学ぶ。＜ビッグファイブ理論＞
8. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜ピアジェの発達理論＞
9. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜フロイトの心理性発達理論＞
10. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜エリクソンのライフサイクル理論＞
11. 対人関係の心理学を学ぶ。＜集団の機能＞
12. 対人関係の心理学を学ぶ。＜意思決定＞
13. 対人関係の心理学を学ぶ。＜社会的手抜き・集団規範＞
14. 個人と社会の心理について学ぶ。
15. まとめ。疑問点の再確認等。

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

## テキスト

梅本堯夫、大山正、岡本浩一、高橋雅延著『心理学第2版心のはたらきを知る』サイエンス社、2014年(書店で購入)

## 参考書・参考資料等

津太子、森公美子編著『心理学概論』、放送大学テキスト 斎藤 勇編 『図説心理学入門』 誠信書房、梅本堯夫、大山正著『心理学への招待 ころの科学を知る』サイエンス社

## 学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解する。
- (B) 基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学(社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学)の領域を理解する。
- (A) 心理学の基礎理論が全般を説明できる。
- (S) 心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験(active learning)を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピスト125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、「人間の心の成長と傷つき」と「回復」について、実験心理学や基礎心理学を臨床心理学との関係づけながら学び、その興味・関心を持てる場としたい。

科目名	企画科目(コミュニケーション演習Ⅰ)/人間学実習(コミュニケーション演習Ⅰ)						学期	後期	
副題	-				授業方法	演習	担当者	橋本久仁彦	
ナンバリング	N2-10-231	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手(カウンセラー)と語り手(クライアント)の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間(聞き手と話し手)の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を体験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ=現場の発見を促す。また仏教との関わりについて多角的に講義する。

## 授業の到達目標

相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得すること。仏教と聞く態度の関連について知ること。

## 授業計画

1. 講義ガイダンス：身体と言葉について・導入
2. 身体の動きを聞く芸能①：影舞という在り方
3. 身体の動きを聞く芸能②：指と指との「ふれ」と「ことば」
4. 円坐の実習・由来について。講義と実習
5. 円坐とセラピーの違いについて。講義と実習
6. 円坐と仏教との重なりについて。講義と実習
7. ミニカウンセリング・トレーニング
8. ミニカウンセリングと「傾聴」ということ
9. ミニカウンセリングから「未二観」へ
10. 未二観と大乘仏教について講義と実習
11. 逐語録検討①：音韻
12. 逐語録検討②：間合い
13. 逐語録検討③：環境音
14. 他力的・共時的な場(シンクロニック・フィールド)について①
15. 他力的・共時的な場(シンクロニック・フィールド)について②・まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

日常生活の中人間関係、家族や友人、職場などの具体的な関係の在り方について意識しておくこと。(120分)どんな疑問や葛藤でも、その具体的な事例を扱うことから授業に入るので臆せず発言されたい。

## テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

授業時に伝える。

## 学生に対する評価

レポートによる評価(50%)・講義への積極的参加(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま迎えず自分の言葉で編集する。
- (B) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に迎ろうとする姿勢が身についた。
- (A) 15分間話者の言葉を正確に迎り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
- (S) 非構成グループ(現場)の中で錯綜する言葉を正確に迎り、場に明晰性をもたらす力がある。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目(「コミュニケーション演習Ⅱ」)を受講することが望ましい。

科目名	企画科目(コミュニケーション演習Ⅱ)/人間学実習(コミュニケーション演習Ⅱ)						学期	後期	
副題	-				授業方法	演習	担当者	橋本久仁彦	
ナンバリング	N2-10-232	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手(カウンセラー)と語り手(クライアント)の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間(聞き手と話し手)の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を体験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ=現場の発見を促す。また仏教との関わりについて多角的に講義する。

## 授業の到達目標

相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得すること。仏教と聞く態度の関連について知ること。

## 授業計画

1. 講義ガイダンス：身体と言葉について・導入
2. 身体の動きを聞く芸能①：影舞という在り方
3. 身体の動きを聞く芸能②：指と指との「ふれ」と「ことば」
4. 円坐の実習・由来について。講義と実習
5. 円坐とセラピーの違いについて。講義と実習
6. 円坐と仏教との重なりについて。講義と実習
7. ミニカウンセリング・トレーニング
8. ミニカウンセリングと「傾聴」ということ
9. ミニカウンセリングから「未二観」へ
10. 未二観と大乘仏教について講義と実習
11. 逐語録検討①：音韻
12. 逐語録検討②：間合い
13. 逐語録検討③：環境音
14. 他力的・共時的な場(シンクロニック・フィールド)について①
15. 他力的・共時的な場(シンクロニック・フィールド)について②・まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

日常生活の中人間関係、家族や友人、職場などの具体的な関係の在り方について意識しておくこと。(120分)どんな疑問や葛藤でも、その具体的な事例を扱うことから授業に入るのだから臆せず発言されたい。

## テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

授業時に伝える。

## 学生に対する評価

レポートによる評価(50%)・講義への積極的参加(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま迎えず自分の言葉で編集する。
- (B) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に迎ろうとする姿勢が身についた。
- (A) 15分間話者の言葉を正確に迎り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
- (S) 非構成グループ(現場)の中で錯綜する言葉を正確に迎り、場に明晰性をもたらす力がある。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目(「コミュニケーション演習Ⅱ」)を受講することが望ましい。

科目名	企画科目(カウンセリング論B)／人間学専門講義(カウンセリング論B)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	N2-10-233	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

## 授業の到達目標

カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

## 授業計画

1. オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2. カウンセリングの歴史的背景を知る
3. 心理アセスメントについて
4. 様々なカウンセリングを知る (クライアント中心療法)
5. 様々なカウンセリングを知る (精神分析的心理療法)
6. 様々なカウンセリングを知る (解決思考アプローチ)
7. 様々なカウンセリングを知る (認知行動療法)
8. 様々なカウンセリングを知る (その他)
9. 子どもへのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
10. 保護者へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
11. 発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
12. 被虐待へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
13. 非行を行う人へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
14. 自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
15. まとめと総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる (90 分)。 各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し (90 分)、次回に提出する。

## テキスト

随時プリント配布

## 参考書・参考資料等

河合隼雄『カウンセリングの実際問題』、誠信書房、1970 年 國分康孝『カウンセリングの理論』、誠信書房、1980 年 國分康孝『カウンセリングの技法』誠信書房、1979 年 諸富祥彦『カウンセリングとは何か』、誠信書房、2010 年

## 学生に対する評価

課題 (複数) レポート (50%)・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
- (B) カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
- (A) カウンセリングの技法 (最低3つ以上) と基礎知識について説明できる。
- (S) カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

授業の随所にアクティブラーニング (activelearning) を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚 (フェルトセンス) に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教官が、NPO での心理支援という実務経験を活かして、来談者中心療法、精神分析、認知行動療法、ゲシュタルト療法などのカウンセリング技法について、その原理と演習を通して、それぞれの技法における理解と実践をより深めることができる力を身につけさせる。



科目名	企画科目(スピリチュアルケア概論)/人間学専門講義(スピリチュアルケア概論)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	窪寺俊之	
ナンバリング	N2-10-234	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

各授業時間(90分)の内60分を講義に使い、残りの30分は受講者とのディスカッションをする。受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くようにする。

## 授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本的概念(スピリチュアルケア、スピリチュアリティ、宗教的ケア、心理的ケア、終末期医療、日本のスピリチュアリティなど)を理解し関心と興味をもつこと。

## 授業計画

1. スピリチュアルケアとは何か (I) WHOの健康定義の改正案
2. スピリチュアルケアの必要性、終末期医療現場での苦悩
3. スピリチュアルケアの必要性と現代医療の問題点(治療中心医療の限界)
4. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
5. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
6. スピリチュアルとは何か、スピリットとは何か
7. スピリチュアルケアの本質、関係性、人間とは何か
8. スピリチュアルケアの目的(QOLの向上)
9. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
10. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
11. ケアとは何か
12. スピリチュアルケア・ギバー(提供者)の養成
13. スピリチュアルな感性を磨く(スピリチュアルな視点、側面、テーマなど)
14. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
15. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと(90分)

## テキスト

窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店, 2000年

## 参考書・参考資料等

窪寺俊之『スピリチュアルケア序説』三輪書店, 2004年 窪寺俊之『スピリチュアルケア概説』三輪書店, 2008年

## 学生に対する評価

レポート評価(50%)・出席率(20%)・授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) スピリチュアルケアの基本的用語を理解できている。
- (B) スピリチュアルケアの基本に加えて、宗教的ケア、心理的ケアとの関係など周辺領域との関係を広く理解できている。
- (A) スピリチュアルケアを全体的に理解することに加えて、ケア者(スピリチュアルケア援助者)として、他の参考図書を読んで理解し、他者に説明することができる。
- (S) スピリチュアルケアと他の領域との関係性を踏まえながら、臨床現場でスピリチュアルケアを実践するための姿勢を理解できている。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

牧師として、いのちの電話 訓練委員の経験を持つ教員が、受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くよう授業を行う。

科目名	企画科目(もの語り心理学)／人間学専門講義(もの語り心理学)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	やまだようこ	
ナンバリング	N2-10-235	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

もの語り（ナラティブ）心理学の理論と方法論の基礎を、ワークに主体的に参加することによって実践から体験的に学ぶ。特に、「人生」「喪失」「スピリチュアリティ」「ケア」と関連づけた語りの共同生成ワークと討論を行う。

### 授業の到達目標

もの語り（ナラティブ）心理学の理論をワークを通じて学ぶとともに、人生を深く考える態度を養い、ナラティブによるケアの方法と技法を習得する。

### 授業計画

1. 人生のイメージ（ビジュアル・ナラティブのワーク）
2. 人生のイメージと人生観
3. もの語り（ナラティブ）とは？
4. もの語りアプローチの人間観
5. ナラティブ心理学の理論（まとめ）
6. 人生を物語る（ライフストーリー）
7. ナラティブ・インタビューの方法
8. カウンセリングとナラティブ・セラピー
9. ナラティブ・インタビューの実践
10. ナラティブ実践とケアの方法（まとめ）
11. 喪失の語り－喪失から生成へのもの語りとケア
12. もの語りの語り直しと生き直し
13. もの語りによる人生の転換とレジリエンス
14. この世とあの世のイメージ
15. 喪失の語りとケア（まとめ）

### 準備学習(予習・復習)・時間

授業後に毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること（90分） 下記の参考書（①②）を読んでおくことが望ましい

### テキスト

なし

### 参考書・参考資料等

①やまだようこ『喪失の語り－生成のライフストーリー』新曜社② やまだようこ（編）『人生を物語る』ミネルヴァ書房③やまだようこ（編）『人生と病いの語り』東京大学出版会④やまだようこ（編）『この世とあの世のイメージ』新曜社

### 学生に対する評価

授業への積極的参加と授業時の小レポート（30%）最終レポート（70%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業への積極的参加
- (B) 授業への積極的参加とレポートの提出
- (A) 授業への積極的参加と優れたレポートの提出
- (S) 授業への積極的参加と特に優れたレポートの提出

### 課題に対するフィードバックの方法

授業を通じて積極的に対話を行う

### その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

輪唱発達心理士としての臨床経験からナラティブ・セラピーやケアについて講義する。

科目名	企画科目(家族心理学)/人間学専門講義(家族心理学)					学期	後期		
副題	-				授業方法	講義	担当者	小林奈緒美	
ナンバリング	N2-10-236	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

夫婦というヨコの関係、親子など血縁というタテの関係、法律上の家族、地域社会との関係など複雑に絡みあった関係から生じる種々の家族問題について、社会的背景を踏まえつつ、事例を通じて、心理学的視点から家族のあり方を考察し、支援方法について学ぶ。

## 授業の到達目標

人を援助するにあたって、その背景にある「家族」を読み解く力を身につける。

## 授業計画

1. 家族とは何か。
2. 夫婦について
3. 父と息子について
4. 父と娘について
5. 母と息子について
6. 母と娘について
7. 兄弟・姉妹について
8. 家族の危機について
9. 高齢者と家族について
10. 家族と地域について
11. 家族療法について
12. 家族を支援する自助グループについて
13. 家族と地域支援ネットワークについて
14. シェルターと自立支援施設について
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

## テキスト

平木典子・中益洋子(共著)『家族の心理』第2版サイエンス社, 2019年

## 参考書・参考資料等

柏木恵子(編著)『よくわかる家族心理学』ミネルヴァ書房, 2010年

## 学生に対する評価

授業参加の積極性(30%)・レポートによる評価(70%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 家族関係について理解できる。
- (B) 問題が発生した場合、その病理を関係性から読み取ることが出来る。
- (A) 適切な援助法を考えることができる。
- (S) 人を援助するにあたって、その背景にある「家族」の関係性を読み解く力がある。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

児童の問題は勿論、成人の問題であっても家族を抜きにして考えることは出来ない。小児科(公認心理師・臨床心理士)、スクールカウンセラーとして、問題を抱える家族の支援実践で培ってきたものを学生に伝え、社会の一番小さな単位としての家族関係が個々の人格発達に大きな影響を与えることを共に考え、学んでいく授業を展開し、学生のそれぞれの実践に活かしてもらうことを目指す。

科目名	企画科目(学校心理学)／人間学専門講義(学校心理学)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	N2-10-237	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深める。

## 授業の到達目標

学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

## 授業計画

1. 学校教育と心理学. 歴史的背景を知る
2. 発達心理学的視点と学校教育
3. 学校内チーム支援について
4. 保護者と学校を支援する視点
5. 児童期の発達と学校教育
6. 児童期の学習の問題について
7. 児童期の不登校について
8. 児童期の仲間関係といじめについて
9. 児童期における学校内チーム支援の在り方について
10. 思春期・青年期の発達と学校教育
11. 思春期・青年期の学習の問題について
12. 思春期・青年期の不登校について
13. 思春期・青年期の仲間関係といじめについて
14. 思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について
15. まとめと総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと (90分)

## テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

石隈利紀『学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』、1999年、誠信書房  
学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック第4版』、2020年、風間書房 その他の参考書は、適時紹介する。

## 学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題(複数)レポート(50%)・授業中の発表・ディスカッション等の参加度(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学校における心理学的な課題について、基本的な事項を知っている。
- (B) 学校における心理学的な課題について、資料を見ながらその内容や問題点を説明できる。
- (A) 学校における心理学的な課題について、一つの事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。
- (S) 学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

できるだけ、わかりやすい授業を心がけたい。現在の課題を扱い、受講生からの積極的な質疑・意見をいただき、“臨床の知”を共に深めていきたい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

教職経験や公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、教員とNPOでの心理支援という2種類の実務経験を活かして、不登校、いじめ、虐待、発達障害などの問題について、多面的にその原理、分析、対応を学ぶことを通して、学校における心理的理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目(死生観B)／人間学専門講義(死生観B)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	山本佳世子	
ナンバリング	N2-03-238	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

日本人の死生観の変遷と、現代日本人の死生観について、映画や絵本を取り上げながら、理解を深める。講義及びディスカッションを通して、受講者が自身の死生観を見つめ直し、培う。

## 授業の到達目標

日本人の死生観の変遷を理解し、説明できる。自身の死生観を振り返り、言語化できる。

## 授業計画

1. 死生学と死生観
2. 死生観の生成と涵養
3. 死に向き合う：2.5 人称の死を考える（映画「赤ひげ」）
4. 死までの生を生きる：1 人署の死を考える（映画「生きる」、絵本『100 万回生きた猫』）
5. グループワーク、ディスカッション①
6. 死からの生を生きる：2 人称の死を考える（映画「殯の森」「岸辺のふたり」）
7. 故人との関係性（絵本『老夫婦』、映画「加奈子のこと」）
8. 日本人の死生観と他界観（絵本『このあとどうしちやおう』）
9. 死者を送る（映画「おくりびと」）
10. グループワーク、ディスカッション②（絵本『わすれられないおくりもの』）
11. 彼岸と此岸を媒介するもの：お迎え（映画「赤ひげ」）
12. この世にいる死者：幽霊（映画「岸辺の旅」）
13. 新しい葬送の形：死者はどこにいるのか（歌「千の風になって」）
14. 「無宗教」という死生観
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

参考書として挙げられている図書に事前に目を通しておくとう理解が深まる（60 分）。さらに、事後にさらに理解を深めるために再読することもお勧めする（60 分）。また、挙げられている映画や絵本は授業内では一部のみ観賞するが、全編観賞することをお勧めする（120 分）。

## テキスト

適宜指示する。

## 参考書・参考資料等

・佐藤弘夫『死者の花嫁―葬送と追悼の列島死』幻戯書房、2015 年 ・波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞出版、2004 年

## 学生に対する評価

期末レポート（50%）、毎回の授業時に提出する課題（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本人の死生観について基本概念を理解し、自身の死生観をなんとなく説明できる。
- (B) 日本人の死生観とその変遷を配布資料に沿って理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
- (A) 日本人の死生観とその変遷を配布資料を含む複数の資料を見ながら他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
- (S) 日本人の死生観とその変遷を資料を見ずに他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、「日本人の死生観」に比較言及しながら自身の死生観を自分の言葉で説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

授業計画は予定であり、取り上げる映画等、一部変更する可能性があります。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

スピリチュアルケア師を指導できる資格を有し、グリーフケアカウンセラーの経験を持つ教員が、日本人の死生観の理解を深め、映画や絵本に現れる死生観をディスカッションしながら自身の死生観の気づき、培う場とさせる科目である。

科目名	企画科目(社会心理学)/人間学専門講義(社会心理学)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	松下歩睦	
ナンバリング	N2-10-239	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

自己と他者・集団・社会の社会心理学の基礎的テーマを講義し、様々な社会心理現象をより細かく知ることで理解を深める。自己と他者の分野では、社会における個人の自己のありかたや他者に対する認知や感情が研究されている。また、集団・社会の分野では、より応用的な研究が行われている。たとえば、対人関係を円滑にするための社会的スキル・説得的コミュニケーションなどがあげられる。この授業では、講義をはじめ、映画を通してワールドカフェ法などを行いながら、それらの研究を支える様々な理論的枠組みについて話し合いながら学んでいくことで理解を深める。

## 授業の到達目標

・社会心理学の基本用語について自分の言葉で説明が出来るようになる ・更に動画学習(映画鑑賞)を通してより現実的に理解し、意見交換をしながらより多くの意見を取り入れる ・社会心理学の理論がどのように活用されているのかを理解し、現実社会でも利用できるように習得する

## 授業計画

1. 社会心理学概論
2. 社会的認知の基礎：脳と認知
3. 対人認知：第一印象形成
4. 対人感情
5. 自己概念
6. 自己開示
7. 向社会的行動
8. 反社会的行動
9. 対人コミュニケーション（言語的）
10. 対人コミュニケーション（非言語的）
11. 説得的コミュニケーション
12. 集団の中の人間 リーダー
13. 集団の中の人間 葛藤
14. ネットワーク
15. まとめと振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

・【予習】 事前学修として、講義内容と講義で配布される資料の要点を整理しておく(45分) ・【復習】 事後学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味をより深く理解する(45分) ・【発表】 課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表後内容について各自で整理する(45分)

## テキスト

山岸俊男（編集）『社会心理学キーワード』有斐閣, 2001年

## 参考書・参考資料等

堀洋道（監修）『新編社会心理学[改訂版]』福村出版, 2009年

## 学生に対する評価

授業参加の積極性と小レポート（70%）・各テーマ発表（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会心理学の基本用語を覚えている。
- (B) 社会心理学の基本用語について、参考書やノートの言語を用いて、説明できる。
- (A) 社会心理学の基本用語について、参考書やノートを見て、自分の言葉で説明できる。
- (S) 社会心理学の基本用語について、自分の言葉で説明が出来、深く理解できている。

## 課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う ・レポート発表のフィードバック方法は授業の中で指示する

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士としての臨床経験から、社会心理学理論に基づく実際について具体的に知識を提供している。特に、スクールカウンセラーとして、教育現場や相談機関での実務経験を生かし、集団や社会について体験的に学習可能な教材を選択し、机上の勉強だけにとどまらずより現実的に理解しやすい形で学習することで、具体的に実生活に活かすことが出来る能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(心理学基礎実験演習Ⅰ)/人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅰ)						学期	前期	
副題	-				授業方法	演習	担当者	五明優介	
ナンバリング	N2-10-240	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

・心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解する。・実験や調査のレポートを書き、他者に伝える能力を修得する。・被験者に配慮すべきこと考察して、倫理に則った実験や調査の重要性を知る。・実習では実験者と被検者双方を体験することによって、実験、調査のポイントをつかむ。・調査や実験に影響してくるさまざまな物事に対して考察を行い、どのような場所や人などに調査を行うか把握して、適切に実施する能力を身につける。

## 授業の到達目標

①心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解し、説明できる。②基本的な実験、調査方法の手順を理解して、適切に実施することができる。③実験結果を統計的に処理して、規定に則った様式でレポートにまとめることができる。④被験者に配慮することの意味を理解し、実施できる。

## 授業計画

1. ガイダンス (心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導)
2. 感覚・知覚領域①錯視
3. 感覚・知覚領域①錯視
4. 感覚・知覚領域②大きさの恒常性
5. 感覚・知覚領域②大きさの恒常性
6. 記憶領域③短期記憶測定
7. 記憶領域③短期記憶測定
8. 記憶領域④単語の再生と再認
9. 記憶領域④単語の再生と再認
10. 学習領域⑤両側性転移
11. 学習領域⑤両側性転移
12. 認知領域⑥ストループ効果
13. 認知領域⑥ストループ効果
14. レポート課題発表会 (各自で各課題を1つ選択し結果と考察を発表する)
15. まとめ (総括と発表への補足説明)

## 準備学習(予習・復習)・時間

・実習で使う機材や道具の作成や準備を行う (45 分)。前回の実習を振り返り、課題や改良すべき点を確認する (45 分) ・授業後に毎回宿題を課すので次回に小レポートとして提出すること (45 分) 、また指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと (45 分) 。

## テキスト

・心理学実験指導研究会編 『実験とテスト. 心理学の基礎—実習編—』 培風館, 1985 年・鎌原雅彦他 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房, 1998 年・フィンドレイ 『心理学実験研究レポートの書き方』 北大路書房, 1996 年

## 参考書・参考資料等

・日本心理学会認定心理士資格認定委員会 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房, 2015 年。・他は核実験テーマごとに授業中で紹介する。

## 学生に対する評価

・課題毎に提出するレポートによる評価 (60%) ・課題発表 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 心理学的実験の用語を覚えており、正しく説明できる。  
 (B) 心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。  
 (A) 心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。  
 (S) 心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

## その他

実験の授業は一旦始まると時間的な融通を利かせられないため、遅刻、欠席は厳禁である。本講義は基礎的な心理学の知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくこと。グループワークを行う講義である。次回欠席が明らかである場合は、事前にグループメンバーおよび講義担当者に申告しておくこと。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大学病院で研究コーディネートをやっている教員 (臨床心理士・公認心理師) による心理実験の実施手順など実務経験に基づいた指導を行う。具体的には、学生がグループになり実習を行いながら、認知や生理の観点における心理的な理解を目指す。また、実験を統計的に処理し、考察を行い、先行研究と比較しつつ自身の考えをまとめられる能力育成を目指す。知識の習得だけでなく、実験で取り扱った内容が日常生活でどのように活用されている具体的な例を提示して、実験内容の活用を考える力をつける。

科目名	企画科目(心理学基礎実験演習Ⅱ)/人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅱ)						学期	後期	
副題	-			授業方法	演習	担当者	五明優介		
ナンバリング	N2-10-241	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

・心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解する。・実験や調査のレポートを書き、他者に伝える能力を修得する。・被験者に配慮すべきこと考察して、倫理に則った実験や調査の重要性を知る。・実習では実験者と被検者双方を体験することによって、実験、調査のポイントをつかむ。・調査や実験に影響してくるさまざまな物事に対して考察を行い、どのような場所や人などに調査を行うか把握して、適切に実施する能力を身につける。

## 授業の到達目標

①心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解し、説明できる。②基本的な実験、調査方法の手順を理解して、適切に実施することができる。③実験結果を統計的に処理して、規定に則った様式でレポートにまとめることができる。被験者に配慮することの意味を理解し、実施できる。④自身の調べたい課題について、実験・調査を計画して、倫理に配慮して適切な手順で実施できる。

## 授業計画

1. ガイダンス (心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導)
2. 社会領域⑦パーソナルスペース測定
3. 社会領域⑦パーソナルスペース測定
4. 社会領域⑧囚人のジレンマ (ゲーム行動)
5. 社会領域⑧囚人のジレンマ (ゲーム行動)
6. 産業領域⑨SD法
7. 産業領域⑨SD法
8. 産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
9. 産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
10. 人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
11. 人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
12. 臨床領域⑫インタビュー面接法 (KJ法)
13. 臨床領域⑫インタビュー面接法 (KJ法)
14. レポート課題発表会 (各自で各課題を1つ選択し結果と考察を発表する)
15. まとめと総括 (実験の補足説明)

## 準備学習(予習・復習)・時間

・実習で使う機材や道具の作成や準備を行う (45分)。前回の実習を振り返り、課題や改良すべき点を確認する (45分) ・授業後に毎回宿題を課すので次回に小レポートとして提出すること (45分) 、また指定された論文を読み問題点を明らかにした上で授業に臨むこと (45分) 。

## テキスト

・心理学実験指導研究会編 『実験とテスト. 心理学の基礎—実習編—』 培風館, 1985年・鎌原雅彦他 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房, 1998年・フィンドレイ 『心理学実験研究レポートの書き方』 北大路書房, 1996年

## 参考書・参考資料等

・日本心理学会認定心理士資格認定委員会 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房, 2015年。 ・他は各実験テーマごとに授業中で紹介する

## 学生に対する評価

・課題毎に提出するレポートによる評価 (60%) ・課題発表(40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 心理学的実験の用語を覚えており、正しく説明できる。  
 (B) 心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。  
 (A) 心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。  
 (S) 心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

## その他

・実験の授業は一旦始まると時間的な融通を利かせられないため、遅刻、欠席は厳禁である。本講義は基礎的な心理学の知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくこと。グループワークを行う講義である。次回欠席が明らかである場合は、事前にグループメンバーおよび講義担当者に申告しておくこと。 ・レポートの書き方指導など基本的な実験に関する授業は前肢の心理学基礎実験演習Ⅰを行うので、心理学基礎実験演習Ⅰを受講していることが望ましい。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大学病院で研究コーディネーターを行っている教員(臨床心理士・公認心理師)による心理実験の実施手順など実務経験に基づいた指導を行う。具体的には、学生がグループになり実習を行いながら、認知や生理の観点における心理的理解を目指す。また、実験を統計的に処理し、考察を行い、先行研究と比較しつつ自身の考えをまとめられる能力育成を目指す。知識の習得だけでなく、実験で取り扱った内容が日常生活でどのように活用されている具体的な例を提示して、実験内容の活用を考える力をつける。



科目名	企画科目(心理検査法演習Ⅰ)/人間学専門講義(心理検査法演習Ⅰ)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	木下忠恭	
ナンバリング	N2-10-242	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ、心理的把握の視点を身につける。この講義では、主として、質問紙法によるパーソナリティ把握や心理的概念を把握するために開発された心理尺度に触れ、その理論的背景、解釈方法を学ぶ。尚、この講義を受講後に、心理検査法演習Ⅱを受講することが望ましい。

## 授業の到達目標

心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

## 授業計画

1. 質問紙法の基本的考え方について
2. パーソナリティ論及びその把握について① (類型論)
3. パーソナリティ論及びその把握について② (特性論)
4. MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈① (実施方法について)
5. MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈② (MMPI コード表をもとに解釈)
6. MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈③ (実際の解釈を行って気づいた点を検討)
7. Y-G 性格検査について
8. Big5 について
9. 知能検査について (WISC・WAIS・ビネー式検査など) ① (実施方法について)
10. 知能検査について (WISC・WAIS・ビネー式検査など) ② (解釈について)
11. 領域別心理測定(対人関係・価値観について)① <対人関係の心理測定について>
12. 領域別心理測定(対人関係・価値観について)② <価値観の心理的測定について>
13. 領域別心理測定(ストレスと適応について)① <生理学的方法によって>
14. 領域別心理測定(ストレスと適応について)② <心理学的方法によって>
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料や参考文献に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと (90分)

## テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

願興寺礼子・吉住隆弘 (著)『心理検査の実施の初歩 (心理学基礎演習)』ナカニシヤ出版, 2011年その他、適時紹介する。

## 学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題(複数) レポート (50%)・授業中の発表・ディスカッション等の参加度 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 心理検査や心理査定について基本的な事項を知っている。
- (B) 心理検査や心理査定について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
- (A) 心理検査や心理査定について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
- (S) 心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士や公認心理師資格を有する教官が、その実務経験を活かして、エゴグラムやYG性格検査やクレペリン作業検査やWAISなどの心理査定について、その原理、実施、分析を通して、被検査者の理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目(心理検査法演習Ⅱ)/人間学専門講義(心理検査法演習Ⅱ)							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	木下忠恭	
ナンバリング	N2-10-243	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ、心理的把握の視点を身につける。この講義では、投影法によるパーソナリティや心的状態を把握するための理論や方法を学び、人間理解の一助となる視点を身に付ける。尚、この講義を受講する前に、臨床心理学検査法演習Ⅰを受講していることが望ましい。

## 授業の到達目標

投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

## 授業計画

1. 投影法検査の考え方について
2. ロール・シャッハテストについて① <スコアリングについての学習>
3. ロール・シャッハテストについて② <検査者となり検査の実施>
4. ロール・シャッハテストについて③ <被験者となり検査を体験>
5. ロール・シャッハテストについて④ <解釈について教科書をもとに復習>
6. P-F スタディについて① <実施方法について>
7. P-F スタディについて② <解釈について>
8. 風景構成法について① <実施方法について>
9. 風景構成法について② <解釈について>
10. 描画法について (HTP・バウム・スクイグルなど) ① <実施方法について>
11. 描画法について (HTP・バウム・スクイグルなど) ② <解釈について>
12. 箱庭療法の体験、及び、解釈について① <実施方法について>
13. 箱庭療法の体験、及び、解釈について② <解釈について>
14. 箱庭療法の体験、及び、解釈について③ <箱庭療法の応用編 他の心理療法との併用>
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料や参考文献に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと (90分)

## テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

願興寺礼子・吉住隆弘 (著) 『心理検査の実施の初歩 (心理学基礎演習)』ナカニシヤ出版, 2011年その他、適時紹介する。

## 学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題 (複数) レポート (50%)・授業中の発表・ディスカッション等の参加度 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 投影法や描画法について、基本的な事項を知っている。
- (B) 投影法や描画法について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
- (A) 投影法や描画法について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
- (S) 投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士や公認心理師資格を有する教官が、その実務経験を活かして、箱庭や PF スタディや風景構成法や S-HTP などの心理査定について、その原理、実施、分析を通して、被検査者の理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目(心理測定法)／人間学専門講義(心理測定法)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	五明優介	
ナンバリング	N2-10-244	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

・心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解する。・講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。  
 ・統計に基づいた論文を読み、内容を理解できる知識を修得する。・心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。  
 ・授業内で機器（表計算ソフト Excel や統計解析ソフト SPSS などを使用）を用いて機器による計算についての知識を修得する。授業時間外課題としてコンピューターを用いた分析実習を行う。

## 授業の到達目標

・統計の基本用語について理解でき、説明できる。・様々な統計手法の特徴を理解して、適切な方法で計算を行うことができる。・統計ソフトの操作を習得して、統計処理を素早く行うことができるようになる。・統計結果の記載方法を理解して、学術論文などの内容を理解できるようになる。

## 授業計画

1. データ縮約記述
2. 推測統計
3. 独立変数と従属変数
4. 質的変数と量的変数
5. 被験者内要因と被験者間要因
6. t 検定と分散分析
7. 1 要因の分散分析
8. 2 要因分析主効果と交互作用・被験者内要因を含む分散分析
9. ノンパラメトリック法
10. 相関
11. 回帰分析①
12. 回帰分析②
13. 連関
14. x<sup>2</sup> 検定①
15. x<sup>2</sup> 検定②

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ（45 分）、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす（45 分）。・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い（45 分）、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する（45 分）。

## テキスト

・小宮 あすか、布井 雅人 『Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける』 講談社 2018 年

## 参考書・参考資料等

・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会、2004 年・他は授業中で紹介する

## 学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する（60%）、レポート（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 統計の基本用語を覚えている。  
 (B) 統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。  
 (A) 統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。  
 (S) 統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

## その他

・本講義は前期の「心理統計学」の内容を発展していく科目になる。そのため、「心理統計学」を受講してからの履修が好ましい。・実際に統計ソフトで計算を行う科目であるため、初歩的な Excel 操作などのパソコン操作が必須となる。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助している教員（臨床心理士・公認心理師）の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみをもち、身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	企画科目(心理統計学)/人間学専門講義(心理統計学)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	五明優介	
ナンバリング	N2-10-245	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

・心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解する。・統計学は、本を読むことや授業を聞いただけでは身につかない。課題を自分で解き、また各種のデータを使って自ら演習を行うといった主体的な学習による知識の取得を目指す。  
 ・講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。・統計に基づいた論文を読み、内容を理解できる知識を修得する。  
 ・心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。

## 授業の到達目標

・統計の基本用語について理解できる。・心理統計を用いた学術論文を理解できるようになる。・基本的な心理統計の具体的な算出方法を理解し、実際に答えを導き出すことができる。・計算結果から、統計的な解釈を行い、自身の考えを述べることができる。

## 授業計画

1. 授業の目的と方針：①なぜ心理学研究に統計が必要か
2. 授業の目的と方針：②日常生活の中でのデータにもとづく判断
3. さまざまな心理学データ：①変数のタイプ（質的・量的）分類
4. さまざまな心理学データ：②量的変数と質的変数の集計。度数分布・代表値・散布度等
5. 2つの質的変数の分析：①クロス表を用いた場合
6. 2つの質的変数の分析：②関連と独立性の判断
7. 量的変数の分析：①記述統計指標。度数分布・平均・散布度
8. 量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布(1)
9. 量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布(2)
10. 量的変数の条件間比較：①条件間比較のポイント・散布度の重要性・データ数の重要性
11. 量的変数の条件間比較：②1要因分散分析・③平均による比較が適切でない場合
12. 量的変数の条件間比較：④対応のあるデータの性質と分析方法
13. 2つの量的変数間の分析：①相関図の作成方法
14. 2つの量的変数間の分析：②相関係数の算出方法
15. 2つの量的変数間の分析：③相関の解釈の問題点・相関関係と因果関係

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ(45分)、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす(45分)。・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い(45分)、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する(45分)。

## テキスト

・向後千春 富永敦子 『統計学がわかる—ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』 技術評論社 2007年  
 ・向後千春 富永敦子 『統計学がわかる—アイスクリームで味わう”関係”の統計学』 技術評論社 2008年

## 参考書・参考資料等

・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会, 2004年・他は授業中で紹介する

## 学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する(60%)・レポート(40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 統計の基本用語を覚えている。  
 (B) 統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。  
 (A) 統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。  
 (S) 統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

## その他

・電卓やパソコンを取り入れた科目である。・心理測定法も併せて履修することが望ましい。・グループワークを行う科目である。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助している教員(臨床心理士・公認心理師)の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみをもち、身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	企画科目(発達心理学B)／人間学専門講義(発達心理学B)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	小林奈緒美	
ナンバリング	N2-10-246	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

生涯発達の視点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を解説する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考えていく。

## 授業の到達目標

発達の観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考えることが出来る。

## 授業計画

1. 発達心理学とは
2. 遺伝と環境、及び、初期経験
3. 言語の発達について
4. 認知の発達について
5. 発達段階と発達課題（総論）
6. 乳児期の発達について
7. 幼児期の発達について
8. 児童期の発達について
9. 思春期の発達について
10. 青年期の発達について
11. 成人期の発達について
12. 老年期の発達について
13. 発達障害とその支援①<自閉症スペクトラムを中心に>
14. 発達障害とその支援②<発達障害と発達性トラウマ>
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる（90分）。各授業終了後、フィードバック用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90分）、次回に提出する。

## テキスト

随時、講師作成の資料を配布

## 参考書・参考資料等

関一夫・斎藤慈子(編)『ベーシック発達心理学』東京大学出版会, 2018年 無藤隆・田島信元・高橋恵子(著)『発達心理学入門』, 1990年

## 学生に対する評価

課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 人間の発達過程における重要語句について最低限の説明ができる。
- (B) 人間の発達過程の概ねの理解とそれぞれの発達過程の課題や問題点を説明できる。
- (A) 人間の発達過程における課題や問題点への基本的な援助方法を説明できる。
- (S) 発達の観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考え、説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

小児科公認心理師・スクールカウンセラーとして、種々の心理テストによって発達理論を実証してきたことや、障がい問題、非行問題、閉じこもり問題などを生涯発達理論の視点で捉えた実践で培ってきたものを学生に伝える。発達理論を深め、理論と実践の橋渡しの授業展開を目指す。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習 I B) / 人間学専門講義(臨床心理学面接演習 I B)						学期	前期	
副題	—				授業方法	演習	担当者	山添 正	
ナンバリング	N2-10-247	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

まず面接のプロセスが、来談者と面接者との出会いから始まり、治療的關係が形成され、面接作業がどのように進むかについての理論学習と平行して、各ステップごとに教科書と関連するDVDを視聴して、具体的にどのように面接が進められているか実践的に理解する。その後、受講生同士で面接（ピア面接）を行い、記録に残してスーパービジョンを受け、実践的に面接技術の学習をする。

### 授業の到達目標

テキストは面接過程を13段階にわけており、段階ごとの基本的な概念とテクニックを学ぶ。

### 授業計画

1. 面接のはじめ
2. 治療的關係
3. 治療目標の確立
4. 多様性の理解と対応
5. 抵抗の理解と対処
6. 面接における認知的焦点化
7. 面接における感情的焦点化
8. 面接における行動的焦点化
9. 面接における発達の焦点化
10. 統合的視点
11. 転移
12. 逆転移
13. 過去が現在に与える影響の理解
14. 決断と行動変化への作業
15. 評価と終結

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分) 事後学習として、授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

### テキスト

ジェラルド・コーレイ『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践』金子書房, 2011年

### 参考書・参考資料等

『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践 DVD版』金子書房

### 学生に対する評価

レポート(30%)・発表(30%)・授業参加の積極性(40%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的概念の理解はできている。
- (B) 概念だけでなく技能の理解も出来ている。
- (A) 概念、技能、ロールプレイのパフォーマンスが優れている。
- (S) 臨床現場でここでの学びを応用実践できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

### その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

トロント大学大学院留学で、カウンセリング過程の各ステップごとの教材の内容を研究し、その教材を利用しながら、臨床心理士としての実務経験をもとに、具体的に、また実践的に面接の過程の基礎概念を指導し、また日本の事例を紹介しながら、文化差の問題に触れながら説明し、学生のケースにかかわることのできる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習ⅡB)／人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅡB)						学期	後期	
副題	-				授業方法	演習	担当者	山添 正	
ナンバリング	N2-10-248	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

ボランティアまたは実習で関わった人との事例報告書作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかを12のアプローチ方法を比較しながら、それを自分の発表ケースに当てはめながら、他の受講生の感想も参考にしながら、スーパービジョンを通して学ぶ。

### 授業の到達目標

事例に対して、12のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパービジョンを通して学び、自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解ができるようになる。

### 授業計画

1. スーパービジョンについてのガイダンス
2. 精神分析的視点からのケース・アプローチ
3. アドラー派の視点からのケース・アプローチ
4. 実存分析的視点からのケース・アプローチ
5. 来談者中心療法の視点からのケース・アプローチ
6. ゲシュタルト療法的視点からのケース・アプローチ
7. 行動療法的視点からのケース・アプローチ
8. 認知行動療法的視点からのケース・アプローチ
9. 現実療法的視点からのケース・アプローチ
10. フェミニスト療法的視点からのケース・アプローチ
11. ポストモダンの視点からのケース・アプローチ
12. 家族療法的視点からのケース・アプローチ
13. 統合的視点からのケースへのアプローチ
14. 受講者自身の面接スタイルの探求
15. 日本人との面接の留意点

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

### テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター, 2001年

### 参考書・参考資料等

Gerald Corey (2012) 『Case approach to Counseling and Psychotherapy 8 edition』

### 学生に対する評価

レポート(30%)・発表(30%)・授業参加の積極性(40%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨床場面でかかわったケースの記録をまとめている。
- (B) ケース・アプローチ方法の基礎知識を理解している。
- (A) ケース・アプローチ方法の知識のみならず、技能も理解している。
- (S) 自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解が出来ている。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

### その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

トロント大学大学院留学で、統合的カウンセリングの方法を学び、そこでの教材を活用しつつ、臨床心理士としての実務経験をもとに、学生が自分の事例報告書を作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかスーパービジョンを通して、それぞれの理論と事例を理解できる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習Ⅲ)/人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅲ)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	山本和美	
ナンバリング	N2-10-249	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

・学生が自らの心身に向き合うことでマインドフルネスとは何かを体験的に理解する。 ・学生の日常生活においても実践的に身に着けてゆくことを通して、自己理解を深める。 ・学生が心理的ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆく。 ・授業は、講義と演習を織り交ぜて進めてゆく。

## 授業の到達目標

・学生が自らの心身に向き合うことでマインドフルネスとは何かを体験的に理解できるようになる。 ・学生の日常生活においても実践的に身に着けてゆくことを通して、自己理解を深めることができる。 ・学生がマインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆくことができる。

## 授業計画

1. 臨床心理学におけるマインドフルネスの位置づけ
2. 注意の向け方
3. 食とマインドフルネス
4. 呼吸・身体感覚について
5. 自己認知について
6. 心身医学： 生物・心理・社会的観点
7. ものごととの関係性
8. 心と身体の関係
9. ストレス反応と対応
10. 心の性質と情動調律
11. コミュニケーションについて
12. 治療的關係
13. 共感・共感疲労
14. 日常生活でのマインドフルネスの実践
15. ふりかえり

## 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として前回の講義と実習内容について復習しておく (30分) ・実習内容を振り返り、実習を継続し、自身の体験を記録する (120分)

## テキスト

その都度プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

井上ウィマラ 『呼吸による気づきの教え』成文出版社, 2005年 春木豊訳『マインドフルネスストレス低減法』 北大路書房, 2007年

## 学生に対する評価

レポート (70%) ・授業参加の姿勢 (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) マインドフルネスの基本的な考え方を理解する。
- (B) マインドフルネスを通じて、自己の感覚と向き合うことができる。
- (A) マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づく。
- (S) マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨む心構えを身につける。

## 課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

・アクティブ・ラーニング(グループワーク、実習)を取り入れた科目である。 ・身体を活用したワークが含まれるため、学生は動きやすい服装を着用すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士として実務経験をもつ教員により、集団・個人を対象としたカウンセリングの基本およびマインドフルネスの実務経験を生かして体験的に学修する授業を行い、学生自身が自己をより良く理解することを通じて、対人援助の場面での適切な対応につなげる能力を身に付けさせる。



科目名	企画科目(臨床心理学面接演習Ⅳ)/人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅳ)							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-250	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	-

## 授業の目的と概要

人生のあらゆる場面での臨床場面を想定し、どのようなクライアントと面接しているときでも、その人の存在を全人的に理解し関わるができるようにするために、臨床心理学的視点とスピリチュアリティの涵養を含めて理解とトレーニングを積み重ねてゆく。授業は講義と演習を交えながら進めてゆく。

## 授業の到達目標

生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につける。

## 授業計画

1. 人生と発達
2. 世代間伝達
3. 発達促進的環境
4. 疾病利得
5. 終末期を生きること
6. 認知症を生きること・家族の支援
7. 悲しむ力と育む力
8. トラウマケア、グリーフケア、スピリチュアルケア
9. スーパービジョンとスピリチュアリティ
10. コンステレーション
11. 全人的医療と全人的ケア
12. 幸せの心理学
13. 感情労働と燃えつき防止
14. 苦しみと解放
15. 講義内容の総括と振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと (90 分)

## テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

窪寺俊之『死とスピリチュアルケア論考』関西学院大学出版会, 2019 年。その他講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

レポート評価 (100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生老病死の苦しみについて理解する。
- (B) 生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解する。
- (A) 生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度について考えることができる。
- (S) 生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につけ、自身のケア観について他者に述べるることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、講義及びグループ演習を通じて、生老病死の苦しみに伴う痛みを理解し実践するための姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミ I D(宗教学入門)／人間学専門講義(宗教学入門)						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	N2-03-251	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

宗教学の議論を学ぶことで、今日の私たちが当たり前のように考えている西洋近代的な「宗教」という概念を問いなおし、持続可能な社会を展望するにあたっての幅広い知見を得る。

## 授業の到達目標

宗教学の基礎的知識を習得する。

## 授業計画

1. 開講にあたって——「宗教」とはなにか
2. 宗教学の誕生
3. 宗教概念論の登場
4. 「聖なるもの」の系譜①——R・スミス、フレイザーのタブー論
5. 「聖なるもの」の系譜②——コント、ミルの人類教
6. 「聖なるもの」の系譜③——デュルケム、ヴェーバーの宗教社会学論
7. 「聖なるもの」の系譜④——オットー、エリアーデの宗教学
8. 「聖なるもの」の系譜⑤——アサド「世俗」とはなにか
9. 「聖なるもの」の系譜⑥——アガンベン「ホモ・サケル」
10. 近代日本と「宗教」①——国家神道の形成
11. 近代日本と「宗教」②——仏教の近代
12. 近代日本と「宗教」③——民衆宗教の萌芽
13. 近代日本と「宗教」④——柳田國男の固有信仰論
14. 宗教の二つの源泉——ベルクソンとデリダの展望
15. まとめと総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の参考書や参考資料を読み込んでおくこと(予習 90 分)。講義内容をふりかえり、関連文献を調査すること(復習 90 分)。

## テキスト

特に指定しない。

## 参考書・参考資料等

アガンベン『ホモ・サケル——主権権力と剥き出しの生』(高桑和己訳、以文社、2007年)。他は授業中に紹介する。

## 学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教学の基礎的知識を理解している。
- (B) 宗教学の基礎的知識をより専門的に理解している。
- (A) 宗教学の基礎的知識を理解し、自分なりの宗教理解に活かしている。
- (S) 宗教学の基礎知識の上に、宗教学の専門的事項について、さらに進んだ学習をしている。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックをおこなう。

## その他

科目名	人間学特殊ゼミⅡD(世俗主義と宗教)／人間学専門講義(世俗主義と宗教)							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	N2-03-252	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

戦後日本を代表する映画シリーズ『男はつらいよ』の検討をとおして、世俗と宗教のありかたについての知見を得る。

## 授業の到達目標

近代世俗主義についての基本的概念を理解する。

## 授業計画

1. 開講にあたって——なぜ「寅さん」なのか
2. 寅さんと日本の戦後①——敗戦から復興へ
3. 寅さん誕生——渥美清・山田洋次・啖呵売
4. 作品分析①——第1作『男はつらいよ』
5. 寅さんとナショナリズム——象徴化のメカニズム分析
6. 寅さんとマドンナ①——戦後日本女性史の観点から
7. 寅さんとマドンナ②——寅さんとリリー
8. ポストコロニアル・スタディーズの観点から①——寅さんと北海道
9. ポストコロニアル・スタディーズの観点から②——寅さんと沖縄
10. 作品分析②——第29作『寅次郎あじさいの恋』
11. 寅さんのコスモロジー——「ふるさと」を形づくるもの
12. 作品分析③——第39作『寅次郎物語』
13. 寅さんと日本の戦後②——昭和から平成へ
14. 山田洋次の挑戦——枠組みなき社会で救済を描く
15. 寅さんと満男——寅さんを探して

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回該当箇所の参考資料を調査しておくこと(予習90分)。講義内容をふりかえり、関連文献を調査すること(復習90分)。

## テキスト

特に指定しない。

## 参考書・参考資料等

吉村英夫『山田洋次と寅さんの世界——困難な時代を見すえた希望の映画論』(大月書店、2012年)。他は授業中に紹介する。

## 学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業後の感想文(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 戦後日本社会の世俗主義について基礎的知識を理解している。
- (B) 戦後日本社会の世俗主義についてより専門的に理解している。
- (A) 戦後日本社会の世俗主義について理解し、踏み込んだ問題意識を獲得している。
- (S) 戦後日本社会の世俗主義について理解し、持続可能な社会のありかたについての自分なりの展望を描ける。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックをおこなう。

## その他

科目名	人間学特殊ゼミ I E(悲嘆学)／人間学専門講義(悲嘆学E)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-253	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

グリーフ (grief) とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

## 授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

## 授業計画

1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論 (PTSD と複雑性悲嘆について)
3. 犯罪被害者支援① (被害者・加害者の声)
4. 犯罪被害者支援② (被害者・加害者の心理的ケア)
5. 虐めと虐待① (虐め体験について)
6. 虐めと虐待② (被虐体験への心理的ケア)
7. 難病支援① (難病とは・我が国の現状)
8. 難病支援② (生きることの苦悩と受容の心理的ケア)
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援① (病と自己)
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援② (死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援① (遺族の心理)
12. 自死遺族支援② (サポートグループについて)
13. 災害時支援① (災害による喪失体験)
14. 災害時支援② (復興期に求められる支援について)
15. 講義内容の総括と振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと (90 分)

## テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂, 2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

レポート評価 (100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができています。
- (B) 悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
- (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
- (S) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師 (指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミⅡE(深層心理学)／人間学専門講義(深層心理学)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-254	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日常生活を送る上で、私たちは、自身の言動をすべて意識して行っているわけではない。例えば、普段口にしないようなことを思わず口走ってしまうことや、平時であればなんでもないことでも、ストレスフルな環境下では、些細なことでも怒りが湧いてくるといったことは誰もが体験していることだろう。このように自身が意識・感知していない領域、すなわち、無意識の心理過程が我々にはあると考え、研究を重ねてきた領域が深層心理学の分野である。本講義では、深層心理学の分野において多大な影響を与えている精神分析学とその諸派の基本的な概念、及び、分析心理学の概念について取り扱う。

## 授業の到達目標

臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

## 授業計画

1. 精神分析学以前の学説
2. 精神分析誕生について. 夢判断・錯誤行為
3. 無意識の発見・心的構造論
4. 神経症の症例を通じて
5. 自我心理学とライフサイクル論について
6. 自己心理学について
7. 対象関係論について①
8. 対象関係論について②
9. ラカンの精神分析理論について
10. 分析心理学誕生について
11. タイプ論
12. 夢分析
13. 元型論
14. 集合的無意識と東洋思想
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの関連するページを毎回読み、内容を理解しておくこと(90分)、疑問点は授業で質問する。事前学習したことと授業中に学んだことを踏まえて、授業最後の作文を書く。そして事後学習として授業で学んだ内容に関して、新たに考えたこと、生活の中で気が付いたことをまとめ(90分)、次回の授業で発言する。

## テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター, 2001年

## 参考書・参考資料等

適時、紹介する。

## 学生に対する評価

レポートにて評価する(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 精神分析に関心がある。
- (B) 精神分析に関する基礎的な知識を身につけている。
- (A) 精神分析の知識のみならず技能も理解している。
- (S) 臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後に実施する作文に書かれた質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

## その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

ユング研究所留学で夢分析を学び、フロイト派の分析家にスーパーバイズを受け、深層心理学をユングとフロイトを中心にして学び、さらに臨床心理士としての実務経験を重ねた教員が、学生に日本人の事例を深層心理学的に理解できる能力を身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミ I F(スピリチュアルケア演習 I) / 人間学専門講義(スピリチュアルケア演習 I)					学期	前期		
副題	-				授業方法	講義	担当者	大河内大博	
ナンバリング	N2-10-255	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論、並びにスピリチュアルケア理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

## 授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

## 授業計画

1. 講義ガイダンス：スピリチュアルケアにおけるグループワーク
2. グループワークの基礎①（対人援助概論）
3. グループワークの基礎②（傾聴手法）
4. グループワークの基礎③（スピリチュアルケア援助訓練法）
5. グループワークの基礎④（ケアの哲学的構造）
6. 生育歴セッション 1-①（自己開示の訓練基礎）
7. 生育歴セッション 1-②（自己開示の訓練基礎）
8. 生育歴セッション 1-③（家族関係論）
9. 生育歴セッション 1-④（家族関係論）
10. 生育歴セッション 1-⑤（家族関係論）
11. 生育歴セッション 2-①（アイデンティティの形成過程）
12. 生育歴セッション 2-②（アイデンティティの形成過程）
13. 生育歴セッション 2-③（死者との共生）
14. 生育歴セッション 2-④（死者との共生）
15. 生育歴セッション 2-⑤：まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に課された課題作成に取り組み（60分）、授業内で発表する。

## テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010年）

## 参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014年）

## 学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（振り返りシート）（25%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自己課題への気づきがあり、今後取り組む姿勢ができています。
- (B) 自己課題が明確であり、グループダイナミクスを理解できています。
- (A) 自己課題への取り組みが出来ており、他者のケアができています。
- (S) 自己課題への取り組みをグループダイナミクスを通して行い、他者のケアができています。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

## その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に秋学期の「スピリチュアルケア演習Ⅱ」と両方の受講を求める。各回、欠席のないようにすること。

科目名	人間学特殊ゼミⅡF(スピリチュアルケア演習Ⅱ)／人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅱ)					学期	後期		
副題	—				授業方法	講義	担当者	大河内大博	
ナンバリング	N2-10-256	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論、並びにスピリチュアルケア理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

## 授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

## 授業計画

1. スピーチセッション1-① (患者とのラポール形成)
2. スピーチセッション1-② (患者とのラポール形成)
3. スピーチセッション1-③ (対人援助パターンの分析)
4. スピーチセッション1-④ (対人援助パターンの分析)
5. スピーチセッション1-⑤ (フィードバックの訓練)
6. スピーチセッション2-① (自己課題の開示)
7. スピーチセッション2-② (自己課題の開示)
8. スピーチセッション2-③ (他職種連携)
9. スピーチセッション2-④ (他職種連携)
10. スピリチュアルケア理論1 (窪寺理論)
11. スピリチュアルケア理論2 (大下理論)
12. スピリチュアルケア理論3 (村田理論)
13. スピリチュアルケア理論4 (谷山理論)
14. スピリチュアルケア理論5 (伊藤・小西・中井理論)
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に課された課題作成に取り組み (60分)、授業内で発表する。

## テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』(関西学院大学出版会、2010年)

## 参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』(ワニブックス、2014年)

## 学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (25%)、授業参加の積極性 (振り返りシート) (25%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま迎えず自分の言葉で編集する。
- (B) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に迎ろうとする姿勢が身についた。
- (A) 15分間話者の言葉を正確に迎り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
- (S) 非構成グループ(現場)の中で錯綜する言葉を正確に迎り、場に明晰性をもたらす力がある。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

## その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に春学期の「スピリチュアルケア演習Ⅰ」の受講者を対象とする。各回、欠席のないようにすること。

科目名	企画科目(福祉心理学)/人間学専門講義(福祉心理学)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-257	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

社会福祉の理念と制度とその歴史の変遷について学ぶ。その上で、児童、家庭、高齢者、障害者福祉分野での心理支援活動における必須知識と課題並びにその実際について学ぶ。

### 授業の到達目標

社会の中での福祉の理念と制度を理解し、かつ、社会の人々の福祉に資するための心理学的知識と態度を身に付ける。

### 授業計画

1. 社会福祉の歴史と動向
2. 社会福祉の理念
3. 社会福祉の制度・法律
4. 社会福祉の職種とその連携
5. 福祉現場における活動の基本と倫理
6. 福祉における心理アセスメントと心理学的支援
7. 児童福祉分野の活動① 児童虐待
8. 児童福祉分野の活動② 子どもへの支援・社会的養護
9. 家庭福祉分野の活動① 家庭支援と貧困
10. 家庭福祉分野の活動② DV
11. 高齢者福祉分野の活動① 認知症の理解・高齢者の支援
12. 高齢者福祉分野の活動② 高齢者虐待
13. 障害者福祉分野の活動① 障害福祉サービス
14. 障害者福祉分野の活動② 障害者虐待
15. まとめ：尊厳について

### 準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる(90分)。各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し(90分)、次回に提出する。

### テキスト

随時プリント配布

### 参考書・参考資料等

中島 健一(著, 編集), 野島 一彦(監修), 繁樹 算男(監修) 『福祉心理学(公認心理師の基礎と実践)』第17巻, 遠見書房, 2018年

### 学生に対する評価

課題(複数)レポート(50%)・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度(50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会福祉における心理学の基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
- (B) 社会福祉における心理学の基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
- (A) 社会福祉における心理支援における心理学的知識と態度について説明ができる。
- (S) 社会の人々の福祉に資するための心理学的知識と態度を身につけている。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

### その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士、公認心理師資格を有する教官が、心理支援職という実務経験を活かし、実例を提示しながら、福祉支援のあり方について講義をする。



科目名	企画科目(聖地巡礼Ⅰ)/人間学実践演習(聖地巡礼Ⅰ)						学期	後期	
副題	-				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N3-03-258	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問・巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート(2,000~3,200字)にまとめる。

### 授業の到達目標

自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのか、自身のスピリチャリティに影響を及ぼした体験について考察して記述することができる。

### 授業計画

1. 講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2. 聖地巡礼に向けての計画書作成①
3. 聖地巡礼に向けての計画書作成②
4. 聖地巡礼に向けての計画書作成③
5. 聖地巡礼に向けての計画書作成④
6. 聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7. 聖地巡礼経過報告①
8. 聖地巡礼経過報告②
9. 聖地巡礼経過報告③
10. 聖地巡礼経過報告④
11. 聖地巡礼経過報告⑤
12. 聖地巡礼後の報告書作成①
13. 聖地巡礼後の報告書作成②
14. 聖地巡礼後の報告書作成③
15. 総合報告会：まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

聖地について調べてまとめ、巡礼のための準備をする。(90分) 計画または巡礼後の発表、質疑応答を踏まえ、内容について各自で整理する。(90分)

### テキスト

講師作成のプリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

①鎌田東二『究極日本の聖地』KADOKAWA/中経出版, 2014年 ②岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書, 2015年

### 学生に対する評価

レポート(100%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
- (B) 聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
- (A) 聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
- (S) 聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

### その他

この科目は、3年次に履修すること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自身にとっての聖地を巡る実習教育を通じて、自身のスピリチャリティ涵養のために必要な学びを自ら立案及び実行し、自身の得た体験の意味に思索を巡らし、言語化する力を身につけさせる。

科目名	企画科目(聖地巡礼Ⅱ)							学期	後期
副題	—				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N4-03-259	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問・巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート（2,000～3,200字）にまとめる。

### 授業の到達目標

自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのか、自身のスピリチャリティに影響を及ぼした体験について考察して記述することができる。

### 授業計画

1. 講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2. 聖地巡礼に向けての計画書作成①
3. 聖地巡礼に向けての計画書作成②
4. 聖地巡礼に向けての計画書作成③
5. 聖地巡礼に向けての計画書作成④
6. 聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7. 聖地巡礼経過報告①
8. 聖地巡礼経過報告②
9. 聖地巡礼経過報告③
10. 聖地巡礼経過報告④
11. 聖地巡礼経過報告⑤
12. 聖地巡礼後の報告書作成①
13. 聖地巡礼後の報告書作成②
14. 聖地巡礼後の報告書作成③
15. 総合報告会：まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

聖地について調べてまとめ、巡礼のための準備をする。(90分) 計画または巡礼後の発表、質疑応答を踏まえ、内容について各自で整理する。(90分)

### テキスト

講師作成のプリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

①鎌田東二『究極日本の聖地』KADOKAWA/中経出版, 2014年 ②岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書, 2015年

### 学生に対する評価

レポート (100%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
- (B) 聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
- (A) 聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
- (S) 聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

### その他

この科目は、『聖地巡礼Ⅰ』を受講していなければ受講できない。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自身にとっての聖地を巡る実習教育を通じて、自身のスピリチャリティ涵養のために必要な学びを自ら立案及び実行し、自身の得た体験の意味に思索を巡らし、言語化する力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅰ)/人間学実践演習(臨床実習Ⅰ)							学期	通年
副題	-				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N3-10-260	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は60時間とする。また、3年次の履修とする。

## 授業の到達目標

スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。

## 授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. スピリチュアルケアと臨床現場
3. ケアと倫理
4. 実習：傾聴活動①
5. 実習：傾聴活動②
6. 実習：傾聴活動③
7. 実習：傾聴活動④
8. 実習：傾聴活動⑤
9. 実習：傾聴活動⑥
10. 実習：傾聴活動⑦
11. 実習：傾聴活動⑧
12. 実習：傾聴活動⑨
13. 実習：傾聴活動⑩
14. 実習の振り返り
15. まとめ：苦悩とケア

## 準備学習(予習・復習)・時間

各実習実施前に、各自の課題と目標を明確化する(90分)。実習実施後に、記録記入及び反省を行う(90分)

## テキスト

講師作成の実習資料を配付する。

## 参考書・参考資料等

窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書房, 2008年。他、適時紹介する。

## 学生に対する評価

実習中の態度(30%)・実習日誌(70%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。  
 (B) スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。  
 (A) スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。  
 (S) スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することのできる。

## 課題に対するフィードバックの方法

定期的の実習日誌を点検し、随時指導を行う。

## その他

スピリチュアルケア師資格取得を希望する者は、臨床実習Ⅰ(3年次)と臨床実習Ⅱ(4年次)を履修すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、スピリチュアルケアの臨床現場(高齢者介護施設・緩和ケア病棟・障害者福祉施設など)でのケア実習(実践・グループワーク・指導など)を通じて、ケアに必要な姿勢、態度、能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅱ)							学期	通年
副題	-				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N4-10-261	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

「臨床実習Ⅰ」での学びをさらに深めることを目的とし、4年次の履修とする。スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は60時間とする。

## 授業の到達目標

スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。

## 授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. スピリチュアルケアと死生観
3. ケアと倫理
4. 実習：傾聴活動①
5. 実習：傾聴活動②
6. 実習：傾聴活動③
7. 実習：傾聴活動④
8. 実習：傾聴活動⑤
9. 実習：傾聴活動⑥
10. 実習：傾聴活動⑦
11. 実習：傾聴活動⑧
12. 実習：傾聴活動⑨
13. 実習：傾聴活動⑩
14. 実習の振り返り
15. まとめ：苦悩とケア

## 準備学習(予習・復習)・時間

各実習実施前に、各自の課題と目標を明確化する(90分)。実習実施後に、記録記入及び反省を行う(90分)

## テキスト

講師作成の実習資料を配付する。

## 参考書・参考資料等

窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書房, 2008年。他、適時紹介する。

## 学生に対する評価

実習中の態度(30%)・実習日誌(70%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
- (B) スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
- (A) スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
- (S) スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することのできる。

## 課題に対するフィードバックの方法

定期的に実習日誌を点検し、随時指導を行う。

## その他

スピリチュアルケア師資格取得を希望する者は、臨床実習Ⅰ(3年次)と臨床実習Ⅱ(4年次)を履修すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、スピリチュアルケアの臨床現場(高齢者介護施設・緩和ケア病棟・障害者福祉施設など)でのケア実習(実践・グループワーク・指導など)を通じて、ケアに必要な姿勢、態度、能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅲ)/人間学実践演習(臨床実習Ⅲ)						学期	通年	
副題	-				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N3-10-262	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

キリスト教の教義及び世界観並びに神道の教義及び世界観と社会实践活动の実際について、学外実習を通じて学ぶ。遠隔地での学外実習のため現地にて宿泊する。また、各実習終了後、自身の学びや気づきについてキーワードを3つ挙げ、レポート(2,000～3,200字以内)にまとめる。

## 授業の到達目標

様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の世界観を再確認し、社会实践活动に結び付ける視点を身につける。

## 授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. 事前学習①：キリスト教について
3. 事前学習②：教会の活動について
4. 現地実習①：活動現場視察(自殺防止活動・於：和歌山県白浜町三段壁周辺)
5. 現地実習②：実践講義1(キリスト教の世界観)
6. 現地実習③：実践講義2(キリスト教とケア)
7. 現地実習④：礼拝出席
8. 実習の振り返り①
9. 事前学習③：神道について
10. 現地実習⑤：実践講義1(神道の世界観)
11. 現地実習⑥：実践講義2(神道とケア)
12. 現地実習⑦：伊勢神宮参拝
13. 実習の振り返り②
14. 全体の振り返り
15. まとめ：宗教とケア

## 準備学習(予習・復習)・時間

各事前学習の前の個人学習(90分)と各実習の振り返り後の学びのまとめ(90分)

## テキスト

講師作成の資料を配付する。

## 参考書・参考資料等

藤藪庸一『あなたを諦めない 自殺救済の現場から』いのちのことば社, 2019年・伊藤 聡『神道とは何か - 神と仏の日本史』中央公論新社, 2012年

## 学生に対する評価

レポートによる評価(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 様々な宗教的世界観を理解する。
- (B) 様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の抱く世界観を理解する。
- (A) 自己の抱く世界観を理解し、社会实践活动に結びつける視点を身につけている。
- (S) 自己の抱く世界観を理解し、社会实践活动に結びつける視点を身につけ、それらを他者に伝えることできる。

## 課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

## その他

臨床宗教師資格取得を希望する者は必ず受講すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、宗教者によるケア実践活動の現場(キリスト教・神道)での実習を通じて、各宗教の世界観及び実践方法について学ぶことで自身のケア活動の姿勢や態度を内省し、現場での自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅳ)/人間学実践演習(臨床実習Ⅳ)							学期	通年
副題	-				授業方法	実習	担当者	川口道雄	
ナンバリング	N3-10-263	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、学術大会や研修会、ボランティア活動などに3回または3ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを3つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート(2,000~3,200字以内)にまとめる。

## 授業の到達目標

現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養を身につける。

## 授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. 事前学習①
3. 事前学習②
4. 現地実習①
5. 現地実習②
6. 現地実習③
7. 現地実習④
8. 実習中間報告会
9. 現地実習⑤
10. 現地実習⑥
11. 現地実習⑦
12. 現地実習⑧
13. 実習の振り返り
14. 実習報告会①
15. 実習報告会②

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習及び現地実習の前に個人の興味関心のある領域の情報をまとめる(90分)。現地実習及び実習の振り返り後の自身の気づき、学びについてまとめる(90分)

## テキスト

講師作成の実習に関する資料を配付する。

## 参考書・参考資料等

木下大生(編集)、鴻巣麻里香(編集)『ソーシャルアクション!あなたが社会を変えよう!:はじめの一步を踏み出すための入門書』ミネルヴァ書房,2019年。他、適時紹介する。

## 学生に対する評価

レポートによる評価(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
- (B) 現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
- (A) 現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
- (S) 現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

## 課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

## その他

臨床実習Ⅳは3年次に履修すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

講師は、社会福祉法人光生会の創立者、現相談役を務めている。知的障害、身体障害のある方、高齢者の方及び子どもと子育て中の方への支援を行う法人の運営、並びに、対人援助の実務経験のある講師が、ボランティア活動への姿勢や態度、また、各領域の専門性の高め方について教示し、現代社会における様々な問題に対応するための自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習V)							学期	通年
副題	-				授業方法	実習	担当者	川口道雄	
ナンバリング	N4-10-264	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、研修会、学術大会、ボランティア活動などに3回または3ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを3つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート(2,000~3,200字以内)にまとめる。

## 授業の到達目標

現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養や態度を身につける。

## 授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. 事前学習①
3. 事前学習②
4. 現地実習①
5. 現地実習②
6. 現地実習③
7. 現地実習④
8. 実習中間報告会
9. 現地実習⑤
10. 現地実習⑥
11. 現地実習⑦
12. 現地実習⑧
13. 実習の振り返り
14. 実習報告会①
15. 実習報告会②

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習及び現地実習の前に個人の興味関心のある領域の情報をまとめる(90分)。現地実習及び実習の振り返り後の自身の気づき、学びについてまとめる(90分)

## テキスト

講師作成の実習に関する資料を配付する。

## 参考書・参考資料等

木下大生(編集)、鴻巣麻里香(編集)『ソーシャルアクション!あなたが社会を変えよう!:はじめの一步を踏み出すための入門書』ミネルヴァ書房,2019年。他、適時紹介する。

## 学生に対する評価

レポートによる評価(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
- (B) 現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
- (A) 現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
- (S) 現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

## 課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

## その他

臨床実習Vは4年次に履修すること。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

講師は、社会福祉法人光生会の創立者、現相談役を務めている。知的障害、身体障害のある方、高齢者の方及び子どもと子育て中の方への支援を行う法人の運営、並びに、対人援助の実務経験のある講師が、ボランティア活動への姿勢や態度、また、各領域の専門性の高め方について教示し、現代社会における様々な問題に対応するための自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	人間学演習 I C(臨床心理学演習)						学期	通年	
副題	—				授業方法	演習	担当者	上野・森崎	
ナンバリング	N3-25-265	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	—

### 授業の目的と概要

3 回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関する文献の収集・要約及び研究計画書を作成し、発表をする。1. 自身が興味・関心をいだいた心理学領域に関する文献を収集する。2. 文献の要約を行い、受講生が順番に発表を行う。3. テーマに関する議論を行い、問題点・課題点を明らかにする。4. 新たに見出された問題点・課題点について文献を収集しまとめる。5. 以上の手順で、自身が焦点をあてる研究課題を明らかにする。この講義は4年生次の卒業論文作成のための準備段階として位置付けられる。

### 授業の到達目標

自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 講義ガイダンス：研究とは何か。
2. 興味関心と研究①
3. 興味関心と研究②
4. 興味関心と研究②
5. 興味関心と研究④
6. 興味関心と研究⑤
7. テーマ設定①
8. テーマ設定②
9. テーマ設定③
10. テーマ設定④
11. テーマ設定⑤
12. テーマに関する文献収集①
13. テーマに関する文献収集②
14. テーマに関する文献収集③
15. まとめ：研究テーマ発表

#### 【後期】

1. テーマに関する課題の探索①
2. テーマに関する課題の探索②
3. テーマに関する課題の探索③
4. テーマに関する課題の探索④
5. テーマに関する課題の探索⑤
6. 目的に関する文献収集①
7. 目的に関する文献収集②
8. 目的に関する文献収集③
9. 目的に関する文献収集④
10. 目的に関する文献収集⑤
11. 研究計画書の作成①
12. 研究計画書の作成②
13. 研究計画書の作成③
14. 研究計画書の作成④
15. まとめ：研究計画書の発表

### 準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする(90分)。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する(90分)。

### テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』 共立出版, 2015年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

### 学生に対する評価

授業中の課題発表(50%) 最終レポート(50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
- (B) 自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
- (A) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
- (S) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

### 課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

### その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。



科目名	人間学演習ⅡC(臨床心理学演習)							学期	通年
副題	—				授業方法	演習	担当者	上野・森崎	
ナンバリング	N4-25-266	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	—

### 授業の目的と概要

4回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関するデータ収集を行い、研究成果の発表をする。この講義は4年次の卒業論文作成のための作業段階として位置付けられる。

### 授業の到達目標

自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 講義ガイダンス：研究とは何か
2. 研究計画書の見直し①
3. 研究計画書の見直し②
4. 研究計画書の見直し③
5. 研究計画書の見直し④
6. 研究計画書の見直し⑤
7. データ収集経過報告①
8. データ収集経過報告②
9. データ収集経過報告③
10. データ収集経過報告④
11. データ収集経過報告⑤
12. データ収集経過報告⑥
13. 研究経過報告発表会①
14. 研究経過報告発表会②
15. 研究経過報告発表会③

#### 【後期】

1. 卒業論文作成について
2. データ分析①
3. データ分析②
4. データ分析③
5. データ分析④
6. データ分析⑤
7. 結果の整理と考察①
8. 結果の整理と考察②
9. 結果の整理と考察③
10. 結果の整理と考察④
11. 結果の整理と考察⑤
12. 結果の整理と考察⑥
13. 研究成果発表会①
14. 研究成果発表会②
15. 研究成果発表会③

### 準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする。(90分) 発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。特に、研究テーマに関係するKeywordについて先行研究のデータを収集する。(90分)

### テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』 共立出版, 2015年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

### 学生に対する評価

授業中の課題発表 (50%) 最終レポート (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
- (B) 自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
- (A) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
- (S) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

### 課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

### その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	総合科目(チベット仏教入門ⅠA)							学期	前期
副題	仏教の基礎を学ぶ				授業方法	講義	担当者	テジツン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-267	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

### 授業の到達目標

チベット語経典を通じて四大学派の禅定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 講義内容の説明
2. 釈尊の十二相
3. 止の瞑想の紹介
4. 瞑想する環境と身体の挙止
5. 瞑想の対象と、対象に心を置く方法
6. 瞑想の妨げとなる条件と必要な条件の解説
7. 止の瞑想の絵を見ながら解説
8. 止の瞑想と瞑想図を合わせて解説
9. 禅定波羅蜜について『入菩薩行論 第8禅定章』第1偈を中心に（日常生活と修行）
10. 禅定波羅蜜について『入菩薩行論 第8禅定章』第4偈を中心に（分析的瞑想の解説）
11. 禅定波羅蜜について『入菩薩行論 第8禅定章』第90偈を中心に（自他を平等と考える修行）
12. 智慧波羅蜜について（因果の縁起と空）
13. 智慧波羅蜜について（部分の縁起と空）
14. 智慧波羅蜜について（名前をつけるだけの縁起と空）
15. まとめ及び学生の発表

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

### テキスト

教員が用意する。

### 参考書・参考資料等

教室で指示する。

### 学生に対する評価

発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

### その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	総合科目(チベット仏教入門ⅡA)							学期	後期
副題	仏教の基礎を学ぶ				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-268	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

### 授業の到達目標

四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 講義内容の説明
2. 仏教とそれ以外の宗教の特徴
3. 四大学派の解説
4. 四大学派の有部と経量部それぞれの二諦（世俗諦と勝義諦）の解説
5. 四大学派の唯識と中観それぞれの二諦（世俗諦と勝義諦）の解説
6. 『般若心経』の内容の解説（観自在菩薩～是故空中）
7. 『般若心経』の内容の解説（無色無受想行識～依般若波羅蜜多故）
8. 『般若心経』の内容の解説（心無罣礙～終わりまで）
9. 有暇具足の解説（八有暇と八無暇について）
10. 有暇具足の解説（自分の五具足と他人の五具足から成る十具足について）
11. 死の無常（死ぬことと輪廻の過失の解説）
12. 死の無常（来世と自分が積んだ功德の関係性の解説）
13. 無着賢著『37の菩薩の實踐』（第1偈～第16偈の解説）
14. 無着賢著『37の菩薩の實踐』（第17偈～第37偈の解説）
15. まとめ及び学生の発表

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）。事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90分）。

### テキスト

教室で指示する。

### 参考書・参考資料等

教室で指示する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、習熟度（40%）。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

### その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	企画科目(古文書解読B)／古文書解読B							学期	前期
副題	『大日本史』編纂関係文書を読む				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-12-269	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

この授業では、近世の水戸藩における『大日本史』編纂に関する文書や史料を読む。本年度は、主に佐々宗淳が延宝8年(1680)に実施した、南都の史料探訪に関する報告書(『史館旧記』所収)を読むことで、古文書の解読能力を高めるとともに、近世の歴史学の発達についても学ぶ。なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進捗や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

## 授業の到達目標

近世の古文書に関する読解能力を身につける。古文書を通して、『大日本史』の編纂過程を説明できるようになる。歴史研究の営みや史料批判について、基礎的な認識を得られるようになる。

## 授業計画

1. 古文書序説(古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など)
2. 河合正修『史館旧話』を読む①—徳川光圀と周囲の学者たち—
3. 河合正修『史館旧話』を読む②—徳川光圀と周囲の学者たち—
4. 「上方御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む①
5. 「上方御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む②
6. 「上方御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む③
7. 「上方御用之覚書」(『史館旧記』所収)を読む④
8. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む①
9. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む②
10. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む③
11. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む④
12. 「南都御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む⑤
13. 古文書・古典籍の複製を扱う
14. 史跡見学(1)
15. 史跡見学(2)

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に見える専門用語や文献について理解しておくこと(90分) 講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと(90分)

## テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993年) ※書店で購入。また、古文書の図版プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

①『日本国語大辞典 第2版』全13巻・別巻1巻(小学館、2000～2002年) ②佐藤進一『[新版] 古文書学入門』(法政大学出版局、1997年) ③久保田収『近世史学史論考』(皇學館大学出版部、1968年) ④但野正弘『新版 佐々介三郎宗淳』(錦正社、1988年)

## 学生に対する評価

授業中の参加態度(予習および発言、50%)、期末試験(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的なくずし字を解読できる。
- (B) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
- (A) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
- (S) 古文書の読解能力を習得するとともに、近世史学の歴史的意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

## その他

本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。(例年、類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意)。なお、本演習では、2回分の時間を史跡見学にあてる予定である(土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する)。

科目名	企画科目(密教瞑想)							学期	後期
副題	—					授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	M1-01-270	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

阿字観は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の観法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字観は在家の人でも修することができる。密教観法の一つである月輪観と阿字観についてについてその理論と実習を通じ修得する。

### 授業の到達目標

阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、理論を修得するとともに説明できるようになる。

### 授業計画

1. 瞑想の目的と種類
2. 阿息観について
3. 阿息観の実習
4. 月輪観について
5. 月輪観について
6. 月輪観実習
7. 『大日経』と阿字
8. 阿字観について
9. 阿字観について
10. 阿字観実習
11. 自由討論
12. 阿字観の口訣
13. 阿字観の口訣
14. 阿字観実習
15. レポート作成と講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業で修得したことを整理し、身に付けること。(120分)

### テキスト

①山崎泰廣著『真言密教阿字観瞑想入門』(春秋社) その他コピー配布

### 参考書・参考資料等

『大日経』、『大日経疏』、『定本弘法大師全集』等

### 学生に対する評価

レポート(80%)、授業参加の積極性(20%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本的文献を調査し読むことができる。
- (B) 月輪の意味について説明できる。
- (A) 実習を通して月輪の意味をより深く説明できる。
- (S) 密教瞑想法の思想的背景について説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめり毎、実修毎にフィードバックを行う。

### その他

楽に坐れる服装で出席のこと。匂いの強い化粧、ネックレス、イヤリングをしないこと。受講の間に、釈尊の胸中、空海の悠大な悟境の片鱗に触れていただきたい。

科目名	チベット語B					学期	通年		
副題	チベット語初級				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G2-07-271	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

チベット仏教の最高学位（ゲシェー・ハランパ）を持つチベット人僧侶から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

### 授業の到達目標

文字（ウチェン）と発音、あいさつ及び文字（ウメー）を修得し、チベット語の読み書き及び会話ができるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. オリエンテーション
2. 30基字の1～10の読み方と発音
3. 30基字の11～20の読み方と発音
4. 30基字の21～30の読み方と発音
5. 簡単なあいさつ
6. 30の子音字母と母音の結合1～15の読み方と発音
7. 30の子音字母と母音の結合16～30の読み方と発音
8. 簡単な会話
9. 反対字の読み方と発音
10. ས་ を頭とする有頭字
11. འ་ を頭とする有頭字
12. ར་ を頭とする有頭字
13. ལ་ を足とする有足字
14. ས་ を足とする有足字
15. འ་ を足とする有足字

#### 【後期】

1. འ་ を足とする有足字
2. 前置字
3. 後置字
4. 再後置字
5. 文章の読み方と日常会話
6. 文章の読み方と日常会話（続）
7. 文章の読み方と日常会話（続）
8. 文章の読み方と日常会話（続）
9. 文章の読み方と日常会話（続）
10. 文章の読み方と日常会話（続）
11. 文章の読み方と日常会話（続）
12. 文章の読み方と日常会話（続）
13. 文章の読み方と日常会話（続）
14. 文章の読み方と日常会話（続）
15. 文章の読み方と日常会話（続）

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180分）

### テキスト

ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

### 参考書・参考資料等

松本栄一・奥山直司『チベット [マンダラの国]』（小学館）※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

### 学生に対する評価

授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) チベット文字（ウチェン）が一応読み書きできる。
- (B) チベット語の簡単な挨拶ができる。
- (A) チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
- (S) チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよどみなくできる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

### その他

科目名	梵字悉曇C					学期	通年		
副題	梵字悉曇の基礎知識を養う			授業方法	実技	担当者	乾龍仁		
ナンバリング	G1-01-272	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

梵字とは、平たく言えばインドの文字のことである。インドの文字は歴史的地理的な条件のもとに多様な変化を遂げた。日本に伝わった悉曇文字は、ブラーフミー文字（梵字）から派生した北方系のグプタ文字の一種で、6世紀に現れたものと言われている。真言宗では、真言陀羅尼を誦読し書写する必要上から、古来学習され伝承されてきた。本授業では文字の書き方を中心に梵字悉曇の基礎的知識を養う。前期は字母及び悉曇十八章を学習する。

## 授業の到達目標

梵字悉曇の書法と基礎知識の修得。

## 授業計画

### 【前期】

1. 年間授業計画の説明、梵字と悉曇
2. 梵字の伝来とその後の発展 1
3. 梵字の伝来とその後の発展 2
4. 梵字の伝来とその後の発展 3
5. 梵字字母と字母表
6. 字母の書き方 1 摩多 \*以下、筆を使って実習
7. 字母の書き方 2 体文
8. 字母の書き方 3 体文
9. 梵字の切継
10. 悉曇十八章の学習 1 第一章～第三章
11. 悉曇十八章の学習 2 第四章～第六章
12. 悉曇十八章の学習 3 第七章～第九章
13. 悉曇十八章の学習 4 第十章～第十二章
14. 悉曇十八章の学習 5 第十三章～第十五章
15. 悉曇十八章の学習 6 第十六章～第十八章

### 【後期】

1. 塔婆の書き様 1
2. 塔婆の書き様 2
3. 初尊の種子と真言 1
4. 初尊の種子と真言 2
5. 各種梵讚偈頌の書き方と理解 1
6. 各種梵讚偈頌の書き方と理解 2
7. 各種梵讚偈頌の書き方と理解 3
8. 梵文般若心経（小本）の書き方と理解 1
9. 梵文般若心経（小本）の書き方と理解 2
10. 梵文般若心経（小本）の書き方と理解 3
11. 梵文般若心経（小本）の書き方と理解 4
12. 梵文般若心経（大本）の書き方と理解 1
13. 梵文般若心経（大本）の書き方と理解 2
14. 刷毛書体について
15. 作品制作（種子マンダラ）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分） 授業で学んだ文字を練習しておくこと（90分）

## テキスト

児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房

## 参考書・参考資料等

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』

## 学生に対する評価

小テスト5回（60%）、作品提出（40%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 字母の摩多・体文を正しく読み、また書くことができる。
- (B) 字母の摩多・体文を読み書きすることができ、しかも梵字をきれいに書くことができる。
- (A) 梵字の切接ができ、悉曇十八章の構造を理解している。
- (S) 種子や真言および梵文を読み書きすることができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

提出された小テスト及び作品は、その都度返却する。質問も随時受け付ける。

## その他

テキストの購入や準備品（書道用具や半紙等）については、最初の講義時に案内する。

科目名	宗教思想史 I B							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	G1-03-273	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インドは東洋における思想・宗教の一大発現地である。この授業ではまず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相について学習する。

### 授業の到達目標

仏教を含むインドの宗教思想について、その歴史と特徴に関する基礎的な知識を養うと共に、現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深め、実生活に活かせるようになる。

### 授業計画

1. インドが発する人類の思想的課題—M. K. ガンディーの思想を手懸かりに
2. インドの歴史地理、インダス文明
3. ヴェーダ
4. ウパニシャッド
5. 自由思想家たちとブッダの出現
6. ブッダの生涯とその教え
7. 仏教の発展：大乘仏教と密教
8. 叙事詩①：『ラーマーヤナ』
9. 叙事詩②：『マハーバーラタ』
10. ヒンドゥー教の発展
11. 正統バラモン教哲学
12. ヒンドゥー教とイスラーム教
13. インドと日本
14. タゴール、アンベードカルの思想
15. ガンディー再び

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと (90分)。事後学修として、ノートを読み、必要事項を記憶すること (90分)。

### テキスト

特になし。

### 参考書・参考資料等

山下博司『ヒンドゥー教 インドという謎』講談社、2004年。授業中に適宜資料を配布する。

### 学生に対する評価

期末レポート (80%)、授業中の発言等 (20%)。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
- (B) インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
- (A) インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
- (S) インド宗教思想史に関して独自の知見を述べるができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

遅刻3回で1欠席に換算する。



# 大 学 院



## 1. 文学研究科修士課程（修了要件：30単位）

[密教学専攻 博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

### 1) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	月	4	91401	密教学講義A（大）	佐藤隆彦	2	8単位を超えて修了要件に 参入できない。	340
後期	月	4	91451	密教学講義B（大）	佐藤隆彦	2		341
前期	木	3	94302	仏教学講義（大）	前谷彰	2		342
前期	月	3	91302	インド学講義（大）	奥山直司	2		343
前期	火	3	92301	祖典演習（大）	土居夏樹	2		344

### 2) 主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁	
前期	金	1	95101	密教学特殊研究A（大）	T.トライトライン	2	主要科目12単位必修	345	
後期	金	1	95151	密教学特殊研究B（大）	T.トライトライン	2		346	
前期	金	2	95201	密教学特殊研究C（大）	T.トライトライン	2		347	
後期	金	2	95252	密教学特殊研究D（大）	T.トライトライン	2		348	
後期	金	2	95251	密教史特殊研究A（大）	土居夏樹	2		350	
前期	金	3	95302	密教学演習1（大）	南昌宏	2		351	
後期	金	3	95352	密教学演習2（大）	南昌宏	2		352	
前期	金	4	95402	密教史演習（大）	奥山直司	2		353	
後期	火	3	92351	密教学講読（大）	土居夏樹	2		354	
前期	月	1	91101	密教史講読（大）	松長潤慶	2		355	
前期	木	2	94202	現代社会と宗教（大）	森崎雅好	2		社会人コースは4単位必修	356
前期	金	2	95202	密教と文化（大）	土居夏樹	2			357
前期	月	3	91301	事相研究I-1（大）	佐藤隆彦	2	僧侶コースは4単位必修 ※事相研究I及びIIでそれぞれ 2単位以上修得すること	358	
後期	月	3	91351	事相研究I-2（大）	佐藤隆彦	2		359	
前期	木	2	94201	事相研究II-1（大）	T.トライトライン	2		360	
後期	木	2	94251	事相研究II-2（大）	T.トライトライン	2		361	

### 3) 関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究A（大）	前谷彰	2		362
前期	木	3	94301	仏教学特殊研究B（大）	坂口太郎	2		349
後期	木	3	94351	仏教史特殊研究（大）	坂口太郎	2		363
前期	水	2	93201	仏教学演習1（大）	前谷彰	2		364
後期	水	2	93251	仏教学演習2（大）	前谷彰	2		365
後期	木	3	94352	仏教学演習3（大）	前谷彰	2		366
後期	月	3	91352	仏教学講読A（大）	溝端悠朗	2		367
前期	火	2	92201	仏教学講読B（大）	前谷彰	2		368
前期	月	3	91303	仏教史講読A（大）	溝端悠朗	2		369
前期	木	2	94203	仏教史講読B（大）	櫻木潤	2		370

### 4) 共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	水	3	93301	仏教芸術の研究1（大）	内藤栄	2		371
後期	水	3	93351	仏教芸術の研究2（大）	内藤栄	2		372
後期	月	1	91151	アジア地域の宗教文化の研究（大）	松長潤慶	2		373
後期	木	4	94451	比較宗教の研究（大）	森本一彦	2		374
後期	木	2	94252	現代社会と仏教の研究（大）	森崎雅好	2		375
前期	集中	集中	97001	教育学特殊研究（大）	山脇雅夫	2		376
通年	論文	論文	99001	修士論文（密教学）	大学院委員長	0		—
前期	論文	論文	99003	修士論文（密教学）（前期）	大学院委員長	0	7月提出許可者	—

## 2.文学研究科修士課程（修了要件：30単位）

[仏教学専攻 博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

### 1) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	月	4	91401	密教学講義A（大）	佐藤隆彦	2	8単位を超えて修了要件に 参入できない。	340
後期	月	4	91451	密教学講義B（大）	佐藤隆彦	2		341
前期	木	3	94302	仏教学講義（大）	前谷彰	2		342
前期	月	3	91302	インド学講義（大）	奥山直司	2		343
前期	火	3	92301	祖典演習（大）	土居夏樹	2		344

### 2) 主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究A（大）	前谷彰	2	主要科目12単位必修	362
前期	木	3	94301	仏教学特殊研究B（大）	坂口太郎	2		349
後期	木	3	94351	仏教史特殊研究（大）	坂口太郎	2		363
前期	水	2	93201	仏教学演習1（大）	前谷彰	2		364
後期	水	2	93251	仏教学演習2（大）	前谷彰	2		365
後期	木	3	94352	仏教学演習3（大）	前谷彰	2		366
後期	月	3	91352	仏教学講読A（大）	溝端悠朗	2		367
前期	火	2	92201	仏教学講読B（大）	前谷彰	2		368
前期	月	3	91303	仏教史講読A（大）	溝端悠朗	2		369
前期	木	2	94203	仏教史講読B（大）	櫻木潤	2		370
前期	木	2	94202	現代社会と宗教（大）	森崎雅好	2	社会人コースは4単位必修	356
前期	金	2	95203	仏教と文化（大）	土居夏樹	2		357
前期	月	3	91301	事相研究I-1（大）	佐藤隆彦	2	僧侶コースは4単位必修 ※事相研究I及びIIでそれぞれ 2単位以上修得すること	358
後期	月	3	91351	事相研究I-2（大）	佐藤隆彦	2		359
前期	木	2	94201	事相研究II-1（大）	T.ド・ライトライン	2		360
後期	木	2	94251	事相研究II-2（大）	T.ド・ライトライン	2		361

### 3) 関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	金	1	95101	密教学特殊研究A（大）	T.ド・ライトライン	2		345
後期	金	1	95151	密教学特殊研究B（大）	T.ド・ライトライン	2		346
前期	金	2	95201	密教学特殊研究C（大）	T.ド・ライトライン	2		347
後期	金	2	95252	密教学特殊研究D（大）	T.ド・ライトライン	2		348
後期	金	2	95251	密教史特殊研究A（大）	土居夏樹	2		350
前期	金	3	95302	密教学演習1（大）	南昌宏	2		351
後期	金	3	95352	密教学演習2（大）	南昌宏	2		352
前期	金	4	95402	密教史演習（大）	奥山直司	2		353
後期	火	3	92351	密教学講読（大）	土居夏樹	2		354
前期	月	1	91101	密教史講読（大）	松長潤慶	2		355

### 4) 共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	水	3	93301	仏教芸術の研究1（大）	内藤栄	2		371
後期	水	3	93351	仏教芸術の研究2（大）	内藤栄	2		372
後期	月	1	91151	アジア地域の宗教文化の研究（大）	松長潤慶	2		373
後期	木	4	94451	比較宗教の研究（大）	森本一彦	2		374
後期	木	2	94252	現代社会と仏教の研究（大）	森崎雅好	2		375
前期	集中	集中	97001	教育学特殊研究（大）	山脇雅夫	2		376
通年	論文	論文	99002	修士論文（仏教学）	大学院委員長	0		—
前期	論文	論文	99004	修士論文（仏教学）（前期）	大学院委員長	0	7月提出許可者	—

### 3.文学研究科博士後期課程（修了要件：12単位）

#### [密教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	金	1	95101	密教学特殊研究A（大）	T.ド・ライトライン	2	※密教特殊演習4単位を含め、 12単位以上を履修しなければな らない。（複数回履修可）	345
後期	金	1	95151	密教学特殊研究B（大）	T.ド・ライトライン	2		346
前期	金	2	95201	密教学特殊研究C（大）	T.ド・ライトライン	2		347
後期	金	2	95252	密教学特殊研究D（大）	T.ド・ライトライン	2		348
後期	金	2	95251	密教史特殊研究A（大）	土居夏樹	2		350
前期	金	3	95302	密教学演習1（大）	南 昌 宏	2		351
後期	金	3	95352	密教学演習2（大）	南 昌 宏	2		352
前期	金	4	95402	密教史演習（大）	奥 山 直 司	2		353
後期	火	3	92351	密教学講読（大）	土居夏樹	2		354
前期	月	1	91101	密教史講読（大）	松 長 潤 慶	2		355
前期	金	3	95301	密教特殊演習B-1（大）	奥 山 直 司	2		383
後期	金	3	95351	密教特殊演習B-2（大）	奥 山 直 司	2		384
前期	火	1	92101	密教特殊演習C-1（大）	佐 藤 隆 彦	2		379
後期	火	1	92151	密教特殊演習C-2（大）	佐 藤 隆 彦	2		380
前期	火	3	92302	密教特殊演習D-1（大）	松 長 潤 慶	2		381
後期	火	3	92352	密教特殊演習D-2（大）	松 長 潤 慶	2		382
前期	金	4	95401	密教特殊演習E-1（大）	土居夏樹	2		385
後期	金	4	95451	密教特殊演習E-2（大）	土居夏樹	2		386
前期	月	5	91501	密教特殊演習F-1（大）	南 昌 宏	2		377
後期	月	5	91551	密教特殊演習F-2（大）	南 昌 宏	2		378

#### [仏教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究A（大）	前 谷 彰	2	※仏教特殊演習4単位を含め、 12単位以上を履修しなければな らない。（複数回履修可）	362
前期	木	3	94301	仏教学特殊研究B（大）	坂 口 太 郎	2		349
後期	木	3	94351	仏教史特殊研究（大）	坂 口 太 郎	2		363
前期	水	2	93201	仏教学演習1（大）	前 谷 彰	2		364
後期	水	2	93251	仏教学演習2（大）	前 谷 彰	2		365
後期	木	3	94352	仏教学演習3（大）	前 谷 彰	2		366
後期	月	3	91352	仏教学講読A（大）	溝 端 悠 朗	2		367
前期	火	2	92201	仏教学講読B（大）	前 谷 彰	2		368
前期	月	3	91303	仏教史講読A（大）	溝 端 悠 朗	2		369
前期	木	2	94203	仏教史講読B（大）	櫻 木 潤	2		370



講 義 概 要  
•  
授 業 計 画

科目名	密教学講義A(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-274	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観する。

### 授業の到達目標

密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。

### 授業計画

1. 講義内容の説明
2. 真言密教の立場
3. 東密と台密の違い
4. 東密と台密の違い
5. 教判論
6. 顕密二教判
7. 顕密に教判
8. 十住心教判
9. 十住心教判
10. 六大体大
11. 六大体大
12. 四曼相大
13. 三密用大
14. 三密用大
15. 総まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習としてテキストの該当ページを読んでおくこと（60分）。事後学習として授業の内容を再整理するとともに 関連文献に目を通すこと（90分）。

### テキスト

高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

### 参考書・参考資料等

①松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店②勝又俊教著『密教入門』春秋社③金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫④佐和隆研編『密教辞典』法藏館⑤中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店他

### 学生に対する評価

試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本的な用語を理解している。
- (B) 配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を説明できる。
- (A) 配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
- (S) 配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックを行う。最後の授業において総まとめを行うとともにフィードバックを行う。

### その他

講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートにとること。



科目名	密教学講義B(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-275	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観し、理解する。

### 授業の到達目標

密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的に理解することができる。

### 授業計画

1. 講義内容の説明
2. 仏身論
3. 大日如来と釈尊との関係（応身）
4. 大日如来と釈尊との関係（法身）
5. 大日如来論（除闇編明）
6. 大日如来論（能成衆務光無生滅）
7. 五智について
8. 五智と五仏
9. 本地身と加持身
10. 両部曼荼羅（金剛界曼荼羅）
11. 両部曼荼羅（胎蔵曼荼羅）
12. 両部曼荼羅（九会、十三大院等）
13. 成仏論
14. 成仏への階梯
15. 即身成仏

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習としてテキストの該当ページを読んでおくこと（60分）。事後学習として授業の内容を再整理するとともに 関連文献に目を通すこと（90分）。

### テキスト

高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

### 参考書・参考資料等

①松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店②勝又俊教著『密教入門』春秋社③金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫④佐和隆研編『密教辞典』法蔵館⑤中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店

### 学生に対する評価

試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本的な用語を理解している。
- (B) 配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を説明できる。
- (A) 配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
- (S) 配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックを行う。最後の授業において総まとめを行うとともにフィードバックを行う。

### その他

講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートにとること。

科目名	仏教学講義(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-02-276	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	-

### 授業の目的と概要

仏教における光の観念について理解する。

### 授業の到達目標

宗教における光の観念について考察し、仏教は「光」をどう捉えていたかについて説明できるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 初期仏教における光の観念 『スッタニパータ』に見る光の用語
3. ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語① (ジョーティ)
4. ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語② (オーバーサ、アーバー)
5. ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語③ (アローカの意味)
6. ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語④ (アローカの意味)
7. ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語⑤ (アローカの意味)
8. ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語⑥ (プラ=カーシュの意味)
9. ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語⑦ (プラ=カーシュの意味)
10. 初期仏教における解脱論 (光の観念を中心として)
11. 見法の用例
12. 禅定 (瞑想) と見法
13. 梵行と見法
14. 自然智・無師智・一切智
15. 縁起と救済論

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する (120分)

### テキスト

前谷 彰 『仏教における光の観念に関する研究』(担当者博士学位論文)の一部コピーをプリントとして配布する。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が紹介する。

### 学生に対する評価

授業内容をどれだけ理解しているか、学期末のレポート(100%)によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 仏教の基礎語彙を抑えている。
- (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。

科目名	インド学講義(大)							学期	前期
副題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D5-01-277	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 仏 1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インド密教がどのようにして形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点について映像資料なども参考にしながら学ぶ。

### 授業の到達目標

上座部仏教、一般大乘仏教に対する密教の歴史的特徴を説明できる。インド・チベット仏教における密教経典分類法を説明できる。インド・チベット密教史の大まかな流れを理解し、説明できる。

### 授業計画

1. ガイダンスならびに授業概要説明
2. インド・チベット仏教における密教経典分類法
3. インド初期密教萌芽から形成へ
4. インド中期密教組織化の時代1：『大日経』の密教
5. インド中期密教組織化の時代2：『金剛頂経』の密教
6. インド後期密教新たな展開1：父タントラの密教
7. インド後期密教新たな展開2：母タントラ、不二タントラの密教
8. 古代チベット王国と仏教の伝来
9. 仏教国教化への道のり
10. 古代チベット王国の崩壊と仏教の復興
11. 諸宗派の形成1：アティーシャとカーダム派、サキャ派
12. 諸宗派の形成2：カギユ派、ニンマ派
13. 諸宗派の形成3：ゲルク派
14. ゲルク派の覇権
15. 試験と総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考資料の次の授業範囲を読んでおくこと(90分)。事後学修として、ノートを読み直し、必要事項を暗記すること(90分)。

### テキスト

特になし。

### 参考書・参考資料等

①松長有慶『密教の歴史』平楽寺書店、1969年 ②立川武蔵・頼富本宏編『インド密教』春秋社、1999年 ③立川武蔵・頼富本宏編『チベット密教』春秋社、2005年

### 学生に対する評価

課題レポート(20%)、期末試験(80%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教、大乘仏教、密教、上座部仏教の関係が説明できる。
- (B) インド・チベット仏教における密教経典分類法が説明できる。
- (A) チベット仏教の四大宗派の特徴が説明できる。
- (S) インド・チベット密教史の流れが概括的に説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

遅刻3回で1欠席と見なす。

科目名	祖典演習(大)							学期	前期
副題	『吽字義』を読む(1)				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-01-278	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 仏 1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『即身成仏義』、『声字実相義』とともに「三部書」に数えられる『吽字義』は、〈心〉や〈自己〉といった問題について、それを〈吽〉という真言の意味内容から説き明かしている。『吽字義』を原典から読み進め、弘法大師の人間観・生命観に触れつつ、それが真言密教の実践とどのように関わっているのかを教学における真言の意味と教理が、実践行とどのように関連しているのかについての理解を深める。

## 授業の到達目標

弘法大師の著作を原典から触れつつ、真言密教の思想と実践の関連を理解する。

## 授業計画

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 『吽字義』概論①仏教における言語観
3. 『吽字義』概論②字相と字義
4. 『吽字義』概論③吽字とは？
5. 『吽字義』を読む ① タイトル/総論
6. 『吽字義』を読む ② 賀字の字相
7. 『吽字義』を読む ③ 阿字の字相
8. 『吽字義』を読む ④ 汗字の字相
9. 『吽字義』を読む ⑤ 麼字の字相
10. 『吽字義』を読む ⑥ 訶字の実義 (1) 因不可得
11. 『吽字義』を読む ⑦ 訶字の実義 (2) 諸法法界
12. 『吽字義』を読む ⑧ 阿字の実義 (1) 阿字の三義
13. 『吽字義』を読む ⑧ 阿字の実義 (2) 本不生
14. 『吽字義』を読む ⑨ 阿字の実義 (3) 輪廻とマンダラ
15. 前期の復習とレポート提出

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として『吽字義』の中で該当する部分について目を通し読んでおくこと (90分)。事後学修として講義内容を踏まえてノートを再整理すること。

## テキスト

高野山大学編『十卷章』高野山出版

## 参考書・参考資料等

中川善教『漢和対照十卷章』、高野山出版社、1977年 小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社、1985年 宮坂宥勝監修『空海コレクション』2、ちくま学芸文庫、2004年 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業参加への積極性 (40%) レポート (60%) とし評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 原典の音読ができる。
- (B) 原典の基本的な内容を理解できる。
- (A) 原典の基本的な内容を注釈書に沿って理解できる。
- (S) 原典の内容を批判的に検討できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックをおこなう。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名するので、必ず予習をして参加すること。 ・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。

科目名	密教学特殊研究A(大)							学期	前期
副題	金剛界次第の研究(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	D5-01-279	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

四度加行の『金剛界念誦次第』(大門寺次第)のほかに、中院流の一流伝授の重要な内容の一つは両界の伝授次第でとされているものがある。金剛界の伝授次第は淳祐の『金剛界念誦次第石山中院』(石山二巻次第)という中院流の本次第とそれを修法しやすくした宥快の『金剛界念誦頸次第中院』(宥快和会次第)である。この授業では宥快和会次第の伝授を受け、諸の儀軌、次第、口決類などを参考にしながら、金剛界次第の深い意味を理解する。已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 金剛界次第の種類と概略
2. 金剛界伝授次第 1 (塗香まで)
3. 金剛界伝授次第 2 (三金剛観から加持供物まで)
4. 金剛界伝授次第 3 (ラン字観から金剛持大印まで)
5. 金剛界伝授次第 4 (表白から普供養三力まで)
6. 金剛界伝授次第 5 (四無量心観から勝心まで)
7. 金剛界伝授次第 6 (大金剛輪から金剛眼まで)
8. 金剛界伝授次第 7 (金剛掌から法輪まで)
9. 金剛界伝授次第 8 (大欲から業障除まで)
10. 金剛界伝授次第 9 (五相成身観)
11. 金剛界伝授次第 10 (四仏加持から結冑まで)
12. 金剛界伝授次第 11 (現智身から道場観まで)
13. 金剛界伝授次第 12 (大虚空蔵から啓白まで)
14. 金剛界伝授次第 13 (観仏海会から闍伽まで)
15. 金剛界伝授次第 14 (蓮華坐から振鈴、「已上成身会」まで)

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

## テキスト

『金剛界念誦次第石山中院』、『金剛界念誦頸次第中院』

## 参考書・参考資料等

『中院流聖教』3・4、『真言宗全書』24、関連の儀軌、次第、口決類、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、他

## 学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

受講者は伝法灌頂入壇者(已灌頂者)のみとする。授業は伝授形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。この講義の内容は後期に続くため、「密教学特殊研究B(大)」を続けて受講することを推薦する。

科目名	密教学特殊研究B(大)							学期	後期
副題	金剛界次第の研究(後半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	D5-01-280	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

四度加行の『金剛界念誦次第』(大門寺次第)のほかに、中院流の一流伝授の重要な内容の一つは両界の伝授次第でと言われているものがある。金剛界の伝授次第は淳祐の『金剛界念誦次第石山中院』(石山二巻次第)という中院流の本次第とそれを修法しやすくした宥快の『金剛界念誦頌次第中院』(宥快和会次第)である。この授業では宥快和会次第の伝授を受け、諸の儀軌、次第、口決類などを参考にしながら、金剛界次第の深い意味を理解する。已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 金剛界伝授次第 15 (羯磨会 1)
2. 金剛界伝授次第 16 (羯磨会 2)
3. 金剛界伝授次第 17 (羯磨会 3)
4. 金剛界伝授次第 18 (三昧耶会 1)
5. 金剛界伝授次第 19 (三昧耶会 2)
6. 金剛界伝授次第 20 (三昧耶会 3)
7. 金剛界伝授次第 21 (大供養会前半)
8. 金剛界伝授次第 22 (大供養会後半)
9. 金剛界伝授次第 23 (四印会から仏母加持まで)
10. 金剛界伝授次第 24 (入我我入観)
11. 金剛界伝授次第 25 (正念誦 1)
12. 金剛界伝授次第 26 (正念誦 2)
13. 金剛界伝授次第 27 (字輪観 1)
14. 金剛界伝授次第 28 (字輪観 2)
15. 金剛界伝授次第 29 (散念誦・後供養・撥遣)

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

## テキスト

『金剛界念誦次第石山中院』、『金剛界念誦頌次第中院』

## 参考書・参考資料等

『中院流聖教』3・4、『真言宗全書』24、関連の儀軌、次第、口決類、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、他

## 学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

受講者は伝法灌頂入壇者(已灌頂者)のみとする。授業は伝授形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。後期から受講はできるが、前期の「密教学特殊研究A(大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	密教学特殊研究C(大)							学期	前期
副題	『秘蔵記』の講伝・研究(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドraitライン	
ナンバリング	D5-01-281	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『秘蔵記』は事相教相の主要な問題について約百か条にわたって口決が説かれているもので、真言密教にとって極めて大切な書物である。前期の講義では杲宝の『秘蔵記私鈔』を始め漢文注釈書を参考しながら『秘蔵記』の前半を読んでいく。伝統的な講伝形式で行うので、已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

『秘蔵記』の研究を通じて、真言密教の教相と事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 『秘蔵記』の概略と作者について
2. 第1、2、3、4章の講伝
3. 第5、6、7章の講伝
4. 第8、9章の講伝
5. 第10、11章の講伝
6. 第12、13章の講伝
7. 第14、15章の講伝
8. 第16、17章の講伝
9. 第18、19章の講伝
10. 第20、21、22章の講伝
11. 第23、24、25章の講伝
12. 第26、27、28、29章の講伝
13. 第30、31、32、33章の講伝
14. 第34、35、36、37章の講伝
15. 第38、39、40章の講伝

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

## テキスト

『秘蔵記』(『弘法大師全集』)

## 参考書・参考資料等

杲宝記『秘蔵記私鈔』、上田靈城著『秘蔵記講要』、小田慈舟著『秘蔵記講伝紀要』、『真言宗全書』9、『統真言宗全書』15、16の各注釈書、その他

## 学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『秘蔵記』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。授業は講伝形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。内容は後期に続くため、「密教学特殊研究D(大)」を続けて受講することを推薦する。授業は遠隔で行うこともある。

科目名	密教学特殊研究D(大)							学期	後期
副題	『秘蔵記』の講伝・研究(後半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	D5-01-282	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『秘蔵記』は事相教相の主要な問題について約百か条にわたって口決が説かれているもので、真言密教にとって極めて大切な書物である。前期の講義では杲宝の『秘蔵記私鈔』を始め漢文注釈書を参考しながら『秘蔵記』の前半を読んでいく。伝統的な講伝形式で行うので、已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

『秘蔵記』の研究を通じて、真言密教の教相と事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 第 41、42、43 章の講伝
2. 第 44、45、46、47 章の講伝
3. 第 48、49、50、51 章の講伝
4. 第 52、53、54、55 章の講伝
5. 第 56、57、58、59、60 章の講伝
6. 第 61、62、63 章の講伝
7. 第 64、65、66、67 章の講伝
8. 第 68、69、70、71、72 章の講伝
9. 第 73、74、75、76 章の講伝
10. 第 77、78、79、80 章の講伝
11. 第 81、82、83、84 章の講伝
12. 第 85、86、87、88 章の講伝
13. 第 89、90、91、92 章の講伝
14. 第 93、94、95、96 章の講伝
15. 第 97、98、99、100 章の講伝

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと (90分)

## テキスト

『秘蔵記』(『弘法大師全集』)

## 参考書・参考資料等

杲宝記『秘蔵記私鈔』、上田靈城著『秘蔵記講要』、小田慈舟著『秘蔵記講伝紀要』、『真言宗全書』9、『統真言宗全書』15、16の各注釈書、その他

## 学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (20%)、授業参加の積極性 (30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『秘蔵記』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 『秘蔵記』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。授業は講伝形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。後期から受講はできるが、前期の「密教学特殊研究C(大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。授業は遠隔で行うこともある。



科目名	仏教学特殊研究B(大)							学期	前期
副題	「文観法流の廃滅と南朝皇胤」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D5-12-283	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

中世前期における真言密教の展開を考える際に、文観弘真の存在は重要である。文観は、後醍醐天皇の側近僧として知られ、建武政権・南朝において重要な役割を果たした。結果的に、文観が仕えた南朝は、南北朝動乱の敗北者となり、文観を始祖とする法流も密教史から消えるが、その過程については、必ずしも明らかではない。本科目では、室町期における南朝皇胤の動向に注目し、関係史料の精読を通して、研究史の前進をめざす。

## 授業の到達目標

南朝と文観法流の関係を通して、中世真言密教の展開を考えられるようになる。研究史の整理法と、問題点の抽出方法を習得する。未刊の聖教の持つ史料価値について、学問的に理解できるようになる。

## 授業計画

1. 文観弘真をめぐる研究史と本講義の目標
2. 佐山宮尊聖の研究史をたどる①—森茂暁説の検討—
3. 佐山宮尊聖の研究史をたどる②—芝葛盛説の検討—
4. 佐山宮尊聖の研究史をたどる③—八代国治説の再評価—
5. 佐山宮尊聖の研究史をたどる④—谷森善臣説の再評価—
6. ある南朝遺臣の苦衷—耕雲明魏の一側面—
7. 小括 佐山宮尊聖は長慶天皇の皇子か？
8. 高野山大学図書館の貴重書の調査
9. 醍醐寺地蔵院に入室した南朝皇胤
10. 妙印上人とは何者か？
11. ある聖教の奥書から—越前国佐山をめぐって—
12. 三宝院満済の焦慮
13. なぜ文観の持ち去った聖教が醍醐寺にあるのか？
14. 総括 文観法流の廃滅とその史的意義—佐山宮尊聖の悲劇—
15. 高野山大学図書館の貴重書の調査

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考書・関係論文を毎回読み、文観の法流・南朝に関する専門用語の意味を理解しておくこと (100分)  
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること (80分)

## テキスト

プリントや関係論文の複写を配布し、これにもとづいて講義を進める。

## 参考書・参考資料等

森茂暁『闇の歴史 後南朝』(角川文庫、2013年。初刊1997年) 白井信義「遊行十二代上人尊観—南朝の皇胤たち—」(『日本歴史』第128号、1959年) 八代国治『長慶天皇御即位の研究』(明治書院、1927年。初刊1920年) 藤井雅子『中世醍醐寺と真言密教』(勉誠出版、2008年)

## 学生に対する評価

レポート (100%) ※4000字以上

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文観の法流、南朝に関する基礎的事項を理解している。
- (B) 文観の法流、南朝について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
- (A) 文観の法流、南朝について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
- (S) 本講義の内容を踏まえて、中世密教の歴史的展開について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の講義内の討論時間でフィードバックを行なう。

## その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半かな態度で受講しないこと。関係論文や配布資料に貼付した史料について、必ず予習しておくこと。講義は予習を前提として行なう。

科目名	密教史特殊研究A(大)							学期	後期
副題	『宗義決択集』の研究				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-01-284	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

高野山上に今日も続く宝門・壽門という2大学派の内、宝門の論義書である『宗義決択集』を取り上げ、それぞれの内容を通して高野山独自の学派である宝壽二門の教理を踏まえつつ、弘法大師の思想がどのように理解されてきたのかについて考察する。個々の論義を選び、書き下し文・語注・現代語訳とそれを踏まえた発表資料を作成し、発表する。

### 授業の到達目標

高野山上における教学史を通して、弘法大師の思想が後世どのように問題となり、どのように解釈されてきたのかについて理解するとともに、その問題点を説明できる力を身につける。

### 授業計画

1. 概論(講義の進め方等)
2. 高野山の教学史 ① 覚海と高野四哲・八傑
3. 高野山の教学史 ② 宥快と長覚
4. 高野山の教学史 ③ 『宗義決択集』とは？
5. 一乗経劫：即身成仏は“密教”だけの教えか？① 即身成仏をめぐる問題
6. “ ” ② 華天二宗の成仏論
7. “ ” ③ 即事而真
8. 六大四曼互能生：六大所生・四曼能生はあり得るか？ ① 六大と四曼
9. “ ” ② 壽門の場合
10. “ ” ③ 『大日経』の教主
11. 理法身説法：真理そのものは説法するのか？ ① 理法身と智法身
12. “ ” ② 真理は一か多か？
13. “ ” ③ 『大日経』教主再論
14. まとめ ① 論義と中院流
15. まとめ ② 宝門と壽門

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前に取り上げる論義を選び、発表資料を作成する(120分) ・各発表の内容に関する質問を考えるとともに、自分自身の考えも構築する(60分)

### テキスト

・『宗義決択集』、『真言宗全書』巻19、続真言主全書刊行会※授業中にコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

・小田慈舟訳『宗義決択集』、『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社 ※その他、授業中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

授業内での発表(60%)、定期試験(54)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論義本文の書き下し文・語注・現代語訳の作成および引用文献の典拠を正確に指摘できる。
- (B) 論義の内容を把握し、説明できる。
- (A) 該当論義以外の資料を用いて、該当論義の特徴を説明できる。
- (S) 上記(C)～(A)を踏まえ、先行研究の状況に基づき自分の考えを論理的に説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

### その他

・取り上げる論義やテキストについては、受講生と話し合い、希望等によって変更する場合もある。 ・学部生との合同授業のため、学部生の資料作成の指導にあたってもらう。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・必ず質問をすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。

科目名	密教学演習 1(大)							学期	前期
副題	『釈摩訶衍論』の注釈を読む				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	D5-25-285	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

『釈摩訶衍論』の注釈を精読することで、漢文訓読に熟達する。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典を読むことを通じて、中国仏教の展開について、基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。

## 授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。 ○漢訳経典の内容を理解できる。 ○漢訳経典を批判的に読むことができる。 ○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。 ○自分の考えを論理的に表現できる。

## 授業計画

1. 聖法『釈摩訶衍論記』1葉を読む
2. 法敏『釈摩訶衍論疏』1葉を読む
3. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』1葉を読む
4. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』1葉を読む
5. 普観『釈摩訶衍論記』1葉を読む
6. 聖法『釈摩訶衍論記』2葉を読む
7. 法敏『釈摩訶衍論疏』2葉を読む
8. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』2葉を読む
9. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』2葉を読む
10. 普観『釈摩訶衍論記』2葉を読む
11. 聖法『釈摩訶衍論記』3葉を読む
12. 法敏『釈摩訶衍論疏』3葉を読む
13. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』3葉を読む
14. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』3葉を読む
15. 普観『釈摩訶衍論記』3葉を読む

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにする(30分)、難解な語彙や漢文訓読などについて調査・理解しておく(60分)。事後学修としてレポートをまとめる(90分)。

## テキスト

聖法『釈摩訶衍論記』、法敏『釈摩訶衍論疏』、法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』、志福『釈摩訶衍論玄鈔』、普観『釈摩訶衍論記』それぞれのコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

那須政隆『釈摩訶衍論講義』成田山仏教研究所 1992年 森田龍僊『釈摩訶衍論之研究』山城屋文政堂 1935年 宇井伯寿『大乘起信論』岩波文庫 1994年 など

## 学生に対する評価

レポートまたは試験(50%)、発表(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
- (B) 未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
- (A) テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
- (S) 自分の考えを論理的に発表することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。修士論文の作成に関し、具体的な疑問・要望があれば、授業内で対応する。難波サテライトへの双方向遠隔授業を予定している。

科目名	密教学演習 2(大)							学期	後期
副題	『釈摩訶衍論』の注釈を読む				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	D5-25-286	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A・I

## 授業の目的と概要

『釈摩訶衍論』の注釈を精読することで、漢文訓読に熟達する。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典を読むことを通じて、中国仏教の展開について、基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。

## 授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。 ○漢訳経典の内容を理解できる。 ○漢訳経典を批判的に読むことができる。 ○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。 ○自分の考えを論理的に表現できる。

## 授業計画

1. 聖法『釈摩訶衍論記』4葉を読む
2. 法敏『釈摩訶衍論疏』4葉を読む
3. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』4葉を読む
4. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』4葉を読む
5. 普観『釈摩訶衍論記』4葉を読む
6. 聖法『釈摩訶衍論記』5葉を読む
7. 法敏『釈摩訶衍論疏』5葉を読む
8. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』5葉を読む
9. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』5葉を読む
10. 普観『釈摩訶衍論記』5葉を読む
11. 聖法『釈摩訶衍論記』6葉を読む
12. 法敏『釈摩訶衍論疏』6葉を読む
13. 法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』6葉を読む
14. 志福『釈摩訶衍論玄鈔』6葉を読む
15. 普観『釈摩訶衍論記』6葉を読む

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと (30分)、難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと (60分)。事後学修としてレポートをまとめること (90分)。

## テキスト

聖法『釈摩訶衍論記』、法敏『釈摩訶衍論疏』、法悟『釈摩訶衍論贊玄疏』、志福『釈摩訶衍論玄鈔』、普観『釈摩訶衍論記』それぞれのコピーを配布する。

## 参考書・参考資料等

那須政隆『釈摩訶衍論講義』成田山仏教研究所 1992年 森田龍僊『釈摩訶衍論之研究』山城屋文政堂 1935年 宇井伯寿『大乘起信論』岩波文庫 1994年 など

## 学生に対する評価

レポートまたは試験 (50%)、発表 (50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
- (B) 未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
- (A) テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
- (S) 自分の考えを論理的に記述することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

## その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。修士論文の作成に関し、具体的な疑問・要望があれば、授業内で対応する。難波サテライトへの双方向遠隔授業を予定している。

科目名	密教史演習(大)							学期	前期
副題	『チベットの人々』会読				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D5-01-287	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

『チベットの人々』(The People of Tibet) はイギリスのチベット学者チャールズ・ベル (Charles Bell) が著したチベット学の名著である。本授業は、本書の読解を通じて英語力と日本語力を養うと同時に、チベットの社会と文化について理解を深める。本年度はその2年目であり、第2章 歴史から始める。

### 授業の到達目標

英文原書の精読を通じて、チベットの社会と文化について深く理解することができる。

### 授業計画

1. ガイダンス
- 2.1. 第2章 Historical, pp. 9-10
- 3.2. 第2章 Historical, pp. 11-12
- 4.3. 第2章 Historical, pp. 13-14
- 5.4. 第2章 Historical, pp. 15-16
- 6.5. 第2章 Historical, pp. 17-18
- 7.6. 第3章 Shepherds and Herdsmen, pp. 19-20
- 8.7. 第3章 Shepherds and Herdsman, pp. 21-22
- 9.8. 第3章 Shepherds and Herdsman, pp. 23-25
- 10.9. 第3章 Shepherds and Herdsman, pp. 26-28
- 11.10. 第4章 The Peasants, pp. 29-31
- 12.11. 第4章 The Peasants, pp. 32-34
- 13.12. 第4章 The Peasants, pp. 35-38
- 14.13. 第4章 The Peasants, pp. 39-42
- 15.まとめと総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、次回の授業範囲を訳読しておく (120分)。事後学修として、自らの訳読を訂正する (90分)。

### テキスト

Charles Bell, The People of Tibet, Oxford: Clarendon Press, 1928.

### 参考書・参考資料等

スネルグローヴ&リチャードソン著、奥山直司訳『チベット文化史』(新装版) 春秋社、2003年

### 学生に対する評価

授業参加・予習復習状況 (100%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストの英文を大体において日本語に翻訳することができる。
- (B) テキストの英文を正確に日本語に翻訳することができる。
- (A) 正確な英文読解の上に、内容を正しく掴むことができる。
- (S) 内容の正しい把握の上に、著者の解釈や意見を批判的に吟味することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

英文は古風で現代文のように簡単ではないので訳読には相当の努力が必要とされる。

科目名	密教学講読(大)							学期	後期
副題	『吽字義』を読む(2)				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-01-288	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 仏 1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

『即身成仏義』、『声字実相義』とともに「三部書」に数えられる『吽字義』は、〈心〉や〈自己〉といった問題について、それを〈吽〉という真言の意味内容から説き明かしている。『吽字義』を原典から読み進め、弘法大師の人間観・生命観に触れつつ、それが真言密教の実践とどのように関わっているのかを教学における真言の意味と教理が、実践行とどのように関連しているのかについての理解を深める。後期は、「汗字の実義」から読み進める。

## 授業の到達目標

弘法大師の著作を原典から触れつつ、真言密教の思想と実践の関連を理解する。

## 授業計画

1. 前期のまとめと講義の進め方
2. 『吽字義』を読む ⑩ 汗字の実義 (1) 損減不可得
3. 『吽字義』を読む ⑪ 汗字の実義 (2) 損減の六義
4. 『吽字義』を読む ⑫ 汗字の実義 (3) 旋陀羅尼
5. 『吽字義』を読む ⑬ 汗字の実義 (4) 偈頌による解釈 (前編)
6. 『吽字義』を読む ⑭ 汗字の実義 (5) 偈頌による解釈 (後編)
7. 『吽字義』を読む ⑮ 麼字の実義 (1) 吾我不可得
8. 『吽字義』を読む ⑯ 麼字の実義 (2) 無我の大我
9. 『吽字義』を読む ⑰ 吽字の合説 (1) 別相
10. 『吽字義』を読む ⑱ 吽字の合説 (2) 通相
11. 『吽字義』を読む ⑲ 吽字の合説 (3) 因行証果
12. 『吽字義』を読む ⑳ 吽字合説の余義 (1) 余義 (前編)
13. 『吽字義』を読む ㉑ 吽字合説の余義 (2) 余義 (後編)
14. 『吽字義』のまとめ 縁起生と本不生
15. 後期の復習とレポート提出

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として『吽字義』の中で該当する部分について目を通し読んでおくこと (90分)。事後学習として講義内容を踏まえてノートを再整理すること。

## テキスト

高野山大学編『十卷章』高野山出版

## 参考書・参考資料等

中川善教『漢和対照十卷章』、高野山出版社、1977年 小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社、1985年 宮坂宥勝監修『空海コレクション』2、ちくま学芸文庫、2004年 ※その他、授業において指示する。

## 学生に対する評価

授業参加への積極性 (40%) レポート (60%) とし評価する。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 原典の音読ができる。
- (B) 原典の基本的な内容を理解できる。
- (A) 原典の基本的な内容を注釈書に沿って理解できる。
- (S) 原典の内容を批判的に検討できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックをおこなう。

## その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名するので、必ず予習をして参加すること。 ・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。

科目名	密教史講読(大)							学期	前期
副題	密教付法資料の研究				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D5-01-289	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深める。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。

### 授業の到達目標

密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高めることを通じて密教学をより深く理解する。

### 授業計画

1. 『付法傳』の全体像
2. 『付法傳』の歴史的背景
3. 『広付法傳』講読1 因起感通分第一叙意
4. 『広付法傳』講読2 叙意
5. 『広付法傳』講読3 第一祖大日如来金剛薩埵
6. 『広付法傳』講読4 龍猛①
7. 『広付法傳』講読5 龍猛②
8. 『広付法傳』講読6 龍智
9. 『広付法傳』講読7 金剛智①
10. 『広付法傳』講読8 金剛智②
11. 『広付法傳』講読9 金剛智③
12. 『広付法傳』講読10 金剛智④
13. 『広付法傳』講読11 金剛智⑤
14. 『広付法傳』講読12 金剛智⑥
15. 『広付法傳』講読13 金剛智⑦

### 準備学習(予習・復習)・時間

授業は漢文資料の演習を実施するので、週3時間の予習が必要(計90分以上)。

### テキスト

「定本弘法大師全集」第一巻

### 参考書・参考資料等

①『密教』中央文庫松長有慶②『弘法大師空海全集』第二巻筑摩書房

### 学生に対する評価

予習状況(50%)、授業参加状況(50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 付法傳を正確に読むことができる。
- (B) 付法傳の内容を理解できる。
- (A) 付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
- (S) 密教付法に関して体系的に理解できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

演習時に個別に指導する。

### その他

十分に予習して授業に臨んでもらいたい。

科目名	現代社会と宗教(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	D5-03-290	実務経験の有無	有	関連DP	密 2, 4, 仏 2, 4	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

グリーフ (grief) とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

## 授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

## 授業計画

1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論 (PTSD と複雑性悲嘆について)
3. 犯罪被害者支援① (被害者・加害者の声)
4. 犯罪被害者支援② (被害者・加害者の心理的ケア)
5. 虐めと虐待① (虐め体験について)
6. 虐めと虐待② (被虐体験への心理的ケア)
7. 難病支援① (難病とは・我が国の現状)
8. 難病支援② (生きることの苦悩と受容の心理的ケア)
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援① (病と自己)
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援② (死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援① (遺族の心理)
12. 自死遺族支援② (サポートグループについて)
13. 災害時支援① (災害による喪失体験)
14. 災害時支援② (復興期に求められる支援について)
15. 講義内容の総括と振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと (90 分)

## テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂, 2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

レポート評価 (100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができています。
- (B) 悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
- (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
- (S) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師 (指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。



科目名	密教と文化(大)／仏教と文化(大)							学期	前期
副題	密教における死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-01-291	実務経験の有無	無	関連DP	密1, 2, 3, 4, 仏1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

### 授業の到達目標

仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

### 授業計画

1. 概論(講義の進め方等)
2. 凡夫の生死 ① 苦としての生死
3. " ② 五蘊と無我
4. " ③ 縁起としての生死
5. " ④ 輪廻の世界
6. 仏陀観の変遷 ① 釈尊の生涯
7. " ② 変容する釈尊
8. " ③ 神変とマンダラ
9. この身のままで仏と成る ① 六大と人間
10. " ② 真理の表現
11. " ③ 心とマンダラ
12. 生死の意味 ① 因不可得
13. " ② 縁起生から本不生へ
14. " ③ 「真に帰す」
15. まとめ — 〈私〉という存在—

### 準備学習(予習・復習)・時間

・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく (60分) ・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる (120分)

### テキスト

・各回プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

### 学生に対する評価

授業内での発表 (20%)、定期試験 (80%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏陀観の変遷について説明ができる。
- (B) 大乘仏教から密教への展開を説明できる。
- (A) 弘法大師の死生観の特徴を説明できる。
- (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえて、密教の死生観を学術的に論じることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

### その他

科目名	事相研究 I-1(大)							学期	前期
副題	法流史概説				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-292	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

事相の法流についてその歴史と大綱を学修する。事相を歴史的側面から研究していく上での知識を得、理解する。

### 授業の到達目標

野沢の分派、野沢十二流の概要等の知識を得、理解し説明できるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーションと全体の概説
2. 八祖相承説
3. 八祖相承説
4. 空海の受法
5. 野沢の分派
6. 安祥寺流概説
7. 勸修寺流概説
8. 随心院流概説
9. 三宝院流概説
10. 小島流概説
11. 中院流概説
12. 御流概説
13. 西院流概説
14. 保寿院流概説
15. まとめと講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理しておくこと(90分)

### テキスト

松長有慶『密教の歴史』(平楽寺書店)

### 参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

### 学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 野沢の法流について基本的な用語を説明できる。
- (B) 野沢の法流について基本的な用語とその意味を説明できる。
- (A) 野沢の法流について専門的な用語とその意味を説明できる。
- (S) 密教史の専門知識を事相を中心として理解するとともに説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

講義は伝授形式でないので普通の服装において受講することが可。

科目名	事相研究 I-2(大)							学期	後期
副題	一尊法次第				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-293	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべての伝授を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深めその意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2. 別尊次第について
3. 「金輪」
4. 「佛眼」
5. 「薬師」
6. 「阿弥陀」
7. 「釈迦」
8. 「尊勝」
9. 「聖観音」
10. 「千手」
11. 「十一面」
12. 「馬頭」
13. 「準胝」
14. 「如意輪」
15. 「白衣」

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理しておくこと(90分)

## テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

## 参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

## 学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 次第と『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。内容は後期に続くため、「事相研究 I-2」を続けて受講することを推薦する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	事相研究Ⅱ-1(大)							学期	前期
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	D5-01-294	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道次第の理解を深める。『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁塵儀軌』、『阿闍法』等を平行して解説しながら比較研究を行う。已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘嚴について）
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（荘嚴道場法について）
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勸請法について）
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、その他）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

## テキスト

浄嚴の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

## 参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

## 学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。内容は後期に続くため、「事相研究Ⅱ-2(大)」を続けて受講することを推薦する。

科目名	事相研究Ⅱ-2(大)							学期	後期
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン	
ナンバリング	D5-01-295	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

一尊法に関する漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界と胎藏界次第の理解を深める。胎藏次第・金剛界次第と関連する秘密儀軌の内容について考察する。『大日経』関連の成就法として『聖観自在儀軌』、『七支念誦法』、『立印儀軌』などを読む。『金剛頂経』系の儀軌については『蓮華部心軌』、『如意輪瑜伽』、『文殊菩薩供養法』、『五秘密儀軌』などを読む。已灌頂者のみが受講できる。

## 授業の到達目標

秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

## 授業計画

- 『大日経』系の儀軌を読む①（三三昧耶）
- 『大日経』系の儀軌を読む②（『七支念誦法』を読む）
- 『大日経』系の儀軌を読む③（『聖観自在儀軌』を読む）
- 『大日経』系の儀軌を読む④（『立印儀軌』を読む）
- 『大日経』系の儀軌を読む⑤（『立印儀軌』を読む）
- 『大日経』系の儀軌を読む⑥（『立印儀軌』を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む①（『蓮華部心軌』前半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む②（『蓮華部心軌』後半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む③（五相成身について）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む④（『如意輪瑜伽』前半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤（『如意輪瑜伽』後半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥（『文殊菩薩供養法』前半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦（『文殊菩薩供養法』後半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧（『五秘密儀軌』前半を読む）
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨（『五秘密儀軌』後半を読む）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

## テキスト

浄厳の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

## 参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

## 学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「事相研究Ⅱ-1(大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	仏教学特殊研究A(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-02-296	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

サンスクリット語やパーリ語の原典における原語と、漢訳語との間には仏教思想を根底から覆さなければならないような重要な異相を認めることができるので、当講義では重要な原語を取り上げ、それらの語がどのような漢語に置き換えられているかを検証することによって、仏教思想の誤謬性について考察する。

### 授業の到達目標

原語と漢訳語の比較作業を通して、仏教思想のある意味での「歪み」を修正できるようになる。

### 授業計画

1. 原語と翻訳語の異相全般について概略する。
2. 八正道について
3. 梵行・清浄行について
4. 顕示・開顕について① (ブラカーシュ)
5. 顕示・開顕について② (ブラカーシュ)
6. 苦行について
7. 清浄について
8. 菩提心・菩薩について
9. 一乗・一趣道について
10. 一心について
11. 涅槃について
12. 渴愛について
13. sukha と hita について
14. 小乗・大乘・密教の展開史について
15. まとめと講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する (60分)

### テキスト

担当者がプリントを用意する。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

### 学生に対する評価

学期末のレポートによって評価 (100%) する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 漢訳語の曖昧さを疑う力を身につける。
- (A) 原典と漢訳經典におけるキーワードを比較することができる。
- (S) 仏教における問題のある原語を自分の言葉で説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

科目名	仏教史特殊研究(大)							学期	後期
副題	「中世前期の政治権力と真言密教」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D5-12-297	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

中世前期における真言密教の展開を考える際に、政治権力との関係は注目すべき問題である。本科目では、鎌倉幕府と真言密教の関係、また摂関家と真言密教の関係について、未刊の聖教類の精読に基づき、検討を行なう。とくに、西院流・安祥寺流に伝えられた聖教の精読を通して、研究史の前進をめざす。

## 授業の到達目標

鎌倉幕府下における密教修法を通して、真言密教と武家政権の関係を理解できるようになる。中世摂関家に真言密教が寄与した史実を通して、貴族社会と宗教の関係を理解できるようになる。未刊の聖教の持つ史料的价值について、学問的に理解できるようになる。

## 授業計画

1. 重源が伊勢で感得した宝珠—伊藤聡論文の精読—
2. 重源感得宝珠の伝領—東大寺定範から御室道深法親王へ—
3. 佐々目頼助と仁和寺御室
4. 頼助と宝珠
5. 頼助と元瑜
6. 北条時宗・貞時と真言密教
7. 小括 鎌倉後期の幕府と真言密教
8. 高野山大学図書館の貴重書の調査
9. 九条道家の悪夢と転法輪法—悪左府頼長の怨霊—
10. 藤原忠通と実厳
11. 九条兼実と実厳
12. 唯識会護摩の成立
13. 唯識会護摩の展開
14. 小括 中世前期の摂関家と真言密教
15. 高野山大学図書館の貴重書の調査

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考書・関係論文を毎回読み、鎌倉幕府・摂関家に関係する専門用語の意味を理解しておくこと (100分)  
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること (80分)

## テキスト

プリントや関係論文の複写を配布し、これにもとづいて講義を進める。

## 参考書・参考資料等

上横手雅敬ほか『日本の中世 8 院政と平氏、鎌倉政権』（中央公論新社、2002年）第1部・第2部 船田淳一『神仏と儀礼の中世』（法蔵館、2011年）第9章・第12章 伊藤聡「重源と宝珠」（『中世天照大神信仰の研究』法蔵館、2011年） 上田進城『山科安祥寺誌』（安祥寺、1929年）

## 学生に対する評価

レポート (100%) ※4000字以上

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中世の政治権力と真言密教に関する基礎的事項を理解している。
- (B) 中世の政治権力と真言密教の関係について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
- (A) 中世の政治権力と真言密教の関係について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
- (S) 本講義の内容を踏まえて、中世密教の歴史的展開について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の講義内の討論時間でフィードバックを行なう。

## その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。関係論文や配布資料に貼付した史料について、必ず予習しておくこと。講義は予習を前提として行なう。

科目名	仏教学演習 1(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-25-298	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	4	他	A

### 授業の目的と概要

歌集『現代宇宙論』を読んで、仏教（密教）の真髓の世界を探る。川田章人 歌集『現代宇宙論—現代を生きる為の日本人の心—』（飯塚書店 2020年）を読んで、仏教（密教）とは何かという問いを解析し、理解する。

### 授業の到達目標

仏教（密教）と科学とは二項対立的に捉えるものではなく、本来融合しているという認識を深め、理解できるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーション（自己紹介をすることによって学生相互間の意識を深める。
2. 『現代宇宙論』序章を読む。
3. 『現代宇宙論』第1章「古の人を尋ねて—太古のいぶき—」を鑑賞してディスカッション（以下Dsと略）
4. 同「自然のままに」を鑑賞してDs
5. 同おもひで ころろの中に」を鑑賞してDs
6. 同「いのちの課題」を鑑賞してDs
7. 同第2章「現代大宇宙論—神話と科学の融合・展開—」を読む。「光の波長」を鑑賞してDs
8. 同第3章「現代小宇宙論」を読む。「深きころろ」を鑑賞してDs
9. 同「仏法—智慧の教え」を鑑賞してDs
10. 同終章「深層心理に知る」を読む。
11. 同「尋芳径」（冬の訪ひ）を鑑賞してDs
12. 同「春に愁ふ」を鑑賞してDs
13. 同「梅雨に濡して」を鑑賞してDs
14. 同「秋にし愁ふ」を鑑賞してDs
15. 同「北国」を鑑賞してDs

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習（予習）として、毎回担当者が支持する歌の意味を考えておく。（180分以上）事後学修（復習）として60分以上。論文指導については、2回生には随時アドヴァイスする。

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

### 学生に対する評価

授業時に指示する課題をどれだけこなしているか（50%）、学期末のレポート（50%）によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 仏教の基礎語彙を抑えている。
- (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。アクティブ・ラーニング（ディスカッション）を取り入れた授業である。



科目名	仏教学演習 2(大)							学期	後期
副題	-				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-25-299	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	4	他	A

### 授業の目的と概要

川田章人『歌集 現代宇宙論—現代を生きる為の日本人の心』(飯塚書店 2020年)を読んで、仏教(密教)の真髄の世界を探り、理解する。

### 授業の到達目標

仏教(密教)と科学とは二項対立的に捉えるものではなく、本来融合しているという認識を深めることができるようになる。

### 授業計画

1. 修論指導①
2. 修論指導②
3. 修論指導③
4. 『歌集 現代宇宙論』終章「響く五大(地)」を鑑賞してディスカッション(以下Dsと略)
5. 同「響く五大(水)」を鑑賞してDs
6. 同「響く五大(火)」を鑑賞してDs
7. 同「響く五大(風)」を鑑賞してDs
8. 同「響く五大(空)」を鑑賞してDs
9. 同「たましひ」を鑑賞してDs
10. 「たましひ」とは何かについて考える。
11. 五大とたましひの関係性について考える。
12. 弘法大師の六大説との関係性について考える。
13. 同著書の跋文(依田仁美氏による)を読んでDs
14. 論文指導④
15. 論文指導⑤

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する(60分)

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が紹介する。

### 学生に対する評価

授業時に指示する課題をどれだけこなしているか(50%)、学期末のレポート(50%)によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 古文を解読する能力を持っている。
- (A) 科学に興味がある。
- (S) 仏教思想と科学の融合に興味を持っている。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。

科目名	仏教学演習 3(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3		単位数	4	他	A

### 授業の目的と概要

虚空蔵求聞持法の意義について考察する。

### 授業の到達目標

弘法大師の『三教指帰』「序文」では「谷不惜響 明星来影」と、音と光の神秘的体験について述べられているが、その真義について考察し、説明できるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーション 講義の手順と意義について説明する。
2. 『奈良・平安期における山林修行の意義』(担当者小論)を読んで、山林修行とは何かについて考える。
3. 同小論を読んでディスカッション(以下Dsと略)
4. 『最澄の著作に見える自然智の概念』(担当者小論)を読む。
5. 同小論を読んでDs。
6. 『『依憑天台宗』における「生知」をめぐる問題』(担当者小論)を読む。
7. 同小論を読んで、「生知」と「自然智」の違いについてDs。
8. 虚空蔵求聞持法とは何かについて考察する。
9. 『虚空蔵求聞持法の意義』(担当者小論)を読む。
10. 同小論を読んで、音と光の神秘的体験の実相を探る。
11. 『バラモン教における光の観念』(担当者小論)を読む。
12. 同小論を読んで、ウパニシャッドにおける梵我一如の実相についてDs。
13. 以上の作業を通して、バラモン教における解脱観と仏教のそれとを比較してDs。
14. 同Ds。
15. 光の体験が解脱とどのような関係にあるかについて考察する。

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する(60分)

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

授業時に必要に応じて紹介する。

### 学生に対する評価

授業時に指示する課題をどれだけこなしているか(50%)、学期末のレポート(50%)によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 奈良・平安仏教の基本的特徴に関する知識を持っている。
- (A) 山林修行の意義について語ることができる。
- (S) 光の体験の真相について、説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。

科目名	仏教学講読A(大)							学期	後期
副題	『信生法師集』(紀行部)を読む				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	D5-02-301	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

鎌倉時代に成立した『信生法師集』の前半部（紀行部）を読む。信生は、俗名を塩谷（宇都宮）朝業といい、鎌倉幕府の有力御家人の家に生まれ、将軍源実朝に寵臣として仕えた人物である。実朝の死後、主君に殉じるように出家した信生は、仏教者としても活動を行っている。その家集『信生法師集』の前半は、作者が京から鎌倉へ下向した旅を中心とした紀行文的な作品になっている。講義では、『信生法師集』の読解を通して、和歌を中心とした古典文学の読み方や、紀行文の表現の特徴、そして古典常識などを学ぶ。

## 授業の到達目標

『信生法師集』の内容、和歌や紀行文の特徴、古典常識などを説明することができるようになる。

## 授業計画

1. ガイダンス
2. 『信生法師集』 概説①—信生法師について—
3. 『信生法師集』 概説②—「日記」と「歌集」のあいだ—
4. 『信生法師集』を読む①—1番・2番—
5. 『信生法師集』を読む②—3番・4番—
6. 『信生法師集』を読む③—5番—
7. 『信生法師集』を読む④—6番～9番—
8. 『信生法師集』を読む⑤—10番～14番—
9. 『信生法師集』を読む⑥—15番～18番—
10. 『信生法師集』を読む⑦—19番～21番—
11. 『信生法師集』を読む⑧—22番～27番—
12. 『信生法師集』を読む⑨—28番～33番—
13. 『信生法師集』を読む⑩—34番～40段—
14. 『信生法師集』を読む⑪—41番～46番—
15. まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み（60分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90分）。

## テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

## 参考書・参考資料等

長崎健・外村南都子ほか『中世日記紀行集』（新編日本古典文学全集、小学館、1994年） その他、講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『信生法師集』の内容を理解している。
- (B) 紀行文における和歌や引用の機能について理解している。
- (A) 『信生法師集』の内容や解釈について、自身の意見を述べる事ができている。
- (S) 『信生法師集』について、問題意識を持って論じることができている。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

## その他

「日本文化特殊講義A」との合同科目。国語の教員免許取得を目指す学生・文学研究的な視点で論文を書くことを目指す学生は受講することが望ましい。私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	仏教学講読B(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-02-302	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

担当者の小論『説法による弟子のめざめの構造』（『信仰とは何か（1） 日本仏教学会編 平楽寺書店 平成 25 年』）をテキストに用い、仏教における「めざめ」とは何であり、ブッダの説法が「めざめ」にいかなる効力を果たしているかについて考察する。

### 授業の到達目標

「めざめ」を「悟り」と表現してよいのかどうかの問題や、ブッダの「ことば」が「めざめ」の構造とどのように関係しているかについての認識を深め、解析する能力を身につける。

### 授業計画

1. 「めざめ」とはいったい何かについて議論する前に、受講生各自にそれについての課題を与える。
2. 「めざめ」についての議論をする。1（覚と悟の違い）
3. 「めざめ」についての議論をする。2（めざめと覚と悟の違い）
4. 上記小論を読んで議論する。 § 1（教説に用いられる動詞）
5. 同 § 2（バラモン教聖典にみる pK の用例）
6. 同 § 3（pK と結合する語 dharma）
7. 同 § 4（pK と結合する語 karma）
8. 説法とは何かについて議論する。
9. 「ことば」が持つ力について考える。
10. 「ことば」と「加持」の関係について考える。
11. 『般若心経秘鍵』に説かれる「真言」について考える。1（マントラの語義）
12. 『般若心経秘鍵』に説かれる「真言」について考える。2（真言の意味）
13. 『般若心経秘鍵』に説かれる「真言」について考える。3（真言の功力）
14. 三密加持における「口密」について考える
15. 総まとめとして、今後の研究課題について議論する。

### 準備学習(予習・復習)・時間

課題は必ずこなす（週 120 分以上）

### テキスト

必要に応じて担当者が紹介・コピー配布する。

### 参考書・参考資料等

担当者が必要に応じて紹介する。

### 学生に対する評価

学期末のレポート（100%）によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の最低限度の条件を満たしている。
- (B) 小論を読むにあたって、サンスクリット語（初級程度）の読解力を持っていること。
- (A) 小論を読むにあたって、サンスクリット語（中級程度）の読解力を持っていること。
- (S) 講義をとおして、「ことば」を厳密に解析する能力を身につけること。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

アクティブ・ラーニング（ディスカッション）を取り入れた授業である。

科目名	仏教史講読A(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	D5-04-303	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

弘法大師空海が詠んだとされる和歌を収集した『弘法大師御詠歌集』を詠む。この作品は宝暦九年（1759年）に出版されたもので、空海のと歌を21首収集し、簡略な注解が付されている。この作品を刊本のくずし字を翻刻するところからはじめて読解し、和歌に対する理解や空海とその信仰に対する理解を深める。

### 授業の到達目標

『弘法大師御詠歌集』を読み、解釈することができるようになる。

### 授業計画

1. ガイダンス（講義の進め方、発表担当決定）
2. 空海と和歌／発表・調査の進め方
3. 『弘法大師御詠歌集』を読む①（総序）
4. 『弘法大師御詠歌集』を読む②（編者自序）
5. 『弘法大師御詠歌集』を読む③（1番）
6. 『弘法大師御詠歌集』を読む④（2番）
7. 『弘法大師御詠歌集』を読む⑤（3番）
8. 『弘法大師御詠歌集』を読む⑥（4番）
9. 『弘法大師御詠歌集』を読む⑦（5番）
10. 『弘法大師御詠歌集』を読む⑧（6番）
11. 『弘法大師御詠歌集』を読む⑨（7番）
12. 『弘法大師御詠歌集』を読む⑩（8番）
13. 『弘法大師御詠歌集』を読む⑪（9番）
14. 『弘法大師御詠歌集』を読む⑫（10番）
15. まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を翻刻して読み（60分）、事後学修として講義内容をまとめておくこと（90分）。発表担当箇所についての調査・準備を含む。

### テキスト

教員が用意する。

### 参考書・参考資料等

『弘法大師全集』（密教文化研究所、1978年復刊） その他、講義中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

発表（60%）、受講態度（40%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『弘法大師御詠歌集』の基本的な事項について理解している。
- (B) 『弘法大師御詠歌集』について、翻刻して読解することができる。
- (A) 『弘法大師御詠歌集』について、他文献を利用して解釈を深めることができる。
- (S) 『弘法大師御詠歌集』を基にして、弘法大師に関する文学作品や信仰のあり方について論じることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

発表ごとに指導し、質疑応答・討議を通して理解を深める。

### その他

4回以上理由もなく無断で欠席した者は、受講者名簿から削除し、成績は評価しない。講義は発表と討議が中心である。積極的な受講を求める。

科目名	仏教史講読B(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D5-02-304	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 仏 1, 2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

『類聚三代格』は、日本古代社会における根本法令である律令にもとづき、奈良時代初期以降に発布された詔勅や単行法令を、11世紀の段階で現行法令であったものを集成した法令集である。それらを読み解くことは、六国史などからはうかがい知ることができない、当時の社会や宗教界の動向を具体的に知ることに繋がる。本講義では、『類聚三代格』に収められる仏教関係法令から、真言宗や真言宗寺院に関する法令を取り上げ、それらを読み解くことで、真言宗や真言宗寺院の動向について考察する。

## 授業の到達目標

『類聚三代格』に収められる真言宗寺院についての関係法令を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、平安時代における真言宗寺院の動向を理解することができる。

## 授業計画

1. 『類聚三代格』とはどのような史料か？①
2. 『類聚三代格』とはどのような史料か？②
3. 『類聚三代格』に収められる真言宗寺院関係の法令
4. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む①
5. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む②
6. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む③
7. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む④
8. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑤
9. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑥
10. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑦
11. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑧
12. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑨
13. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑩
14. 『類聚三代格』の真言宗寺院関係の法令を読む⑪
15. 『類聚三代格』に収められた法令からみた平安時代の真言宗寺院の動向

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：次回授業で取り上げる法令について辞書等で用語・語句を調べる(90分) 事後学修：授業で取り上げた法令について関心を持ったテーマや人物について調べる(60分)。

## テキスト

テキストとして、『新訂増補国史大系 類聚三代格 前篇』(吉川弘文館、1972年。初版は1936年)を用いる予定であるが、授業で取り上げる法令については、プリントとして配布する。

## 参考書・参考資料等

①速水侑『平安貴族社会と仏教』(吉川弘文館、1975年)。②速水侑『呪術宗教の世界 密教修法の歴史』(塙書房、1987年) その他、授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

輪読担当部分の発表(50%)・予習・復習などの授業への参加度(50%)によって評価する。全授業の3分の2以上(10回以上)に出席した者のみを成績評価の対象とする。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文史料である法制史料を読み下し、内容について説明することができる。
- (B) 法制史料を読み解き、その法令の歴史的意義について説明することができる。
- (A) 『六国史』など関係する史料をも収集し、それらを比較検討することによって、その法令の歴史的意義を説明することができる。
- (S) 法令の社会的背景をふまえて、その歴史的意義を考察するとともに、先行研究にもとづいて、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

## その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたい。

科目名	仏教芸術の研究 1(大)							学期	前期
副題	仏教美術の成立と特徴				授業方法	講義	担当者	内藤栄	
ナンバリング	D5-12-305	実務経験の有無	有	関連DP	3	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

仏教美術の成立と特徴について考察する。インドにおける仏教美術の成立過程から始め、中国、朝鮮半島を経て日本に伝播した仏教美術の諸相を習得する。一般的に知られている仏像、仏画のほか、仏教工芸、仏教考古、建築にも興味の範囲を広げる。そのうえで仏教美術を理解する上で必要な基礎知識、仏像の図像、素材と制作技法、時代性、国ごとの特徴、様式、文献資料や経典・儀軌などを学び、自主的に鑑賞する興味と能力を身に付ける。

## 授業の到達目標

仏教美術にも興味を持ち、自主的に鑑賞する習慣を身に付ける。そのうえで、仏教美術の基礎を習得し、自身の言葉で説明できるようになる。

## 授業計画

1. 仏教美術の成立（インド文化圏のストゥーパと舍利容器）
2. 仏像の成立（インドとパキスタンの仏像）
3. 仏教の伝播と仏教美術の広がり（西域、中国、朝鮮半島）
4. 飛鳥時代前期の仏教美術（法隆寺を中心に）
5. 飛鳥時代後期（白鳳期）の仏教美術（飛鳥 j 時代でも奈良時代でもない独自性）
6. 薬師寺の美術（薬師三尊は白鳳か天平か）
7. 奈良時代の仏教美術 1（奈良時代前期）
8. 奈良時代の仏教美術 2（奈良時代後期）
9. 流記資財帳と寺院縁起の世界（仏教美術の基本文献）
10. 正倉院宝物 1（仏教美術を中心に宝物を考える）
11. 正倉院宝物 2（宝物献納は喜捨という仏教の修行であった）
12. 古密教（空海以前の密教とその美術）
13. 空海の舍利信仰の源流（後七日御修法とスリランカの仏歯供養）
14. 密教美術 1（仏像を中心に）
15. 密教美術 2（仏画を中心に）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に授業範囲の美術作品について、美術全集や展覧会図録で主要な作品を把握しておくこと。また、授業後に寺院や博物館を訪問し、実際の作品を鑑賞することも重要である。高野山、関西という恵まれた場所で学ぶことを最大限活用してほしい。

## テキスト

・『寧楽遺文 中巻 宗教編・経済編上』（東京堂出版、昭和 37 年） ・『校刊美術史料 寺院編 上中下』（中央公論美術出版、昭和 47 年） ※授業で使う部分を支持するので、購入もしくは図書館でコピーすること。

## 参考書・参考資料等

・高田修『仏像の誕生』（岩波新書、昭和 62 年） ・佐和隆研編『仏像図典』（吉川弘文館、昭和 37 年） ・内藤栄『舍利荘厳美術の研究』（青史出版、平成 22 年）

## 学生に対する評価

レポート（100%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・仏教美術における基本的な作品に対する知識を習得している。
- (B)・仏教美術に興味を持ち、自ら進んで鑑賞の機会を持つようになる。
- (A)・仏教美術の作品に関する知識に加え、文献資料や経典に関する知識を持っている。
- (S)・仏教美術に関して独自の見解を持ち、文献資料や経典を用いて自説を展開することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・寺院や博物館において作品を目の前にして学生同士で語り合う。それにより学生の理解度を知り、教員よりコメントをする。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

・美術館と博物館で 30 年以上学芸員を勤めており、そのうち仏教美術を専門とする奈良国立博物館において 25 年勤務している。実際に美術品を扱ってきた経験と知識、さらに近年急速に進化した科学的調査などの最新情報を授業に盛り込む。

科目名	仏教芸術の研究 2(大)						学 期	後期	
副 題	仏教美術の成立と特徴				授業方法	講義	担当者	内藤栄	
ナンバリング	D5-12-306	実務経験の有無	有	関連DP	3	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

仏教美術の成立と特徴について考察する。インドにおける仏教美術の成立過程から始め、中国、朝鮮半島を経て日本に伝播した仏教美術の諸相を習得する。一般的に知られている仏像、仏画のほか、仏教工芸、仏教考古、建築にも興味の範囲を広げる。そのうえで仏教美術を理解する上で必要な基礎知識、仏像の図像、素材と制作技法、時代性、国ごとの特徴、様式、文献資料や経典・儀軌などを学び、自主的に鑑賞する興味と能力を身に付ける。

## 授業の到達目標

仏教美術にも興味を持ち、自主的に鑑賞する習慣を身に付ける。そのうえで、仏教美術の基礎を習得し、自身の言葉で説明できるようになる。

## 授業計画

1. 神道美術と神宝（古神宝とは何か、何があるかを学ぶ）
2. 神仏習合の美術（神と仏の融合が生み出した日本独自の美）
3. 平安時代後期の仏教美術（源信と阿彌陀信仰の美術）
4. 鎌倉時代の仏教美術（重源と南都復興）
5. 鎌倉時代の仏教美術（叡尊、忍性、覚盛と戒律復興）
6. 鎌倉時代の仏教美術（舍利法と宝珠法の美術1）
7. 鎌倉時代の仏教美術（舍利法と宝珠法の美術2）
8. 南北朝時代から室町時代の仏教美術
9. 明治時代と仏教美術（明治人は仏教美術をどのように見ていたか）
10. 仏教美術各論1－密教法具概論
11. 仏教美術各論2－金剛杵と金剛鈴を中心に（種類と形式・様式について）
12. 仏教美術各論3－綴織と刺繍のほとけ（実は仏教美術の主役であった）
13. 仏教美術各論4－仏教工芸の世界（僧具・梵音具・供養具など）
14. 仏教美術各論5－写経と経塚（経典にかけた思い）
15. 仏教美術各論6－鏡像と懸仏・御正体（密教の観想行から神仏習合へ）

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に授業範囲の美術作品について、美術全集や展覧会図録で主要な作品を把握しておくこと。また、授業後に寺院や博物館を訪問し、実際の作品を鑑賞することも重要である。高野山、関西という恵まれた場所で学ぶことを最大限活用してほしい。

## テキスト

・『寧楽遺文 中巻 宗教編・経済編上』（東京堂出版、昭和37年） ・『校刊美術史料 寺院編 上中下』（中央公論美術出版、昭和47年） ※授業で使う部分を支持するので、購入もしくは図書館でコピーすること。

## 参考書・参考資料等

・高田修『仏像の誕生』（岩波新書、昭和62年） ・佐和隆研編『仏像図典』（吉川弘文館、昭和37年） ・内藤栄『舍利荘嚴美術の研究』（青史出版、平成22年）

## 学生に対する評価

レポート（100%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・仏教美術における基本的な作品に対する知識を習得している。
- (B)・仏教美術に興味を持ち、自ら進んで鑑賞の機会を持つようになる。
- (A)・仏教美術の作品に関する知識に加え、文献資料や経典に関する知識を持っている。
- (S)・仏教美術に関して独自の見解を持ち、文献資料や経典を用いて自説を展開することができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

・寺院や博物館において作品を目の前にして学生同士で語り合う。それにより学生の理解度を知り、教員よりコメントをする。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・美術館と博物館で30年以上学芸員を勤めており、そのうち仏教美術を専門とする奈良国立博物館において25年勤務している。実際に美術品を扱ってきた経験と知識、さらに近年急速に進化した科学的調査などの最新情報を授業に盛り込む。



科目名	アジア地域の宗教文化の研究(大)							学期	後期
副題	密教付法資料の研究				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D5-01-307	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深める。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。

### 授業の到達目標

密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高めることを通じて密教学をより深く理解する。

### 授業計画

- 『付法傳』の全体像
- 『広付法傳』講読 14 不空①
- 『広付法傳』講読 15 不空②
- 『広付法傳』講読 16 不空③
- 『広付法傳』講読 17 不空④
- 『広付法傳』講読 18 不空⑤
- 『広付法傳』講読 19 不空⑥
- 『広付法傳』講読 20 不空⑦
- 『広付法傳』講読 21 恵果①
- 『広付法傳』講読 22 恵果②
- 『広付法傳』講読 23 恵果③
- 『広付法傳』講読 24 恵果④
- 『広付法傳』講読 25 恵果⑤
- 『広付法傳』講読 26 恵果⑥
- 『広付法傳』講読 27 恵果⑦

### 準備学習(予習・復習)・時間

授業は漢文資料の演習を実施するので、週3時間の予習が必要(計90分以上)。

### テキスト

「定本弘法大師全集」第一巻

### 参考書・参考資料等

- 『密教』中央文庫松長有慶②『弘法大師空海全集』第二巻筑摩書房

### 学生に対する評価

予習状況(50%)、授業参加状況(50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 付法傳を正確に読むことができる。
- (B) 付法傳の内容を理解できる。
- (A) 付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
- (S) 密教付法に関して体系的に理解できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

演習時に個別に指導する。

### その他

十分に予習して授業に臨んでもらいたい。

科目名	比較宗教の研究(大)							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	D5-03-308	実務経験の有無	無	関連DP	密2, 仏2	単位数	2	他	-

### 授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について信仰生活を中心に検討することを通して宗教学の方法を理解する。

### 授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗宗教を中心として、宗教学の方法を理解する。

### 授業計画

1. 高野文化圏の信仰生活について
2. 年中行事（1）暦
3. 年中行事（2）正月を中心として
4. 年中行事（3）盆行事を中心として
5. 年中行事（4）双分性
6. 社寺の行事（1）寺院の行事
7. 社寺の行事（2）神社の行事
8. 社寺の行事（3）神仏習合
9. 人の一生（1）出産・成長
10. 人の一生（2）結婚
11. 人の一生（3）葬送
12. 高野山をめぐる信仰（1）修正会
13. 高野山をめぐる信仰（2）盂蘭盆会
14. 高野山をめぐる信仰（3）弘法大師信仰
15. 高野文化圏の信仰生活の特徴

### 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

### テキスト

プリントを配付する。

### 参考書・参考資料等

高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012.3 その他授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 民俗宗教の基本用語を説明できる。
- (B) 民俗宗教の事象を説明できる。
- (A) 民俗宗教の理論を自分の言葉で説明できる。
- (S) 現実の現象を民俗宗教の理論を使いながら説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

### その他

・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起きているのかを確認しておくこと。・教職に関する授業であるので、教壇に立つことを意識しながら聞くこと。・授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	現代社会と仏教の研究(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	D5-03-309	実務経験の有無	有	関連DP	密 2, 4, 仏 2, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

## 授業の到達目標

自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

## 授業計画

1. 日本における自殺の現状
2. 世界における自殺の現状
3. 自殺についての理論①
4. 自殺についての理論②
5. 自殺についての理論③
6. 自殺と精神障害
7. 自殺と自傷
8. 自殺対策①：危機介入
9. 自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. 講義内容の総括と振り返り

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと (90 分)

## テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

レポート評価 (100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自殺に関する基本的な知識を身につけている。
- (B) 自殺を志向する心理について理解している。
- (A) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
- (S) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べるができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	教育学特殊研究(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	山脇雅夫	
ナンバリング	D5-17-310	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

本講義は、ジョン・デューイ著『学校と社会』を精読することによって、教育哲学的思考力を慣用することを目指す。担当者による内容要約・発表をもとに、デューイの唱えた新教育の内容と吟味し、学校と社会との関係について自分の意見を構築する。

### 授業の到達目標

デューイの唱えた新教育の内容について理解する。学校と社会との関係について意見を構築する。

### 授業計画

1. イントロダクション。発表方法の確認と担当者の割り当て・
2. 第一章「学校と、社会の進歩」の発表
3. 第一章についてのディスカッション
4. 第二章「学校と、子どもの生活」の発表
5. 第二章についてのディスカッション
6. 第三章「教育における浪費」の発表
7. 第三章についてのディスカッション
8. 第四章「初等教育の心理学」の発表
9. 第四章についてのディスカッション
10. 第五章「フレーベルの教育原理」の発表
11. 第五章についてのディスカッション
12. 第六章「j」仕事の心理」の発表
13. 第六章についてのディスカッション
14. 第七章「注意の発達」の発表
15. 総括講義

### 準備学習(予習・復習)・時間

シラバスに予告された内容につき、最低 1 時間ほどを参考者等において調べておく(予習)。講義内容をまとめ、示された参考資料にあたっておく(復習)(計 90 分以上)。

### テキスト

デューイ『学校と社会』(岩波文庫)

### 参考書・参考資料等

なし

### 学生に対する評価

講義内容に対する理解と考察の深さで判断する。課題レポート(70%)、議論への参加(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる。
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
- (A) 講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
- (S) 講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる

### 課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付け返却する。

### その他

教職関係科目を履修していることが望ましい。

科目名	密教特殊演習F-1(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	D6-25-311	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日本における密教と中国医学との関係・融合について考究する。密教医学の成立、日本における発展について考究する。

## 授業の到達目標

研究者として独立できる研究能力を修得する。日本語による論理的で分かりやすい文章の作成能力を修得する。学术论文を発表する

## 授業計画

- 『佛説奈女耆婆經』(1)「佛在世時……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(2)「枝葉繁茂……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(3)「王實愛此奈……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(4)「其國中有梵志居士……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(5)「又聰明博達……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(6)「王請梵志……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(7)「梵志見奈香美非凡……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(8)「寧有小裁可得乞不……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(9)「梵志更大愁惱……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(10)「卿若欲得……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(11)「梵志得歸種之……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(12)「日日長大……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(13)「如王家奈……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(14)「不減於王……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(15)「爲無減王……」を読む。

## 準備学習(予習・復習)・時間

文献の精読 (60分) 資料作成のための調査・研究 (60分) 資料作成 (60分) 事後の資料修正 (60分)

## テキスト

担当者・受講生が準備する。

## 参考書・参考資料等

『密教大辞典』法蔵館 昭和7年初版

## 学生に対する評価

資料作成 (30%) 資料修正 (30%) 論文作成 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文献を十分に精読できる。
- (B) 問題を発見する能力がある。
- (A) 学術報告の作成能力がある。
- (S) 学術論文の作成能力がある。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で対応する。 オフィス・アワーや、その他、時間外における面談、メール等のやりとりでも対応する。

## その他

科目名	密教特殊演習F-2(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	D6-25-312	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日本における密教と中国医学との関係・融合について考究する。密教医学の成立、日本における発展について考究する。

## 授業の到達目標

研究者として独立できる研究能力を修得する。日本語による論理的で分かりやすい文章の作成能力を修得する。学術論文を発表する

## 授業計画

- 『佛説奈女耆婆經』(1)「乃提取百牛之乳……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(2)「煎爲醍醐……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(3)「實乃甘美……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(4)「大如手拳……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(5)「適欲斫去……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(6)「遲迴未決而節中……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(7)「洪直調好……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(8)「周圍傍出……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(9)「梵志怪之……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(10)「乃作棧閣……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(11)「既清且香……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(12)「有一女兒……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(13)「名曰奈女……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(14)「宣聞遠國……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(15)「求娉奈女以爲夫人……」を読む。

## 準備学習(予習・復習)・時間

文献の精読 (60分) 資料作成のための調査・研究 (60分) 資料作成 (60分) 事後の資料修正 (60分)

## テキスト

担当者・受講生が準備する。

## 参考書・参考資料等

『密教大辞典』法蔵館 昭和7年初版

## 学生に対する評価

資料作成 (30%) 資料修正 (30%) 論文作成 (40%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文献を十分に精読できる。
- (B) 問題を発見する能力がある。
- (A) 学術報告の作成能力がある。
- (S) 学術論文の作成能力がある。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で対応する。 オフィス・アワーや、その他、時間外における面談、メール等のやりとりでも対応する。

## その他

科目名	密教特殊演習C-1(大)							学期	前期
副題	『貞元録』を読む、及び博士論文の指導				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D6-01-313	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

不空三蔵に関する史料には、西明寺の円照が編集した『表制集』が有名であるが、円照はまた別に歴代中国仏教の訳経僧と翻訳經典について膨大な『貞元録』を撰述し、その中にも『表制集』に収録された上表文を用いて不空三蔵の事跡をまとめている。この特殊演習では不空三蔵の事跡の後半部である『貞元録』巻十六を確認したい。および博論の中間報告も行う。

### 授業の到達目標

史料の漢文を国訳し、詳細な訳注の作成を目指す。

### 授業計画

1. 使用するテキストおよび参考資料の提示と説明
2. 『貞元録』巻十六をよむ 1
3. 『貞元録』巻十六をよむ 2
4. 『貞元録』巻十六をよむ 3
5. 『貞元録』巻十六をよむ 4
6. 『貞元録』巻十六をよむ 5
7. 『貞元録』巻十六をよむ 6
8. 『貞元録』巻十六をよむ 7
9. 『貞元録』巻十六をよむ 8
10. 『貞元録』巻十六をよむ 9
11. 『貞元録』巻十六をよむ 10
12. 『貞元録』巻十六をよむ 11
13. 『貞元録』巻十六をよむ 12
14. 博論の中間報告 1
15. 博論の中間報告 2

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前に漢文を延べ書きし、単語の意味や人物・年代等について調べておき、演習の時間に臨むこと(計180分以上)。

### テキスト

西京西明寺沙門円照撰『貞元新定釈教目録』巻第十六(大正藏、第55巻、2157番)、上都長安西明寺沙門円照集『代宗朝贈司空大辨正広智三蔵』六巻(大正藏、第52)

### 参考書・参考資料等

長部和雄訳「広智三蔵和上表制集」『国訳一切経 和漢撰述部 護教部5』(大東出版社)

### 学生に対する評価

期末のレポート試験(80%)、授業への積極性(20%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストの漢文を延べ書きし、訳注を施すことができる。
- (B) テキストの漢文を正確に延べ書きし、訳注を施すことができる。
- (A) テキストの漢文を正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。
- (S) 不空三蔵の歴史上での役割について自分の言葉で紹介し、テキストの漢文も正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で議論し、間違いのあった箇所については指摘し、修正を指示する。

### その他

授業形式は演習なので、毎回、受講生にテキストの国訳を発表してもらい、さらに語彙について説明してもらうので、予習は必須。

科目名	密教特殊演習C-2(大)							学期	後期
副題	博士論文の指導				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D6-01-314	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

受講生は事前に博士論文の目次を作成し、また受講時に各章節ごとに作成した論文を提示して、指導教員のチェックを受ける。内容の正確性、史料に対する読解力と分析、史料引用における手続きの妥当性、結論に至る論証過程の正しさ、これらについて点検を受け、各受講時に指摘された課題を次回の受講時までには修正したものを提出する。これらの作業を通じて、博士論文を仕上げる。

## 授業の到達目標

博士論文の構成と各章の内容について問題点を指摘し、修正を加えて論文の完成を目指す。

## 授業計画

1. 博士論文の目次の点検と課題の指摘
2. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1
3. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 2
4. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 3
5. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 4
6. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 5
7. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 6
8. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 7
9. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 8
10. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 9
11. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 0
12. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 1
13. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 2
14. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 3
15. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 4

## 準備学習(予習・復習)・時間

受講時に点検する文章を事前に作成し、引用文等についての正確な情報も再確認しておく(90分以上)。また受講時に指摘された問題点や課題を再検討し、必要な箇所に修正を加えて、次回の受講時に再提出する(90分)。

## テキスト

受講生から博士論文の目次および各章節ごとに作成した論文を使用する。

## 参考書・参考資料等

博士論文を作成時に参考文献として使用した書籍と論文、および原典に関する引用文等の史料の提示できるように、受講生は準備しておくこと。

## 学生に対する評価

受講時に提示された博士論文の内容をもって評価する(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本語で論文を作成することができる。
- (B) 日本語で論文を作成し、原典の漢文も正確に延べ書きし、訳注を施すことができる。
- (A) 日本語で論文を作成し、原典の漢文も正確に延べ書きし、訳注を施すことができ、先行研究に対する問題点や課題を指摘し、新知見を述べている。
- (S) 日本語で論文を作成し、原典の漢文も正確に延べ書きし、訳注を施すことができ、先行研究に対する問題点や課題を指摘し、新知見を述べている。またその新知見に説得力がある。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で議論し、間違いのあった箇所については指摘し、修正を指示する。

## その他

論文全体の構成を工夫し、また各章節ごとの文章も説得力のあるものにするよう文章の展開に注意すること。



科目名	密教特殊演習D-1(大)							学期	前期
副題	『宋高僧伝』巻第一の「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」を読む				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D6-01-315	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

不空三蔵に関する史料には、西明寺の円照が編集した『表制集』や『貞元録』十五・十六巻の他にもいくつかある。ここでは賛寧撰『宋高僧伝』巻第一に収録された「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」や趙遷撰『不空三蔵行状』を取り上げ、他の史料と比較しながら不空三蔵の事跡について確認したい。なお博論の中間報告も行ってもらおう。

## 授業の到達目標

史料の漢文を国訳し、詳細な訳注の作成を目指す。

## 授業計画

1. 使用するテキストおよび参考資料の提示と説明
2. 「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一所収)をよむ 1
3. 「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一所収)をよむ 2
4. 「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一所収)をよむ 3
5. 「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一所収)をよむ 4
6. 「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一所収)をよむ 5
7. 「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一所収)をよむ 6
8. 「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一所収)をよむ 7
9. 「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一所収)をよむ 8
10. 趙遷撰『不空三蔵行状』をよむ 1
11. 趙遷撰『不空三蔵行状』をよむ 2
12. 趙遷撰『不空三蔵行状』をよむ 3
13. 趙遷撰『不空三蔵行状』をよむ 4
14. 博論の中間報告 1
15. 博論の中間報告 2

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前に漢文を延べ書きし、単語の意味や人物・年代等について調べておき、演習の時間に臨むこと(計180分以上)。

## テキスト

「唐京兆大興善寺不空傳(慧朗)」(宋高僧伝巻第一(大正蔵、第50巻、2061番) 趙遷撰『不空三蔵行状』(大正蔵、第50巻、2056番)

## 参考書・参考資料等

『国訳一切経 和漢撰述部』 史伝部 10・12・13 『現代語訳一切経 2』(智者大師別伝 不空三蔵行状 唐大和上東征伝) 大東出版社

## 学生に対する評価

期末のレポート試験(80%)、授業への積極性(20%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストの漢文を延べ書きし、訳注を施すことができる。
- (B) テキストの漢文を正確に延べ書きし、訳注を施すことができる。
- (A) テキストの漢文を正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。
- (S) 不空三蔵の歴史上での役割について自分の言葉で紹介し、テキストの漢文も正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で議論し、間違いのあった箇所については指摘し、修正を指示する。

## その他

授業形式は演習なので、毎回、受講生にテキストの国訳を発表してもらい、さらに語彙について説明してもらおうので、予習は必須。

科目名	密教特殊演習D-2(大)							学期	後期
副題	博士論文の指導				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D6-01-316	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

受講生は事前に博士論文の目次を作成し、また受講時に各章節ごとに作成した論文を提示して、指導教員のチェックを受ける。内容の正確性、史料に対する読解力と分析、史料引用における手続きの妥当性、結論に至る論証過程の正しさ、これらについて点検を受け、各受講時に指摘された課題を次回の受講時までには修正したものを提出する。これらの作業を通じて、博士論文を仕上げる。

## 授業の到達目標

博士論文の構成と各章の内容について問題点を指摘し、修正を加えて論文の完成を目指す。

## 授業計画

1. 博士論文の目次の点検と課題の指摘
2. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1
3. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 2
4. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 3
5. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 4
6. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 5
7. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 6
8. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 7
9. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 8
10. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 9
11. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 0
12. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 1
13. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 2
14. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 3
15. 博士論文を構成する章節の文章と引用文の点検 1 4

## 準備学習(予習・復習)・時間

受講時に点検する文章を事前に作成し、引用文等についての正確な情報も再確認しておく(90分以上)。また受講時に指摘された問題点や課題を再検討し、必要な箇所に修正を加えて、次回の受講時に再提出する(90分)。

## テキスト

受講生から博士論文の目次および各章節ごとに作成した論文を使用する。

## 参考書・参考資料等

博士論文を作成時に参考文献として使用した書籍と論文、および原典に関する引用文等の史料の提示できるように、受講生は準備しておくこと。

## 学生に対する評価

受講時に提示された博士論文の内容をもって評価する(100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本語で論文を作成することができる。
- (B) 日本語で論文を作成し、原典の漢文も正確に延べ書きし、訳注を施すことができる。
- (A) 日本語で論文を作成し、原典の漢文も正確に延べ書きし、訳注を施すことができ、先行研究に対する問題点や課題を指摘し、新知見を述べている。
- (S) 日本語で論文を作成し、原典の漢文も正確に延べ書きし、訳注を施すことができ、先行研究に対する問題点や課題を指摘し、新知見を述べている。またその新知見に説得力がある。

## 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で議論し、間違いのあった箇所については指摘し、修正を指示する。

## その他

論文全体の構成を工夫し、また各章節ごとの文章も説得力のあるものにするよう文章の展開に注意すること。

科目名	密教特殊演習B-1(大)							学期	前期
副題	博士論文を書き進める				授業方法	演習	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D6-01-317	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

指導教員から具体的な指導を受けることを通じて、博士論文を書き進める。

## 授業の到達目標

充実した内容の博士論文を書き進めること。

## 授業計画

1. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 序論
2. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 序論 (続)
3. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第1章第1節
4. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第1章第2節
5. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第1章第2節 (続)
6. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第1節
7. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第1節 (続)
8. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第2節
9. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第2節 (続)
10. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第3節
11. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第3節 (続)
12. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第4節
13. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第4節 (続)
14. 『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究 第2章第5節
15. 前期の成果の確認と反省

## 準備学習(予習・復習)・時間

指導教員の指導に基づいて論文を書き進めることが事前学修であり、また事後学修でもある (35 時間以上)。

## テキスト

安然著『諸阿闍梨真言密教部類惣録』とその関連文献

## 参考書・参考資料等

末木文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ—』新潮社

## 学生に対する評価

論文作成に対する取り組み (100%)。

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本語で文章を書くことができる。
- (B) 日本語で学術的な文章を書くことができる。
- (A) 日本語で緻密な構造を持った学術論文を書くことができる。
- (S) 日本語で高度な内容を持った学術論文を書くことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

## その他

最大限の努力をして論文を書き進めること

科目名	密教特殊演習B-2(大)							学期	後期
副題	博士論文を完成させる				授業方法	演習	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D6-01-318	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

指導教員から適切な指導を受けることを通じて、博士論文を完成させる。

## 授業の到達目標

充実した内容の博士論文を完成させること。

## 授業計画

1. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 第3章第1節
2. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 第3章第1節 (続)
3. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 第3章第2節
4. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 第3章第3節
5. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 第4章第1節
6. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 第4章第2節
7. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 第4章第3節
8. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 結論
9. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 結論 (続)
10. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 要旨
11. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 要旨 (続)
12. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 全体チェック
13. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 全体チェック (続)
14. 『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究』 将来展望
15. 博士後期課程における研究の総まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

指導教員の指導に基づいて論文を完成させることが事前学修であり、また事後学修でもある (35 時間以上)。

## テキスト

『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』とその関連文献

## 参考書・参考資料等

末木文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ—』新潮社

## 学生に対する評価

論文作成に対する取り組みとその成果 (100%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本語で文章を書くことができる。
- (B) 日本語で学術的な文章を書くことができる。
- (A) 日本語で緻密な構造を持った学術論文を書くことができる。
- (S) 日本語で高度な内容を持った学術論文を書くことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

## その他

最大限の努力をして学位論文を完成させること

科目名	密教特殊演習E-1(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D6-01-319	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

高野山では、応永年間(1394-1427)に宝性院宥快(1345-1416)、無量壽院長覚(1340-1416)といった2大学匠が現れ、高野山内の学僧は宝門・壽門2派に分かれるようになった。今回取り上げる『大疏指南鈔』は、壽門学派の祖とされる長覚が記した「論義書」である。その内容は『大日経疏』の「住心品」注釈に関する90題の教理問答を収録したものであり、壽門学派における最重要書とされる。しかしながら、『大疏指南鈔』は活字化すらされておらず、壽門学派の教学研究はほとんどなされていない。この『大疏指南鈔』所載の論義を一つひとつ読み進め、それぞれの論義における長覚の特徴を明確にする。

## 授業の到達目標

『大疏指南鈔』所載の論義の内容を通して長覚の思想的特徴を明確にし、学術論文として発表する。

## 授業計画

1. オリエンテーション
2. 「大悲胎藏曼荼羅之事」① 書き下し・現代語訳
3.       "       ② 問題点と先行研究の整理
4.       "       ③ 関連資料1 出典
5.       "       ④ 関連資料2 周辺資料
6.       "       ⑤ 問題点の整理
7.       "       ⑥ 考察
8.       "       ⑦まとめ
9. 「初地即極事」① 書き下し・現代語訳
10.      "       ② 問題点と先行研究の整理
11.      "       ③ 関連資料1 出典
12.      "       ④ 関連資料2 周辺資料
13.      "       ⑤ 問題点の整理
14.      "       ⑥ 考察
15.      "       ⑦まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の資料作成(120分) ・演習後の資料修正(60分)

## テキスト

『大疏指南鈔』、高野山大学図書館蔵(増福院寄託)・刊本

## 参考書・参考資料等

※『宗義決択集』、『真言宗全書』第19巻、続真言宗全書刊行会 ※印融『大疏指南鈔鈎物』、高野山大学図書館蔵(真別所寄託)刊本

## 学生に対する評価

授業内の発表(50%)、学術論文の作成(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料の読解が問題なくできる。
- (B) 周辺資料を収集し、整理できる。
- (A) 先行研究を収集分析し、問題点を明示できる。
- (S) 演習の成果を学術論文にまとめることができる(1本)。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で作成してきた資料の講評を実施する。

## その他

・博士後期課程では、自身の研究成果を学会で発表することが求められる。受講生の研究水準の向上を期すため、毎回の課題を実施しなかった場合は、厳重に注意する。

科目名	密教特殊演習E-2(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D6-01-320	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

高野山では、応永年間(1394-1427)に宝性院宥快(1345-1416)、無量壽院長覚(1340-1416)といった2大学匠が現れ、高野山内の学僧は宝門・壽門2派に分かれるようになった。今回取り上げる『大疏指南鈔』は、壽門学派の祖とされる長覚が記した「論義書」である。その内容は『大日経疏』の「住心品」注釈に関する90題の教理問答を収録したものであり、壽門学派における最重要書とされる。しかしながら、『大疏指南鈔』は活字化すらされておらず、壽門学派の教学研究はほとんどなされていない。この『大疏指南鈔』所載の論義を一つひとつ読み進め、それぞれの論義における長覚の特徴を明確にする。

## 授業の到達目標

『大疏指南鈔』所載の論義の内容を通して長覚の思想的特徴を明確にし、学術論文として発表する。

## 授業計画

1. オリエンテーション
2. 「四仏属心数事」① 書き下し・現代語訳
3.       "                   ② 問題点と先行研究の整理
4.       "                   ③ 関連資料1 出典
5.       "                   ④ 関連資料2 周辺資料
6.       "                   ⑤ 問題点の整理
7.       "                   ⑥ 考察
8.       "                   ⑦まとめ
9. 「瑞相三身事」① 書き下し・現代語訳
10.      "                   ② 問題点と先行研究の整理
11.      "                   ③ 関連資料1 出典
12.      "                   ④ 関連資料2 周辺資料
13.      "                   ⑤ 問題点の整理
14.      "                   ⑥ 考察
15.      "                   ⑦まとめ

## 準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の資料作成(120分) ・演習後の資料修正(60分)

## テキスト

『大疏指南鈔』、高野山大学図書館蔵(増福院寄託)・刊本

## 参考書・参考資料等

※『宗義決択集』、『真言宗全書』第19巻、続真言宗全書刊行会 ※印融『大疏指南鈔鈎物』、高野山大学図書館蔵(真別所寄託)刊本

## 学生に対する評価

授業内の発表(50%)、学術論文の作成(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料の読解が問題なくできる。
- (B) 周辺資料を収集し、整理できる。
- (A) 先行研究を収集分析し、問題点を明示できる。
- (S) 演習の成果を学術論文にまとめることができる(1本)。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で、受講生の作成してきた資料の講評を実施する。

## その他

・博士後期課程では、自身の研究成果を学会で発表することが求められる。受講生の研究水準の向上を期すため、毎回の課題を実施しなかった場合は、厳重に注意する。

# 教員別索引

あ	有松孝雄	企画科目(仏画)	176	か	川口道雄	企画科目(臨床実習V)	323
		仏教芸術(別)	176			人間学実践演習(臨床実習IV)	322
い	伊藤佳世子	英語I	62		川崎一洋	企画科目(巡礼・遍路B)	86
		英語I(再履修)	63			企画科目(巡礼・遍路C)	87
		英語II	64			宗典講読A	98
		英語II(再履修)	65			巡礼・遍路B	86
	乾龍仁	仏教学特殊講義J	282			巡礼・遍路C	87
		密教学講読演習J	268			真言密教特殊講義L	284
		梵字悉曇C	331			祖典講読II E	264
	今井邦夫	体育実技	187			祖典講読III E	265
う	上田恭寿	国語学I	203			祖典講読IV E	266
		国語学II	204			仏教学特殊講義I	280
	上野和久	企画科目(カウンセリング論A)	152			密教学講読演習H	103
		企画科目(発達心理学A)	158			密教学講読演習I	104
		心理学I B	288	き	木地茂典	企画科目(自然科学)	144
		心理学II B	289			企画科目(数的処理)	143
		人間学演習II B	171			教養講義(自然科学)	144
		人間学基礎ゼミIII A	145			教養講義(数的処理)	143
		人間学基礎ゼミIV A	147			情報処理	188
		人間学専門講義(カウンセリング論A)	152		北川真寛	真言密教講読演習H	276
		人間学専門講義(発達心理学A)	158			真言密教特殊講義G	283
	上野・森崎	人間学演習I C(臨床心理学演習)	324		木下忠恭	企画科目(心理検査法演習I)	301
		人間学演習II C(臨床心理学演習)	325			企画科目(心理検査法演習II)	302
お	大河内大博	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習I)	314			人間学専門講義(心理検査法演習I)	301
		人間学専門講義(スピリチュアルケア演習II)	315			人間学専門講義(心理検査法演習II)	302
		人間学特殊ゼミI F(スピリチュアルケア演習I)	314	く	窪寺俊之	企画科目(スピリチュアルケア概論)	293
		人間学特殊ゼミII F(スピリチュアルケア演習II)	315			人間学専門講義(スピリチュアルケア概論)	293
	岡田英作	宗教科教育法III	249	こ	高祖・辻	企画科目(宗教舞踊)	190
		仏教学講読演習C	271			宗教芸能(宗教舞踊)	190
		仏教学特殊講義C	281		小林奈緒美	企画科目(家族心理学)	295
	岡本文音	伝統文化(茶道)	173			企画科目(発達心理学B)	305
		伝統文化実習(茶道)	173			人間学専門講義(家族心理学)	295
	奥山直司	宗教学I	195			人間学専門講義(発達心理学B)	305
		宗教学II	196		五味和樹	企画科目(華道)	189
		宗教思想史I A	197			伝統文化(華道)	189
		宗教思想史I B	332		五明優介	企画科目(心理学基礎実験演習I)	299
		密教学演習B	123			企画科目(心理学基礎実験演習II)	300
		密教学演習J	286			企画科目(心理測定法)	303
		密教史概説I A	90			企画科目(心理統計学)	304
		密教史概説A	90			人間学専門講義(心理学基礎実験演習I)	299
		世界の宗教(別)	195			人間学専門講義(心理学基礎実験演習II)	300
		インド学講義(大)	343			人間学専門講義(心理測定法)	303
		密教史演習(大)	353			人間学専門講義(心理統計学)	304
		密教特殊演習B-1(大)	383		近藤堯寛	布教	80
		密教特殊演習B-2(大)	384			布教A	80
	小田龍哉	人間学専門講義(宗教学入門)	310			布教(別)	80
		人間学専門講義(世俗主義と宗教)	311	さ	齋藤天譽	梵字悉曇A	186
		人間学特殊ゼミI D(宗教学入門)	310			梵字悉曇(別)	186
		人間学特殊ゼミII D(世俗主義と宗教)	311		坂口太郎	企画科目(古文書解読A)	194
か	加賀博	企画科目(寺院経営講座)	177			企画科目(古文書解読B)	328
		寺院と法律(別)	177			企画科目(歴史学)	191
	人間学科主	ボランティア	132			古文書解読A	194
	密教学科主	加行I	83			古文書解読B	328
		加行II	84			古文書学	193
		企画科目(ボランティア)	132			書誌学	192
		企画科目(加行I)	83			真言密教講読演習G	275
		企画科目(加行II)	84			総合科目(古文書学)	193
		企画科目(巡礼・遍路A)	85			総合科目(書誌学)	192
		巡礼・遍路A	85			日本文化特殊講義C	216
	学科主任	導入研修	61			博物館概論	228
	加藤善弘	法式	78			博物館資料論	230
		法式(別)	78			歴史学	191
	亀位卓阿	英語III	163			仏教学特殊研究B(大)	349
		企画科目(英会話)	163			仏教史特殊研究(大)	363
	川口道雄	企画科目(臨床実習IV)	322		櫻木潤	空海の思想入門A	60

さ	櫻木 潤	空海の思想入門B	257	す	鈴木 裕 範	人間学専門講義 (地域産業論)	156
		宗教思想史II A	198	た	高田 綾子	キャリアカウンセリング I-1	138
		真言密教講読演習F	274			キャリアカウンセリングII-1	149
		生涯学習概論	227			キャリアカウンセリングIII-1	164
		博物館教育論	234			キャリアデザイン I	138
		仏教学講読演習B	106			キャリアデザイン II	139
		密教学演習D	125			キャリアデザイン III	149
		密教学演習L	287			キャリアデザイン IV	150
		密教学基礎ゼミ B1	72			キャリアデザイン V	164
		密教学基礎ゼミ B2	73			キャリアデザイン VI	165
		密教史概説II B	91			企画科目 (キャリアカウンセリング I-2)	139
		密教史概説B	91			企画科目 (キャリアカウンセリング II-2)	150
		弘法大師空海の生涯 (別)	60			企画科目 (キャリアカウンセリング III-2)	165
		仏教史講読B (大)	370		竹村 和也	教養講義 (人権論)	140
		博物館実習	235			現代の人権	140
櫻木・坂口		企画科目 (カウンセリング論B)	292			日本国憲法	218
佐々木 聡		企画科目 (学校心理学)	296			人権と福祉 (別)	140
		教育心理学	240	つ	辻・西山・本間	企画科目 (詠歌)	79
		教育相談	246		辻 秀道	企画科目 (声明上級)	185
		教育方法論	244			声明	77
		心理学 I A	133			声明上級	185
		心理学 II A	134			布教B (詠歌)	79
		人間学専門講義 (カウンセリング論B)	292			声明 (別)	77
		人間学専門講義 (学校心理学)	296			声明上級 (別)	185
		生徒指導・進路指導	245	て	テンジン・ウセル	チベット語A	182
		道德教育の研究	242			チベット語B	330
		道德教育指導論	242			総合科目 (チベット仏教入門 I A)	326
		心の科学 (別)	134			総合科目 (チベット仏教入門 I B)	174
		企画科目 (密教瞑想)	329			総合科目 (チベット仏教入門 II A)	327
佐藤 隆彦		真言密教講読演習K	111			総合科目 (チベット仏教入門 II B)	175
		真言密教特殊講義M	122			チベット語 (別)	182
		密教学概論 I A	88	と	土居 夏樹	宗教史 I	199
		密教学概論 II B	89			宗教史 II	200
		密教学概論 A	88			真言密教特殊講義 C	118
		密教学概論 B	89			真言密教特殊講義 J	121
		観法の理論と実習 (別)	329			祖典講読 I B	96
		真言宗の教え (別)	88			祖典講読 I B	94
		事相研究 I-1 (大)	358			祖典講読 I C	262
		事相研究 I-2 (大)	359			祖典講読 II A	95
		密教学講義 A (大)	340			祖典講読 II B	95
		密教学講義 B (大)	341			祖典講読 II C	263
		密教特殊演習 C-1 (大)	379			祖典講読 III A	100
		密教特殊演習 C-2 (大)	380			祖典講読 IV A	101
し	塩野三恵子	かな I	82			密教学演習 E	126
		かな II	220			密教学演習 I	285
		条幅制作 B (かな)	225			宗教の歴史 (別)	199
		社会福祉各論 I (地域福祉 I)	136			真言宗典講読 2 (別)	100
		社会福祉論	136			祖典演習 (大)	344
		社会保障総論 I	137			仏教と文化 (大)	357
		社会保障論	137			密教と文化 (大)	357
		社会保障 B (別)	137			密教学講読 (大)	354
		地域福祉 A (別)	136			密教史特殊研究 A (大)	350
す	鈴木・佐々木	教育実習の研究	255			密教特殊演習 E-1 (大)	385
		教職実践演習 (中・高)	256			密教特殊演習 E-2 (大)	386
		企画科目 (人文科学)	142			徳重 弘志	Sanskrit 語 I A
		教育課程論	241				Sanskrit 語 A
		教育原論	236				Sanskrit 語 (別)
		教職入門	237			富田 向真	宗教科教育法 IV
		教養講義 (人文科学)	142			T.ト ライトイン	宗典講読 B
		国語科教育法 I	251				真言密教講読演習 B
		国語科教育法 II	252				真言密教講読演習 C
		人間学概論 II	142				真言密教講読演習 D
		総合的な学習の時間・特別活動	243				真言密教講読演習 E
		特別教育活動指導	243				真言密教特殊講義 D
		企画科目 (地域産業論)	156				真言密教特殊講義 E



と T.T* ライトライン	事相研究II-1 (大)	360	ま 松 長 潤 慶	密教学特殊講義A	112
	事相研究II-2 (大)	361		密教学特殊講義F	278
	密教学特殊研究A (大)	345		真言宗典講読1 (別)	95
	密教学特殊研究B (大)	346		アジア地域の宗教文化の研究 (大)	373
	密教学特殊研究C (大)	347		密教史講読 (大)	355
	密教学特殊研究D (大)	348		密教特殊演習D-1 (大)	381
な 内 藤 栄	博物館経営論	229		密教特殊演習D-2 (大)	382
	仏教芸術の研究1 (大)	371	松 本 貴 子	企画科目 (日本語留学生上級B)	179
	仏教芸術の研究2 (大)	372		企画科目 (日本語留学生中級B)	181
中 西 雄 泰	真言密教特殊講義A	116		企画科目 (日本社会)	169
	真言密教特殊講義B	117		企画科目 (日本文化)	168
	密教儀礼の理論と実習 (別)	116		人間学特殊ゼミ I B (日本文化)	168
那 須 真 裕 美	博物館資料保存論	231		人間学特殊ゼミ II B (日本社会)	169
	博物館情報・メディア論	233	み 溝 端 悠 朗	国語科教育法III	253
の 野 田 悟	漢字 I	81		国文法 I	205
	漢字 II	219		国文法 II	206
	書道史	226		人間学演習 I F	172
	書道史 (日本)	226		人間学演習 II F	172
	条幅制作 A (漢字)	224		日本文化特殊講義 A	215
	中国文化講読演習 A	217		日本文学 I	209
	密教学特殊講義 D	277		日本文学 II	210
	密教学特殊講義 G	279		日本文学概論 I	211
	篆刻	221		日本文学概論 II	212
	篆刻 I	222		日本文学史概説 I	207
	篆刻 II	223		日本文学史概説 II	208
は 橋 本 久 仁 彦	企画科目 (コミュニケーション演習 I)	290		密教学演習 K	129
	企画科目 (コミュニケーション演習 II)	291		仏教学講読 A (大)	367
	人間学実習 (コミュニケーション演習 I)	290		仏教史講読 A (大)	369
	人間学実習 (コミュニケーション演習 II)	291	南 昌 宏	漢文	68
土 生 川 正 賢	中国語 I	183		漢文 I	66
	中国語 II	184		漢文 II	67
ひ 廣 田 恵 美 子	企画科目 (日本語留学生上級 A)	178		漢文学概論 I	213
	企画科目 (日本語留学生中級 A)	180		漢文学概論 II	214
	人間学基礎ゼミ III B	146		国語科教育法 IV	254
	人間学基礎ゼミ IV B	148		哲学	201
ま 前 谷 彰	サンスクリット語 I B	258		仏教学講読演習 F	272
	サンスクリット語 B	258		仏教学講読演習 G	273
	仏教学講読演習 A	105		密教学演習 H	128
	仏教学特殊講義 A	115		密教学基礎ゼミ A1	70
	仏教史概説 I A	92		密教学基礎ゼミ A2	71
	仏教史概説 I C	259		密教学講読演習 K	269
	仏教史概説 II B	93		密教学講読演習 L	270
	仏教史概説 II D	260		密教学演習 1 (大)	351
	仏教史概説 A	92		密教学演習 2 (大)	352
	仏教史概説 B	93		密教特殊演習 F-1 (大)	377
	仏教史概説 C	259		密教特殊演習 F-2 (大)	378
	仏教史概説 D	260	宮 田 永 明	常用経典	76
	密教学演習 C	124		常用経典 (別)	76
	釈尊の生涯 (別)	93	宮 本 直 美	特別支援教育	239
	仏教学演習 1 (大)	364	も 森 崎 雅 好	企画科目 (聖地巡礼 I)	317
	仏教学演習 2 (大)	365		企画科目 (聖地巡礼 II)	318
	仏教学演習 3 (大)	366		企画科目 (福祉心理学)	316
	仏教学講義 (大)	342		企画科目 (臨床実習 I)	319
	仏教学講読 B (大)	368		企画科目 (臨床実習 II)	320
	仏教学特殊研究 A (大)	362		企画科目 (臨床実習 III)	321
松 下 歩 睦	企画科目 (社会心理学)	298		企画科目 (臨床心理学面接演習 IV)	309
	人間学専門講義 (社会心理学)	298		人間学実践演習 (聖地巡礼 I)	317
松 長 潤 慶	宗教科教育法 I	247		人間学実践演習 (臨床実習 I)	319
	宗教科教育法 II	248		人間学実践演習 (臨床実習 III)	321
	祖典講読 I A	96		人間学専門講義 (自殺学 A)	160
	祖典講読 I A	94		人間学専門講義 (深層心理学)	313
	祖典講読 II A	95		人間学専門講義 (悲嘆学 A)	159
	密教学演習 F	127		人間学専門講義 (悲嘆学 E)	312
	密教学講読演習 A	102		人間学専門講義 (福祉心理学)	316
	密教学講読演習 G	267		人間学専門講義 (臨床心理学面接演習 IV)	309

も	森崎雅好	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）	309
		人間学特殊ゼミⅠA（悲嘆学）	159
		人間学特殊ゼミⅠE（悲嘆学）	312
		人間学特殊ゼミⅡA（自殺学）	160
		人間学特殊ゼミⅡE（深層心理学）	313
		現代社会と宗教（大）	356
		現代社会と仏教の研究（大）	375
森	本一彦	企画科目（基礎統計学）	161
		企画科目（質的調査論）	162
		企画科目（社会科学）	141
		企画科目（社会調査入門）	153
		企画科目（社会調査方法論）	154
		企画科目（情報リテラシー論）	155
		企画科目（地域連携）	157
		教育社会学	238
		教養講義（社会科学）	141
		社会学	135
		社会学Ⅰ	135
		宗教学方法論	202
		人間学演習ⅠA	170
		人間学演習ⅡA	170
		人間学概論Ⅰ	141
		人間学基礎ゼミⅠA	130
		人間学基礎ゼミⅡA	131
		人間学実習（社会調査）	151
		人間学実践演習（学外研修①）	166
		人間学実践演習（学外研修②）	167
		人間学専門講義（基礎統計学）	161
		人間学専門講義（質的調査論）	162
		人間学専門講義（社会調査入門）	153
		人間学専門講義（社会調査方法論）	154
		人間学専門講義（情報リテラシー論）	155
		人間学専門講義（地域連携）	157
		伝統文化実習（民俗調査）	151
		密教学基礎ゼミC1	74
		密教学基礎ゼミC2	75
		社会保障A（別）	135
		地域福祉B（別）	157
		比較宗教の研究（大）	374
や	山口隆介	博物館展示論	232
山	添正	企画科目（臨床心理学面接演習ⅠB）	306
		企画科目（臨床心理学面接演習ⅡB）	307
		人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅠB）	306
		人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡB）	307
や	まだようこ	企画科目（もの語り心理学）	294
		人間学専門講義（もの語り心理学）	294
山	本和美	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）	308
		人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）	308
山	本佳世子	企画科目（死生観B）	297
		人間学専門講義（死生観B）	297
山	脇雅夫	教育学特殊研究（大）	376
わ	和田圭子	密教学特殊講義B	113
		密教学特殊講義C	114

講義概要・授業計画 令和3年度(2021)

---

2021年4月1日発行

編集・発行 高野山大学

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385

Tel. (0736) 56-5027 (教務課)

Fax. (0736) 56-5048

E-mail : [kyomu@koyasan-u.ac.jp](mailto:kyomu@koyasan-u.ac.jp)

URL : <http://www.koyasan-u.ac.jp>

---